THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF

"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] JANUARY. 15TH, 1904. [No. 1.

昆蟲世界

第八巻第壹冊　明治三十七年一月十五日發行　第七拾七號

(毎月一回十五日發行)

目次（禁轉載）

名和昆蟲研究所發行

●本所移轉幷擴張公告

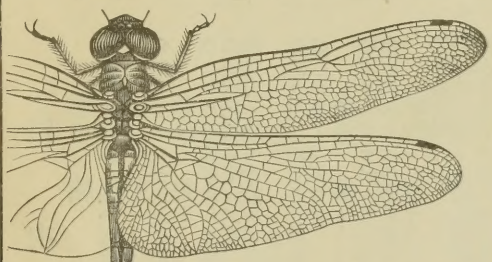
本研究所は從來大方諸君の一方ならぬ御引立に依り漸く今日に立ち到り候處本年は愈々相當の地を撰み本所を移轉するの機運に際會せり本所は此機會に於て一層擴張の方針を執り自他倶に親しく斯學研究の便を圖らんとす幸に本所微意の存する所を諒こし何卒特別の御助勢を仰ぎ度豫め奉悃願候敬具

明治卅七年一月　**名和昆蟲研究所**

大方諸君

追て御助勢を仰ぐべき方法等は次號の紙上ょ詳記可仕候

恭賀新年

明治卅七年一月一日

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

所長　名和靖
調査主任(在米國)　名和梅吉
同補助　小竹浩
養蟲掛　森宗太郎
同補助　高橋治平
標本掛　棚橋昇
同補助　名和愛吉
編輯主任　小森省作
圖書主任　伊藤七郎
同補助　名和貴子
庶務主任　石田和三郎
同補助　高橋喜男
會計主任　名和正也

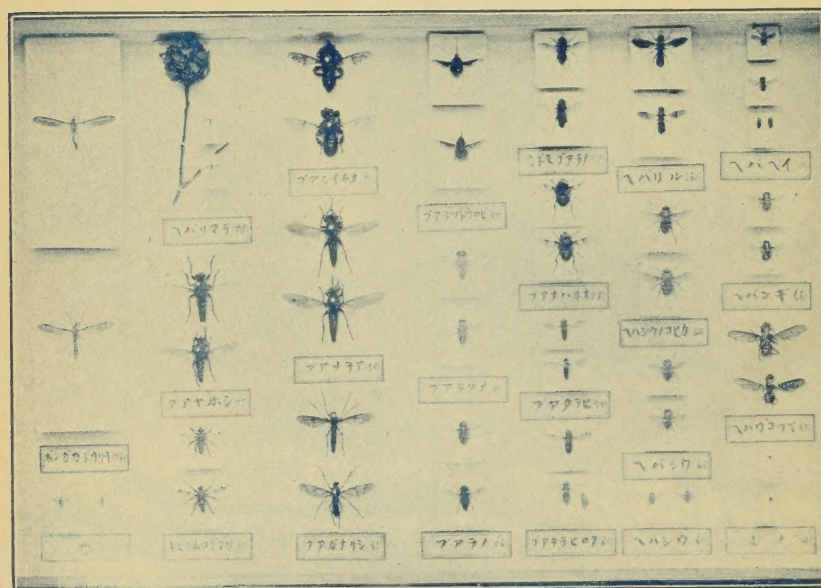
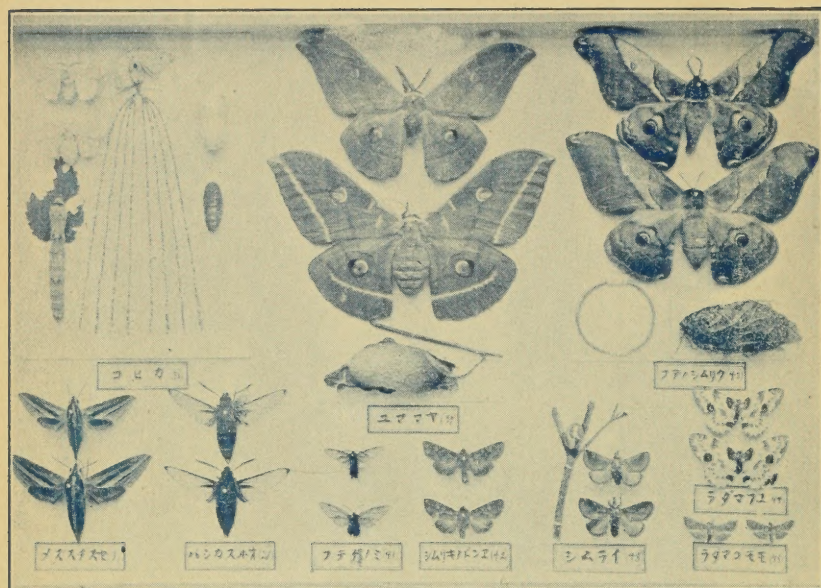
♂

辰の年に因みて
潜みにし淵よりいでゝたつのごと
雲井に昇るあきつ蟲かな

中等教育昆蟲標本寫眞（三）

昆蟲世界第七拾七號

（明治三十七年第一月）

論說

讀昆蟲世界有感　雄山晉嶽

生來未譜補天功。垂老無家寂莫窮。不識不耕人不信。直成蠹國一昆蟲。

◎知らざるは誤れるに優れり

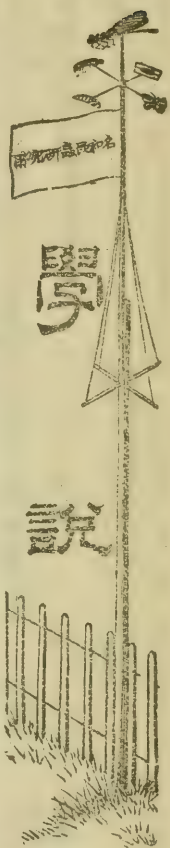
明治三十年、天斯の邦土を惱すに蟲害を以てせしより以來、昆蟲の聲は四民の鼓膜を振動し、害蟲の響は上下の腦裡に貫徹し、昆蟲學上に於ける智識の渴望は輿論となりて呼び出されぬ。さなきだに多少潛勢力を養ひ來りし昆蟲學界は、是に於てか一時に色めき來りて、或は昆蟲採集法となり、害蟲驅除法となり、標本製作法と化し、研究の指針と變じ、或は敎科書と生れ、害蟲篇と生じ、或は生活の狀態より他界との關係に至るまで、物を更へ、趣を改め、表裝に、圖版に、新を競ひ、奇を衒ひて大に其希望に酬ひん事を勉め、各場の農事試驗場は害蟲の研究に重きを置き、各所の農談會は驅除豫防の方法に全力を注ぎ、講習會開かれ、展覽會催され、新聞に、雜誌に、調査の報告。研究の成績を報導せらるゝに到りぬ。元來科學思想に欠乏せりと絕叫せられたる我國民が、心機一轉、咄嗟の間に此進步を現はし、動物界の他の部分よりも一頭地を抽きて此盛況を呈するに至りたるは、斯學の爲め、邦家の爲め、實に一大慶賀せざる可からざるの至りならずや。然りと雖も飜つて其內容を觀察し、靜に其害の成れる原由につきて考慮する時は、轉た寒心に堪へざるものなきにあらざるなり。夫れ餓ゆるものには食を與へざる可からず、然れども鮾れたる肉を以てすべけんや。渴するものには水を給せざる可からず、然れども

汚れたる水を以てすべけんや。今や昆蟲の聲盛にして、之が知識を求むるの急なること、餓者の食、渴者の水よりも一層甚しき際に當り、續々刊行せらるゝ今日の昆蟲書は、果して彼等の希望に對し、美味にして滋養分に富みたる食物を給し、淸潔にして無害なる飲料を與へつゝありや否や。無論汗牛充棟啻ならざる幾多の圖書中、其記する所は實地に徵し、其論する處は實驗に基き、事實を經に、眞理を緯にして、實に斯學界の燈臺となり、指南車たるもの多々これありと雖も、稀には彼より一章、此より一節を拔摘し來りて欽工的に圖書を製造し、甚しきは外國の書籍を抄譯しながら一言の斷りだもなさずして全く之を己等の著述と披露し、併も內外大に事情を異にせるものあるに關せず、直に彼の事情を以て我々同一の下に配するが如きに至りては、彼の餓ゑたるものに餒肉を與へ、渴するものに汚水を與ふると同一理にして、獨り彼等の渴望を滿足せしめ能はざるのみならず、却而疑惑を起さしめ、誤謬を增さしむるに到りては、全く其知能を賊ふものと謂ふべきなり。世の昆蟲學者を以て自ら任ずるの君子、此の如くにして果して自己の責任を盡せりと自覺し得べきや否や。ゼハーソン曰く、知らざるは誤れるに優れり、と庶幾くば昆蟲學上に於ける世の渴望を醫せんと試みらるゝ幾多の君子、須らく眞面目なる研究を重ねて、彼等に給するに、滋養の食と淸潔の水を以てせられん事を、苟も世の趨勢に投じて名を賣り利を射んことにのみ汲々として、却て虛を傳へ、誤を流すことの、如何に世を害し人を賊ふかを知らざる人は、宜しくゼハーソンの金言を三誦すべし。明治三十七年を迎ふると同時に、吾人の腦裡に浮べる感慨の一部を漏して敢て大方諸君の一考を煩はすこと爾り。

蓑蟲

白雪のふりつむ下に籠るらん吉野の山の皷蓑蟲

神村直三郎

學說

守瓜　　神村直三郎

くつわらじ積み重れたる塵塚の下に冬越すウリハムシ哉

◎本邦の直翅類並に其參考書に就き

理學博士　松村松年

本邦直翅類の研究は未だ幼稚の域に彷徨ふ、其學名を有するものに至りては甚だ少し。今日迄知られたるものは僅に百三十四種にして、他は未だ以て學者の鑑定を經ざるものあり。彼の本邦に產する螽斯の學名は、今より四年前。英人ブル(Burr, M.)氏によりて西班牙の雜誌に發表せられ、漸やく其の名稱の Gonpsocleis mikado Burr. なることを知るに至れり。此の如き大なる直翅類に新種の猶は存在するあるは、豈又本邦學者の一恥辱にあらずや。而して其小形の種類に至りては、則ち未だ學術界に發表せられざるもの甚だ多きを見るなり。其初めて本邦の直翅類を發表したるものは瑞人ツンベルグ(Thunberg, C.P.)氏にして、其著書 Hemipterorum maxillosorum (1815) に二百二十四種の直翅類を記載し、其內本邦產のもの少しとせず、其後又 Fauna japonica (1822-3) なるものを發表し、總數百二十一種の內直翅類も亦少なからず。然れどもブリヲテートとして殘りたるものは、僅に五種なり。次に本邦の直翅類を記載せしものは、佛人セルビエ(Serville, A.)氏あり。其著書の Revue méthodique der Orthoptères (1831-35) 及び Histoire naturelle des Insectes Orthopères (1839) の如きは有名あるものにして、特に後者の如きは貢數七百七十六を有し、着色圖十六葉あり。氏の記載したるものにして本邦に產するものは、僅に六種なり。然れども其內本邦に產する多數の直翅類をも紹介せり。最も多數の直翅類を記載したるものは蘭人デ、ハ

ーン(De Haan, W.)氏にして、其著書Bijdragen tot de Ketmmis der Orthoptera(1842-44)は當時知られたる總直翅類を記載し、本邦の種類にして今日氏の學名を有するもの二十五種あり。氏は多數のシノニムを造りたれども、亦本邦直翅類の知識に少なからざる明光を與へたるものとして、余輩は大に其勞を謝せざるべからず。次で有名なるものは佛人ソウシュル(Saussure de H.)氏なり。其著書Mélanges Orthopteroloque(1863-77) 及び Prodrome des Oedipodiens(1888) の如きは、今日ヲーソリテートとして學者の共に採用する所なり。本邦產にして氏の命名に係るもの十種あり。

目下此學の泰斗として知られあるものは墺國ブルンナー(Brunner von Wattenvyl) 氏にして、氏は一昨年墺貨二萬グルデン(我一萬六千圓約)にて其所有せる總ての直翅類を同國博物館に讓與せり。此價格は以て其標本の貴重にして且つ其少なからざるを表白するものなり。氏の著書の內東洋の直翅類に就き最も有名なるものは、左の六種なり。

(1)Nouvean Systéme de Blattaires. 1865. (2)Monographie der Phaneropteriden. 1878. (3)Monographie der Stenopelmatiden. und Gryllacriden. 1888. (4)Monographie der Proscopiden. 1890 (5)Additamenta zur Monographie der Phaneropteriden. 1891. (6)Revrson du Systéme der Orthoptéres de Birmanie. 1893.

先なる五書は何れも世界の昆蟲を記載したるものにして、第六者は東洋特にビルマ近傍の直翅類を記載したるものなり。氏の學名を有する本邦直翅類十二種なり。

近頃賣出にして有名なるものは西班牙のボリバー(Bolivar, I.)氏なり。氏の著書中左の三書は、本邦產の直翅類を有す。

(1)Monografia de los Pirgomorfinos. 1884. (2)Essai sur les Acridiens de la trebu des Tettigidae. 1887.

(3)Diagnosis de Orthopteros nuevos. 1890.

伊國人ボルマンス(Bormans de A.)氏は近頃世界の蠼螋科を有名なるDas thierreichに記載したり。其内本邦に產するもの六種を擧ぐ。

此他本邦の直翅類に關する參考書は甚だ多しと雖も、詳細なるとは省略し、其書名のみを擧ぐれば如左

(1)Burmeister, H.—Handbuch der Entomologie II 1839. (2)Fabricius, J. C.—Entomologica Systema,1793. (3)Linnaeus, C. Systema Naturae, 1758. (4)Motschulsky, V.—Cataloque des Insectes du fleuve Amour etc. 1859. (5)Redtenlacher, J. Monographie der Conoceplaliden. 1891. (6)Scopoli, J. Entomologica Carniolica, 1863. (7)Stol, C.—Orthoptera in konigl. Svenska fregatten Eugenies Resa, 1851-53. (8)Stol, C.—Recensio orthopterorum, 1873-74. (9)Stol, C.—Orthoptera nova ex insulis Philippinis, 1877. (10)Stoll, C.—Représentation des Spectres, Mantes, Sauterelles, Grillons, Criquets et Blattes etc, 1787 (11)Walker, F.—Catalogue of the Specimens of Dermaptera altatoria pt. I-V, 1869-71. (12)Westwood, I. O.—Catalogue of orthopterous Insects in the Collection of British Museum pt. I. (Phasmidae) 1859 (13)Westwood, I. O.—Cevisio familiae Mantidarum, 1889. (14)Wood-mason, J.—A Catalogue of the Mantodea, 1889.

此内ヲルカー氏の著は非學術的としてブルンナー氏の如きは排斥せり。

此他米人スカツダ(Scuder, S.)氏はProceedings of National Museum U. S. A. P. 114, 1898. にPodiswa dairisama Scudを記載し、モチヨルスキー(Motschulsky)氏はBull. Soc. Nat. Mosc. xxxIx P. 181にMeconema albicorue及びM. subpunctatum及びP.182にTridactylus obscurus等の記載あり、尚ボリバー

氏は伊國の雜誌 Ann. del Museo Civico Gluora P. 152, 1893 に Oxya vicina を記明し、同雜誌 P. 82, 1898 には Chrysochraon japonicus を記載せり。此他一二種つゝ本邦の直翅類を記載せしものありと雖も他日を期して詳論する所あるべし。

◎冬季糖蜜採集の効果

名和昆蟲研究所長　名和靖

糖蛾類採集の爲め、夏季に於て糖蜜採集の有効なることは誰も能く知る所なり。然るに故プライアー氏は横濱山の手在住の頃、庭園内には各種の植物を栽培し置き、夏季は素より、冬季にても雨天を除くの外は、雪中と雖も一夜として糖蜜採集を怠りたることなかりし。余は親しく其實況を視察したるに、夕方に到れば、例の如くボーイは糖蜜を各樹の莖幹數十本に塗抹し置けば、プライアー氏は食事を終りて後採集用燈と毒瓶を携へて一周し、就眠前に於て再び一周するを常とせり。余は屢々同行したるに、殆んど獲物なきが如し。故に大ひに疑ひを抱きて同氏に問へば、平均一週間に一、二頭を得る位なれども、其獲物は必ず珍品奇種にして、他の時期に於て容易に得難ければ、假令僅少なりと雖も冬季の採集を廢すること能はざるべしと云へり。故に其後余は稀に冬季の採集を試みたるも、種々の事情に依りて深くも實行し能はざるを常に遺憾とせり。然るに今回助手等去る十二月より十數回金華山麓の樹木に糖蜜を塗抹して採集を試みたるに、意外にも多く集り來りて、一夜能く二、三十頭の珍種は素より、新種をも屢々獲たることあり。特に本月四日の如きは、雪中にも拘らず十餘頭を獲たりき。而して該蛾は普通に於て樹幹の根元に堆積せる落葉等の間に潜伏せるが如し、如何となれば糖蜜を比較的樹幹の低き所に塗りたる場所に多く集るの傾きあればなり。目下は殆んど冬眠の有樣なれば、到底飛揚するの力なく、全く糖蜜

の香氣を知りて漸く潜伏所を這出するに外ならざるべし。實に今回の試驗に依れば、プライアー氏の採集効果に比して幾十倍あるや、眞に愉快なり。尚ほ繼續研究の上得たる所の結果は本誌上に委しく記載する事あるべし。

◎皇太子殿下奉獻中等敎育昆蟲標本詳解（其五）第一版圖參看

名和昆蟲研究所內　小竹浩

（六）鱗翅類（蛾）

蛾は蝶類と等しく鱗翅類に屬するものにして、其形狀彩色等相酷似すれども、蛾は概して彩色美麗ならず、靜止のときは翅を体側に擴げ、若くは背上に屋根形に疊む。觸角は羽狀若くば糸狀にして、蝶類の如く先端膨大するもの稀なり。其飛揚するや、重に夜間に於てし、下翅には概ね翅刺を有す。其化蛹せんとするや、多くは繭を營み、或は地中に入り、若くは他物を綴りて其中に化蛹す。其產卵するや、蝶の多くは一粒つゝ所々に產するに反し、蛾の多くは一所に多數を放卵す。

（三五八）カヒコノガ（Bombyx mori, L.）　蠶蛾科に屬し、有用蟲の主要なるものにして、八囊に別れたる卵巢の有樣を示したるものなり。其經過特効等は普く世人の知る處にして、且此蟲に就ては特別に專門家の著述多ければ、茲に說明するの要なし。

（三一七）セスヂスヾメ（Chaerocampa oldenlandiae, Fab.）　天蛾科に屬し、腹部背面の中央に二條の白縱線あるを以て此の稱あり。前翅の前緣角より後緣の中央に向て灰黃及褐色等の數條線あり、後緣に至るに從て幅廣く、中央の前緣に近き處には一小黑點を印す。後翅には後緣に近き處に一條の黃褐色帶あり幼蟲は其着色種々なれども褐色のもの多く、背線細くして、胸背の兩側には各九個の黃色の小斑列あ

り。第四節乃至十節には毎節眼狀紋を有し、該紋の上部に太き黄色の橫帶を有す。氣門下線は太くして黄白色を呈し、尾角は黒くして先端白く、里芋、半夏等を害す。(本誌第六十七號參看)

(三八)オホスカシバ (Cephanodes hylas, L.) 天蛾科に屬し、羽化の初め四翅灰黄若くは灰白の細鱗を裝ひ不透明なれども、直ちに剝落して硝子樣の透明となり、褐色の脈條を存す。胸部の腹面には白毛を、背面には鶯色の軟毛を密生し、腹背の第一乃至第三節は胸背と畧同色なれども、稍黄色を交ふ。第四第五節は赤色を、第六第七節は黄色を帶び、尾節には黒色の長毛を簇生す。幼蟲は綠色にして、第一節の硬皮板には疣狀の小突起多く、頭は暗綠色を呈し、背に二條の乳白色の縱線あり。亞背線は黄白色にして、其下に毎節一個の小黒点あり。氣門は白く楕圓形に彩られ、其中央帶黄赤色の太き線を以て二分せらる。尾角は背面黒く腹面綠色にして疣狀物あり、梔子の葉を食す。(本誌第七十三號參看)

(三九)ヤママユノガ (Antherea yamamai, Guer.) 天蠶蛾科に屬し、翅色雄は茶褐色を、雌は黄褐色を帶べども、變化多し。前後兩翅共に、稍外線に併行したる白色と暗色と相接したる帶線あり、其內方殆んど翅の中央に眼狀紋ありて其中央透明なり。後翅にあるものは其緣邊過半黒線を匝らし、上方の一部著しく太く、內方は開放す。幼蟲は綠色を帶び、各節に八個づゝの疣狀物ありて、夫れより數本の毛を生ず。老熟すれば黄綠色の繭を營みて化蛹し、其繭は糸に紡ぎて織物を製するの有用蟲なるとは、人の熟知する所なり。

(四〇)クリケムシノガ (Caligula japonica, Moore.) 前種と同科に屬し、雄は雌に比すれば稍暗色を帶び共に、色澤に變化あれども、其斑紋は雌雄異なるなく、前翅は縱に三分して色澤を異にし、其中央に半月形の斑紋あり、後翅の中央に蛇の目紋ありて、其中に半月形の透明部を有す。前後翅共に外線に

平行したる波狀線あり。幼蟲は灰白色にして少しく綠色を帶び、白色長毛を蒙る。故に白髮太郎の名あり。主に栗の葉を食し、老熟すれば褐色の網目樣の繭を營む。幼蟲よりはテグスを製す。(本誌第三號第六十四號第六十五號第六十七號參看)

(四一)ミノゲガ(Pryeria sinica, Moore.)　纐文蛾科に屬し、躰長四分、翅の開張一寸一分内外、四翅透明にして脈條明なり。翅の基部に淡黃色の毛を有し、頭胸部の腹面は黑く、胸部の背面は前中胸部に黃色の、後胸部に黑色の長毛を密生す。腹部は背腹共に黃色を帶び、中央以下の兩側面には黃色と黑色との長毛を簇生す。秋季山林中に鈍く飛揚するを常とす。幼蟲はマサキ、イヌマユミ等の葉を食害す。

(四二)ヱンドウノキリムシノガ(Mamestra brassicae, L.)　地蠶蛾科に屬し、翅色灰褐色若くは黑褐色にして、後翅は斑紋なく、前翅には黑褐の種々なる斑紋を有し、中央の上部に稍判明なる耳狀に近き灰色の模樣あり。裏面は斑紋なく、只後翅の中央に一個の小黑点を有するを常とす。年二回の發生をなし、豌豆、大麻、蕎麥其他種々なる植物の葉を食する有名の害蟲なり。卵子は一所に數十乃至二三百粒つゝ葉裏に產卵す。幼蟲は其初め綠色にして、漸次褐色に變ず。然れども變化多くして色澤一樣ならず、背に三條の白線あり。此蟲は夜間出でゝ葉を食し、晝間は土中或は塵芥等の下に潜伏す。然れども初期の幼蟲若くは食物不足のときは、晝間と雖も葉に止まりて食害することあり。(昆蟲世界第一號第二號參看)

(四三)イラムシノガ(Monema flavescens, Walk.)　刺蟲蛾科に屬し、翅厚く、胸背及翅は黃色を帶び前翅の外半は樺茶色を呈す。其前緣角より後緣に向ふ二條の褐色線は、一は中央に終り、一は殆んど後緣に達す。後翅は帶褐黃色にして、斑紋なし。幼蟲は胸脚小に、腹脚退化す。背面の兩側及側面には

肉狀突起ありて、夫れより針狀毛を生ず。胸背にあるものは長くして黑く、若しこれに觸るゝときは甚しく痛みを覺え、腫瘤を生ず。年一回の發生にして、柿、梨等の葉を食害し、老熟すれば卵形の堅き繭を營む。俗に之を雀甕といふ。（本誌第六卷第五十四號參看）

（四四）ユフマダラガ Abraxas miranda, But.）梅尺蠖蛾科に屬し、体長四分五厘乃至五分、翅の開張一寸四五分、腹部黃色にして小黑斑を散布す。前翅の上膊角には翅基鱗片ありて、背面に向ふ翅は白色にして、淡黑色の小斑点は前後兩翅を通じてＵ字形をなし、前翅の基部及後緣角に近き處幷に後翅の內緣角に近き處に黃褐色の斑紋あり。幼蟲は体色暗褐色にして、第一節は黃色に、黑点を橫列す。第二節以下には黃色の背線、亞背線、氣門上線、氣門線、氣門下線を有し。尚腹面にも三條の縱線あり。常にマサキ、イヌマユミ等に發生して、其葉を食害す。

（四五）モモゴマダラガ（Astura punctiferalis, But.）藍螟蟲蛾科に屬し、躰長四分乃至五分、翅の開張八分乃至一寸、翅は前後翅共に黃色にして多くの小黑点を有し、宛然黑胡麻を散布せる如きを以て此の稱あり、裏面は帶黑黃色にして、前翅は後翅に比すれば暗色にして、多くの小黑斑は表面に異ならず。幼蟲は体形紡錘狀をなし、初期は黃白色にして頭黑く、漸次成長するに從ひ、頭部褐色に、躰は帶黃赤色に變ず。各節に十數個の淡褐色の斑点あり、夫れより短毛を生ず。桃果に入りて食害し、老熟すれば果實を辭し、地中若くは朽木中に入り、其儘越冬す。年二回の發生にして六月、八月頃尤も多し。

◎恐る可し米國に於ける棉莿象鼻蟲加害の影響

在米國　名和梅吉

北米合衆國の棉花栽培地は、同國中南太西洋部及び南中央部の海邊に沿へる拾餘洲に渉り、現今之が產

額は一ケ年に千百万樹以上に達し、米國輸出農作物中第二位を占むるに到れりと。然るに此巨額の產出を有する棉花には、恰も本邦に於て稻作に螟蟲、浮塵子等の害蟲發生して、年々尠なからざる損害を與ふると同樣。又各種害蟲の侵害する所となり。非常なる損失を來さしむことありと謂へり。就中現今に到り驚く可き巨額の損耗を米土に與へ、加之延ひては棉花紡績工場に及ぼし、一層莫大なる損失を惹起せしめしは、鞘翅目中象鼻蟲科に屬する一種、棉蒴象鼻蟲と稱するものあり。此恐るべき有害蟲に關し、昨卅六年十一月八日發行の米國桑港市のクロニクル新聞に、其が加害の結果、棉花取引商人が五百万弗の利潤を得し事、數多の紡績工場の閉鎖に次いで悲慘の狀況、及び該蟲傳播の狀態より驅除の困難ある等、詳細に掲記されしかば、今左に譯述して讀者諸彥に照會せんとす、請ふ之を諒せよ。

テキザス洲中南方の棉花栽培地には、躰長僅かに一インチの四分の一小形にして、鈍綠褐色を呈する一種の象鼻蟲發生して、七千万弗の損失を與へり。此種は棉蒴象鼻蟲と稱して、テキザス洲の廣濶なる棉花栽培地を通して、一年に七十五哩の比例を以て北方の地に蔓延しつゝあり、之が發生は全く棉花の收穫をして敗滅に歸せしむるものとす。而して此棉蒴象鼻蟲巨萬の發生加害は、彼の暴風雨の爲めに受くる損害よりも遙かに猛烈なるを見るなり。如何となれば、該蟲は當米國に於ける第二の重要輸出農作物をして、無限の損害を惹起せしむるが爲めなり。今學者の說に依れば、今後十年間に、此最も恐るべき有害蟲の棉花に對する加害力を減少せしめざるに於ては、一年間に受くる損害額は二億弗以上に達し、終には多額の產出を見し棉花もたゞ一の記錄と成り。加之、其が影響は衣類及び總て棉花製造品の價格騰貴し來り自然吾人は止むなく昔日の如く羊毛製造に復歸するに到らんと謂り。

害蟲他洲に侵入せんとす　棉蒴象鼻蟲は歲月を追ふて加害區域を增進し、殆んど數理と正比例をな

して蔓延し來り、今や棉花栽培地なる大東方帶に侵入せん狀態に達し、既にテキザス洲の東北境界地域の各所に出沒するに到れり。實に該蟲の加害猛烈なりしかば、當時テキザス洲に於ける、南方の棉花栽培者等は、棉蒴象鼻蟲の名稱を聞くだに既に心中恐怖の念を感せりと謂ふ。而してジョルジア洲の或人、曾てテキザス洲より加害蟲の一標本を携へ皈りし時、鄕人をしてかゝる小形なる形態を有するものにして莫大なる損失を惹起せしむるかとて大ひに驚かしめたりとぞ。然り而して目今此恐る可き害蟲の侵害を蒙らざるミスシスピー河の東方に於ける棉花栽培者等は、此猛烈なる加害蟲の傳播せんことを恐れ、委員をテキザス洲の被害地に派遣して踏査せしめたり、其結果、棉花の輸送と共に此恐るべき棉蒴象鼻蟲を傳播せしむる虞れありとて、棉花運搬上に關し、テキザス洲の棉花栽培者及び鐵道の支配者等に談示する處あり、其方法手段としては、テキザス洲にて栽培收穫せし棉花を運搬するに當り、ミスシスピー河の東方なる棉花栽培地を通過せしめずして遠く北方の地に輸送するにありと、而して最も希望すべき通路はメキシコ灣を通して紐育海岸に沿ふて海路を取ると、一方には棉花栽培地域外を通過せしむると、且又ミスシスピーを横過するに先ち充分北方に於ける鐵路によりて輸送する事等ありとす。

如何に害蟲はブラウン氏を富豪たらしめしか

棉蒴象鼻蟲加害の結果は棉花の價格に影響し、終にニユーヲーリアンに於ける棉花取引商人ブラウン氏及び棉花市場の大なる仲買者サルリー氏等をして五百万弗の利潤を得せしむるに到り、從ひてろが仲間の同業者等も多少の收利を得しと云。而してブラウン及びサルリーの兩氏は、他の同業者等が害蟲加害の爲め棉花の價格に變動を來すとの豫想を抱くに先ち、既にテキザス洲に於ける害蟲加害の猛烈なる事に着眼し、將來に於て棉花の收穫を敗滅に

斃せんことを先見し、以て機敏なる働きをなしたるあり。實に彼等觀察の機敏なる、常に莫大の巨利を博したり。

尚ほ一面に於ける該蟲加害の影響は棉花紡績工場に及ぼし、東方洲にて紡績業を成せる內、十五ヶ所の紡績工場は止むなく閉鎖し一時に五千三百八十六人の紡績職工は解雇となりたり。かゝる狀態にて棉花製造品の價格は俄然騰貴し、國家財政上にも尠なからざる影響を來さしめ、尙之が爲め輸出は非常に減少するに到りしなり。夫れ然り而して其最も恐るべき棉蒴象鼻蟲の猛烈なる加害の影響は、終に歐洲の地に侵入し、爲めに英國に於ける四十ヶ所の大なる紡績工場は、棉花欠乏の故を以て是又閉鎖を見るに到り、二万二千人の婦女兒童等は解雇の不運に際會したるあり。そが結果は忽ち糊口に苦むものを生じ、或は乞丐の境涯に零落するものあり、或は餓死せんとする悲慘の極に陷りしものも尠なからずと謂へり。實に何人と雖も、南方に於ける棉花栽培地に起りたる此恐るべきメキシカン象鼻蟲の數百を、棉花栽培地に放擲するより生ずる結果、以上の害惡を當米國及び世界に迄加ふるものあらざる可し。

該蟲加害の結果は斯く悲慘の極に達せしと雖も、エジプト國にて產出する棉花は到底此狀態を救濟するに足らず、今世界に於ける棉花の產額は如何と云ふに、そが總額は殆んど千三百万梱にして、其內千一百万梱は全く當米國の產出にて他の千二百万梱が即ち他の國々にて產出する總額あるの割合なり然り而して當米國に於ける千八百廿九年の產額は、八十七万四千百十五梱なりしに、現今に到り、上述の如く巨額の產出を見るに到りたるなり。さはいへ多くの棉花栽培者等は此多額の產出も、全く漸次增加し來りしと雖も、又此猛惡なる棉蒴象鼻蟲の加害と共に、年々減少して殆んど敗滅に斃せんと

の憂慮を抱き居れりと。テキザス洲の棉花栽培者等は、該蟲殲滅の爲め燒殺し或は打殺し或は毒殺を試み、或は特種の器械を使用して撲滅に努力すと雖も、之れを防止するを得ずして、恐る可き害蟲は一年間に七十哩の比例にて漸次蔓延しつゝあり。而して農務省に於ける專門家及び當局者の盡力も、未だ此害蟲の猛烈なる加害力を勦絶すべき方法を案出し能はざりき。然らば害蟲の最終は如何、目下は昨年内に三千万弗の損失を與へられしテキザス洲に止まると雖ども、此處に最も警戒を要すべきはルイジアナ、ミスシスピー、アラバマ、ジョルジア及びカロライナの各洲に於ける、廣濶にして且豊沃なる棉花栽培地に侵害せんこと是なり。

（未完）

◎本邦產天蛾類目錄

在東京 長野菊次郎

本邦に產する天蛾類の總數は幾何あるか未だ容易に知るべきにあらず然れども學名を有せるものゝみにても既に四十餘種に上れるを以て其少數にあらざることを知るべし今外國人の手によりて調査せられ本邦に產すと知られたるものにて余の知れるは左の四十二種にして此中和名あるものは皆實物を手にして多少の研鑽をなしたるもの又＊の記號を附せるものは幼蟲の知られたるのもあり尙其幼蟲、蛹、成蟲の形狀及び出現の時季嗜好植物分布等は目下出版着手中の日本昆蟲圖說第一卷に於て着色圖版を伴へる說明によりて之を知るべし

和名は先輩の定めたる所に據り未だ和名の公布せられざるものゝみに新稱を附したり

北海道の天蛾類につきては松村博士の報知せられし厚意を謝す

A LIST OF THE SPHINGIDÆ OF JAPAN.

BY K. NAGANO.

1. Smerinthus ocellatus L. *ウチスズメ

S. planus Walker.

2. Smerinthus tatarinovii Brem. et Grey.

*ウンモンスズメ

3. Mimas tiliae L. var. christophi.

ヒサゴスズメ(新稱)

Dilina christophi Staud.

前翅に瓢を倒ゝせるか如き紋形あるにより此和名を附す

4. Marumba piceipennis Butler. *クチバスズメ

5. Marumba heynei Austant.

6. Marumba complacens. Walker. *モモスズメ

Triptogon roseipennis Butler.

7. Marumba echephoron Boisd

8. Phyllosphingia dissimilis Brem. et Grey.

エゾスズメ(新稱)

本種は今日北海道に產することを知るのみなるにより此和名を附す

9. Langia zenzeroides Moore. var. Nawae Lothschild.

*オホシモフリスズメ

此種の元標品は印度のヒマレー山地方に產するものにして從來本邦產のものも之と同一の學名の下に隷せられしが一昨年 Lothschild氏名和氏の標本を携へ歸られし末之を變種とせられたり葢し邦產天蛾類中最も大形の種なり

10. Daphnusa colligata Walker. ギンボシスズメ

11. Clanis bilineata Walker. トビロイスズメ

12. Acherontia styx Moore. *メンカタスズメ

A. medusa Butler.

13. Hyloicus caligineus Butler. *クロスズメ

14. Sphinx ligastri L.

S. constricta Butler.

15. Protoparce convolvuli. L. *エビガラスズメ

P. orientalis Butler.

16. Meganoton increta Walker. *シモフリスズメ

Diludia discistriga Walker.

17. Oxambulyx ochracea Butler. ホソバスズメ

18. Ambulyx substrigilis Westwood.

A. schauffelbergeri Brem. et Grey.

19. Ampelophaga rubiginosa Brem. et Grey.

*クルマスズメ

20. Deilephila galii Rottenburg. *イブキスズメ

21. Pergesa askoldensis Oberthür. ヒメスズメ(新稱)
スズメの名を有するもの丶中最も小あるよより此名を附す

22. Metopsilus swinhoei Moore.

23. Metopsilus mongolianus Butler.
*ビロウドスズメ

24. Theretra pallicosta Walker.

25. Theretra nessus Drury. *スズメガ

26. Theretra elpenor L. *ベニスズメ
Chaerocampa lucasii Walker.

27. Theretra japonica Boisd. *コスズメ

28. Theretra oldenlandiae Fab. *セスヂスズメ

29. Theretra pinastrina Mart. var.
*イツポンセスヂスズメ(新稱)
此の種はセスヂスズメに類似すれとも躰背を走れる銀白線の一條なるによりて直に之を區別すべし故に此和名を附したり鹿兒嶋及び臺灣に產するものにして原種は印度に產す

30. Theretra suffusa Walker.
ベニシタバスズメ(新稱)
此種は下翅の大部分紅色なるによりて此和名を附す臺灣に產す

31. Theretra prexima Austant.

32. Acosmeryx castanea Rothschild.
*クロクモスズメ(新稱)
此種の前翅の紋理黑雲の渦卷く樣よ似たるよより此和名を附す從來 A. anceus Stoll. の學名を當てたるものなり

33. Acosmeryx metagana Butler.
(32)の異名よあらざるか

34. Acosmeryx iyenobu Holland.

35. Gurelca hyas Walker. *ヒメホウジヤク
G. sangaica Butler.

36. Macroglossa saga Butler. *クロホウジヤク

37. Macroglossa bombylans Boisd.
ヒメクロホウジヤク

38. Macroglossa stellatarum. L. *ホウジヤク

39. Cephonodes hylas. L. *オホスカシバ

40. Hemaris sieboldi Boisd. クロスカシバ

41. Hemaris radians Walker. スキバホウジヤク

42. Hemaris allernata Butler.
此種は(41)の變種あらんと云へる人あり

講話

つかみ出す
池の藻草や
松藻蟲
（殘蝶）

◎キモンアヲゴミムシの習性經過

中井藤助

編者云、本編は水曜昆蟲談話會席上に於て、岐阜縣長期害蟲驅除講習生中井藤助氏の談話の概要なり。

飛騨の山國は稻苞蟲の爲めに年々歳々損害を受くる實に多大なもので御座います。是れが驅除豫防に就ては、當業者の苦心考慮する所、而かも其驅防の方法等一般他に比して多少進歩の点あるは、確かに認むる所で有るけれども、甚だしき發生は、未だ能く其大部分の被害を免がるゝを得ません。若し驅除の稍々忽緒に附する時は收穫皆無と云ふ樣な慘狀に陷る地方がある、大に遺憾とする所であります。然るに斯くの如く被害の甚だしき所あるにも係はらず、或地方の如きは是れに一層優る發生あるも、或る時期の來るあれば立どころに撲滅せらるゝことがあります。是れ他なし、天然驅除の然らしむる所、即ち此苞蟲に一種の敵蟲（益蟲）のあるありて、暗々裡に捕喰する故で有ります。

飛騨國にては此益蟲を稱して方言サシと申します、此サシは正しくキモンアヲゴミムシ（Chlaenius pictus, Chaud.）の幼蟲なれど、其習性經過は未だ世に需むるを得ませんので、私は二三年前より該蟲を飼育して參りましたけれども、其間種々なる障害がありまして、漸く一昨年其成蟲を確かめることが出來ました尚は昨年も飼育實驗せしかば其大畧を申上げ進んで今後大に此益蟲の保護繁殖を謀る考へであります今其サシ即ちキモンアヲゴミムシの幼蟲の形狀及習性經過を申せば左の如し。

充分老熟したる幼蟲は躰長八分乃至九分あり頭部は赤褐色にして、觸鬚は四節より成り、上顎は發達して鋭く食肉に適す。胸部の下面は灰白にて暗黑色の斑紋あり、背面は濃黑色にして艶あり、腹部の末端に圓筒狀の突起物と、第十二環節の背面に粗毛を有せる二本の尾刺を有す。脚は三對にして暗黑色、跗節は四より成る。サシ蟲は重に苞蟲の咽喉部に嚙み付き、其躰液を吸收す。此もの八月上旬頃第二回發生苞蟲の正に稻葉を捲束し、今や大に喰害せんとする頃、畦畔等より出で丶數日間にして殆んど嚙殺す

キモンアチゴミムシの發育圖　（イ）は幼蟲　（ロ）は蛹　（ハ）は成蟲

ることあり。嘗て此益蟲大に發生の際、苞蟲を喰殺し、尙ほ他の荳科植物に加害する葉捲蟲の蟄伏する所を搜索して能く捕食するを見ました。幼蟲既に老熟すれば畦畔の土中凡二寸內外の深さに不正圓形の徑五六分位の小穴を穿ち、食を斷ち蟄居する事凡五日間內外にして脫皮蛹化す。躰長三分、全躰乳白色にて、複眼は灰黑色を呈す、躰甚だ柔軟なり。日を經るに從ひ漸次稍々褐色を帶ぶ。七日乃至八日にして脫皮して成蟲となり、土中に在ること三四日間にして地上に出づ。躰は稍々扁平、長さ五分五厘乃至六分あり、觸角は十一節、下顎鬚及下唇鬚は四節より成る。頭部の背面は綠色に近く、胸部の背面及上翅の表は黑地に青黃色、皆光澤あり、下腹面は黑褐色なり脚は帶褐黃色にて細長く、跗節は五より成り步行するに速かなり。上翅の末端外緣に相當する處に黃色の凹凸形を成せる斑紋二個を有す。該蟲に觸るゝ時は躰より一種異樣の惡臭を放つ。

◎中川久知氏の寄生蜂の話

編者云、某所に於て中川氏の談話せられたる筆記を得たれば之を揭ぐ若し誤謬あらば編者其の責に任ず

アゲハノテフに寄生する一種の蜂はアゲハヤドリコバチと稱し、モンシロテフに寄生するものよりも肢細く、淡き黑色を呈して居る。此種類は其大小不定にして、或る時は小なるもの許り出ずる時あり、又大なるものゝみ出ずる時もあり、或は大小相混して出づることもあるから、形の大小を以て種類

を區別することは出來ないです。

右の蜂を取りてアゲハノテフの幼蟲の居る所に放ちしに、寄生蜂は幼蟲の体に止まり、産卵する如き擧動を成したるより見れば、産卵することハ慥なるやうですが、幼蟲は無難に生育することを見れば、其卵が皮下にとゞかざる爲か何かであろうと思はるゝも、斯はまた疑問です。扨其蛹を『ホヤ』の中に入れて寄生蜂の親を放ちしに、蜂は先を爭ふて産卵し初め、大抵一日位は長く止まりて産付けて居ります。此時は余程熱心なもので、少しの物が之に觸れても容易に動くとはありません、或る時私は樹の枝に附着し居る蛹に産卵し居る寄生蜂あるを見附け、其枝を切り取りましたが、此時蛹は非常に震動せしにも係はらず、蜂は無頓着にて、其儘家に持ち歸りて机の上に其枝を置きても、尚平氣で止り居た位でありました。而して此寄生蜂の經過は、八月十三日アゲハノテフの蛹を採りて寄生蜂と共にランプのホヤに入れ飼育したるに、同月十九日産卵されたるものが九月一日迄に羽化したるので、生育に十三日掛りた譯です。又九月上旬に産卵せしものは十九日目位に成蟲となり、又十月産卵せしめたものは九月と同樣の結果でした。冬季にても温室に入れ置く時は十四五日位にて成蟲となるのですから、此蜂の成育は一年の季節に關係のある譯でなくて、温度の如何に因るものなる事を知ることが出來ます。又卵の蛹の中にて發育するにも光線の如何には關係がなくして温度の關係があり、温度高き時は早く孵化するものであります。此寄生蜂は一頭の蛹より大低百頭以上は出づるものにして、其雌雄の割合は雄の方が少なくて略總數の五分の一に當り、羽化して蛹体を出づるには大低午前十時頃より午前中に大低十分の一位出でゝ、殘り十分の九は午後二時頃迄にして約四五時間に悉く蛹体を出づるものです。其初め蛹体に孔を明けて出づるものは雄のみにして、前に出でたる雄は孔の邊にありて雌の出づるを待ち、後より出でたる雌を挑みて直ちに交尾を遂ぐるものです。若し雌の出づること遲き時は、再び孔の中に入り行くことなどあります。茲に私の諸氏に對して望むのは、此蜂が單爲生殖をするものなるや否やを試みられんことです此の方法は前申す通り、前に出でたるものが悉く雄なるを以つて之れをとりのけ、後より出でたるもの即ち雌のみを採りて生殖せしむる時は、如何なる結果を生ずるかを注意せられんことです。尤も寄生蜂がアゲハノテフの蛹に寄生するは八九月の蛹の多き頃に尤も多き譯で、此際野生の蛹を撿すれば百分中九十は寄生蜂の害を受けて居ります。十一月頃にあれば余程其被害を減じて、五割乃至六割位となるのです。扨アゲハノテフの幼蟲の遲きものは十二月五日頃迄も居つたのを目撃しましたが、是等のもの

寄生蜂の害を受けずに濟むものでありませう。抑アゲハノテフの幼蟲は隨分澤山に發生すれども、之が成長を遂げて蛹となり、やがて羽化して成蟲となるものは割合に少くて、此アゲハノテフは何れの地にも多く產するに關せず、未だ該蟲の爲め非常なる害を蒙りしことを聞かざるは、寄生蜂の爲に害せらるゝのも、其重なる原因の一であらうと思はれます。故に私は玆に左の三つの箇條に付て研究するの必要ありと信じます。即ち第一には害蟲と外界とが如何にして平均を保つものなるかを研究すること、第二には如何なる場合に其平均の破るゝかを研究すること、第三には如何にせば其平均を保たしめ得べきか、若其平均の破れたる場合には如何にして之を救ふべきかを研究すること、此三件に就て尤も注意を要することであります。尚他に就て申上げたきは澤山ありますれども、病後のことにて余り長く御話申すことが出來ませんから、此位にて御免を被ります。

序ながら申上まするが、寄生蜂の成蟲は大低六七十日間は生活することが出來ますから、相當の食物を與ふれば長く生かして置くことが出來ます。思ふに野外にありては甘露の如きものを食ふではないかと思ひます。

松藻虫　壕端の松　時雨けり　　三竿

◎昆蟲文學（一）

浮塵子　　半風隱士

稻禾收盡無求食。霜雪交來夢數驚。將待陽春欲爲事。草間晦跡保餘生。

蓑蟲　　雄山あや子

枯れ果てし木の葉まきよせみのむしの冬ごもりせる身こそやすけれ

子負蟲　　神村直三郎

冬の田のあくたの下にねむりつゝ子を負ふ春の夢や見るらん

松藻蟲

泉水の銀杏落葉や松藻蟲　　昇蝶

松藻蟲月下に腹を叩きけり　　慶二

松藻蟲浮きて目高は去りにけり　三雲
小波や巖上の松松藻蟲　蛙子
松藻蟲つと沈みけり浮きにけり　三川
松藻蟲きたなく水に住ひけり　同
松藻蟲此頃池の水ぬるむ　四澤
松藻蟲風船蟲と瓶の中　同
松藻蟲まひ〳〵の愚を笑ひけり　同

前栽の小池
松藻蟲初冬の水乏しけれ　四澤
人
鎌を磨ぐ手桶の中や松藻蟲　竹堂
地
捨舟の水の溜や松藻蟲　三川
天
松藻蟲浮上り居る餘寒哉　天蟲

◎昆蟲に關する隨感隨筆（第七回）

昆蟲翁

（四十四）異様の優曇華　　優曇華の事は世に廣く迷信として深く知られたるものにて、其形狀は薔薇の一株昆蟲世界の中に圖說しあれば、讀者の已に知らるゝ所なり。夫れど同様の圖は凡そ百年前に著はされし栗本丹州翁の千蟲譜の中にありて、其說明よ『笋の花　享和壬戌（翁曰く本年より一百〇三年前なり）五月十七日、下谷六軒坊に住む尼空音と號する者、平素珍藏する所の古笋三の糸の下に此花を生ず。往古より琴花と稱するものゝよし。文智田安公の貴覽よ備ふと云ふ。顯微鏡を以て照し觀れば、銀針の如く光りすきとをり、テグスの如く柔靭にして、力を極めて曳も強くして截れがたし。其後ウドングの花さくと云とありき。よく〳〵聞けば即此物を指して云へるなりと（以下畧）』又吉田平九郎先生の蟲譜にも圖あり、其說明に『ホシタマゴ　如圖大さにしてサンバソウ（翁曰くサンバソウとは蜉蝣のと全くクサカゲロウと誤まれり）の卵なり。じく至て細く蜘蛛のいとの如く、卵は至て白く圓長なり。後孵化す』然るに水谷豐文先生の蟲譜に、一種異様の優曇華の圖あり、其說明に『ホシタマゴの一種　如此雪白にして、先は花の形をなしてケシの實の如し。蟲の巢あり。立秋の節葉に付たるをみる』又た吉田平九郎先生の蟲譜にも同様の圖あり、其說明も粗同様なり。即ち『ホシタマゴ一種　雪白にして糸の如く、先は花の形をなして細小なる罌粟子の如し。蟲の卵あり。立秋節葉に附たるをみる』該圖を見るに、普通ウドングの時日を經過したる爲め、數十本の軸一所に集合したるものにはあらざるかと思ひ、是非實物を一見したきことを常に注意し居たるに、昨卅六年八月のことなりき、丹波國福知山に於て、圖らずも該珍

品を得るの幸運に至れり。今是を親しく顯蟲鏡を以て視るに、始め想像したる如きことにあらず・全く最初產卵の際に於て、一本即ち一卵づゝを別々に產附することなく、其軸を全く共同即ち一本として上部のみを分離したるものたることを始めて知るに至れり。實に面白きことなり。然るにクサカゲロウには十數種あるを以て、未だ何種の卵子なるやを知るべからざるも、小形種にあらずして恐く大形種に屬するものならんことを信ぜり。

異樣の優曇華

(四十五)投ぶし圖會と蝶々　嘉永三庚戌年正月出版の投ぶし圖會は蝶盡しにて、表紙幷に序文の紙面には三つ向ひ蝶を、又衣服地には悉く蝶摸樣を現し、蝶の形を帶びて舞ふ所の圖あり。提灯には蝶連と記せり。其蝶連の名を集めたるに里蝶。玉蝶。飛蝶。翠蝶。十蝶。箒蝶。園蝶。夢蝶。都蝶。戯蝶。枝蝶。蓊蝶。蘭蝶。三蝶。蝶蝶。桃蝶。露蝶。花蝶。千蝶。金蝶。連蝶。菊蝶。雅蝶。菜蝶。南蝶。紫蝶扇蝶。遊蝶の廿八の多きを得たり。其序文を見るに『年毎に流るゝ水を花と見て、散くる花を蝶とみし莊子の夢も邯鄲の榮花の春は菜の花のこがねの色にたはむるゝ蝶は屛風の蝶つがひ、うちそゆかしき枕もと、一ふし鷹三茄子、夢のうき世かうつゝかと、ふなばたたゝくもさん船、投ぶし唄ふそが中に、よきもあしきもをふければ、唐のをやじの数の如く、滄浪の水濁らば足と犢鼻揮をすゝぎ、淸らば冠とたましゐをあらひてよみ給へと、嘉永は三歲初春の小册一犬はつすればまん犬の春。嘉永三戌春、雲の下人蝶々庵誌』とあり、中々面白きことと感せり。

(四十六)煙草の看板と蟲孔　岐阜市某煙草屋の看板に、眞誠の煙草一葉を二枚の硝子板に狹みて掛け置けり。實に看板としては一新機軸を出したるものにて衆人の眼を引きたるも、如何にせん玆に一笑話を引起したり。而して普通煙草屋の看板を見るに、必ず煙草葉の各所に孔の明きたるを畫かざるはなし是れ即ち青蟲の蝕したるものにて煙草葉たることを意味せり。是を見る度に、煙草は蟲に蝕せらるゝものゝ如く世人の深く感じ居れるを信せり。故に蟲蝕の孔を作らざれば或は煙草の看板とならざるものとせり。是れ害蟲驅除の不完全を表示するものなれば、是非今後は煙草葉に孔の明きたる看板ある所では購入せざる樣に致したし。然るに世は考へとは大間違ひにて、前記某煙草屋の看板には、折角滿足なる煙草葉に特別四ヶ所に人意的の孔を明けたるを見たり、實に驚くの外なしと云ふべし。此分にては全く煙草(靑蟲の爲)と桑樹(天牛の爲)と蓮根とは孔の明き居るものと信ずるものならんか呵々。

◎鳳蝶蛹化の際に於ける變色に就て

佐賀縣立佐賀農學校　植松小市

本誌前々號昆蟲翁の隨感隨筆中、鳳蝶蛹化の際に於ける變色に關する記事あり、予も此事に關しては早くより疑を抱き、多少實驗したる所あれば、參考の爲に聊か左に記述せんと欲す。予が蛹の變色に就て疑を起したるは、去る三十四年の夏、縣農事試驗場に於て、紋白蝶の蛹が同一飼育箱內なるも、甘藍葉上のものは青く、板面のものは黃褐なるを見たりし時に在り。昨夏偶々鳳蝶の幼蟲を飼育し、數回試みたる結果左の如くなりき。

一、五月三十一日鳳蝶の幼蟲を捕へ來り、シャーレ內に飼育し、四齡に至て飼蟲箱に移したるに、六月十二日金網面に於て蛹化せり。其色彩黑褐に變じて金網色に髣髴たりき。

二、六月一日二頭の烏羽鳳蝶の幼蟲を各飼蟲箱に入る、一箱は茄子苗を栽植したる儘置きしに、六月四日苗莖に凭りて蛹化し、茄子の幼葉と見分け難き迄色彩酷似せり。一頭は箱の天井板に附着せるが、蛹体黃褐色に變じて板色と紛ふ許りなりき。

三、予は上來の實驗にていたく興を覺えたれば、六月八日更に幼蟲四頭を捕へ來りて飼育したるに一頭は斃れ、二頭は金網上に、一頭は板面に蛹化し、何れも前同樣に變色したり。

四、七月上旬二個の飼育箱の內面を各々青紙、赤紙にて張り廻し、青箱に二頭、赤箱に一頭の鳳蝶幼蟲を入れしに、直に蛹化せしが、赤色箱のものは白青に稍赤味を帶びしも赤色著しからず、青箱のものは一頭は青色なりしも、金網面に當れる一頭は黑褐色にして、毫も青紙の影響を現はさゞりしは意外なりき。

五、前試驗に於て意外の結果を現はしたる故、七月十一日更に幼蟲十數頭を普通の飼蟲箱に入れたるに

其蛹化するや復意外なる結果を示したり。

ろは多くは居所に隨て色を變じたれども二頭は金網面に在て猶青色を呈し、他の二頭は板面に在て金網色(黑褐色)を呈したることなり。

要するに、予の試驗も材料鮮少の爲め斷定するに足るの結果を示さゞりしも、鳳蝶が蛹化の際多く變色するは決して否定すべからざるに似たり、而して予は之を以て蛹の保護色なるべきを信ぜんとす。

調

査

新調の明障子や冬の蠅　浮塵子

編者云、豫告し置きし分布調査欄は、玆に調査として生れたり。而して此欄に掲ぐるものは當研究所調査部其責任を有すれば、必ず現品添附のものにあらざれば掲載せず讀者之を諒せよ。

◎愛知縣渥美郡產の昆蟲（蝶の部）

名和昆蟲研究所分布調査部

愛知縣渥美郡昆蟲研究會は同會の事業として、同郡内に於ける昆蟲の分布を調査せんとて、一昨三十五年夏期に於て各町村小學校に依頼し、各校百種つゝを採集せしめて、其調査方を當研究所に依頼し越せり。中には天牛、金龜子、蜻蛉等の珍種も少なからざりしが、牟呂尋常高等小學校小柳津廣三郎氏の手によりてコノマテフ(Melanitis leda, L.)を採集せられたり。該蝶は環紋蝶科に屬し、琉球、臺灣地方には普通なるも、本島には稀にして、岐阜地方にては未だ曾て採集したることなし。今同郡に於ける蝶類の分布採集表を掲ぐれば左の如し。

番號	種名	豐橋町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豊岡村	細谷村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	田原町	野田村	高松村	福江町	清田村	堀切村
一、	アゲハノテフ	二	一	一	二	|	|	一	|	一	一	一	|	一	一	一	二	一	|	二
二、	カラスアゲハノテフ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|
三、	クロアゲハテフ	|	一	二	|	|	|	一	|	一	|	一	一	|	|	一	一	|	|	二
四、	ジャカウアゲハテフ	|	一	|	一	|	|	一	|	|	|	|	|	|	一	一	|	|	|	一
五、	アヲスヂアゲハテフ	一	|	一	三	|	|	|	|	|	一	|	一	|	|	一	一	|	|	|
六、	モンシロテフ	|	二	一	二	|	|	|	|	一	二	一	二	一	一	三	一	一	|	|
七、	モンキテフ	一	一	一	三	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|
八、	キテフ	一	|	|	三	|	|	一	|	一	|	|	二	一	一	一	|	|	|	二

九、ツマグロキテフ	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—
一〇、ヒオドシテフ	一	一	二	二	—	—	—	—	—	二	二	一	—	一	一	—	—	—	—
一一、ルリタテハテフ	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—
一二、ヒメアカタテハテフ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	一	—	—	—	—	—
一三、ヘウモンテフ	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一四、ウラギンヘウモンテフ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一五、オホウラギンスヂヘウモンテフ	—	—	—	一	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一
一六、ミスヂテフ	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—
一七、コノマテフ	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八、ウスイロコジヤノメテフ	—	一	一	三	—	—	—	—	—	—	一	一	一	—	一	一	—	—	—
一九、ヒメジヤノメテフ	—	一	—	一	—	—	一	—	—	一	—	—	—	一	一	—	—	—	—
二〇、ヒカゲテフ	—	一	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	一	二	—	—	—	—
二一、ジヤノメテフ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二二、キマダラテフ	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二三、シジミテフ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—
二四、ヤマトシジミテフ	一	一	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二	—	—	—	—
二五、ベニシジミテフ	—	—	一	二	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二六、ツバメシジミテフ	一	一	一	—	一	一	—	—	一	一	—	—	二	一	一	—	一	—	—
二七、ハナセセリテフ	一	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二八、イチモジハナセセリテフ	一	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	—	—	—	一	—	—

◎愛媛縣產の昆蟲

愛媛縣周桑郡小松町　矢野延能

標本第一號　擬尺蠖蛾科、アケビノキノハガ(Ophideres tyrannus, Guen.)　明治三十六年九月一日夜新居郡御代島果樹園梨果吸收中採集、本年同園に於ける蛾の吸收被害は約九割なりと云ふ。就中此種大部分を占むるものゝ如し。同夜採集十五頭、又十日及十三日の夜同郡氷見村鐘鑄原果樹園に加害中のも

の各二頭を獲、同十月五日夜同郡中萩村に於て、九月中旬以來温州蜜柑を吸害して落果せしむること甚しきを以て、採集を試み數頭を獲たり、同地被害の甚しきは七八割に及べり。キヌカワザボンは稀に害を被むれるを見受け、夏橙も害せらるゝありと云ふ。紀州蜜柑は尚無害なり。此種れ從來縣下各地梨果を害しつゝあり、本年は殊に發生多きが如く、夏梨の如きは各地殆んど無害のものなきに至れり。縣下與居島は從來此蛾乏しき爲め苹果の栽培良結果を得るなりとは、一昨年春季調査したる處なり。新居郡温州蜜柑栽培は近年の創業に屬し、被害は本年始めて見る所にして、曾て著しき落果を見たることなしと云ふ。但上記中萩地方は古來柚柑（柚にあらず）名産地なるが、年により秋季成熟前俄然落果せしむることありと、或は氣候等の爲め、此蛾の發生多き年ありて害を被むりしものならん。幼蟲は通草を食し幼時は帶紫黑褐の天鵞絨色をなし、第五、六關節には各一對の眼狀紋を有し、五齡に及びて綠色に變ず常に頭部を曲げて腹下に隱し、尾端を上げて奇形をなす。

標本第三號、擬尺蠖蛾科、ヒメキノハガ（Calpe sodalis, But.）　明治三十六年九月一日夜、御代島梨果吸收中採集、同日採集數は第一號に比し十分一に過ぎず、又同九月十日鐘鑄原に於ける採集數は一頭にして、第一號の半數に當れり。

標本第四號、擬尺蠖蛾科、ゴガタノキノハガ（Calpe excavata, But.）　明治三十六年九月一日夜御代島梨果吸收中採集、同日採集數は第一號十に對する二なり、鐘鑄原には此種を見ず。此種は第三號に似て少しく大形に、軀躯前翅の裏面及後翅は黃色を帶び翅の外緣の突出部稍圓さを著しき差違の點とす。

標本第五號、擬尺蠖蛾科、ムクゲガ（Lagoptera elegans.）　明治三十六年九月一日夜御代島梨果吸收中採集、同日採集數は第一號の十分一に過ぎず、其他にはまた採集し得ず

標本第六號、地蠶蛾科、シラフガ（Sypna achatina, But.）　同日同上、但し果液を吸ふを見ざるも梨樹の間に飛翔中採集せり。

標本第七號、巴紋蛾科、オホトモヘガ（Nyctipao crepuscularis.）　同日同上、但し第六號に同じ。

標本第八號、巴紋蛾科、オホツマグロクロオビガ（Ophiusa? sp.?）　同日同上、但し第六號に同じ。

標本第九號、豬黃尺蠖蛾科、ヨツモンシヤクトリガ（Niphonissa arida, But.）　明治三十六年九月下旬中萩村柑橘落果多き時に當り、晝間同樹に靜止せるものを採集したりとて送附し來れるものなり。

ヒメキノハガの圖

♂

標本第十一號、纈文蛾科、ホシハマキケムシガ(Procris nigra, Leech.) 新居郡御代島果樹園よ前年より發生し、本年梨の發芽に大害を與へ、六月中旬羽化したるもの丶一なり。

標本第十二號、金龜子科、ヒメダイコクムシ(Onthophagus viduus, Harold.)? 明治三十六年八月下旬新居郡東部に於て甘藍球の腐敗せるもの數株あり、之を取除きたるよ土中より出で、採集せんとせば土中に入り、採り難し。甘藍の腐敗は此蟲害ならんとて當業者より送附し來れるものなり。

調査主任云ふ、標本第二號は挿圖の都合により次號へ廻はしたり。標本第十號は第六號と同種なりとす。此種に於ける白色の斑紋は有するあり有せざるもありて非常に變化あり。標本第十二號は粉碎し居りしを以て、果して眞の姫大黑蟲なりや否やは明言する能はずと雖も、同屬のものなることは明あり。此種は常に腐敗有機物を食とするものなれば、恐らく甘藍の腐敗せしが故に來りしものにて、甘藍を蝕害せしが爲に腐敗せしよはあらざらん。尙充分研究を要すべきことあり。

◎秋田縣仙北郡產の昆蟲(一)

秋田縣仙北郡神宮寺町　富樫明治郎

(鳳蝶科)◉アゲハノテフ二頭、明治三十六年五月十二日及二十九日、神宮寺町畑にて富樫明治郎採集◉カラスバアゲハテフ二頭、同五月二十五日、同上◉ジャカウアゲハテフ六頭、同五月十五日及七月二十一日、同上。(粉蝶科)◉モンシロテフ七頭、同四月廿九日及五月十二日、同上◉スヂグロテフ十四頭、同四月二十七日及五月十二日、同上◉モンキテフ三頭、同五月十三日、同上(內二頭は六月十四日山形縣飽海郡福山河岸にて採集)◉ツマキテフ三頭、同四月廿四日及五月三日、同上。(蛺蝶科)◉ヒオドシテフ一頭、同四月二十六日、同上◉オホハヤバテフ一頭、同四月二十四日、八月二日、同上◉イチモジテフ一頭、同八月七日、同上。(環紋蝶科)◉キマダラテフ一頭、同五月廿六日、同上。(小灰蝶科)◉シジミテフ一頭、同五月十一日、同上◉ベニシジミテフ一頭、同五月十二日、同上。

尿蒲團
椽に干しけり
冬の蠅
(蕪人)

◎東京附近の蝶蛾類

在東京　齋藤忠
中村清太郎

左に掲ぐるは昨年五月より同十月に至る間、西は大森より東北は大宮ゟ、東南は千葉縣千葉郡の一部に於て採集したるものなり。

鳳蝶科　アゲハノテフ、キアゲハテフ、カラスバアゲハテフ、クロアゲハテフ、ジヤカウアゲハテフ、アチスヂアゲハテフ●粉蝶科　モンシロテフ、スヂグロテフ、モンキテフ、ツマグロキテフ●天狗蝶科　テングテフ●蛺蝶科　ヒメイチモジテフ、アカタテハテフ、オホハヤパテフ、ハヤタテハテフ、ウラギンヘウモンテフ、ヘウモンテフ、メスグロヘウモンテフ、ヒオドシテフ、ルリタテハテフ、ミスヂテフ、ホシミスヂテフ、ハヤシミスヂテフ、コムラサキテフ、ゴマダラテフ●環紋蝶科　ジヤノメテフ、ヒカゲテフ、ヒメジヤノメテフ、ウスイロコジヤノメテフ、キマダラテフ●小灰蝶科　ヤマトシジミテフ、アカシジミテフ、ウラナミアカシジミテフ、ツバメテフ、ベニシジミテフ、ウチムラサキシジミテフ、アチツバメテフ●弄花蝶科　イチモヂハナセセリテフ、ハナセセリテフ、クロハナセセリテフ、チヤマダラハナセセリテフ

蛾類にありては名稱不明なるもの多く、玆には分明のものゝみ載せ、不分明なるものは追て報ずべし。

天蛾科　オホスカシバ、セスヂスズメ、コスズメ、ビロウドスズメ、クロクモスズメ、シモフリスズメ、ウンモンスズメ、ホウジヤクガ、クロホウジヤク、ヒメホウジヤク、スキバホウジヤク●纈文蛾科　カノコモンガ●透翅蛾科　コスカシバガ●野蠶蛾科　シンジユサン、オホアチガ●蠶蛾科　カヒコ●蛅蟖蛾科　ウメケムシ、マツケムシ●毒蛾科　キンケムシ、ドクガ、チヤケムシ●擧尾蛾科　サクラケムシ、●赤頭蛾科　ホタルガ、ホタルガモドキ●螟蛉蛾科　キンモンガ●擬尺蠖蛾科　アケビノキノハガ。シロシタバガ、モクメキシタバガ、コキシタバガ●巴紋蛾科　トモヘモンガ、ビロウドトモヘモンガ●梅尺蠖蛾科　ムメシヤトリ、サミダレガ、ユウマダラガ、ウスキヌガ●白尺蠖蛾科　イヌガヤシヤクトリ蛾、●葉捲蟲蛾科　リンゴハマキ蛾、キマダラハマキ蛾、●結桑蟲蛾科　ワタハマキムシ蛾●黑斑葉捲蟲蛾科　ゴマフハマキムシ蛾

◎鳥取縣産の昆蟲

第十二回全國害蟲驅除講習修得　鳥取縣　山田豊藏

一昨三十五年全國害蟲驅除講習會を修業して歸縣するや、孜々として昆蟲の採集ゟ從事せしかば、昨年は稍完全なる標本を裝製し得るに至れり。目下余が藏有せる標本中、名稱を明かゟせる鱗、鞘二目を鈔錄して、大方の參考に投せんとす。

鱗翅目

鳳蝶科　アゲハノテフ、キアゲハテフ、カラスバアゲハテフ、クロアゲハテフ、アチスヂアゲハテフ●蛺蝶科　ルリタテ

ハテフ、ミスヂテフ、ヒオドシテフ、ウラギンヘウモンテフ、ヒメアカタテハテフ●天狗蝶科　テングテフ●粉蝶科　スヂグロテフ、モンシロテフ、モンキテフ、キテフ●蛇目蝶科　コジャノメテフ、ヒカゲテフ、ジャノメテフ●小灰蝶科　ベニシジミテフ、ルリシジミテフ、ヤマトシジミテフ、ウラナミシジミテフ●弄花蝶科　イチモヂセヽリテフ、ハナセヽリテフ●天蛾科　エビガラスヾメ、ウチスヾメ●天蠶蛾科　ヤママユガ●巴紋蛾科　シロスヂトモエガ●梅尺蠖蛾科　ウメシヤクトリガ●螟蟲蛾科　イ子ノスイムシガ●螟蛉蛾科　イ子ノアヲムシガ。

鞘翅目　鍬形蟲科　クワガタムシ、ノコギリムシ●吉丁蟲科　タマムシ、ウバタマムシ●天牛科　クワカミキリムシ、カミキリムシ、ホシカミキリムシ、ノコギリカミキリムシ、トラカミキリムシ●金龜子科　コガ子ムシ、ヒメコガ子ムシ●葉蟲科　サルハムシ、ウリハムシ、キスヂノミムシ●葉捲象蟲科　チトシブミザウムシ、ヒメクロチトシブミザウムシ

◎三重縣阿山郡系統稻作品評會出品の昆蟲

三重縣阿山郡　西岡嘉十郎

當阿山郡第一回系統稻作品評會は昨年十二月十一日より三日間郡會議場に於て開會せられしが、參考品六十余點の中昆蟲に關する出品は實に左の如くなりき。

森林害蟲標本三箱、桑樹害蟲標本二箱、果樹害蟲標本二箱、蔬菜害蟲標本一箱、稻害蟲標本一箱、稻浮塵子標本二箱、稻螟蟲標本二箱、稻蝗蟲標本一箱、害蟲雜類一箱、益蟲標本五箱、自然陶汰標本一箱、以上東柘植村昆蟲研究會出品●分類標本十二箱、玉瀧村同志研農會出品●分類標本十箱、新居村西岡嘉十郎出品●分類標本四箱、東柘植村橋本豐松出品●分類標本二箱、丸柱村竹澤善藏出品●介殼蟲標本一箱、敎育用標本三箱、雌雄陶汰標本一箱、昆蟲寄生菌標本（蠅、蟬、羽衣、等に寄生する菌なり）一箱、及び螟蟲誘蛾燈効力調査表、阿山郡農事試驗場螟蟲發蛾最盛期表、阿山郡螟蟲捕蛾數一日平均累年比較表、褄黑横這、電光横這、鬚丸横這年中經過圖、以上阿山郡役所出品。合計五十五箱六表

◎昆蟲に關する葉書通信（三十七報）

●●●（二二二）遠江の蝶類（靜岡縣、神村直三郎）　予は嘗て遠江の蝶類を本誌第五卷四十三號に報じ其後ギフテフの發生をも報じ置きたり。然るに昨年中又新たに三種の新發見ありたれば、之を報ぜんに第一は日光白蝶なり。これは昨年五月磐田郡光明村光明山上にて同郡富岡農業學校職員生徒の採集せられたるものにして、其一頭を贈與せられたるに正しく日光白蝶なり。第二はヲナガアゲハなり。これは友人永井孫太郎氏磐田郡岩田村に於て自ら採集せられたりとて見せられたるに是れ又實に其蝶なりき。第三

はウラナミシヾミなり。これは十月十九日前記光明山の中腹ょ於て予の自ら採集したるものなり。發生多からぬ種ょして只僅かょ一頭を得たるのみなり。之にて目今遠江の蝶類五十五種となれり。尚探究を重ねなば增加の見込なきにあらず。

●●●（二二二）島根縣園藝展覽會昆蟲の出品（島根縣、田中房太郎） 昨年十一月廿一日より廿三日まで三日間、松江市ょ於て第二回島根縣園藝展覽會を開設せり。其出品中園藝植物ょ關する昆蟲の出品は、島根昆蟲研究會より三十種の害益蟲を各種變態經過の順序に配列し、之に被害植物を添へ各一函ょ納め、一目の下に其眞况を知らしめたり。

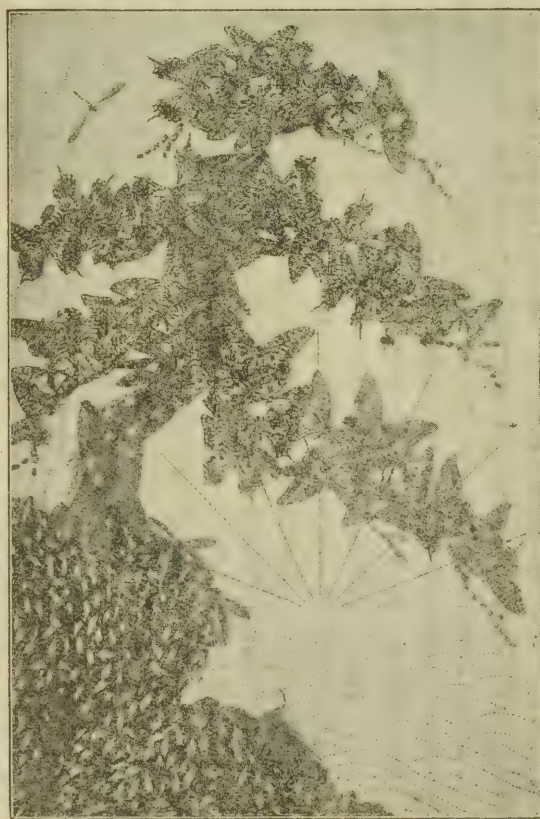
夕日さす
障子のさんや
冬の蠅
（比刀）

◉昆蟲揭示塲記事 （一）

名和昆蟲研究所は從來岐阜縣物產館構內に昆蟲陳列舘を設け、明治三十四年八月以來其縱覽を許せしが、尙今回更に公衆の便利を圖り、本年一月一日より當所門前に昆蟲揭示塲を設け、繼續、臨時、特別の三種に別ちて普通一般の昆蟲及昆蟲に關する各種の事項を揭示し、不知不識の間ょ昆蟲思想の普及を圖らんとす。而して該揭示は可成實物を以てし、小形ょして見難きものには放大圖を添へ、每土曜日に取換ふることゝなせり。今其揭示せしものゝ重なるものは◉昆蟲の七分類法 （一）膜翅類ヤマパチ（二）鱗翅類ギフテフ（三）双翅類シホヤアブ（四）甲翅類カブトムシ（五）半翅類アブラゼミ（六）直翅類カハラバッタ（七）羅翅類ベッカウトンバウは繼續的揭示の一部として、示し、在米名和梅吉氏より此頃送附の蝶蛾摸寫帖、工學士武田五一氏寄贈の外國製昆蟲摸樣付私製葉書を示して、外國ょ於ける昆蟲應用の有樣を知らしめ、此頃長期講習生が調查研究中の稻株中ょ越年の二化生螟蟲、藁稈中に越冬の二化生螟蟲、桑樹ょ於て越冬の枝尺蠖、桑天牛の幼蟲（昨年孵化したるもの及一昨年孵化したるもの）、ウリハムシ（此蟲は日當りよき山腹の雜草中或は石の下等にて越冬をるものなり）等を多數採集して昆蟲越冬の狀態を知らしめ、其他岐阜縣長期害蟲驅除講習生が本年の 勅題ょ因みて製作したる

る装飾的額面等を掲げたり。(此の額は本年の勅題巖上の松に因みて製作したるものなり。巖はコガタノゲンゴラウムシ、笹はタマムシ、苔はアヲザウムシ、松の枝幹はアブラゼミニイニイゼミ、チヤイロコガネムシ、葉はアゲハテフ、波は水棲昆蟲ヒメミヅムシ、舟の帆はクハノシンクヒムシ、旭の光はコメツキムシモドキにて作り、空に舞ふ鶴はカノオバにて英語にてクレエンフライと謂ひ即ち鶴蠅の意、巖上の龜はタガメムシを以て之れに擬せり) 次の圖は即ち其額面の寫眞銅版なり。

◎**女子昆蟲學講習員所感の五六**　是迄當研究所の關係して昆蟲學講習會を開く度に必ず會員よりは赤心を以て、講習中に於ける所感を書せられんことを約せり。夫に對して、或る時期の來る迄は決して他見を許さぬ筈にて、目下當所の大切に保存する所の所感は實に五千余通に達し、紙數一万五千許に及べり。然るに前約を守りて未だ一も所感を世に發表したることなければども、前々號の本誌に記載したる通り、名古屋松操會主催の昆蟲學講習會を以て女子に對するの嚆矢とすれば、其所感は如何なるものにや、是非發表せよとの申込續々ありければ、特に今回に限り、執筆者の姓名を省きて其五、六を左に掲載す。因に記す、教科書には薔薇の一株昆蟲世界を用ひ、又天然教場即ち野外實習に重きを置けり。

勅題に因める裝飾的額面の圖

(一)頃は明治三十年あまりむとせのなが月廿日あまり七日と云ふにまとゐをひらく式をなし、神なし月の四日と云ふにそのまとゐは

閉ざされにき。今左に其間に感ぜし一偏をひらとき言葉のまゝを示し侍らむ。

一、私は此昆蟲學の一端を學びてより、一種の感にうたれし如く心も大に一變し、此後一層奮發して、如何にもして此昆蟲學を研究致したく思ふなり。二、實に我が國は八大强國の内に數へられたりと雖も、まだ學問上よりこれを見ば歐米各國とは雲泥の差あり、故に未だ曾て外國人（支那韓國を除くの外）の日本へ留學に來りしと云ふことはきかず、又我國に維新前に於て昆蟲學者の出でしと云ふ事をも聞かず、況や女子にして昆蟲學者なりと唱へられし人は明治の御代の今日に至る迄未だ曾て聞かざる所なり、聞かざるは實に殘念の至りならずや。三、私此昆蟲學を學ばざりし前は草木に蟲のとまれるを見れば、害蟲益蟲の差別なくみな捕へ殺せしを、先生の御熱心なる御講話を承りてより、害蟲はとり殺し、益蟲は保護すると云ふ念かたく起れり。四、其他夜半の頃、或は野外を散歩するの時、常は嗚呼天然の好景色や、あゝ天然はよきものにやと眼に映ずるものを以て興となせしを、此頃より今それに一段の興味をそへしは、蟲の聲何となく耳に入りて聞きすてがたく、如何なる蟲のなきけるにや、そを捕へんと追ひつ追われつ兼ぬるも、今一層の愉快なり。五、私は先生の御趣旨の如く天然物を非常に愛するため、天然の景色を寫生し、且卒業後（本年四月より）一層野外に出でゝ植物を採集し、又は人々より頂きなどして植物の標本を作り、又は種々の草木を植へて日々樂み居るも、其草木に附着せる蟲の種類も數多し、其數多き蟲の名も知らず、況や其害蟲益蟲の區別わからず、故に今少し其草木に附着せる蟲の名及び害蟲益蟲の別、驅除法などの簡單に記しある書物は如何なる書物がよきかと云ふことを御伺ひ申さんと思ひ居るため、此所感にかくは記したきぬ。六、私は採集せし昆蟲五十種程あれば、これを此頃承はりし七分類のうちにあてはめたりしが實に面白くありき。去る四日、先生にノコギリバチの幼蟲を御覧に入れてより、毎日薔薇の葉を一片づゝ甑中へ入れて、此幼蟲が蜂となりて産卵する迄飼育する心組なれば、これも一つは練習なれば悉しく書きて御送り申上ぐるになん、其他椿にも油蟲をりし故、蟲眼鏡にて子をうむ所をも見たりき。七、私は此學を學ばざりし前はカマキリ又は毛蟲の類を見れば身の毛もよだつ程恐れ居りしに、此頃よりは毛蟲を掌の上にのせなどする樣を母等は之を見て、今迄毛蟲に恐れ居りしものが此頃より掌にのせて平氣にて居るは、實に面白きことなりと云ひて常に笑はるゝなり。八、私は在校中より、夜は圓滿なる天上の月を以て最も親しき友となし居りたり、故に此後も天然の昆蟲を以て坐右の友となさんことを深く心にちかひたり。

（二）嗚呼したわしきかもなつかしきかも慈愛深くましまます母君は、今を去る七年の昔になが〱のいたづきもて、遂に不皈の客とは旅立たせ給ひぬ。時に三十年九月上旬なり。われはまだをさなくて小學校の生徒たりき。杖よ柱よとたのみ參らす母にしも別れて、これよりは何をかたのみとしてをみなの本分を全うせんと、行末を思へばいとゞ胸ふさがりて涙のはるゝひまもなし、あるは師の君に、はた、はらからの君に慰められ、心をとりなほしたる事もありにき。しかとも覺えざれども九月下旬にてありけん、庭内の我が愛すグミの木に優曇華は咲きけるとかや、隣家の奥樣と某方の下女との申すには、三千年に一度咲く花にして吉凶のしるしとかや、あ

名古屋市松操會主催女子昆蟲學講習會員紀念寫眞

われ吉にてあれかしとは言われにき。われもをさな心にもやよ憂き花にてもあるかな、吉凶いづれが來るや知られども吉にてあれかしと思へど、いづれも來らずして過ぎ去りにき、吉凶の來らざるもげにをかし。去る廿七日の御講話を承りクサカゲロウの卵なるにて、さる奇花にてあらぬを承りて前非を悔いたり。もしわれにして御講話を承はらずてありければ、此後子女を教養する曉にかゝるいまわしき事申すらぬ、さる事教へなば大に教育の方針にたがふべし。嗚呼うれしきかなうれたきかも

　むかしよりきかさなへしうどんげもくさかげろうの卵なるとは

われ優曇華を始めて見しも九月下旬、又彼の奇花にはあらでクサカゲロウの卵たるを承りしも九月下旬、年こそかわれ日のほゞ同じきはいかなるにしなるらめ云々。

(三)前略、されど定めて六つかしき事のみ多からんとひそかに案じをりしにもかゝはらず、バラの一株につきての御話は思ひの外にたやすくして、しかも其中に昆蟲學の昆蟲學たるところの意味解しやすく、趣味はさながら泉の如くしてつくるをしらず、中にも優曇華の花の御話の如きは、今までの深き迷信を一時にさりたる事のうれしさよ。此他にかぞへきたれどはてしなけれど、殊に終りの一段落は一層の愉快を覺へ、其後野外などにてとりきたりし蟲は一々分類にして樂しみつゝ

　蟲のさまきゝにし日より庭になく聲さへいとゞなつかしき哉

又野外實習のをり

　ひろき野におなじ學ひの友どちと蟲をえらぶも面白きかな

(四)前略、講師の君を先生としたるありがたさよなど思ひましつゝ蟲をとるに、面白きことかぎりなし。かくて草むらの中よりとび

出す蛙と蟲かと思ひ、追ひしこと度々なりければ。

　かりくらす蟲に心をうばはれてとぶ蛙にもうちまどひつゝ

實に短期の講習なりしかど、身にうけし利益は實に多し。毎週の土曜日には植物を採集にゆくなれば、蟲のことを承りては如何で之をさることをおこたらむや、數多さりてはげみつとめむ、あゝたのしく且利益多き講習會なりしよ。

（五）　もゝちゝの蟲によそへし敎こそよにあるかきりわすれざりけれ

（六）前略、さて己研究の足らざりしためこの程までは昆蟲といへるもの目に見耳にきゝつゝもさほど心の波打らすることもあらざりしに、今は學びの道の好侶伴となり家庭教育の好材料となりて、又己等が物學ぶときより永く親友とせる天上の月の外に新に一つの親友を增したる心地して、うれしき事かぎりなし。

　きのふまであはれと聞きし蟲の音もけふは親しき友のよびこゑ

かくて名和先生のかゝる昆蟲のことどもにつき、世の人の遠く及ばざる研究をなし給へる御心のもとは、たゞ御祖父君の御心をよろこばしめんと思ひたまへる御孝心に外ならじ。あゝかゝる心掛は誰しも常にあらまほしきものなり。世の中に務むべきことあまたあれど、歸する所はたゞ父母の心をやすむるより重なることはあらざるべし。おのれらも常に心掛けて實行すべき事にこそ。

（七）前略、いとも有益なる御高説を拜聽いたし、御かげを以て昆蟲世界の大要を知り、遂には宇宙の哲理の自然なると人情の趣味も解し得て處世の方針も推理いたし候、なを其上理科教授の手術もおぼへ嬉しく御禮申上候。

　蟲の音をさみしきものとうたひしに蟲とむつみてわらふけふ哉

◉松村松年氏理學博士の學位を受く

札幌農學校教授松村松年氏は今回昆蟲に關する論文を提出して、十二月廿六日理學博士の學位を受けられたり。本邦に於て昆蟲を以て博士の稱號を得たるは、氏を以て嚆矢とすれば、十二月廿八日の官報紙上に掲載せられたる、論文審査の要旨を轉載して、洽く讀者に報ずることゝなしぬ。

　北海道士族正七位　松　村　松　年

右、論文を提出して學位を請求し、東京帝國大學理科大學教授會に於て、其大學院に入り定規の試驗を經たる者と同等以上の學力ありと認めたり。仍て明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條に依り、茲に理學博士の學位を授く。

論文審査の要旨　松村松年の理學博士學位請求の爲提出したる自著論文十三種あり、請求者は昆蟲學を專攻する動物學者にして、右論文は孰も皆該學に關す、今逐次之を審査するに

第1、A Summary of Japanese Cicadidae With description a new species. は即ち本邦産蟬類九篇十五種（内1

種は新なり）を取纏め記載したるものにして、其多數に就き、習性上及び分布上自家の經驗を附記せり。

第二、On two new species of phloeo thrips. 是は稻作の害蟲として知られたる彪蟲一名薊馬に二種を區別し、兩ながらこれを新種として名を命じ、且つ記載したるものなり。

第三、Insect collected on Mount Fuji. 是は曾て著者が富士山に於て採集したる昆蟲の分類的目錄なり。中に同定の疑はしきもの或は新種ならんかと思考せられたるものには評說を加へ、又蜻蛉科中新種として記載したるもの二あり。

第四、Pear-borer (Nephopteryx rubrizonella, Rag.)是は梨果に有害なる蠹蟲一種の諸發生期に於ける形狀を記し、其豫防法を示したる一短篇なり。

第五、Uebersicht der Fulgoriden Japans. 是は本邦產白蠟蟲科の諸種を枚擧したるものにして、其數三十八ありて二十三屬に分屬す。中四新屬及二十二新種を含む。既知の諸種には其異名、參考書產地等を揭ぐるに止めたるも、新屬新種には適當なる學術的徵候の記載をなせり。

第六、Ueue japanische Microlepidopteren. 本邦產小蛾類の學術的性狀を記述したるものなり。

第七、Zwei neue paläerktische Jassiden-Arten. 歐洲浮塵子の二新種を記述す。

第八、Die schädlichen Lepidopteren Japans. 是は本邦に於ける有益植物に害を加ふる蝶蛾のことを記述したる一篇にして、本邦鱗翅類全般に關する著述目錄、竝に有害蝶蛾百五十三種の學名異名俗名分布等と共に幼蟲の食害する植物名をも揭出したるものなり。

第九、Ueber die Priorität des Jassidens Ingubris Sign. 歐洲產浮塵子一種の學名に誤謬あることを論じ、該種の性狀を記したるものなり。

第十、Monographie der Jassiden Japans. 是は本邦浮塵子科の分類學的研究の結果を記したるものにして、揭出の屬數十四（内二は新なり）、而して種數は四十一（内二十九新なり）、此篇は浮塵子種屬の知識を增加するに於て肝要の一篇にして、第五號白蠟蟲科に關する一篇と共に、最多く新規調査を要したるものなること顯然たり。

第十一、害蟲驅除全書。第十二、日本昆蟲學。第十三、日本害蟲編の三種は、孰も邦文を以て綴りたるものにして、所記の事項は自家調査に基く所多しと雖も、亦編纂的性質を具ふるの點少なからず。第十二の如きは、本邦に於ける該種著述の嚆矢とも云ふべく、而して三編共に吾邦の昆蟲學者及び農林業に從事するものに裨益あること疑を容れず。

之れを要するに、松村松年は從來已に昆蟲學の研究に於て功績あるものにして、其研究及び論述方法の諸論文に現はるゝ所より見るに、請求者の學力は理學博士の學位を授くるの資格あるものと認定す。

◎三十六年の昆蟲學講習會一覽　當昆蟲研究所事業の一として、昨三十六年中に開催せし各種の昆蟲學講習會は、實に左表の如く都合十二回にして、此總人員九百七十九名ありき。

開會月日	會期	會場位置	催主	會名	會員種別等	人員
從三月一日 至三月十八日	十八日間	岐阜縣岐阜市京町	名和昆蟲研究所	第十五回全國害蟲驅除特別講習會	一府十七縣	四八
從四月十日 至四月廿三日	十四日間	岐阜縣岐阜市京町	岐阜縣	第六回岐阜縣害蟲驅除講習會	實業者	一八
從七月十五日 至七月十九日	五日間	岐阜縣養老郡高田町	岐阜縣養老郡農會	第二回害蟲驅除講習會	教育者實業者	九一
從八月一日 至八月十四日	十四日間	岐阜縣岐阜市	名和昆蟲研究所	第十六回全國害蟲驅除講習會	一府二十二縣	九七
從八月十九日 至八月廿八日	十日間	京都府天田郡福知山町	京都府天田郡農會	昆蟲學講習會	教育者實業者	一〇三
從八月廿三日 至八月廿七日	五日間	山梨縣甲府市	山梨教育會	昆蟲學講習會	教育者實業者	七五
從八月廿九日 至九月二日	五日間	山梨縣北巨摩郡韮崎町	山梨教育會	昆蟲學講習會	教育者實業者	一〇七
從九月四日 至九月八日	五日間	山梨縣西八代郡市川大門町	山梨教育會	昆蟲學講習會	教育者實業者	一一三
從九月十日 至九月十四日	五日間	山梨縣東山梨郡日川町	山梨教育會	昆蟲學講習會	教育者實業者	五九
從九月十六日 至九月二十日	五日間	山梨縣南都留郡谷村	山梨教育會	昆蟲學講習會	教育者實業者	三〇
從九月廿一日 至九月廿五日	五日間	山梨縣東山梨郡七里村	山梨實業青年會七里村部會	昆蟲學講習會	實業者	五五
從九月廿七日 至十月四日	二日間	市立名古屋高等女學校	松操會	女子講習會昆蟲學科	教育者學生	一八三

計十二回九百七十九名。從卅一年至卅五年、合計六十四回、四千五百十四名。總計七十六回、五千四百九十三名。

（備考）名古屋市の女子講習は二日間なれども宿題等を與へて特別研究を爲したるを以て自から短期講習の性質に屬せり。

◎本年に於ける害蟲發生の豫測　害蟲の大發生は、其年の天候により、敵蟲との均衡、黴菌との關係等により左右せらるゝものなれば、今茲に豫言する能はずと雖も、其越冬するもの多ければ、從て翌年に發生の多きは免るべからざるなり。而して彼等は、冬期間は敵蟲黴菌等の恐れ尠なく、彼等の越冬は夏季に於けるよりも却て安全なるものなり。如何とあれば、彼等は敵蟲と黴菌を除かば如何なる寒暑に遇はしむるも、容易に死すべきものにあらざればなり。之れ恰も吾人が夏秋の候に於て傳染病

の爲めに脳まさるゝも、冬季は是等の憂なきが如し。而して現今諸害蟲越冬の狀態を見れば、螟蟲は藁稈中又は刈株中に潜伏せるもの實に夥しく、浮塵子は雜草等の中に、守瓜は雜草又は石下に、夜盗蟲の蛹は土中に、姫象鼻蟲は枯枝中に、枝尺蠖は平然として桑樹に止まり、其他何れの害蟲も一として多からざるはなし。是れ當所が毎年行へる冬季採集の經驗によりて明なり。特に甚しきは枝尺蠖にして、一樹能く數十頭を捕獲し得べし。今より之が注意をなさゞれば、其期に及んで如何とも成す能はざるに至るべし。抑も害蟲の驅除豫防は、冬季農家の閑散なる時期に於て行はざれば、充分其効果收むる能はざるなり。本年の害蟲は、今より之が豫防の準備をなさゞれば、尙昨年に比し決して尠なからざるべし。

●年賀狀と昆蟲　本年各地より、當昆蟲研究所へ贈られたる年賀狀中昆蟲に關するものを見るに之を昨年に比すれば稍見劣りたる感あるも、中には又優秀のものも少なからず。今其中の數點を披露すれば左の如し。

京都府竹野郡蒲田愛之助氏の、蜻蛉が稜黒横這を追ふ寫生圖は、筆力健致にして、其意のある所、尙此外にありと思はる●東京市小山彰氏の、龍蝨の雌雄が水中に戯るゝ圖は、筆力、意匠共に妙なり●愛知縣西加茂郡牧野敏太郎氏の、蠶兒が桑葉を恭賀新年と刻蝕した處、中々面白し。蠶兒の畫様は少しく拙なるも、年月日を以て斑紋及環節を作りたる又妙か●山口縣小田勢助氏の、巖上の松に蟬を止らしめ、和歌を添へたる一筆がきは、一寸面白きも、尙少しく念を入れられたきものなり●山梨縣武藤辰五郎氏の、紫色刷稻福俵●宮崎縣則松松太郎氏の、一筆がき蜂の墨畫は、それのみにては物足らぬ心地せり●島根縣安達蝗畔氏の、蜻蛉に瓢蟲を畫き、俳句を添へたるは、感服は出來ず。寧ろ滑稽とやいはまし●宮城縣加藤久之助氏の、將來一層蟻蚜の御交際を祈りたてまつり候と書きしは、昨年和田恒作氏が幾久しく蟻蚜の御愛顧を願ふと書きしによれりと雖も、健筆を以て岐阜蝶の模様を畫きしは、確に新意匠あるを見る●千葉縣後藤新左久氏の、謹賀新年に蟲讀み込みの俳句は妙なり●神奈川縣西川豐次郎氏の、益蟲唱歌●長野縣清水藏氏の本邦昆蟲學發達の楷段は、其儀別に掲載したるを以て、玆に言ふの必要なきも、清水氏のそれは、文章と文字の排列に少しく注意したらんには更に良なるべし●東京市寒川陽光氏は、當所の年賀狀中の「潜みにし淵よりいでゝたつのごと雲井に昇るあきつ蟲かな」に對し、「たつのごと雲井にのぼる秋津蟲その蟲のごと昇りませ君」と返し●静岡縣吉野寅之助氏は、小學兒童が氏の考案に係る稻莖切鎌を使用しづゝある圖を入れたるは、其効用を知らしむるに足るべし●埼玉縣櫻井倚畊氏の和歌、又可なるべく、其他幾多の昆蟲私製葉書あれども、多くは普通賣品の印刷物なれば玆に略す。

年賀狀の一

謹賀新禧

明治三十七年一月一日

神奈川縣中郡農學校內
西川豊次郎

益蟲唱歌

ト調ニ拍子　（假ニ鐵道唱歌之／譜ニ合ハス時ハ）

	1•1 1•2	3•3 3•2	1•1 1•6	5• 0	6•6 5•6	1•1 3•3	2•2 1•2	3• 0
	一 二 一 二	一 二 一 二	一 二 一 二	• 一	一 二 一 二	一 二 一 二	一 二 一 二	一
一、	クサキノ	エダハニ	ノボリキ	テ	フタツノ	オーノヲ	フリカザ	シ
二、	わーかき	きのめや	そさいに	は	ごーまを	ちらせる	あぶらむ	し
	5•5 5•5	5•5 6•5	3•1 2•3	2• 0	1•2 3•3	2•2 5•5	3•3 2•2	1• 0
	一 二 一 二	一 二 一 二	一 二 一 二	一	一 二 一 二	一 二 一 二	一 二 一 二	一
	ミガマヘ	ケンゴノ	カマキリ	ハ	ガイチウ	ノガサズ	トリクラ	フ
	こーれを	さりくう	てんさう	は	つばさに	ほーしが	ななつあ	り

一、草木の枝葉に上り來て　二つの斧を振り翳し　身構堅固の蟷螂（カマキリ）は　害蟲逃さず捕り食ふ

二、若き木の芽や蔬菜には　胡麻を散らせる蚜蟲（アブラムシ）　之を捕り食ふ瓢蟲（テントウ）は　翅に星が七つあり

三、小糠の如き蜂ありて　稻を害する螟蟲（ズイムシ）や　イチモジセセリに已が子を　宿して斃す寄生蜂（ヤドリバチ）

四、咲けば慶事の兆さす　不思議に思ひし優曇華（ウドンゲ）は　ウスバカゲロウの卵にて　蚜蟲（アブラムシ）食ふ蟲ぞかし

五、昆蟲の中でも益蟲は　害蟲驅除の味方なり　益蟲保護を忘るなよ　益蟲保護を忘るな

年賀狀の二

恭賀新年

明治卅七年一月一日

長野縣　清水藏

最近の昆蟲學は如何にして發達し來りしか而して之れが最終の目的を達するに至るは何れの日ぞや

明治卅年ウンカ大に發生して稻に大害を被らしめしより世人漸く害蟲の畏るべきものたるを知るに足れり。

各地に昆蟲學害蟲驅除等に關する講話會演說會等大ひに開かる

昆蟲に關する書物雜誌の發刊　短期昆蟲學講習會起る

全國害蟲驅除講習會の開催　昆蟲研究會各地に起る

第一回全國昆蟲展覽會

昆蟲學者ノ輩出

第五回內國勸業博覽會

昆蟲學普及して眞正の害蟲驅除行はる

此の時日をして一時も速かならしむるは我々昆蟲學研究者の責務ならずや

◉滑稽昆蟲學　本誌には常に鹿爪らしき事のみ書くものから、岐阜縣東濃の澄心と云へる人より左の如きものを寄せられたるまゝ、お笑ひ草までに茲に記載することゝなりぬ。

面白き昆蟲　　東濃　澄心

予は常に酒を好まぬを、元旦なりとて強らるゝ屠蘇に醉ひ、左の如き昆蟲を發見せり

○背蟲　姿勢に注意せぬ小學兒童等を好むものにして、老熟すれば猫の一種に化すと云ふ。

○火蜂　お蜂、汁蜂、饂飩蜂等其種類頗る多し。中にも火蜂は廣く人に愛せらるゝ益蟲にして、本邦の習慣として來客ある時は其席に出さるゝを常とす。特に煙草蚤とは親密の關係を有し、多く共同生活をなす。

○煙草蚤　酒蚤と同じく小兒には少く、大概中年以上のものに寄生する害蟲なり。近年法律を以て頻りに此蟲の繁殖を驅除豫防すれども、容易に其効を奏せず。此蟲より咳餅、喘息餅を作れども、醫者の外歡迎するものなし。

○腐蠅　不潔に生ずる蟲なり。ペスト、コレラ、赤痢病等を忌む人は、是非此蠅の驅除に務むべし。外に位蠅とて人に尊敬せらるゝものと、差蠅とて裏長屋の人に憎まるゝものとあり。

○茶碗蟲　冬期暖かなる所を好み、鷄には一般に害あるも、常に人の喜んで玩味する有用蟲なり。予は尚此外種々なる昆蟲を發見せしも、くだ〳〵しければ茲に略す。

◉三十六年三重縣に於ける姫象蟲被害反別　害蟲の驅除をして完全ならしむることは、其敵蟲との關係、驅除の困難等の爲め、到底なし得べからざる處なるも、獨り姫象蟲に於ては殆んど之を全滅せしむることを得るものなり。如何となれば、彼れの凡ては桑樹の枯枝中に越冬するものなれば、冬期其枯枝を切り取り直ちに之を燃料となさば、桑樹の發芽を善良ならしむるのみならず、一擧して勦滅せしむることを得べし。而して此姫象蟲は各地何處にも發生して、發芽の際非常なる害をなすものなれば、此期を逸せず充分驅除を勵行せられたきものなり。昨年三重縣に發生したる被害反別は左の如しと、同縣西岡嘉十郎氏は報ぜり。

郡名	被害反別	郡名	被害反別	郡名	被害反別	郡名	被害反別
桑名郡	九町八反歩	阿山郡	十三町九反歩	鈴鹿郡	五町歩	志摩郡	四反歩
三重郡	八十町九反歩	南牟婁郡	三町九反歩	一志郡	五十五町一反歩		
安濃郡	八十一町八反歩	北牟婁郡	九反歩	多氣郡	二百十三町歩	合計	七百廿二町二反歩
飯南郡	二百十九町九反歩	員辨郡	一町歩	名賀郡	六町六反歩		

尙同縣の姫象鼻蟲に就ては、昨年十二月二十八日の官報に、左の如く掲載せられたり。

害蟲の發生　三重縣各郡の桑園に發生したる姫象蟲被害は、追年增加し、今日までの取調に依れば、其被害區域殆んど管內全部に渉り六百九十二町五反の多きに達せり。目下該蟲の蟄伏期を利用し、驅除督勵中なる旨、同縣知事より本月二十二日報告ありたり。

◉聖路易萬國博覽會出品の昆蟲標本　當昆蟲硏究所より聖路易萬國博覽會へ、害蟲標本二十函、天蛾類標本四函、瓢蟲標本一函、寄生蜂標本五函、計三十函を出品することは、旣に本誌前號に於て報導し置きしが、右の內害蟲標本は四十五種にして、各種類每に被害植物を添へ、卵より成蟲に至る經過の順序を示し、且つ之に敵蟲をも添へたり。天蛾類は十二種にして、是亦幼蟲、蛹、成蟲を收め食草を添へたり。瓢蟲標本は二十四種にして、寄生蜂は二百十種を收めたり。而して是等標本は博覽會閉會後、同國ナショナル、ミユーゼアムに寄附することゝせり。今其害蟲標本の蟲種を掲ぐれば左の如し。

第一函　イ子ノズイムシ、ツマグロヨコバヒ◉第二函　イ子ノアヲムシ、イチモジハナセヽリ◉第三函　イナゴ、キリウジカガンボ、イ子ノオホアヲムシ（以上稻）。◉第四函　シンムシ、クハハマキムシ、アヲハマキムシ◉第五函　トゲシヤクトリ、エダシヤクトリ◉第六函　クハケムシ、クハノシロケムシ◉第七函　キンケムシ、ハラアカシロガ、クハゴ（以上桑樹）。◉第八函　チヤケムシ、チヤノシモフリシヤクトリ、ミノムシ（以上茶樹）。◉第九函　アハノヨタウムシ（粟）、エンドノキリムシ（豌豆）◉第十函　モンシロテフ（油菜）、ウラナミシジミテフ（藊豆）◉第十一函　ツマキンガ、キアゲハテフ（以上胡羅蔔）◉第十二函　タバコノアヲムシ（煙草）、ヒメアカタテハテフ（牛蒡）◉第十三函　リンムシ（棉）、アヰノズイムシ（藍）◉第十四函　アゲハノテフ、クロアゲハテフ（以上蜜柑）◉第十五函　ホシハマキケムシ（梨）、ウメシヤクトリ、ウメケムシ（以上梅）◉第十六函　イラムシ（柹）、タケケムシ（竹）◉第十七函　マツケムシ（松）、ヒオドシテフ（榎）◉第十八函　サクラケムシ（華樹）、サラサモンガ（櫟）◉第十九函　クリケムシ（栗）、アヲスヂアゲハテフ（樟）◉第二十函　ハンノキケムシ、オホアヲガ（以上赤楊）◉第廿一函　セスヂスズメ（里芋）、エビガラスズメ（甘藷）、スズメガ（山芋）◉第二十二函　シモフリスズメ（桐）、モモスズメ（桃）、ウチスズメ（柳）◉第二十三函　コスズメ（葡萄）、クロスズメ（松）、オホスカシバ（梔子）◉第二十四函　メンガタスズメ（胡麻）、ベニスズメ（月見草）、ヒメハウジヤク（牛皮凍）。

●官報紙上に現はれたる害蟲の發生　昨年に於て官報紙上に現はれたる全國害蟲發生の報告は、曾て本誌に掲載せしが、其後の分を擧ぐれば左の如し。

○害蟲發生　京都府外三縣より、害蟲發生に關する報告の概要左の如し（九月十五日官報）

京都府　中郡吉原村外十一村乙訓郡大枝村及加佐郡岡田下村の水稻へ浮塵子發生せり（本月十二日附）●新潟縣　北魚沼郡千田村大字湯集の稻田に浮塵子發生せり（本月十一日附）●千葉縣　君津郡木更津町外六村及安房郡全町村の稻作に浮塵子發生せり（本月十四日附）●岐阜縣　安八郡北平野村、不破郡赤坂町外三村山縣郡山縣村武儀郡富野保村及揖斐郡鶯村外十一村の稻作に浮塵子發生せり（本月十二日附）

○害蟲發生　京都府及兵庫縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（九月二十一日官報）

京都府　北桑田郡宇津村の稻作に浮塵子發生せり（本月十五日附）●兵庫縣　津名郡來馬村に苞蟲、養父郡八鹿村宿南村及城崎郡各町村に浮塵子孰も稻作に發生せり（本月十四日附）

○害蟲發生　兵庫縣外二縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（九月廿三日官報）

兵庫縣　宍粟郡西谷村の稻作に浮塵子發生せり（本月十五日附）●新潟縣　中蒲原郡新飯田村外七村に浮塵子發生蔓延の兆あり（本月十五日附）●茨城縣　結城郡結城町外六村の稻作に苞蟲發生せり（本日十七日附）

○害蟲發生　（九月二十五日官報）

京都府　紀伊郡下鳥羽村外三村の稻作に浮塵子發生の旨同府知事より報告あり（本月十七日附）

○害蟲發生　兵庫縣外三縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（九月廿九日官報）

兵庫縣　多紀郡北河内村及多可郡各町村の稻作に浮塵子發生せり（本月十八日附）●群馬縣　佐波郡上陽村芝根村の稻作に浮塵子、邑樂郡渡瀨村の稻作に葉捲蟲發生せり（本月十八日附）群馬郡九惣社村、塚澤村の稻葉に葉捲蟲發生せり（同十九日附）北甘樂郡高瀨村外四村の稻作に葉捲蟲發生せり（同廿一日附）●長野縣　西筑摩郡開田村の稻作に苞蟲發生せり（本月十八日附）●埴科郡坂城村の稻作に浮塵子發生せり（同廿一日附）●德島縣　名東郡齋津村大字南齋田浦村の稻作に浮塵子發生せり（本月廿一日附）

○害蟲發生　神奈川縣外四縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（十月二日官報）

神奈川縣　鎌倉郡深澤村の稻作に浮塵子發生せり（九月廿六日附）●巖手縣　二戸郡斗米村の粟作に粟地蠶發生せり（九月廿五日附）●青森縣　南津輕郡五鄉村大字相澤字下相澤の粟作に夜盜蟲發生せり（九月廿三日附）●石川縣　珠洲郡宮崎村本郎村の稻作に浮塵子發生せり（九月廿六日附）●大分縣　大分郡東大分外二町八村直入郡岡本村外三村、北海部郡東大在村外二村、下毛郡上津村外四村、西國東郡岬村外三村、速見郡御越町外一町二村、大野郡上井田村外一町三村、宇佐郡北馬城村外四村、玖珠郡森町外三村日田

郡三芳村外一町七村の水稻に浮塵子孰も發生せり（九月廿五日附）

○害蟲發生　京都府外四縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（十月八日官報）

京都府　與謝郡加悅町外一村加佐郡有路下村河守村及船井村摩氣村の稻作に浮塵子發生せり（九月廿八日附）◎群馬縣　利根郡水上村粟畑に夜盜蟲發生せり（九月廿九日附）◎山梨縣　南巨摩郡富川村增穗村東山梨郡七里村中巨摩郡貢川村、常永村御影村の水稻に浮塵子發生せり（九月三十日附）◎廣島縣　沼隈郡千年村高田郡船佐村の稻作に浮塵子發生せり（十月廿九日附）◎鹿兒島縣　始良郡福山村の粟作に粟地蠶發生せり

○害蟲發生　東京府外三縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（十月十三日附）

東京府　西多摩郡調布村に浮塵子、南葛飾郡新宿町外十一村に螟蟲孰も稻作に發生せり（十月二日附）◎茨城縣多賀郡高岡村の稻作に螟蟲發生せり（十月三日附）◎山梨縣　東八代郡英村錦村西代郡大河內村の稻作に浮塵子發生せり（十月二日附）◎德島縣　那賀郡羽の浦村大字中庄村字池の上に於て田一段七畝一歩の稻毛に「ムクゲムシ」發生し抽穗の儘結實に至らず收穫皆無の現況を呈せり

○害蟲發生　京都府外五縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（十月十五日官報）

京都府　愛宕郡岩倉村葛野郡川岡松尾梅ヶ畑三村稻作に浮塵子發生せり（十月八日附）◎神奈川縣　足柄上郡金田村外四箇村の稻作に浮塵子發生せり（十月十二日附）◎三重縣　北牟婁郡赤羽村船津村の水稻に稻熱病及多氣郡相可村外八箇村の水稻に浮塵子發生せり（十月十日附）◎茨城縣　那賀郡山方村の粟作に地蠶發生せり（十月九日附）◎山梨縣　中巨摩郡南湖村外一村の稻作に浮塵子發生せり（十月十日附）◎滋賀縣　蒲生郡玉緒村日野町野洲郡祇王村の稻作に浮塵子發生せり（十月十日附）

○害蟲發生　神奈川縣外三縣より害蟲發生に關する報告の概要左の如し（十月廿六日官報）

神奈川縣　足柄下郡上府中村の稻作に浮塵子發生せり（十月十九日附）◎山梨縣　北巨摩郡神山村及清哲村の稻作に浮塵子發生せり（十月十五日附）◎滋賀縣　栗太郡物部村の稻作に浮塵子發生せり（十月十九日附）◎大分縣　北海部郡神馬木村大志生木村の粟作に夜盜蟲發生せり（十月十五日附）

◎特別研究生と證明書授與　當所の特別研究生規定に基き、一ヶ月の豫定を以て入所したる香川縣村上政吉、岐阜縣伊藤茁次郎の兩氏は、何れも昆蟲學全般に渉り、熱心に研究せられたれば、村上氏は昨十二月廿七日、伊藤氏は同廿九日に證明書を授與したり。之によりて當特別研究生規定を設けてより、證明書を與へたるものは總て三名あり。而して目下入所中の研究生は三名にして、皆晝夜を別たず熱心に研究中なるが、尙續々申込みもあり、或は已に許諾したるものさへあれば、漸次增加する都合なるが、希望者は此際至急申込まざれば、當分滿員となるに至るべし。

◉第一回詩歌俳句懸賞募集當選者　今回當所に於て懸賞募集したる詩歌俳句の當選者住所氏名は左の如し。

（詩）京都府南桑田郡千代川村、八木助次郎君、雅號　半風隱士。（歌）靜岡縣磐田郡岩田村、神村直三郎君。岐阜市櫻町、雄山あや子君。（俳句）（人）岡山縣上房郡上水田村　竹中藤治君、雅號　竹堂。（地）長野縣松本新橋、上原良三郎君、雅號　三川。（天）岐阜縣可兒郡春里村、野村兼九郎君、雅號　天蟲。

◉昆蟲に關する郡市豫算額　卅六年度に於ける岐阜縣郡市勸業費豫算額中昆蟲に關するものは。（羽島郡）害蟲驅除費補助金壹百五拾圓。（養老郡）昆蟲學會補助費金參拾五圓。（揖斐郡）昆蟲學會補助金拾五圓。（山縣郡）害蟲驅除豫防費金貳拾圓、昆蟲研究會補助金拾圓、害蟲驅除講習生補助金六圓。（武儀郡）害蟲驅除講習補助金拾圓。（加茂郡）害蟲驅除講習生補助金九圓なり。尙は昆蟲に關する町村豫算額の合計は壹千四百拾六圓〇貳錢壹厘なりと云ふ。

◉水曜昆蟲談話會と新年宴會　當所に於て毎水曜日に開會し來りし水曜昆蟲談話會は、毎會出席者二十餘名ありて、各自の研究事項は一同に報告談話し能はざる盛況に達せしかば、昨年講演者を甲乙二組に分ちて隔番に講演することゝなし、更に規則を改正し、從來所員が主にして講習生、研究生等が客なりしを、講習生、研究生主となり、所員客となりて開會し來り、回は一回と益々隆盛を來せしが、本年は辰の年とて、水曜昆蟲談話會とは幾分關係もあれば、此際會員一同は奮然蹶起して上り行く辰の如く、水曜昆蟲談話會盛會の瑞兆を迎へんとて、本年第一の水曜日即ち本月六日には大に趣向を繞らし、新案雙六、昆蟲福引等の餘興を催し、名和昆蟲研究所よりは酒肴を寄贈せられて新年宴會を兼ね會員一同は聖壽万歲を唱ふると共に名和昆蟲研究所及水曜昆蟲談話會の隆盛を祈り、各自十二分の歡を盡して散會せしは午後十二時なりき。因に記す、當夜催せし福引の中數点を擧ぐれば左の如し。

● 蛺蝶科の一種（スミナガシ）筆洗ひ ● 姬象蟲の潛伏せる枯枝はどうする（切てしまへ）切手四枚 ● 昆蟲標本製作器具モドキ（ピンセット）ピンヘット卷煙草 ● 頑迷なる農民の害蟲驅除（一寸さもやらぬ）無景品 ● 滐の天牛（カミキリ）小刀一挺 ● 桑樹の一大害蟲（尺蠖）尺度一本 ● 蠅の驅除法（竹皮に粘黐）餅の竹皮包み ● 膜翅類の一種（蜂）鉢一個 ● 蛩の一種（酒呑）德利に盃 ● 胡蜂の産卵器（螽針）昆蟲針一卷 ● ツチスガリ一頭（草鞋一足）● 蠶蟲の一食草（茶の樹）昆蟲模樣付茶の器。等此他三十點餘。

◉第六十一回岐阜縣昆蟲學會記事　同會は本月二日后一時より、名和昆蟲研究所内に於て開

會し、笹部、永澤、長野諸氏の有益なる講話あり、尚例の如く標本其他昆蟲に關する物品を供覽せしめたり

◉**水曜昆蟲談話會記事**　毎水曜日午后、名和昆蟲研究所内に於て開かれたる水曜昆蟲談話會談話の要項は、前號報告後之を一括すれば左の如し。

村上政吉氏はインセクトール蚜蟲驅除試驗に就て、インセクトール十倍より百倍迄での溶液にて大根アブラムシの驅除試驗を爲せしが、十倍より五十倍迄は充分の効を奏し、六十倍、七十倍のものは九割、八十倍のものは七割、九十倍のものは四割、百倍のものは三割の効ありたり。又藥液の植物に及ぼす害は、十倍のものは悉く枯死し、二十倍のものは所々に白點を顯し、三十倍、四十倍のものは極て僅の害を認め、五十倍以上のものは全く無害なりしと述へられたり◉大橋由太郎氏は浮塵子及び子孑の觀察等に就て◉小川錬司氏は雜草中の昆蟲カマキリバヘに就て實物及圖を以て説明せられ◉西川砂氏は桑樹の枯木中に居る昆蟲に就て◉小森省作氏は直翅目の分類法を述べ◉高橋喜男氏は叩網採集及びイネノネクヒハムシに就て◉名和愛吉氏はマツモムシ及び野蠶の繭に就て、氏が十二月五日採集せし野蠶の繭六十二個を取調べたるに、成蟲の出殼二十一個、蛹のもの二個、幼蟲のもの七個、幼蟲の寄生蠅の爲に斃されたるもの二十七個、蛹の寄生蠅の爲に斃されたるもの三個、蛹の死したるもの二個なりきと述べ◉中井藤助氏は桑樹にて越年する昆蟲及びイチモチセヽリテフに就て◉所嘉吉氏は植物と昆蟲及び蟻の習性に就て◉伊藤苗次郎氏は桑のヨコバイに就て◉石田和三郎氏は例の夜中糖蜜採集に就て、氏の自ら採集せられたる六拾余種の糖蛾類に付て實物及表を以て説明せられ◉笹部利作氏は雜草採集に就て、岐阜市長良川堤防にて經一尺の圓内にて半翅類六種四十五頭、双翅類一種二十頭、鱗翅類一種一頭、甲翅類一種一頭、計九種六十七頭を採集せし旨實物を以て説明せられ◉渡邊機四平氏は岐阜縣下に於ける螟蟲被害統計、及一鳥の胃中にある昆蟲を調査したるに、夜盜蟲の幼蟲二十四頭、蛱蝶科の幼蟲一頭、螟蟲一頭、甲翅類一頭、其他椋の實二十二個を認めたりと述べられ◉近藤伊祐氏は果樹貝殼蟲に就て◉森宗太郎氏の貝殼蟲の話◉棚橋昇氏の蚊モドキに就て等なりしが、例により名和所長は毎會各自の談話に就きて有益なる講評を加へられ、或は種々の研究問題等を出して一同を督勵せられたり。

◉**昆蟲標本陳列館の觀覽人**　昨年十二月中に當昆蟲研究所常設の昆蟲標本陳列館を觀覽せし人員は、總計七千六百二十三人にして、其内最も多かりしは五日に於ける二千〇八十五人、最も少かりしは二十一日に於ける二十五人にして、一日平均五百〇八人弱に當る。又昨年中觀覽の總人員は四万二千八百八十二人にして、去る卅四年八月十五日當館創立以來の總人員は實に十六萬一千七百八十一人の多きに達せり。

◉**寄稿家諸氏に告ぐ**　本誌本月分は、記事輻湊の爲め、折角御投寄の玉稿も、次號へ廻したるもの尠なからず、乞ふ之を諒せよ。（編者白す）

Ampelophaga rubiginosa Brem. et Grey. (Kuruma-Suzume)

By K. Nagano.

Forewings brown or ferruginous, with darker marginal area; four darker curved fasciae; third band widest and fourth stripe little waved; a dark lunate discal spot; a dark deltoid blotch near apex. Hindwings dark or blackish brown, with three deeper fasciae. Expanse 89-95mm. Body ochreous brown, with a pale ashy-rosy stripe on dorsal.

Honsiu, Yezo. 7, 8. Larva pale green, deeper-freckled; dorsal line pale blue; subdorsal lines white, with lilac upper fringe; a seriese of oblique lateral dark stripes; 3, 4 segments most swollen; horn pale yellow, tip black : on Vitis vinifera, etc.; 8, 9.

◉昆蟲學特別研究生募集

今回數名の特別研究生を募集するに付規則書入用の向ハ郵劵相添へ至急照會あれ直に送致すべし

明治三十七年一月十日　名和昆蟲研究所

◉購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常ょ迷惑を來すのみならず爲めょ本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

岐阜市京町
名和昆蟲研究所
昆蟲世界會計部

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨ょ關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市京町名和昆蟲研究所內に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所內
岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第六十二回月次會（二月六日）
第六十三回月次會（三月五日）
第六十四回月次會（四月二日）
第六十五回月次會（五月七日）
第六十六回月次會（六月四日）
第六十七回月次會（七月二日）
第六十八回月次會（八月六日）
第六十九回月次會（九月三日）
第七十回月次會（十月一日）
第七十一回月次會（十一月五日）
第七十二回月次會（十二月三日）

（明治三十年九月十日內務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

イ ━ 市境界
ロ ＝ 案內道
ハ ‥ 市道
ニ 研究所
ホ 陳列館
ヘ 縣廳
ト 中學校
チ 病院
リ 郵便局
ヌ 西別院
ル 公園
ヲ 長良川
ワ 金華山
カ 停車場

◉名和昆蟲研究所案內

當昆蟲研究所の位置は上圖の如くにて停車場よりは僅に十餘町養蟲室あり又新築の岐阜縣物產館構內には常設の昆蟲標本陳列館（五間に十六間）ありて標本器具數千点を陳列す有志諸君の來訪を俟つ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵劵貳拾枚にて呈す）

壹年分拾貳部郵稅共金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金ょ非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰一行ょ付金拾貳錢三十行以上一行ょ付き金拾錢とす

明治三十七年一月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和梅吉

同縣揖斐郡鶯村大字公鄉三番戶
編輯者　小森省作

同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

THE INSECT WORLD.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF "NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

Epipyrops Nawai Dyar.

VOL. VIII.] FEBRUARY. 15TH, 1904. [No.2.

昆蟲世界

第八卷第貳冊　明治三十七年二月十五日發行　第七拾八號

（明治卅年九月十四日第三種郵便物認可）

目次　（禁轉載）

（每月一回十五日發行）

名和昆蟲研究所發行

本所移轉幷擴張公告

本研究所は從來大方諸君の一方ならぬ御引立に依り漸く今日に立ち到り候處本年は愈々相當の地を撰み本所を移轉するの機運に際會せり本所は此機會に於て一層擴張の方針を執り自他俱に親しく斯學研究の便を圖らんとす幸に本所微意の存する所を諒とし何卒特別の御助勢を仰ぎ度豫め奉悃願候敬具

明治卅七年二月　名和昆蟲研究所

大方諸君

追て御助勢を仰ぐべき方法等は次號の紙上に詳記可仕候

去月昆蟲學講話の爲め貴郡內巡回罷在候節は不一方御優待を蒙り不堪感銘候一々御挨拶可申上の處所務繁忙の爲め或は御挨拶漏の御方も可有之と存候間乍略儀以本誌上謝意申述候也

二月十日　名和昆蟲研究所長　名和　靖

愛知縣渥美郡　辱交諸君各位

第十七回全國害蟲驅除講習會延期廣告

昨年十一月を期して第十七回全國害蟲驅除講習會開設の筈に候處聖路易萬國博覽會出品の爲め多數希望者のあるにも拘らず遂に本年三月迄延期し來りたるに今回當研究所の移轉擴張の爲め又々一時延期する場合に立ち到り候へば此段廣告す

明治卅七年二月十日

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

昆蟲學特別研究生募集

今回十數名の特別研究生を募集するに付規則書入用の向は郵券相添へ至急照會あれ直に送致すべし

明治三十七年二月十日　名和昆蟲研究所

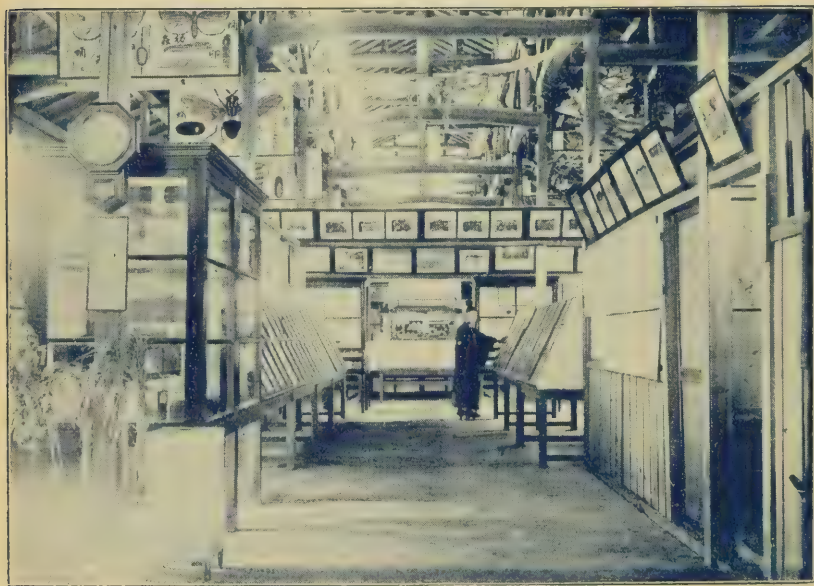
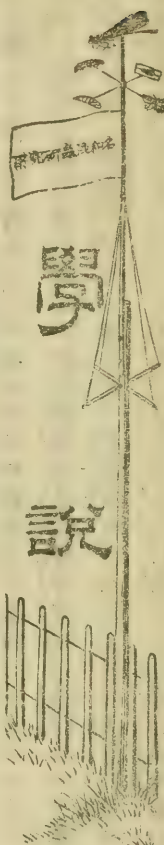
購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ほす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

岐阜市京町　名和昆蟲研究所　昆蟲世界會計部

Insect World. Vol. VIII. 第貳版 Pl. II.

糖蜜採集の蛾類

昆蟲陳列館の一部

茂りあふ杉の小枝に赤蜂の夢のどかなる冬ごもりせり(神村直三郎)

◎米國に於ける昆蟲學研究の狀況

米國理學博士　河內忠次郎

昆蟲學は他の動植物學と均しく隨分古き學問にして、二千年前の昔希臘時代よりアリストートルを始めとして、多少昆蟲の分類に從事せし者ありたりき。然れとも其体軀の構造幷に慣習等を講述するに至りたるは僅かに百年前の事にして、即ちニューポートなどの出でし時なり。不思議なる哉、此ニューポートが彼の有名なる昆蟲學書を發行せし時の前後凡そ二十五六年間は、歐洲の諸國に少くも六七名の大家ありて、立派なる解剖書等も世に出たりき。之れを昆蟲學上中興の時代と云ふ。然るに是等大家の死没後は、昆蟲學者の學風一變して僅に蟲類の分類をなすに止まり、絕へて其体軀の構造とか生理とか云ふことには意を注ぐ者あらざりしが如し。尤も此間に於て昆蟲の分類學は大に進步し、歐洲は云ふに及ばず米國に於ても續々此道に通曉したるの學者を出したりき。然れとも此數十年間一も新らしき議論を吐て世を驚かせし者あらぞ。之を昆蟲學上靜息の時代と云ふ。靜息の夢は、三四十年前ダルウイン、ホックスレー等の叫號に依つて醒まされたり。就中ホックスレーの無脊動物解剖書の中に揭げたる昆蟲之部の如きは極めて精密にして、今尙ほ學者が好良の參考書として用ゆる所なり。余が甞て米國に於て油蟲即ちCockrochの頭部を研究するに當り、尤も誤謬の少き者と思ひたるは此の書と、他にマイルスと名くる

英國ヨークシャア大學の教授が著述したる一書なりき。扨てホックスレーの旗幟を歐洲に擧げたる當時に於ては、米國にもアガシー、グレーなどの生物學者出で、盛に動植物學を研究し、臨海研究所等をも設くるに至れり。余が愛師フエナルド翁の如きは實にアガシー門下の一人にして、久しく普通の動物學を修め、後遂に變じて昆蟲を取調ぶるに至りたる者なり。翁が昆蟲の研究を始めたる頃には、故ライレー翁も亦切りに經濟的昆蟲學を講じ、且つ害蟲の驅除幷に益蟲の保護等を實行したり。翁の高弟にコムストック出たり。コムストックの高弟にハーワード出たり。ライレー翁の死するや、コムストックは代てワシントン府に赴き、農務省昆蟲課長となり、後其職をハーワードに讓りて、身は專らコーネル大學の教職に從事し、純料なる昆蟲學の一教科を設けたり。此教科を卒へて四方に散在する昆蟲學者今日幾人かある、余は今盡く之れを擧ぐるの暇なきを如何せん。蓋し目下米國に於て適良なる方法を具へて昆蟲學の教授を專らにする所數ケ所あり、數ケ所の中殊に完備せる者はフエナルド翁が設けたるマサチユーセッツ洲アマハスト市に在る農學校の昆蟲研究所と、ニユーヨーク洲イサカ市に在るコーネル大學の昆蟲科即ちコムストック翁の教鞭を振ふ所とす。フエナルド翁の研究所は規模稍々小なりと雖とも年々昆蟲學を專攻する者十名內外あり、殊に翁の夫人幷に其一子も亦立派なる昆蟲學者にして、翁と共に子弟の教導に力を盡して餘ます所なし。コムストック翁の下には翁の夫人とスリンググランド氏のあるありて、數名の助手と共に每年十五名乃至二十名前後の昆蟲科專攻生を教授せり。專攻科の外に、一週一二回昆蟲學上の講義を聽く普通大學生の如きは、其數殆んど八九十名の多きに及べり。冬期には六週間簡易なる講習會を開きて、スリンググランド氏が農家の子弟に對つて經濟的昆蟲學の講義をなし、夏期にはコムストック翁自から起つて十週間の專攻科を開き、諸方より集り來れる大學の教授等に向つて深遠な

る講義をなし高尚なる研究を遂けしむるを常とせり。又フエナルド并にコムストツク兩翁の外に、年齒未だ四十四五歳に滿たざる昆蟲學者あり、ジヨン、ビー、スミスと云ふ。ニユーゼルシー洲ニユーブロンズウイツク市に在るラトガス大學校に於て敎授を勤め居れり。氏は非常の勉强家にして、其著はす所少からず。未來は必ず米國第一等の昆蟲學者となるに相違なしと雖とも、生徒の敎養には適せざる人なる如く完全なる敎室あるも、氏が下に就て研究する者は稀なるが如し。バーカード氏は其著書多きに依り歐洲は云ふに及ばず日本までも昆蟲學者として響き居るも、其實地質學者にして、昆蟲の研究を專門とする人にあらず、故に其昆蟲學上の著書の如きは誤謬を以て滿たされたる者多し。然れとも氏が博學多識なるは誰も許す所にして、門下の書生の常に服する所なり。此外ワシントン府農務省の昆蟲課に於てはハーワード氏と共に昆蟲の研究に從事せる人々の中には、隨分秀逸ノ學者あり。加之ならず其蓄ふる所の參考書限りなきに依り、研究上便宜を得る所少しとせず。ハーワード氏は天性磊々落々にして、講談極めて巧に、人を笑はし、人を泣かしむるの妙あり、年齡未だ五十を越へざるべし。此昆蟲課に出仕せる技師輩は、常に諸方を巡廻して害蟲驅除の方法等を調査せり。又米國には各洲に農事試驗場の設あると恰も我國に異ならず、試驗場內にも往々名高き學者ありて、其時々發行せる報告書中にも亦見るべき者多し。何分にも米國は世界第一の農產國たるのみならず、又世界第一の金滿國なるが故に、害蟲の驅除等をなすにも失費の多きに驚かずドシ〱金を出して實地に學術を應用するに依り、遂に今日の隆盛を見るに至りたる者と云ふべし。各洲の試驗場よりは大低二種の報告書を出すを常とす。一は多少學術上の實驗に關することと、一は平易なる文字を列べて簡短に農家の參考になるべき事項を記述し、無代價無遞送料にて何れの處にも配與するものなり。之れ余が彼の地に留學中常に羨ましく思ひたる處なりき

◎恐る可き米國に於ける棉蒴象鼻蟲加害の影響 (續)

在米國 名和梅吉

最初の現出は九年前なり　棉蒴象鼻蟲のテキザス州の棉花栽培地に始めて現出せしは、今を去る事九年前即ち千八百九十四年なりとす。メキシコの熱帶地方には數年前海邊の局部にのみ發生ありて、該蟲は同類の捜索に勉め、終に之を完ふして繁殖せしなり。而してメキシコより漸次リヲグランダと稱する地に傳播せしかども、一時加害なかりき。然るに其後再びテキザス州に起り、斯る巨万なる加害蟲のテキザス州の棉花を浸害せし源泉は、全くブランスヴイルの近傍なるビーカウンチーなりとす。此長鼻を有する奇形蟲の發生加害の報告は、續々アウスチン市に來れり。之れを聞くやワシントン府に於ける農務省は、此猛惡なる加害蟲を餓死せしめんとの目的を以て、テキザス州の地方官に、二年間害蟲發生地なる河岸に棉花栽培を停止することを提議せり。然れども地方長官は之を拒みたり。然るに該蟲は加害劇甚を極めし以來年々徐々に北方に傳播せん影向ありしに、終に北方は七十哩の地に、東方は廿五哩の處に迄及ぼしたり。而して各雌蟲は一年間に三百乃至七百粒の卵子を幾多の棉蒴内に產下するものにて、其產下せられし卵子は孵化して幼蟲となり、凡そ一ケ月にして完全なる成蟲躰に變化し來りて、又以前の如く加害を連續するに到れり。且又コロラド河の廣濶なる流域も該害蟲を防止するに足らずして、既にブラゾスの廣濶地帶を通過し、現今に於てはテキザス州の北境界に於けるレッド河の沿岸に達せり。夫れ然り、今や此褐色を呈する最も恐るべき棉蒴象鼻蟲加害の報告は、株式市場に於ける棉花延賣者等の價格を評定する原動力となりたり。

該蟲撲滅に對する盡力　該蟲撲滅に對しては夫々有効なる器械を案出せんとて幾多の計劃を企圖せらるゝに到り、農務省の昆蟲課は千八百九十五年にビーヴイルなる地に特に地方人士の注意を惹起せしめし處の種々ある捕蟲器具を創設し、試驗に從事され、その價値の如何に付き最も熱心に考究ありしかども、未だ該蟲驅除に關し確たる適當の器械は案出せられざりき。如何となれば器械使用の困難と、費用の多端あるに加へて該蟲驅除期中雨天勝なるとは、器械使用をして全く無効に歸せしめたり故に若しも器械使用以外に撲滅方法を案出せらるゝにあらずんば、棉花栽培は全く敗滅に皈せざるべからず。

該蟲驅除に關し器械の無効なるは前述の如し、然りと雖も假に今後最も完全なる器械案出を見るに到るとするも、恐くは二十年前テキザス州に於て發生加害せしコツトン、リーフ、ウォームの撲滅と毒殺に對し、昆蟲學者及び栽培家等が特に苦慮慘憺種々の方法を案出したるにも係はらず、何れも其方法の繁雜なるに堪へずして全く無効に皈したると同樣の運命に相遇するや必せり。

棉莢象鼻蟲は躰長殆んど一インチの十六分の五小形なる褐色蟲なり。此種は細長き鼻形を有し、之にて最初は食餌を取る爲めに花及び棉莢を刺傷すると雖も、後には全く卵子を産附する爲めに刺傷するに到れり。卵子は孵化して白色無脚の蛆となり、棉花を形成する實質を食害す。一年數回の發生を成し、殆んど最初の降霜時期に到る迄間斷なく繁殖加害を逞ふするものとす。實に該蟲は頑强なる性質を有するものにて、殆ど如何なる寒暑の劇變にも抵抗する力あり。曾て瓶中に氷と共に投入し、キルク栓にて密封し、三十時間放置の後之れを取出し外氣に觸れしめし試驗に對して、此恐るべき害蟲は尙

は生活力を有し、元に復飯せしと云ふ。實に該蟲驅除の困難なる推して知るべきあり。該蟲驅除に就ては種々なる撲滅策に對し殆んど實施され、且又此種の自然敵即ち有益蟲を發見せんとて、農務省は專門家を中央米國及びキユバ地方に派遣されたりしも、そが結果は全く否認に終りたり。

上述の記事に次でテキザス州の農事試驗場のシー、ヂー、エッチ、ワルトン氏の被害豫想の記事あり。左に之を譯載すれば

過去九年間に棉蒴象鼻蟲は當テキザス州の棉花栽培に對し七千万弗の損害を惹起せしめたり。今本年加害損失額を豫想するに、棉花の五十万梱以上に達し、之を正金に換算せば二千三百万弗以上の損害となれり。而して當州にて棉蒴象鼻蟲の現出以來年々數千梱の損失を與へたるものと雖も、實際に於ては一般耕作者より精確なる計算を得ざる爲め、精確なる損失とは云ひ難し。故に余は如何に實用的完全なる撲滅法も全く該蟲を勦絶するには到らざるを信ず。而して又該蟲の南方棉花栽培地全般に蔓延せんことを確信するものあり。故に夥多の象鼻蟲にして現今の比例にて傳播するとせば、向ふ五ケ年間にはアルカンサス、ルイジアナ、及びミスシスピーの各州に及ぼし、且又七年間には大西洋沿岸地方に迄達するならん。去れば苦し此害蟲に對し一致協力して撲滅せず放擲するとせんか、棉花の產額は永久の損傷を免れざるべし。

昨年該蟲はテキザス州の中央部に傳播し、本年に到りては本州の北境にして未だ棉花の栽培を見ざる地方のレッド河の沿岸及び曾て加害を蒙らざりしパンハンドル地方に侵襲するに到れり。故に該蟲のアルカンサス及びルイジアナ州に侵入するも又近きにあらんか、之れ大ひに警戒すべきことなり。

當時米國に於ける棉花害蟲侵害の結果は前掲の如し。然るに今本邦に於ける棉花害蟲の狀態を推測するに、又一害蟲加害の結果收穫の減少を來せしやの觀あり、特に曾て余の岐阜縣下の各所に於て實驗せし處に徵せば、棉實蟲及棉蒴蟲なる二種の侵害よりして非常に棉花の收穫をして減少せしことを確認せしことあり。今此米國に於ける慘害の狀態を思ふと同時に、又本邦に於ける棉花に對する害蟲に就ても大ひに警戒すべき必要を感せしを以て、茲に附言し置かん。（完）

◎糖蜜採集の蛾類に就て（第二版上圖參看）

名和昆蟲研究所助手　石田和三郎

昆蟲學を研究せんと欲せる者は、天然を師とし自然を友とし、勉めて先づ多くの種類を採集し、然る後之が經過習性を調査する時は、不知不識の間に意外なる結果を生ずるものなりとは先輩諸氏の常に稱導する所なり、余固より昆蟲學の何たるを解せざる者、況んや深く入りて調査を研ぐる能はざるも、先輩諸氏の爲め研究の資料に供するの榮を得ば又以て斯學獻貢の一助たらんと思惟して、一昨年以來夜中の糖蜜採集を繼續し、幾多の種類を採集したりと雖とも、未だ充分の調査を終へざれば、只尤も多く糖蜜を慕ひ來る所の糖蛾の種類中尤も普通にして多く集り來る處の種を撰み、採集の多寡を標準として其經過表を造り且其蟲種の略說を爲すのみ。幸に諸氏一讀の榮を賜はらば余の滿足する所なり。

因に記す、此經過表は其時期に於て採集せし成蟲の多寡を示す者にして、線の太き所は隨て多くを採集したる時なり。而してこは余が或塲所に於て實驗したる結果にして、或は塲所と地方により多少の相違あらん、讀者之を諒せよ。

蟲名 ／ 月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
フクラスヾメ												
ムクゲガ												
オホトモヘモンガ												
ベニシタバカ												
シロスヂトモエガ												
トモヘモンガ												
カキノハマガヒガ												
ウスベニシタバガ												
カタクロガ												
シロスヂガ												
シラフガ												
ビロウドトモヘガ												
キノシタバガ												
シロホシアカシタバガ												
ハ子クロガ												
ウンモンクチバガ												
アオフモンガ												
モクメキシタバガ												
オホクロクモガ												
子キリムシノガ												
ナノケムシノガ												
シロキノカハガ												
コガタノキシタバガ												
シロシタバガ												
エンドノキリムシノガ												
クロクモガ												
ギシギシノ子キリムシノガ												
アカイロトモヘガ												

(一)フクラスヾメ(Cocytodes modesta, Guen.)　巴紋蛾科に屬し体長一寸、翅の開張二寸四五分内外にして、体は肥大なり。頭部は茶褐色を帶び、腹部は灰褐色を呈す。前翅は茶褐色よして、前緣より後緣ょ向ひ黑褐色の波狀線と、微なる雲狀紋あり。後翅は暗褐色にして、翅の中央より內緣角に向て藤紫色の小字形の斑紋を有し、雄蛾にありては後翅の內緣ょ總狀の長毛を有す。幼蟲は蕁麻科植物を食し、成蟲の狀態にて越冬す。

(二)ムクゲガ(Lagopteres elegans.)　擬尺蠖蛾科に屬し、体長一寸三分、翅の開張三寸內外、胸部及腹部の背面は暗褐色を呈し、腹面より腹部の尾端ょかけて帶黃紅色を呈す。前翅は帶紫暗褐色よして四條の褐色線と、中央に二個の小黑點と、微かなる耳形紋あり。後翅は前緣より外緣ょ沿ふて廣く帶黃紅色を呈し、內方は黑色ょして其中に藤紫色の斑紋あり。雄蟲の後翅に於ける內緣に總狀の長毛あり。幼蟲は合歡の葉を食し、年一回の發生をなす。

(三)オホトモヘガ(Nyctipao crepuscularis.)　巴紋蛾科中最大形ょして、体長一寸一分、翅の開張三寸內外にして、黑褐色をなし、二條の白條帶ありて內方のものは巴狀紋の外方を繞る。又後翅の基部より前翅の前緣角に向て二分し、其前半は色濃く、後半は淡し。又前翅の前緣角より後翅の後緣に亘り微かに出入せる半月紋列あり。而して前後兩翅共前緣角部に白紋を有し、後翅の基部に近く褐色に少しく灰白色の沿へる條紋あり。

(四)ベニシタバガ(Catocala zalmunna, But.)　擬尺蠖蛾科に屬し、体長一寸一二分、翅の開張二寸六七分、前翅は淡灰褐色を呈し、中央に黃褐色の微かなる不正形の斑紋と、曲折せる黑褐線あり。前緣より後緣に亘り微かに波狀の斑紋あるも、特に兩緣に於て現はる。後翅は濃紅色を呈し、外緣ょ沿ふて幅廣

く、及び中央にく字形の黒斑あり、縁毛は灰白色なり。前翅の裏面は白色にして外縁部及中央に二條の廣き黒帶を有し、後翅の裏面は前縁に沿ひたる處白色にして他は紅色を呈し、外縁部及中央に黒斑を有す。七月上旬頃折々糖蜜に來る。

（五）シロスヂトモヘガ(Spinama interlineata, But.)　巴紋蛾科に屬し、体長八分、翅の開張二寸内外、觸角は羽狀なり。翅は全部濃褐色にして、兩翅相通じて白色の幅廣き一條帶を有し、其外方は波狀形をなし、外縁に沿へる部は紫色を帶び、前翅の中央には巴狀紋を有す。翅の裏面は暗褐色にして中央に白帶あり、其外方に白色波狀紋あり、又各中室の先端に同色の二紋を有す。

（六）トモヘモンガ(Spirama retorta, Clerk.)　巴紋蛾科に屬し、体長一寸内外、翅の開張二寸五六分、頭部及前胸背は濃褐色、中胸背は褐色又は灰褐色、腹背は黒褐色にして、下面は凡て赤色なり。兩翅共表面は暗褐色又は灰褐色にして、黒褐色と灰白色の波狀紋あり、前翅の中央には天鵞絨色の巴狀紋を有す。翅の裏面は帶黄赤色を呈し、兩翅共外縁より後縁に亘り黒條あり、此種は大小色彩共に變化ありて一樣ならず。

（七）カキノハマガヒガ(Hypopyra dulcina, Fel.)　巴紋蛾科に屬し、体長一寸内外、翅の開張三寸五六分にして、頭部及前胸背は濃褐色、中後胸幷に腹部の背面及び全翅の表面は枯葉色にして、外縁及び後翅の外半は鶯色を帶ぶ。翅を開張するときは前後兩翅を通じて前翅の前縁角より後翅の内縁に向て濃褐色の斜線を有し、恰も木葉の主脈の如し。裏面は黄赤色にして、前後兩翅とも前縁より後縁に亘り褐色の波狀線あり、八月頃最も多く糖蜜に集り來る。

（八）ウスベニシタバガ(Catocala sp.)　擬尺蠖蛾科に屬し、体長一寸一分、翅の開張二寸五分内外にして

前翅は褐色と灰白色との霜降狀をなし、黒褐色の波狀紋を有す。後翅は淡紅色にして、外緣部は幅廣く黒色を帶び、中央には稍3字形の黒斑あり、外緣に於ける緣毛は白色をなす。裏面は前翅白色にして三條の幅廣き黒褐色の帶紋あり、後翅は前半灰白色、後半は淡紅色を帶び、黒色の紋は表面と異ならず。九月下旬より十月上旬に多く發現す。

(九)カタクロガ(Toxocampa enormis, But.)　地蠶蛾科に屬し、体長一寸、翅の開張二寸一分内外、体は淡鳶色にして頭項及前胸背は黒褐色をなし、前翅は淡き灰褐色に、前緣より後緣に向へる鳶色の斑紋を有し、稍上部に黒色の耳狀形を成せる紋を有す。又外緣に沿ふて黒色の細点列あり。後翅の外半は濃鳶色にして、內半は淡鳶色なり。帶黃灰白色の緣毛を有す。翅の裏面は一樣に黃褐色にして、外緣に沿ふて一條の暗褐色帶あり。

(十)シロスヂガ(Amphipyra tripartita, But.)　地蠶蛾科に屬し、体長八分、翅の開張一寸九分内外にして、体は灰黒色なり。前翅は帶紫黒褐色にして前緣より後緣に亘り二條の白色帶ありて、外緣に接する部分は帶赭黒褐色を呈す。後翅は一樣に暗褐色なり。裏面は殆んど一樣に光澤ある灰褐色にして、外緣に沿ふ所は稍淡し。八月上旬より九月下旬に亘りて發現す。

(未完)

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其六）第一版圖參看

名和昆蟲研究所内　小竹　浩

(七)　双翅類

双翅類は只一双の翅を有する蠅虻等の類にして、後胸には決して翅を有することなきも平均翅とて棍棒狀をなせる一種の附器を具へ、鱗瓣を以てこれを覆ふものと鱗瓣を欠くものとあり。此の平均翅は後翅

の退化したるものにして、飛揚の際恰も舟に於ける楫の如き作用をなすものなり。口は吸吮甜食に適し且往々刺螫の用を兼ぬるものあり。幼蟲は其形狀一ならざれども、皆無脚にして之れを蛆と稱す。變体完全なり。

(四十六)キリウジカヾンボ(Tipula parva, Loew.)　大蚊科に屬し、脚は甚だ細長にして、翅は稍褐色を帶び、縱紋を有す。觸角は糸狀にして短く、複眼黑くして圓く、胸部稍大きく、腹部細長なり。雌は腹部の末端尖れども、雄は先端大なり。幼蟲をキリウジと稱し、常に腐敗有機物を食し、往々稻麥等の嫩苗を食害することあり。本誌第五十七號に名和先生の詳細なる說を揭げ、且其口繪に發育圖あれば就て見らるべし。

(四十七)カ(Culex pallens, Coquillex.)　總絲類蚊子科に屬し、全体淡褐色を呈し、躰細長にして、觸角雄は羽狀に、雌は糸狀をなせ、肢は長くして靜止のときは体を平直にして後脚を擧ぐ。卵塊は五六十粒乃至三百余粒より成れる舟底枕狀をなし、汚水に浮游す。孵化の幼蟲は有機物を食し、汚水を清潔ならしむ。俗に孑孒と稱するものこれなり。此の種は最も普通種にして、夏秋の夜出でゝ人畜の血液を吸收す。本誌第六十號に現時瘧媒種卽ハマダラカと此の種との詳細なる比較硏究の記事及其口繪に之れが圖を揭けたれば參看せらるべし。

(四十八)テマリバヘ(Gn.? sp.?)　癭蠅科に屬し、翅の開張三分內外の微小種にして、形狀カヾンボ類に似たり。脚は細く廣き一双の翅を有し、翅後瓣及鱗瓣を欠く。翅脉甚だ少なく僅に四條を有するのみ。觸鬚は連環狀をなす。此蟲は春季に至り河柳の嫩芽に產卵し、孵化して嫩芽の中心を食すれば、嫩芽は圖の如く變形す。幼蟲は之れを食して成育し、翌年羽化す。

(四十九)シホヤ アブ(Promachus ater, Coquill.) 食蟲虻科に屬し、体黑く。翅は淡茶色を帶び、腹部細長くして、各節の接合部には灰黄色の軟毛帶あり、雄は其末端に白毛を簇生すれども、雌には之れを欠く。額面には淡黄色の長毛を密生す。卵は稻葉等に產付し、白粉樣のものを以て之れを覆ひ、幼蟲は土中に入りて成育す。成蟲は飛翔輕快にして、巧に他の害蟲類を捕食するの益蟲なり。

(五十)ツマグロ ムシヒキ アブ(Gn.? sp.?) 前種と同科に屬し、翅端黑きを以てこの稱あり。腹部細長く、短毛を密生し、脚は全体短き毛を有す。体軀黑くして、腹部各節の接合部には灰黄色の毛を有す夏期山野に多く、前種と共に他蟲を捕食するを以て有益蟲の一に算ふ。

(五十一)オホ イシ アブ(Laphria mitsukurii, Coquill.) 前種と同科に屬し、体は黑毛を以て覆ひ、腹部の後半は帶褐黄色毛を密生す。頭部複眼の間には淡黄色の長毛を有し、其形狀色彩等オホマルバチに酷似するを以て、擬態の好標本とす。

(五十二)アヲメ アブ(Ommatius pennus, Walker.) 前種と同科に屬し、複眼青味を帶びたるを以て此の稱あり。腹部長くして翅と共に淡茶褐色を呈し、胸部圓く背面に隆起し、前頭部は橙黄色を呈す。夏期山野に多く、他蟲を捕殺するの有益蟲なり。

(五十三)シリナガ アブ(Dasypogon japonica, Bigot.) 翅の開張一寸三四分の大形種にして、前種と科を同ふし、翅色淡褐色に、複眼黑くして半圓形をなし、其兩眼の間には光澤ある黄色毛あり、腹部は甚だ長く、前半は褐色に、後半は黑くして、圓く背面に隆起し、其中央及兩側に黄線あり、肢は長くして短き針狀毛を有す。前種と共に山野に多き有益蟲なり。

(五十四)ビロウド ツリアブ(Bombylius major, Linn.) 長吻虻科に屬し体黑色なれども、天鵞絨樣の

茶黄色の軟毛を以て覆はる。肢は細長ょして、一双の翅は翅底より中央迄斜に暗色斑を帯び半透明となる。常に山林に多く、空中に止ること恰も釣り置くが如し。

(五十五)メクラ アブ(Tabanus pyrrhus, Walker.) 虻科に屬し、複眼大ょして、雄は後頭部に於て相接し、体は灰黄色にして、翅の開張八分内外を算し、翅の前縁室及亞前縁室は稍淡黄褐色を帯ぶ。此の種は夏期田圃間ょ多くして、人畜の血液を吸收して大いょ困苦せしむ。世人往々此蟲を目して稻の害蟲ハマクリムシの羽化せるものありと誤まるものあり。

(五十六)ノラ アブ(Eristalis incisuralis, Loew.) 喰蚜虻科ょ屬し、形ハナアブに似たれども腹部稍細し。頭部暗色に額面には淡黄色の軟毛を密生し、腹部黒くして各節の後縁は帶褐黄色を帯び、其第一節の中央横ょ同色帶ありて兩側に至るに從て幅廣し。翅の中央の前縁に接し僅に斑紋を有す。

(五十七)ノラ アブ モドキ(Eristalis sp.?) 喰蚜虻科に屬し、胸背ょ二條の褐色縱線あり、腹部は黒くして二條の淡黄色線を有し、前中二對の脚は細くして短かく、後肢は太くして長し。翅の開張九分内外を算し、平均翅は短玄。前種と共に幼蟲は常に不潔なる水中に成育し羽化の成蟲は夏期各種の花ょ集る。

(五十八)オホ ハナ アブ(Megaspis zonalis, Fabr.) 前種と同科ょ屬し、複眼大きく、胸部には黒褐色の短毛を密生す、腹部の前半は横に幅廣く光澤ある飴色を呈し、半透明となる、後半は黒褐色ょして、茶黄色の短毛あり、翅の基部及中央前縁ょ接して黒褐色の斑紋あり。幼蟲は不潔物中ょ成育し、尾端に長き尾を有するを以て尾長蛆の稱あり。羽化すれば各種の花ょ集る。

(五十九)ヒラタ アブ(Syrphus porcinus, Coquill.) 食蚜虻科に屬し、複眼大きく、胸部圓く、後胸板は半圓形ょして褐黄色を呈し、腹部黄色にして黒色の帶線を有す。幼蟲は形狀恰も水蛭の如く、常に

各種の植物に發生して大害を加ふる蚜蟲を捕食するの益蟲なり。

(六十)クロ ヒラタ アブ(Syrphus sp.?)　前種と同科に屬し、体黑色にして腹部には三條の淡黃色の帶線あり、翅は稍暗色を帶び、亞前緣室は暗褐色なり。此の蟲は夏期各種の花に集り、幼蟲は恰も水蛭の如く、前種と共に農家の大敵たる蚜蟲類を捕食す。

(六十一)ルリ バヘ(Sargus niphonensis Bigot)　水虻科に屬し、体瑠璃色を帶び、腹部稍扁平にして長く、先端稍大なり。翅は透明にして、開張九分内外を算す。此蟲は常に不潔物に集り、幼蟲は糞尿中に成育す。

(六十二)カヒコ ノ ウジバヘ(Ugimya sericaria, Rondani.)　寄生蠅科に屬し、胸背には不明なる縱線を有し、刺狀毛を粗生す。腹部雌は圓くして赤褐色を帶び、雄は稍細くして亞鉛樣の光澤あり。幼蟲は蠶の体内に於て成育し、老熟すれば土中に入り蛹化し、翌春羽化して成蟲となり、桑葉の裏面に產卵するを常とす。

(六十三)ウジ バヘ(Sarcophaga privigna Rond.)　蛆蠅科に屬し、胸背は灰色にして三條の暗色縱線あり、腹部は亞鉛樣の光澤を帶び刺狀毛を粗生し、雌は腹部扁大にして、雄は稍細長なり。此蟲は常に腐敗物に集り、直に蛆を產付する胎生蟲なり。

(六十四)ウシ バヘ(Gn.? sp.?)　家蠅科に屬し、翅の開張四分五厘内外の小形種にして、針狀の口吻を有し、胸背に褐色縱線あり、腹部の背面には數個の褐色斑點あり、常に牛馬の血液を吸收して大に困苦せしむる害蟲なり。

(六十五)イヘ バヘ(Musca domestica, Linn.)　家蠅科に屬する普通の種にして、複眼茶褐色に、觸角の

端毛は羽状をなし、体の背面は細毛を粗生し、跗節五節より成りて其第一節は殆んど短毛を以て覆ふ。腿節には長き針状毛と、脛節には短かき刺毛を有す。

（六十六）ギンバヘ（Lucilia caeser, Linn.）　家蠅科に屬し、翅の開張五分乃至六分、複眼茶色を呈し、腹部圓く全体光澤ある青藍色若くは青綠色を帯べるを以て之れをアヲバへとも稱す。常に不潔物の近傍に多し。

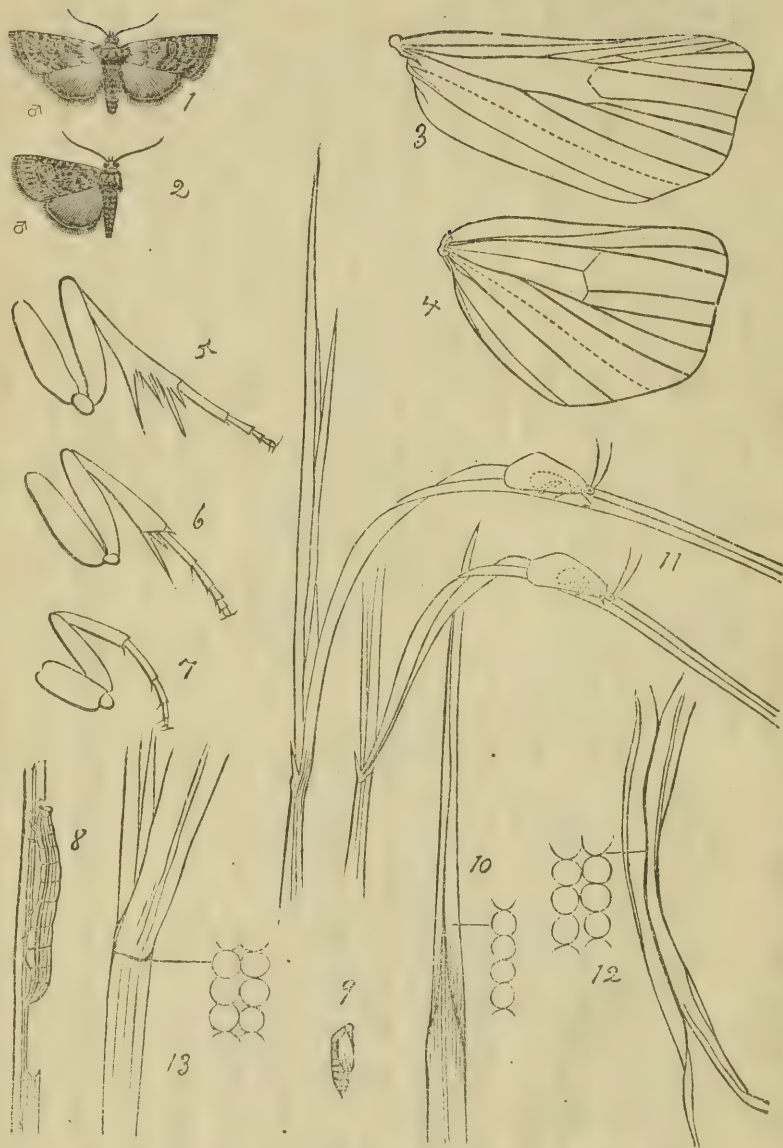
（六十七）ベツカウバヘ（Eggizoneura formosa, Wied.）　扁前蠅科に屬し、翅体共に鼈甲色を呈し、複眼卵形にして黒く、胸部は大きく腹部と殆んど同長にして、其兩側に刺毛を粗生す。腹部には短き軟毛を密生し、肢は太くして、腿節には短き毛を有す。性不潔物を好み幼蟲は糞尿等に生ず。

（六十八）ノミ（Pulex irritans, L.）　普通に最もよく知られたる光澤ある赤褐色の微小種にして、雄は体小に、雌は大きく、翅は共に退化し、只顯微鏡下に照せば其痕跡を有するのみ、然れども後脚は非常に發達し一躍して自体の二百倍以上を飛ぶこと容易なり。卵は普通床下の塵埃中に産し、孵化の幼蟲は白色にして蛆状をなし、有機物を食し、老熟すれば塵芥を以て繭を營み蛹化す。本誌第六十五號に名和先生の講話を掲載しあれば參看せらるべし。

◎産卵の跡を隱匿するに巧妙なる蛾類三種

高知縣農學校　武内護文

昆蟲類には母蟲が其産卵の跡を隱匿するに巧なるもの其例少からず、而して予が飼育せるものゝ中、蛾類に在ては左に記する所の三種に就て之れを實驗せり。共に皆な稻作の大害蟲なり。其一は螟蛉の一種

圖のシムキマゴマタ

(1)成蟲夏生 (2)成蟲春生 (3)前翅 (4)後翅 (5)後脚 (6)中脚 (7)前脚 (8)幼蟲 (9)蛹 (10)産卵の塲所及卵 (11)母蛾産卵狀想像圖 (12)アハヨトウムシの産卵の塲所及卵 (13)オホズ井ムシの産卵の塲所及卵

にしてタマゴマキムシ（苞卵螟蛉方言コウヂウ又スントリ）と命名するものなり（學名未詳此學名を明定し更に之れに適當なる和名を附するものあれば予は喜で之に從はん）。明治三十五年五月二十八日高知縣土佐郡なる嶺北地方に於て初めて其產卵跡を發見し、爾來之を飼育したりしものにして、予が自ら研究したるものなるを以て先づ其形態及習性を概述せん。

形態　頭部に一對の單眼を具へ、翅の構成は（3）（4）圖に示すが如し。故にNoctuidae科に屬せるものなるを知るべし。前翅は少しく淡褐を交へたる藤鼠色にして、外緣に近き部は淡灰黃褐を呈す。腎狀紋及環狀紋は判明し、共に重環を形り、其外環內は淡黃褐なり。翅底の邊と環狀紋の內側に各一條、腎狀紋の外側に二條の黑褐なる波狀橫線を通し、更に其外方に一條の灰褐なる波狀橫線ありて、此內側には二ケ所の褐色部あり、其下方にある褐色部は後線に接し一層濃色にして且つ稍や赤褐を帶ぶ。外緣には各翅脉間に一個づゝの小点を列す。後翅は淡灰褐色にして外緣には灰褐の細線を畫す。前後兩翅共に外緣は中央稍や凸出するを以て彎曲せり。体は前翅と同しく藤鼠色にして、尾端に淡黃褐色の毛を生ぞ。体長三分五厘、翅張八分。雌は普通雄より稍や大きく且つ前翅の兩紋は比較的不明なるを覺ゆ。此種は著しき氣候上の變形をなし、春生の者は体及前翅の藤鼠色は大に減退して寧ろ淡褐色を現し、腎狀紋は判明せるも環狀紋は畫然せず、更に其下に一個の小紋を形現し、此紋と環狀紋の外側に接して濃黑褐班を表はす。外線に近き橫線の內側は一帶に褐色を呈し、此部には各翅脉間に一個づゝの濃灰褐色の線班を出し、外緣に列せる小点は寧ろ濃色にして判明せり。

幼蟲は腹脚四對を有し、前一對は極めて小なり。体は圓筒形にして、第八、九の兩節最も太し。全体淡黃綠色を呈し、背線、亞背線、氣門上線及氣門線は帶灰綠褐色を呈すれども、背線は最も大にして濃

色よ、他は小よして淡し、老熟よ近けば漸々緑色を減退して体の兩端より帶紅淡黄褐色を呈するよ至る。充分成長すれば、体長九分を越へ、歩行は尺蠖狀をなす。

習性　幼蟲の初めて孵化せるものは、表皮を殘留して葉面を点々食害し、少しく成長すれば葉縁より咬害するとは他の同類のものに多く見る所に同し。晝間は多く稻株間の下方に潛れ、曇天夜間よは盛よ食害して葉の中肋のみを殘留す。老熟すれば稻莖の下方よ降り、莖間に薄繭を張りて蛹化す。蛾は晝間は樹陰等の幽靜なる地に於て黒色を呈せる土石面の草叢の錯生せる所よ多く潛む。必ず頭を下方に向けて靜止す。

春季蛾化して産卵するの際は其時期略ぼ齊一なるも、第一回幼蟲の孵化后は各個体の健否により、各様の氣象に適背する等諸種の事情に遭遇して發育に不同を來すは、他の同類の者に見る所に同じ。而して必ず蛹態を以て越年するに因りて復た其發育を齊ふす。幼蟲は春季はよく温所に生育し、夏季は暑熱を避けて山陰屋裏等の涼所に生育す。蛾はよく其適地を撰んで産卵す。故に山間地方は隨て其害を受くると甚し。之を以て室内一定の場所よ飼育したる經過を以て自然化育の準となすべからぞと雖ども、予が三十五年中試驗せる所を示せば左の如し。

採卵	五月二十八日	蛹化	六月廿日	産卵	七月十日	蛹化	八月一日
孵化	六月一日	羽化	七月三日	孵化	七月十五日		此蛹は越年したれども翌春稻の播種より先て蛾化したり

産卵の狀　春季稻苗に於ては葉の中央より稍尖端に近く表面に一列(稀に二列)普通五十內外を産附し(卵は球形極めて淡き黄色なり)、其上を葉の兩縁より捲き合せて膠着し、外面よりは少しも之を見るを得ざらしむ。想ふよ是れは蛾の産卵せんとするや、先づ腹端を曲げて葉の表面中央を押せば、兩縁は將

に中央に向て捲き合はせんとするの傾きを生ぞ。而して中後兩脚を以て葉の兩緣より抱て捲き合せ（脛節に生せる剛刺はよく之を支ふるに適すべし）、前脚は其捲ける葉の上を抱きながら主に前進の用をなし中後兩脚は又た其前進を助け、斯くて進行しながら產卵すれば、同時に分泌する強粘性の液は空氣に觸れて乾固膠着するなるべし。夏月に在ては葉の一緣を捲きて其內に產卵し、其數春季より少く、一ヶ所二十個內外を普通とす。是れ其稻は既に成長して葉は濶大となりて硬化し、苗葉に產附するが如く容易ならざるに因るなるべし。（5、6、7圖は雌蟲の脚を放大せるもの）

アハヨトウムシ（Leucania unipuncta, Haw.）（方言ヨドムシ又ゴンヂウ）　此蛾の產卵するや、葉莖上に數粒宛產附するとありと雖ども、是其甚だ例外なるを見る。普通は禾本科植物の莖の下方にある枯葉の上に多きは一ヶ所百粒（卵は球形淡黃色）を越て產附し、前種と同じく兩緣より捲き合せたるあり、或は枯葉の莖を離れたる葉鞘部內に產附するありと雖ども、多くは二葉を合せて卵の上を覆ひ、其內面を膠着せり、之を爲す方法に至ては、前種と大差なかるべく、而して其特に枯葉を撰むは、生葉よりは膠着に容易なるに因るなるべし。

オホズキムシ（Nonagria innocens, But.）（方言ズキムシ又メドウシ）　此蛾は必ず葉鞘內に產卵して之を膠着し、前二種と同じく毫も外面より其產卵跡を見るを得ず。其產卵の方法は、無論葉鞘內面の莖部或は新葉を把握して腹部を深く差し込み、產附するものあるべし。（此蛾も稀には葉鞘外面等に產附するものなきにあらず）

上述三種の者は共に皆な稻作の大害蟲にして、而して其卵を隱匿するとの此の如く巧妙なるが故に、農家をして其發生の初期を測知するに困ましむるものなり。然れども此巧妙なる仕方は其產卵と同時に出

來たるものにして、彼の天牛類の如く、先づ樹幹を咀み穿ちて後ち之れに產卵して其上を覆ふが如き、產卵前後に於て重複なる方法をなすに非ざるべし、彼のキンケムシ及ブランコケムシの產卵する所を實見するに、キンケムシは腹端を葉面に接し、左右前後に搖かしながら產卵すれば、体毛は同時に卵面の膠質液に附着し、ブランコケムシは前進しつゝ產卵するを以て、其体毛を附着せる卵塊は更に長大となるなり。此の如きは其例固より多く、稻に於ては螟蟲に三化螟蟲あり、夜盜蟲にスヂキリムシあり、皆母蟲が其後繼の爲めに卵を保護する巧妙なる仕方なるも、上述三種の蛾は体毛を覆はざる代りに更に一層進歩せる方法を以て其卵を保護し置くものと云ふべし。

（未完）

◎イツポン セスヂ スズメ(Theretra pinastrina mart. var.)に就きて

長野菊次郎

前號に載せたる日本天蛾類目錄中第二十九番に當れるイツポン セスヂ スズメ(新稱)は、後來日本に於て餘り知れざる種なりしが、臺灣國語學校より第五回內國博覽會へ出品の昆蟲標本中に含有せられたると、鹿兒島農學校敎諭生熊與一郎氏が鹿兒島に於て採集せられたる標本を名和昆蟲研究所に送附せられしとによりて鹿兒島並に臺灣に產することを知り得たり。特に生熊氏は之を飼育して其經過をも報せられたれば、此種に對する一層明了なる材料の調ひたるを喜び、其形狀並に經過を記すること左の如し。

成蟲　前翅は灰黃色にして前緣部及び外緣部は灰色を帶び、後緣の基部に近き部より翅尖即前緣角に向ひて走れる黑褐色の濶帶あり、此中更に二個の濃線を區別すべし。殆んど外緣に平行して走れる四個の暗線ありて、外方のものは多少波狀を呈するを常とす。中央より少しく前緣に近く黑色の室點あり。後翅も灰黃色にして、基部より中央部の過半は黑褐色を呈し、外緣部は灰色を帶びたり。裏面は兩翅共

に黄褐色にして黒褐色の微點を撒布し、外縁部は灰紫色を呈して一二條の暗帶を認むべし。頭胸部は茶褐色にして灰白色の毛にて限られ、黄金色の二縦線あり。腹部は茶褐色或は黄褐色にして、背面に一個の銀白條あり胸部に及べり。此種セスヂスズメに酷似すれども、背部に走れる銀白條の唯一本あるにより直に之を識別することを得、これ一本背筋スズメの和名を附したる所以なり。翅の展張は一寸八分乃至二寸二三分にして、躰長は一寸內外なり。

幼蟲　第一形、暗褐色にして淡褐色の細點を撒布し、背線は黒褐色を呈し、側線も亦黒褐にして眼狀紋を聯ねたり。第四節より第十節に亘り各側眼狀紋を有すること略セスヂスズメの幼蟲に均しく、其色黄にして上邊少しく紅紫色を帶び、中央黒く周圍に黒環を有せり、氣門上線は淡黄色にして、氣門下線も淡黄色なり。頭部は割合に小にして褐色を呈し、顱頂部に各一個の黒褐條あり。腹部は暗色にして、腹線は暗黒色なり、尾角は黄褐色にして其尖端黒色なり。

第二形、全躰綠色を呈するを以て第一形と區別す、然れども斑紋點條等は大同小異なるのみ。

蛹　灰褐色にして黒褐の短線及び小点を撒布し、前頭部の楔狀をなせることコスズメ及びセスヂスズメの蛹の如く、尾端に鈎刺を有せり。長さ一寸五分乃至一寸三分、幅三分五厘內外なり。

經過　卵は短卵圓形にして長徑五厘強あり、七月の頃葉裏に一粒つゝ産附す。當時は淡青色なれども漸次濃色となり、産附後二十日內外にして孵化す。孵化したる幼蟲は青綠色にして別に斑紋を有せざれども、一二回脱皮するに從ひ漸次彩色を異にし、二回脱皮後より褐色種と綠色種とを明に區別し得べし但し綠色種は胴部の斑紋褐色種に比し淡薄なるを常とす。

褐色種の二回脱皮したる當時は少しく青色を帶びて斑紋も明了ならざれども、老熟するに從ひ漸次褐色

の度を加へ、斑紋も次第に判然たるに至る、老熟したる幼蟲は葉柄間、又は根際或は他所に轉じ、稀に葉上にて粗繭を營みて蛹に化し、其まゝ越年して翌年の七月頃より漸次蛾に化し、以て前述の經過をなす。蓋し一年一回の發生なり。（食草は芋類？）

因に曰く、卷末に揭げたる圖は生態氏より送附せられたる成蟲、幼蟲並に蛹につきて余の寫生したるものにして、之が記載は余の手に成り、經過につきては生態氏の手に成りたるものなり。聊か記して其責任を明にす。

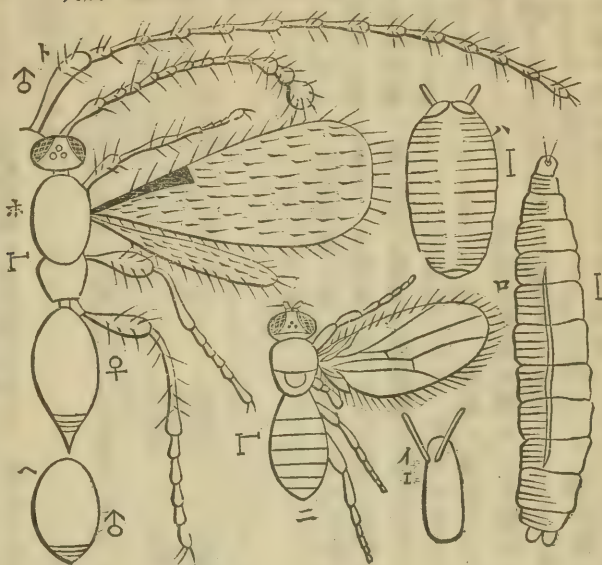
凍蠅　　蟪螟居士

不堪凜烈蟄窓隅。旭日光邊氣僅蘇。匹似當年匪御史。託身帝側避申屠。

◎シヤウジヤウバヘに就て

名和昆蟲研究所助手　名和愛吉

シヤウジヤウバヘは双翅類に屬し、方言をブイと申します。年に何回發生するかは未だ不明で御座りますが、成蟲は春より十一月頃まで常に多く居ります。然れども七八月頃に於て其の發生一番多く、澤庵漬或は酒の糟等に發生致します。其漬物に發生致しますのは、其大根を食するのでなく、大根の中に混入せる米糠を食するのでありますから、此蟲が多く發生すれば漬物の味が非常に惡くあるのみならず往々腐敗することがあります。而して此蟲は其發育期が大變短くあります。私が昨年十月八日に成蟲を採りまして飼育したるに、翌九日午后に至りて産卵致しました。其卵は三日目即十月十一日に孵化し、十九日に蛹となり、廿七日に羽化して成蟲となりました。即卵期が二日、幼蟲期が八日、蛹期が八日、都合十八日を經て成育致しました。其卵は（イ）圖の如く白色にして長楕圓形をなし、胸部ともいふべき處に二本の白き紐の如き附屬物が御座います。幼蟲は無論無脚の蛆でありまして（ロ）圖に示す如き形をしております。体は白色で、頭部は稍黑色を帶び、口部に黑色の鋭き二本の針があります。又腹部の末端

に二個の茶色の突起物がわります。其擧動は蛆のとですから蠕々としてをりますが、頭部丈は活潑ょ動かします。蛹は全身茶色にて（ハ）圖に示す如き形狀で頭部には二本の突起物と、腹部にも二本の突起物があります。併し腹部ょあるものは短くて判然致しませぬ。成蟲は翅の開張二分內外の微小種でありまして、二枚の幅廣き翅を有して居まして其翅は光線の矩合にて非常ょ美しく見へます。体の背部は茶色にして、腹面は乳白色で、複眼は朱の如く赤くあります。雄は腹端が黒色にして圓く雌は腹端の黒色の部が少なくて稍尖つてをります此蟲は十月に於て十八九日を經て成育を遂げます位ですから、七八月頃に於ては今少しく早く成育を遂げ、恐らく年數回發生するならんと想像致します。特に十二月上旬に調べましたょ、十頭中二頭位は卵を持て居るものがありましたから、或は尚十二月ょ於ても發育するかも知れませぬ。此蟲ょは（ホ）圖に示す如き一種の寄生蜂がありまして多く之れを斃します。其寄生蜂は猩々蠅よりも稍小形にして、雌は觸角が十二節で、先端の三節が膨大して棍奉狀をなし、腹部の先端が尖つてをります。雄は觸角糸狀ょして長く十四節より成り、腹部が圓くわります。

シヤウジヤウバヘの發育放大圖

（イ）は卵子 （ロ）は幼蟲 （ハ）は蛹 （ニ）は成蟲
（ホ）寄生蜂の雌 （ヘ）同雄の腹部 （ト）同雄の觸角

雜録

害蟲驅除　雄山脅嶽

寄語先春害蟲除。此言已載道家書。記否寒天盈尺雪。遺蝗入地十尋餘。（註。道家書云。蝗生子入地。雪一尺。蝗子入地一丈云々）

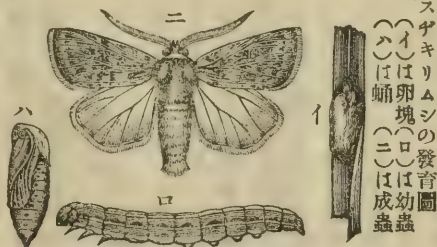
◎稻の螟蟲に就き雜感（上）

北總　大竹義道

稻の害蟲類中一にして足らずと雖も、其最も恐るべき害蟲は古來より當業者の知れる螟蟲と浮塵子の二種なるが故、此蟲類の驅除豫防に付ては古書類に點火誘殺の事說明しあるも、當時は夫等蟲類の習性變化期に關して研究したるものなきを以て、單に點火の有効なるを述ぶるとも甚だ曖昧なる說明に過ぎざりき。然るに明治の聖代となるや、學理の歐米より輸入せし以來、螟蟲浮塵子の小蟲に關し研究せんと欲するもの續出せり。されど其蟲類の習性と產附せる卵塊を明瞭ならしめし後、當業者の多數が夫等害蟲と卵塊を知悉するに至りしは漸く近年のことなりき。

農商務省は去る明治十八年九月、農工商公報第七號と、又當時掛軸ものとせらるべき一枚の紙に螟蟲圖解なるものを寫出し、即ち稻の被害狀態に併せて其成蟲仔蟲蛹及び卵塊まで放大に描き出し、尙は着色までもなし、明晰に解說して、其刊行物を穴山有隣堂にて廣く販賣せられたり。玆に於て郡役所又は斯業改良に熱心なる者は、其掛軸を表裝なし、出入口にして人の眼に觸れ易き場所に掛け置き、螟蟲の驅除の忽かせにすべからざるを努めたりき。之れに由て螟蟲一世の經歷と、其驅除法などの大要を知了するを得たり。然るに現今採卵に最も効あるとて勸誘する其卵塊の說明に曰く、蛾は夜陰に交て百顆內外の卵を稻葉に產附け、尾毛を拔きて之を被ふ云々とありしが故、當時自分始め何人も螟蟲の卵塊は然るものと固く信ぜしを以て、今日知れる二化螟蟲の卵塊の如き形態を知悉するものなかりき。是れ皆農商務省農務局の刊行せる圖解は必ず研究上の結果なれば、確かなるものと信じたれば、苗を拔きとるときなど眞の二化螟蟲卵塊は目に觸るゝことあるも、之れは卵塊と認めず、尾毛を被ひある卵塊のみに何人も着目したるならん。余も亦其一人なりき。斯の如く尾毛の被ふたる卵塊に着目するも發見することなきが故、常に不審に思ひをなし居れり。其後年を累ね九州の特產なる三化生螟蟲の卵塊は尾毛を覆ふも二化生螟蟲の卵塊は尾毛を被ひあることなし云々との說を聞知せし以來、苗代にありて能く注目せしに、嚮に信ぜしものとは大に異なる卵塊を發見し、其孵化如何に就き着目したるに、孵化せる微細の仔蟲を認め飼育するに苗の莖內に蝕入せしを以て始めて螟蟲の卵塊たるを余は知悉するを得たりき。

斯くて余は二化螟蟲の卵塊を始めて知る後、某日耕地を巡視中稻葉に尾毛を被ふたる卵塊を折々發見したることありたれば、是れ或は九州地方にありて大害を釀せる三化螟蟲の卵塊ならん乎と疑ひ、其卵塊を摘採し、養蟲箱に容れ置きしに一兩日を經て孵化し始めたり。其幼蟲を撿蟲鏡に照らし睹るに、頭部大

にして腹端部に至るに從ひ細形をなし粗毛生しあるを以て、多分三化生の螟蟲ならんと思ひて其擧動を注目せしに、毫も稻莖に蝕入することなく、只々其稻の莖葉を爬行して他へ逃げ去らんとしつゝありて、遂に孰れかへ逃げ去りて其姿を視失ひたりき。其後即ち去る明治廿九年十一月五日、靜岡市に於て五縣聯合共進會褒賞授與式擧行の際名和氏に面會したるを幸ひ、其不審なる卵塊に就き質問したるに、氏の云はるゝには、未だ飼育と研究したるなきを以て如何なる害蟲なるか承知せざると雖も、惟ふに其卵塊は畦畔又は水田の路傍に近き稻葉に産附しありて、中央邊の稻葉に發見することなきものゝ如きを以て見れば多分稻葉に一時寄りたるまでにて其實稻の害蟲にてはなかるべしと云はれたり。其後事情ありて之が卵塊に就き研究することなかりし。然るに余當千葉縣に來りし後、耕地の畦畔路傍の雜草又は稻葉に産附しある此卵塊を屢々發見せる折り、當業者の示導に立つ人にして聊か害蟲類に注目せる人々が此卵塊を認むるや、是れは螟蟲の卵塊なりと語りて説明するもあり、然らざれば三化螟蟲の卵塊なりと信じ、當業者間に吹聽するもののあるを聞き余は去る三十一二年頃、此卵塊より孵化せる蟲を何とかして飼育し、如何なる害蟲なるか其變体習性を確めたく思ふ折から、偶々路傍に自生しある方言ハグサ（禾本科植物に屬す）と稱する草の葉に産附しある此卵塊を發見したるを以て、愈々飼育することゝなせり。即ち養蟲箱に入れ置きしに、孵化後は多數の幼蟲は其葉の緑肉部を好んで食し居れり。而して眠起蛻皮後は蟲体變色して、成長するや葉の脉を殘し緑肉は悉く食ひ盡せり。此塲合には更に路傍より新鮮の同草を取り來りて供せり。斯くて初冬頃となるや、十數疋は箱内を爬ひ廻はりて潛伏所を需めんとするものゝ如き状態をなしたるを以て、藁等を入れ置きたるに皆な陰匿所を需めて潛伏せり。其後蟄伏所を密かに窺ひ視るに、孰れも皆死し居れり。甚遺憾に思ひたれども、是れ彼等が蛹態に變化すべき適當の何か或るものゝ欠乏せるより死せしものならんと察せられたり。斯の如く此蟲の成蟲に至るまで變体し其習性を確かむるを得ざりしも、嚮に名和氏の云はれたる通り稻の害蟲でなく、偶々稻葉に産附しあるは一時寄りとなしたることを明かにせり。且此仔蟲は螟蟲の如く決して莖内に侵蝕する性でなく、唯々禾本科に屬するものゝ草にして路傍等に自生しある草稗の如き、其葉の硬はき緑肉部を嗜好する害蟲なるを確むるを得たるは、聊か余

スヂキリムシの發育圖
（イ）は卵塊（ロ）は幼蟲
（ハ）は蛹（ニ）は成蟲

の滿足する處なりき。

斯て年も過ぎたる三十三年五月、名和昆蟲研究所主催となり全國昆蟲展覽會開かれたれば、斯學研究の參考にもと該所に到りし際、此害蟲に就き質せるに、同所に於ても既に飼育研究せられたることとてスヂキリムシと命名せられたる由にて其成蟲を示されたるを以て、余は大に滿足し感謝を述べり。熟々思ふに曩に農務局にて圖解を以て示されたる二化螟蟲の卵塊が尾毛を被ふと說明せられしは、此スヂキリムシの卵塊を誤認せられしものならん歟、然らされば當時昆蟲學甚だ幼稚なればとて、二化螟蟲の區別知るものなきが故、九州地方に見る處の三化螟蟲の卵塊は二化螟蟲の卵塊と大に異にして卵塊らしくもあり亦認め易きより、皆な此の如く尾毛を被ふたるものと信じ描き出されたるものならん乎。

昆蟲類に就き自ら飼育研究せざる人にありて、啻に今も公然其陳腐に歸する圖解を見て、尾毛を被ふたる卵塊は螟蟲の卵なりと說明しあるものなきに非ざれば、稍冗長を省みず乍序爾に研究せし事實を附記す。

◎螟蟲驅防奬勵展覽會準備記事（第六）

蟲の家主人

（二九）嚴寒の爲螟蟲果して凍死せしや　本年は近年稀なる寒冷なれば、爲に各種の害蟲は素より藁稈並に刈株中に潛伏し居る所の螟蟲をも凍死せしむるに至りしが如く世間に吹聽するものあり、嚴寒素より越冬の昆蟲に不利益あることは明瞭なれども果して凍死せしむるや否に至りては、詳密なる實驗を經るにあらざる以上は到底信ずること能ざるべし。現に此頃も長期講習生をして種々調査せしめたるに殆んど凍死したるの徵候を見出すことなきのみならず、數十頭の螟蟲をとり水を盛れる瓶中に數日間投入し置くも決して死することなく、屢々水面に來りて空氣を呼吸し居れり。然るに自然に於ては是れより一層巧みに生活し居るものなれば、豫想の如く凍死すべきものにあらざれば決して安心すべからざるなり。此際宜敷實地に就て詳細調査あらんことを希望して止まざるなり。

螟蟲刈株中に潛伏の圖

（三〇）螟蟲防除の懸賞募集　大日本農會に於ては今回稻螟蟲防除方法懸賞募集せらるゝことを、本年一

月發行の該會報に於て發表せられたり。當主人は螟蟲驅防奬勵の爲には展覽會は愚か博覽會迄開設しても害蟲の大王を打斃さんとて是迄屢々記載し來りしが、今回の懸賞募集こそ螟蟲軍を斃すの時期到來せりと大ひに喜べり。願くば立派なる作戰計劃の方法を提出せられんことを國家の爲に切望す。今玆に其主意幷に應募規程を左に記載せん。

稻米は今日我が農産の主腦たるのみならず實に一國經濟の中樞となり、之が豐凶は直に物價に影響し、勞働賃金の如き常に平準を米價に取れり。是を以て稻米の耕種管理等に於ては、夙に學者當業者の研鑽攻究到らざる所なく、其成績大に見るべきものあり、之が收穫の如き既往に徴して增大を致せるものあるは明かなるの事實なるべしと雖も、又一方を顧れば、農業の開くるに隨ふて害蟲の發生分布漸く廣く、且蕃くして其被害の爲めに瞑々裡に銷耗を致せる甚だ多大なるものあり、其害蟲の種類や少なからずと雖も、彼の稻螟蟲の如き其蕃殖頗る强盛に、其分布の區域甚だ廣大にして之れが被害の慘劇なる、他の害蟲類に比して遙に深大なりとす。之れが慘害の情狀を想見し、之れが損耗の數額を推算せば、心を寒からしむるものなからずや。稻螟蟲防除の事たる、各地に於て攻究討覈措かざる所なりといへども、未だ名案の以て廣く適用普及せられあるもの之なきが如し。人智を極め方法を悉し、以て之れが勦滅を畫せずして可ならむや、依て本會は懸賞を以て之れが豫防驅除の良法を索めて大に康濟する所あらむとす。本會々員諸君の奮て應募あらむことを望む。

▲懸賞應募規程

一　本會に於て懸賞を以て稻螟蟲防除方法を募集す其方法は自家の創案研究に係り且廣く適用普及せしめ得べきの方法たるを要す

一　二化性螟蟲と三化生螟蟲は之を各別に記述せらるべし。一　應募答案の記述は可成詳細に字體判明なるべく且驅除用の器具等解說を以て悉し得られざるものは成るべく實物を添ふるを要す。一　應募答案の上封及之に屬する器具の包裝には必ず「懸賞應募」の四字を明記して東京市赤坂區赤坂溜池町一番地大日本農會事務所宛回送せらるべし。一　應募者は本會々員に限る。一　應募答案の受入期限は來る五月末日限りとす。一　應募答案は本會に於て選定したる審査委員之を審査す。一　審査委員は本會に於て適當の人士を選定して之に委囑す。一　審査委員の審査判定により其優等のものには左の等級に依て賞金を贈與す

一等賞　金壹百圓　　二等賞　金五十圓　　三等賞　金三十圓

一　審査の決定に對し異議を唱ふるを得ず。一　應募答案は凡て之を返附せざるものとす。

◎昆蟲文學（二一）

蜂　　皜堂逸士

慘憺荒園正隕霜。蠟梅誕謾逗陽光。一枝斜影擎寒日。粘着凍蜂攀蘂黄。

蟻　　竹東庵主人

曾求香餌忍炎天。冬日穴居閑就眠。可笑雪中饑餓者。不如微蟻一身全。

螟蟲

これやこの國ぬすむ可く藁のなかに冬ごもりせり稲の螟蟲　神村直三郎

貝殻蟲

桑の樹に貝殻蟲のましろきを消へのこりたる霜かとぞおもふ　高杉なほ子

カラクダシ

きさらぎのなほさむけきにカラクダシ去らでひそめる稲の苅株　豊福正

蝶

標本の數美しき蝶蝶哉　轉轉

蝶二つもつれて垣を越しにけり　城東

蝶一つ小さきが飛ぶや庭の隅　無能

採集に蝶先づ得たる嬉しさよ　福勳子

蝶日記都の姉に送りけり　冷泉

雨晴れて庭ひろびろと蝶の飛ぶ　三竿

蝶追ふて橋なき川に出たりけり　村學究

蝶蝶や借家をさがす町はづれ　比刀

雛干す椽に舞ひくる蝶蝶哉　遲日

蝶一つ餘寒の園生飛びにけり　歸麓園

うなゐらに追はれし蝶の二つ三つ文よむ窓にのがれきにけり　（いせ子）

調査

◎愛媛縣産の昆蟲（二）

愛媛縣周桑郡小松町　矢野延能

標本第二號、擬尺蠖蛾科、アケビノキノハガモドキ（Ophideres? sp.?）明治三十六年九月十三日鐘鑄原に於て、梨果新聞紙反古包の日を經ざるものを透徹して吸收中採集。此種は第一號に酷似し、少しく小形にして、後翅の翅頂の方にある黒斑廣大にして全く翅頂に達するを著しき差違の點とす。九月一日御代島に於ても梨果吸收中一頭を獲たり。其他まだ採集し得ず。

調査主任云、此種は始めアケビノキノハガの變種には非らざるかを疑ひ、再び送附を乞ひて調査したるに、全く別種なりき。故にアケビノキノハガモドキの新稱を附したり。今其異同の点を擧ぐれば、頭部及複眼は彼れに比し大にして、下唇鬚は彼の如く發達せず先端に毛塊を有せずして細く紫藍色を帶ぶ。胸部は比較的小にして、頭部と同じく、又彼の如く又紫藍色を帶び、腹部は橙黃色を呈す前翅は色彩斑紋殆んど全く彼に酷似せるも、前緣角は彼れの如く細く尖らず且つ後緣は急に凹陷せざるなり。後翅に於ける帶紫黑

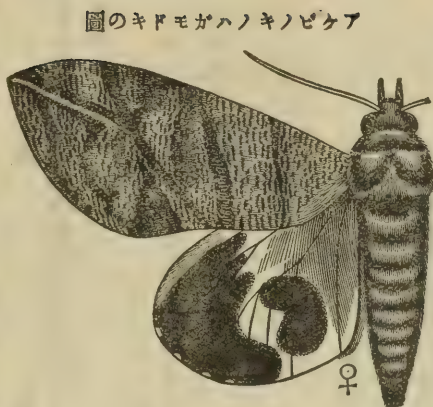
色の巴狀二紋は外方のもの廣大となりて邊緣に達す。裏面は又彼種の如きも帶紫黑色の斑紋廣大となり、橙黃色部少なし。

標本第十三號、綴蟲蛾科、コメツヾリムシ(Melissoblaples tenebrosus, But.)　此種は當地方玄米害蟲の著しきものにして、毎俵(四斗二升乃至四斗五升入)三四升の被害あり。六七月頃米の綴らるゝもの、殆んど此害あらざるはなし。年一回の發生にして、五月中旬乃至六月上旬に羽化し、俵の外部に產卵し、孵化の幼蟲は七月上中旬迄米粒を蝕害し、其間に結繭蟄伏す。俵を動搖せば驚き慌てゝ俵外より出で、柱屋根裏等木材の透間に蝕入し、結繭蟄伏し(其繭の色は木材の色に同じ)翌年化蛹す。

調査主任云、此種の和名は從來キツヾリムシとあるも、矢野氏の意見の如くコメツヾリムシと稱する方適當ならんと信す。

アケビノキノハガモドキの圖

♀

標本第十四號、葉捲蛾科、マメノシンムシ(Gn.? sp.?)　此種の幼蟲は明治三十六年一月上旬小松町附近に加害甚しく、二月上旬東豫四郡分布調査の結果、周桑、新居の二郡發生最も多く、宇摩、越智二郡は稀少なり。其後溫泉郡に於ても發生を認めたり。被害の甚しきは早播の蠶豆にして、一月上旬六七本の枝を生せるもの悉く其枝端の嫩葉を綴り、蝕害中の幼蟲各數頭棲息せり。早きは既に莖の心髓より蝕入して莖葉枯凋黑變せるあり、二三月に至りては往々全圃綠色を認めざるの慘狀を呈せり。其後蠶豆の成熟前第二回、畦大豆の發芽前後第三回、爾來尙三四回發生し、大小豆を害し、終に再び蠶豆に加害中なり。夏期に於ては畦大豆被害最も甚しく、七月中旬頃には殆んど株の絕えんとするものあるを認めたり。豆類の枝端より此害あるを認めたるときは速に其部分を摘み採るは唯一の驅除法あるが如し。成蟲は燈火に集まるの性あり。本年蠶豆に稀有の大害を加へたるは獨り此種に限れるが如く大豆には他種を混せり。

調査主任云、該蟲は某農事試驗場にて調査の結果螟蟲蛾科に屬する旨附記しありしも、其送附せられし標本につき調ぶるに、葉捲蛾科(Tortricidae)に屬するものにして螟蟲蛾科に屬するものにはあらざるなり。

標本第十五號、巴紋蛾科、フクラスヾメ(Cocytodes modesta, Guen.)　此種は三十六年十一月上旬以來二階の一室に入り來るもの、尙十二月末より至る迄點々止まず總數七頭を獲たり。而して此種は晝間靜止

し、夜陰に際し飛翔するも曾て夜中戸を開くことなし、只北方二三の柿樹に對せる雨戸の戸尻に透間あり、或は此間より入り來るもの乎、毎度居ながらに採集しつゝあり。（編者云、本誌本號の口繪及學說を參照せらるべし）

號外、シモフリスヾメ(Meganoton increta, Walk.)、オホクロクモガ(Orthogonia sera, Fel.)。

◎靜岡縣志太郡產の蝶類

靜岡縣志太郡豐田村　增井林太郎

調査主任云ふ、茲に掲ぐるものは增井氏が昨三十六年中志太郡内に於て採集し、分布調査の材料にもとて送附し越されしものなり。

カラスバアゲハテフ（八月八日高草山にて採集）、クロアゲハテフ（八月九日蜜柑の樹にて）、キアゲハテフ（四月廿四日）、アゲハノテフ（四月二日飼育羽化）、モンキテフ（四月五日採集）、キテフ（十月十五日）、ツマグロキテフ（十月二十六日）、ツマキテフ（四月七日）、モンシロテフ（四月五日）、スヂクロテフ（四月十二日）、アサギマダラテフ（十月十八日山地にて）、アカタテハテフ（八月二十一日）、ルリタテハテフ（八月廿六日）、ヘウモンテフ（六月廿六日山地にて）、ミスヂテフ（五月十一日山地にて）、ヒオドシテフ（六月二十日）、コムラサキテフ（五月廿四日柳樹にて）、ウスイロコジャノメテフ（九月七日）、キマダラテフ（四月廿四日高草山にて）、ヒメジャノメテフ（九月十九日）、ジャノメテフ（六月五日山地にて）、ヤマトシジミテフ（十月二十六日）、ベニシジミテフ（三月十八日）、アカシジミテフ（十月廿六日山地にて）、ルリシジミテフ（十月十八日）、クロハナセセリテフ（七月廿六日山地にて）。

雨止んで
葉裏の胡蝶
飛びにけり
（城東）

◎博覧會出品害蟲標本及調査解說書（二等賞）

滋賀縣農事試驗場

解說書

部	類	番號	品名	出品人
第一部	第八類	第一號	浮塵子并に其被害稻莖寫眞	滋賀縣農事試驗場

飼育地　滋賀縣滋賀郡膳所町に於て採收し、滋賀縣農事試驗場養蟲室に於て飼育せり。

種類及經過習性

種類名	變態	一化期	二化期	三化期	四化期	五化期	習性
褄黑横這	孵化	五月	七月	八月	九月		年四回の化生を營み、幼蟲態にて越年す。成蟲は稻の葉鞘中に鋸齒狀の産卵器を挿入し、十七乃至二十五の卵子を横列に産附す。成蟲及幼蟲共に稻の養液を吸收して遂に萎縮せしむ。
	羽化	六月	八月	右同			
	産卵	七月	右同	九月			
電光横這	孵化	五月	六月	七月	八月		年四回の化生を營み、卵子にて越年す。成蟲は稻葉の表面より其組織中に鋸齒狀の産卵器を挿入し、一粒宛産卵す。一頭の産卵數は二十粒内外なり。而して成蟲及幼蟲共に稻の養液を吸收して、黃褐色に變じ、遂に枯死せしむ。
	羽化	六月	七月	八月	九月		
	産卵	右同	右同	右同	右同		
鬚丸横這	孵化	五月	六月	七月	八月	九月	年五回の化生を營み、幼蟲態にて越年す。成蟲は稻の葉鞘中に鋸齒狀の産卵器を挿入し、七八粒若しくは二三十粒の卵子を産附す。而して一頭の産卵數は三四十粒なり。成蟲及幼蟲共に稻の養液を吸收して煤黑色に變じ、九十月に至れば遂に枯死せしむ。
	羽化	六月	七月	八月	九月		
	産卵	右同	右同	右同	右同		
褐色横這	孵化	六月	八月	八月			年三回の化生を營み、卵子或は成蟲にて越年す。成蟲は稻葉の表面より鋸齒狀の産卵器を挿入し、一二粒宛産卵す。一頭の産卵數は十五乃至二十粒なり。成蟲及幼蟲共に稻の養液を吸收して、大に其生育を妨ぐ。
	羽化	七月	右同	九月			
	産卵	右同	右同	右同			
白色横這	孵化	四月	五月	七月	八月		年四回の化生を營み、卵子にて越年す。成蟲は稻の葉鞘中に鋸齒狀の産卵器を挿入し一二粒づゝ産卵す。一頭の産卵數は二十乃至二十五六粒なり。成蟲及幼蟲共に稻の養液を吸收して、大に其生育を妨ぐ。
	羽化	五月	六月	右同	右同		
	産卵	右同	七月	右同	九月		
二星横這	孵化	六月	七月	八月	九月		年四回の化生を營み、成蟲態にて越年す。成蟲は稻葉殊に中肋の部分より鋸齒狀の産卵器を挿入し、一粒づゝ産卵す。一頭の産卵數は十乃至十五六粒なり。成蟲及幼蟲共に葉の表裏に在りて養液を吸收し、白線を生せしめ、大に其生育を妨ぐ。
	羽化	七月	八月	九月	十月		
	産卵	右同	右同	右同	右同		

大横這			
孵化	四月	七月	八月
羽化	五月	八月	九月
産卵	六月	右同	十月

年三回の孵生を營み、卵子にて越年す。成蟲は稲莖若しくは桑樹の表皮中に鋸齒狀の産卵器を插入し、十四五粒の卵子を産附す。其狀恰も新月形の如し。成蟲幼蟲共に稲及桑の液汁を吸收して、大に其生育を妨げ、桑の嫩芽の如きは之が爲めに枯死す。

効用　農作特に稲作上有害なる、浮塵子の主なる種類に就て、其變態の順序を知らしむるにあり。

解説書

部 類 番 號	品 名	出品人
第一部 第八類 第二號(甲)	浮塵子被害稲標本	滋賀縣農事試驗場

産地及土質　滋賀縣近江國滋賀郡膳所大字別保町所在の産にして、土地は中等田粘質壤土なり。

播種、插秧及採收　比重一、一三の塩水にて撰種し、五日間浸漬して五月二日に至り、方五寸間に籾種百粒を播下し、後害蟲の來襲を防ぐ爲め高さ四尺五寸、幅一尺平方にして、二面硝子板張他の二面及上部(天井)寒冷紗張の箱を覆ひ、六月二十三日、之と同一の箱を五尺の距離に据付け、其中央部に一株四本の割にて插秧し、十一月十五日採收せり。

培養及保護　苗代肥料は一坪に付き人糞尿六百匁、過燐酸石灰九匁、藁灰五十匁を施し、本田にては化學肥料を用ふ。其主成分一反歩當窒素二貫五百匁、燐酸一貫五百匁、加里二貫匁を施し、插秧後三日を經て浮塵子を放ち、其蕃殖するに任せて被害せしめたり。

効用　浮塵子の種類、浮塵子(褄黒横這)蟲數の多少及浮塵子(褄黒横這)被害日數の長短等に依て、稲作に及ぼす被害の狀況を示し、依て以て驅除の忽にすべからざるを知らしむるにあり。

解説書

部 類 番 號	品 名	出品人
第一部 第八類 第二號(乙)	浮塵子被害稲標本	滋賀縣農事試驗場

産地及土質　産地は滋賀縣近江國滋賀郡膳所町大字別保にして、土地は中等田粘質壤土なり。

播種插秧及採收　比重一、一三の塩水にて撰種し、五日間浸漬して五月二日に至り、方五寸間に籾種百

粒を播下し、後害蟲の來襲を防ぐ爲め高さ四尺五寸、幅一尺平方にして、二面硝子板張、他の二面及上部(天井)は寒冷紗張の箱を覆ひ、六月廿三日、之と同一の箱を五尺の距離に据付け、其中央部に一株四本の割にて挿秧し、十一月十五日採收せり。

培養及保護　苗代肥料は、一坪に付人糞尿六百匁、過燐酸石灰九匁、藁灰五十匁を施し、本田にありては化學肥料を用ふ。其主成分一反歩當窒素二貫五百匁、燐酸一貫五百匁、加里二貫匁を施し、挿秧後三日を經て浮塵子を放ち、其蕃殖するに任せて被害せしめたり、

効用　本縣下に於て專ら栽培する稻種に就き、浮塵子(棲黑横這)の被害に對する稻種の强弱を示し、併せて該蟲被害の如何に恐るべきかを知らしむるにあり。

◎新潟縣岩船郡神納村產の蟲報

新潟縣岩船郡神納村　佐藤榮

明治三十六年六月より十月に至る五ケ月間、當神納尋常高等小學校生徒五名をして放課後及日曜日に於て神納村地內を採集せしめたる結果左の如し。

(直翅目)蠼螋科　オホハサミムシ●蜚蠊科　ゴキブリ●蟷螂科　カマキリ●蟲螽科　イナゴ、バツタ、クルマバツタ、ヒシバツタ、シヤウリヤウバツタ●螽蟖科　キリギリス、ヤブキリ、ウマオヒムシ、ヒゲナガササキリ●蟋蟀科　ゴホロギ、スヾムシ●(擬脉翅目)蜻蛉科　サナヘトンボ、ヤンマ、オニヤンマ、シホカラトンボ、ノシメトンボ●豆娘科　ハグロトンボ、キイトトンボ●(脈翅目)蛟蜻蛉科　ウスバカゲロフ、ホシウスバカゲロフ●長角蜻蛉科　ツノトンボ、キバ子ツノトンボ●擧尾蟲科　シリアゲムシ●(毛翅目)石蠶科　ヂムキカゲロフ●(有吻目)蟬科　アブラゼミ、ニイニイゼミ、エゾセミ、チツチセミ●浮塵子科　オホツマグロヨコバヒ、ヨコバヒ●水黽蟲科　タガメ●(双翅目)喰蚜虻科　ヒラタアブ●食蟲虻科　ムシヒキアブ、シホヤアブ●大蚊科　キリウジカガンボ●(鱗翅目)尺蠖蛾科　エダシヤクトリガ●巴紋蛾科　トモヘモンガ、オホトモヘモンガ●天蛾科　スズメガ、エビガラスズメ、ベニスズメ●蠶蛾科　クワゴ●天蠶蛾科　ヤママユガ●赤頭蛾科　ホタルガ●鹿子蛾科　カノコガ(此外蛾類數十種あれども名稱不明なれば後報に讓る)●小灰蝶科　シジミテフ、ベニシジミテフ、トラフシジミテフ●挵蝶科　ハナセセリ、イチモジセセリ●蛇目蝶科　ジヤノメテフ、ヒメジヤノメテフ、キマダラテフ、ウスイロコジヤノメテフ●蛺蝶科　ヒオドシテフ、イチモジテフ、アカタテハテフ、ミスヂテフ、ヘウモンテフ、ルリタテハテフ、メスグロヘウモンテフ●斑蝶科　アサギマダラテフ●粉蝶科　モンシロテフ、モンキテフ、ツマキテフ、キテフ、ツマグロキテフ●鳳蝶科　アゲハノテフ、キアゲハテフ、クロアゲハテフ、カラスバアゲハテフ、ニツクワウシロテフ●(鞘翅目)象鼻蟲科　オホゾウムシ、リンゴノゾウムシ●天牛科　カミキリムシ、ベニカミキリ、トラ

カミキリ、クハカミキリ●金龜子科　コガ子ムシ、マメコガ子ムシ、ヒメコガ子ムシ、ビロウドコガ子ムシ●鍬形蟲科　クワガタムシ●螢科　ホタル●叩頭蟲科　コメツキムシ、オホコメツキムシ●吉丁蟲科　ウバタマムシ●瓢蟲科　ナナホシテントウムシ、アカホシテントウムシ、ヒメアカホシテントウムシ、廿八星テントウムシ、ムザテントウムシ、●黑水蟲科　ガムシ●龍蝨科　ゲンゴロウムシ、コガタノゲンゴロウムシ●斑蝥科　ミチオシヘ、ヒメハンメウ●（膜翅目）鋸蜂科　カブラバチ●蟻科　アリ、クマアリ●胡蜂科　アシナガバチ、スズメバチ●細腰蜂科　ジガバチ●蜜蜂科　オホマルバチ、ミツバチ

◎昆蟲に關する葉書通信（三十八報）

●（一二三）島根縣下に於けるサンホゼー貝殼蟲（島根縣、田中房太郎）　近來歐米諸國に於て植物に害毒劇甚にして凶惡怖るべき有害蟲として囂々論議する所のサンホゼー貝殼蟲は、我島根縣下松江附近の梨樹に發生せるものを發見す。又同時に之を斃す所の寄生菌が繁殖せるものをも發見し、本病菌は西ヶ原農事試驗場の調査によれば猩紅菌と名命せられたり。抑も斯のサンホゼー貝殼蟲の我縣下に傳はりし原因を調査するに、明治十二年東京勸農局三田育種場より西洋梨、林檎の苗各數百本島根縣植物試驗場へ下付せられ、又是れと前後して同場より東京川崎產の梨樹苗各種を取寄せ試植せられたり。而して洋種の梨、林檎は風土の適せざるより漸次絕へ、現今川崎產の梨樹は各地栽培し、之にサンホゼー貝殼蟲寄生して、從來種に發生せるものを見ず。依之觀是、元勸農局より下付せられたる洋種の梨樹、林檎苗に寄生し、之と同時に日本梨に移り漸次に蔓延したるものなるべし。

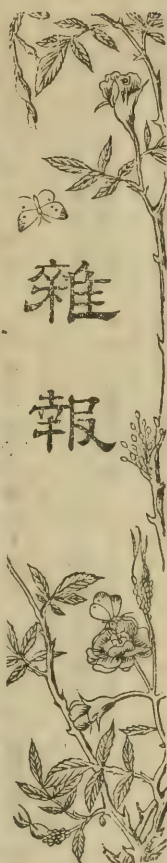
●（一二四）豌豆象鼻蟲に就て（靜岡縣、神村直三郎）　本紙第七十四號昆蟲翁の隨感隨筆中エンドウノザウムシの記事あり、予の實驗は少しく相違の點あるを以て一言これを申さん。曰く、昨年七月上旬對馬國の被害豌豆を得てこれを見るに、豆粒の一側所に於て圓形に變色したるところあり針にてこれを發けば中には已に成蟲に化したる象鼻蟲あり、又變色部なき豌豆粒を取りて擢き見るに、象鼻蟲の幼蟲居れり。因て之を小箱內に飼養せるに、七月廿四日初めて二頭羽化し、其後引續き二三頭づゝ出たり。昆蟲翁は九月下旬と言はれしが、少しく期日に相違あるに任せて一筆報知仕候。

●（一二五）野生蛆蠅に就て（岐阜縣益田郡川西村、松下千吉）　今や我國殆んど二百餘万の養蠶家をして一般に損失を來さしむる彼の蠁蛆の害年々全國を通して大約一千万圓以上の多額に及び、國家經濟上大ある影響を及ぼし、當局者は種々の方法を以て是れが驅除豫防に盡力しつゝあり。而して尙一種特別の

野生蛆蠅ありてクハゴに寄生し、其蕃殖の甚しき實に驚くに堪へたり。然るに此蛆蠅たる幸に桑樹の害蟲なる野蠶を斃死せしむる益蟲なれば、却て繁殖を謀らざるべからざるも、若し家蠶にも寄生するものならしめば、何ぞ之が研究を等閑に附すべけんや。該蛆蠅に就ては已に本紙上にて山口縣小田勢助君其大要を述べられたり。余も亦同時小田君と農商務省京都蠶業講習所開催の蠶病消毒講習會へ入會研究中。彼の桑園にて一の野蠶を採り親しく檢するに、數個の卵塊蠶躰の所々に附着し、恰も病蠶と異ならず。偶當所の技手下井君是れ一の野生蛆蠅の卵子ありと、而して其發生經過は年二三回にして俗に多化性蛆蠅とも云ひ、清國の野蠶寄生蛆蠅に類似し、蛆の長さ凡そ八ミメ、成蟲は雌雄身長殆んど同じく一二ミメ、頭は銀色なり。複眼は暗褐色にして、頭上三個の單眼を有し、胸部の背面に四本の黒線縱にあり、腹部は四關節よりなり、背面に黒毛を生ず。卵は凡そ一ミメにして蠶躰に附着して三十時間にて孵化し體内に侵入すと。余が昨年九月廿四日講習所桑園にて採りたる野蠶の繭一個より七八頭の蛆發生し、十一月上旬頃迄に悉く成蟲となれり。惜い哉其儘殺して保存せしのみ。然るに幸にも本邦未だ家蠶に寄生せしを聞かずと雖も、果して其無きや否やは未だ判然せず。然れども若し斯る蛆蠅の家蠶に寄生するに當りては、春夏秋の豐蠶を得ざるは豫め知るべきなり。故に此の際當業者は宜しく之が研究を忽にすべけんや。

●●●

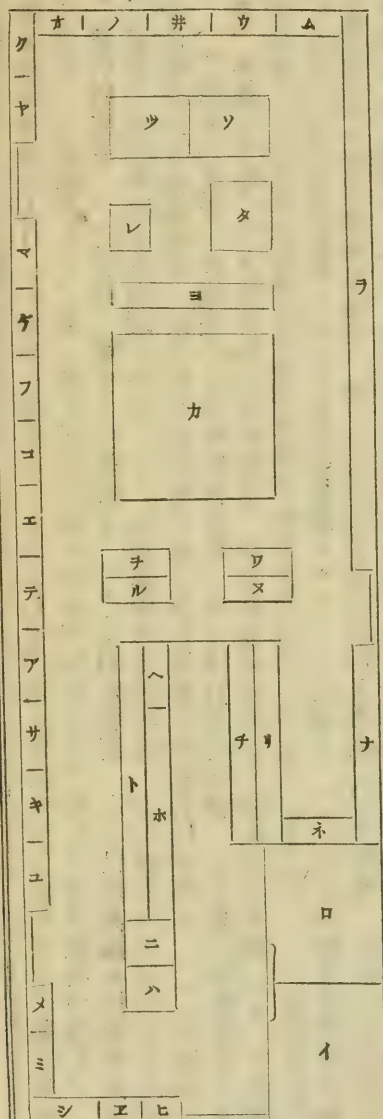
（二二六八）桑樹害蟲驅除勵行（京都府與謝郡、山崎久藏）　京都府令及郡長の訓示により桑樹害蟲の中貝殼蟲、姬象蟲、桑天牛の三種に就き、昨冬十二月中旬より十日間に與謝郡壹圓の驅除命令あり、視察として京都府屬、郡農會長及同業蠶糸組合技手を派し、實行の績を擧げんと勉めたり。各町村に於ても役場員、農會員等の監督以て怠りなく、施行の順序立たり。

雜報

泉水の上を
飛びけり
鳳　蝶
（殘蝶）

◉昆蟲標本陳列館案內（其一）　岐阜縣物產館構內にある當昆蟲研究所常設の昆蟲標本陳列館は、五間に十六間なる面積八十坪を有するものにして、去る明治三十四年八月十五日を以て始めて公衆

の縦覧を許すこと丶なり、爾來實業家といはず學生官吏を撰ばず、苟も來岐者は縣の内外を問はず、殆んど一覽せざる者なきが如し。其今日に至る迄の人員實に十六万三千九百八十八人（一月三十一日調）の多きに達し、年は一年と縱覽者の注意深く、大に得る所あるのみならず、漸次縣内は素より、縣外の各種學校よりは豫め説明請求の照會ありて、後始めて數十名乃至數百名の學生を引卒して修業旅行を當地に行はるゝに到れり。當陳列館の如何に世人に賞讃せらるゝかは、此一事を見ても想像し得らるべし。故に當所は增々陳列館の改良を必要とする所あり。當陳列館内には監督室あり其傍らに特別研究室ありて斯學研究者の便を計れり。該建築は丈高きを以て大形の掛圖等は總て高所に掲げたり。當館内の陳列品は、入口に於て先づ小兒婦人の眼を惹く所のものを始め漸次高尚の標本を陳列し、尤も終極点に到りて稻桑其の他重要作物の有害蟲標本を陳列したり。是れ少しく意のある所にして、即ち有名の害蟲は常に微小にして然も見るに足らざる形狀を爲し、現に明治卅年に七千五百萬圓の損害を與へたる浮塵子の如きも一指頭能く十數頭を壓殺し、一呼吸能く數百頭を吹き飛ばすが如きものなれば、誰か能く是れを見て尤も恐しきものと感ずるものあらんや。故に眞面目に是は大害蟲なりと最初より説明せば、却て素人に取りては五月蠅く思ひ之れを見るもの少なければ、自然に興味あるものより陳列し知らず識らずの裡に是等を記臆せしめんとするが爲めなり。是れ恰も神社佛閣に於ける奥の院とも稱すべきものならんか願くば覽者能く其邊に注意して熟覽あらんことを乞ふ。

昆蟲陳列館平面圖

（二百分ノ一）

第二版下圖は當陳列館の入口より內部を撮影せしものにして、殆んど其半ばを表現せり。玆に揭ぐるものは該館二百分一の縮圖にして、即一間を三分に縮めたる平面圖なり。而して其符號次の如し。（イ）監督室　（ロ）特別研究室　（ハ）昆蟲に關する白墨細工　（ニ）昆蟲回轉器　（ホ）巴里萬國大博覽會出品昆蟲標本　（ヘ）篏裝式寫生用標本及蟲癭の各種　（ト）昆蟲模樣付各種物品　（チ）標本の配列法及水產昆蟲（リ）自然淘汰雌雄淘汰益蟲標本、岐阜縣昆蟲學會の第五回內國勸業博覽會出品標本　（ヌ）外國製の展翅板賞牌等　（ル）蜻蛉の化石、外國製の幼蟲吹脹器及第一回全國昆蟲展覽會、冬季昆蟲展覽會等の賞品等（ヲ）貝殼蟲、冬蟲夏草等　（ワ）裝飾的七分類標本、渥美郡昆蟲研究會の側候表及系圖　（カ）害蟲驅除用各種器械器具類　（ヨ）第五回勸業博覽會岐阜縣各出品の昆蟲門　（タ）蚕の發育摸型　（レ）蟲籠各種　（ソ）自然淘汰の有樣　（ツ）有益鳥類　（子）小形種の昆蟲アルコール漬標本　（ナ）第五回勸業博覽會出品昆蟲標本（當研究所及岐阜縣各郡出品物の一部）（ラ）百舌鳥の指餌及叩網、石起、雜草、木皮、篩網等よりて冬季に採集せし昆蟲標本　（ム）（ウ）（ヰ）（ノ）稻桑茶等の主要作物害蟲標本　（オ）養魚の害蟲　（ク）蜂巢の各種　（ヤ）有効蟲標本　（マ）蟲塚碑文　（ケ）昆蟲應用玩具美術品　（フ）昆蟲模樣付の漆器　（コ）（エ）同上陶器類　（テ）同竹器類　（ア）（サ）同扇子、團扇、提灯其他昆蟲模樣付紙製品類　（キ）（ユ）同染模樣、織模樣類　（メ）（ミ）（シ）（ヱ）（ヒ）昆蟲に關する書籍器具類の賣品等にして、以下號を逐ひ各部に就き詳細に說明せんとす。

◉特別研究生の入退と谷てい子氏　昨冬十一月十一日より桑樹害蟲研究の爲入所せし西川砂氏は、研究を終へて、去一月十九日退所し、其後岐阜縣本巢郡馬淵次郞氏は向後一ヶ年、岡山縣農學校生徒葛原定一氏は一ヶ月、名古屋松操會員谷てい子氏二ヶ年の豫定を以て昆蟲學研究の爲入所せられたれば目下五名となれり。而して谷氏が今回女子の身を以て深く昆蟲學を研究せんとせらるゝは、本邦に於ける女子昆蟲學研究者の嚆矢とも云ふべく、實に本誌前號女子昆蟲講習會員所感（一）中「實に我が國は八大强國の內に數へられたりと雖も、まだ學問上よりこれを見ば、歐米各國とは雲泥の差あり、故に未だ曾て外國人（支那韓國を除くの外）の日本へ留學に來りしと云ふことはきかず、又我國に維新前に於て昆蟲學者の出でしと云ふ事をも聞かず、況や女子にして昆蟲學者ありと唱へられし人は、明治の御世の今日に至る迄未だ曾て聞かざる所なり、聞かざるは實に殘念の至りならずや」とあるを今や實行せられたるなり。實に其壯志の程感ずべき事ならずや。之を以て名古屋松操會は去月二十四日谷氏の爲に盛なる

送別の宴を開き、左の如き別辭を贈られたりと云ふ。

送別の辭

月に日に進みゆく御代の惠みのいづれはあれど物學びの道たらひにたらひ古は神もひめさせ給ひけむ智識の庫々ひらかれては先進のとつ國になどかは劣らむいできゝに我が松操會員谷てい子の君には去年の彌生の花かげにいともはえ〴〵しき成績もて市立名古屋高等女學校の業をへて終りの御しるしうけ給へりしもいまだきのふのごとおぼゆるを小成に安んじ給はぬ御心もて今度世に其名も高き名和昆蟲研究所に入り立ちてこの道の蘊奥を極はめつくさむといともをゝしくこそれもひおこさせ給ひしか

そも〳〵文明の本たる學びの路澤ある中にもわきて天地の間なる萬物のさまことわりをあきらめ知る理學の道ほど尊くも亦めでたきはあらじ自餘の學はたこれによりてこそ進みゆくなれさるをいかにしてか世のをみなの兎角この道にはけうとくて玉のごとまどかに德のひかりかゞやける女子とならんにもなほはたおのが天職つくさむにも此道の缺くべからざるを知らずまして自然に親しみ自然を愛する心をや夢のごとあはくして水のごとつめたきものから志ある人々の常になげかるゝところなりしに君が今度の壯圖をあげて幾多の女子のねむりをさまさせ晴天にさきいかづちの音聞きつる想ひあらしめ給ひしは實にうれしさもうれしき限りになむこれを大にしては國家女流のほまれ小にしては本會のめいぼく何物かはこれに過ぎむ然はあれど世の人の君にまつところけふよりこそ一しほ多きを加へにけれやさしき双の肩にになひ給へる重き責をゆめ片時だもゆるがせになれぼしそあはれ喜びの後ろには悲みひそめる習ひ君が立志をいはへる身は君が岐阜市に旅立ちを送りまつるべき事とはなりぬさりながら望み多きこの首途をいさみ給へふるひ給へさて日頃敎養せられつる學び屋の旨にそひ恙の蟲の障りもあらず今幾年の後錦きてかへり來まさん日をおよび折りつゝまちまゐらせんけふこゝに君と袂を分つにあたり拙き筆のつゝましさをも忘れてかくなむ

年賀狀中の昆蟲畫

愛知縣　牧野敏太郎氏考案

◎年賀狀中の昆蟲畫に就て　本年の年賀狀と昆蟲に就ては已に前號に於て報

導し置きしが、新潟縣長岡中學校中村正雄氏の贈られたるものを漏したれば茲ょ披露すると共ょ、已に前號に於て評せし愛知縣牧野敏太郎氏の蠶兒が桑葉を刻蝕したる圖をも掲げたる次第なり。而して中村氏が Dragon flyを以て蜻蛉の形態を作り、更ょ其下ょHappy New Yearを配したる思考中々面白し。

◉渥美郡巡回昆蟲學講話會景況　愛知縣渥美郡農會の事業として、當名和所長を聘し、一月十八日より同郡野依村、田原町、福江町の三ヶ所に於て、三日間宛昆蟲學講話會を開きたり。其會員は實業者、教育者幷に高等小學校三、四學年生にて、何れも一百六七十名の多きに達せり。其講話の次第は昆蟲學大意より害蟲驅除豫防法に及び、假令冬季たりとも出來得る限り實物採集の上說明を加へたるを以て意外の好果を得たりと云ふ。

◉桑樹潜伏害蟲の驅除法　目下桑園に於て、往々桑枝を藁にて纏ひ、其間に枯葉の殘り居るを見ることあり。若し小鳥の來る時は、頻りに其内を探るは何故なりや、是れ全く種々の害蟲即ち金蛅蟖、枝尺蠖其他幾多の害蟲の潜伏越冬せるが故なり。然るに多くの農家は、種々の理由を述べて折角の注意も水泡に期せしむるは常なり。翁は先月三河國渥美郡内ょ於て、少しく注意し置きたるょ、是等に對して直に枯葉共に害蟲を驅除し、新に藁を纏ひ置けるを見る。流石渥美郡だけ熱心の現はるゝ所なり。（昆蟲翁）

◉風と害蟲の關係　害蟲の移轉は、風と關係を有すると既ょ世人の知る所あるが、米國に於ける諸昆蟲學者の研究ょ依れば、風の强軟及び雷の有無に依り其狀況を異ょすと云ふ。今此關係の要点を抄錄せば

一、昆蟲の多くは、雌雄會合を遂げん爲め風を利用するものなるを以て、强軟何れの風により移る時と雖も、雄蟲の移轉するもの多きが如し。

一、軟風は好餌及び雌蟲の存在を知らしむる効あるものとす、故ょ軟風の時は風の方向に反する方所謂風上ょ向つて蟲の移轉するもの多し、蓋し軟風は諸種の香臭を彼等に傳ふるが故なり。

一、强風は蟲を吹き飛ばして遠く他地に移すの力あり、故に强風のありたる年等は、其風の方向ょ向つて蟲の蔓延すること多く、爲に時として其前年發生したる所に蟲の存在せざる結果を來すことあり未だ其地方に發生せしことなき蟲の偶然多く發生し被害を與ふる如きハ、强風の翌年に多し。

一、然れども雷の之に加はる時は、此常例を幾分變せしむることあり、殊に普通多く移轉するは雄のみならで、雌蟲をも移すこと多し、思ふに雷鳴の前に當れば凡ての動物は其神經系の感覺常態を失する

とあるより見れば、昆蟲も亦之等の關係より其運動を活潑ならしむるものあらん、然して電氣は動物生殖器に對し何等かの關係あるが如し。

以上の如く風の昆蟲に及ぼす關係も亦大なるが如く殊に雷鳴ある疾風、颶風は其關係一層甚しきを以て大風の年及翌年等は農家の大に害蟲に注意を要すべしと云ふ。（大和農報第十號）

◎昆蟲文學に就きて　本誌募集の昆蟲文學に就きて、吾人の感じたる二三事項を以下記載仕る可く候▲第一回俳句課題松藻蟲は、少なくとも吾人の記臆に依れば古來俳人の未だ嘗て筆を染めざりしものに御座候へばか、投句者案外に少なく、僅かに五十二名四百十七句に止り、加ふるに佳句殆んど無之、僅々十三句を選拔するにさへ少ながらざる苦心を要し、又選句中には吾人が恣に改删したるものも有之候次第に御座候。要するに第一回劈頭斯の如き突飛なる題を出し候事は其當を得たるものにあらざる可く、之れを以て第二回よりは暫く平易なる題を課し、漸を追ふて先人未着筆の昆蟲に及ぶ可くと存じ候て先づ蝶と蜂を出し、本號更に蠶を課し候處、本號所載蝶に於ては、投句者數の僅少にして佳句なき事前の松藻蟲のそれよりも酷だしかりしは、寧ろ吾人の意外に感じたる處に御座候。曰ふ者あり、是れ其懸賞なると然らざるとに因すと、蓋し齊東野人の語に過ぎざる可く候▲更に詩歌に至りては、古來の詩客歌人が夙に難しとなしたる詠物の事に有之候へば、其應募者の少なき事は素より吾人の期したる處に御座候へども、其少なき度合及び佳章少なき事が最初吾人の期したるそれよりも一層酷甚だしかりしには失望仕候▲兎も角も大方諸君子が別項昆蟲文學募集廣告によりて續々良吟好句を御投寄の程切望の至りに堪へず候▲尚選外の詩歌俳句にして捨て難きふしあるものは、之を各欄花枠の下に登載する事と致候、然るに前號卷頭論說欄花枠の下に登載したる漢詩讀昆蟲世界有感に於て、四個處　即はち讀は講、窮は躬識は織、直は眞の誤植有之候、是れ畢竟校正の見落にして、該作者並びに讀者諸君に對し何とも申譯無御座候、何卒不惡御悔容被成下度御願申上候▲最後に下總耕讀園主人等諸氏が昆蟲文學に關して注意を與

年賀狀中の昆蟲畫

新潟縣　中村正雄氏考案

へられたるを謝す。今俄かに諸氏の意に從ひ難く御座候へども、其募集方法等に就きては、次第に之が改善進捗を計るに怠らざる可く候以上。（一記者）

◉農事試驗場の事務變更　王子農事試驗場は全國農事試驗場の中樞にして昨年三月迄は全國に九ケ所の支場を有したるが今日の如く各府縣の農事試驗所が發達したる上は同一試驗にても日本の如き東西に長き國柄にては土地によりて氣候の變化等の爲め其成蹟を異にするが故に斯く多數の支場を設くるよりも寧ろ一部は府縣の農事試驗場に一任するに如かずと爲し漸次其數を減じて今日は九州畿內陸羽の三ケ所と爲し從來本場支場共同一の試驗を爲し來りしを漸次其方針を改めて地方々々の特色に顧みて特種の調査に便なるものを各支場の研究に委ぬることゝし九州は病害蟲害即ち昆蟲病理、畿內は種苗の改良即ち種藝、陸羽は養畜牧草を其分擔事業と爲し本場は主として農藝化學煙草培養園藝を研究することゝなり勉めて實際問題を學術的に應用せしむる筈なりと云ふ。（時事新報）

◉昆蟲揭示場記事（二）　前號報告後に於ける揭示物の重なるものを擧ぐれば、繼續的の昆蟲の七分類として（一）膜翅類アカバチ（益蟲）ナシバチ（この種の幼蟲は梨の葉などを食する害蟲なり）、カモドキバチ（桑葉ヲ食害するエダシャクトリムシに寄生する益蟲なり）　（二）鱗翅類アゲハノテフ（此の種の幼蟲ハ柑橘類の葉を食する害蟲なり）、エビガラスズメ（此蟲幼蟲はサツマイモの葉を食する害蟲なり）、キンケムシノガ（此の蛾の幼蟲は毒毛を有し桑葉を食害す）、オホアヲガ（此の種の幼蟲はハンノキの葉を食害す）　（三）双翅類カイコノウジバヘ（この蟲の幼蟲は蠶に寄生する大害蟲なり）、ウジハヘ（害蟲）、ベッカウバヘ（害蟲）、キリウジカガンボ（此の蟲は稻の稚苗の根等を害する切蛆の成蟲なり）　（四）甲翅類アヲゴミムシ（益蟲）、コガタノゲンゴラウ（養魚家の害蟲）、ホシカミキリムシ（此の種の幼蟲は樹幹を食害す）、マイマイカブリ（益蟲）　（五）半翅類ツマグロヨコバヒ（稻の養液を吸ふ大害蟲にしてウンカといふは此の蟲なり）、ユリノハナスヒ（養魚家の害蟲）、ミヅカマキリ（養魚家の害蟲）、ゴマガメムシ（益蟲）　（六）直翅類ハラビロカマキリ（鎌狀の肢を以て諸害蟲を捕食する益蟲なり）、トノサマバッタ（害蟲）、オンブバッタ（害蟲）、ゴキブリ（害蟲）　（七）羅翅類ベッカウトンバウ（益蟲）、サナヘトンバウ（益蟲）、ヤナギイトトンバウ（益蟲）、ギフヤマトンバウ（益蟲）等にして臨時的揭示物は◉冬季成蟲にて潜伏の稻作加害椿象類　（一）ヒメクサガメムシ（二）クモガメムシ（三）イ子ガメムシ（四）トビイロガメムシ（五）ハリガメムシ◉イモムシの種類（一）クロスズメの幼蟲（松の葉を食す）　（二）エビガラスズメの幼蟲

（サツマイモの葉を食す）（三）シモフリスズメの幼蟲（桐の葉を食す）（四）メンガタスズメの幼蟲（ゴマノ葉を食す）（五）セスジスズメの幼蟲（里芋の葉を食す）●十二月一日午後一時稲葉郡島村ニ於て採集せし鳥の胃中ニありし昆蟲類（一）夜盗蟲の幼蟲二十四頭（二）甲蟲の足一（三）蛺蝶科の幼蟲一（四）螟蟲一●十二月十八日午后五時揖斐郡小島村に於て採集せし鳥の胃中にありし昆蟲類（一）パッタの翅二（二）甲蟲の頭一●二月二日稲葉郡加納町附近に於て桑樹を藁等ニて束ね枯葉の止まりたる所に潜伏せる昆蟲調査の結果（五十株に付調査）（イ）エダシヤクトリムシ九十七頭（ロ）キンケムシ九頭（ハ）ムギガメムシ八頭（ニ）クハノアカフヨコバヒ六頭（ホ）クハノハマキムシ二頭（ヘ）其他四十七頭等なり（實物は勿論其割合を表に依りて示す。）且特別の掲示物には●在米名和梅吉氏送付の蝶蛾模寫帖の內 Toreign Butterflies の部 British Mothsの部 Foreign Moths の部●當所員名和正氏撮影の顯微鏡寫眞の內（一）ウラギン ヘウモンテウの特殊鱗（二）シラミ（三）コムラサキテフの複眼（四）ヒゲコガネムシの觸角內に有する感覺孔（五）ニンジンノアヲムシヤドリバチの翅（六）イヌノミ（七）ヒラタアブの複眼（八）蠶の氣門等にして其他岐阜縣長期害蟲驅除講習生大橋由太郎氏の新案に係る蜻蛉類の寫生圖等なり。而して右掲示物の說明の漢字には悉く朱書にて假名を附し、尋常科兒童にも解し得らるゝ樣注意を加へたり。

●**岐阜縣昆蟲學會第六十一回月次會記事**　同會は本月六日午後一時より當昆蟲研究所內に開會せり。出席者六十余名にして、名和副會頭は例に依り開會の辭を述べ、第一席大橋由太郎氏は冬季雜草中に潜伏せる害益蟲の種類の歩合を調査したる結果を報告し、第二席石田和三郎氏は目下實行中の冬季夜中糖蜜採集と氣候との關係に就き本年の如き近年稀なる寒氣にて、去る一月二十二日の如き日中と雖も氷点以下を示し特に降雪嚴しき夜に於てすら二十四頭を獲、二月二日は少しく溫かりし爲二百六十八頭の糖蛾を獲たるが如き結果を生じたるより見れば害蟲類は中々寒氣の爲に容易に死すべきものにあらずと云ひ、昨冬十二月廿五日より二月五日迄每夜採集せし頭數と溫度との關係を報告し、第三席所嘉吉氏は花に集る處の多數の昆蟲標本ニ依りて花と昆蟲の關係を說明し、第四席淸水太八氏は武儀郡地方に於ける害蟲驅除の方法より今後の希望を述べ、第五席美濃部鏘次郎氏は愛知縣下の特產物たる梨瓜の產額年々減少の傾きあるは、必竟其害蟲たるウリハムシの加害大なるに起因するを以て、愛知縣農事試驗場ニ於て之が習性經過及驅防の方法を硏究したる結果の實驗談をせられ、第六席永澤小兵衛氏は昆蟲と文學に就て、其他名和先生等の有益なる講話あり、尙臺灣產の昆蟲、冬季夜中採集の標本、冬季

雜草採集の昆蟲標本等を縦覽に供せしめ、頗る盛會なりき。

◉水曜昆蟲談話會記事　長期害蟲驅除講習生及び特別研究生の催に係る水曜昆蟲談話會は、前號報告後毎水曜日午後七時より名和昆蟲研究所内に於て開會せしが今其談話の要項を一括すれば如左。

小竹浩氏は膜翅目有針亞目の分類及び寄生蜂の分類等なりしが、寄生蜂の分類に就ては、蜚蠊卵蜂科に屬するもの丶特徴は腹部が後胸部の背面に接着し、小蜂科は腹部の胸部に接する所は普通にして、前翅には閉塞したる翅室を欠き、中胸の楯板の左右の兩縁は前胸部の背板と瓦狀板との間に横り、產卵器は腹部の末端より少しく離れて伸出し、卵蜂科は腹部の胸部に接する所及び前翅に閉塞したる翅室を欠くは前の小蜂科と等しく、前胸部の背板は伸びて瓦狀板に接し、產卵器は服部の末端より伸出すと丁寧に圖説せられ●石田和三郎氏は繼續試驗中の糖蜜採集の狀況を報告し●棚橋昇氏は膜翅目雌雄の識別法を各種標本に就て説明し●名和愛吉氏は無翅尺蠖蛾の特性に就て●小森省作氏はムクゲムシの形態及習性に就て●森宗太郎氏は冬期潛伏の害蟲に就き實驗調査談を述べられ●高橋喜男氏は花セヽリテフと一文字セヽリテフとの區別及びエンドノキリムシの發生經過に就て●中井藤助氏は冬期の誘蛾燈及衛生上の害蟲に於ける蚤の研究談●近藤伊祐氏は螟蟲の調査及び貝殼蟲驅除劑試驗成蹟報告●所嘉吉氏は安八郡地方の冬期昆蟲採集旅行談●笹部利作氏は此頃冬季昆蟲採集中薪屋の荷ひ行く割木中にホタルカミキリムシの居るを認め煙草錢を與へて荷物を解かしめ之を採集したるに百餘頭を獲たりとて其被害植樹と標本を示し●馬淵治郎氏は昆蟲採集談●大橋由太郎氏はツチハンメウは土中一寸餘の深さに黄色にして罌粟粒大の卵子を一ヶ所に三千餘粒を產卵するものにして腹中藏卵數を調査するも其數殆んど同じければ一塊に產附するものならんとて實物を示し且つ土中に有る有樣を説明し●小川謙司氏は揖斐郡地方の昆蟲放言及び藁稈中に潛伏する螟蟲調査談なりしが、螟蟲調査に就ては一坪の藁數八百二十八本中無被害のもの四百九十四本、蟲糞のみありしもの百二十八本、螟蟲蝕入し居りしもの二百六本、此螟蟲數三百二十二頭外に斃死し居たる螟蟲二十二頭ありし由を述べられ●渡邊樵四平氏は昆蟲の觸角の話、及び桑樹の枯葉中にて越年する昆蟲調査報告をなし、農家が秋季株刈の桑枝を束縛し尙其儘放置する爲其束縛せる部分に枯葉の附着せるもの五十株に就き調査の結果エダシヤクトリムシ九十七頭、キンケムシ九頭、ムギガメムシ八頭、アカフヨコバヘ六頭、其他の物五十頭、外に蜘蛛類五百六十九頭を認めたる由、實物及び比較一覽表を示して説明せられ●葛原定市氏はサルハムシ驅除實驗談を述べられたり。

◉昆蟲陳列舘の觀覽人　去一月中に當所常設の昆蟲標本陳列舘を觀覽せし人員は二千百九十九人にして、其內最も多かりしは十五日の二百十七人、最も少なかりしは十三日に於ける三十八人にして一日平均八十七人强に當り、此の內實業家、學生最も多く、各府縣の敎育者、勸業視察員等も亦尠からざりし。

（二月八日脱稿）

出版廣告

昆蟲叢書第壹編 全國昆蟲展覽會 **出品目錄** 全壹册 (明治卅五年七月出版)

題字及び寫眞銅版四葉挿入●木版寫眞銅版畫七十餘圖●紙數二百餘頁●定價金八拾五錢(郵税金六錢)

記載目次

第一章 昆蟲展覽會出品目錄の必要●第二章 分類標本に於ける蟲種別●第三章 害蟲標本に於ける蟲種別●第四章 益蟲標本に於ける蟲種別●第五章 教育用標本其他の出品●第六章 出品物と其出品者(附錄)開設の計劃●役員の撰定●開會設備●開會式●審査方法●褒賞授與式●閉會式●雜件彙報●蟲種の調査●殘務所理●昆蟲名稱の意見●展覽會の効果 以上

昆蟲叢書第貳編 (明治卅六年八月出版) **昆蟲標本製作全書** 全壹册

題字及寫眞銅版、木版圖數十種挿入●定價壹部金八拾五錢(郵税六錢)

記載目次

第一章 昆蟲標本の價値●第二章 昆蟲標本製作法の沿革●第三章 昆蟲標本製作書の出版●第四章 昆蟲採集用の器具●第五章 昆蟲採集の方法●第六章 幼蟲及蛹の採集と飼育方法●第七章 昆蟲採集地の撰擇●第八章 標本製作用の器具●第九章 昆蟲標本の製作方法●第十章 昆蟲の排列と保存方法

右出版仕候に付御愛讀わらんことを請ふ

明治卅七年一月 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

名和昆蟲研究所長名和靖著

第六版 薔薇の一株 **昆蟲世界** 全 定價貳拾錢 郵税貳錢 (郵券代用一割增)

臨時刊行第一編 **日本昆蟲分科表** 增補再版 全一册 定價(郵税共)金貳拾八錢 (同上)

臨時刊行第二編 **通俗益蟲集覽** 第一輯再版 (説明書附) 定價(郵税共)金貳拾貳錢 (同上)

臨時刊行第三編 **貝殼蟲圖說** 全一册 (再版) 定價(郵税共)金參拾七錢 (同上)

農家應用 **害蟲圖解** 既刊貳拾貳枚 定價壹枚金拾五錢 郵税貳錢 百枚以上一纏壹枚拾錢の割郵税百枚に付貳拾錢

昆蟲叢書 第壹回全國昆蟲展覽會 **出品目錄** 第一編 全壹册 定價金八拾五錢 郵税金六錢 (郵券代用一割增)

岐阜市京町 **名和昆蟲研究所**

雑誌昆蟲世界合本出來廣告

○第十二號以下完備

本邦唯一の昆蟲雑誌

昆蟲世界 合本

第七卷(昨年分)出來

西洋綴 金文字 入美裝

● 昆蟲世界第二卷　五部　(自第拾貳號 至第拾六號)

右は明治三十一年發行の分(但合本にあらず)

● 昆蟲世界第三卷合本壹册　(自第拾七號 至第貳拾八號)

右は明治三十二年發行の分(總目錄付)

● 昆蟲世界第四卷合本壹册　(自第貳拾九號 至第四拾號)

右は明治三十三年發行の分(總目錄付)

● 昆蟲世界第五卷合本壹册　(自第四拾壹號 至第五拾貳號)

右は明治三十四年發行の分(總目錄付)

● 昆蟲世界第六卷合本壹册　(自第五拾三號 至第六拾四號)

右は明治三十五年發行の分(總目錄付)

● 昆蟲世界第七卷合本壹册　(自第六拾五號 至第七拾六號)

右は明治三十六年發行の分(總目錄付)

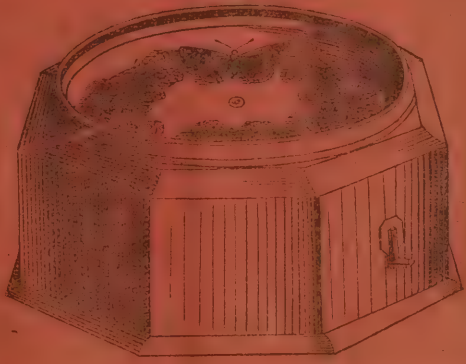
(合本は毎册金壹圓貳拾錢、郵税金貳拾錢
其他は定價の通り)

右昆蟲世界の義は發刊以來、非常の高評を博し斯學研究上の寶典さして又農事改良の先驅さして歡迎せられしも、未た之を合本さするに至らざりしに、今回讀者の勸告により毎一年分を裝釘して閲讀索引に便にせり、請ふ愛讀を玉へ。

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

昆蟲廻轉器頒與廣告

この昆蟲廻轉器は、昆蟲の翅色こ光線の關係を示さんが爲め、數年前考案せしものなりしも、適當の製作者に乏しかりしより弘く頒與するに至らざりしが、今回特別調製の依頼を受けし序を以て、拾餘個を製作し、世の希望者に分たんこす。雌雄淘汰の原理を説き、天地自然の妙用を知らしめんこ欲せば、少なくも此種の備へ無かる可からざるべし。一器の價は、金六圓こす、別に送費を要す。

(昆蟲廻轉器)

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

新案 教育用昆蟲標本 壹組拾貳箱

一、分類標本　壹箱

一、自然淘汰標本　五箱

○保護色 ○擬態 ○警戒色及誘惑色

○自己防禦 ○生存競爭

一、雌雄淘汰標本　貳箱

一、害蟲標本　壹箱

一、益蟲標本　壹箱

一、解体標本　壹箱

一、俗説と迷信に就ての昆蟲標本　壹箱

該標本は、高等小學校、高等女學校、農學校、尋常中學校等の理科と參酌して製作せしものなり。從て害蟲標本の如きも、普通農作物害蟲標本とは大に其趣きを異にせり。而して一品毎に説明を附しあれば、假令初學者と雖も、一目して昆蟲界に於ける自然の妙理を會得するを得ん。

右標本は、壹組十二箱を以て完成せりと雖も、其中、一箱づゝ御望の節は、新案教育用昆蟲標本中の何々と明記ありたし。

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

米國理學博士河内忠次郎君口述

實地應用昆蟲學講義　毎月一回發行

一右講義錄は河内博士が十數年間米國に於て昆蟲學の大家「コムストツク」幷に「フエナルド」の兩教授に就て親しく研究せられたる實地應用昆蟲學の講義錄なり

一講義錄は先づ初めに蟲体の構造慣習等を說き順次農業家幷に園藝家の參考となるべき事項即ち害蟲驅除の方法を示すべし

一講義錄は農家子弟の爲特に質問欄を設け普く敎示の勞を取るべし

一講義錄の第一號は既に世に出たり第二號は二月十五日を以て發行し六月十五日を以て完結す

一講義錄の分與を望まるゝの士は至急全部（六ケ月分）の代價金壹圓を添へ左處に申込あるべし

東京市麻布區新龍土町十二番地河内方　神貞一

●農作物害蟲標本　壹組（桐箱入解說附 金四圓五拾錢）

●農作物益蟲標本　壹組（桐箱入解說附 金參圓五拾錢）

●教育用昆蟲標本　壹組（桐箱入解說附 金四圓五拾錢）

●自然淘汰標本　壹組（桐箱入解說附 金五圓五拾錢）

●雌雄淘汰標本　壹組（桐箱入解說附 金五圓五拾錢）

●氣候變形標本　壹組（桐箱入解說附 金四圓）

●昆蟲發育標本　各種

●山林園藝害蟲標本　各種

（壹組の荷造費金貳拾錢小包料は參拾錢）

明治三十七年二月　名和昆蟲研究所會計部

◎害蟲圖解の刊行に就き

此害蟲圖解は、本邦產有害蟲種の大要を、何人にも理解し易からしめんがため當昆蟲研究所の一事業として、數年續刊し來れるものにて、既に府縣の各級農會より諸學校、警察署、郡衙等に備附られしもの甚だ多く、或地方の如きは之を小學校の教授用に充てしも有之候、然るに近來これと類似のものを出版して當昆蟲研究所の名を騙り、若くは同一の名稱を附して、是は害蟲圖解を更に放大圖に製せしものなりなど言觸らし、其僞版同樣乃ものを販賣する者有之哉にも相聞へ候間、愛讀者は此際十分御注意相成度候。

◎害蟲圖解既刊の分廣告

第一。桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（三版）
第二。桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
第三。稻の害蟲イチノズヰムシ（二化生螟蟲）
第四。煙草害蟲タバコノアヲムシ（煙草螟蛉）
第五。稻の害蟲イチモジセセリ（苞蟲又葉捲蟲）
第六。桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姬象鼻蟲）
第七。桑樹害蟲シンムシ（心蟲）
第八。稻の害蟲イチノアヲムシ（稻螟蟲）
第九。茶樹及果樹害蟲ミノムシ（避債蟲）
第十。豌豆害蟲ヱンドノキリムシ（夜盜蟲又地蠶）
第十一。桑樹害蟲クハカミキリ（桑天牛）
第十二。稻の害蟲ツマグロヨコバヒ（褄黑橫蚊又浮塵子）
第十三。桑樹害蟲イトヒキハマキムシ（糸引葉捲蟲）
第十四。茶樹害蟲チヤケムシ（茶蛄蟖）
第十五。馬鈴薯及茄子の害蟲テントウムシダマシ（擬瓢蟲）
第十六。稻と麥の害蟲キリウジガガンボ（切蛆蚊姥）
第十七。桑樹害蟲キンケムシ（金條毛蟲）
第十八。桑樹害蟲アヲハマキムシ（青色葉捲蟲）
第十九。桑樹害蟲クハケムシ（桑蛄蟖）
第二十。稻の害蟲フタホシズヰムシ（三化生螟蟲）
第廿一。稻の害蟲イナゴ（稻蝗）
第廿二。蔬菜害蟲モンシロテフ（菜の螟蛉）

定價壹枚金拾五錢　郵稅貳錢　百枚以上一纏壹枚拾錢の割郵稅百枚に付貳拾錢

◎害蟲圖解未刊の分豫告

◎稻の害蟲セジロウンカ（背白浮塵子）
◎藍の害蟲アヰノゾウムシ（藍象鼻蟲）
◎藍の害蟲アヰノズヰムシ（藍の螟蟲）
◎粟の害蟲アハノヨトウムシ（粟蠶）

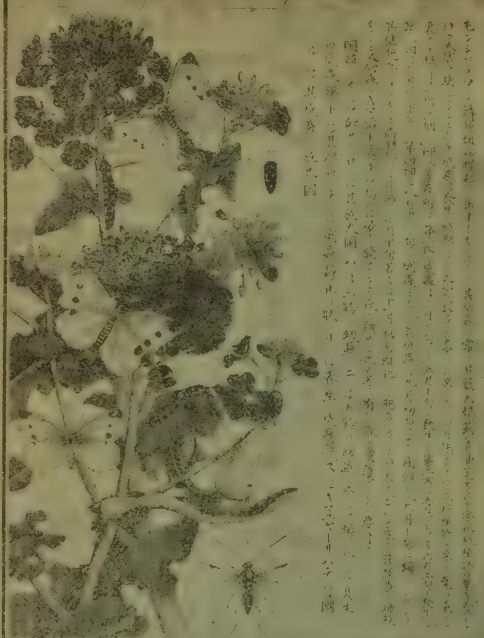
◎圖解の紙幅縱一尺三寸橫九寸
◎壹枚の代價拾五錢郵稅貳錢
◎百枚以上一纒壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

害蟲圖解
第貳拾貳　モンシロテフ　油菜
No.22 Monshirocho Pieris rapae Food plant Abrana Brassica ...

◎稻の害蟲オホズヰムシ（大螟蟲）
◎稻の害蟲ヒゲナガアブ（長角虻）
◎桑樹害蟲クハハマキ（桑葉捲蟲）
◎蠶の害蟲カヒコノウジバヘ（蠁蛆）
◎松樹害蟲マツケムシ（松蛄蟖）
◎粟の害蟲アハノズヰムシ（粟螟蟲）
◎胡麻害蟲メンガタスズメ（胡麻蠋）
◎櫟の害蟲カミキリムシ（天牛）
◎梅樹害蟲ウメシヤクトリ（梅尺蠖）

◉豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
圖解代金凡て前金にあらざれば回送せず
但申込の際前金添附の事
但郵券代用壹割增の事

◎稻の害蟲クロクサガメ（黑色椿象）
◎桑樹害蟲クハゴ（野蠶）
◎蔬菜害蟲サルハムシ（菜の葉蟲）
◎大豆害蟲ヒメコガネ（姬金龜子）
◎梅樹害蟲ウメケムシ（梅蛄蟖）
◎梨樹害蟲ナシゾウムシ（象鼻蟲）
◎梨樹害蟲ホシハマキ（星葉捲蟲）
◎果樹害蟲イラムシ（刺蟲）
◎里芋害蟲セスヂスズメ（烏蠋）

◎赤楊害蟲ハンノキケムシ（赤楊蛄蟖）
◎稻の害蟲トビイロウンカ（褐色浮塵子）
◎桑樹害蟲アヲハマキムシ（青色葉捲蟲）
◎果樹害蟲ホシカミキリ（白斑天牛）
◎果樹害蟲ドウガネブンブン（金龜子）
◎桐樹害蟲シモフリスズメ（桐蠋）

發行所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

Theretra pinastrina Martyn. var. (Ippon-sesuji-suzume)

By K. Nagano.

Forewings greyish-yellow; Costal and marginal areae grey; a black discal dot; a nearly straight blackish brown fascia containing two black stripes from before middle of dorsum to apex; four darker stripes from dorsum to apex and outermost little waved. Hindwings greyish yellow; basal area black; a grey terminal streak. Expanse 65-68mm. Head and thorax greenish brown with whitish grey border; abdomen greenish brown with a silvery stripe on dorsal.

Formosa, Kiusiu. 7, 8. Larva dark-brown or green; dorsal line blackish-brown; subdorsal lines blaekish brown, with a series of yellow spots enclosing a black dot and encircled with black on 4-10 segments; upper and under spiracular lines whitish yellow; horn ochreous, tip black; on some of ?Aroideae; 8, 9.

昆蟲世界

明治三十七年二月十五日發行　第八卷第七拾八號　每月一回十五日發行

（明治三十年九月十日內務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢詩　春季昆蟲亂題

▲和歌　春季昆蟲亂題

▲俳句課題　蜂（二月二十五日占切）蟻（三月二十五日占切）

▲新体詩　春季昆蟲亂題（一百字以內）

▲小品文　春季昆蟲亂題（三百字以內）

右何れも本誌登載の分の作者へは該作登載本誌一部づゝを呈す▲投稿用紙は郵便端書を用ふ可し但新体詩及び小品文は此限りにあらず▲屆先は岐阜市京町名和昆蟲研究所の事

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市京町名和昆蟲研究所內に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所內　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第六十三回月次會（三月五日）
第六十四回月次會（四月二日）
第六十五回月次會（五月七日）
第六十六回月次會（六月四日）
第六十七回月次會（七月二日）
第六十八回月次會（八月六日）
第六十九回月次會（九月三日）
第七十回月次會（十月一日）
第七十一回月次會（十一月五日）
第七十二回月次會（十二月三日）

◉名和昆蟲研究所案內

當昆蟲研究所の位置は上圖の如くにて停車場よりは僅に十餘町養蠶室あり又新築の岐阜縣物產館構內には常設の昆蟲標本陳列館（五間に十六間）ありて標本器具數千点を陳列す有志諸君の來訪を俟つ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部　郵稅共　金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず◉為替拂渡局は岐阜郵便局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰一行に付金拾貳錢三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十七年二月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二　發行者　名和梅吉
同縣揖斐郡鶯村大字公郷三番戶　編輯者　小森省作
同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二　印刷者　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar. ♀

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF

"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] MARCH. 15TH, 1904. [No. 3.

昆蟲世界

第八巻第參冊　明治三十七年三月十五日發行　第七拾九號

（明治卅年九月十四日第三種郵便物認可）

目次（禁轉載）

（每月一回十五日發行）

名和昆蟲研究所發行

本所擴張寄附金品募集廣告

本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園內にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より敎室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へんとす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは喪心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生ド斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

岐阜市京町
明治卅七年三月　名和昆蟲研究所

大方諸君

第十七回全國害蟲驅除講習會延期廣告

昨年十一月を期して第十七回全國害蟲驅除講習會開設の筈に候處聖路易萬國博覽會出品の爲め多數希望者のあるにも拘らず遂に本年三月迄延期し來りたるに今回當研究所の移轉擴張の爲め又々一時延期する場合に立ち到り候へば此段廣告す

明治卅七年三月十日
岐阜市京町
名和昆蟲研究所

昆蟲學特別研究生募集

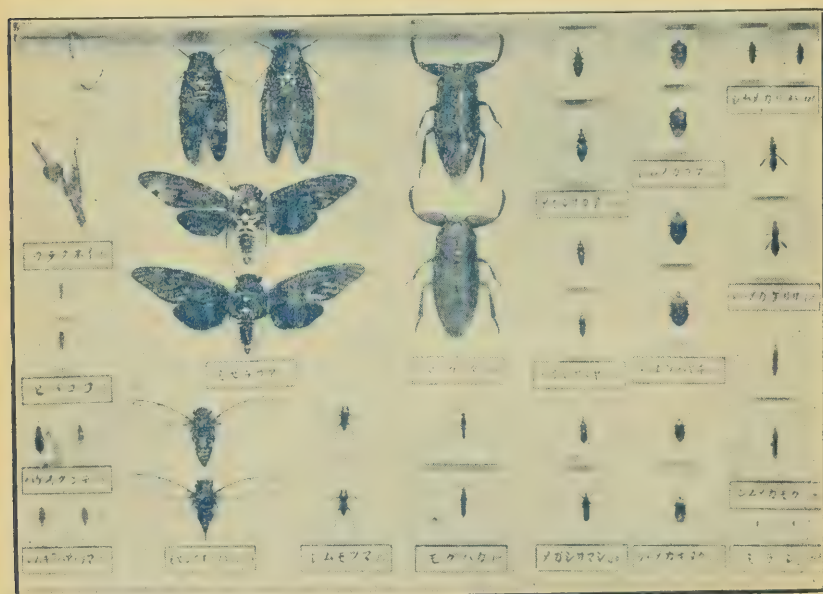
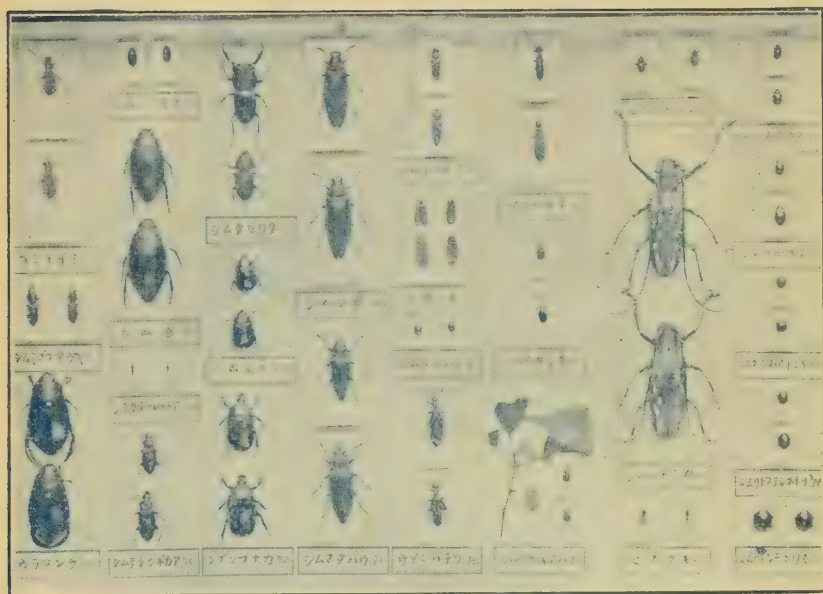
今回十數名の特別研究生を募集するに付規則書入用の向は郵劵相添へ至急照會あれ直に送致すべし

明治三十七年三月十日
名和昆蟲研究所

購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ほす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

岐阜市京町
名和昆蟲研究所　昆蟲世界會計部

中等教育昆蟲標本寫眞(四)

昆蟲世界 第七拾九號 (明治三十七年第三月)

論說

神棚の灯は怠し蠶時　(蕪村)

◎日露戰爭と害蟲驅除

日露兩國砲火を交へてより屢々我軍の捷報に接す、余輩生を帝國に享くるものは滿腔の欣喜禁せんとするも能はざるなり。彼の暴戾無道なる露軍は、我忠勇なる帝國軍隊の敵にあらざれば、終に城下の盟をなさしめて之を膺懲する、蓋し遠きにあらざるべし。然れども侮る勿れ、今日の戰爭は單に兵力のみに據るに非ずして財力の如何も亦與つて力あり、假令百萬の精兵ありと雖ども軍資の出途を失はゞ又如何ともする能はざるは、余輩の喋々を要せざる處なり。然らば則ち吾人内にあるものは宜しく勤儉の二字を守りて軍資の出途を講じ、我外征の同胞をして後顧の憂なからしめざるべからざるなり。然り而して今日の敵は露國のみに非ずして、尙之より一層恐るべき一大强敵あるを記憶せざるべからず、そは卽ち害蟲軍にして大將を螟蟲と云ひ、副將を浮塵子となす。彼れ螟蟲は年平均四千萬圓以上を害し、浮塵子は明治三十年に於て七千五百萬圓を害せしと云ふ。是等害蟲類の總ての損害高を計算したらんには恐らく壹億圓を下らざるべし。而して余輩は曾て其今日あるを豫期し、是等害蟲軍を撲滅し以て露國に當らんと欲し、明治三十三年一月の年始狀の附記に於て、之を警戒して、假に千變萬化螟蟲と稱し、目下蛹化期なれども、一朝羽化すれば日本海を越へ來らんことを以てせり。是れ千變萬化螟蟲の羽化せざるに

先んじ、一舉して螟蟲軍を撲滅し、財源の充實を圖るべきを警告したるものなり。果せるかな千變萬化螟蟲は已に羽化したるも、螟蟲軍の內憂は未だ鎭定するを得ざるは實に遺憾の至りならずや、余輩は常に之を憂ひ、其驅防を唱導するも、世人の多くは之に意を傾注するものあらざりき。國家泰平の御代、弓を袋に納むるの時代はイザ知らず、今や砲火相見ゆるの期に當り之が撲滅を講ぜずんば、假令露國に勝つも、內に螟蟲軍の爲に敗るゝの時あらん。本年は實に千歲の一遇にして機逸すべからず。農夫は卒となり、當局者は將となり、害蟲を見ること露軍の如く、今より作戰の計畫を怠らず、一舉して其隙を突き、之が討滅を謀らざるべからず。假令其全滅は望むべからずとするも、數千萬圓の戰利品あるは決して疑を容れず。然るに世人動もすれば勤儉の意義を誤解し、當局者は節約の本旨を失ひ、各種事業の縮少と共に是等害蟲軍征討費をも減ぜんとするものなきにしもあらず。是れ恰も軍艦に要する石炭を節

するを等しく、何ぞ十分なる働をなすを得んや。國費多端なる今日に於て、其節約し得べきものは節約すべしと雖ども、害蟲驅除費をも省かんとするは誤れるも亦甚しからずや。寧ろ本年の如きは多少の費用を増すも、秋收の勝利を期し、當局者は農民と共同一致し、奮て害蟲驅除を勵行せられんことを希望に堪へざるなり。

今年より蠶飼はじめぬ小百姓　（蕪村）

◎鱗翅類觀察の指針

在東京　長野菊次郎

昆蟲世界第七十號に紹介したりきヂッケルソン氏の蝶蛾書に記したる蝶蛾觀察の要點は、蝶蛾の習性を觀察すべき唯一の指針たるのみならず、之を取捨して以て一般の昆蟲にも應用すべし。今や春陽廻歸の節に際し、昆蟲の出現漸次盛ならんとするの時に當り之を披露することの無益にあらざるを信じ、間々余の愚見を加へて之を譯出することゝせり。

第一節　幼蟲の戸外觀察

（一）如何なる所にて幼蟲を見出せしか（是には年月日又は時刻等の記入を要す）

（二）如何なる植物を食ひしか（食物の部分をも記すべし）

（三）見出したる時如何にしてありしか

（四）群集せしか又は單獨にてありしか

（五）保護的彩色、形狀又は紋理等を有せるか

（六）其食せる植物或は其幼蟲に輕く觸るゝ時如何に感ずるか

(七)敵より妨害を受くる時如何にして自身を保護するか(敵とは寄生蜂、鳥、蜥蜴、蛙、蜘蛛の類なり)

第二節　幼蟲の室内觀察

(八)幼蟲の彩色を記載せよ(背線、亞背線、側線氣門線、氣門上下線並に側部斜線の有無より紋理斑點等成るべく詳細に記載するを要す)

(九)幼蟲の色彩は如何なる價値を有するか

(十)靜止するときは其形或は其狀態又は己の選びたる位置等によりて自身を保護するか

(十一)他に保護の方法を存するか(例へば臭角、棘刺毛茸の如き)

(十二)幼蟲の兩側を比較せよ

(十三)幾何の關節を有するか

(十四)幼蟲の躰の非常に柔軟なることにつきて如何なる價値あるか

(十五)胸脚は幾何の關節を有するか其位置と用法とを記せよ

(十六)腹脚の數、位置及び其使用を記せよ

(十七)進行の方法を記せよ(模型圖によりて示せ)

(十八)大顎の大さと位置とを記せよ

(十九)葉の咬食せらるゝ順序を模型的に示せ

(二十)幼蟲の貪食する植物を擧げよ

(二十一)他の植物の葉をも食ふか(何を選擇するかを見んが爲めに種々の植物を與へよ、特に同科の植物を以て試むべし)

(二十二)氣孔を指示せよ(廓大鏡を用ゐること必要なり)

(二十三)如何なる速度にて幼蟲が生長するか數日の間に於て之を測定せよ

(二十四)蛻皮の次第を觀察し且蛻皮前に何故絹氈を續ぐかを理會せよ

(二十五)幼蟲が十分なる生長を遂ぐるまで幾回蛻皮するか(蛻皮每に多少其色彩を變ずることや又は其大小等を記載すべし)

(二十六)蛻皮は規則正しき時間に於て行はるゝか

(二十七)一疋の幼蟲が同種類の他のものに對して

如何なる位置にあるか

(二十八)同種の幼蟲にて彩色を異にせるものあるか(眠齢によりて彩色を異にするものあり注意すべし)

(二十九)幼蟲の構造を表はすに適したる模型圖を畫け

第三節　蛹化に於ける觀察

(三十)幼蟲が繭を績ぐことを觀察せよ

(三十一)何を以て繭を支持するか

(三十二)何所より絹絲を出すか

(三十三)如何なる部分より造り初むるか

(三十四)繭を績くときに幼蟲が頭を動かす次第を記載せよ

(三十五)幾何の時間を經たる後に其績ぐ音の聞えずなりしか

(三十六)幼蟲の地中に入ることを注意せよ

(三十七)躰の如何なる部分にて穴を穿つか

(三十八)穴の深さは幾何あるか

(三十九)如何なる方法によりて幼蟲が地下に已の居處を營むか

(四十)蛹化の準備として幼蟲が如何なる位置を取りしか

(四十一)如何なる方法にて幼蟲が自ら絹紐を掛くるか

(四十二)何れより皮膚が破れしか

(四十三)如何にして蛹か脱出せしか

(四十四)如何にして蛹が幼蟲の皮を棄て墜落することなくして其皮の端を附着せしむるか

(四十五)蛻皮の後一時半位の間蛹は如何なる狀態にてあるか

(四十六)蛹の大さを蛹化前の幼蟲の大さに比較せよ

第四節　蛹の室內觀察

(四十七)蛹が生活を保てるには如何なる徵候あるか

(四十八)蛹の腹面或は前面を觀察して表面に接し

たる吻、脚及び觸角等を記載せよ
（四十九）翅の位置を記せよ
（五十）後翅は顯著なるか
（五十一）關節數は幾何あるか（蛹の背部によりて
計算せよ）
（五十二）幾對の氣孔が著しきか
（五十三）蛹期の長さ幾何なるか
（五十四）蛹の側面を畫きて其各部に名稱を附せよ
（未完）

◎第一回岐阜縣昆蟲分布調査（六）

名和昆蟲研究所助手　分布調査主任　小森省　作

蠼螋科（Forficulidae）、直翅目疊翅亞目に屬し、躰形細長くして、鞘翅目に屬する隱翅蟲科に酷似せり前翅は革質にして脉なく、背の中央に於て左右一直線に相合し、短小にして、腹部は殆んど全く露出す。後翅は膜質にして扇狀に疊み、更に之を三折して前翅の下に藏むるも、或種は全く翅を欠くものあり。口は咀嚼に適し、腹部の末端には角質鋏子狀の附屬物ありて自躰を防衛するの用をなす。故にハサミムシの名ある所以なり。跗節は三節とす。今回採集されたるもの四種あり、今之を左に略説すとは言へ、前にも述べたる如く、只余が分布調査の際、種類鑑別上の特点を適示せるのみにして、且つ乾燥標本につきての記載なれば、幾分の相違あるは免るべからざれば、讀者之を諒せよ。

（七十八）ハサミムシ（Anisolabis maritima, Bon.）　躰色背面は一樣に光澤ある帶褐黑色にして胸腹に黃褐色、腹部の下面は黑褐色、肢は帶褐黃白色を呈し、翅を欠き、觸角は絲狀にして二十一節より成る。腹部は雄にありては背面は十節腹面は九節、雌は背面は八節腹面は七節より成り、末端の鋏子は雄にありては急に曲りて鈎狀をなし、雌は先端少しく曲る。羽島、海津、土岐の三郡に於て獲られたり。

(七七)ヒゲジロハサミムシ(Anisolabis marginalis, Dohrn.)　前種に酷似せる種にして、觸角は十八節にして末端に近く灰白色の部分あるを以て此名あり。肢は灰白色にして、黑褐色の斑あり、常に塵芥中又は石下等に於て見る處の最も普通種なり。今回稻葉、羽島、海津、本巢、武儀、加茂、可兒、土岐、益田、吉城の十郡に於て獲られたり。

(七八)オホハサミムシ(Labidura riparia, Pall.)　蠼螋科中最大の種にして、頭部は後頭部及額面は赤褐色にして、口具及下面は淡黃白色を呈し、觸角は二十九節より成る、前胸背は殆んど正四角形の平面板となり、少しく後方に延びて前翅の一端を覆ひ、左右兩側は少しく上方に反りて黃褐色を呈し、下面及び中後胸部及肢は淡黃白色なり。前翅は黑褐色にして、左右相合する邊即ち後緣の處は帶赤褐色を帶び腹部は雄にありては九節、雌は七節よりなり、背腹兩面は帶赤褐色を呈し、側面及末節は色稍淡く黃褐色を帶ぶ鋏子は又同色を呈し、雄は長大にして內方の殆んど中央に突起を有し、雌は雄に比し小にして鋸齒狀をなす。海津、加茂の二郡に於て獲られたり。

ヒメハサミムシの圖

♂　♀

(七九)ヒメハサミムシ(Labia minor, L.?)　黑褐色をなせる小形種にして、觸角は十二節よりなり、前胸背は前種の如くにして、前翅は赤褐色をなし、疊まれたる後翅は先端少しく前翅の後方に現はれ、其部分は同色を呈す。肢は褐色にして、脛節及跗節は黃色を帶ぶ。腹部は雄は九節、雌は七節よりなり、第三節の背面兩側に小突起あり、鋏子は雄にありては長大に、雌は短小なり。常に山地に於ける叩網採集に於て獲る所の種にしてイブキハサミムシに酷似せり。今回吉城郡に於て一頭獲られたり。

以上述べたる處のもの〻採集數を表出すれば即ち左の如し。

番號	種名	岐阜市	稲葉郡	羽島郡	海津郡	養老郡	不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	山縣郡	武儀郡	郡上郡	加茂郡	可兒郡	土岐郡	惠那郡	大野郡	益田郡	吉城郡
七六、	ハサミムシ	—	—	一	一	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—
七七、	ヒゲジロハサミムシ	—	二	四	二	—	—	○	—	一	—	四	—	二	一	一	—	—	二	一
七八、	オホハサミムシ	—	—	—	六	—	—	○	—	—	—	—	—	五	—	—	—	—	—	—
七九、	ヒメハサミムシ	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一

◎糖蜜採集の蛾類に就て（續）（第二版上圖參看）

名和昆蟲研究所助手　石田和三郎

（十一）シラフ　ガ（Sypna achatina, But.）　地蠶蛾科に屬し体長六七分、翅の開張一寸六七分、前翅の外緣に近く前緣より後緣に亘り黑褐色の波狀線ありて、其外方は暗褐色に、內方は帶紫黑褐色を呈し、翅の中央より稍基部に近く前緣より後緣に亘り幅廣く青白斑あり。此斑紋は非常に變化ありて全く有せざるものあり、後翅は暗褐色にして、中央より後緣に向て、微かなる稍濃色の二條線あり。翅の裏面は暗褐色に、灰黃色の鱗粉を裝ひ、前翅の中央に縱に一條の暗褐色と、其外方に幅廣く外緣に併行し同色帶あり、前緣に至るに從て廣し。

（十二）ビロウド　トモエ　ガ（Spirama japonica, Men?）　巴紋蛾科に屬し、体長一寸、翅の開張二寸四分內外、躰の下面又腹部の尾端は赤色を帶び、全翅は帶紫暗褐色の天鵞絨樣にして外緣に至るに從ひて色稍淡し、前翅の中央に巴狀紋ありて、其外方に外緣より後緣に亘り黑褐色の一線ありて微かに後翅に通じ、又兩翅共外緣に沿ふて微かなる暗褐色の波狀線あり、翅の裏面は一樣に鳶色にして、前後兩翅共三

條の淡き波狀線あり。成蟲は四月中旬及七月下旬頃多く糖密に來る。

（十三）キ シタバ ガ（Catocala volcanica, But.）擬尺蠖蛾科に屬し、体長一寸、翅の開張二寸四五分にして、前翅は帶黃褐色にして微かなる雲狀紋あり、中央に黑褐色の曲折せる波狀線を有す。後翅は黃色にして邊緣に並行して稍凹凸せる二條の廣き黑帶あり、其內方のものはU字形をなす。翅の裏面は前後兩翅共黃色にして、前翅には三條、後翅には二條の黑帶あり、四月及九月成蟲を採集す。

（十四）シラフ シタバ ガ（Catocala actaea, Fel.）擬尺蠖蛾科に屬し、体長九分五厘、翅の開張二寸內外にして、前翅は黑褐色に灰白色の鱗粉を散在し霜降狀をなし、前緣より後緣に亘り微かなる波狀斑を有し、中央に黑褐線を以て緣取られたる灰白紋と、前緣より後緣に亘り曲折せる波狀線を有す。後翅は暗褐色にして前緣の中央より翅の中央に至り大なる白斑ありて、尙其先端に白点を有す。翅の裏面は白色にして、幅廣き暗褐色帶あるは尙キシタバガの紋樣に於けるが如し。

（十五）ハ子 クロ ガ（Amphipyra cervina, Mots.）地蠶蛾科に屬し、体長七分五厘、翅の開張一寸六分內外にして、前翅は一樣に帶紫黑褐色にして光澤あり、後翅は赤鳶色にして、前緣角部は稍濃く暗褐色を呈し又光澤あり。翅の裏面は前翅に於ては光澤ある灰褐色にして、後翅は殆んど表面のそれの如し成蟲の狀態にて越冬す。第二版上圖にヤニイロガとせるは此種の誤なり。

（十六）ウンモン クチバ ガ（Remigia annetta, But.）巴紋蛾科に屬し、体長七分、翅の開張一寸六分內外にして、胸部は濃茶褐色を呈し、腹部は灰褐色なり。前翅は灰褐色にして紫色を帶び、濃茶褐色の不正形なる雲狀の斑紋を有す。後翅は一樣に暗灰褐色にして、中央に微かなる二線を有す。翅の裏面は帶褐黃色にして褐色の粉鱗を散布し、前後兩翅を通し二條の褐色線あり。成蟲は五月上旬より十二

月上旬迄は糖密に集合す。

（十七）アオフモンガ（Hadena atriplicis, But.）地蠶蛾科に屬し、体長七分翅の開張一寸八分内外にして、胸部に濃黑褐色に青綠色の斑紋を有し、腹部は灰褐色なり。前翅は全体帶紫黑褐色を呈し、翅の中央には斜に帶紅灰白色の斑紋を有し、青綠色の雲狀斑紋を有す。後翅は全体暗褐色を呈し、基部に至るに從ひ次第に淡し。裏面は灰褐色にして、前後兩翅に通し微かなる一條線と、後翅の中央に一點を有す。

（十八）モクメキシタパガ（Catocala xarippe.）擬尺蠖蛾科に屬し、体長八分、翅の開張二寸一分内外前翅は灰褐色を呈し、濃褐色の斑紋と黑褐色の曲折せる波狀線を以て木理狀をなす。故に此名あり。後翅は黃色にして、外緣に沿ふて二條の幅廣き黑帶あり、其内方のものはU字形をなす。裏面は淡黃色にして斑紋は殆んどキシタバガの如し。

（十九）オホクロクモガ（Orthogonia crispina, But.）地蠶蛾科に屬し、体長九分、翅の開張二寸一分内外、前翅は帶赭褐色にして、中央に幅廣く黑褐色に赭色を混じ雲狀をなせる帶紋あり、後緣及外緣部に少しく綠色紋を有す。後翅は灰黑色にして、斑紋なく、緣毛は灰色なり。翅の裏面は前後兩翅共に斑紋を有せず、帶黃灰褐色なり。

（二十）ギシ〳〵ノ子キリムシノガ（Nania contaminata.）地蠶蛾科に屬し、躰長六七分、翅の開張一寸五六分、前翅の表面は帶黃灰褐色にして中室内には耳狀形の二紋を有し、其内外兩方にて微細の波狀紋を散在す。後翅は暗褐色に灰色を帶び、斑紋なし。裏面は暗褐色に灰白色の粉鱗を以て霜降狀をなし、後翅の中央に一個の黑褐色の點と、其稍外方に於て前後兩翅に通し屈曲せる一條帶線ありて、前翅にあ

るものは明ならず。

(二十一)ナノケムシノガ(Acronycta rumicis.)　擬蠶蛾科に屬し、体長五六分、翅の開張一寸二三分、前翅の斑紋は殆んど前種に似たるも色稍濃く暗褐色に灰白鱗を散布し、外緣に沿ふて黑色の波狀線と、後緣に近く灰白紋を有す。後翅は暗褐色にして基部に近く淡し。翅の裏面は帶黃灰褐色にして、斑紋は前種と同樣なるも微かなり。

(二十二)コガタノキシタバガ(Catocala esther, But.)　擬尺蠖蛾科に屬し、体長八分、翅の開張一寸七八分、前翅は褐色にして、基部及外緣部は濃く黑褐色を呈し、灰白色の鱗粉を散布す。中央には曲折せる波狀線と、微かなる灰白色の斑紋を有す。後翅及裏面は殆んどキシタバガのそれの如し。而して此種の紋樣には變化頗る多し。六月中旬頃に多く現出す。(第二版上圖にキシタバガの一種とせるもの)

(二十三)シロキノカハガ(Acronycta leucocuspis, But.)　擬蠶蛾科に屬し、体長六七分、翅の開張一寸三四分、前翅は灰白色にして中央に小なる黑色の圓紋と三叉紋を有し、其兩方には前緣より後緣に亘り黑色波狀線あり、其基部及後緣角に近く劍狀紋を有す。後翅は灰白色にして外緣部は少しく褐色を帶び且之に沿ふて微かなる線條を有す。裏面は又灰白色にして、兩翅共中央に黑點と、其外方に微かなる曲線を有す。

(二十四)シロホシアカシタバ(Amphipyra surnia, Fel.)　地蠶蛾科に屬し、体長一寸、翅の開張二寸一分内外、前翅は帶紫暗褐色にして中央に灰白色の一小紋あり、基部に近く黑色と灰白色と合並する波狀線を有す。又外緣に近く沿ふて幅廣く灰白色の帶斑ありて、其内方は黑色の波狀線を以て緣とらる。後翅は赤褐色を呈し、前緣部は稍暗色を帶ぶ。裏面は灰色にして光澤を有し、後翅の過半は赤色を帶ぶ。

六月より八月中旬迄に多く採集せり。

（二十五）エンドノキリムシ（Mamestra Brassicae, L.）　地蠶蛾科に屬し、体長六七分、翅を開張する時は一寸四乃至五六分にして、前翅は暗褐色に灰色を帶び、不規則なる黑色の斑紋を散在し、中央に微かなる灰白斑と外縁に沿ふて波狀線を有す。後翅は灰褐色を呈し基部に於て淡し。裏面は灰白色にして、後翅の中央に暗褐色の小點を有す。年二回の發生なり。

（二十六）クロクモガ（Dinumnia lilacina, But.）　地蠶蛾科に屬し、体長六分、翅の開張一寸三分内外、前翅は帶紫茶褐色にして、中央に幅廣く帶紫黑褐色の帶紋と、外縁に近く一黑点を有す。尙外縁に沿ふて二條の淡き波條線を有し、雲紋狀をなす。後翅は一樣に灰褐色を呈し、裏面は灰色をなす。

（二十七）ヨタウムシガの一種（Calocampa exoleta.）　地蠶蛾科に屬し体長八分、翅の開張一寸六七分、全体灰褐色にして、前翅は前縁に沿ふて黑色を增し、中央に一乃至二三個の耳狀紋あり、又外縁に沿ふて微なる波狀紋あるも、此種の色彩斑紋は頗る變化あり。後翅は淡黑色にして、緣毛は帶黃灰白色を呈す、裏面は灰白色に暗褐色の粉鱗を裝ひ、前翅は稍濃し、年二回の發生をなすものゝ如し。本誌前號の表及口繪に於て、子キリムシのガとせしは此種の誤なり。但、彼此頗る酷似せり。

（二十八）アカイロトモヘガ（Hypopyra martha, But.）　巴紋蛾科に屬し、体長一寸、翅の開張二寸三四分にして、翅の表面は赭褐色、黃褐色、灰褐色等の枯葉狀を呈し、非常に變化あり。前翅には前縁より後縁に亘て判然せざるく字形の褐色線、及外縁に沿ふて波狀線、及黃色の波狀線を包める茶褐色帶あり中央の巴狀紋は又微かにして、中には數個の黑點に變化せるあり。後翅は前翅と同色にして、三條の濃色帶は翅を等分し、尙外緣に沿ふて波狀線あり。但し是等の斑紋は變化ありて判然せざるものあり。裏

面は一様に帶黃赤色にして、前後兩翅に通じ三條の黑帶と、中室の先端に半月狀の微かなる黑点を有す六月中旬頃時々糖密に來る。（前號第二版上圖にトモヘモンガの一種とせるもの）（完）

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其七）第三版圖參看

名和昆蟲研究所內　小竹浩

（八）甲翅類

甲翅類はカブトムシ、コガネムシ等の類にして、前翅は革質强硬に、後翅及腹部を保護するの鞘となし背面に於て一縱線に相接合す。後翅は膜質にして廣大に、專ら飛翔の用を主り、靜止のときは縱横に疊み前翅の下に藏む。稀には前翅合着して開張せず且後翅を缺くものあり。口具は能く發達して咀嚼に適し、觸角は糸狀、根棒狀、鋸齒狀、鞭狀、球稈狀等普通なれども稀には異樣を呈するものあり。肢は步行若しくは游泳に適し、跗節は三節、四節乃至五節にして、前後其數を異にするものも少なからず。幼蟲は肢を有するものと有せざるものとありて、成蟲と共に多くは有害蟲なれども、瓢蟲、步行蟲等の如く有害蟲も亦尠しとせず、變体は凡て完全なり。

（六十九）ミチヲシヘ（Cicindela chinensis, Degeer.）　軀長六分內外の極めて美麗なる種にして、腹眼は大きく突出し、上顎は長く延びて灣曲し三個の鋸齒を有す。幼蟲は地に穴を掘り其中に棲息して他蟲の其上に來るを待ちて之を捕食し、成蟲亦他蟲を追擊して捕食するを以て共に有益蟲なり。普通路上にありて人の通行する際は、十數步若くば數十步つゝ前方に飛翔し、恰も道案內をなすが如し、故に此名あり。

（七十）ヘウタンゴミムシ（Scarites pacifucus, Bates.）　軀長五分五厘內外の黑色種にして稍細長く、前胸大に、中胸に接する處狹まり殆んど瓢狀をなすを以て此稱あり。上顎非常に發達して鍬形蟲の或種に

似たり。前肢の脛節は扁平にして兩側に鋭齒を有す。跗節五節、觸角は先端に至るに從て漸次太し。

（七十一）ゲンゴラウ（Cybister japonicus, Sharp.）　躰長一寸二三分、躰扁平にして黑く、側緣は狹く褐色に彩られ、觸角細くして糸狀を呈し、後肢は特に太長く扁平にして、跗節には內方に長毛を有して游泳に適し、脛節に二個の强硬なる刺あり、前肢は雄にありては跗節の三節は異樣に變形して其下面に吸盤を具ふれども、雌には之を欠くを以て直に雌雄を區別し得べし。養魚家の害蟲にして性頗る活潑なり。

（七十二）ガムシ（Hydrophilus cognatus, Sharp.）　前種に似たれども扁平ならず、稜狀部稍大きく、觸角は先端の三節は膨大し、其二節は曲玉狀を呈す。肢は扁平にして中後の跗節には內方に向て稍長き毛を密生し游泳に適し、脛節には二個の刺を有す。常に水中に捿み肉食性なり。

（七十三）マヒマヒムシ（Dineutes marginatus, Sharp.）　ミヅスマシとも稱し、體長三分內外の小形種にして黑く、側緣は狹く褐色なり、複眼上下に分たれて四眼となり、前肢は長く、中後の二對は著しく短く、躰の後側の鞘翅刻裂して針狀をなす。常に水面にありて活潑に廻旋游泳す。

ミヅスマシの圖

（七十四）アヲバハ子カクシ（Poederus idae Lewis.）　躰長二分內外の細長なる小形種にして、鞘翅甚だ短くして青く、後翅を疊みて其內に隱す、故に此の稱あり、前胸部と腹部とは赤く、頭部及腹部の末端は黑く、肢細長くして步行速なり、塵芥中に多し。

（七十五）アカホシシデムシ（Necrophorus japonicus, Harold.）．躰長六分乃至九分、全体黑色にして鞘翅は短かく、腹部の三節を露はし恰も隱翅蟲のそれの如く、翅面に赤褐色の四紋二列に並列す。觸角は球桿狀にして其末端三節は黃褐色を呈す。肢は各部能く發達し、脛節の末端に二棘を有し、後肢の轉節は

又非常に發達して後方尖りて棘となる。跗節は五節にして下面に黄褐色の多毛を有す。此蟲は雌雄二頭にて蛙、ムグラ等の死体を見出す時は凡そ一夜中に之を地中に埋沒すること實に奇異なり。

(七十六)クハガタムシ(Macrodorcus rectus, Motsch.)　躰長八分乃至一寸内外、全身帶褐黒色を呈し、前胸部及頭部は克く發達して平たく、雄の上顎は非常に發達して兜の鍬形狀をなし、中央より稍先端に於て岐れて二叉となる。此の顎は其發達に頗る變化ありて殆んど雌のそれの如く小にして先端二分せざるものあり。雌蟲は雄蟲より遙に小にして上顎は雄の如く發達せず。此蟲は夏季常に柳栗等より出づる甘液に集まる。

アナバハ子カクシの圖

♂

(七十七)コガ子ムシ(Mimela lucidura, Hope.)　躰長五乃至七分、全躰青緑色にして光澤あり、觸角短く、肢は太くして中後脛節には二刺を有し、跗節は五節にして刺毛を有し、最後の一節は長し。常に柿、葡萄等の葉を甚しく食害す。

(七十八)カナブンブン(Rhomborrhina japonica, Hope.)　体長八九分、全体緑褐色を呈し光澤あり、頭部は小さく前方に伸びて長方形をなし、複眼は其左右兩側の基部にあり、觸角は短かく、先端は薄片相重なりて一躰をなし膨大せり。此蟲は夏季常に柳栗等より浸出する甘液に集まる。

(七十九)タマムシ(Chrysochroa fulgidissima, Schonb.)　体長一寸二三分の大形種にして光澤ある青緑色を呈し、背に赤紫色の二條紋あり、觸角は鋸齒狀にして、跗節は五とす。此蟲は頗る美麗なるを以て世人の最も愛玩する處なり。

(八十)ウバタマムシ(Chalcophora japonica, Gory.)　体長九分乃至一寸二分、全体金屬性の光澤を有し背に黒色の隆條あり。世人此種をタマムシの雌蟲なりと信ずるものあれども全く別種なり。

（八十一）コメツキムシ（Melanotus legatus, Cand）　体長五六分、全体黑色にして灰褐色の微毛を覆ひ、前胸部はよく發達して其後緣の兩端は後方に突出して尖る、此胸部は非常なる力を有し、之を以て跳起せる性あり、觸角は鋸齒狀なり、肢は赤褐色にして跗節は五とす。此蟲の幼蟲は俗にハリガ子ムシと稱し、野菜類及麥類の根部を食害す。

（八十二）ホタル（Luciola viticollis, Kiesenw.）　此螢は俗に源氏螢と稱し、体長雄は五分雌は六分内外、觸角鋸齒狀にして鞘翅黑く、前胸部は帶黃赤色にして、腹部の末端は黃白色を呈し、夜間之より發光す。跗節は五なり。六月頃清流の河邊に多く群飛し小兒捕へて愛玩す。幼蟲は河畔の地中にありて他蟲を捕食する益蟲なり、

（八十三）ミハシラムシ（Hemicera zigzaga, Mars.）　朽木蟲科に屬し、体長二分乃至二分五厘の小形種にして体形橢圓形をなし、鞘翅金屬性の光澤ありて甚だ美なり。觸角棍棒狀をなす。曾て伊勢國大神宮の御柱中に棲息し居たるを以て此稱あり。

（八十四）ツチハンメウ（Meloe corvinus, Marseul.）　体長六七分、全体黑紫色を呈し、鞘翅短かく殆んど腹部の半以上を露出し、且後翅を缺く、雄蟲は觸角の中央部に於て異樣に膨大して瘤を生ずるも、雌蟲は然らずして糸狀をなすを以て一見雄雌を區別し得べし（種によりては此區別なきものあり）異節類に屬し、爪は四裂す。

（八十五）マメハンメウ（Epicauta gorhami, Marseul.）　体長普通五分內外にして細長く、鞘翅黑くして疊むときは背面に三條前胸背に一條の縱線あり、頭部は大きく赤色なり。觸角糸狀にして、雄蟲にありては中央稍膨大す。異節類に屬し、肢長くして步行速なり。

（八十六）ナシザウムシ（Rhynchites heros, Roel.）　体長四分内外、全体紫赤色にして少しく綠色を帶び頭部の先端長く伸て象鼻形をなし、其先端に口を有す。複眼圓形にして小さく、觸角は棍棒狀にして象鼻の中央より稍先端にあり、跗節は四とす。此蟲は梨、桃、梅、枇杷等に生じて往々大害を與ふることあり。

（八十七）ハマキザウムシ（Phialodes rufipennis, Roelofs.）　形前種に似て稍小さく、全体黑褐色にして鞘翅は黄赤色を呈す。複眼は小さく圓形にして頭部の殆んど中央右左兩側にあり、觸角は先端にありて雄は長く、雌は頭部及觸角共に雄に比し短かし。此蟲は樫櫟等の嫩葉を巧に卷縮して其中に卵子を産附し幼蟲は其葉を食して成長す。

（八十八）シギザウムシ（Balaninus camellae, Roelofs.）　全体黑褐色なれども黄灰色の短毛を以て覆ひ、鞘翅に茶褐色の斑紋を有す。此蟲は非常に細長なる象鼻を有する奇形種にして、觸角は其中央より出でゝ第一節は長く膝狀をなす。幼蟲は栗、樫等の果實を蝕害して其中に生長す。

（八十九）カミキリムシ（Batocera lineolata, Chev.）　邦產天牛科中最大の種にして全躰黑褐色なれども帶黄灰褐色の短毛を以て覆ひ、体の兩側及胸背幷に鞘翅には白色の斑紋あり、鞘翅の基部には數多の隆狀物と其肩部及前胸部の兩側には一銳棘を有す。跗節は四なり。幼蟲は殼斗科植物の樹幹を甚しく食害す。

（九十）キクスキ（Phytoecia ventralis, Chevr.）　躰長三分内外の小形種にして全躰短毛を以て覆ひ灰黑色を呈し、前胸部の背面中央に赤色の斑點あり、腹部及前肢の腿節幷に中後肢の腿節の中央は黄色を呈す。此蟲の幼蟲は常に菊科植物の莖髓中を食害して往々大害を與ふることあり。

（九十一）アカガ子ハムシ（Aerothinium Gaschkwitchi, Motsch.）　体長二分五厘内外　体形高く隆起し

鞘翅の基部に於て稍角張る。鞘翅は光澤ある帶紫紅色にして青綠色を以て縁とられ、前胸部は圓く青綠色にして頗る美麗なる種なり。觸角は先端五節稍太し。常に野葡萄等に生して其葉を食害す。

（九十二）オホルリハムシ（Agelastica caerulea, Motsch.）　躰長三分五厘內外、躰形殆んど前種に似て前胸部圓く隆起し、全躰紫黒色を呈す。常に菊科植物の艾、菊等の葉を食して害を與ふ。

（九十三）テンタウムシダマシ（Epilachna 28-maculata, Motsch.）　躰長二分乃至二分五厘、頭部は普通の瓢蟲の如く小さく前胸部の下に隱れて上方より見難く鞘翅の基部の邊に於て稍角張る、全体赤褐色にして背に二十八個の黒點を有す。觸角は根棒狀にして短かく、跗節は三節とす、該種は常に茄子科植物の馬鈴薯茄子等に發生し幼蟲成蟲共に甚しく其葉を食害す。凡て瓢蟲科に屬するものは有益蟲なれども、該種外二三種に限り有害蟲なり

キクスヰの圖

（九十四）ナナホシテンタウムシ（Coccinella 7-punctata, L.）　最も普通なる種にして鞘翅は帶黄赤色を呈し七個の黒紋あり、前胸部は漆黒色にして前端の左右に黄色の眼狀紋あり、頭部にも亦黄色の二小點を有す。該蟲は農家の大敵たる蚜蟲を捕食する有益蟲なり。

（九十五）カメノカフテンタウムシ（Propylea conglobala, L.）　躰長四分內外の大形種にして、漆黒色と黄赤色を以て龜甲狀の斑紋を有するを以て此稱あり。此種も亦蚜蟲類を捕食する處の有益蟲なり。

◎産卵の跡を隱匿するに巧妙なる蛾類三種（續）

高知縣農學校　武内謙文

母蛾産卵前の食餌　蛾類には羽化後に於ては一切食を取るを要せざるもの多し、螟蟲類、蠶蛾類の如

き是なり。又た産卵の任務を果す迄は、之れに要するに其營養を取らざるべからざるもの亦少からず、天蛾類、擬尺蠖蛾類の如き是なり。特にアケビノキノハガの如きは、土佐に於ても或地方に在ては甚しく梨果を吸收して農家を困ましむるに至る。而してアハノヨトウムシは即ち其後者に屬するものなるを知る。予は之を飼育するに當て普通の方法を取りたるも、成蟲に對しては他の地蠶蛾類と同じく、必ず糖液（砂糖を適宜の水に稀釋したるもの）を給せざるを得ざりき。若し之を與へずして三四日（夏月に於て飼育したるもの）を經れば、其內飢に堪へざるものは晝間と雖ども直ちに糖臭を嗅て液中に投入するものあり、更に六七日も飢へしむれば産卵せずして死するもの多く、初めより之を給すれば則ち能く交尾産卵し、其卵はまたよく孵化生育を完したり。是れ蓋し蛾体內に貯存せる養分の如何に關係するものにして是れを他の昆蟲に見るに葉蟲類、象鼻蟲類等の成蟲期の加害實に甚しく、天牛類が産卵前に於て特に培肥せる樹皮を咬食するが如きは、亦其産卵前に於て母体に營養を供給するの必要あるに因るなるべし。椿象類にはクロクサガメムシが産卵前の加害最も甚しく、ハリガメムシ、イチガメムシ及びクモガメムシの如きは、幼蟲はよく禾本科の雜草に生育するも、成蟲は出穗期に多く稻を害し、浮塵子類亦出穗當時に成蟲の稻穗に集合するもの少からざるを見る。此の如きは昆蟲の生理を究明して後に其理を明知するを得べしと雖ども、高等動物を飼養し繁殖せしむれば、其趣きを同するものあるを以て略ぼ其理を推知すべく、而して各種蟲類の例を以てすれば、アハノヨトウムシも亦此理に外ならざるを信ず。

冬期飼育の有樣　　予は明治三十四年の冬セジロヨコバヒを飼育するに、箱內にスヾメノテツポウを植へ籾糟を布くこと厚さ五分許にして、寒氣强ければ其內に潜入せしめ、温暖なれば食を取らしめたり。アハノヨトウムシの野外に於て越冬せるものを見るに、半ば成長せる幼蟲多く、温暖なれば禾本科の雜

草（主にスズメノテッポウ）を食し、寒氣強ければ稲の殘株間若くば殘株の莖内に潜入するとイチモジセヽリの幼蟲に於けるが如し。故に三十五年の冬に於ては又スゞメノテッポウを植へ、稲株を與へて飼育せり。然るに三十六年に於ては、冬季に接して多く蛾化したるを以て、厚き綿布を布きて强寒の時は其下に潜入せしめ、糖液を與へて温暖なる時は之を食するに委したり（野外に於ては多く石下に凌寒せるを見る）。然るに十二月に入て産卵したるものあるも、其數極めて少く、且つ生葉裏に一ヶ所五六粒を産附し、之を被覆することを爲さゞりし。オホズヰムシは稲類、黍類等の作物莖内に越冬せるものは皆な充分成長せるも、薄薏苡等の野生植物に在るものは成長半ばに達せざるもの亦多し。想ふに此害蟲はアハノヨトウムシ等と同しく發育の頗る不同なるものなるを以て、其第三回蛾化の早きものは作物に産卵し、幼蟲は充分成長して越年するを得、其遲きものは作物秋收後野草に産卵して幼蟲は充分成長するを得ざるに因るべし。土佐に於ては九月秋收の後凡そ一ヶ月を經て稍秋冷を催すの頃此蛾の羽化して竹籬に徘徊（産卵せんとするも適當なる場所を得ざるが爲めなるべし）せるもの多きを見る。此時に際して水畔に生ぜる薏苡の如きは、綠葉は尚ほ盛に生茂せるを以て最も産卵に適當なるべし。而して夏月作物の生茂せる時は、此等の雜草には殆んど發生せるを見ず。之を以て三十五年冬季多數の成長を遂げざる幼蟲の薏苡莖内に在るものを捕へ（其莖を蟲と共に抜き來りて）來りて、其薏苡莖を植へて補ふに燕麥を以てし、而して之を飼育したるに、温暖なる時は固より食を絶へず盛に新しき蟲糞を漏出し、春季に於ては出でゝ麥莖内にも蝕入せり。此くの如くにして冬期（三十六年）の飼育をなし、而して三十六年に於ける經過を調査したり。

アハノヨトウムシの經過及被害植物

蛹化　三月卅一日	羽化　六月十六日	產卵　八月八日	孵化　九月廿四日
羽化　四月十五日	產卵　六月廿四日	孵化　八月十日	蛹化　十月廿五日
產卵　不詳	孵化　六月廿八日	蛹化　八月三十日	羽化　十一月六日
孵化　五月十日	蛹化　七月廿三日	羽化　九月九日	產卵　十二月九日
蛹化　六月二日	羽化　七月卅一日	產卵　九月十八日	孵化　十二月廿九日

備考　冬期羽化後は生育宜しからず。

被害植物は稻麥類、粟稗類、黍類、甘蔗及び諸種の自然生禾本科植物に亘り、禾本科以外には蘭を食害す。

オホズキムシの經過及被害植物

蛹化　四月十三日	孵化　五月十一日	產卵　七月十二日	羽化　八月十七日
羽化　四月廿六日	蛹化　六月廿六日	孵化　七月十八日	產卵　八月廿三日
產卵　四月廿九日	羽化　七月五日	蛹化　八月九日	孵化　八月三十日

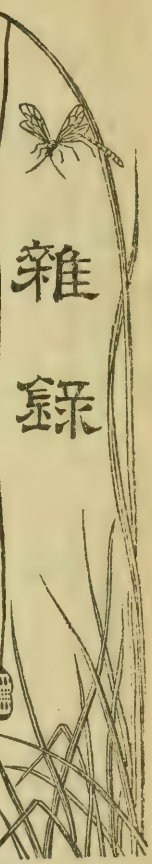
備考　八月三十日孵化したるものは九月上旬に至り充分成長して越年せり。

被害植物は稻麥類、粟稗類、黍類、甘蔗及び薄、薏苡の禾本科植物に亘り、禾本科以外には薑を食害す。

以上三種の經過は產卵、孵化、蛹化、羽化は多數飼育せるもの丶中にて同日に見はれたるものを取り其他不同なるものを捨てたるものなり。

アハノヨトウムシ及びオホズキムシに對しては、世上驅除を說くもの少からざれば今玆に重說するを要せずと雖ども、アハノヨトウムシは山野堤塘等の枯草間及稻の殘株間に越冬せるもの多きを以て、秋冬期雜草の删除燒却及び田面の耕耘を怠らざるに於ては驅防の効甚大なるべく、オホズキムシに對しても

亦薄等に越冬せるものを火殺するを得べきなり。水畔に多く薏苡を繁茂せしめある地方は、冬期之を刪除驅除すれば最終發生のオホズキムシを誘殺するの効少からざるべく、其他は地方の事情と害蟲の習性に察して、夜盗蟲、螟蟲に對する處置をなすべきなり。而して此二種に對しては採卵驅除は頗る容易ならざるべし、タマゴマキムシに至ては、春季稻苗に於ては、少しく注意すれば産卵の跡を發見すると難からず、而して恰も螟蟲産卵と時期を同するを以て、同時に採卵し得べし、誤て之れを逸するも、孵化當時群集して點々咬害の跡を認むるは容易なり、宜しく常に注意して之を潰殺し置くべきなり。其成長せる幼蟲に對しては、油殺の効あると正にイ子ノアオムシと等し。除草の時注意すれば莖間に在る蛹を殺すと亦難からず。冬期殘株には蛹の越冬するもの少からざるを以て、秋耕を勉むるに於ては亦驅防の一助たるを疑はず。此害蟲が山野の枯草間に越冬せる狀は、未だ之を發見せずと雖ども、之を精査すれば或は意外多きを保せず。蓋し作物の害蟲は浮塵子、椿象、蚜蟲及び夜盗蟲、苞蟲、螟蟲等多く作物以外の雜草を食して之れに托生し、雜草に潜れて風雨寒暑を避け、雜草を本據として作物に出沒するもの其例極めて多し。之を以て唯に冬期に於て枯草を燒却するのみならず、戸々畜産を奬勵して其飼料に充て、或は施肥の方法を講ずる等、雜草の需要をして益々多からしめんには、害蟲の本據を奪ふの益多大なるに非ざるか、土佐に於ては或る地方には年末に山野の枯草を燒却すれば翌年疫疾なしと云ふ傳説あるに因りて火を放つあり、又た或る農村には男女を問はず野に出づるものは必ず多少を問はず雜草を刈り來る慣習あり、予は更に此等に對して害蟲生育の狀態を曉らしめんことを思ふ。　（完）

附言、イ子ノアオムシに寄生する蜂類は、其体外に寄生するもの及び体内に寄生するものを問はず、概ね皆タマゴマキムシにも寄生す。

雜録 （三）

葉隠に　機嫌伺ふ　蠶哉　（太祇）

◎昆蟲文學

蝶　　魯嶽野衲

緩尋芳草疑無力。低繞幽花竄有香。憐汝陽春三月日。終令粉翅了匆忙。

南山曰。吟筆輕妙。無往不可。感感服服。

桑枝尺蠖　　半風隱士

一屈一伸有意無。繁桑樹底托微軀。平生宛作枯枝狀。時破土瓶驚僕奴。

南山曰。昆蟲奇談入詩從此什始。

螟蟲　　半風隱士

朔風凛凛恨偏長。四野蕭條轉斷腸。身蟄冬田稻株裏。悠悠一夢待春光。

衣魚　　神村直三郎

書をはむ衣魚のにくさはもろこしの昔の君にまさりけるかな

足長蜂　　同

軒ぢかく足長蜂の音すなりよき巣ごころをえらぶなるらん

翅隱　　同

横這のもしやこもると雄雄しくも田の畦あさるはねかくしかな

花虻　　同

花虻に蠅もまじりて長閑なる羽音たえせぬ庭の海棠

土いなご　　同

春の野をわがものかほに土いなご羽音かたくも飛びめぐりけり

蝶　　岩間文作

咲きにほふ花のきぬがさかつぎつゝ蝶はいかなる夢や見るらん

蝶　　小野うめ子

花賣の花にたはむれ飛ぶ胡蝶てふもろともに花買はんかも

蜂　　轉轉

外壕の　石垣はみて　土蜂の巣

老松の　根下腐りて　土蜂の巣　　同

巣の口を 土蜂出入る しきりなり　同
雨晴れて 蜂來る庭や 豆の花　同
牡丹の芽 蜂來て止る 夥し　同
宮の後榎の下や 土蜂の巣　小紅
巣を燒くや 狂ふて出る 蜂の數　同
うかとして蜂に螫されな草苅る子　同
蜜蜂や午飯時の百 花園　同
いわけなき顏腫れにけり蜂の毒　城東
巣をとれば蜂の狂ふや小柴垣　同
暮遲き 軒に蜂箱 吊しけり　同
蜂の巣や村の酒屋の藏の窓　明笛子
寺男 蜂の巣燒くや 雨の中　同
こはれたる 蜂の巣遂に 落にけり　同
土蜂の 續いて出つる 木の根哉　半壺

叢や 石の下なる 土蜂の巣　同
畦を燒く煙の中の土 蜂哉　同
腕白の顏たかしさよ蜂の毒　三竿
乳母の家 蜜蜂多く 飼ひにけり　同
町端れ 蜂飼ふ家の 並びけり　清里
裏門の 蜂の巣燒いて しまいけり　枕水
蜜蜂の箱出しけり腰 障子　四山
蜂なんど 庭を飛びけり 留守の家　福勳子
草苅の見つけて燒きぬ土蜂の巣　山海子
岡の上に 蜂の巣をとる 焚火哉　孤月
蜜蜂や 蒲公英去つて 壺 菫　成之
軒端の 蜂の明巣や 暮の 春　蕉雨
蜂の巣や 躑躅咲きたる 庭の隅　皓月
標本の 蜂千をもて 數ふ可し　村學究

◎讀雜誌昆蟲世界寄名和所長

牧野南山

欲窮斯學利蒼生。何覓浮雲富貴榮。侵雪踏霜探閉蟄。設房分室養蜫蟲。兒童猶識蟲災害。歐米也傳君姓名。連月新刊書一卷。許多實驗錄來精。

嶽曰。全首井然。宜爲名和所長小傳。讀焉而頌中自有規。

◎昆蟲展覽會

愛知縣農事試驗場技師　美濃部鏻次郎

農作物の害蟲より受くる慘害は著大であるのみならず、古來より饑饉の慘狀は害蟲が多くは其原因をなしてをる、而して單に米作だけでも一旦害蟲發生せば商工業界の萎靡不振を來すは常に余輩の目擊する處で、其國家經濟上に及ぼす影響は實に容易でない。加之昆蟲の社會各般の事物と著しき關係のあるのは、例之ばカツヲブシムシの生糸、鰹節、魚肥、毛皮等に於ける、コクゾー、コクガの貯藏米穀類に於

ける、或はチヤバチアブラムシの庖厨食物を害し、シミ類の書籍繪畫類を蠹食し、ノミ、シラミ、カ、ハイ類の吾人衛生上に至大の關係を及ぼす、ウシヾラミ、ハムシ、フンムシ等の家畜家禽を苦むる、ゲンゴロー、ガムシ等の養魚家に損害を與ふる如きは皆人の知る處である。故に昆蟲志想發達の急務なのは、特に農業界のみではなく一般人士の男子婦人を論せず必要で、從て其趣味を感得する事も亦必要である。而して社界一般昆蟲志想の發達は、大に農界に於ける害蟲驅除豫防の惰眠を破り、之れが周到實行に大に裨益する處があるのである。

昆蟲に關する智識志想の發達は如斯急且大であるけれども今俄に之れを社界一般に普及さするとか發達せしむるとか云ふ希望は餘り急激であるから、却て人を敎導育成し、或は一般社界の上に立ちて人の摸範となるべき即ち敎育者幷に上流の紳士に、一は國家の爲め、一は自己の忠良なる國民の責務として、又一は己れ自身の爲として大に注意を請ひたいのである。そこで敎育家に希望する第一の理由は、一体今日の學生一般は理科の感念が甚だ薄く、從て實業上の志想に乏しく、漸く世の中に立つ時には不生產的の人物が多く出來る、故に小學時代より理科の感念を與へ將ひて實業的志想を喚發せしむる準備が必要と思ふ。然るに昆蟲は從來から兒童の常に喜こんで玩ぶものであるから、昆蟲採集は理科の感念を與ふるには尤も適當と察せらるゝに加へて山川田圃或は凡ての動植物即ち自然に接する好機會を與ふるのであるから、之れが即ち第一の理由にて、第二は兒童の頃より昆蟲即ち益蟲或は害蟲は我が家の職業即ち農業に如何なる利害を與ふるものなるや、或は一般經濟上或は國家に如何なる影響を及すものなるやを知らしたなれば實業の等閑に附すべからざる感念を與ふるに大に力となると思はるゝ。尙又第三の理由は、我が最愛の兒童から兎に角我職業の利害に關する即ち害蟲驅除等の事を聞きたる父母等は如何に頑陋或は無頓着でも、兎に角馬耳東風に打捨て置く可からざるに至るから、大に害蟲驅除豫防の實行上に裨益する處が大なるのである。而して最後に第四の理由は、學校敎育者諸君の町村內に於ける言動の勢力は中々强大なるものだから、直接間接に之れに接觸したる農家の自然的或は敎導的の感化は莫大の効果を害蟲驅除豫防上に及ぼすものである、尙この外にも有益なる効果を直接間接に與ふる事大なるものであるから、一番敎育家の奮起を希望するのである。

上流の人士に昆蟲志想の必要で、隨て余輩の亦之れを希望し、或は聳誦するのは、其第一の理由として地方の紳士即ち地主は、總てとは云はざれども從來其職業に甚だ冷膽で、農作物の豐凶の如きは殆ど對

岸の火災視し、書畫、骨董、生花、點茶に閑日月否忙殺せらるゝもの十中の八九である。之れは地主の本分として、又鄕黨の摸範者としても實に國家に對して甚だ相濟ざる次第である、故に此地方紳士にして昆蟲を採集し、之れを以て室內裝飾の一つに加へたならば自ら田圃の實況にも通じ、慘害を逞する害蟲を決して傍觀する譯には行かん。若し地方に於て此の無上の勢力を有する地主諸君が一旦奮起したならば、百の農事の改良、浮塵子、螟蟲の大軍も敢て恐るゝ處にあらざるのである。次の理由は第一の理由と關聯して居るので、一体日本の紳士には娛樂の種類甚だ少く、從て室內的即ち隱遁的娛樂のみで、且つ中には言ふに忍びざる不健全な擧働を演ずる者が多數ある。故に今日社會の改良は第一に娛樂の種類を高尙にする事最大急務である、昆蟲を採集し、或は之れを弄ぶは一家男女老幼は勿論下女下男に至るまで共に團欒或は野外に相携へて快樂を共にし得るだけではなく、大に學術的趣味を有する高尙なる娛樂であるから、上流の紳士には尤も適當だと考へる。そこで玆に一言添ゆるのは、此の希望は特に地方紳士のみに希望するばかりではなく、官吏も醫師も政治家も銀行家も商工業家も必ず斯かる野外的健全なる娛樂の趣味を感じて貰ひたい。理由の第三は前に述べたるが如く兎角室內的娛樂遊戲が多きに失するの結果、上流紳士は身体が虛弱で、顏面蒼白、或は胃病に、或は肺疾に、婦人の如きは一般ヒステリー的精神病に侵さるゝものゝ多きは、新鮮なる室氣、鮮麗なる日光、開豁なる景色に接する事少き爲である。昆蟲採集は野外に於ける趣味尤も多く、衛生上適當の運動法にして、若し余輩の理想をして大方の紳士之れを冷笑に附せざれば、恐らく胃散其他の消化藥發賣の店主より大攻擊を受くるは必然、亦余輩の甘受辭せざる處である。

尙、以上の理想をして速に現實せしむるには、別に他方面に一つの希望を述べざるを得ざるのである。即ち近來非常に流行する海水浴場、温泉場其他旅館等に於ては昆蟲採集に要する器具類即ち捕蟲網、採集箱等の二三箇づゝは備へて置き、客の需めに應じて貸し與ふるは避暑の旅客に無聊を感せしめざる適當の方法と考へる、之れは他日評論するとして一言を述べ置くに止むる。

昆蟲思想發達の急務なるは前述の通りにて、尙其他にも多々ある、そこで一般人士競て昆蟲の採集に從事するとして、單に之れを函內に排列したのみにては趣味甚た少きのみならず實益上にも亦効果甚た少きのである、故に之れを採集した以上は少くとも命名と分類位は行ひ、進んでは經過習性の如きを硏究する必要を生ずる。之れには一の昆蟲學會の如きものを起し、相互標本の交換、硏究等を爲すの必要を

生するが、昆蟲學會創設には別に余輩の意見を述るとして、先づ急に縣下各郡は勿論全縣下を通したる昆蟲展覽會を開催し、一つは自身の熱心採集の度を發現し、一つは一堂に集りたる數十萬の標本に就き研究するは實に多趣多味なるものと信ずる。而して農家は勿論一般公衆は此の美麗なる、此の天然なる數多の昆蟲を縱覽すれば、其田圃に於ける害蟲驅除豫防の精神を喚起するは勿論一般昆蟲の及ぼす損害を豫防するに於て顯著なる効果を奏するは疑ない。而して昆蟲展覽會は余輩の創見でなく、旣に縣下に於ても開催せられ、現に異常の効果を奏したるのである。依て以下聊か卑見と共に是等の成績等を開陳せんとす。

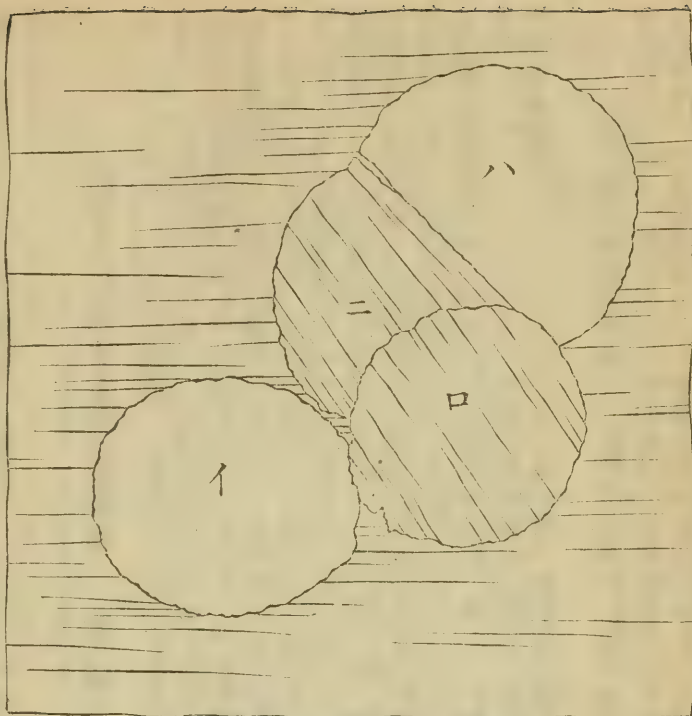
(未完)

◎昆蟲に關する隨感隨筆（第八回）

昆蟲翁

(四十七)シロハンメウの保護色　岐阜市に沿ふて流るゝ長良川の水邊の砂礫は、長石類の破碎されたるものにて藍黑色のもの多く、其内に白色のものを混ぜり。此砂礫の上に棲息する所のシロハンメウは其色恰も砂礫の色と同じき斑紋を有するを以て、飛揚の際には蟲類なることを知るも、一度砂礫上に靜止する時は決して發見し能はざるなり。是れ實に其保護色たるを證するに足れり。而して一昨卅五年八月鳥取市に行きたる際、同市の高等小學校生徒に同縣下の昆蟲採集の事を約せしが、其後數百の標本を送り來れり。其内四頭のシロハンメウあり、其採集者は長田喜太郎氏（三十五年九月七日鳥取市濱坂、第四學年）、小林章氏（同月三日岩美郡中の鄕村種ヶ池、第四學年）、米澤安吉氏（同月同日岩美郡中ノ鄕村野邊、第四學年）、深田義晴氏（同月五日氣高郡安長村野邊、第四學年）の四名なりき。玆に其四頭を長良川邊のものに比較するに、如何にも白色部多く、中には殆んど全く白色とも云ふふべきものさへあれば、或は彼等棲息地の砂礫が白色多きやも圖り難しとの疑團を抱き、直に該校長遠藤董氏に長良川の砂礫幷にシロハンメウを送りて比較調査を請ひたるに、果して白色なりとて特に該砂を送附されしを以て比較標本を作りて是れを示すに見るもの皆々驚かざるはなし。實に天地間の微妙には何時もながら感服の外なけん。

(四十八)紙を綴る面白き昆蟲　先年名古屋市に於ける中央醫學會に招聘せられし際、ドクトル北川乙次郎氏には障子の紙を綴る一種の面白き昆蟲を知らざるかとのことなれども、翁は如何んとも答ふるに辭なければ、只現品惠送のことを願ひ置きたるのみなりき。然るに昨年一月岐阜市公園万松舘内の障字の

紙を綴る面白き昆蟲（鱗翅類小蛾）の圖
（イ）（ハ）の紙を切りて（ニ）（ロ）に覆ふ

紙を圖の如く綴りたるを見出したれば、初めて北川氏の事を思ひ出し、果して該蟲なりと喜びの餘り直に其紙を破りて持皈り、大切に保護し置きたるにも拘らず遂に斃死したるは實に殘念なりき。本年は是非共手に入れ度しと種々注意せしも未だ其意を得ざれば、此際大方の諸君、特別注意の上速かに發見報告あらんことを請ふ。因に記す、昨年所員の某該蟲と思ふべきものヽアヲキバを綴りたるものを採り來りしも、是又遂に死したりき。

（四十九）北亞米利加の鱗翅類目録　一千九百〇二年出版の北亞米利加鱗翅類の目録は、ダイアー氏の手に成りて、其紙數七百廿三頁、其種の全數は六千六百廿二種にして內蝶類は六百五十二種なりと云ふ。

（五十）蜘蛛の蛆を捕獲する有様　少しく尾籠の話しなるが、便所の瓶の近傍にクモ網を張りて頻りに羅蟲を待ち受くるの有樣なるも、意外に獲物なきが如し。然るに往々地上に這ひ居る所のシマバイ即ち胎生蠅（ウジバイ）の蛆或は其蛹の網の中央に捕獲せられ居るを見る、誠に不思議のことなれば能く注意するにクモの網より特に瓶の近傍の地上に糸の附着しあれば、瓶中の蛆は老熟して最早蛹化の時期來れば、瓶を登りて地上に出で、彼れ是れと這ひ廻る內にクモの糸に觸るれば、忽ちクモは地上に降り來りて糸を以て其蛆を取り卷き、遂には網の中心に引き揚ぐるなり。此際蛆は往々其儘蛹に化することあり、茲に於て始て其理由

を知るに至れり。

◎昆蟲界の花壇（其三）

在米國　名和梅吉

（七）蜜蜂と僂麻質斯治療法　蜜蜂を利用して吾人人類の病患僂麻質斯を治療し得る事は、曾て聞知し居たりし處なりしが、英國マルプルグのドクトル、ベルグ氏の實驗に依りて、該患者の平癒せし趣き當米國桑港市の新聞紙にありたれば、今左に紹介せん。

即ち氏曰く、環節及筋肉に發起する所の僂麻質斯を醫する最良法は、蜜蜂に刺さしむるにありと謂へり。而して氏は常に之を實際に施行しつゝある由なるが、其施行方法は患者に對し、最初は少數の蜜蜂をして患部を刺さしめ、漸次其數を增加するものなりと、最も蜜蜂は筋肉の關節に近き部分に寄宿せしむるものにて、一人の患者に對し蜜蜂十七頭を以て一回の定數と爲すと云ふ。又氏は曾て非常の病苦に難む所の婦人患者に對し六千九百五十二回接觸せしめしに、該病患は悉く去りて忘るゝが如くに快癒を見るに至りしと云ふ。そも斯くして病患の治癒する理由に就て氏の說に依れば、各機關は蜜蜂の毒より免疫さるゝと同時に僂麻質斯より免除さるゝものなりと云ふにあり、兎も角面白き療法と云ふべし。

（八）苹果蠹蟲の驅除と鳥類　米國に於ける苹果の害蟲種々ありと雖ども、就中加害甚だしく一般栽培家の憂慮するものは、苹果の果實內を蠹喰する所の苹果の蠹蟲なりとす。されば該蟲の驅防上に就ては種々企圖に努力されつゝありと云ふ。今昨三十六年に、八ヶ月間の長期に涉り、加洲ワトソンビルに於て加洲大學の昆蟲學者ウードウヲース及びクラーク氏等管督の下に試驗を施行されし結果を聞くに、そが試驗の爲めに要せし費用はモンテリリ及びサンタクルーヅ郡より支出されし由にて總額二千九百二十五弗なりと。此試驗の結果該蟲の損害は、一昨三十五年の四〇パーセントに對する僅かに五パーセントの加害に減じたりと謂ふ。而して此の試驗に始終關與されしはハンター氏にして、氏は硏究中鳥類の果樹園家に對する經濟的の價値如何に心附き、種々なる鳥類を捕獲し、そが胃中を調査の目的にて八ヶ月間に千三百頭の鳥類を捕殺され、ワシントン府に於ける農務省の鳥學者に送致して其胃中に存在する蟲類の調査を依賴されたりと、然るに其調査の結果に依れば、ブラック、グロスビークヘシノメ類の鳥胃中には九〇パーセントの昆蟲を所有し居り、其中一四パーセントは苹果蠹蟲の蛹を發見されたりと云ふ。然しあるものは百パーセントの同蠹蟲蛾を有するものあり、或るものは僅かに五パーセントのものもあり

て、且そが幼蟲は常に多數を有せりと云ふ。而してベニスズメと稱する鳥は非常に少數なりきと。此結果よりして該蟲驅除の上に、是等鳥類が植物に加害なくして大に有力のものとなし、保護の必要を認知され、特に造巣期に於て注意されたりと謂へり。

◎芫菁丁幾の製法と其作用

岐阜縣揖斐郡鶯村　竹中重三

夏期大豆に發生して其葉を甚しく食害する所のマメハンメウ(Epicanta Gorhami, Marsul.)は、其發生するや常に群をなし而して移轉する性あるを以て、世人の多くは此蟲の驅除法として、其數頭を採り、之を竹串に横貫して發生地に置かば直ちに逃げ去ると稱せり、之れ其移轉性あるを知らざるが故なり。此蟲は大豆の一害蟲なるも、以て芫菁丁幾（揭答利斯丁幾 Tinctura Cantharidium）を製するを得べく、又發胞膏として醫藥に用ふるを得べければ、之を採集して坊間に販賣することを得べし。然し藥用として最も効力を有するものは、西班牙產のものなるも、普通マメハンメウにて製するなり。すべて此の地膽科(Meloidae)に屬するものは、芫菁質(Cantharidin)を含有し非常なる有毒性なれば、取扱者は十分注意すべし、故に普通田圃に居るも、一度藥種商の手に入る時は容易に販賣せざるなり。今左に芫菁丁幾の製法及作用を摘載して參考に資せんとす。

芫菁丁幾　（劇藥）

製法　芫菁粗末一分酒精十分を取り五日間冷浸し、後壓搾し濾過して製すべし。本品は澄明黄褐色の液にして、比重〇、八三四乃至〇、八四なり、注意して貯ふべし。

作用　本品主成分 Cantharides を皮膚に貼すれば、殆んど疼痛なく潮紅して水泡を生じ、其漿液性內容物は Cantharidin を含み、更に他部に水泡を形成するを得べし、Cantharidin は皮膚粘膜潰瘍面より吸收せられ、大發胞膏として貼するときは中毒を發すること少からず、本品は甚しく腎臓を刺戟するを以て、其中毒に於ては蛋白尿、血尿、膀胱炎を發し、屢々膀胱粘膜の纖維性沈着物其他尿利困難、疼痛性陰莖勃起を呈す。其重症は呼吸障害痙攣を呈し、胃より攝取せる後は此症狀に加ふるに尙急性胃腸炎の症候を併發す。

マメハンメウの圖

前述の作用を有するにより、外用劑には發胞用として誘導の目的を以て漿液膜炎（心包炎、肋膜炎等）

肺炎、急性及慢性僂麻質斯、卒中狀態僂麻質斯性齒痛眼炎に供用し、又猥瘡に外布す。弛緩性潰瘍に於ける刺戟性綳帶料、毛髮脱落に於ける塗髮水の配伍料となす。內用には殆んど全く用ひず、往時は催淫、利尿劑として用ひたり。丁幾製劑も右の如く毛髮發生を促すに外用となす。丁幾を其內するに二乃至十滴を他粘滑飮料に加へて用ゆ。

通信

蠶飼ふ
女や古き
身だしなみ
（太祇）

◎博覽會出品害蟲標本解說書（二等賞）

福岡縣　嶺　要一郎

部	類	番號	品　　名	出品人	福岡縣遠賀郡淺木村
一	八	一	害蟲標本幷に解說書		職業農　嶺　要一郎

製造地　福岡縣遠賀郡淺木村大字虫生津二百九十二番地嶺要一郎昆蟲研究所

材料及製造法　福岡縣下重要農產物有害昆蟲類中被害の顯著にして其關係の尤も深厚なるものを撰擇し、之れに普通農家の注意を勸起するの目的を以て排列したるものなり。其標本各部の製造法に至りては、茲に記すの要なかるべし。說明書の材料は凡て自己の研究及經驗に成り、敢て他によらず。

効能　一般農家をして害蟲の經過性狀を明にし、從て之れが豫防驅除の方法を知らせしめ、併せて昆蟲思想普及發達を計るにあり。

沿革　明治廿六年實業視察の爲め筑後各郡に遊ぶ、偶螟蟲の被害甚だしく、其慘狀見るに忍びさるものありき。然るに地方農家の斯蟲に對する處置を見るに實に云ふに忍びざるものあり、於是か應用昆蟲學の研究と共に斯學思想の普及發達の必要を認め、種々畫策する處あり、廿九年八月私立の昆蟲研究所を起し、一二名の助手を置き、聊か斯學の爲めに盡す所ありしが、種々の困難に逢遇し、卅四年五月遂に之を閉鎖するの止むを得ざるに至れり。爾後住宅を擧げて研究所とし、家族を擧つて助手とし、吃々今日に至る。

出品者の履歴中昆蟲に關するものは左の如し。
履歴　明治二十九年八月私立研究所創立。三十年七月私立名和昆蟲研究所特別通信委員囑托せらる。同年八月廿七日遠賀郡農會長賞賜。卅二年二月遠賀郡長賞賜。同年五月遠賀郡害蟲研究會創立に際し委員長たり。同年同月同會顧問囑托せらる。卅四年五月研究所閉鎖。
褒賞　標本其物に關しては褒賞を受けたることなし、蓋し從來參考品として出陳したるの外共進會品評會等に出品して審査を受けたることなし。但し昆蟲學上に關しては左の賞賜を受けたることあり。
（賞狀寫貳通）略す（曾て昆蟲世界誌上に掲載せられたることあり）
審査請求の主眼　昆蟲思想の普及發達は本にして、標本製作の技術は末なり。出品者が應用昆蟲學研究上の處針亦是のみ。

◎博覽會出品害益蟲分類標本解說書（褒狀）　靜岡縣周智郡農會

害益蟲分類標本解說書

部	類	番號	品名	出品人
一	八	一	害益蟲分類標本	靜岡縣周智郡農會

製造地　靜岡縣周智郡農會昆蟲學研究部內。
原料　靜岡縣遠江國周智郡內にて採集せし各種の昆蟲。
製造用品　（器具）捕蟲網、飼育箱、展翅板、留針、ピンセット、採集箱、收容箱、注射器、刀、鋏、針の類。（藥品）青酸加里、ナフタリン、タラガントゴム、アラビヤゴム、サクサンの類。
製造方法　各昆蟲種類の異なるに從ひ、左の方法に依り製造す。
一、殺蟲法　鱗翅類は注射器を以て醋酸を胸部に注射す。甲翅類は熱湯にて殺し、又は青酸加里を用ひ、其他の種類は多く青酸加里を用ゆ。
二、脫腸法　直脈翅類の如き、多くは食肉蟲なるを以て、腹部腐敗し易きに依り、刀或は鋏にて切開し、ピンセットを以て脫腸し、綿類を容る。
三、整容法　留針を中胸部に貫刺し、展翅板上に於て翅、脚、觸角等を整理し、厚紙にて壓着す。又

は小蟲類の脆弱なる蟲類は、厚紙上にタラカントゴムにて附着す。一週間乃至二週間乾燥せしむ。
四、乾燥法　整理を爲したる展翅板を收容箱の棚に入れ、一週間乃至二週間乾燥せしむ。
五、保存法　桐板製の箱にして、底に疊表を敷き、西洋紙を以て張り、周圍は二重にして、防腐劑即ちナフタリンを投入するの装置を爲したる一定の箱に收容す。
以上製造方法は、名和昆蟲研究所の傳習を受けたる方法に依る。
沿革　明治三十四年六月名和昆蟲研究所長を聘し、短期害蟲驅除講習會を開設し、其修業生九十有余名を以て周智郡昆蟲研究會を組織し、各町村に支會を置き、更に明治三十五年九月中名和氏を聘し、周智郡昆蟲展覽會を開設し各町村支會より出品せしめ、審査を施し、等級を付し、專ら奬勵を計り、次で第二回害蟲驅除講習會を開き、修業者を出す百有余名なりとす。而して該會は現今周智郡農會の決議に基き、同會昆蟲學研究部の事業とし、各町村は又其町村農會に屬して研究しつゝあり。
効用　普通の昆蟲を以て、其名稱害益蟲の區別及分類法等を知らしめ、進んで發生經過の研究に資し昆蟲思想を養成し、之を實地の應用に供するにあり。
審査請求主眼　害蟲驅除益蟲保護上、一般當業者をして昆蟲思想の喚起を促すは、刻下の急務なり。而して之を爲すには、先づ各町村農會に之が標本を備置くの必要あり、即ち本品は各町村農會備付の標本として、專ら害益蟲區別、昆蟲分科を主として製作し、其研究資料に適當ならしめんとの点。

◎昆蟲に關する葉書通信　（三十九報）

●（二二七）疳蟲に就て（愛知縣寶飯郡役所内、宮林桂次郎）　余寶飯郡に轉任を命せられてより郡内の事情に通せんと欲し、或日郡誌を見たるに、曾て聞きもし又見もせし事ありし疳蟲に効能ありと稱する昆蟲の由來を知り得たれば、左に報導せん。
寶飯郡桑富村大字大木字新屋に墓地あり、土質砂壤土なり。此附近に發生する小蟲の由來を尋ぬるに頃は文久三年亥三月廿九日に卒去いたせし、獨通吟歩善男にて當村中村勇藏の兄にて、俗名を寅藏とて生涯妻もなく、弟勇藏の耕の助を業とせり。然るに多病にて、殊に疳の病時々發り、愁ること限りなし。故に十一面觀世音を常に念して怠りなかりき。或日例の耕に出て發病し、死に望み吾れ死後には疳蟲と化して諸人を助けんと告げ、墓印には松二本植えくれと遺言せり。後遺言あればとて小兒の

痱病に蟲を呑ましむるに立所に平癒す。こゝを以て年增に該蟲を拾ひに來るもの多く、一日平均三四人に至れり云々。

右は正しく甲翅類中のスナムグリなり、前記の由來は信ずるに足らずと雖も、該蟲が痱病の藥となるや否や、暫く記して研究の材料となす。

●(二一八)異樣の優曇華に就て(京都府與謝郡、山崎久藏)　昆蟲世界第七十七號に於て異樣の優曇華の記事あり、幸に余の標本中にも同樣の者あれば、對照するに殆んど同一なるが如し。參考迄に送附せり該優曇華は居宅雨椽に平素置ある標本箱の外側面に產附せるを發見したり、之れ三十六年八月下旬なりき。其周邊を視るにクサカゲロフの蜘蛛の巢にかゝり腹部は喰害せられ四翅のみ殘るを見たり。若し之が成蟲即ち產附せるものならば大形種とも思はれず、夜間燈火を慕ひ多數來るならんかとも存せり。其他同形の優曇華を往々目擊する事あり、重に家屋の壁上或は門柱又は雨戶等に產附せるを見る、然るに產附の形狀種々ありて普通一個宛產附せるあり、前同樣の一塊のあり、產附の當時のものならや青色を帶ぶあり、重に六月上旬より八月下旬多し。

編者云、送附せられし標本を見るに、當所のものとは餘程異なりたる處あり、即ち該標本の卵柄は數本の集合したるものなること明なるも、當所にあるものは全く一本なり。

●(二一九)郡上郡に於ける採集の種數(岐阜縣郡上郡、塩田健藏)　本郡に於て余の標本箱に收めたる採集品は、目下整理中なれども、此頃其概數を調べたるに、膜翅類七十種、鱗翅類二百十種、双翅類卅四種甲翅類三百十四種、半翅類百卅種、直翅類廿八種、羅翅類九十種、總計八百八種なり。其外本郡以外の產二百種所持せり。之全く名和先生の御敎導と、其後の御助力の賜と深く感銘日々御高恩を謝し居申候。

浴して
靈に仕ふ
心哉
(召波)

◉當所擴張寄附金品募集の主意　害蟲の年々各種の作物に加害し、收穫を減少せしむるの莫大にして其價格實に數千萬圓を下らざるは、何人も疑はざる處なり。されば近年稍々世人の注目する

處となり、害蟲驅防の聲年一年と高まるにも係はらず、害蟲軍は隱見出沒巧に蕃殖蔓延し、却て種類の增加を來す思ひあらしむるは、科學研究の然らしむる所とは云へ、是等害蟲軍を撲滅する能はざるは實に遺憾とする所なり。抑も害蟲驅防の事たる意外に困難の業にして單純なる考を以て驅除の効を奏せんとするは、宛も敵の情勢を搜らずして戰ふと等しく敎養なき兵を以て訓練を積みたる兵に敵すると一般にして、昆蟲思想なくして驅防の完からんことを希ふも、到底能ふべからざるや明白の事なり。是れ當所が微力を忘れ、十數年以來研究に餘念なき所以にして、昆蟲陳列館に、昆蟲揭示場に、談話會に講習會に、其他幾多の方法により該思想の普及を圖るに汲々たるも、亦全く是が爲なり。而して世の趨勢と害蟲軍の刺戟とは、幾多農民の腦裡に印し、近來講習會の如き、會員の申込み回は一回と增加し、加ふるに特別研究生の如きも續々申込あり、現時の有樣にては悉く是等の希望を容るゝ能はざるは誠に遺憾とする所にして、斯學普及上一大缺點と云はざるべからず。故に當所は從來是等研究者に滿足を與へん爲め特別標本室は勿論、敎室より宿舍等の設備をなし、極めて平民的の研究をなさんとする者には一層の便利を圖らんとの希望を抱けり。而して曩に當所に對する國庫補助の建議案を議會に通過するや、往々當所は已に補助金の恩典を受けしやに誤まらるゝ向もあれども、未だ鶩毛だも是等の恩惠に浴せず、大方諸氏の厚き擁護により漸く今日に到りたるものにして、微力の當所未だ希望の十が一だも果さゞるに、愈々地を岐阜公園內に卜し來る四月以後に於て移轉せざるべからざるの機運に際會せり。此の機に當り移轉と共に益々擴張して漸次從來の計畫を遂行し斯學の爲め聊か貢獻する處あらんとす。然れども素より微力にして、有志諸君の擁護を仰ぐにあらざれば到底完成を期する能はざれば、大方の諸君、希くは當所の微意を諒とし、金品の多少に係らず御寄贈あらんことを希望に堪へざるなり。

◉特別研究生の入退者と其研究の目的　前號報告後に於ける特別研究生の入退者は四名にして、昨年十二月八日に入所せし大阪府笹部利作氏は二月廿六日退所せられたるか、同氏は專ら冬期採集の昆蟲に就て研究せられ、其採集せし標本の如き實に百六十八種三千九百五十五頭にして、一々之を分頭し各名稱を附して持ち歸られたり。之が爲岐阜市近傍の昆蟲は大に閉口したりと。又一月廿二日入所せし岡山縣葛原定一氏は二月廿日退所せられたるが、同氏は害蟲驅除豫防法に就て研究せられたれば定めて岡山地方の害蟲は今や頭を腦まし居るならん。佐賀縣松尾英雄氏は二月廿五日入所し、昆蟲飼育法、標本製作法に就て研究し本月十一日退所せられ。愛媛縣稻垣義敎氏は昆蟲學全般に亘り研究の目的

にて、四週間の豫定を以て二月廿一日入所せられたれば、目下特別研究生は四名となりたり。

◉雜誌昆蟲世界と題する詩に就て

本年二月八日の二六新報紙上に於て、在東京謫天氏が雜誌昆蟲世界と題して、幾何標本費舖陳。補助金來亦有因。久築名和研究所。更嬴議會賛成人。昆蟲科適田間住。文學欄開筆下春。莫道雕詩小蟲技。遊蜂舞蝶豈夷倫。と一詩を賦せられしかば、記者は補助金なんか政府から少しも貰らて居ませんと云つたら、同氏より次の如く申し來れり。舊臘御市の雄山魯岳氏より御雜誌を送りくれられ候故一詩を作り候處飛だ間違にて御氣の毒に御座候、何れ『萬年草』に出し候時には『補助金來事未眞』と相改可申不惡御承知被成下度候云々。（一記者）

◉日露戰爭と巡回講話

本誌卷首に於て論じたる如く、日露愈々砲火を交へて國費多端なる今日なれば、各縣何處も此時を期し絕躰的に害蟲を驅除し、可及的に勸業を奬勵して國力の充實を謀らるゝところなるが、當岐阜縣に於ては第四課員、縣農會員、縣農事試驗塲員、長期害蟲驅除講習生及當研究所員は聯合して五派となり、晝は標本を示して講話をなし、夜は幻燈を使用して說明をなし、縣下各町村を一々巡廻することゝして既に本月七日各出發せり。何れ詳細は次號に於て報ずべし。

◉渥美郡の懸賞螟蟲驅除規則

三河國渥美郡農會の事業として懸賞螟蟲驅除勵行の爲設けられたる規則を得たれば左に記す。

（第一條）明治卅七年度に於て各町村農會をして螟蟲驅除を勵行せしめ一人にして螟蟲卵塊五百個若くは螟蟲蝕入莖五百本を採集したるものに懸賞抽籤券一枚を交付するものとす。（第二條）懸賞當籤の等級金額左の如し。壹等金貳圓五枚。貳等金壹圓拾五枚。參等金五拾錢參拾枚。四等金參拾錢八拾枚。五等金貳拾錢貳百枚。六等金拾錢四百枚。（第三條）一人にして最多數の抽籤券を得たるもの三人を撰拔し壹等金參圓貳等金貳圓三等金壹圓を賞與す、但同數者貳人以上ある塲合は抽籤を以て之を定む。（第四條）抽籤券を得んとするものは採集したる現品を三日以內に町村農會へ提出すべし。（第五條）町村農會に於て前條の現品を受付けたる時は員數及採集者の人名を記錄したる上卵塊にありては孵化せしむ「但し益蟲保護の目的」蝕入莖にありては直に撲殺すべし。（第六條）前條採集者の人名及員數は一表に調製し十月末日迄に郡農會へ報告するものとす。（第七條）郡農會に於ては採集報告表調製し抽籤券を交付す。（第八條）郡農會長は豫め抽籤期日を報告して評議員立會の上施行するものとす。（第九條）懸賞金は各町村農會を經て當籤者に交付するものとす。

附則（第十條）抽籤券交付後と雖も事實正確と認め難きものある時は懸賞金を還附せしむることあるべし。（第十一條）本規則は明治卅七年四月一日より施行す。

◉昆蟲標本陳列館案內（其二）

入口の右側にある（チ）部の各種の分類標本に就て說明せんとす最初の一頭標本一箱は、昆蟲の大形種を撰みて七分類標本に調製したるなり。此の標本は素と一頭なれ

京都高等工藝學校々章の圖

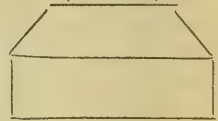
ば、雌雄何れかに偏して色澤大小等を比較する能はざれば完全といふべからず、故に次に於て雌雄二頭標本五箱九十一種を分類せり。此の標本は一頭標本の欠点を補ふを得て稍完全といふべし。然れども昆蟲には同種類中と雖も彩色に於て多少異なりたるものあれば、未だ二頭標本を以て完全と云ふべからず、故に尚一層進みて一列標本とて。一種を一列に納めたるもの十九箱百五十一種を分類せり。こは各種共に十頭内外の多きを以て、以上の欠點なき完全標本なりと云ふべし。さは云へ氣候によりて變化を來す種類に至りては、一列標本にても尚滿足すること能はざれば、春生、夏生等の區別をなしたる蝶類七種一箱に加ふるに、其内キテフの一種のみを數千頭中より撰拔して、春夏生に依りて異なる点より、大小形狀を比較して如何に變化の多きやを一目瞭然たらしめん爲め氣候變形標本を陳列せり（昆蟲世界第廿九號口繪幷講話欄に說明あれば參看あれ）。以上二十七函二百五拾六種の標本は研究者に對し可成的多數を採集して比較するに非らざれば殆んど價値なきことを示すところの摸範標本といふべし。●水棲昆蟲十五箱百十種の標本は、明治三十年第二回水產博覽會へ出品せんとして二年間辛苦の上採集したるものなれども、殆んど見るべきものなければ、中途より該標本に加ふるに昆蟲と魚類との關係、孑孓と衛生との關係等の件を說明せんと調査中、圖らずも浮塵子大發生の爲め、遂に目的の調査を遂する能はざるのみならず、該標本をも出品せずして止みたり今此標本を見ても水棲昆蟲の如何に僅少なるかを知るに足れり。其僅少なるものも水棲の時代は幼蟲にして、成蟲となれば蜻蛉、蚊の如く水中を辭し空中に飛翔す。偶ガムシ、風船蟲の如く水中に棲息し居る

も、自由に空氣中を飛揚し得るなり。●左傍の（ホ）部にある標本廿四箱六百十六種は、雌雄二頭標本にして、明治三十三年佛國巴里の萬國博覽會に出品して銀賞牌を得たるものなり。該標本に就て一言注意を述ぶるは製作及荷造に於て完全を得ば、斯く佛國迄往復するも殆んど標本に一の損害を受けざること是れなり。●次の六箱百拾五種の標本は、鱗翅類を蝶蛾に別ち、内一箱十七種は蝶類を示し、他の五箱は蛾類を示し、蛾を更に別ちて天蛾類（一箱十種）、蠶蛾類（一箱十七種）、糠蛾類（一箱十八種）、尺蠖蛾類（一箱二十種）、小蛾類（一箱三十三種）等の區別を示したるものなり。

●**京都高等工藝學校々章**　京都高等工藝學校にては、今回其校章に埃及式スカラベーを使用せりとて同校教授武田工學士より其圖を示されたり。即ち該校章は圖に示す如く、京都高等工藝學校の頭字を採りて組立てたるものなり。此スカラベー模様は勇氣、獨立等の意味を表し、埃及にては其應用頗る廣く、大は建築の裝飾より、小は腕輪、頸飾等に至る迄盛に使用す。其翼を付するものと然らざるものとありて、翼を付するは神秘の意を帶ばしむる爲なりと是より該校々風は着々歷史的階段を經て益々進歩の域に向ひ、勇氣獨立の美風を形ち造られんこと期して俟つべきなり。

●**蟲塚の發見**　世の進運と共に開拓事業の盛なるに隨ひ、害蟲の益々增加するの感あるは、一は其理ありと雖も、又科學の進歩に伴ひ、彼等の性狀を明にせられ、害蟲なる觀念を與へられたるによるなるべし。是れ大に喜ぶべき現象にして、必竟害蟲驅除の行はれざるは、未だ充分昆蟲思想の普及せざるによれり。故に昔日に於ても屢々害蟲の爲に甚しき慘害を蒙りし事あるは、各所に散在する蟲塚によりても明なるべく、古來饑饉と蟲害との關係相伴ひたるは又疑なき事實なりとす。此頃大分縣三浦三平氏は同縣下北海部郡丹生村大字原字經塚に於て一個、京都府岩見勇藏氏は同府下竹野郡島津村字島溝川に於て二個の蟲塚を發見せりとて報せられしかば、參考の爲め左に掲載せん。

埃及のスカラベーの圖

裏面

偈曰（〇印ハ字体不明）
蝗賊比年害稻粱　群民菜色轉堪傷
琓°沙難算經王德　驅遣螟蝗降百祥
享保第四己亥祀三月廿九日

左側面

豐陽路海部郡丹生莊比年蝗虫爲害荒歉相繼村民不任其愁就于高尾山當陽禪刹借衆手聚沙書寫醍醐經將消禳其害矣寺主般首座幹其蠱不日而功成乃瘞之建片石使予記其顚末矣伏翼憑斯洪因蝗賊拂跡甌窶滿篝雨賜應節汗邪滿車矣

右側面

清光山月桂禪寺沙門篁谷記
　原村長池見久三郎正好組
願主　市尾村長高野久右衛門重久組
　一木村長琴谷平左衛門實清組
　岡村長藤田藤左衛門季仲組
　下久所村長富來善左衛門實正組

右三浦氏報

右側面

茲歳辛卯夏當寺江湖會因請丹州淨土開祖尊應老和尚補助於一會依之當邑並近郡相擧而爲五穀豐饒開每門普供養蠢動含靈者也仍建爲

正面

虫供養塚
高二尺
幅八寸

左側

天保二年辛卯六月朔日
董蓮華十四世江國叟

右側面

旹明治八年夏於于當山結制安居因請山城宇治興聖寺現住冝菴老和尚補助吾弊會依之昔天保二年追志十四代虫供養之塚今夏亦爲村中安全

正面

虫供養塔
高二尺
幅八寸

左側面

五穀豐饒矣恭転讀大般若經及諷誦甘露門諸經諸神咒以普供養蠢動含靈等圓滿菩提者也
明治八年夏六月吉日　十六代國穩叟

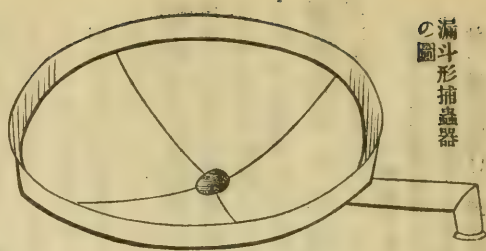
右岩見氏報

◉昆蟲揭示場記事（三）

前號報告後に於ける揭示物の重なるものを擧ぐれば、繼續的の昆蟲の七類には（一）膜翅類マツケムシヤドリパチ（松毛蟲に寄生して該蟲を斃す益蟲なり）、馬尾蜂の一種（此の蟲は長き產卵管を樹幹中に挿入しテツパウムシ類等を斃す益蟲なり）、カブラバチ（幼蟲は大根、蕪菁等の葉菜類を食害する害蟲なり）、クリケムシヤドリバチ（栗毛蟲に寄生する益蟲）。（二）鱗翅類マツケムシノガ（松の葉を食して大害を與ふる松毛蟲の成蟲なり）ヒオドシテフ（幼蟲は榎等の葉を食害す）、ヒメアカタテハテフ（幼蟲は午蒡の葉を食害す）、シンジユサン（幼蟲はクサキ等の葉を食す）。（三）双翅類イヘバヘ（衛生上の害蟲）、オホムシヒキアブ（巧に空中を飛翔して他蟲を捕食する益蟲なり）、ヤドリバヘの一種（サラサモンガノ幼蟲に寄生する益蟲なり）、蚊（害蟲）。（四）甲翅類オホキクスヒダマシ（有益蟲にして諸害蟲を捕食す）、ベニカミキリムシ（幼蟲は枯竹を食害す）、クハノカミキリムシ（桑の樹幹を害するテツパウムシの成蟲なり）、ゲンジボタル（益蟲）。（五）半翅類タガメ（養魚家の害蟲）、クハヨコバヒ（害蟲）アヅキガメムシ（害蟲）、オホサシガメムシ（他蟲を捕殺する益蟲）。（六）直翅類エンマコホロギ（諸種の葉を食する害蟲なり）、スズムシ（聲の美なるを以て人々に愛賞せらる）、オホマルイナゴ（害蟲）、ナキイナゴ（雄は翅と肢とを摩擦して音を發す）。（七）羅翅類シヤウジヤウトンバウ（益蟲）、ヒメヤマトンバウ（益蟲）、シリアゲムシ（益蟲）、ウスパカゲロフ（益蟲）等にして◉臨時的揭示物は二月一日長良川堤防の雜草中二尺四方に於て採集せし昆蟲類（害蟲百五十八頭、益蟲二十一頭にして、其重なる種名を擧ぐればツマグロヨコバヒの幼蟲、クロメヨコバヒ、ツノヒメクサガメムシ。ヒシバツタ、ヒメクサガメムシカミナリハムシ、コホロギ、メダカハネカクシ、クロサシガメムシ、トゲサシガメムシ、マルガタゴミムシ等なり）◉冬期伐採したる五十本の桑の枯枝に就き調査したる昆蟲類（害蟲、ヒメザウムシ三十六頭、シンムシ四十二頭、ムクゲムシ二十七頭、蟻三頭、ツヾリムシ類十五頭、計百二十三頭、益蟲、寄生蜂の幼蟲二頭、蛹一頭、計三頭にして即害蟲百二十三頭に對し益蟲僅に三頭を得たり）◉冬期石起採集にて獲たる歩行蟲類オホマルガタゴミムシ、ムネアカゴミムシ、ヒメマルガタゴミムシ、コンジヤウゴミムシ、ゴミムシ、セスヂゴミムシ、ヒラタゴミムシ、アヲゴミムシ、キベリゴミムシ其他數種）等にして實物を示すは勿論、表を示し簡單なる說明を與へたり。

◉金龜子驅除用漏斗形捕蟲器

愛知縣渥美郡內には、元來大豆を栽培すること最も多く、從ひてヒメコガネムシ、マメコガネムシ、コフキザウムシ等の被害甚しければ、從來圓形捕蟲網を以て驅

漏斗形捕蟲器の圖

除し來たりしが、今回同郡田原町鉱力品製造家太田儀助氏は、圖の如き漏斗形捕蟲器を製作して之れを使用せしに極めて便利なる由にて、當所へ其の一個を寄贈せられしかば、茲に掲げて讀者の參考に供す。該器は一個の價凡そ十錢許りなりと云ふ。

◉良友新誌と昆蟲記事

愛知縣渥美郡福岡尋常高等小學校、寶飯郡赤坂尋常高等小學校の二校聯合して良友新誌てふものを發行し、既に其第三十七號を出されたり。該誌は毎月二回發行にして、紙面は僅に四六二倍大四頁に過ぎざれども、毎號先人の言行、理科學上の記事より時事問題を始め、生徒の心得、父兄の注意事項等をも掲げたれば、科外教授として好侶伴たるのみならず、學校と家庭との連絡を保つ上には偉大なる効果を收むるならん。特に赤坂學校長田中周平氏は、生徒に理科思想を養成するには昆蟲を以て最も適當なるものとなし、昆蟲には頗る熱心なるが該誌にも毎號自ら筆を執り、或は生徒に綴らしめて之を掲載せらる。今參考の爲同誌第三十七號中にあるものを掲載すれば左の如し。

昆蟲の分類

赤坂高等四學年　金澤照次

昆蟲の種類は實に多くありますが、之を七つに大別して膜翅類、鱗翅類、雙翅類、甲翅類、半翅類、直翅類、羅翅類と致すことが出來ます○膜翅類とは蜂、蟻などの如き蟲をいふのでありまして、其口は吸ふと嚼むとの二つを兼て居ります。其翅は膜の樣でありますからマクシルイと云ふのであります○鱗翅類とは蝶や蛾の如き蟲でありまして、其口は汁を吸ふに便利であります。翅には鱗の飾りがありますから之をリンシルイと云ひます○雙翅類とは蠅、虻、蚊、ノミなどの如き蟲でありまして、其口は汁を吸ふに適して居ります。其翅は後翅が退化して、前翅一雙が殘りて居ますからソーシルイと云ひ、ノミは翅が一つも殘らず退化したのであります○甲翅類とはコガネムシ、テントームシ、カミキリムシなどの如き蟲でありまして、嚼む口を持て居ります。其前翅は甲の樣に堅くありますから之をコーシルイと云ひます○右の四類は多く完全變態でありまして、卵、幼蟲、サナギ、成蟲と四たび變化して其サナギの時は休眠して居ります○さて又左に述べます所の三種類は多く不完全變態でありまして、サナギの時代に休眠せぬものが多くあります○半翅類とは、ガメムシ、ヨコバヒ、セミ、カヒガラムシ、シラミなどの如き蟲でありまして、其口は吸ふに便利であります。翅の末の半分がすきとーりて居ますから之れをハンシルイと云います。シラミ、カヒガラムシなどは翅が退化したのでありますの○直翅類とは、バッタ、カマキリ、スヤムシなどの如き蟲を云ふのでありまして、嚼む口を持て居ります。其翅は眞直に一文字に開くのが

つうれいでありますから之をチョクシルイと云ひます○羅翅類とは、トンボ、クサカゲロフなどの如き蟲でありまして、嚙む口を持つて居ます。其翅は羅うすものに似て居りますから、之をラシルイと云ひます○以上は昆蟲分類のあらましであります。

同　赤坂高等四學年　青井たい

昆蟲を大わけにして七目に、まとめみますれば、まく、りん、そー、こー、はん、ちよく、ら、となります○まくし類は、其翅が膜の樣になりて、其口は吸ふと嚙むとの二つを兼れて居る蜂、蟻などであります。蟻には翅のあるのと無いのとありまして、翅の無いのは退化したのであります○りんし類は、翅に美しい鱗がたくさんについていて、口は細き糸の樣な口をのばして蜜を吸ふ蝶や蛾の類であります。此の類には害蟲が多くありますが、稀には蠶の如き効をなす蟲があります○そーし類は、後翅の二枚が退化して前翅二枚あるものでハイ、アブ、蚊の如きものであります。人の血を吸ふ蚤も此類でありますが、蚤は翅が全く退化して、其かはりに後足が進化して、遠く飛ぶことができる樣に成たのであります○こーし類は、前翅二枚が甲となりて堅くあります。此類には、コガネ蟲、カミキリ蟲、テントームシ、ミチチシヘ、などありまして、害蟲も多く、益蟲も多くあります○これまでの四目は完全變態と申しまして、蛹の時代に眠りますから、卵、幼蟲、蛹、成蟲の順に四たびかわります○はんし類は、翅がなかばすきとほりて居ましすガメムシ、ヨコバイ、セミなどでありまして人の血を吸ふ所のシラミは此類でありますが、翅が退化したのであります○ちよくし類は、翅が眞直で、口は咀嚼口であります。バッタ、カマキリなどは此類であります。夏の頃臺所に居て人の食物や食器をくさくするアブラムシも此類であります○らし類の翅は、絽や紗の如くにすきとほりて居て、口は咀嚼口で、此類には益蟲が多くてトンボー、クサカゲロフなどであります○此の三目は大低不完全變態であります。不完全變態は蛹の時代に眠りませぬから、幼蟲、蛹、成蟲のさかいが、はつきりわかりかねます。

◎**東豫昆蟲研究會總會**　同會は會員僅四十餘名なれども、愛媛縣東豫四郡の熱心家及農學校、農會の職員等を網羅し頗る有力なる會合にして、該會則は已に本誌にも掲載せし處なるが、本月二十日正午より小松町にて第一回通常總會を開き、演說講話等をなし、尙ほ昆蟲標本を陳列して展覽せしめらる由同會幹事矢野延能氏より通信ありたり。

◎**浮塵子冬期潜伏狀態調査表**　日露時局に對し香川縣農事試驗場は、害蟲驅除に關して當業者に警告せられたるが、中に浮塵子冬期潜伏狀態調査表なるものあり、左に掲載せん。（村上政吉氏報）

浮塵子冬期潜伏狀態調査表

本表は左の調査種別を以てし、各種別につき方一尺の面積に於ける害蟲の潜伏狀態を調査せるものにして、尙一種別に付其地の兩端中央の三部に分ちて調査をなし、其三ヶ所の平均蟲數を以て表中蟲數の欄に揭げたり。但し表中田畑麥の部に於ては、一條播の麥に付一個所に於ける調査面積を三尺としたり。

調査種別	ツマグロウンカ	マダラウンカ	ヨツモンウンカ	トビイロウンカ	蜘蛛類	コホロギ	アハヨトウムシ幼蟲	蠅類	バッタ類	雜蟲類
牧草(禾本科)	五	一五	三	二	一八、六	〇	〇、六	〇、三	〇	蛙 一、三
牧草(豆科)	四	五	一	〇	三〇、六	〇	〇、三	一六、三	〇	蛙 〇、六 寄生蜂 〇、三
紫雲英	一〇	〇	〇	〇、二	八、三	〇	〇	〇、三	〇	有益椿象、三 有害椿象、二 ゴミムシ、二
畦畔の枯草	八	〇	〇	〇	一二、〇	〇	〇	一、六	三、〇	〇
畦畔の青草	三	一	〇	〇	三、六	〇	〇	〇	〇	〇
溝の西側の岸(枯青草混生)	一	〇	〇	一	一二、三	〇	〇	〇	〇	〇
溝の東側の岸(同)	三	〇	〇	一	一六、三	〇	〇	〇	〇	〇
溝の南側の岸(同)	一九	二	〇	三	一一、六	〇	〇	〇	二、〇	〇
溝の北側の岸(枯草)	三	〇	〇	〇	二、〇	〇	〇	〇	〇	〇
堤防南側(同)	一	〇	一	一	一三、〇	〇、六	〇	〇	〇	〇
堤防西側(同)	〇	〇、三	〇	〇	一二、六	〇	〇	〇	〇、三	〇
草立ち惡しき地(半枯半青)	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇、三	〇
庭園の枯草	六	三	〇	〇	六、六	〇	〇	〇	〇	(不明ウンカ 四、六
庭園の青草	一八	五	六	〇	七、〇	〇	〇	〇	一、〇	同 一三、〇
道トの岸(枯草)	二	〇	〇	〇、三	六、〇	〇	〇	〇、三	〇	〇
藪(青草)(水田附近の藪)	五	〇	〇	一	一、〇	〇	〇	〇、三	〇	〇
甕臺苗床	〇	〇	〇	〇	四、三	〇	〇	三、〇	〇	〇
畑大麥	一	〇	〇	〇	四、〇	〇	〇	二、〇	〇	〇
畑小麥	〇	〇	〇	〇	一、三	〇	〇	一、三	〇	〇
田裸麥	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
ポット(地中)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同(地上)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
陰地	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

●昆蟲學講義錄に就て　河內博士口述の同講義錄は去る一月を以て第一號を發行せられ、其後の分は每月發刊せらるゝ都合なりしが、同博士は先月以來病床に在つて筆を執ること出來ず且書記生も遽に出軍せられし爲其運びに到らざりし由なるが、最早病氣も快方に趣きたれば直ちに其續刊を出さるゝ由、江湖の諸彥へも宜しく斷り置きくれとの書面到着せり。

●岐阜縣昆蟲學會第六十三回月次會記事　同會は本月五日午後二時より當昆蟲研究所內に於て開會せり。當日は雨天なりしにも係らず熱心なる會員の風雨を侵して出席したる者三十餘名にして、第一席特別研究生佐賀縣松尾英雄氏は佐賀縣下に於ける害蟲驅除の摸樣より驅除試驗の成蹟を述べ第二席同愛媛縣稻垣義敎氏は同縣下に於ける三化生螟蟲發生の沿革より目下の驅除豫防の有樣等を說き第三席岐阜縣惠那郡三宅幽谷氏は聊か感ずる所に就てと題し、佛敎と害蟲驅除との關係に就て現今の宗敎家の誤解を痛論し、第四席森宗太郎氏は寄生蜂に就て氏が調査の結果を報告し、各胸襟を開て昆蟲上の件を討究し、午後五時閉會を告げたり。

●水曜昆蟲談話會記事　長期害蟲驅除講習生及特別研究生の催に係る水曜昆蟲談話會は每水曜日午後七時より名和昆蟲研究所內に於て開會し互に研究事項を報告せし其要項を一括すれば左の如し。

小竹浩氏は有吻目異翅亞目の分類●小森省作氏は浮塵子の形態及構造より分類上の要點を說き●森宗太郎氏は冬期潛伏の昆蟲及寄生蜂の飼育談●石田和三郎氏は新刊雜誌中の昆蟲記事に就て●棚橋昇氏は糖蛾類の一種に於ける雌雄の割合に就て、本年二月七日糖蜜採集の糖蛾類百五頭の內雄六十四頭、雌四十一頭。二月八日採集せしもの十一頭の內雄八頭、雌三頭。二月九日採集せしもの五十一頭內雄三十八頭、雌十三頭にして、平均雌一頭に對し雄三頭位の割合なりと報告し●高橋喜男氏は越冬中の貝殼蟲調査及び桑天牛卵調查談にして、二月二十九日桑天牛の卵二十三個に就き調査したるに寄生蜂の爲め斃死せしもの十六個、黴菌の爲に斃れたるもの二個殘り五個は完全にして內四個は既に孵化し、一個は卵の儘なりきと●名和愛吉氏は本巢郡船木村に於ける昆蟲採集談及二月九日に於て蜘蛛の網に掛り居る枯葉三十塊を檢したるに、中に甲翅類七十七頭、半翅類三十五頭、膜翅類十三頭、其他鱗翅類の幼蟲六頭を認めたりと●大橋由太郎氏は稻株中に潛伏の螟蟲調査談にして、同氏が二月十八日安八郡川並村に於て稻株四十株につき調査したるに螟蟲總數百五十頭內斃死のもの九頭、平均一株に四頭弱に當り、一反步につき株中にて越冬生存せるもの四萬二千三百頭の割合なりと述べ●中井藤助氏は冬期の害蟲驅除及衛生上の害蟲シラミの話にして●小川謙司氏は稻株中に潛伏の螟蟲調查談●近藤伊祐氏は螟蟲冬期越年の狀態及び蠶兒の雌雄區別の話●渡邊樵四平氏は螟蟲と鴉に就て●所嘉吉氏は步行蟲の種類に就て●馬淵治郎氏は本巢郡地方の昆蟲方言及び養老の昆蟲採集談●笹部利作氏は長良川の堤防に於ける昆蟲に就て●葛原定一氏は岡山縣地方の昆蟲方言●谷貞氏は冬期の昆蟲採集談等なりき。

●昆蟲標本陳列舘の觀覽人　去二月中に當所常設の昆蟲標本陳列舘を觀覽せし人員は千六百五十二人にして、其內最も多かりしは十四日の百三十八人、最も少なかりしは四日に於ける四十七人にして、一日平均六十八人强に當り、此の內實業家、學生最も多かりき。（雜報、三月十一日脫稿）

Acomeryx castanea Bothschild. (Kurokumo-suzume)

By K. Nagano.

Forewings violet-grey, varied with dark brown; an imperfect subbasal band preceding and following by paler lines; a bifurcated belt; many irregular waved stripes from costa to dorsum; a curved belt from middle of costa and connecting with submarginal band towards inner angle. Hindwings purplish or reddish brown, termen dark brown; a subterminal band dark brown. Expanse 74-85 mm. Body violet-brown.

Honsiu, Yezo. 5-8. Larva green, yellow dotted; dorsal line indistinct; subdorsal line pale yellow, with above posterior purple; on under side of 3-4 seg. a lunate process, purplish-brown below and yellow above; on 4-10 seg. a series of pale yellow oblique lateral stripes; horn pale ochrous, with pale brown dots: on Vitis vinifera, Cissus japonica, etc.; 6-8, 9?

昆蟲世界

（明治三十七年三月十五日發行）　第八卷第七拾九號　（毎月一回十五日發行）

（明治三十年九月十日内務省許可）（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢　詩　春季及夏季昆蟲亂題

▲和　歌　春季及夏季昆蟲亂題

▲俳　句　蠶（三月二十五日占切）　螢（四月二十五日占切）　蚊（五月十五日占切）

▲新體詩　春季及夏季昆蟲亂題（一百字以內）

▲小品文　春季及夏季昆蟲亂題（三百字以內）

右の中春季昆蟲亂題の分は何れも三月二十五日之れを占切る▲投稿用紙は郵便端書を用ふ可し但新體詩及び小品文は此限りにあらず▲届先は岐阜市京町名和昆蟲研究所の事

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市京町名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

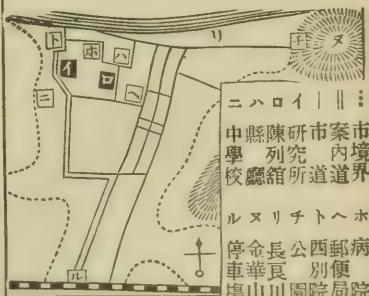
名和昆蟲研究所內　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第六十四回月次會（四月二日）
第六十五回月次會（五月七日）
第六十六回月次會（六月四日）
第六十七回月次會（七月二日）
第六十八回月次會（八月六日）
第六十九回月次會（九月三日）
第七十回月次會（十月一日）
第七十一回月次會（十一月五日）
第七十二回月次會（十二月三日）

：市境界　‖案内道　｜市道　イ研究所　ロ陳列館　ハ縣廳　ニ中學校
ホ病院　ヘ郵便局　ト西別院　チ公園　リ長良川　ヌ金華山　ル停車場

◉名和昆蟲研究所案内

當昆蟲研究所の位置は上圖の如くにて停車場より僅に十餘町養蟲室あり又新築の岐阜縣物產館構內には常設の昆蟲標本陳列館（五間に十八間）ありて標本器具數千点を陳列す有志諸君の來訪を俟つ

岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部　郵稅共　金拾錢

壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢

（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年三月十五日印刷並發行

發行所　岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二（岐阜縣岐阜市京町）　名和昆蟲研究所

發行者　岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二　名和梅吉

編輯者　同縣揖斐郡黨村大字公郷三番戸　小森省作

印刷者　同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

(明治卅年九月十四日第三種郵便物認可)

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY
YASUSHI NAWA
DIRECTOR OF
"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"
GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] APRIL. 15TH, 1904. [No. 4.

昆蟲世界

第八卷第四冊　明治三十七年四月十五日發行　第八拾號

(每月一回十五日發行)

目次　(禁轉載)

名和昆蟲研究所發行

本所擴張寄附金品領收廣告第一回

一金拾圓也　東京市本郷區金助町七十二番地　田中芳男君
一金拾圓也　同　田中五一君
一金拾圓也　同　田中健太郎君
一金貳百圓也　愛知縣三河國　某　君
一金五拾錢也　千葉縣印旛郡根郷村　渡邊庄治君
一金五拾錢也　高知縣土佐郡小高阪村　竹内護文君
一金參拾圓也　大阪市　大阪硫曹株式會社
一金拾圓也　大阪硫曹株式會社社長　阿部市三郎君
一金拾圓也　同社支配人　石井重任君
一金五圓也　新農報社　由比昌太郎君
一金五拾圓也　岐阜縣揖斐郡養基村　岡崎小左衛門君
一金參圓也　岐阜縣七岐郡明世村大字月吉　山内慥爾君
一金貳圓也　岐阜縣安八郡三城村大字三塚　加藤彦郎君
一金拾圓也　美濃大垣　西濃印刷株式會社
一金五圓也　同　河田貞次郎君

計金參百五拾六圓也

右御寄附相成候に付茲に芳名を掲て其厚意を謝す

●本所擴張寄附金品募集廣告

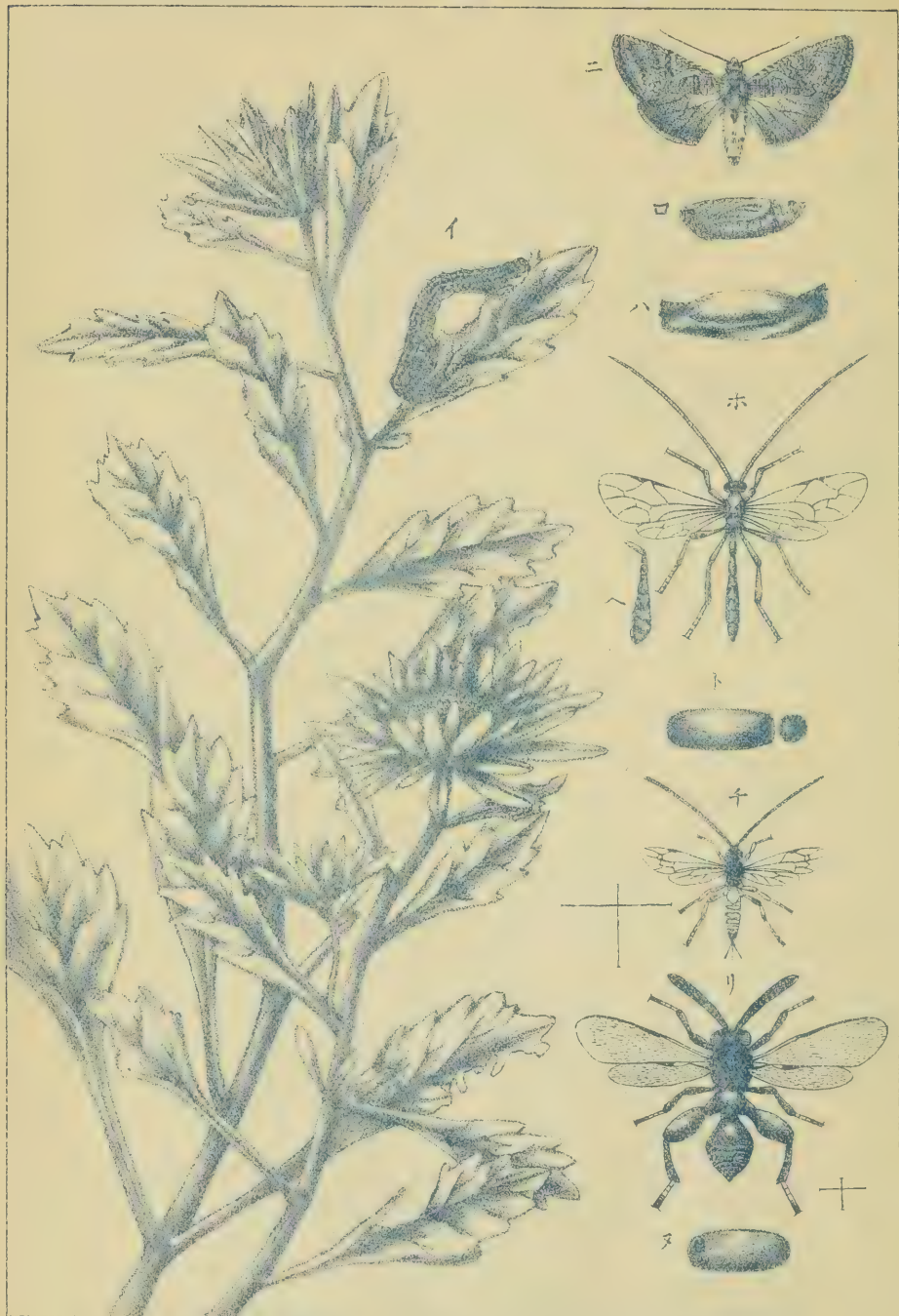
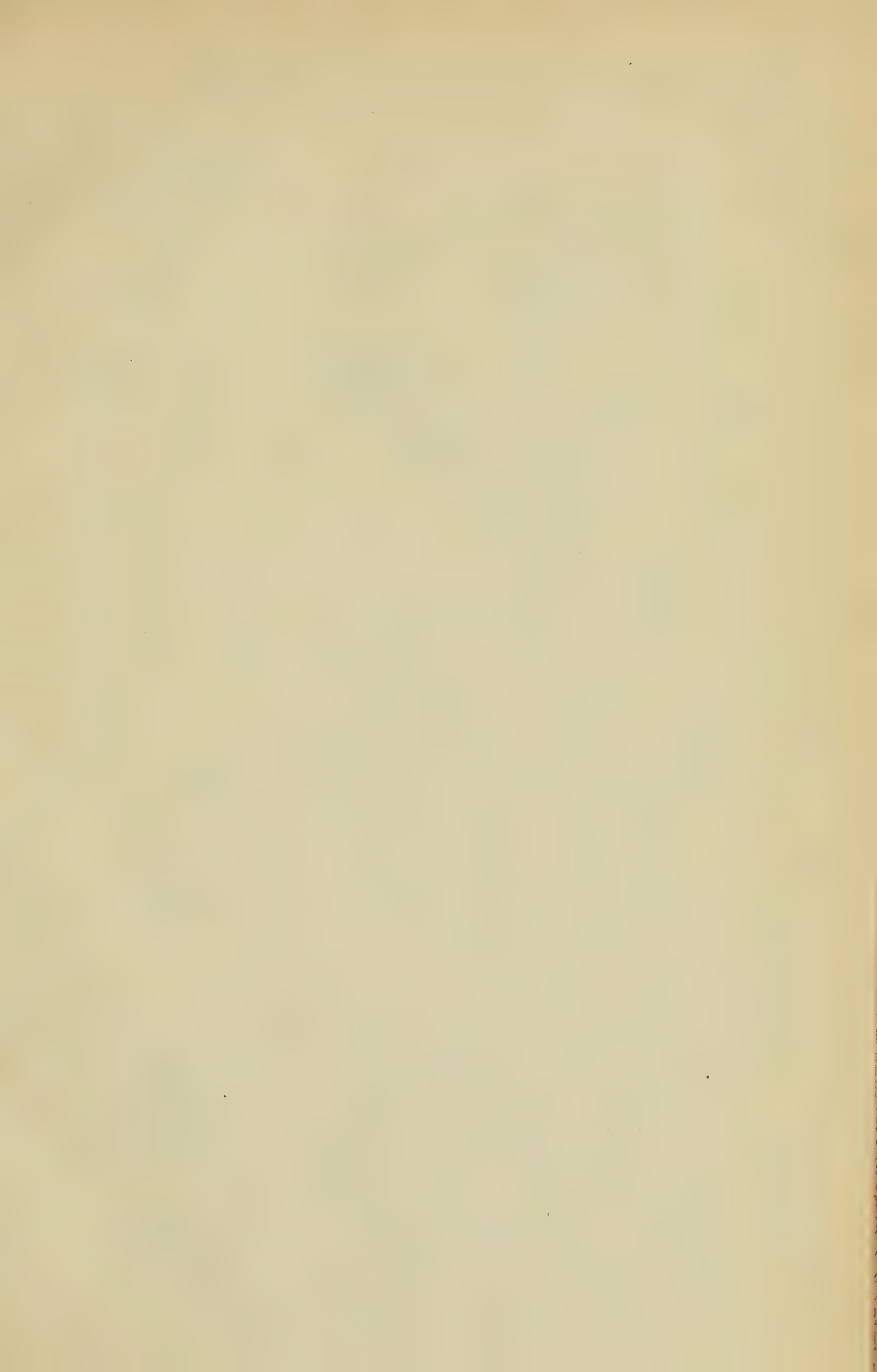
本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園内にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より敎室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へんとす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは喪心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

明治卅七年三月

岐阜市　名和昆蟲研究所

大方諸君

エゾギクノアヲムシと其寄生蜂

狩衣の袖の裏這ふ螢哉（蕪村）

學説

蝶　王操

香鬚粉翅曉爭飛。品物多情總屬伊。上國萬家風月夕。樓臺取次宿花枝。

◎鱗翅類觀察の指針（承前）

在東京　長野菊次郎

第五節　繭の室内研究

（五十五）繭の外部を記載せよ

（五十六）繭は絹絲の外如何なるものより造らるゝか（例へば葉、莖、幼蟲の毛等）

（五十七）繭を截開せよ（之を行ふには尖端鋭利なる鋏を用ひ繭の面に對して斜に之を保ち僅に鋏の尖端を繭の内部に挿入して徐々に鋏を進め蛹を害せざるやう注意すべし）

（五十八）繭内の空隙と幼蟲の大さとを比較せよ

（五十九）蛹は繭に附着するか

（六十）繭の内にある収縮したる塊は何なるか、而して繭と蛹との位置の關係は汝の豫想せし通りなるか

（六十一）繭の内部を記載せよ

（六十二）若し繭が重複即ち二つ入りなるときは同量の絹にて繭を績ぐに當り單獨なるよりも此方が保護に有効なることを考へよ

（六十三）繭は外部に開ける口を有するか

（六十四）若し開口せるときに蛹の位置が此口と如何なる關係を有するか。

（六十五）繭は容易に内部或は外部より開かるゝか

（六十六）繭を湯に浸し絹絲が能く績かるゝか否やを試むべし

第六節　蛹及び繭の戸外研究

（六十七）蝶類の蛹の位置如何

（六十八）蛹の靜止せる位置に於て雨及び直射日光

を防ぐこと如何

（六十九）如何なる方法によりて蛹が支持物に附着するか

（七十）蛹が尖端或は突起を有することは内に眠れる蝶に對して如何なる價値を有するか

（七十一）繭の戸外に於ける位置如何

（七十二）繭の形狀或は彩色は其位置に於て内部に眠れる蛾に對し價値あるか

（七十三）蛹を食はんが爲に繭を引裂かんと試むる鳥類に對して如何に免るゝか

第七節　成蟲に變化する事につきての觀察

（七十四）如何にして蛹の皮を脱するか

（七十五）蝶の如何なる部分が最初に脱出するか

（七十六）蛹皮が開裂し始めてより蝶が全く脱皮し終るまで幾何の時間を要するか

（七十七）濕ひたる蝶が十分發育するまで如何なる姿勢を保つか

（七十八）躰より血液を其翅に輸送するによりて其翅の漸次展張することを注意せよ

（七十九）蝶が十分强壯となるまでに幾何の時間を要するか

（八十）蝶が蛹より脱出したる當初に於て十分間其吻を如何に處理するかを注意せよ

（八十一）如何にして蛾が封せられたる繭より脱出するか

（八十二）如何なる部分が最初に脱出するか

（八十三）色彩紋理を現はして其翅を展張することを注意せよ

（八十四）蛾が繭より脱出したる最初の翅の大さと其最後の大さとを比較せよ

（八十五）最初と最後に於ける腹部の大さも比較せよ

（八十六）濡れたる蛾の腹關節の兩側に於ける氣孔を注意せよ。此等は後には明に見えざるものなり

（八十七）最後の變化を觀察して其幼蟲が如何なる成蟲に化するかを見るべし

第八節　蝶蛾の室內研究

（八十八）蝶或は蛾の左右兩側を比較せよ
（八十九）躰の關節を記せよ
（九十）脚は幾對あるか
（九十一）脚に關節あるか
（九十二）蝶蛾の躰はカイチン質にて被はるゝが
（九十三）呼吸すべき爲めに氣孔及び氣管を有せり
此等の氣孔は躰を被ふ所の毛にて隱蔽せらるゝことあり注意せよ
（九十四）頭部、胸部、腹部を觀察せよ
（九十五）頭部の諸器官を觀察して之を記載せよ
（一）複眼　大さ、色彩、位置、用法
（二）觸角　形狀、構造、用法
（三）舌吻　長さ、用法、位置及び之を用ひざるときの處理
（九十六）關節ある脚の位置如何
（九十七）物に止まるとき如何に脚を適應せしむるか
（九十八）翅の數、位置及び其用法を記せよ
（九十九）翅の色と形とを記載せよ
（百）後翅と前翅との色彩及び形狀を比較せよ
（百一）成るべく翅を擴げて觸角及び眼を有せる頭部、翅を有せる胸部、關節ある腹部を現はす爲めに背部より見たる蝶蛾を畫け（又翅の裏面を畫く必要あり「特に蝶類に於て然りとす」一側の翅を他側の翅の形狀、色彩、紋理と同一にせんことを注意すべし。特別の必要なき限りは線のまゝに措くべからず）
（百二）如何なる方法によりて翅が丈夫に保たるゝか
（百三）翅脈の配列を現はさんが爲に一側の翅を畫け
（百四）蝶蛾の翅を驗するに强度の廓大鏡か又は顯微鏡を用ゐることを得ば鱗の形及び其配列を示さん爲に翅の一部分を畫くべし（圖を作るには出來得る限り精密にすべし）
（百五）幼蟲と蝶蛾とを比較せよ
（百六）蝶蛾を比較せよ（類似したるものより異種に及ぼせ）

（百七）同種の蝶を比較せよ變種のあるか無きかに注意すべし）

第九節　蝶につきての野外觀察

（百八）夏季の初め或は終りに於て如何なる種類の蝶類を見るべきか（其他の時季に於ても然り特に同種にても時季によりて形狀の大小所謂氣候變形あることに注意すべし）

（百九）一日中の如何なる時刻に飛翔するか

（百十）如何なる天氣の時に飛翔するか

（百十一）夏季中異りたる時期に於て數回の發生をなすや否やを注意せよ（一回のみの發生か又は二回以上か）

（百十二）飛翔の狀態を記載せよ

（百十三）如何なる敵を有するか

（百十四）如何にして敵を防ぐか。高く飛ぶことによりてか。不規則なる飛翔によりてか。花、葉、樹幹枝椏上に於ける保護的彩色形狀によるか或は死を裝ふか

（百十五）如何なる場所に生活するか

（百十六）如何なる花より食を求むるか

（百十七）花蜜の外他の食物を取るか

（百十八）食を貪る間如何なる姿勢を保つか

（百十九）食を取る際に於ける舌吻及び觸角の使用を注意せよ

（百二十）如何なる植物に其卵を產下するか

（百二十一）蝶は群集の性を有するか又は單獨的か

（百二十二）靜止せる時の姿勢如何

（百二十三）同種の蝶は盡く其大小色彩等を同一にせるか

第十節　蝶蛾の卵の研究

（百二十四）嗜食植物の如何なる位置に卵あるか（一箇つゝか又は群集せるかを注意し其數をも勘定すべし）

（百二十五）卵の大さ形狀及び色彩を記載せよ

（百二十六）幾何なる敵を有するか

（百二十七）如何にして敵を防ぐか

（百二十八）卵のまゝにて存する時日幾何

（百二十九）卵が發育の間に其色を變ずるか

(百三十)卵か孵化する以前に卵鞘を透して若き仔蟲を見ることを得るか

(百三十一)如何にして幼蟲が卵より脱出するか

(百三十二)卵の如何なる部分が破るゝか

(百三十三)幼蟲か孵化したる後其卵鞘を貪食するか。若貪食する時は如何なる價値を幼蟲に與るか

第十一節　一、二の研究問題

(一)幼蟲か巣を作る爲めに葉を捲く方法如何

ハナセヽリの類ハマキムシの類を觀察して之を記載し又は寫生すべし

(二)天蛾類の脚に在る刺を研究せよ

之を圖解し且自身の保持に對して如何に之を用ゐるかを說明せよ

(三)蝶蛾が飛翔するに際し其一側にある二翅（即前後各一翅）は一翅の如くに動作せらるゝか。如何にして之を遂ぐるか

各種の蝶、ハナセヽリの類、野蠶蛾類、天蛾類避債蟲類、糖蛾類其他研究に便利なる種類につきて比較研究をなすべし

(四)蝶と蛾との內にて保護的類似の新事實を發見すべし

保護的の姿勢を保てる蝶蛾を明瞭にせんが爲めに彩色圖或は墨繪を作れ

(五)異種の幼蟲の葉を食ふ方法を研究せよ

漸次蠶食する葉を現はして其摸型的圖を畫け。

各幼蟲の貪食する食量の多少を比較せよ

(六)同種の幼蟲の色彩の變化につき研究せよ

(七)蝶蛾の一發生の數又異時發生の數を比較し、大さ及び色彩等の變化を比較せよ

(八)成蟲の異同と幼蟲及び蛹の異同につき如何なる明白なる關係の存在せるかを見出さん爲めに多數の比較的研究をなすべし

（完）

◎皇太子殿下奉獻中等教育昆蟲標本詳解（其八）第參版圖參看

名和昆蟲研究所內　小竹浩

（九）半翅類

半翅類とは前翅の半ば硬化し半ば膜質をなすを以て名づけたるものにして、水黽蟲、椿象類等の總稱な

り。然れども、蚜蟲類、蟬類の如く翅の全部同質なるあり、蝨の如く全く翅を缺くものあれども、吸收に適する口吻を有する一事に至りては皆同一なるが故に有吻類ともいふ。其變態不完全若くは不變態にして、貝殼蟲、浮塵子、蚜蟲等の有名なる害蟲は此の内にあり。

（九六）イボタラウムシ（Ericerus pe-la, West.）　貝殼蟲科に屬し俗にトスベリといふ。雌雄異形にして雌は圓く、雄は大さ一分許にして桑の貝殼蟲に似たり。樹枝に圖の如き綿樣物を分泌し、數多棲息す。一見白粉を塗りたるが如し。故に又キオシロイとも云ふ。雄は秋季に至れば翅を生じて飛揚し、尾端に二個の糸線を有す。

イボタラウムシの圖（雄）

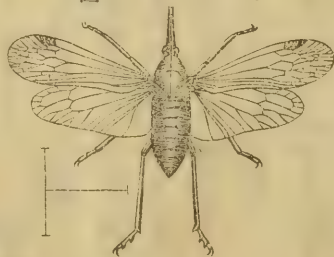
（九七）ヨコバヒ（Tettigonia viridis, Linn.）　横蛺蟲科に屬し体長二分五厘乃至三分の綠色なる普通種にして、頭部山形をなし、中央に二個の黑点あり、後頭部に二個の單眼を有す。觸角は額面の兩側複眼に近き處にあり。後肢の脛節には多くの短刺毛を並列す。桑梨等の樹皮内に產卵し、尚は大豆莢類の液汁を吸收して黃變せしむることあり。

（九八）テングヨコバヒ（Dictyophora inscripta, Walker.）　薄翅横蛺蟲科に屬し体長四分六七厘、頭部非常に細長く前方に突出し其兩側の前胸に接する處に複眼を有し、其下面に觸角を有す。觸角は三節より成りて第二の關節は非常に大きく、菊目狀に隆起せる數多の感覺器を有す。之れ此の科の特徵なり。觸角と複眼との間に單眼有り、頭部及中胸部に通じ數條の青色線を有す。翅は薄く透明にして、後肢の脛節には四個の刺を有す。此蟲は常に禾本科植物に生ずと雖も、特に稻に發生して液汁を吸收し、稀に大

害を與ふることあり。

(九九)マツノアハフキムシ(Aphrophora flavipes, Uhl.)　泡吹蟲科に屬し、体長三分乃至三分五厘、頭部三角形をなし、其中央に縦に幅廣く暗色を帶ぶ。二個の單眼は頭頂に存し、赤色を呈す。頭胸部を通じて隆起線あり。翅色淡鳶色にして焦茶色の斑を有す。幼蟲は松樹の嫩芽に生じ、其体より泡を分泌して体を圍繞し、其内に棲息して松樹を害す。

(一〇〇)アブラゼミ(Graptopsaltria colorata, Stol.)　蟬科に屬し、本邦產中最も普通なる大形種にして、アカセミ、オホセミ等の方言あり。翅色赤褐色にして不透明に、頭部は殆んど三角形をなし、胸部大きく、腹部に接する處凸凹ありて白粉を覆ふ。腹部の兩側及腹面は殆んど白粉を以て覆はるゝを常とす。七月より十月に亘りて人家近傍に多く發生し、早朝より日暮迄鳴聲を發す。(本誌第四號論說欄參看)

テングヨコバヒの圖

(一〇一)ツクツクボウシゼミ(Cosmopsaltria opalifera, Walker.)　蟬科に屬し、頭部三角形をなし、前胸部と共に黑色と綠色と混合したる斑紋あり。中胸部黑色にして二條の綠色線を有す。翅は上下共に透明にして淡褐色の翅脉を有し、前翅には翅端に近き二條の横脉上に焦茶色の斑あり。腹部は雌にありては次圖の(ロ)の如く、先端細く、雄は(イ)の如く大きくして殆んど圓筒狀をなす。七、八、九月に亘り山間及平地に發生し、特有の鳴聲を發す。此の蟲は長く一所に止まらざるの性あり。

(一〇二)マツモムシ(Notnecta triguttata, Mots.)　松藻蟲科に屬し、体長四分五厘内外、頭部及前胸は灰黄色にして、中胸以下腹端まで黑色を帶ぶ。前翅は扇狀にして、後翅は三角形をなす。前肢短かく、

後肢は長くして其脛節及跗節の內方には長毛を密生す。体の背面船底形に隆起し、其水中に浮泳するや体を倒にし、後肢を擢に擬して浮沈自由なり。（本誌第七十一號口繪及學説欄參看）

（一〇三）タガメムシ（Belostoma deyrollii, Vuillef.）　水䖸蟲科に屬する大形種にして、躰軀扁平に、頭小さく、胸部に接する所に三角形の複眼を有す。三對の肢は太く、特に前肢の腿節は太く扁平にして、其跗節端に一本の太き鈎狀の爪を有す。腹端には二個の薄板狀の附器あり、此の蟲は常に水中にありて養魚家の害蟲として排斥せらるれども、又他の害蟲をも捕食することあり。（本誌第七十一號學説欄參看）

ツクツクボウシセミの圖
（イ）は雄蟲（ロ）は雌蟲の腹部

（一〇四）カハグモ（Hygrotrechus remigator, Horvath.）　水黽科に屬し、アメンバウと稱す。蜘蛛の或る種に似たる形態を具へ、水上に浮ぶ所の普通種なり、体長四分五厘乃至四分八厘、觸角短かく四節より成り、腹眼大きく突出し、胸部長く、前翅は幅狹く、後翅は短くして稍濶し。前肢甚短く、中肢最長く、跗節は圓筒狀をなして、腹部末端の兩側には針狀突起あり。

（一〇五）アカサシガメ（Procerates rubida.）　食肉椿象科に屬し、体長五分內外の赤色美麗種なり。頭部長方形にして頸長く延び、複眼黑くして圓く突出し、其複眼の間に横に一條の黑線あり、二個の單眼は後頭部にありて隆起す。頭の前端に二個の角狀物あり、其下方より觸角を生ず。觸角は四節より成り、糸狀をなし細長く口吻三節にして短く、先端鈍し、肢は黑色にして基、轉兩節は赤く、前翅の厚皮部は赤色なれども薄膜部は暗色を帶ぶ。常に山林中に多く、小蟲

を捕食する有益蟲なり。其他蟲を捕へんとするや始め緩歩して、彌々接近したるときは一躍して捕獲する樣實に巧みなり。

(一〇六)ヤニサシガメ(Velinus nodipes, Uhler.)　食肉椿象科に屬し、体長四分乃至四分五厘、全体黑色を呈し、觸角糸狀にして細く、頭部宛もハマキザウムシのそれに似たり。後頭部隆起して二個の單眼を有す。前胸後方の兩側に板狀突起あり、腹部の兩緣は著しく突出す。脚は各腿節に黃色斑あり且所々縊れて殆んど連環狀をなす。脛節にも亦黃斑あり、跗節細くして三節より成る。常に山林中に多く、小蟲を捕食す。而して全体脂樣の粘質物を帶ぶを常とす。

(一〇七)シマサシガメムシ(Sphedanolestes impressicollis, Stal.)　食肉椿象科に屬し、体長四分五厘内外、頸長く、頭部に二個の突起あり。前翅は暗色にして、膜質部に二個の閉塞したる翅室を有す。口吻三節より成り、末端の一節は甚短かくして先端鈍し。脚は長く、觸角及腹部の側緣と共に斑を有す。此の蟲は常に山林中に多く、他蟲を捕食する有益蟲なり。

(一〇八)アヲガメムシ(Nezara viridula, Linn.)　椿象科に屬し、体長五分内外、全体綠色を帶び、頭部楕圓形をなし、複眼は黑くして前胸に近き處にあり、單眼は二個後頭部にありて淡黃色なり。觸角五節にして、三、四、五の三關節の末端は黑色を帶ぶ、口吻四節にして先端黑く、三對の肢は皆綠色にして、跗節は色淡く、爪端は黑し。此蟲は大小豆其他各種植物に大害を與ふることあり、之れに觸るれば一種の惡臭を放つ

(一〇九)チャバネガイダ(Halyomorpha picus, Fabricius.)　椿象科に屬し、体長四分五厘乃至五分五厘全体暗茶色をなし、腹面は淡紅色に黑点を散在して美麗なり。頭部長方形をなし、胸部に近き處に複眼

を有す。二個の單眼は後頭部にありて赤色を呈す。口吻四節より成りて長く腹部に達す。前胸は殆んど六角形をなし、稜狀部大きく腹部の中央に達す。此蟲は常に蘇木に發生加害す。

（一一〇）クヌギガメムシ（Urostylis striicornis, Scott.）　椿象科に屬し、体長四分内外の長楕圓形種にして、体扁平に、綠色を帶ぶ。頭部方形にして其中央の兩側に複眼を有し、頭頂に近き後頭部に二個の單眼あり、口吻三節より成りて短かし。腹面の兩側中、後脚間に二個の角狀物あり。此種は常に櫟に發生し、性群居を好む。而して秋季該樹皮間に粘質物を出し、其内に多くの卵子を産附す。粘質物は素と防寒の爲なれども、卵子の呼吸に障碍あるを以て、卵子には三本の細長き突起（呼吸管）ありて、粘質物の外面に出づ。

（一一一）ハリガメムシ（Cletus bipunctatus, H. S.）　有緣椿象科に屬し、体長三分八厘内外を算し、体色淡黃褐色を呈す。胸部の兩側突出して針狀をなすを以て此の稱あり。觸角は四節より成りて末節は太し、頭部方形にして中央の兩側に複眼を有し、後頭部に二個の單眼ありて稍赤色を帶ぶ。此種は常に禾本科植物に發生し、特に早穗の抽穗期に於て大害を與ふることあり。（本誌第五十一號學説欄參看）

（一一二）ササゲガメムシ（Riptortus clavatus, Thunb.）　凸眼椿象科に屬する五分五厘内外の細長種にして、全体茶褐色を呈し、胸部の兩側突出して針狀をなす。觸角四節にして末節の半ば及各節の末端は黑褐色を呈す。口吻四節より成り先端黑く、複眼は黑褐色にして圓く著しく外方に突出す。頭頂には二個の赤き單眼を有し、肉眼を以て認め得べし。稜狀部甚小さく、腹部の兩側緣は突出し、肢は後脚の腿節著しく太く、其内方に數個の刺と、脛節の末端に一個の刺とを有す。此種は常に鵲豆ササゲ等に發生して大害を與ふることあり

（一一三）クモガメムシ（Leptocoris varicornis, Fab.）　有縁椿象科に屬し、体長五分四厘乃至五分八厘の細長なる種にして、形殆んど蜘蛛の或る種に似たるを以て此の稱あり、全体茶褐色にして黃綠色を帶べり。觸角は四節より成り、第一節は半面黑色に、半面淡黃褐色を帶び、其他の關節は過半黑色を帶ぶ。單眼は二個頭頂にあり肉眼にても認め得べし。脚長くして各節の接合部黑色を帶び、跗節端亦黑し。此種は稻作加害の普通種なり。（本誌第五十號學說欄參看）

（一一四）シラミ（Pediculas capitis, Deg.）　虱科に屬し、頭部山形に、觸角五節より成りて短かく、口吻肉狀にして吸收に適し、腹部長くして中央太まり、肢の脛節端には强刺を有し、其他各節に剌毛を粗生す。跗節二節より成りて其先に一本の曲りたる爪を有す。体白くして全く翅を欠き、常に人類の血液を吸收して大に嫌厭せらる。

◎エゾギクノアヲムシ（Plusia transfixa.）の飼育（第四版圖參看）

靜岡縣　神村直三郎

予は昨三十六年八月以來螟蛉蛾科に屬するエゾギクノアヲムシの飼育をなしたれば、不完全ながら之を報せんとす。

幼蟲　充分生長すれば体長一寸二分に達す。全体の形狀圓筒に似て、頭は比較的小なり。頭の色は淡綠褐色を呈し、其他の地色は綠色にして背線部殊に濃色なり。其兩側には稍太き白條を縱走し、其左右に又細き波狀の白縱線各二條ありて且此部に粗毛を生ず。又氣門上線の位地に於て一條の太き白縱線あり、其兩側又粗毛を生ず。其毛根部には一小黑点を現はす。腹面の方亦粗毛を見る。胸脚六本通常の位置にあり、腹脚四本第八、第九の兩關節に在り、別に又尾節に尾脚を備ふ。

幼蟲の習性としては、食草の葉の裏面に居りて其主脈に並行して靜止し、移動の際には尺蠖の如く体を凸字形に屈して前進す。幼時の食を取るや、其葉の中央部より食ひ始め、表面の白膜のみを殘すこと多し。されど生長したる幼蟲の食を取るはこれと少しく異なりて、葉の緣邊よりするものあり。

蛹及繭　蛹は長さ五分五厘乃至六分あり、全体綠色にして背面に淡褐部あり。此蛹は繭の中にあるものなるも、其繭たる食草の葉の殘餘を以て之を補綴したるものなるが故に、至て薄くして且柔かなり。繭は其大きさ蛹の長さに匹敵し、蛹の尾尖は繭の一部内面に附着せり。

成蟲　体長五分、開翅一寸一分、鞭狀の觸角を有し、胸背に毛塊を備へ、前翅中央部にへ字形の白條紋ありて、全体の色は黑褐なり。後翅基部は灰褐色なるも緣邊は黑褐色にて灰褐色の緣毛を有す。腹部は灰褐色にして背面中央に黑色毛を混ず。

食草　エゾギク及アレチヨモギを食す。試に普通の菊を與へしに厭惡の狀ありて更に食せず。

經過　幼蟲は八月下旬より發生すると雖も、遲きものは十一月上旬尚幼蟲にて盛に食害を逞くす。早きものゝ繭を營むは九月上旬にして、同月下旬より頻りに羽化す。予は八月下旬初めてアレチヨモギにて幼蟲を發見し、飼育を試みたるのみなるを以て、其以前の摸樣を確言し難しと雖も、叢生し居る此食草に初めて該蟲を發見したるを見れば、或は一年一回の經過にはあらずやと思はる。尚識者の是正を仰ぐ所なり。

寄生蜂　予が飼育に於て其螟蛉を斃する處の寄生蜂二種を發見せり、即ち其一は（ホ）圖に示す如く、ウスバヤドリバチにして、体長六分二厘、開翅八分五厘あり、全体飴色にして、七分餘の觸角を有す。此蜂の繭は長さ四分の俵狀にして、表面を白色の絹糸にて蔽ひ、内面をば堅き黑色の[illegible]以て造る。

其の表面の絹糸は俵の中央丈け特に厚くなして著しく中央三分の一ばかり白く見ゆ。此蜂の羽化するや其俵の一方を切破りて出づるに恰もイラムシが繭を破ると同じく定まれる位置に於て定まれる形に蓋をすること頗る切なり。繭は宿主たる螟蛉の繭のうちに一パイになりあるを常とす。又其二は(チ)圖に示す如く前種より小形にして、体長三分餘、開翅五分、觸角長二分五厘あり。頭胸部黒色に腹部の大部分は黄色に、其端は又黒色にして長五厘の產卵管を有す。翅は淡灰色にして黒色の縁紋を備ふ。前中の兩脚は悉く黄色なるも後脚の腿節末端と脛節の基部及末端は黒色にして、其他は前中脚と同色なり。

第二の寄生蜂　此種(リ)は(ホ)圖に示せるウスバヤドリバチに寄生するものにして、九月三十日及十月九日の兩度宿主の繭を不規則に破りて出でたり。何れもウメケムシに寄生するモ、ブトヤドリバチと同一なり、ウメケムシを斃すに於ては益蟲の資格を有し、ウスバヤドリバチに寄生しては、間接に害蟲となる、此種の利害を判定せんには、今後尚多くの經驗を積むにあらざれば能はざるものと信ず。

圖解、(イ)幼蟲、(ロ)蛹、(ハ)繭、(ニ)成蟲、(ホ)螟蛉に寄生するウスバヤドリハチ、(ヘ)同上の腹部を側面より見たる圖、(ト)同上繭、(チ)螟蛉の寄生蜂の一種、(リ)ウスバヤドリバチに寄生するモ、ブトヤドリバチ、(ヌ)モ、ブトヤドリバチの出でたるウスバヤドリバチの繭、(食草)エゾギク。

◎螟蟲驅除に於ける採卵法と益蟲保護の必要

第六回全國害蟲驅除講習生　岐阜縣　三宅幸三

余は固より確たる抱負實檢あるに非らず、只該蟲に刺擊せられて是れが驅除に焦るのみ。一として未だ實蹟を擧げたるに非らず、而も互大の眼界に映ずる現象と、錙寸箱的觀察を基とし、僻見曲解を下して錯誤杜撰も顧みず、徒らに貴重なる本誌を瀆すの輕擧妄動を演ずる所以のものは、唯先賢諸氏の劉覽を煩はし、宜しく叱正垂教の榮を乞ひ、以て吾々の所信を確め、一日も早く該蟲の驅滅を計らんとするの微意に他ならず。自ら顧みて衷心忸耻として偏に恐懼に堪へず、幸に諒焉。

害蟲類の覇王とも視るべき螟蟲が農界の神髓たる稻作を蹂躙して年々數千萬圓の損害を流し、往々枯穗黃莖の慘劇を演ずるあれば、亦益蟲類の首魁とも謂ふ可き螟卵寄生蜂なるありて、隱微の間に出沒して吾人を援助し、盛に彼が卵塊中に浸入して是れを斃し、其働きや決して輕視す可らざるものにして、彼れの蔓延被害の度は、是れが繁殖如何に依て均衡せらるゝと謂ふも敢て過言に非らずと信ず。蓋し農家受くる所の効益や莫大なる可し。識者既に此の天與の忠僕を紹介せられ擧げて本紙に盡さる、余輩亦何の余瀝あるを認めずと雖、聊所見を摘載して諸賢の一粲を仰ぐ。

予が初めて螟卵十四塊を得て珍らしげに洋燈ホヤに投じたるは、之れを日記に依て調ふるに去る二十七年六月七日なりき。其當時該蜂の發生を見て只不審を抱くのみなりしが、超えて二十九年五月初めて益蟲寄生蜂なることを聞き無量の趣味を感じ、爾來當年に到る、常に是れが注意を怠らず、時には洋燈ホヤに投じて寄生步合を調べ、又は益蟲保護器に依て、發生の狀況を考査したる等殆ど數十回に及べり。此は固より學術的精密の實驗にあらずば杜選の罪は免れずと雖も、如何に該蜂が吾人を益するの大なるは敢て公言を憚からざるなり。併も是れを一々列擧の價値を見ざれば唯茲には其一二の例を揭ぐるに止め、他日報して叱正を乞ふ可し。時は三十二年七月三日より六日の間採集に係る三千七百五十餘塊を同七日保護器に入れしに、僅かの螟蟲を見たるのみにて、同八九兩日の如きは夥しく寄生蜂の孵化を認め恰も雲の如く飛散の狀を目擊せり。同時に卵塊二十個をランプホヤに入れ置きたるものを檢するに、殆んど九割五分强の寄生を見たり。其他三十一年六月廿八日、三十三年七月廿三日、三十四年七月十八日同二十五日、三十五年七月一日等に於ては亦斯の如き狀況を見たり。時には至て少なきありと雖多少共寄生を見ざるは殆んど稀にして、採卵の時期の早晩其他天候如何等に依りて一樣ならずと雖、要するに

平均三割位の寄生を見るは慥なる可しと信ず。當年之を督勵に受け、前後八旬の間各地巡回し、親しく考査の暇なかりしが、到る所該蜂の盛況を目撃したること一再に止まらざりき。恐らく讀者諸氏又此等の例は奇とせられざる可し。宜なり學者既に害蟲の七割半は益蟲寄生蜂の爲めに斃さるを説かる。予輩又謂ふを要せず。

識者の所謂、天然驅除を貴び、人工驅除は成可く避くべしてふ理想的方法は此等を保護して、是れが繁殖を計り、是をして天然驅除の操作を計るの謂にして是れに非らずば完全の効果得て望むべからず。元より彼等の足らざる處は人工を以て是れを補ふの要は論なしと雖、如何に名法良術を施すとは謂へ、此等を度外視し甚だしきは是れを減殺爲しても、徹頭徹尾人工的を以て十全の好蹟を擧げんとするは抑誤れるに非らざるか。

方今螟蟲驅除に於ける採卵法は、天下擧げて之れを是とし、頻りに法令を發し、規約を設け百方督勵を盡して只管此れが普及を計り、其結果一般當業者の注意を惹き或は軟弱なる婦人の業務となし又は可憐なる兒童の採集に係り、遂には紙符木牌を能事とせる頑迷家の手に及ぶを見るに到り、一村或は一郡にして數萬乃至數百萬塊と算し、積んで堆を爲すが如き奇觀は苟も被害地として殆ど奇とせざるに至る。是實に時勢進運の然らしむる所なりと雖偏に斯學發展の賜にして、喜ばしき現象と謂ふ可し。予輩は此の喜ばしき好蹟に接する每に、當業者の勞を多とし、其善を盡すの至れるを喜び祝ふと共に猶且其美を竭すの足らざるやの遺憾なき能はず、益々是れが發展普及を希ふと共に聊か當局者の猛省を乞ふ可き節なき能はず。是れ他なし目今一般驅除方針、絕對的人爲驅除たる殺戮を是れ事とし、比較的天然驅除者たる益蟲保護を緩慢に附するの傾なきに非らざるか。

試に本誌に依て紹介せられし、各府縣各地に於ける驅除奬勵に關する規約並其狀況等を見るに、特に重きを該採卵に置き、是れが捕獲の手段に到りては孰れも善を盡し技を競い敢て遺漏なきを覺ゆと雖、是れを處理するの方法に於ては理想を得たるものありと雖、多くは擲殺、捻殺或は蒸殺、燒殺等の熟語を用ひて之れを勵行しつゝあるを見る。必竟此は害蟲驅殺の名法に相違なしと雖、一面益蟲退治の酷刑は免れず、或は是れを撿して當局者の許に集め之れを一時に保護器に投じ、又は一隅に堆積する如きは一見其偉蹟を驚かすと雖、是又裏面を觀察して露骨に之れを謂はゞ、益蟲を害蟲の數に加ゑて同一視し餓殺或は刑殺てふ、一種の慘刑を演じたるの憾なき得はず、或は捕蟲網、誘蛾燈と嚴勵するも、益蟲保護器は其内に加へしを見ず。是れ大に遺憾とする處にして、予輩は往々周約に行ひたると然らざるの二者に於ける被害の程度、吾人の豫想の如く輕重なきを親しく臨檢し又は年々多額の買收費を投して其好蹟を聞くも、猶該蟲跋扈の狀を目擊し或は該法の効果薄きを嘲り又は行ふは行はざるに勝るの酷說を耳にする毎に、唯驅殺の一途に馳せて益蟲保護を等閑に附したるは、優に是れか一因として疑はざるなり然れとも是れが害益辨別の識なき迂農の間に行はるゝのみならず、苟も一部落の規則と爲し、責任ある當局者の唱ふるに至て酷も亦甚しからずや。

左は謂へ、一歩退て眼を農界の現況に轉せば、是は誤謬なり、僻見なり、奇言を弄して暴說を試みたるに過ぎざる可し、害蟲驅除勵行は錯雜にして決して容易なるものに非らず、其間に蟠蜿たる種々の情實は當路有志の苦心察すべきを見る。唯頑迷固陋を以て塡め、益蟲保護は謂はずもがな、採卵殺蛾の方法と雖畢竟他動的に驅られて御祭的に流れ申譯的に行ふに過ぎず、毫も驅防の眞意を了せざるなり。斯くの如き思想に臨で直に理想的方法を勵行して完全の効果を得可きにあらずば、僅か其一端の弊を指摘し

て猥りに嘴を入るゝ如きは思はざるも亦甚だし、要するに一般思想に應ずる方法を講じ、假令不完全なりとも一般の觀念を穿ち、漸次理想の域に進む可きなり。果して然らば、今や普く該法の如何なるを知得し、畧實蹟を見るの此際、更に進て十全の方法を執るは最も急務に屬するに非らずや。

惟ふに各所に於て好蹟の擧がりしは、當局者に於て其卵塊數を撿して之れを奬勵し、或は卵塊買上法等なる可し、共に之れを行ふに當り、其採卵を各自に還附して保護器に投ぜしむるは容易なれとも、然る時は再三是れを持ち來る如き弊を免がれず、是れを以て不滿足ながらも沒收するに至りしならん。此弊を除くの方法を講せば苦も無く之れが實行を見る可しと信ず。今次の如き方法に依れば如何なるものなるや、定めて一笑の價なからんか暫く記して諸賢の名案を俟つ。

一、町村各區各組に便宜害蟲驅除員を設けて之れを督勵し、一定の期日を定めて該採卵を差出し、是れを点撿すること。

二、是れを差出すに當り當業者次の如くす可し。

螟蟲卵塊附着の稻葉の基部より摘み取り、正しく葉の尖頭を揃えて、十個を以て一括となし、十括を以て一束となすこと。但十塊未滿のもの及び卵塊尖頭に產卵のものは別に束ねず差出す可し。

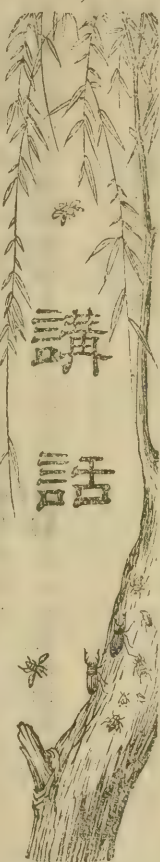
三、前記の卵塊は害蟲驅除員に於て能く其數を記載して之れを剪刀を以て一括宛稻葉の尖頭を少し切り尖端に產卵あるものは基部を切り卵塊のみとなし、而して後各自に還附すること。但し尖頭を切りたるものある時は已に調査せしものと認め其數に加へず。

四、各當業者は苗代附近に一個以上の益蟲保護器を備ね、右卵塊を之に入れ益蟲を保護す可し。

而して益蟲保護器に就ては多少欠点は或は免がれずと雖、數年實行するに、農家日用器其たる金盥の

き器に水を入れ少し石油を注ぎ其中に饂飩鉢位のものを据え其中に該卵塊を入れ置くなり。然して斯の卵塊より發生せる幼蟲は這ひ出でゝ水中に陷り、益蟲は羽化し空中に飛翔して目的を達し得るなり。若し風の爲飛散の憂ある時は篩狀のものを掩ひ、雨天の時は笠を以て雨水の浸入を防ぐ可し。若し是等の方法にして普く實行を見る曉には多大の益蟲を救ふに止まらず、蠢爾として這ひ出ずる螟蟲は如何に該蟲に對する迷夢を啓き、實物的奬勵の好標本として進むる價値あるを信ず。

終りに臨んで諸氏に希ふは、此等に關する實驗並考案等寄せられ是れが實行を計らんことを、是獨り斯道の爲めのみならず又吾人の享くべき天職なればなり。

講話

蜂　　楊萬里

蜜蜂衣食人間倉。玉露爲酒花爲糧。作蜜不忙採花忙。蜜成猶帶百花香。

一書生の閑窓に書す

學問は尻からぬける螢哉　　蕪村

◎苗代田に於ける誘蛾燈と捕蟲器

名和昆蟲研究所助手　石田和三郎

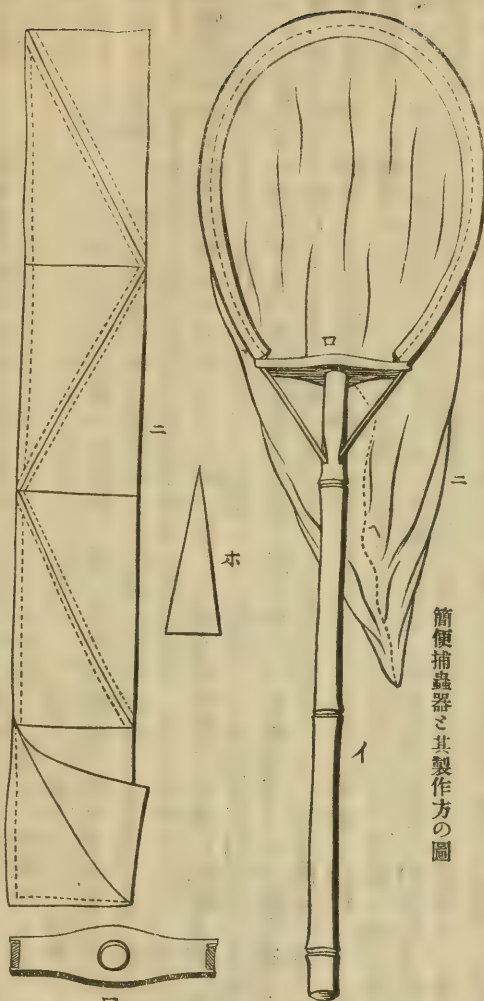
編者云、本篇は曾て水曜昆蟲談話會席上に於て石田助手の講演せられたるものなり。今將に其時期に到らんとすれば、參考の爲爰に揭ぐる事となしたり。

害蟲の王とも稱すべき螟蟲驅除に就きては、昨年十月十五日附にて農務局長より之が方針を各地方の當局者へ通報せられ、一時全國を照せし誘蛾燈は追々其光りを減ずる樣になりて、捕蟲網が次第に特意の腕を振ふ樣になつて來るのは喜ぶべき事である。之れ如何なる譯でありませうか、從來誘蛾燈は如何なる塲合に使用し、如何なる點まで効力のあるものであるかは議論百出して其の決する所もありませんでしたが、近頃漸く誘蛾燈驅除は國家經濟上に頗る關係がある輸入品の一なる石油を多額に消費し、却て其の割合に効力の少なき事を悟り、螟蟲驅除の方法としては感服すべき者でないと云ふ人々が追々出て參りましたからであらうと思ひます。然しながら世人の中には未だ是等悟ることもなく、多くの蛾類が

燈火を慕ふの性質があるから、誘蛾燈に集ひ來るのを見て、其中の小蛾類をば悉く螟蟲の蛾であると速斷し、謬信の餘り徒らに之が有効を唱へて自然に螟蟲驅除の一大良法なる採卵法迄も輕視する者の多くあるのは、實に慨嘆千萬と云はなければなりませぬ。近き昨年中に於ける一例を申せば、某縣農會の如き、一目して其誤りなる事を發見し得る程の曖昧なる螟蛾誘殺の成蹟表を造り、之れを楯とし多大の費用を擲ちて其奬勵を決議し、又某縣某地方の如きは郡村費等を以て多數の石油小燈其他之に必要なる器具を購入して毎夜盛に苗代田の近傍に點火をなさしめ、黄昏よりは蒼々たる田面も一變して不夜の里かと疑はれ、遠くより之を望めば光火は炎々として天を焦し、實に一大壯觀を呈するなどの事實は屢々吾々の耳にせし所でありましたから、當時試に此等の一二地方に參りまして誘殺せられ居る螟蛾を調査して見ました處、其十中の七迄は他の小蛾類、殘り三分は螟蟲の蛾でありましたが、之れ又產卵後の者六產卵前の者四で、即ち螟蟲の蛾は惣數の二十五分の三の割合でありました。併し時期或は場所に依りて多少の差があるとしても、多額の費用と幾多の勞力を投じたる點火誘殺が、僅少の時間に而も有効なる螟卵採集法とは到底較べものにはならぬ。然しながら誘蛾燈は螟蟲の驅除と共に他に幾多の害蟲を驅除するの効果あるものなれば全然廢すべきものにあらずとて誘蛾燈に肩を持つ人もある。成程多少効はあるには相違ないけれども、多額の費用を要し且石油などを使用するのは餘り感心の出來ない話である。强て効力ありと致しまするも、私は尚之よりも少額の費用にて、尤も簡易に何人でも行ひ易き捕蟲網掬取の方法が、經濟上及農家實行の點に於きましても且又多量の害蟲を捕獲する上に於ても、終夜點火の誘蛾燈よりは幾層の効力あると云ふ事は信して疑はざる所である。今其一例を擧けて申しますれば、明治三十一年靜岡縣濱名郡農會に於ては、浮塵子發生の際簡易に製作の出來得る所の捕蟲器を案出し、管内の農家に悉く之を造らしめ、一郡擧て一齊に共同驅除を施行したる結果は、僅々三日間に郡內四十二ケ町村の苗代田より三十八俵餘りの多數なる害蟲(重に浮塵子なれども螟蛾も亦尠なからざりしなり)を採集したる事實があります(此浮塵子の一部は同郡松島十湖氏より紀念として大なる壜に入れ寄贈されしを以て今尚昆蟲陳列舘にあり)。而して之に要する費用の如きは僅か十數錢の捕蟲器と、數時間の勞力とを農家各自に費さしめたるもので、他に何等の費用を要しません。而して前に述べたる有形の効力と其後同地方農民の意向が頗る害蟲てふ感念に傾き、今日に至る迄も自から進で驅除し、或は婦女子をして捕蟲器を以て少しの暇さへあれば苗代田を掬はしむる等の無形の効果は又莫大なることを証據立する事

が出來ます。今左に簡便捕蟲器の製作方を一寸申上げん

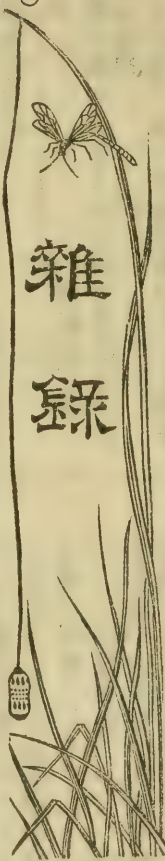
即ち圖に示すが如く廻り二寸七八分位、長三尺位の竹を以て(イ)の如くに柄を造り、其先端に(ロ)の如き長五寸五六分の木片の中央に穴を明けたるものに差し込み、其木片(ロ)より四寸三四分下にて柄の兩側に切り込みを造り、其穴に(ハ)の如く輪にすべき竹片の兩端を差し込みて(ロ)なる木片の兩端に接する部分を釘留さして之に(ニ)の如く寒冷沙の大幅を二ツ折りさなしたるものを(鯨尺)二尺五寸長に裁ち

簡便捕蟲器さ其製作方の圖

更に之を斜に三角形に裁ちて點線の如くに縫い、三角形の袋を造り、袋の末端尖れる部分を上にする樣にして其の袋口を(ハ)の部なる輪に縫い付け、又其上を竹の皮にて纒ひて使用の際其淵の部分の破損せざる樣になす。尙又之れよりも少しく大なる捕蟲器になさんとすれば、(ホ)の如く長さ(鯨尺)一尺五寸に下端の幅九寸計りの布片を(ヘ)なる縫目の處に上部より縫込む時は、其体裁も宜しきものが出來ます。斯くの如くにすれば、寒冷沙の裁ち屑も出來る事がなく、僅かに二尺五寸の寒冷沙にて二個の捕蟲器を製するの用に供し、又之に竹代手間賃を合しても僅に一本拾貳錢位なれば出來得る者であります。故に製作は簡易で、使用するに輕便で、且つ永く使用に堪ふると云ふ事は決して誇大に吹聽するのではありませぬ。之を以て農民は晝飯後休息の時間等を利用して、一日に二三回苗代田を掬はしめたな

らば僅かの時間に有ゆる昆蟲は掬ひ取られまして、終夜點火の誘蛾燈よりも非常に多數の害蟲を捕殺する事が出來ますから、如何に頑迷なる處の食はず物嫌ひの農民でも、一度之を使用せば其効果の意外なるに驚き、進で實行に勉むる樣になり、終には當局者の注意を待たずして掬ひ取る樣になる事は實例に徵しても明かであります。そこで吾々は尙今後成べくは捕蟲器驅除をも螟卵採集法と同時に小學生徒を利用して行はしめたならば、一層効を奏すべき事だらうと信じます。何んぞ好んで莫大の費用を擲ち、御祭り騷ぎの複雜なる驅除をなすの必要がありませう。恐らく昨年の十月農商務省の注意に誘蛾燈驅除の無かつたのは或は其意の此邊にありはすまいかと私は考へます。以上は苗代田に於ける驅除に就て、兩者の優劣を比較したるのみでありまして、其他の塲合に於ては後日を俟て申上げ樣と存じます。

取逃す
隣の聲や
行く螢
（太祇）

雜錄

蝶　東坡

双眉捲鐵絲。兩翅暈余碧。初來花爭研。忽去鬼無跡

◎昆蟲文學（四）

蝶　無名

錦織りなす彩衣、二つの袖もなよ〳〵と、風軟き春の野の、花より花に移りゆく、胡蝶とならんすべも哉。

蝶　大久保逸堂

生來保得好精神。蟲裡風流自絕倫。啜露不貪眞可愛。趁芳無倦最堪親。翩翩舞態雪如麗。綽綽靜姿花樣新。說與薔薇君莫近。葉間針刺恐傷身。

新川曰。詠物上乘。似瞿宗吉。
南山曰。一結存詩人溫厚之意。

蜂　魯嶽野衲

蜂有數種。膜翅類也。作房。作窠。群棲甚睦。而其性頗勇武。蠆尾能螫人。然人不加諸害。則不敢爲螫也。聞近時英國某醫學士。創以蜜蜂療僂麻質斯病。其法在使蜂螫患部云。嗚呼一小蟲得所用。則益人如此。况於釀蜜供世用乎。夫人爲萬物長。口吐甘言。胸藏毒刄者。往往有之。殆不如蜂也。

南山曰。物得其用。變害爲益。人得其地。離惡入善。嶽師識見。高人一等。

蝶　半風隱士

紛翅翩翩西又東。双双相戲舞春風。知渠似解風流意。盡日尋花菜圃中。

蝶　小木曾蘿洲

香粉輕羅似美人。翩翩漫舞送三春。往年曾入莊生夢。學界如今机上親。

南山曰。所謂與世推移者乎。

蝶　山内伊藏

菜花連十里。滿畝富黄金。群蝶爭尋蜜。狂飛到夕陽。

蝶　蟣螟居士

風雨無情綠滿枝。翩翩憐汝欲何之。匹如杜牧當年恨。應悔尋芳已太遲。

蟲七首　神村直三郎

ますらをが昔の夢のあとゝへば今も飛びかふひをどしの蝶(緋威蝶)

みたからにあだなす蟲を食蟲椿象のさしも雄雄しくまつろへてけり(サシガメ)

よな／＼に粟ぬすむなる蟲なくば民のこころは長閑けからまし(夜盜蟲)

追へどなほ虎班釣虻いちはやく逃げてゆくへや何處なるらん(トラフツリアブ)

苗代にあだなす見れば足よはき蚊のうばとしも思はざりけり(蚊蛯)

かがみなす水のおもてのあやしくも曇ると見しは蟲にぞありける(水蛛)

二葉よりかほれる木さへある世とて光りはなてる子のほたる哉(仔螢)

蝶　濱口眞澄

たもふことなげなるものは春の野の花にむつるる胡蝶なりけり

あはれ蝶いかなるさちか春の野の花に世をふる身に生れけん

春の蟲　雲の泉の舍

川水の花のいかだのあとたひておかしくあそぶ水すまし哉(水すまし)

松藻蟲たれをまつらん櫻ちる里の小川にうき沈みして(松藻蟲)

桑枝尺蠖　朝　凡　屋

つぼわりし奇しきことをば漢詩にものされてけり桑の尺蠖

白蝶黄蝶　小川きよ子

國に春を戀ひつつ別れ七十里蝶の彩羽に歌そめし京

もゆるたもひ小石に秘めてなげ打ちし胡蝶は遠く飛び去りにけり

嫁菜つみ杓杞の芽つみて川堤たどりて行けば白き蝶とぶ

連れ立ちてまなびやがへり春の野の胡蝶に暮れし事もありにき(人におくる)

草花にねむる胡蝶のゆめのごと二十歳の春も暮れんとぞする

蠶

籠のふちにあまた這ひでし蠶かな　四澤
恙なく起き揃ひたる蠶哉　同
妹が袖について來りし蠶かな　同
養蠶の日記に句あり別霜　同
糸を吐く走り蠶や籠のふち　同
一棚は桑を止めたる蠶哉　同
四眠起桑の足らざる蠶哉　同
三人の女雇ひて蠶飼哉　明笛子
踏みつぶす蠶の汁や藁草履　同
いささかの蠶飼ふなる二階哉　同
二つ三つ這出したる蠶哉　同
春風や蠶を流す裏の川　同
一筵遲蠶の僅かなり　城東
蠶棚鼠の穴を塞ぎけり　同
盆の中白紙の上の蟻蠶哉　同
蠶眠る室靜なる灯哉　同
編物に蠶飼の暇を惜みけり　同
持山を桑畑にして蠶飼哉　去水
なせぬ手に少しばかりの蠶飼哉　同
雨の日の爐を暖にし蠶飼哉　同
姑の小言もうしや蠶飼　泡人
おびただしう蠶飼ふなり長が家　同
新嫁が赤き襷や蠶飼　同
内桑の足らずなりたる蠶飼哉　冷石

蠶飼ふて勤儉風をなしにけり　同
家狹く疊を上げし蠶飼哉　同
養蠶の幻燈會や村の寺　轉轉
初めての蠶飼出來よく上りけり　同
夜起きて蠶見廻る紙燭哉　同
走り蠶や天井の隅の繭二つ　桂泉
養蠶の講話會あり小學校　同
蠶糞干す人の妹や夏隣　同
桑ふれば動き出したる蠶哉　嬉水
一羽毛に掃落したる蠶哉　同
雨の日の椽に桑干す蠶飼哉　文翠
折藁にそと置くあがり蠶哉　同
祖父祖母も、手傳ひ給ふ蠶飼哉　皓月
强ひられて少し飼ひたる蠶哉　同
時ならぬ晝餉食ふなり蠶時　歸麓園
蠶飼して桑の葉刻む佛間哉　同
組上げて横木の足らぬ蠶棚哉　直子
飼馴れて十年かへぬ蠶種哉　素流
蠶飼して畑打つ暇もなかりけり　銀箭
桑をはむ蠶の音や夏近し　寒川
桑買ひし料に蠶糞を賣りにけり　比刀
畑桑の足るだけ蠶飼したりけり　遲日
蠶棚庭に仕組んで見たりけり　非石
這出でて壁に糸引く蠶哉　六足子
玉繭の數美しき蠶棚哉　村學究
蠶飼の灯またたく戀もありぬべし　三竿

◎昆蟲展覽會（續）

愛知縣農事試驗場技師 美濃部鏻次郎

昆蟲展覽會の沿革

抑も昆蟲展覽會の嚆矢は、明治三十四年東海農區五縣聯合共進會の際岐阜縣名和昆蟲研究所が主催となり、岐阜市にて全國昆蟲展覽會を開催したのが始まりにて、本縣下にては丹羽郡農會の主催で三十六年三月同郡役所に開設し、同年五月寶飯郡教育會に於て、同年十一月には額田郡教育會主催の昆蟲展覽會がありて非常に盛會を極めた。此他岐阜縣にては三十五年二月同縣冬季昆蟲展覽會があり、三十六年四月第五回内國勸業博覽會開會の時大阪府農會主催にて全國病蟲害展覽會を開催したのを始として他府縣郡にて開催したのは何程あるか知らないが、其開催された事は屢々耳にした所である。今參考の爲め本縣下に於ける展覽會の開催期日、出品点數等を左に記載せん。

主催者	開場位置	開催期日	出品箱數	出品頭數	出品種類
寶飯郡教育會	寶飯郡役所内	自明治三十六年五月三日、至同年同月九日	三百三十箱	一万七千二百廿八	―
額田郡教育會	岡崎町誓願寺	自明治三十六年十一月廿八日、至同年十二月二日	四百五十箱	二万餘	八百八種
丹羽郡農會	丹羽郡役所内	自明治三十六年三月廿五日、至同年同月廿七日	五十八箱	一千二百六十	―

昆蟲展覽會の成蹟

昆蟲の展覽會は沿革の章に述たる如く其の開催數は隨分あつた樣であるが、余の直接之を觀覽したのは名和昆蟲研究所主催の第一回全國昆蟲展覽會だけで、大阪府農會の主催會及岐阜縣の冬季昆蟲展覽會等は終に縱覽するの機を得なかつた。併し幸にして丹羽郡農會及額田郡教育會主催の展覽會は、不肖審查長の任に當り、其の凡ての顚末に接したから、些少か之れが記臆を述ふる事が出來る。就ては繁を避け主として額田郡教育會のものに付左に開陳します。

額田郡教育會主催昆蟲展覽會の出品者は主として各高等尋常小學校にて、各町村農會も亦出品した。併し町村農會の出品は二三を除くの外は餘り見るに足らざるものであつた。各小學校の出品は概して成蹟甚だ良好にて、採集、製作或は意匠の進歩せしには實に意外の結果であつた。

出品物は敎師中にて一校一二名の主任者を選定して專ら之れに任じ、自ら採集等の勞を採り且つ生徒には常に注意して採集したるものを携へ來らしめた。而して採集區域は特り居村近傍のみならず遠く各地に出でたそうだ。序に一寸附記するが、出品標本を收集するに當り一の奇談がある。寧ろ有益有効なる

談柄がある。額田郡某學校生徒某或る日數種の標本を携へ來り、之れを教師に差し出した、其中特り蟷螂のみは生たるまゝ教師に捧げ、曰く蟷螂の標本は過日來數多蓄へられたるが如し、若し既に用なければ之を放たんと、果して用がなかつたから直に生放したと云ふ話だ、之れ昆蟲展覽會効果中の特筆すべき事柄にて、益蟲保護の兒童の感念に刻まれたる利益は蓋し少なからざるべしと思はれる。

出品の標本は分類、有害益蟲、教育用の三類に分たれ、各類とも第一回としては精巧又は有益なるものゝ多數を認めた。殊に有害益蟲、教育用標本に其加害の模樣、益蟲の益ある所以を圖畫を添寫して一目明示し或は發育經過の順序を示し、教育用標本に至りては擬態、雌雄淘汰等を巧みに（第一回として比較的）製作したる意匠と熱心とは、其出品者其製作者に與へたる學術的趣味は、蓋し多大であろう。

觀覽者に對する觀察は、之れを普通人と小學校生徒の二樣に區別して調査した。普通人に對する調査は會場內を參觀しつゝ批評せる談話を記したもので、凡左の種類であつた。

蟲には斯く澤山あるものにや●蟲は奇麗なものだとのみ思ひ居たるに惡るき事をなすものなるか●奇麗な事●能くも斯く多數に集めた事●蟲の內にも益になるものが有ると見ゆる●內の子供の曰く昆蟲展覽會は非常に奇麗だで一度見に行けと頻りに勸誘したから見に來た●夏頃浮塵子と云ふて喧しく言ひしは此の小なる蟲であるか●こんなものが米を喰ふものなるにや、

小學生徒の方は林額田郡視學の厚意に依り、町立の岡崎高等小學校と、村落所在の青龍、投、二尋常小學校との各生徒の所感を知ることを得た。即ち左に其の概要を摘錄し、且つ二三の全文を掲げる。

高等小學校の部　本郡農作の收穫比較的少きは害蟲被害の結果である、故に驅除の方法を講じ日本の富强を謀らん●害益蟲の區別を知ることが必要である●害蟲の慘害は恐るべきものである●捕蟲器の不完全なるは大に改良を要する●自己の學校の一等賞を得たるは大なる名譽である●展覽會を屢々開催して一般のものに縱覽せしめ、害蟲驅除の觀念を起さしめ、富强の基を作ること必用である●稻作の收穫少きを暴風雨の原因とするは間違なれば、展覽會を觀て其害蟲であることを一般に知ること必要である●從來益蟲と知らずして數々殺したることあり、展覽會を見て大に悟れり●昆蟲の種類の多數なるに驚いた●噴霧器の便利なる器械なるを感心した●自分等の先生と一同に熱心採集したるものに一等賞を得たるは非常に喜ぶ處なり●出品の昆蟲は未知のもの多數なりし●害益蟲標本は農業上及理學の參考にもなり有益のものと感ぜり。

尋常小學校の部　奇麗にても害蟲にしてキタなくとも益蟲なりし●益蟲を保護し害蟲を驅殺せば農家喜ぶならん●自分等の採集せし標本出品しありたり●學校にて教へられし蝶類の標本陳列してありし●浮塵子は稻を喰害するゆへ害蟲なり●展覽會場內にて蝶類尤も奇麗なりしも害蟲なり●稻其の他の草木を害する昆蟲を驅殺するのは好き事である●多數の標本中五色蝶尤も美麗で有つたなれども幼蟲の時作物を喰害するから善き蟲とは云へない●展覽會場內にて益蟲標本を見たときは今直ちに之れを生き返らしめ、害蟲標本は悉く之を破壞したき感想が起つた●將來害蟲を發見せば驅殺して植物の害を除くべし●蜻蜓は眼大きく体細長く、翅は四枚脚六本で有つた●自校の出品に授賞せられたのでうれしかりし●解剖して頭、胸、腹、脚等を排列してあるを見て大に悟れり●鳳蝶に變化せんとする蛹をたり●蜻蜓の幼蟲の成蟲に變化せんとする標本を見たり。

昆蟲展覽會を觀て感じたることを記す　岡崎高等小學校第一年生　三[illegible]田　稔

かれて待ちかれたる昆蟲展覽會も、もはや時來りて誓願寺にをいておこなわる。故に今日私共は此の學校より先生と共に昆蟲展覽會を見に行き、誠にきれーいなちよーが居ました。又害蟲の木等を害するところを見まして、是より取のぞこーと思ひました。又岡崎町立岡崎高等小學校は一等を二つ、二等をも二つとれましたから大そううれしく有りました。

同　岡崎高等小學校第四學年生　牧野八重子

十一月廿八日より誓願寺に於て昆蟲展覽會を開かれたれば、我學校女生徒一同、十二月一日午後教員に伴はれ觀覽せしに、先づ入口には第一分類、第二害益蟲、第三教育參考品等凡四百箱程陳列せらる。何れも精細にして丹精をこらしたる事あらわれ、何れも賞譽受け、諸々の學校も負けず劣らざるやうなし〻か、成績宜しく、我學生も皆夏の暑き盛り最中に所々の山野に行きて多くの珍らしき蟲を採集し、又遠足の道すがら之れを尋ね、多くの辛苦を積みて漸く成し遂げて昆蟲展覽會に出品せしものなり。何處の學校も同じく苦心せしならん。此等は皆教育上理科參考の爲めにて、人々の智識を增さんとて多くの人に博覽せさせし物ならんと思ふ。

同　岡崎高等小學校第一年生　森　よしゑ

昆蟲を見てまことにめづらしく感じて、益虫を見てよき虫と思ひ、次に害蟲を見て植物を害する蟲と思ひ、まことににくくありました

同　投尋常小學校第四學年生　神谷島市

私はせいがんじに昆蟲を見に行きました時に、がい蟲がめにあたりますとめちやくちやにくずいてやりたく思ひ、又ゑき蟲がをりますと、いますぐにこゝでいきらしてやりたいと存じました。或はちよーや、かれぶんぶ等は、木の葉やなの葉にとまつてたまごをうみつけ、それがいも蟲となつて葉をくいあらしますから、それらのがい蟲をみつけころすと、多くの人々がよろこびますが、ゑき

蟲は大そう、よいこさいたしますから、むだにころしてはなりませぬ。

同　青龍尋常小學校補習第一學年生　野村ふさ

蟲が多く有りましたから感じました、あゝ多くよくつかまつたこさだ、さんぼが多く有りました、色々のちよーが多く有りました、木が堀りこんでちよーが入れて有りました、ぎつちよが多くありました、けむしを見て感じました。

昆蟲展覽會の組織方法

昆蟲展覽會の主催者は農會、教育會若しくは是等團体の聯合を以て尤も便利にして且つ時宜に適したるものと考へる。出品者は農會、教育會等の團体及會員、諸階級の學校若しくは學生々徒即ち農學校は申に及ばず師範、中學、各小學校は勿論、高等女學校、商業學校、工業學校等も出品せしむる樣勸誘奬勵し、學生々徒一己人としても出品せしめたい。又一般農家は勿論、官吏、商工業家を論せず大に誘導する事も必要である。要するに有らゆる一般の人士より出品せしめたい。出品物は開催區域の内外を論せず收集せしめ、臺灣でも、北海道でも、亦英米諸國の產でも精々廣く網羅する事を奬勵するが斯業の發達且つ參考上有益である。出品物の種類は左の數類に分ちたる昆蟲類の標本なれ共、昆蟲と同綱一門なる蜘蛛類とか、多足類とか稱するものは參考品として或は本出品として出品せしむるも妨げないと思ふ今出品物の種類を左に揭げて參考に供せん。

（一）分類標本　（二）害益蟲標本　（三）教育用標本　（四）裝飾用標本　（五）害蟲驅除豫防又は益蟲の保護若しくは利用に關する器具器械　（六）飼育採集、標本製作、其他昆蟲研究上必要なる器具器械　（七）害蟲驅除豫防に關する藥劑　（八）昆蟲學上の研究に關する事項　（九）參考品

展覽會を開催するには、先づ第一に規則が必要である。故に茲に規則にて規定すべき肝要の事項丈けを列記して置かん。

第一、出品物の部類別即ち前記の各項目◎第二、出品物に關する制限例へば自己の製作又は發見意匠等の類◎第三、容器の寸法の規定◎第四、出品は一箱毎に番號を附し、分類標本の如きは各蟲に尙ほ番號を附すること◎第五、出品物の部類により一頭一箇或は一函毎に名稱解説等を附する事◎第六、授賞の制限例之ば一人にして數類の出品をなしたるときは同一類内にありては最優等品に授賞し部類を異にするときは賞品は與へざるも褒狀は授與する等の規定◎第七、昆蟲上に關し有効賞又は追賞等を爲す規定◎第八、出品目錄

（第一號書式）

昆蟲展覽會第何部出品目錄（分類標本）

函番號	蟲番號	蟲名	數量	採集場所	採集月日	摘要
一	一	せしろうんか	一	尾張國西春日井郡清洲稻田	八月十五日	
二	二	螟蟲幼蟲	一	同上	十月十三日	莖内に數多蝕入せるものを採收

（備考）本標本は昆蟲全般に亘り其の分類を示さんが爲め或は鱗翅目螟蟲蛾科に屬するもの丶研究に資せんが爲めなり等

右展覽會規則を遵守し出品候也

出品者　愛知縣何郡何高等學校代表者　何　之　誰　㊞

（第二號の書式）

昆蟲展覽會第何部出品目錄（害蟲驅除豫防又は益蟲保護若しくは利用に關する器具機械）

番號	品名	數量	代價	製作又は販賣地	製作又は考案者人名	目的使用法、效能等を記す
一	根蚜蟲驅除用石油乳劑灌注器	一	一圓二十錢	―	愛知縣農事試驗場	背部に脊負ひ石油乳劑を土中に灌注するの器なり

以上の外開會の目的、開催月日、會場の位置、出品物に對する保護、役員の職責、審査に對し異議ある場合、參觀人に關する件等は普通展覽會若しくは品評會等の規定と異なる事なし。

◎昆蟲界の花壇（其四）

在米國　名和梅吉

（九）蜂毒の免疫に就て　余は先に蜜蜂を利用して僂痲質斯を治療されし事を報じ置きしに、茲に又該蜂に關しそが刺傷を蒙ること屢々なる時は、自然刺傷より生ずる所の疼痛及び腫脹を感ずること輕減し終には殆んど其毒害を免疫すること恰も吾人の一惡病患たる天然痘に對し牛痘接種法を施行して該病を免疫するが如く、そが害毒を感ぜざるに到るとの事を聞知したれば今左に紹介せんに、そも此說の起原は米國農務省に於ける某科學者の屢々刺傷を蒙りし結果、漸次害毒を感ずることを輕減せしと、一二養蜂家の報告とに依りしもの丶如し。卽ち該學者は報じて曰く、最初自ら飼養の蜜蜂取扱中屢々刺傷を蒙り、或時は顏面、頸部、手足の差別なく刺傷されしことありしに、忽ち刺傷部は腫脹し劇痛を感ずるに到れり。然れども時日の經過と共に疼痛去り腫脹も減退して平癒せり。然るに其後蜂房移送の爲め取扱

ふに當り、前同様全躰の各部を刺傷されしも疼痛、腫脹共に以前よりも輕くして只一時の疼痛を感せしと、僅に腫脹せしに止まり直に平癒を見たり。而して最初の時は刺傷部平癒の後該部に刺傷痕と、そが周圍に微かなる赤色部を殘存せしかども、後には斯の如きこともなかりき。尚其後の刺傷屢々ありしかども、最早左程の疼痛を感ずることなく、加ふるに腫脹も殆んど發せざりしと、又某養蜂家よりも殆んど同様の報告ありしを以て見れば、或は牛痘接種法に依り吾人が天然痘を免疫さるゝと同様の關係を存するにはあらざるかと言ふにあり。是れ果して該蜂刺傷の度を重ぬる時は、斯の如く免疫の徴候を呈するものなるやは疑問に屬すれども、兎に角趣味ある觀察なりとす。記して本邦養蜂家諸士の顧慮を促さんとす。

(一〇)苹果蠹蟲蛾の損害額　苹果蠹蟲蛾は其洋名をコッドリング、モッスと稱し、苹果の害蟲中最も有名なる大害蟲とす、當時米國に於ける發生區域は殆んど全國に渉り、如何なる僻地と雖も苹果の栽培を見る所には必ず發生加害を蒙らざるはなしと謂へり。而して此種は只苹果のみならず梨、梅、桃及び櫻等の如き果實にも加害を與ふ由にて、該蟲發生の結果當米國中にて受くる損害額は、通常苹果收穫の二十五パーセントより甚しきは七十五パーセントの巨額に達する事は一般に唱導する處なる由。今ホッヂ氏の著書に掲記されし三州に於ける一年間の損害高を擧ぐればイリノイ洲にては二百三十七萬弗にしてネブラスカ洲は二百萬弗、ニューヨーク洲にては參百萬弗の割合となり居れり。故にカリフホルニア洲の如き苹果栽培の盛なる地を始め全洲に於ける栽培地の被害額を積算せば、實に驚くべき巨額の損害を此一小蟲の爲めに蒙りつゝあるかは豫想せらるべし。豈に寒心の到りならずや。

(一一)チンチバッグの損害額　チンチバッグとは椿象の一種にして本邦に產するサ、ガメムシに類似するものなり。躰長僅に一分内外の微小蟲なれども、常に玉蜀黍の如き禾本科植物に發生して加害甚だしきものとす。當米國に於て一年間に受くる損害額は貳千萬弗より少なからざることは、當國の昆蟲學者ハワード氏の見積價格なりと謂ふ。

調　査

蜂　　瞿存齋

蜂房處處日叢叢。誰惜爲甜費苦功。情豈不辭千萬衆。春風括索到秋風。

螢籠

行燈に遠く吊しけり　(子規)

◎對馬國產の昆蟲(一)

名和昆蟲研究所分布調査部

對馬國在嚴原の平田駒太郎氏は昆蟲に就き非常の熱心家なることは旣に讀者諸氏の知れる所なるが、同

氏は是迄同島産の昆蟲類を採集し屢々送附されしも、種々繁務の爲頓と之を開封するの時機を得ざりしが、是より漸次之を調査して本欄に收むることゝなしぬ。而して其送られたる蟲數は實に二百八十二種二千餘頭の多きに達せり。今之を科目に類別すれば左の如し。

●膜翅目　蜜蜂科三種十頭。胡蜂科一種三頭。蟻科一種三頭。鋸蜂科一種一頭●鞘翅目　斑蝥科一種十七頭。步行蟲科四十一種二百五十九頭。龍蝨科二種二頭。水龜蟲科二種三頭。埋葬蟲科三種九頭。隱翅蟲科四種六頭。瓢蟲科四種七十六頭。僞紅葉蟲科一種六頭。食菌蟲科一種一頭。扁米蟲科一種三頭。圓形蟲科三種十一頭。吉丁蟲科五種百四十八頭。叩頭蟲科九種三十四頭。螢科六種百數十頭擬蟻科一種五頭。鍬形蟲科二種二十一頭。金龜子科二十種二百頭。天牛科三十九種百四十頭。葉蟲科十七種三百八十六頭。豆象蟲科一種三頭。擬步行蟲科六種二十七頭。朽木蟲科七種四十頭。擬天牛科一種一頭。地膽科四種十頭。青象蟲科一種一頭。象鼻蟲科六種十八頭●雙翅目　毛蠅科一種一頭。水虻科一種一頭。僞蜂蠅科一種一頭●鱗翅目　鳳蝶科三種十八頭。粉蝶科二種三頭。蛺蝶科八種十五頭環紋蝶科二種三頭。天狗蝶科一種一頭。小灰蝶科三種十一頭。挵蝶科一種三頭●有吻目　黑臭椿象科三種七頭。黑椿象科四種四十二頭。椿象科六種十五頭。有緣椿象科二種五頭。凸眼椿象科六種七十一頭。食蟲椿象科八種七十四頭。蟬科五種五十六頭。浮子塵科三種九頭●直翅目　蟋蟀科六種三十四頭螽蟖科四種十七頭。稻螽科八種三十二頭。蟷螂科二種四頭。蜚蠊科二種六十一頭。螻蛄科二種十五頭●積翅蟲科一種二頭。豆娘科一種一頭。蜉蝣科一種二頭●彈尾目　衣魚科一種一頭。

鱗翅目　右に記載せる如く鱗翅目に屬するものは蝶類のみにして、而して是には內地產のものと異なる處なければ茲に詳說するの要なきにより只其名稱及頭數のみを左に記載することゝなしぬ

アゲハノテフ二頭、クロアゲハテフ五頭、アヲスヂアゲハテフ十頭、キテフ一頭、モンキテフ二頭、オホハヤバテフ一頭、ルリタテハテフ一頭、アカタテハテフ三頭、ヘウモンテフ一頭、ウラギンヘウモンテフ二頭、メスグロヘウモンテフ一頭、ツマグロヘウモンテフ一頭、ミスヂテフ五頭、ウスイロコジヤノメテフ一頭、ヒメジヤノメテフ二頭、テングテフ一頭、ベニシヾミテフ八頭、ヤマトシジミテフ二頭、アカシジミテフ一頭、イチモジセセリテフ三頭、

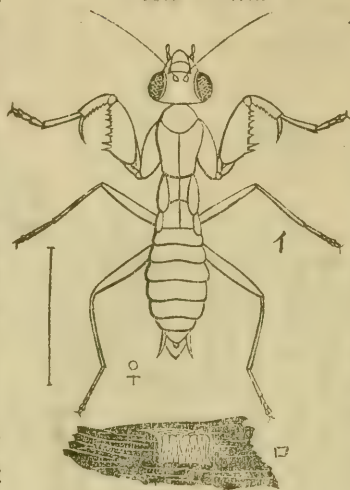
◎靜岡縣榛原郡產の蟷螂二種

靜岡縣志太郡豐田村　增井林太郎

標本第一號、ヒナカマキリ　此種は明治三十五年十月三日靜岡縣榛原郡勝間田村字三栗（山間）の人家

の土間にありし鍬の柄に止まり居る處を採集せり。躰長五分五厘の微小種にして、全躰褐色に少しく綠色を帶び、黑褐色の細斑を有す。頭部は比較的大にして、前胸部及び腹部は短大、前肢は又他種に比し克く發達し、翅は前後兩翅共非常に退化し僅か一片の痕跡を止むるに過ぎず。予は採集の日より毎日家蠅二三頭を與へ之を飼育せしに、躰軀の微小なるに似ず擧動頗る活潑なり、今其一例を擧げんに、家蠅を捕獲するに勢勇しく、先づ前脚を擧して一跳躍を試むれば、家蠅の驚駭燥き立つ間もなく一齊之を捕ふ。併し哀れなことには、軀幹の小なる爲め捕へたる儘轉落再々なるも、毫も意とせず飽食する樣は實に壯快なりき。予は初めヒメカマキリの蛹時代のものなりと思ひ、常に羽化して成蟲に到らんことを望み、十一月廿二日迄は異狀なく經過せしが、予は貴所開催の第十四回全國害蟲驅除講習會に入會するの都合となりしかば、同月二十三日未明に飼育方を家人に委囑して家を辭し、閉會後即ち十二月九日歸宅直ちに飼育箱を撿めたるに、料らずも既に絶命してありたりき。因て家人に其理由を糺したるに、十二月五日の夜死したりと。予は曾て其箱内に枯枝を入置きしに、其枝に三個所、箱の隅に二個所、都合五個所に產卵してありき。卵塊は縱二分、橫一分强の灰白色にして、何れも一端細く尖りて異樣をなす。予は交接を經さるものなれば孵化力なしと信じ、之を顧みざりしに、後に至りて見たるに數頭孵化して斃死し居りしかば實に遺憾に堪へざりき。

ヒナカマキリの圖

(イ)は成蟲(ロ)は樹皮に附着せる卵塊

編者云、此種の卵塊は曾て藤枝碩三氏が和歌山縣にて採集し當所へ寄贈されしことありしが、其形狀ヒメカマキリのそれよりも尙ほ小なれば、其成蟲も更に小ならんと信じ居りしも、如何なるものなりや之を知るに由なかりしが、増井氏の送附により初めて之れを知るを得たりき。本年一月當所長が愛知縣渥美郡田原町へ出張の際も此卵塊を採集して持ち歸られしかば、本年は之を飼育して詳細を報せんことを期す。尙此種は姬螳螂よりも一層小なるにつきヒナカマキリの新稱を附せり。

標本第二號、コカマキリ　此種は前種採集の翌日即ち同年十月四日同郡同村より同郡坂部村に至る山麓に於て採集せり。

たわれ男の袂に包む螢哉　（子規）

通信

蝶　呂原

粉翅蛾眉玉作鬟。尋芳觸之足歡娛。曾從莊叟勞魂夢。慣逐滕王入畫圖。寒戀晩香栖菊徑。暖迷春色醉花衢。多情好是東京會。幾共蜂媒伴素妹。

◎螟蟲第二化蛾點火誘殺成蹟表

三重縣阿山郡　西岡嘉十郎

左表は昨年本郡昆蟲研究擔當人協議會の決議に依り予が施行せし螟蟲第二化蛾點火誘殺の成蹟なり。今函底を探りて靜書し貴誌に投ず、若し掲載の榮を得て讀者諸君の參考の一助とならば幸甚之れに過ぎず。

月日	天候	誘殺蛾數	同上胎卵蛾數	摘要
八月十四日	晴	—	—	一頭も投入せず被害莖を調査せしに幼蟲多く蛹は稀なり横這五頭投入せり
同月十五日	同	—	—	横這數頭と金龜子二頭及び雜蟲夥多投入せり
同月十六日	同	—	—	横這五頭と金龜子一頭投入せり
同月十七日	同	三頭	三頭	被害莖を調査せしに十中八九迄は蛹化せり
同月十八日	曇	十六頭	十一頭	雜蟲夥しく入れり暑熱甚しかりき
同月十九日	晴	九頭	四頭	雜蛾特に夥しく撰別に苦めり
同月二十日	同	—	—	午后八時消火せしならん
同月廿一日	同	七頭	四頭	雜蛾十四頭とキリウジカゞンボ十一頭投入せり殊に冷氣なりき
同月廿二日	同	八頭	二頭	雜蛾十三頭と金龜子二頭、キリウジカゞンボ數頭投入せり被害莖を調査せしに大概蛹化せり
同月廿三日	曇	十二頭	八頭	雜蛾、横這、キリウジカゞンボ各數頭宛入れり
同月廿四日	晴	十六頭	十頭	雜蛾少し
同月廿五日	同	十八頭	七頭	同
同月廿六日	同	九頭	三頭	風強く午后九時迄點火せず
同月廿七日	曇	十一頭	三頭	午后十一時五十分少雨ありたり
同月廿八日	晴	四頭	二頭	漸く減少せり、月夜なるが故ならん
同月廿九日	同	七頭	三頭	月夜なるを以て少し
同月三十日	曇	六頭	二頭	—
同月卅一日	同	二頭	—	—
九月一日	晴	四頭	一頭	雜蛾亦多し
九月二日	曇	六頭	二頭	—

備考　右表中天候は毎日午后八時の觀測に依る

◎秋田縣產の浮塵子

羽後國仙北郡大曲町　仁部富之助

昨明治三十六年、本縣下稻田に發生せる害蟲は一にして足らずと雖、就中浮塵子を以て第一となす。今

各地より報告に係る浮塵子發生田反別を郡分に示せば次表の如し。

由利郡　二、八四六町一八〇　北秋田郡　九八七町〇〇〇　鹿角郡　七二九町〇〇〇
山本郡　七二五、四〇〇　仙北郡　七〇六、六〇〇　計　五、九八四、一八〇

右は秋田縣内務部に報告に係りたるものなれば、その他に於て多少害を被りたるは勿論なり。豈に輕少なりと謂はんや。然り而して試にその種類の何たるを農家に質せ、果して之れが名稱を知り、之れが習性を明かにするもの幾人かある。その此れを識らずして、何の驅除、何の豫防か之れをよくせんや。聞くならく某所にホソミドリウンカの雌蟲を、彼の他府縣にて最も慘害を極むる稜黑浮塵子と誤認し周章狼狽せるが如き事實あるにあらずや。蓋しその種類その習性を解せざるの致す所にして、斯ては害蟲の驅除豫防も遂に不可能の事たるを免れざるのみ。予輩の淺學短才なる、素よりその詳細を盡し能はずと雖、さりとて今は躊躇すべきの時にあらざるを信し、識れる種類と習性の一般を記し、普く示敎を識者に仰く所以なり。

一、種類（予の採集保存の分）

本縣下に産する浮塵子の種類幾何なりや、今は之れを知るに由なきも、予が採集保存の分を掲ぐれば次の十二種にして、彼の稜黑浮塵子の如き、稻妻浮塵子の如きは未だ發見し能はずと雖、近き將來に於ては必ずその發生を見るに至るべきは信して疑を存せざる所なり。因に曰ふツマグロヨコバヒは縣内二三個所に問合せたるも、全く發見せざるとなり。

（一）トビイロウンカ(Delphax Oryze, Mats.)　（二）セシロウンカ(D. Furcifer, Horv.)　（三）ホソミドリウンカ(Oxyeranas Procerus, Mats.)　（四）ミドリマルヨコバヒ(Pachyopsis Mundus, Uhr.)　（五）オホヨコバヒ(Tettigonia Viridis, Linnxas.)　（六）ミツテンオホヨコバヒ(T. Guttigera, Uhr.)　（七）マダラヨコビヒ(Peltocephalus. Orgzae, Mats.)　（八）ヨツテンヨコバヒ(Cicadula. Masatonis, Mats.)　（九）フタテンヨコバヒ(C. Fascifrons, Stal.)　（一〇）ヨツモンヨコバヒ(Zygina Limbata, Mats.)　（一一）ミドリサンカクヨコバヒ(Delcocephalus, Mats.)　（一二）?

以上の名稱は農事試驗、第五回内國勸業博覽會出品目錄及び同特別報告第十號に依りたるものにして又同場技師小貫氏に命名を乞ひたる分あり。

二、稻禾に對する被害の有無輕重

浮塵子なればとて皆同一の害あるものにあらず、被害植物に差異あり、發生の數に多少あり、氣候の適否もあるべきを以て、種類の異なると同時に被害の輕重を存すること當然なり。然り而して今稻作に對する前記十二種の被害の狀況を畧述すれば次の如し。

（一）トビイロウンカ、發生多きを見るに至らば被害も亦大なるべきも、通常多數の發生を見ず。（二）セジロウンカ、本縣下に於ける稻作被害の浮塵子にして加害の大なること本種の右に出ずるものなかるべく、發生又極めて盛かんにして、昨年諸所に發生したるものは殆んど此種にあらざるなし。（三）ホソミドリウンカ、常に主としてガマに發生被害すと雖、稻田の被害は問ふに不及ず。（四）ミドリマルヨコバヒ、發生極めて稀れにして多くは山地に於て捕獲す。（五）オホヨコバヒ、發生多きに至らば被害又大なるべく、常に幼蟲の發生せるものを見るもその割合に成蟲多からず。（六）ミツテンヨコバヒ稻には害なかるべく、常に笹葉に群集す。（七）マダラヨコバヒ、稀れに發生を見る。（八）ヨツテンヨコバヒ、セジロウンカに亞ぎ稻禾及び畦畔に普通なる種類にして、早春より晩秋まで絕えず成蟲を認め得べく、害又可なり大なり。（九）フタテンヨコバヒ、前同斷。（一〇）ヨツモンヨコバヒ、頗る發生の多き種類にして、主として畦畔雜草或は牧草等に群集し、稻禾には左程の害を認めず、早春より晩秋に涉り成蟲飛翔す。（一一）ミトリサンカクヨコバヒ、主として原野雜草に採集し得べく、稻田には害なかるべし。（一二）？、菊莖より採集せり。

以上の如くにして稻田に害を與ふる種類はセジロウンカを以て第一とし、ヨツテン、フタテン又普通なりと雖セジロウンカの比にあらず。以上の三種は獨り稻禾をのみ加害するにあらずして、秋季麥圃に上り來り盛んに加害し、又オホヨコバヒの發生多數なるに於ては又た恐るべき種類なれども幸ひ之れなきなり。さりとて油斷大敵なり。ヨツモンヨコバヒは消雪早々より畦畔雜草の間を飛翔す。抑も種類の異なると共に被害に輕重なること前陳の如し、之れが驅除豫防の業も亦夫々之れに從はさるに於ては、勞して効なきの愚を學ぶとなしとせんや、害蟲の研究誰か貴重ならずとせん、豈又緊要ならずとするものぞ。

◎蟻塔に就て

島根縣八束郡持田村　三代作次郎

昨年十月中旬松江市石橋千手院主に宛て、帝國軍艦橋立艦掌水雷長鳥羽金次郎氏の寄贈せられたる濠洲蟻塔に就ては、當時市下三新聞に其由を揭載せりき。余は直に出松該寺に詣り之を縱覽したる後、斯學者研究の好材料にもと、院主に懇請せしに幸に其數片を分與せられしを以て、其一半を貴所に寄贈する

ことゝなしたり。同志諸賢宜しく其意を諒せらるべし。之れ余は鳥羽氏の職掌に省み深く是の擧を多とする所にして、又同時に地方斯道發展の歴史に吾輩斯學に志すものゝ記臆すべき要件たるを以てなり。而して今や日露開戰となり滿洲、西比利亞地方に續々入込まんとするに際し、他日凱旋の時來らば是等昆蟲に關するものを紀念として持歸らるゝもの無きにしもあらざれば、今左に鳥羽氏の書翰の一節を附記して報することゝなしぬ。

前略豫て濠洲の熱帶地には蟻の塔なるもの有之旨聞及び居候處、今回航海中バタビヤより西濠洲のペルスへ向け航行中三月廿六日颶風に出遭ひ種々困難に遭遇したるため、西濠洲のオンスローと云ふ處に寄港したる時實見し大に感したるに付、其塔の一部を破壞し持歸りたれば、此度小包郵便を以て御送附申上候間、到着の上は一塊の土と見ずして貴院へ參詣の諸人に縱覽せしめられ候得者幸甚の至に候

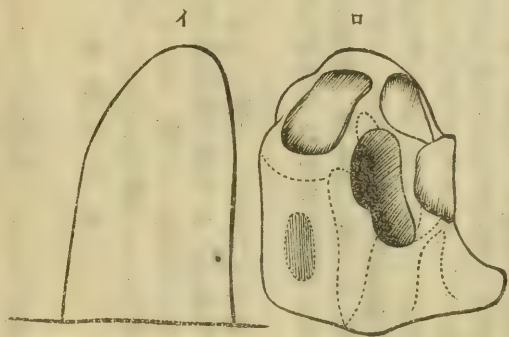
一、全体此の蟻の塔即ち巢は非常に堅牢のものにして容易に破壞する能はず、小生はタガチと木槌を以て漸く破壞して持ち歸りたるものに有之候、併し今回御送附致候分は濕氣の爲め破壞し易く候間箱を御開きの節御注意可被下候、尚乾きたる天氣の時乾燥相成度候。

一、此の塔の外面は赤き方にて、黑色を帶び凹みある方は內方即ち巢なり、此の內に草の切れを澤山に蟻が貯へ居候に付其儘御送附申上候。蟻の塔の大さは大なるものは高さ丈餘のものも有之候。

一、橋立艦がオンスローに入港したるは三十六年四月五日にして、同十一日出港仕り候。其上陸したる位置は東經百十四度五十七分、南緯二十一度四十八分なり。

蟻の塔を見て感じたる左に

（一）企圖、彼の蟻は蟲類の中にて最小の蟲なるに、此の如き大なる企圖をなす是なり。（二）團結力、彼は能く幾十萬となく團結して此の如き大事業をなす是なり。（三）耐忍力、彼は幾多の困難に遭遇するも屈せす、能く耐忍力に富み大事業をなす是なり。（四）勤勉貯蓄、彼は勤勉にして平素食品の貯蓄をなす是なり。（五）隊伍規則正し、彼が歩行するときは必ず規則正しく隊伍をなす、又決して他の蟻が其道を橫斷するが如きこ

蟻塔の圖
（イ）は鳥羽氏の摹寫せられたる全形の圖（ロ）は三代氏の當所へ送られたる一部の圖

となし。以上五項は比較的實に人類の內にも及ばざるもの多し、青年子弟は宜しく蟻蟲に耻ざる樣勉めざる可らず云々。

◎青森縣下に於ける蟲送りに就て

青森縣 新渡戸稻雄

曩きに津輕地方に於ける一の蟲送りの法を報じたり。其際上北郡地方の蟲送りの方法も亦報ずることを約せり。然るに其期を得ず遷延せしが、近頃稍閑暇を得たれば是が約を果さんとす。而して又其主意の異なることをも報じたり。故に今自他の本旨を云はんに、彼れは一村の團欒所謂情交を溫めんとするにあるもの丶如く、此れは專ら蟲を自村より他村に追ひやるを以て目的とするもの丶如し。今是れが仕方を次ぎに記さん。

時は舊五月田植を終り農家は欣喜屋に溢るゝの季、一日小康あり、此日農家は田作の爲め馬を激役したるを以て寫皿（方言血下げ）を行ひ馬の疲勞を癒するの日、早朝村童相集まり（大低一家より小供一人）手々に半紙二枚を縱に續ぎ次に「奉四百四病之惡蟲拂之所」と書し、尙蟲圖を書きて笹の附着しある竹に結び付け、又別に半紙一枚のものにあらゆる害蟲の種類を書きたるものを前の如く竹に結び付け、之を左右兩手に持ちて「ナーニムシア。ボヤボヤ。トンカラムシノ。トンカラデ。ツンブケダーラ。マイラセロ。ヤーヤーヤー」と全童聲を揃へて謠ひつゝ、坂又坂、川又田畑の嫌なく、持てる竹にて稻、畑作雜草、垣根、土石の嫌なく拂ひ廻りて辻ある所に出づれば、一同玆に止まりて持てる竹にて地上を乱打し（是れ蟲を殺すの意なりとか）終れば又々「ナーニムシア。ボヤボヤ。トンカラムシノ。トンカラデ。ツンブケダーラ。マイラセロ」と緩歩しつゝ唱へ、ヤーヤーヤーと走るなり。是れが歌をば繰りかへし繰りかへし、緩歩或は疾走し、或は土、或は作物を打ち廻り、隣村の境まで來れば、全童此所に集りて蛄蟖や螟蛉の害蟲を三種各三頭宛採集し、一の穴を堀りて之に入れ、土にて埋めて盛とをなへ、各携へ來れる竹を挿し、內の二本を取て一をば弓となし、他を矢に擬して他村に於ける衆人の目をひき易き木か森に鏃を向けて立つるなり。是れ此所まで追ひ詰めし蟲をば鏃の指す方へ參らするとの意なりとぞ。是れにて蟲送りの目的を達したものなりと、村友の語るまゝを記して同好の士に告ぐ。

◎昆蟲に關する葉書通信 （四十報）

（二三〇）ゴキブリはゲンゴロウの毒（靜岡縣、神村直三郎） 昨三十六年十一月以來ゲンゴロウを三つの器に分けて飼養し置きけるに、其器の硝子瓶にて狹きにも似ず機嫌よく游泳して浮沈し、上下して意

を得たるが如し。瓶底には小石を置き又木の枝を建てゝやるに、これに取りつきて雌雄相追ふなど自然に適へり。一月中までは餘り食を取らざりしに、二月以來暖を催すにつれて食を貪ること夥し、其食はズキムシ、尺トリムシ、ヨトウムシ、ハナアブ、蠅類、ミノムシの類を與へ置くに喜んで食ふ。三月初め室内にて捕へたるゴキブリの幼蟲二頭を一器に入れて與へしに直ちに食へり。さて翌朝見るに此器のもの悉く斃死せり。他は何事もなし。敢て報ず。

(一三二)枝尺蠖驅除と小學兒童(徳島縣名東郡八萬村大字沖濱、岸本瀧次郎)　當名東郡に於ては本年三月上旬桑樹に枝尺蠖の現出せるを認め、以來郡役所に報告せるものあり、之により郡役所よりは訓令を發し小學兒童をして之が驅除法を行はしめしに、何れも熱心に之が任に當り、本校の如き目下試驗後の休日は全然高等科生徒及職員毎日驅除に努め居れり。之に依り一般農民も此奬勵を受けて同法施行に留意するに到れる摸樣あり。時しも日露交戰の際勸業に熱心なる郡長は尙本年の米作につきても其害蟲驅除に勤めしめ、以て蟲害の爲め減收獲等の遺憾なからしむべく期し居れり

(一三三)螟蟲の誘蛾掬殺法に就て(岐阜縣惠那郡串原村、三宅幸三)　螟蟲驅除に就て予は數年來彼の誘蛾燈と捕蟲網の兩者を併用して、所謂誘蛾掬殺法とでも謂ふべきことを行ひ頗る好蹟を擧げたり。开は苗代當時に於て晤夜に及べば右手に捕蟲網(咽喉付圓形)を携へ、左手に松明又は角燈等を點じて苗代附近又は苗代中に入り彼方此方と緩歩しつゝ該蟲の所在を探り、火光を慕ひ集まり來る所の蛾類を掬ひ又は苗葉を輕く拂ひて是れを捕ふるなり。此の法は殊に近來予が近傍にて實驗を見たれば、昨年各地指導中到る所是れが實驗を乞ひ、百振百獲優に採卵法に比儔すべき良法たるを認めたり。今正鵠を失するの感なきに非らずも該法の效果を證する爲、昨年度各法につき一時間宛實行せし成蹟を表示せば如左。

方法別	實行の時日	螟蛾捕殺數 內藏卵せしもの	雜蟲	實行の時日	螟蛾捕殺數 內藏卵せしもの	雜蟲
普通誘蛾燈	六月十九日午後九時より十時迄	三十七頭 四頭	二十七頭	六月廿四日午後十時より十一時迄	十六頭 三頭	廿一頭
誘蛾掬殺	同上	百廿八頭 三十七頭	百五十七頭	同上	百七十三頭 四十頭	百五十二頭
捕蟲網使用	六月十八日午前十一時より十二時迄	三十二頭 七頭	多數	六月廿五日午前九時より十時迄	二十六頭 七頭	多數
採卵法實行	同日午後一時より同二時迄	螟蟲卵塊 七十二個	—	同日午後二時より三時迄	螟蟲卵塊 百七個	—

蜉蝣之羽。衣裳楚楚。心之憂矣。於我歸處。蜉蝣之翼。采采衣服。心之憂矣。於我歸息。蜉蝣掘閱。麻衣如雪。心之憂矣。於我歸說。
（詩經）

墓原の
榴に光る
螢哉
（子規）

●昆蟲標本陳列舘案內（其三）　（り）部に移れば雌雄淘汰、自然淘汰、益蟲標本並に其他の標本所狹きまでに陳列せられたり●昆蟲の多くは雄蟲常に多數を占め、雌蟲の甚少なきは事實の證明する處なり。左れば雄蟲が各自配者を得んとするに當り競爭の起るは必然の勢にして、其結果競爭者の形態若くは其他に變化の起りたるもの之れを雌雄淘汰といふ。最初の一函（縱二尺五寸五分橫一尺五寸五分大）は即ち雌雄淘汰標本にして、雄蟲の發音器の發達したるもの（ニイニイゼミ、スヾムシ其他五種）、競爭の結果雄蟲の上顎に變化の起りたるもの（クハガタムシ、ノコギリムシ等）、雄蟲の頭胸部に突起の生じたるもの（カブトムシ其他數種）、雄蟲の翅色に變化の起りたるもの（メスグロヘウモンテフ、カハイトトンバウ其他七種）雄蟲の体より香氣を放つもの（ジヤカウアゲハ其他四種）、雄蟲の觸角に變化の起りたるもの（ヒゲコガ子、ヒゲコメツキムシ其他六種）等を以て雌雄淘汰により如何に變化の起りたるやを示したるものなり●昆蟲の形態其他に變化の起りたるは啻に雌雄の關係のみに止まらず、昆蟲類には幾多の敵者ありて弱肉強食の活劇は日夜に行はれつゝあり、之れを生存競爭といふ。此の競爭場裡に立ちて能く安全を圖らんため形態、色彩等に變化の起りたるもの之れを自然淘汰といふ。同部の第二函はこの自然淘汰の有樣を示したるものにして、大石虻シリナガアブ、ノラアブ等の空中を飛揚する宛然オホマルバチ、アシナガバチ、ヂバチ等の飛翔するに異らざる、ユリノハナスヒ、コオヒムシ等の水中に潜むや恰も木葉若くは木片の水底に沈みたるに擬ぎる丶、シロハンメウ、カハラバツタ等の河原に止まるや殆んど砂礫若くは砂土と見別る能はざる、松毛蛾の松幹に止まるや其翅斑恰も樹幹の模樣に擬する、キノカハガの翅色苔に酷似する、其他數種の昆蟲が外界の物体に似て容易に識別する能はざる自然の巧妙を示せり●次の一箱は益蟲標本にして鞘翅目、有吻目、膜翅目、双翅目、脉翅目、直翅目、擬脈翅目等に屬するもの、即ちヤドリバチ類、瓢蟲類、サシガメ類、カマキリ類、ウスバカゲロフ類、トンバウ類等普通なるもの六十五種を集めたるものなり●次の十七箱は第五回內國勸業博覽會へ岐阜縣昆蟲學會

より出品したるものにして、其採集方を縣下各小學校に依賴したるものなれば之れが蟲類は悉く縣下小學校兒童の手によりて採集せられ、之れに一々校名、學年別、採集者氏名、採集月日、採集地名及場所等を記せる小札を附せり。其數二萬餘頭に上れり。今此十七函は其内の一部を分類して收容せしものにして、鞘翅類二百三十八種、鱗翅類百九十種、脈翅類二十七種、直翅類六十三種、擬脉翅類二十三種、膜翅類八十種、双翅類五十五種、有吻類六十三種、計七百三十七種なり。

◉聖博視察員の囑托　當所助手在米國名和梅吉氏に對し今回川路岐阜縣農會長より聖路易萬國博覽會農事視察員を、同會岐阜縣出品協會より狀況報告を、何れも三月廿二日附を以て囑托せられたり。

◉害蟲驅防勵行賞盃と被害坪刈調査表　千葉縣長生郡鶴枝村立木區農會にては、害蟲驅除豫防勵行法を設け、其勵行者に對し害蟲模樣付紀念賞盃（磁器製）を贈與したりとて、其見本二個幷に同郡害蟲被害坪刈調査表を同村高橋徽一氏より贈られたれば、參考の爲左に該表を掲げん

害蟲被害坪刈調査表

調査地	稲種類	施肥量	螟蟲發生被害多キモノ 籾收量（石）	同上重量（貫）	粃量（石）	生稈量（貫）	被害歩合（割）	被害籾減收量（石）	螟蟲發生被害少ナキモノ 籾收量（石）	同上重量（貫）	粃量（石）	生稈量（貫）	被害歩合（割）	被害籾減收量（石）
土睦村北山田 字富士ノ下	中稲	酒粕十貫 堆肥六十貫	三.九〇〇	九三.六〇〇	一.五〇〇	三六〇.〇〇〇	二.三五	一.二〇〇	四.九五〇	九六.六〇〇	〇.七五〇	五八八.〇〇〇	〇、二九	〇.一四七
關村關 字市場後	同	干鰮八貫	四.八〇〇	一〇五.〇〇〇	〇.六〇〇	四八六.〇〇〇	一.三五	〇.七五〇	五.四〇〇	一二〇.〇〇〇	〇.六〇〇	五四〇.〇〇〇	〇、二七	〇.一四九
帆丘町本納 字宮ノ下	同 中丹	堆肥三百貫 大豆四斗	四.二〇〇	一〇八.〇〇〇	〇.六〇〇	二七三.〇〇〇	一.二五	〇.六〇〇	四.六五〇	一二〇.〇〇〇	〇.四五〇	三六〇.〇〇〇	〇、三一	〇.一四八
西村佐坪 字原	晩稲 撰出	乾草三百貫 干鰮十貫	三.六〇〇	九四.五〇〇	一.二〇〇	五七三.〇〇〇	二.七九	一.三五〇	四.八〇〇	一三八.〇〇〇	〇.九〇〇	六七五.〇〇〇	〇、三〇	〇.一四八
水上村 大津倉	晩稲 神力	酒粕六十貫 生草百八十貫	四.二〇〇	一一三.四〇〇	一.三五〇	四六五.〇〇〇	一.七五	〇.九〇〇	四.九五〇	一四〇.四〇〇	一.〇五〇	五七六.〇〇〇	〇、二九	〇.一四七
豐榮村氷滿 字富永	同 同	大豆一斗二升 堆肥二百五十貫	三.三九〇	一〇五.〇〇〇	〇.九六〇	四五六.〇〇〇	二.七一	一.二六〇	四.五〇〇	一三〇.五〇〇	〇.五四〇	四五〇.〇〇〇	〇、三三	〇.一四八
鶴枝村立木 字上ノ台	同 同	大豆粕五斗 堆肥百八十貫	四.一一〇	一〇六.二〇〇	〇.六九〇	四九五.〇〇〇	二.三五	一.一一〇	五.〇七〇	一三三.二〇〇	〇.八四〇	五五二.〇〇〇	〇、二八	〇.一四六

本表は總べて一反歩に換算せり●被害の多きものは一反歩減收量一石三斗五升に達し其少なきもの一斗四升六合を見るに至り最下低の被害歩合を玄米八升とし計算するときは本郡に於て六千九百八十二石四斗を減す

●農事試驗場昆蟲部の處務規程　農事試驗場事務の變更により昆蟲、病理は全く九州支場の專務に移されたることは既に本誌前々號に於て報せし處なるが、去月二十四日の官報を以て定められたる處務規程中昆蟲部の事務は左の如し。

一、害蟲及有害動物の驅除豫防及益蟲の應用に關する事項　二、驅除用藥品、機械の研究及其鑑定に關する事項　三、害蟲及益蟲の種類、發生、經過竝其の地理上分布に關する事項

●昆蟲揭示場記事　前號報告後に於ける當揭示場の重なるものは、繼續的揭示物として昆蟲の變態てふ題の下にカヒコ、エダシヤクトリ、ウメケムシ、エンドノキリムシの四種に付き卵、幼蟲、蛹、成蟲の經過標本を示し、次の說明を加はふ。凡べて昆蟲は此の標本の如く成蟲が卵を産み、孵化して幼蟲となり、老熟して蛹となり、遂に成蟲となる。農家に尤も害を與ふるは多くは幼蟲時代にして、蟲が俄かに減つたと思ふは一時態を變して目に觸れぬので年中、卵、幼蟲、蛹、成蟲の何れかにて生存し居るものである。次に同じく昆蟲の變態てふ題の下に、ウメケムシとケラとの經過標本を示し、次の說明を加ふ。ウメケムシの如く卵から成蟲になるまでに明かに四期の變態を遂ぐるものを完全變態といひ、ケラの如く卵から成蟲になる迄に蛹期の明かならざるものを不完全變態といふ。尙膜翅類の代表者としてアカバチ、鱗翅類の代表者としてベニシジミテフ、双翅類の代表者としてハナアブ、甲翅類にオホテンタウムシ、羅翅類にシリアゲムシの標本を示し、膜、鱗、双、甲の四類と羅翅類の一部分は完全變態をなすこと及直翅類のハチナガイナゴ、半翅類のアヅキガメムシ、羅翅類のハラビロトンバウを示し、半、直の二類と羅翅類の一部は不完全變態をなすことを示せり。次に昆蟲の軀體としてトノサマバツタ及ゴキブリの解体標本を示し、次の說明を加ふ。昆蟲の軀體は此の標本の如く頭部、胸部、腹部の三部より成り、頭部には眼、觸角、口具等を有し、胸部は前胸、中胸、後胸の三部に分れ三對の脚と二對の翅を有す。翅は一双罕れには之れを欠くものもあり。次に昆蟲の口具と題しトンバウの口具の解剖、アブの口具の解剖標本、アブラゼミの口具を示し、次の說明を加ふ。此のトンバウの口の如く(一)上唇(二)下唇(三)上顎(四)下顎より成り物を嚙むに適するを咀嚼口といひ、アブ、セミの如く多くに分たれども一の吻鞘に收められ液汁を吸ふに適する口吻となるものを吸收口といふ。而してアカバチ、オホテンタウムシ、ハチナガイナゴ、ハラビロトンバウを示し、膜、甲、直、羅の四類は咀嚼口を有し、ヒメアカタテハテフ、アヅキガメムシ、ハナアブを示し、鱗、双、半の三類は吸收口を有するものなることを說けり●臨時的

掲示物には目下（三月十二日より一週間）花に集まり花粉媒助をなすものを採集せし昆蟲類として、アカタテハテフ、ハヘの一種、クロヒラタアブ、ハナアブ、クロバヘ、ヒラタアブ、ノラアブモドキ、アカケバヘ、ヒメヒラタアブ（水仙、梅等の花を添付す）。次に目下（三月十九日）採集せし蝶類（一）ルリタテハテフ（二）ヒオドシテフ（三）テングテフ（四）アカタテハテフ（五）キテフ（六）モンシロテフ（七）モンキテフ（八）コツバメテフを示し一、二、三、四、五は越年せしもの、六、七、八は本年羽化せしものたるを説明す。次にイラムシの繭及成蟲を示し、次の説明を加ふ。（一）は害蟲イラムシの繭であります。此の中から（二）の如き蛾が出ます。是れの幼蟲は甚しく柿梨等の葉を害しますから今の內にこの繭を採りて殺さねばなりませぬ●特別掲示物としては長野菊次郎氏寄贈の蝶形襟留七個、蜻蛉形襟留一個及アシナガバチ二頭幷其巢の摸型を示せり。

◉三河國某君の寄附金に就て　愛知縣三河國某君は斯學に於ける頗る熱心にして、當所に對しても亦是迄陰に陽に庇護せられたること尠なからざりしが、今回當昆蟲研究所擴張の計畫を報ずるや逸早くも賛同の意を表せられ、本誌廣告欄にもある如く金貳百圓を寄贈せられしも、同君は特に匿名にせよと申込まれたるは實に感ずべき事にして、又當所は同君に對し謝するの辞を知らざるなり。然れども或時期を經過せば芳名を掲げて其厚意を謝するの期あるべきを信じ、今は只金員領收の証として其額を記するに止むるのみ。

◉當所の移轉と郵便物　當所移轉の事は既報の如くなるが、愈々本月一日より當市公園內にて事務を取扱ふ事になりたれば、今後當所宛郵便物は岐阜市公園內名和昆蟲研究所とせられたし。

◉修業証書と証明書の授與　昨年四月より當所にて開催の岐阜縣長期害蟲驅除講習は去三月を以て終了せしにつき、同講習生可兒郡渡邊樵四平、吉城郡中井藤助、安八郡大橋由太郎、揖斐郡小川謙司、稲葉郡近藤伊祐の五氏に對し、同月廿五日川路岐阜縣知事より修業証書を授與せられ、又昨年八月入所せし特別研究生岐阜縣揖斐郡所嘉吉氏は、農用昆蟲學の學理及實地に就きて研究し去月廿五日退所されしかば、當所長より証明書を授與せられたり。

◉大野郡昆蟲學講習會の概況　飛驒國大野郡主催の同會は去三月二十二日より一週間高山町に開會せられ講師として當所々長臨席の筈なりしが差支の為森助手出張せり。該講習員は教育者最も大

部を占め、實業者、警察官吏等を合せ修業証書を授與せしものは百四名にして、皆非常の熱心を以て聽講せられたる由なれば、本年は定めて飛州の害蟲類も驚くなるべし。

◉羽島郡姫象鼻蟲驅除成蹟品評會規程準則　羽島郡各町村にては此程桑樹の害蟲姫象鼻蟲驅除成蹟品評會を開きたれば當名和所長は去月二十九日同郡に出張して親しく其實況を視察せられたるに、頗る好成蹟を得、該蟲驅除としては殆んど申分なかりしと。同郡内の桑園反別は下羽栗村八町歩柳津村十七町歩、駒塚村十九町歩、竹鼻町八町歩、江吉良村八町歩、福壽村五町歩、小熊村九町にして主任郡書記小島浩氏之が審査長として非常に盡力せられたりといふ。今該品評會規程準則なるものを得たれば、參考の爲左に之を掲載せん。

何々主催桑樹害蟲姫象蟲驅除成蹟品評會規程準則

第一條　本會は姫象蟲の發生及發生の虞ありと認めて指定したる區域内に於て共同驅除豫防を行ひたる桑園に就き成績を審査品評するものとす◉第二條　區域内に於ける桑園にして一筆一畝歩以上のものは總て之を審査し、成蹟優等のものには等差に應して褒賞を授與す。其審査方法は審査員の定むるところに依る◉第三條　褒賞の授與は一人一個に限る◉第四條　本會に左の役員を置く。會長一人。審査員若干人。事務員若干人。右の外必要に應し總裁を戴き及審査長幷事務長を置くことを得。職員は部屬に從て事務を掌理す◉第五條　作主は審査に對し異議を申立つることを得す。

審査方法　審査すへき事項及附点の方法左の如し

一、枯れ枝及古枝の多少　ヒメソームシの潜伏せる枯れ枝幷に古枝及ヒメゾームシの潜伏し易き古枝の有無を調査し最高三十点を附す、但桑園として不完全なるものは審査員協議の上附点を減す。

二、剪定の適否　古枝等の切り跡傾斜にして能く成分を吸收するに足り而して幹枝に害を及ぼさゝる伐り方を最高とし五十点を附す、但桑園として不完全なるもの若くは前年伐採の形跡なきもの及欠き芽を存するものは審査員協議の上附点を減す。

三、作付反別の多少　一個の作主に對する作付反別の多少を鑑査し一段歩以上五畝歩毎に貳点を附す。

四、調査　一個の作主にして其作付中若し驅除を行はざるものあるときは其幾部に於て假令優等なる成蹟のものあるも審査員協議の上左記の方法に依り附点を減し若くは優等の部に加へさることあるへし、但畦畔又は境桑にして僅少なるものに至りては此限にあらす。

（一）一筆中更に驅除豫防の施行なきものに在つては他に優等のものあるも褒賞を附擬せず。（二）一筆中驅除豫防を行はざるもの數本又は數株あるときは附点を減少す、但壹本壹株と雖も之に準す。（三）前項の附点減少は其一筆に於ける反別及本數又は驅除

豫防の難易を斟酌して之を決す。
五、審査は一等、二等、三等に區別す。

●征露と昆蟲採集　某師團陸軍砲兵軍曹前田安太郎氏は當所第三回全國害蟲驅除講習會修業者なるが、今回愈々征露の途に上らるゝにつき、陣中の徒然を慰むる爲め昆蟲の採集を試みんとて輕便捕蟲器の送附を依頼されたれば、直ちに之を送りたるにより遠からず滿洲地方の昆蟲も彼の露醜と共に掬殺せらるるなるべし。

●枝尺蠖と其寄生蜂　昨年越冬せし桑樹害蟲枝尺蠖の多かりしは既報の如くなるが、果して本年は各地到る處其發生甚しく、其被害又尠なからざるを以て目下驅除中なりとの通信頻々なるが、該蟲には敵蟲即ちカモドキバチに罹れるもの亦尠なからざれば、此の益蟲に對しては十分保護せざるべからざるなり。而して該蜂の第二回(目下)寄生の割合は、其一頭に對する第二回の如く多數ならずと雖も、罹災の枝尺蠖は甚だ多し。是れ目下尺蠖の躰小なるが故ならん。此頃當所助手が該蜂に罹り居る尺蠖四十五頭を調査したるに、尺蠖一頭中に十五頭寄生せるもの二、十四頭のもの一、十三頭のもの五、十二頭のもの一、十一頭のもの四、十頭のもの二、九頭のもの七、八頭のもの九、七頭のもの三、六頭のもの五、五頭のもの二、四頭のもの三、二頭のもの一頭なりしといふ。

●永澤小兵衛氏　昨年六月臺清地方へ斯學視察の途に上られし元當所々員たりし永澤小兵衛氏は同年末歸朝され爾來當市西野町の寓所に閑居されつつあるが、此頃同氏と當所との關係につき屢々質問する人あるを以て其顛末を一言せんに、同氏は初め明治三十四年一月より二年間の契約にて入所されたるものなれば、今は何等の關係なきのみならず、臺清地方視察の途に上られしも全く同氏の方寸より出でしものにて、決して當所の補助などを受けられたる譯にあらざるを以て、諸氏此意を諒せられんことを請ふ。

●岐阜縣昆蟲學會第六十四回月次會記事　同會は本月二日午后一時より岐阜市公園内當所假事務室内に開きたり。今其講話の要項を記載すれば、第一席森宗太郎氏は飛驒國の昆蟲土産として同氏が去三月二十二日より一週間大野郡高山町にて開會の昆蟲學講習會に臨みし際夜中採集を試みし結果及桑の虎斑天牛に就て調査せし事項を報告せり。今其聞く所によれば同地方の桑樹は皆多くは直徑一尺餘の大樹のみにして、其桑の害蟲として最も恐るべきものはこの虎斑天牛なり。故に何れの桑樹も皆

蓮根の如くなり居れりと、而して該蟲の產卵個所は是迄知られざりしが、調査の結果、多くは樹皮の裂目中にて、少しく黑色の徴候を現はし普通桑天牛とは大に趣を異せり、而して今や孵化して微小なる幼蟲は二三寸樹皮中を蝕入せりと、第二席小竹浩氏は昆蟲の翅翼と題し、翅の構造より各蟲種によりて發達形狀等の關係をあらゆる例を擧げて説明し、第三席長野菊次郎氏は戰爭と昆蟲と題し、今日世人の多くの腦裡は戰爭を以て狂亂しつゝあり、宜しく吾人は此間に冷靜なる頭腦を以て斯學に對し十分なる將來の計劃を立てざるべからずと、シルベスター氏の言を引用して講演し、第四席名和靖氏は去月二十九日羽島郡姬象鼻蟲驅除品評會の景況に就て、意外に効果ありし次第より目下枝尺蠖驅除の有樣を述べられ午後四時閉會を告げたり。

●水曜昆蟲談話會記事　當所内に於て毎週水曜日夜間開會の同會は相變らず盛會なるが、前號報告後に於ける談話の要項を擧ぐれば左の如し。

名和愛吉氏は此頃イラムシの繭百十八個を調査したりしに、内七十九個は其幼蟲腐敗し、三十八個は生存し居り、一個は寄生蜂に罹り居りしと。繭の外部より幼蟲の生否を區別するには、繭の外面に於ける白色の斑紋が判然せるものは生存し、然らざるものは腐敗せるなり●所嘉吉氏は三月下旬花虻の藏卵數につき解剖的調査をなしたるに、其數二百五十八乃至二百六十七にして平均二百六十二の割合に當れりとて實物及表を作りて説明し●石田和三郎氏は例により近刊雜誌中の昆蟲記事を報告し、尚蜚蠊驅除に就て滑かなる瓶の内面に燈油を塗りて一層滑かにし、其中に砂糖及菓子の碎片の如き彼の好むべき所の食物を入れ該蟲の繁殖せし場所に置くときは、食物を得んが爲に瓶内に集まり再び出づること能はざるを以て容易に驅除し得る旨某書にあり宜しく諸君の實驗を望むと述べ●小竹浩氏は毎會繼續して昆蟲の分類法を實物と實驗に徴して説明し●棚橋昇氏はコムラサキの幼蟲に付きて、目下飼育の状況を實物を示して詳細に報告し●其他馬淵治郎氏は異翅亞目の分類に就て●名和正氏は昆蟲と寫眞術の關係●大橋由太郎氏は岐阜縣本巣郡害蟲視察談●小川謙司氏は岐阜縣揖斐郡の害蟲驅除聞見談●稻垣義教氏はコナメウシに就て●小森當作氏は浮塵子の話及鞘翅目(扁米蟲科、扁蟲科)の分類●渡邊雛四平氏の鳥の胃中と昆蟲●谷貞子氏の雜草採集談等なりしが例により名和靖先生は毎會出席せられて各自の談話に就て有益なる講評を與ふるを常とせり。

●昆蟲標本陳列舘の觀覽人　去三月中に當所常設の昆蟲標本陳列舘を觀覽せし人員は四千六百三十三人にして、其內最も多かりしは二十一日の千九百八十四人、最も少なかりしは二日に於ける十三人にして、一日平均百七十一人に當り、此內實業家、學生最も多かりき。

●愛讀者諸君に謝す　本誌本號には多數の挿圖を入るゝ都合なりしが當所移轉混雜の爲印刻間に合はざりき。乞ふ幸に之を諒せられんことを(編者白す)

(雜報、四月九日脫稿)

Acherontia styx moore. (Mengafa-suzume)

By K. Nagano.

Forewings blackish, whitish and ochreous sprinkled, with waved black striae; first stria sometimes accompany with whitish or ochreous line; margins of median band suffused with whitish and ochreous on costal half; a deep yellow discal spot; ochreous short dashes between each veins of margin. Hindwings yellow–ochre; veins posteriorly more or less black, median and subterminal band dark or black. Expanse 93–106mm. Head black; thorax bluish black with black border; a skull-shaped blotch with ochre and black; abdomen deep yellow with black transverse bands on each segments; a longitudinal darker-blue stripe.

Kiusiu, Shikoku, Honsiu; 6–9. Larva green (Sometimes darker-brown), on 4–11 seg. a series of oblique lateral stripes, yellow below blue above, meeting in an angle on back; on dorsal of 4–11 seg. blue dotted; horn yellow, green dotted. on Sesamum indicum, Solanum melongena, S. tuberosum, etc.; 6–9.

昆蟲世界

每月一回十五日發行　第八卷第八拾號　明治三十七年四月十五日發行

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢詩▲ 昆蟲亂題（但季に關するものは夏）
▲和歌▲ 昆蟲亂題（但季に關するものは夏）
▲俳句▲ 螢（四月）蚊（五月）毛蟲（六月）
▲新體詩▲ 昆蟲亂題（但季に關するものは夏）
▲小品文▲ 昆蟲亂題（但季に關するものは夏）

投稿占切期日は四月は二十五日とし五月以後は每月十五日とす▲投稿用紙は郵便端書にて宜し▲屆先は岐阜市公園内名和昆蟲研究所

（注意）俳句は可成十句内外を寄せられたし又蚊より每月十五日占切に付注意せられたし▲小品文は抒情文にても比喩的論文にても宜し雜誌ホトトギス派の寫生文又大に可也

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず每月第一土曜日午後一時より、岐阜市京町名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も每會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所内　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第六十五回月次會（五月七日）　第六十九回月次會（九月三日）
第六十六回月次會（六月四日）　第七十回月次會（十月一日）
第六十七回月次會（七月二日）　第七十一回月次會（十一月五日）
第六十八回月次會（八月六日）　第七十二回月次會（十二月三日）

◉名和昆蟲研究所案内

‥ 市境界　‖ 案内道　｜ 市道　イ 元位置　ロ 陳列舘　ハ 縣廳　ニ 中學校
ホ 病院　ヘ 郵便局　ト 西別院　チ 研究所　リ 長良川　ヌ 金華山　ル 停車場

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園内即ち（チ）の位置に移轉せり、又常設の昆蟲標本陳列舘（五間に十八間）は從前の通り岐阜縣物産舘構内にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部　郵税共　金拾錢　（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
壹年分拾貳部郵税共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず切手にて壹割增とす◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵劵代用は五厘

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年四月十五日印刷並發行
岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二
（岐阜縣岐阜市公園内）

發行所　岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二　名和昆蟲研究所
發行者　名和梅吉
同縣揖斐郡鶯村大字公郷三番戸　編輯者　小森省作
同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二　印刷者　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

（明治三十年九月十日内務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF

"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] MAY. 15TH, 1904. [No. 5.

昆蟲世界

第八卷第五册　明治三十七年五月十五日發行　第八拾壹號

（明治卅年九月十四日第三種郵便物認可）

目次

（每月一回十五日發行）

名和昆蟲研究所發行

本所擴張寄附金品募集廣告

本昆蟲研究所を今や機運漸く熟し地を岐阜市公園内にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より教室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へんとす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは衷心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

明治卅七年三月

岐阜市 名和昆蟲研究所

大方諸君

謹告

當所移轉混雜中につき諸君に對し自然失禮致居候事も多々可有之候へば不惡御承知被下度謹謝仕候

名和昆蟲研究所

新刊害蟲圖解

第卅三。粟及陸稻の害蟲アハノヨトウムシ

第卅四。桑樹の害蟲ヲグロクハハマキムシ

昆蟲學特別研究生募集

今回十數名の特別研究生を募集するに付規則書入用の向は郵券相添へ至急照會あれ直に送致すべし

明治三十七年五月十日

名和昆蟲研究所

購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ほす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

岐阜市公園内

名和昆蟲研究所

昆蟲世界會計部

本所擴張寄附金品領收廣告（第二回）

一金五圓也　岐阜縣揖斐郡養基村　岡崎壽市君
一金參圓也　青森縣農事試驗場內　新渡戸稻雄君
一金拾圓也　岐阜縣山縣郡保戸島村　篠田五郎君
一金壹圓也　靜岡縣濱名郡小野田村　袴田鹿太郎君
一金六拾四錢也　岐阜縣大野郡視學　山本鎭五郎君
一金六拾四錢也　高山警察署長　中村勘次君
一金拾參圓七拾貳錢也　岐阜縣大野郡昆蟲學講習會員九十二名

高山町　田中貢太郎君
高山町　廣瀨龜之助君
高山町　山田國次郎君
高山町　木下平藏君
高山町　住　進君
高山町　打保常次郎君
高山町　林　泰貞君
高山町　岡田蔦郎君
高山町　山下甚吉君
高山町　上野信之助君
高山町　三川榮太郎君
高山町　堅野安之助君
高山町　桐山双二君
高山町　河内粂三郎君
高山町　加藤石松君
高山町　香川信吉君

高山町　角竹喜登君
高山町　今井森吉君
高山町　白川喜一君
高山町　中島德三君
高山町　中田文一郎君
高山町　岡田三四郎君
大名田村　尾崎幾造君
大名田村　森　牛之助君
大名田村　丸野　篤君
大名田村　五反田喜一郎君
灘　村　梶田德之助君
灘　村　瀨木彌七郎君
大八賀村　岩鼻清吉君
大八賀村　三ッ岩元右衞門君
大八賀村　中村富之助君
大八賀村　西　兵太郎君
丹生川村　上西安之助君
丹生川村　尾崎光平君
丹生川村　坂末松元君
丹生川村　森本金太郎君
丹生川村　大下志津麻君
丹生川村　坂末增太郎君
丹生川村　岡田德助君
上枝村　森　正太郎君
上枝村　民屋長遠君
高山町　江黑美代松君
高山町　岡田貞造君
高山町　森本愛二郎君
高山町　野瀨武次郎君
高山町　牛丸實應君
大名田村　後藤竹次郎君
大名田村　藤瀨末太郎君
大名田村　北平元治君
大名田村　中村一二君
灘　村　水口友之助君
灘　村　清水治右衞門君
大八賀村　桑原寅之助君
大八賀村　山崎種吉君
大八賀村　北平茂松君
大八賀村　谷口秀之助君
大八賀村　山下市太郎君
丹生川村　吉本武雄君
丹生川村　山田恒吉君
丹生川村　遠藤彦三君
丹生川村　森田安之助君
丹生川村　野村秀三君
丹生川村　橋本繁藏君
丹生川村　江崎茂作君
上枝村　今井　雄君
上枝村　小林恒吉君

上枝村 武田米吉君　上枝村 大豆村清一君
上枝村 中田吉太郎君　上枝村 中島小太郎君
清見村 柚原幸太郎君　清見村 佐藤繁太郎君
清見村 中澤茂助君　清見村 長尾薫君
清見村 中西豊之助君　清見村 藤江正君
清見村 中田常之助君　清見村 住一雄君
清見村 奥田萬二君　莊川村 山下常吉君
白川村 古瀬鶴之助君　白川村 宮丸冴君
宮村 大江千浪君　宮村 大坪太市君
宮村 小西勝次郎君　久々野村 早川章君
久々野村 牛丸清君　久々野村 堤衛門君
久々野村 上野季吉君　久々野村 森前俊三君
久々野村 尾崎季次郎君　山之口村 常本兼次郎君

一金拾圓也　靜岡縣庵原郡燒津町 吉野寅之助君
一金貳圓也　岐阜縣稻葉郡佐波村 近藤伊祐君
一金五圓也　愛媛縣周桑郡小松町 矢野延能君
一金拾圓也　岐阜市靭屋町 宮嶋助三郎君
一金拾圓也　岐阜縣不破郡府中村 小竹浩君
一金拾圓也　岐阜縣揖斐郡鶯村 小森省作君
一金五圓也　靜岡縣濱名郡知波田村 石田和三郎君

一金九拾錢也　兵庫縣佐用郡江川村 西田兵太郎君
一金貳圓也　名古屋市江川町 谷てい子君
一金五拾錢也　名古屋市黑門町 山田周子君
一金貳圓也　岐阜市靭屋町 河村爲助君
一金壹圓也　三重縣桑名郡桑名高等小學校 十時なつ子君
一金九拾貳錢也　奈良縣磯城郡川西村 片山莊平君
一金貳圓也　岐阜市京町 高橋喜男君
一金五圓也　內務省內 山縣伊三郎君
一金參拾錢也（第二回寄附）　高知縣土佐郡小高坂村 武內護文君

小計金百圓六拾貳錢

累計金四百五拾六圓六拾貳錢

右御寄附相成候に付茲に芳名を掲て其厚意を謝す

明治卅七年五月十日

岐阜市公園內 名和昆蟲研究所

中等教育昆蟲標本寫眞（五）

花散りし藤の若葉の毛蟲哉　（子規）

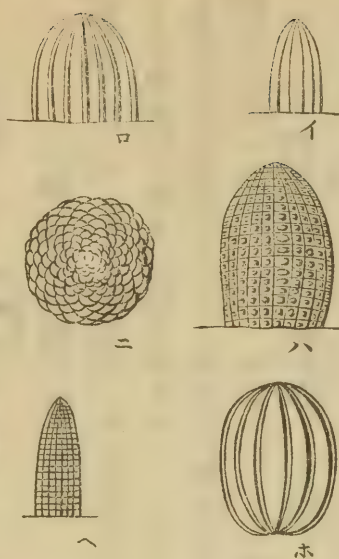
讀昆蟲世界寄名和氏
聞君刻意究昆蟲。幾歳勵精已積功。更有篇篇高著在。且開斯學啓群蒙。（石崎香山）
南山曰。眞是學界不可缺人。

◎鱗翅類の卵に就きて

在東京　長野菊次郎

鱗翅類の卵は少き躰を有し通常二種の皮膜を以て被はる。其外面にあるを卵殼又は卵鞘と稱し、內面にあるを卵黃膜と稱す。卵殼は硬きカイチン質より成りて外部を保護するの用をなし、コルセルト（Korschelt）氏等の意見によれば、卵巢內の卵室即ち卵管の皮膜（Epithelium）より生じたるものといへり。卵黃膜は柔軟なる薄膜にして、內部に充ちたる液躰を包被せり。此液躰中には他日幼蟲となるべき胚を有して、之が發生に必要なる滋養分をも含蓄せり。卵は微小なるに關せず種々の形狀、紋理を有せるを以て、低度の顯微鏡を以て之を驗するに甚だ興味あるものなり。其形狀にはアゲハノテフ、オホスカシバモ、スズメ、マツケムシ等の如き球狀あり、或はアカタテハの如く直立楕圓狀、又はヱダシヤクトリの如く橫楕圓狀をなすあり、コムラサキの如きは半球狀にして、ツマキテフ、モンシロテフの如きは彈丸狀なり。ニツコウシロテフ、ハナセヽリ等は饅頭狀を呈し、イネノアヲムシは頭巾狀を呈せり。其他圓筒狀、桶狀を呈するあり。稀にはモンキテフの如く柄狀部を有せるありて、其上面の如きも凹狀をなし或は截形狀をなすあり。其表面は平滑なるものあれども多少彫刻的紋理を有するもの多く、カヒゴの如きは多少六角形をなせり。蓋し、卵管皮膜細胞の痕跡ならんといへり。ニツコウシロテフ、シジミテフ

フチグロアヲツバメ等の如きは許多の隆起を有して菊花狀紋理を現はし、ルリシジミの如きは龜甲紋理を有するのみならず毛狀突起をも有せり。又上端の中央より、地球の子午線の如く下方に走れる溝を有することアカタテハ、ツマキテフ、コムラサキ等の如きあり。而して此等の線の間は通常圓く隆起して更に細き横線を有し、殆んど緯線的に之を分劃せるもの多し、ヒヲドシテフ、アサギマダラ等の如き是なり。色彩も亦種々にして、イチモヂセヽリ、ハナセヽリ等は褐色を呈し、ムメケムシ(Clisiocampa neustra)

蝶類の卵の廓大圖
（イ）ツマキテフの卵　（ロ）コムラサキの卵
（ハ）アサギマダラの卵　（ニ）ニツコウシロテフの卵
（ホ）アカタテハの卵　（ヘ）モンシロテフの卵

クリケムシ(Caligula japonica)、オホミヅアヲガ、ヤママヒ等は灰色或は灰褐色にして、マツケムシ、モモスズメ、クワシヤクトリ等は綠色を呈し、モンシロテフツマキテフ等は黄色にして、アゲハテフ屬の多數、オホスカシバ、メンガタスズメ等は淡黄色を呈し、モンキテフは赤色にして、アサギマダラ、二化性螟蟲等は白色を呈せり。然れども帶綠或は綠白のもの最も多しとす。其他點、或は線、又は網狀、其他の紋理を有するあり、例へばアカタテハ、コムラサキ等は綠色に白條を有し夜盜蟲の一種は赤環を有し、カレハガ(Gastroparcha quercifolia)の如きは綠紋を有せり。然れども產卵の際と時日を經たる後とは多少其色を異にし、特に孵化の際には其色を變ずるを常とす。凡そ近緣の種屬は一般に殆んど一定の形を有し、特に酷似の形態を有するものに於て然りとす。

蝶蛾の雌が卵を產するには、未來の幼蟲が容易に食物を索め得べき場所を選ぶこと必要なれば、其嗜好

植物の莖枝莖幹等に置くこと最も多し。然ども稀に他の場所に產することあり、ハンノキケムシ(Oeneria dispar)の如き是なり。卵を產附するには一所に一粒つゝ產下して粒と粒との間が多少隔離せるものと、又一ケ所に多數を群集的に產附して粒と粒との間が互に密接せるあり、甲は多數の蝶類及び天蛾類等に見る所にして、乙は多數の蛾類に見る所なり。又乙の場合に於ける群集的狀態にも種々ありて、例へば豌豆の夜盜蟲の如く平面的に產附するあり、ヒヲドシテフの如く塊狀をなすあり、タハケムシ(Spilarctia imporilis)キンケムシ(Leucoma similis)の如きは塊狀的にして之を被ふに毛を以てし、ウメケムシの如きは枝椏を圍繞して之を產附し、ハンノキケムシの如きは不規則なる塊狀を呈して、之を被ふに母躰より脫出したる毛を以てせり。此他多少環狀に產下するあり、或は直線的なるあり、或は數條に並列せしむるあり。

ウメケムシ卵塊の圖

受精したる卵は、產下後數日を經て、一般に少しく扁平となりて其色を變じ、受精せざる卵は收縮して發育せざるを常とす。然れども稀に受精せざる卵の發育して幼蟲に化生することあり、是即蚜蟲等に見るが如く單爲生殖と稱するものにして、小蛾類の或屬、稀に大蛾中に此例あり蠶の如きも往々此現象を現はすことあり。

卵中に含有せる胚の漸次發生して終に孵化するに至るまでの時間は、卵の產下せられたる時により、又は幼蟲が食物を搜索すべき時季によりて異れり。即ち夏に於ては其發育甚た速なれども、秋及び冬に於ては多少緩慢なりとす。時季の高溫と低溫とも亦孵化の時間に多少の關係を及ぼすことは、寒溫の用法如何によりて、蠶卵孵化の時日を伸縮することを得るに徵しても知るべし。卵の產下せられたる年に孵化して食物を要すべきものは、發生の時日に短きは大抵四五日より、長きは三十日內外を要す。然れ

ども此他は皆卵の狀態にて越冬するものなれば、是等は發生の時間に數月を要するものなり。斯くて孵化の時季來るときは、卵は大抵其色を變じ、卵中に多少卷縮して横はりたる仔蟲は、卵鞘を破りて出づるものなり。越冬したる卵の孵化する時季は、大抵嗜好植物の嫩芽の發育する時季と一致するもの多し是れ口器の充分堅牢ならざる仔蟲に對しては、柔軟なる葉芽の最も其食物に適すればなり。（完）

◎桃枝蠹蟲蛾に就て

在米國　名和梅吉

桃枝蠹蟲蛾は鱗翅目中穀蛾科に屬する小形種にて、學名を Anarsia lineatella, Zeller. と稱す。形狀恰も甘藷の葉捲蟲蛾に類似し居り、常に桃樹の嫩枝頂端部に喰入して枯凋せしむる所の有害種なり。加害の狀況は枯凋の嫩枝に依り容易に認知し得べし。本邦にては桃樹の外、櫻樹に發生多きは余の曾て目擊せし所なり。目下該蟲の加害時期に際會するに當り、今米國に於ける此種の加害狀況に就き聞知せし概略を左に錄して該蟲の研究資料に供せんとす。

元來此種は歐洲產のものにて、米國には發生なかりしかど、果樹栽培の盛なるにつれ、苗木の輸入實行され、遂に東方亞細亞地方より被害樹に附着して共に輸入せられしものならんと謂へり。爾來星霜を重ぬるに從ひ、米土中各所に蔓延加害を逞ふする所となり、現今に到りては被害樹の栽培しある地方は、假令山間僻地と雖も亦此加害蟲の侵擊を蒙り、尠からざる損害を加へられつゝありと。そも該蟲の斯く迄蔓延の廣濶となりしは、全く加害蟲の小形にして、且長期に渉りて幼蟲の樹枝間に蟄伏し居ることの然らしめし所にして、多くは苗木の運搬に伴ひたる結果として察知し得べし。カリフォルニア州にては果樹害蟲中三、四位の一に算へられ、果樹栽培家の常に憂慮するものなりと。而して加州にては獨り桃

樹のみならず、杏、プルーン、巴旦杏、李、梨及苹果等の類は總て之が加害を受くると云ふ。該蟲は一年二、三回の發生をなし、冬季は幼蟲の儘被害樹の枝叉或は樹皮の裂間等に蟄伏して經過し、春季新しき嫩枝の伸張と共に二、三葉を開發するの頃潜伏所を去り、直に嫩枝の頂端に喰入するを常とす。斯く冬季蟄伏の幼蟲は躰長僅に五、六厘許にて、全躰黄色を呈し、頭部、第一節上にある背板及び末節に存する背板は黒褐色なりとす。而して老熟せし幼蟲は多少之と色澤を異にし、鈍赤褐色と成り、頭部及び兩所に存する背板は同色を呈し、躰長三、四分を算するに到る。然れども歩行の際は多少伸張するは、何れ幼蟲にも見る所なり。而して各節には幽微なる圓形紋を有し、之より細長毛を生じたり。然り而して喰入加害するや、嫩枝頭の枯凋する時は又他の枝頭に移りて加害し、老熟期に到る迄には多くの嫩枝を侵害するに到ると云ふ。最も春季に蟄伏所を出で、嫩枝中に移りし以來老熟迄には十日乃至二週間を要すとの事なり。老熟せし幼蟲は加害より生せし枯凋葉中又は枝叉或は裂間等に移り、絹糸を吐きて繭樣物を造營し、其中にて蛹化するものにて、蛹は一分七八厘を算し、褐色を呈し、皮膚稍堅硬となれり而して蛹期には一週間乃至十日間を費し、後羽化して成蟲に變化すと。成蟲は活潑にて、躰長一分七八厘、翅を擴張する時は三分五六厘許あり、全躰暗褐色を呈し、前翅の前縁部には褐色の斑紋を印出す。捿止の際は多少屋背狀を現はし、觸鬚は長く頭上に曲接し、觸角は翅上に横接するを常とす。而して飼育器中に於ける成蟲の生存期は十餘日にして、多くは最初の一週間内に産卵を終ゆるものゝ如しと。自然に於ける産卵個所は判然せざれども、飼育器中に於ては葉柄の基部に於て二、三粒乃至數粒産附せしと云ふ。故に自然に於けるものも亦大同小異ならんとの事なり。産附せられし卵子は最初白色を呈すれども、孵化期に近くに從ひ漸次橙黄色に變ず。其大さ一厘二毛に横經六厘許にて稍卵形を保てり。鏡撿

する時は、卵面に規則正しき網狀紋を存せり。

該蟲の加害狀態及び形態は略ぼ前述の如くにて、夏期には往々果實を食害することあり、而して該蟲の天敵としては、冬季蟄伏中ダニの一種 Pediculoides ventricosus. なるもの、爲に百分中七十五乃至九十五パーセントの割合に食殺さるゝと云ふ。且又寄生昆蟲にしては小蜂科の或種にて斃殺するものあり、其學名を Copidosoma variegatus. 及び Oxymorplia livida と稱す。又人工驅除法としては、春季加害せられし嫩枝を發見次第伐採すると、冬季蟄伏の際石油乳劑、松脂合劑等の藥液を以て枝幹を洗滌するにありとの事なりき。

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其九）　第五版圖參看

名名昆蟲研究所内　小　竹　浩

（一一〇）直　翅　類

直翅類は稻蝗、螳螂等の如く前翅の平直にして多少硬化したる翅を有する蟲類の總稱なり。前翅は細長に、後翅は廣く膜質透明にして縱に疊むことを得べし。罕には前翅極めて短きあり、又は全く翅を欠くものあり。口具は咀嚼に適し、變態不完全なり。此の類に屬するもの〻中には、前翅の摩擦若くは前翅と股節との摩擦とにより一種固有の美聲を發し、愛玩せらるゝもの尠なからず。

（一一五）ヒゲジロハサミムシ（Anisolabis marginalis, Dohrn.）　蠼螋科に屬する黒褐色の光澤ある種にして翅を欠き、觸角は糸狀にして末端に近き三節は灰白色を呈す。下唇鬚長く、頭部の形狀殆んど蟻のそれに似たり。脚には黑褐色の斑ありて腿節太く、腹端の附器は短かし。此種は常に塵芥中に多く發生する所の最も普通なるものなり。（本誌前號參看）

(一一六)カマキリ(Tenodera capitata, Sauss.)　蟷螂科中最とも普通の種にして前翅は綠色と褐色との二種あり、後翅は稍褐色を帶び、翅底の前緣に近き處に稍大なる黑褐斑と、其他多くの短橫線あり、外緣の中央より後緣部は暗色を呈す。前翅は前緣部縱に巾一分計り硬化せり。前胸長く延び、前肢は異樣に發達し、基節長く、腿、脛兩節の內方は鋸齒狀をなし、脛節端には曲りたる長き刺を有す。觸角鞭狀にして長く、複眼卵形にして、頭頂にある三個の單眼は赤く大なり。此蟲は常に他蟲を捕食する有益蟲なれば努めて之れを愛護するは勿論、樹枝等に產付しある燒麩狀の卵塊等をも能く保護すべし。

(一一七)アブラムシ(Periplaneta americana, L.)　蜚蠊科に屬する普通種にして頭部小に、前胸大きく恰も碁器を冠りたる如く見ゆるを以てゴキブリ又はゴキカブリとも云ふ。光澤ある暗褐色にして、軀體著しく扁平にして、前翅は細長く、後翅の前半は前翅と同樣暗褐色をなし、後半は色淡く透明なり。觸角鞭狀にして多節より成り、肢は稍扁く腿、脛節には刺毛を有す。腹端の兩側には尾狀物あり。雄は翅長く全く腹部を覆へども、雌は翅短く腹部の後半を露出す。此蟲は雜食蟲にして毛織物、革類、其他各種の食物を食し、往々厨房に來りて食器等に集り一種の惡臭を附するを以て嫌厭せらる。(本誌第六十三、六十四號參看)

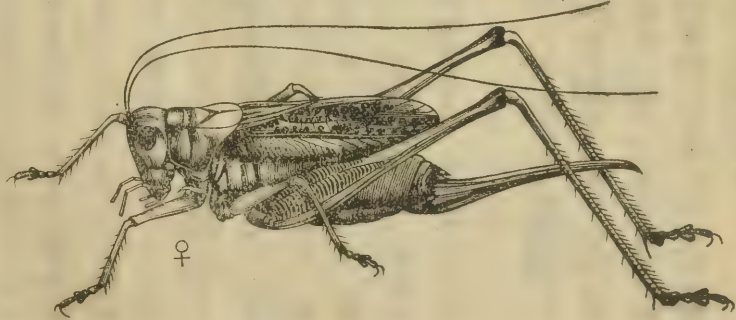
(一一八)キリギリス(Gomphoscelis mikado, Burr.)　螽斯科に屬し、觸角糸狀にして甚長く、複眼圓くして單眼を欠く、口具鋭く、下唇鬚稍長くして、前胸片は大きく背面に於て中胸部を覆ふ。肢の跗節は四片より成り、脛節には短刺を有し、其前肢には聽器を有す。後肢非常に長く跳躍に適し、翅は綠色と褐色との二種ありて黑褐色の斑を有す。雄は右前肢に發音鏡を有し、左前翅と相摩擦して固有の音聲を發す。其鳴聲によりて俗にギスとも稱す。雌は劍狀の長き產卵器を有す。常に原野の草間に多し。

（一一九）マツムシ（Calyptotryphus marmoratus, D. H.）　蟋蟀科に屬し帶黃赤褐色にして、雄は躰軀扁平、雌は圓し。觸角は長く体の二倍以上に達す。複眼卵形にして、三個の單眼は前頭部にあり。雄の前翅は異樣の發達をなし相摩擦して發音す。後翅は三角形にして扇狀に疊むことを得べし。肢は前中二對は短かく、前脛節には聽器を有す。後肢は長く前肢の二倍半に達す。跗節は三節より成り、末端の一節は甚細し。腹端の兩側には尾樣物ありて、雌は腹端に一對より成れる劍狀の產卵管を有す。此蟲は山野の草間に多く、秋夜チンチロリンの美聲を弄する以て人の能く知る處なり。

（一二〇）スヾムシ（Homoeogryllus japonicus, D. H.）　前種と同科に屬し、全体暗色にして、其形狀雌雄共に前種と異ならず。觸角長くして多節より成り、基半は白く、先半は黑し。複眼卵形にして、翅の構造は殆んどマツムシに異ならず。後肢は長く暗色を呈し、腿節の先半は濃く、前中の二對肢は腿節の半及脛節に於て黑く、其他は黃白色にして、跗節は稍暗色を帶ぶ。前脛節に聽器を有し、腹端の兩側に尾狀物あり。此の蟲は前種と同じく秋夜特有の美聲を發するを以て最も愛玩せらるゝの種なり。

キリギリスの圖

♀

（一二一）クツワムシ（Mecopoda elongata, L.）　螽斯科に屬するものにして綠褐の二種ありて斑紋を有せず、前翅前緣の中央稍山形に突出して巾廣く、後翅は三角形をなし、觸角非常に長し。雄は右前翅の基部後緣に發音器を有し、之れに對する左前翅には鑢狀の器あり、相摩擦し

て固有の音響を發す。肢は後肢著しく長く、前脛節に聽器を具へ、雌は腹端に劍狀の長き產卵管を有す。

（一二二）カハラバツタ（Sphingonotus indus, Sauss.）　稻螽科に屬し、觸角糸狀にして短かく、複眼卵形にして、單眼は複眼の前方に複眼に接して一個つゝ及額面の中央に一個を有す。前翅土色にして中央及翅底には稍濃色なる不明の斑あり、後翅は藤色にして前緣の中央より稍外方に始まり後緣角に向て車輪狀に曲屈したる巾廣き黑褐色の帶斑ありて美麗なり。常に河邊の砂礫間に多く、其止まるや前翅色の砂礫に似たるを以て容易に見出す能はず。

（一二三）イナゴ（Oxya velox, Fabr.）　稻螽科に屬する最も通通の種にして、觸角は糸狀にして短かく複眼卵形をなし、單眼の位置は前種に異ならず。頭胸部を通して兩側に暗褐縱線あり、翅は短かくして腹端を露出す。後肢は發達して跳躍に適し、第一腹節に聽器を有す。秋季畦畔の土中若くは稻株等に產卵し、翌年六月頃孵化して稻葉を食害する有害蟲なり。

（一二四）シヤウリヤウバツタ（Truxalis nasuta, Linn.）　前種と同科に屬し、雌雄によりて著しく大小を異にす。雄は体長一寸五六分なるも、雌は三寸內外を算す。綠色と褐色との二種あり、尙前翅には縞條を有するあり。頭部紡錘狀に突出し、複眼長楕圓形にして、其前方に一個つゝの單眼と、額面の中央に一個の單眼を有す。觸角稍三角形をなせり。後肢甚長く前肢の三倍以上に達す。常に堤防等の雜草間に多く、禾本科植物の葉を食す。俗にハタオリムシと稱するものこれなり。

◎二化性螟蟲の越冬に就て

岐阜縣長期害蟲
驅除講習修業生　小川謙司

方今世の文明に伴ひ昆蟲學研究の道大に開けたりと雖ども、斯學に於ては本邦未だ幼稚にして之が研究

に身を委ぬるもの少なし、之れ大に遺憾とする處なり。然り而して昆蟲學には純正昆蟲學と應用昆蟲學との二者ありて、應用昆蟲學の發達は純正昆蟲學の發達に伴ふものなりと雖ども、本邦に於ては目下焦眉の急として應用昆蟲學に重きを措かざるべからず。見るべし邦人が命とせる米産も、一螟蟲の爲めに年々數千萬圓の外國米を輸入せざるべからざるに非ずや。如何に農理の發達を來し、如何に收益增進するも、一朝此の害蟲に逢はゞ、今日豊作なりと思惟せし農民の笑顔も、忽ち變して憂愁の苦顔となり、遂には一家のみならず國家經濟に大なる恐慌を來たすに至る。然るに世人は此の恐しき害蟲に對して、一向無頓着にして殆ど顧みざるもの丶如し。之れ何に原因するか、曰く其害蟲の習性經過を究めず、其天然との關係を識らず、其局に當るものは形式的或は强制的に命令を下し、農民も亦御義理的に行ふを以てなり。故に年々之が莫大の經費を消費し、不尠の勞力を用ふるも徒勞に流るゝこと多く其効果の見へざるにより、當局者は疑を抱き、農民は蟲は天然に湧出するものと考へ、益々人工の到底驅除し能はざるものとして更に顧みざるに至る、宜べなり害蟲驅除の普及せざる當然の理なりとす。又甚しきに至りては、此の日進月歩の世の中に生活し、文明の空氣を吸ひながら、害蟲を驅除するに祈禱の御札を以てするが如き實に迷信も亦甚しく、余は此事を聞見する毎に切齒扼腕に堪へざるなり。故に是等頑迷なる農民を誘導啓發して驅除の効果を收めんとするには、已れ先づ是等害蟲の習性經過を究め、自ら實踐躬行して以て他に及ぼすの外なきを信じ、昨年五月より岐阜縣長期害蟲驅除講習會に入り各種の害蟲につき研究したるも、特に稻の害蟲に重きを置き其性狀を調査したりき。今茲に其最も憎むべき二化性螟蟲の越冬に於ける狀態につき調査せし一二項を述べんとす。

一、螟蟲は稻株の如何なる處に於て越冬するか又藁稈中と何れが多きか　余は郷里なる揖斐郡宮地村

に於て稻の刈株二百株を調査したるに、其中に潜伏し居りし螟蟲の數は合計二百六頭なりき。又稻葉郡加納町及び本莊村に於て各百株を調査したるに、加納町にては八十頭、本莊村に於ては十四頭の螟蟲を獲、都合二百株にて九十四頭の潜伏し居るを見たりしが、何れも蟄伏し居りし場所は三化性螟蟲のそれの如く百分中九十九頭は稻株の最下部に於て棲息し、羽化するに便なる爲めならんか多くは上方に向ひ居たりき。又た刈株中と藁稈中と何れが多きやに就て調査したるに、刈株中にては一反歩に付き九千四百五十頭（但此頭數は前の四百株中の螟蟲の頭數を平均し、百株に付き七十五頭となし、一坪を四十二株と定め以て一反歩に換算したるものなり）にして、藁稈中にありては一反歩六萬千八百頭の多き頭數を算出したり（但此頭數は始め一坪の中の藁稈を取りて調査し之を一反歩に換算したるものにして且つ一回の調査なれば完全とは言ひ難し）。

右調査の結果によれば、稻株中に潜伏せる螟蟲の割合は刈株中に一、藁稈中に六の比なり、故に之が羽化期前に藁稈の處分をなすと同時に刈株中の螟蟲撲殺を謀らざるべからざるも、其第二期發生の初期即ち枯穗の現はれたる時に、其時期を失せざる樣枯穗切り取りを爲す時は、未だ廣く他株に蔓延せざるに先ちて容易に驅除し、効果を收むることを得べし。

二、螟蟲と氣候との關係　本年の寒中に於ける氣候は、近年稀なる低溫を示し、非常なる嚴寒なりしを以て、之が爲に凍死せしや否やに就きて稻株二百株を調査したるに、總計九十四頭潜伏し居りて、一頭も凍死したるものを目擊せざりき。之によりて之を見る時は、冬季寒氣の爲にて凍死するものにあらずと斷言するを憚らざるなり。又現に余が藁稈中の螟蟲を調査するに當り、藁稈の氷を以て閉ざされてありしものを採り、此内にはよもや螟蟲も棲息し居らざるものと思ひ、之を裂き割りしに、豈計らん一

頭の健全なる螟蟲を見出せり、之を見ても證するに足らん。故に冬季に於て降雪甚しく、寒氣强烈の故を以て是等害蟲が死滅するものと考ふるは大なる誤なり。

三、二化性螟蟲內部の搆造　終りに臨み螟蟲の內部の構造を述べんとす。余は此の螟蟲を研究するに當り其生理上よりも研究するは無益の事にあらざるを信じ、玆に不完全なる解剖をなしたり。先づ一頭の幼蟲を取り解剖皿に入れ、腹面を上にして頭尾兩端を留針にて皿底に留め、螟蟲の躰を蔽ふ迄水を入れ而して尾部皮膚內に剪刀を銜き入れ、皮膚の表面より起し上げ左右に切り開く時は、螟蟲の中央に當り頭より尾端に向ひ軟大の食道系と稱する一長管の縱走するを見る、此の食道系は口腔、食道、胃、小腸、盲腸、直腸及び肛門よりなり、食道は無色透明にして之より以下は少しく黃色を呈す。又腎臟管（マルピギー氏管）は胃と腸と相接續する處に附屬したる細長にして、彎曲せる紐狀の線なり。此腺の末端は直腸の皮膜內に入りて毛管となる、此管は尿酸等の分泌作用をなすものなり。神經系は体腔內の腹面に縱走する鎖狀の機官にして、二條の神經系と十三對の神經球より成る。第一の神經球は頭部にありて食道背面上にあれども、其他の神經球は悉く腹面にありて各神經球よりは四本の神經枝を出し、更に又數多に分枝す、呼吸系は茶褐色にして躰の左右兩側に縱走する二個の氣管にして、躰の外側に開ける氣門と通じ以て呼吸作用を營む。氣門の數は左右各九個ありて空氣本管と通ずる處には數多の枝管ありて体の各部に延長す、其內層はキチン質の螺旋系より成る。絹糸腺は消食管の左右兩側に位し無色半透明をなしたる紐狀の機官なり。此の腺の前端は互に結合して一管となり口に開く、之を吐糸管と云ふ。此腺は口部に近き處最も細長にして、中央に至り急に最大となり、後部に至るに從ひ漸次細小となる。血管は余の解剖に於て確に見ることを得ざりき。筋肉は縱筋肉のみ判然に見る事を得。脂肪躰は躰內に

存する諸機管の内に充塞する一種の組織にして、其形は扁平なる薄片にして白色なり。此脂肪躰は營養分を貯藏する所にして此のもの丶分解によりて体を養ふなり。

余は此の實驗によりて益々螟蟲の恐るべきを知れり。即ち螟蟲なるものは、前述の如く冬季十分なる營養分を躰内に貯藏して、寒氣にはよく堪へ、其潜伏の塲所は刈株の最下部若くは藁稈中にありて鳥類に捕獲せらるゝの恐れ少なく、只螟蟲の敵として恐るべきは寄生蜂なるも、是等とて冬季は其襲擊を被ることなく全く安全に越冬すればなり。抑も害蟲の繁殖如何は他に原因ありと雖ども、螟蟲にありては主として寄生蜂との關係如何によるものにして、寄生蜂の勢力や實に莫大なるものなり。故に害蟲驅除を行ふに當り是等有益蟲を愛護せざる可らざるを知ると共に、又其及ばざる處は人工驅除を怠る可らざるなり。蓋し害蟲驅除の秘訣は彼等の習性經過を知悉し、其弱點を衝きて經費と勞力を省き、以て最大の効果を收むるにあり。又常に豫防の一斥は驅除の千斥に勝ることを記臆せざるべからず。之を要するに螟蟲の驅防法として現今行はれつゝある方法中最も有効なりと信ずるものは、採卵法及枯穗切取法の二とす、前者は今年の豫防に屬し、後者は明年の豫防に屬し、且つ之を行ふに比較的容易にして確實なればなり。而して採卵法に於ては必ず益蟲の保護を要すべく、枯穗切取法に於ては最も時機を逸せざらんことに注意すべし。

◎害蟲驅除豫防は裏面に益蟲驅殺なり

羽後國　仁部富之助

害蟲驅除の眞意を誤解する勿れ……害蟲驅除の目的は生類捕殺の謂に非らず……とは嘗て本誌の論せられし所、誠に至言と謂ふべし。

近時害蟲驅除豫防の聲漸く高く、公私之れが良法を案出し、之れが實行を促すべく、汲々その道を講究せり。害蟲たるもの最早や顏色なけん。然れ共退て熟考し來れば、果してその眞意を解得し、誤りなきもの幾何かある。害蟲は驅除すべし、豫防せざるべからず。益蟲は保護し、繁殖を計れと。苟も斯學を志し、斯學を稱導するもの、口々に呼ぶ所にして、正に耳を聾せん計りなり。嗚呼彼等も亦誤解せる哉。害蟲を驅除して益蟲の繁殖を計るを得るか（或極度以上）、蓋し不可能のことたるべし。古諺に謂へるあり、大風吹て桶屋喜ぶと。是れ社會組織の親密なる關係あることを敎へたるものなりと聞けり。豈獨り人間社會のみこのことあらんや。ダルウイン氏の試驗によれば、オランダゲンゲの結實と猫と間接の關係ありたりと。生存競爭は生物の通則にして、彼と是、是と彼、甲は乙を攻むれば、乙は丙を斃し、丙は丁、丁は戊、彼是その關係の密なる窺知すべきなり。

吾人營々作物を耕作し、能く培ひ、能く養へば、此所に來りてその葉を喰ひ、その莖を損し、その根を枯死せしむるものあり、吾人は之れを稱して害蟲と謂ふ。然れ共幸に斯の害蟲を咬殺し、或は躰內に寄生して遂に斃死せしむるものあり、吾人之れを呼で益蟲と云ふ。更に第二の寄生蜂なる者あり、然らば之れ又益蟲の害蟲たるべし。吾人作物を栽培することをなさゞれば作物生せず、何の害蟲かあらん、何の益蟲や是れあらん、要するに寄主あるが故に寄生あり、マルサシの杞憂も恐るゝことなき理なり。

予嘗てブランコケムシ、モンシロテフを飼育し、其寄生蜂の多きに一驚をなしたることありき。彼を害せるもの前者は八頭に對する六頭、後者は五十頭に對し十八頭を算せり。寄生蜂も亦偉なる哉。然有、今その當時彼等害蟲を驅除せりとなさば、寄生蜂も同一運命は到底免れざりしや必せり。今假りに寄生を受けさるものに就きてのみ執行したりとせんか、寄生蜂の命は安全なり。然有その後の生活を如何せん

寄主は既に驅除せられて之れを得べくもあらず、寄生蜂の運命知べきのみ。斯て尚之れを保護すべしとなすか。豈無理なる注文にあらずや。嗚呼害蟲の驅除、害蟲の豫防、裏面に此事あるを如何せん。寒心せさるべからざるの極にあらずや、心得すべきとにこそある。

聞く岡山縣下に於て先年巨大の費用を支出して螟蟲卵塊採收を實行せりと。然して予輩未だ螟蟲全滅の快報に接せず。蓋し害蟲驅除の裏面を窺へば、此理を解し得て妙なるべし。即ち害蟲の繁殖に好都合を附與したる感なくんばあらず、その螟卵採收の事可なり、その益蟲の衰頽を來したるは能事にあらず。

抑も害蟲の發生たる、年々歳々同一の程度のものにあらず、年により、所により、又その時期により、好機を得ば即ち生じ、然らざれば微々として振はず、好機とはそも何ぞ、世人多くは天候となす、然り天候素より關する所至大なりと雖ども、益蟲と權衡を持する時に於て、如何にその天候の適應するとあるも何ぞその發生をよくせんや、何ぞその威を逞ふせんや。

本誌屢々蟲害の歴史を記載せらる。見るべし、古人尚昆蟲の何たるを解せざるの時も、害蟲の被害常時あるものにあらずして、偶々發生して暴威を振ふとあるを、而してその次年必ずしも劇甚たらず、五年十年、兎角間歇的にその發生を見るべし、而もその期間は常に一定するものにあらず、要するに被害漸減して或程度に達すれば再び大發生を顯出すると是れなり。換言すれば害蟲發生して益蟲繁殖し、益蟲の增加は害蟲の影を潛め、害蟲衰て益蟲減し、益蟲の減したる時は實に之れ害蟲の先驅暴威を逞ふするの時期にして、偶々天候の之れを助くるあらば、その發生や實に大なるべし、而して益蟲の害蟲に一歩を遲れて繁殖するを忘るべからず。吾人孜々吸々として驅除を務め、豫防を行へば、反てその發生期間を短縮促進するの恐ありと謂ふべきか、吾人の大々的研究を要する、實に此點を措て外にあらんや。

嗚呼害蟲の驅除豫防も亦難哉。
以上陳述する所に依りて考ふれば、予輩恰も驅除豫防を否むに似たり。然れ共予輩如何でか斯の如き暴を學ばんや。驅除は務め、豫防は力行せり。自己も行ひ、人にも勸告せり。只近時害蟲驅除の聲に眩酔し、自然物を愛護するの念慮を忘却し、自然界の關聯を熟考せずして無益の生を奪ふが如きもの多々之れあるを目撃し、如斯にして止まるとなくんば、遂に大なる變亂を我等人間社會に波及するに至ることなきかを恐れ、拙筆顧るに暇なく、此所に愚考を陳情せり。治に座して亂を忘れざらんこそ肝要なれ、諸氏の叱正を給らば幸甚なり。

折捨てし萩の毛蟲を踏つけぬ（子規）

講話

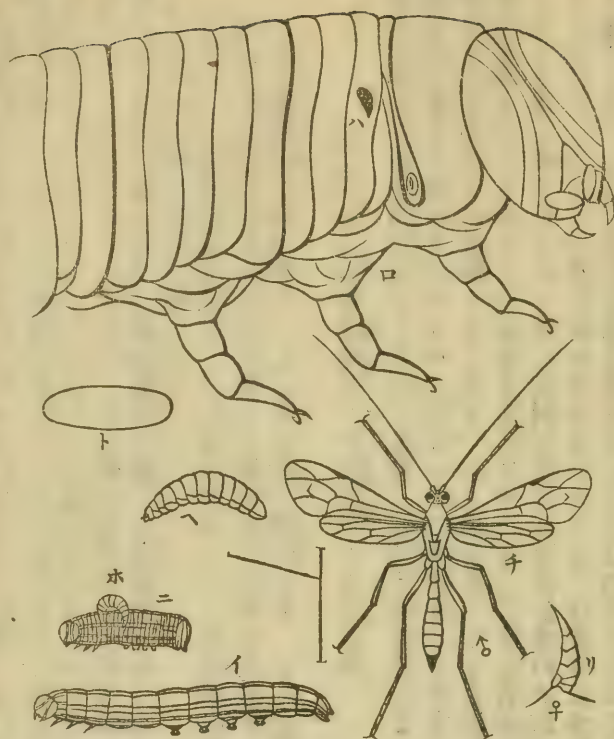
螢

行く螢夏の夜すがらいかにして煙もたたずもえわたるらん（藤原基俊）

◎粟夜盗蟲の寄生蜂に就て

名和昆蟲研究所助手　森　宗太郎

粟夜盗蟲は御承知の有名なる害蟲の一で、粟、陸稲抔の葉を甚しく食害することがあります。昨年十一月で御座いました、岐阜縣海津郡城山村附近に、此の粟夜盗蟲發生の報告が御座いました時に、當所長の命により、同月十四日城山村に出張して調査を致しましたが、此の城山村には第一回岐阜縣害蟲驅除講習を修了された大橋尊義君が居られまして、調査上大に便利を得ましたのは、同君に向て大に謝する所で御座います。其發生の區域は隨分廣くありましたが、城山村大字駒野に於ては、被害の激烈なる、實に豫想外で御座いまして、陸稲の葉は悉く喰ひ盡され、穗は喰ひ落され收穫皆無といふ慘狀を呈して居りました。斯樣に發生の甚しきときは、隨て寄生蟲の種類も多いものでありますから、先づ駒野に於て寄生蜂の有無種類の多少を調査致しましたが、意外に種類が多く、粟夜盗蟲の幼蟲に寄生する蜂が四種、蛹に寄生する蜂が三種ありまして、都合一種の夜盗蟲に七種の寄生蜂が有ることを見出しました。

其中で最も面白く感じました處の一種に就て申上け樣と存じます。それは姫蜂科に屬する一種で、栗夜盜蟲の外部に寄生するものであります。即圖の(ロ)は夜盜蟲の放大圖で、(ハ)はその寄生蜂の卵の放大圖でありますが、卵は二厘五毛大の漆黑色にして、幼蟲一頭に一粒つゝ第一乃至第五關節の氣門線附近の接合部に產みつけます。孵化すれば、卵殼は二つに破れて剝落し、其幼蟲は外部より口器を刺し込み夜盜蟲の体養液を吸收して生活するのであります。圖の(ホ)は孵化後二日目の幼蟲でありますが、漸次大きくなれば、宛も馬乘になつて容易に離れませぬ。而して生育甚早く、凡一週日を經れば老熟して寄生の近傍即ち地中五六分より一寸位の深さの所に於て繭を作り、其內に入り幼蟲の儘越年するのであります。繭は黑色に、長さ五分內外の長楕圓形をなしたるもので、(ト)は即其繭であります。それが翌年三月下旬より四月上旬に蛹化し四月十六日に羽化致しました。(チ)は其成蟲の雄で、体長四分五厘乃至五分、全体淡褐色にして觸角も肢も共に体と同色でありますが、雄の觸角は稍暗色を帶びたるものもあります。複眼は黑く、頭頂に三個の大なる單眼が突出して居ます。翅は透明で、淡褐色の緣紋と極めて小さき胞鏡があります。雌の產卵管は長さ一分計りの細いものでありますが、意外に大きな卵を產みます。

前申した通り、私の見ました丈けでも此の夜盜蟲の蛹のみにすら三種の寄生蜂がありまして、其勢力は實に恐るべきものであります。即二升程の蛹を持ち歸りましたが、滿足に羽化して蛾となりましたもの

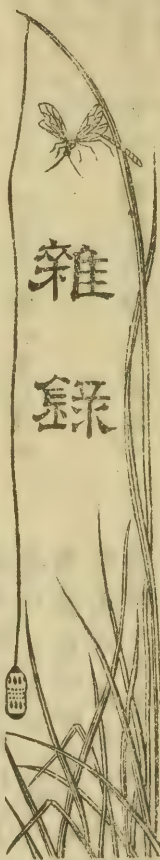
は僅々四頭で、他は皆寄生蜂やら寄生蠅の爲めに斃されました。然し幾分は他の事情の爲めに斃れたとするも、如何に寄生蟲の勢力の強いかといふことが分ります。去りながら何時も彼樣に寄生蟲が多いかといふに、そうは云へないのであります。明治二十九年に三河國渥美郡牟呂村に於て此の夜盜蟲が發生しました時に、名和梅吉先生の調べられたことが御座いましたが、其時などは寄生蟲が案外少なくて、蛹を持ち歸りしものは大概蛾化致しました。要するに今回程寄生蟲の多きことは稀でありますが、十中七八迄寄生蟲に斃さるゝことは珍しくはありませぬ。故に害蟲驅除には之れ等の益蟲を利用するのが最も必要であらうと信じますから、不充分なる調査をも省みず申述べた譯で、御參考の一助にもなれば光榮と存じます。因に記す、粟夜盜蟲に就ては當所最近發行の害蟲圖解第二十三に發生順序の着色圖あれば、それらに就ては茲に省きたり。

圖解　（イ）粟夜盜蟲自然大　（ロ）其放大圖　（ハ）寄生蜂の卵放大圖　（ニ）寄生蜂にかゝりたる夜盜蟲　（ホ）寄生蜂の幼蟲にて孵化後二日目のもの及寄生の狀態　（ヘ）老熟したる寄生蜂の幼蟲自然大　（ト）寄生蜂の繭自然大　（チ）寄生蜂の雄の放大　（リ）其雌蟲の腹部

◎魚を以て浮塵子を驅除するの案

岡山縣都窪郡妹尾町　藤田政勝

從來農家の浮塵子驅除法としては、成蟲の時代は網羅法により、仔蟲の時は田面に石油を注いで稻株を掃ひ蟲を落して殺ろすのですが、どうも餘まり感服せぬ仕方だと私は夙に思つて居る一人です。元來石油は多く用ゐ過ぐれば稻を害したり、其上蟲を取つても石油などの費用、手間などを計算して見ますと唯一の最上策とも謂へない感がするのです。まして常に名和先生の御持論たる石油の如き輸入物を多くして迄も蟲を捕る仕方は、誠に御同樣國の爲賛成出來ぬ次第です。然らば外に何にか上策があるかと云ふと未だない樣です。爰に私が思ひ付いたのは、浮塵子は水田の稻を主もに害する譯ですから、必ず多くは下に水がある、然れば魚を養へないことはあるまいと思ふ、否な稻田養鯉なる仕方は已に岐阜や信州其他地方の農家が副利を收むる爲めに中々盛かんに行なつて居るのです。則ち私は此れを利用するので、今迄の樣な單に稻田養鯉の爲めに水田から副利を收むる目的許りでなく、一朝浮塵子の發生を見れば、別に石油を注ぐとなしに只稻株を掃ふ計りで蟲を下に落し、水中の鯉兒に食はせれば其れて害蟲驅除の目的は遂げたのだと信ずる。言ひ換へれば、浮塵子の仔蟲を株から落して鯉兒の食餌にするのです。

私しは此試驗をして此れが方法及經濟の點幷に成績を後日發表したい考へでありますが、諸君も是非此案の成功を助ける積りで實地施こして戴き度いのです。若し果して此案が實際に行はれ功を奏するに至れば、一方には鯉の爲め副利を收め行き、他方には恐るべき害蟲を驅除し收穫の減しを防ぐの兩得となり石油の樣な費用の要する、たまけに一步誤ると却て稻に害を與へると云ふ恐ろしいものを遣はなくて濟みます。從かつて此れが爲めに我國の農家全体が益を受け、大にしては國の利となることが如何に莫大であるかは豫め察するに難くない事だと信じて居るものでありますから鳥渡諸君に御紹介申した譯です。

螢

五月雨に草のいほりはくつれども螢となりてうれしかりける（大江匡房）

片枝に毛蟲つきたる若木哉（子規）

◎昆蟲文學（五）

蚊　南山　樵夫

細嘴銳利與錐同。一刺破眠篋僕僮。記否前身名孑孑。能除腐臭在溝中。

魯嶽曰。咏蚊說及其前身之功能。非是染指於昆蟲學者不能道。蓋孑孑在汚水中。而喰了黴菌。不令惡臭散於外云。

蜻蛉　魯嶽　野衲

欲住釣竿猶颺颺。如追飄絮故依依。瑠璃光眼青羅翅。盡日清流極影飛。

南山曰。描得奇麗、入微入細。畫手難及。

殘肢餘喞　石崎　香山

蟻

封穴豫知降雨繁。營營曾報舊時恩。休言蟻子形軀小。尙勝人間貪素飧。

南山曰。可以人不如小蟻乎。

蚊

書生依賴一爐薰。除去包圍攻擊軍。豈料世間奸佞屬。呪人心血甚於蚊。

南山曰。聚蚊群猶有術。奈此滔滔奸惡之徒。

螢　半風　隱士

紅頭鞘翅可憐粧。日暮熒熒飛柳塘。曾照讀書陪淨机。美談千歲有餘光。

南山曰。用典適切。

蟲六首　　神村直三郎

叩頭蟲

麥畑にとしをかさねて叩頭蟲のこころながくもくひ荒らすらん

鬚長蜂

みだれ咲くれんげたんぽぽすみれ草ひげながばちの訪ひものこさぬ

うどんげ

三千年に咲くそれよりもうれしきは桃のさえだのうどんげの花

壚辛蜻蛉

からき世をそらに知りてや西東しほからとんぼおこたりもなし

豆娘

蚊に蚋にとりてはみつついととんぼいとしづかにも世をわたるかな

蚤

おさへたる指をのがれて飛ぶ蚤のゆくへ見おくるちごのかほ哉

蝶　　山田周子

繪にやせんうたにやせんとまどひつつ蝶にしばしを立ちつくしけり

螢

螢飛んで淋しき尼の端居哉　冷石

笹の葉の水すれ〲に螢哉　同

籔の方へ大きな螢飛びにけり　冷石

谷川の落合ふ早瀬螢哉　同

螢飛んで水の音あり木木の闇　同

斷橋の川幅狹し飛螢　同

林間に螢亂るる泉哉　同

螢籠に殘り少き螢哉　同

飛立つてすうと消えたる螢哉　四澤

徑行けば草の中より飛螢　同

水にうつる露の葉裏の螢哉　同

手に取れば忙しう光る螢哉　同

草に居て飛ばぬ雨夜の螢哉　同

草の根にかくるる晝の螢哉　同

螢火の波にゆらるる汀哉　同

町の橋小供群れ居るほたる哉　木槿

螢川たそがれ頃の人出哉　同

飛螢籔の暗きに逃去りぬ　同

町中や床臺に置く螢籠　同

晝狩りて多くの螢得たりけり　同

鴨川旅泊

飛螢瀬の音雨の如くなり　木槿

舟ばたに止りて光る螢哉　芽生

小雨降る町中を飛ぶ螢哉　同

夜越へる峠の茶屋や螢籠　同

河骨の浮葉に止る螢哉　去水

螢狩小川に添ひて上りけり　同

川越て螢呼ぶ聲遠のきぬ　去水
盆栽の芒に螢放ちけり　泡人
水に添ふて家居嬉しき螢哉　同
竹椽に酒酌む人や螢籠　同
二つ三つ紙に包みしほたる哉　明笛子
打落す螢流れて行きにけり　同
ざぶ／＼と川渡りけり螢狩　同
封筒に螢三つ四つ入れにけり　城東
螢飛ぶ蘭草の畑の小雨哉　同
葉櫻の隅田川飛ぶ螢哉　同
銀の螢涼しき蒔繪哉　歸麓園
雨の夜の椽這ふて居る螢哉　同
螢狩月出でざるに戻りけり　同
螢飛ぶや祭の人の散殘る　歌朗

行水や眉をかすめて飛螢　同
川柳葉裏に晝のほたる哉　翠園
此あたり苗代多きほたる哉　同
つかむ手の上へ這出る螢哉　雄峯
水を見て居れは早苗に初螢　月林
逃ほたる少し放れて光りけり　嬉水
明けて寢る温泉の宿涼し飛螢　零積
麥の穗を數へつつ飛ぶ螢哉　文翠
丸木橋ほたるは後へ戻りけり　冷泉
雨晴れてほたる飛び立つ柳哉　喜男
菓子袋螢捕へて入れにけり　遲日
ほたる見に來よと伏見の便哉　六足子
螢狩足袋をよごして戻りけり　非石

◎昆蟲展覽會（續）

愛知縣農事試驗場技師　美濃部鐐次郎

審査

審査は各類に應じて夫々審査例則を設くる必要がある、これは審査長の權限にある事なれども、大要余輩の意見を例則として編製して左に掲げん。尙玆に一言添ゆるは、昆蟲の審査殊に分類標本にありては名稱の相違、分類の不當、害益蟲標本の害益轉倒等の誤ちは、昆蟲學の發達せざる且つ普及せざる今日に於て甚だ多數なのは免れざる處である、故に審査部の内に別に是等調査部を設け、學識經驗ある者を撰任し、之れを調査せしむる事尤も必要である、然らば展覽會は獨り衆庶に縱覽せしむるのみならず昆蟲學上大に資する處があるのは間違でない。

第一、分類標本審査例則

第一項、分類標本の當否を鑑別し、左の標準に依り、四十點以內の評點を附す。

目の正當なる者　十點。　科の正當なる者　十點。　種の正當なる者　二十點。
但し種の錯誤ある者は出品頭數に準し按分比例を以て減點す、減點率は審査長之れを定む。
第二項、製作保存の良否を鑑別し三十點以內の評點を附す。
第三項、頭數の多寡　二十頭を五點となし、以上十頭を增す每に一點を附し、百七十頭を以て滿點とし二十點を附す。但し、本項の蟲數に對する附點は、全体の出品數により斟酌す。
第四項、排列の適否　排列の適否を鑑別し十點以內の評點を附す。

第二、害蟲及益蟲標本審査例則

第一項、經過變態を完全に表示したるや否やを鑑別し、之れに三十點以內の評點を附す。
第二項、害蟲被害植物及其狀況、益蟲は嗜食動物、宿主幷に捕食若しくは寄生の狀況等を表示したるの完否に依り、三十點以內の評點を附す。
第三項、敵蟲寄生菌等の添加の有益を鑑別し、十點以內の評點を附す。
第四項、製作、保存の良否如何を鑑別し、二十點以內の評點を附す。

第三、教育用標本審査例則

第一項、各種教育階級の程度に應し昆蟲上の思想を喚起し、且つ之れに關する智識を開發するに足るや否やを鑑別し、四十點以內の評點を附す。
第二項、經過、習性、生存競爭、雌雄陶汰、軀の解剖等を表示し、昆蟲に關する智識の發達に資するや否やを鑑別し、二十點以內の評點を附す。
第三項、排列の適否を鑑別し、二十點以內の評點を附す。
第四項、製作、保存の良否を鑑別し、二十點以內の評點を附す。

第四、裝飾用標本審査例則

第一項、意匠其宜敷を得て裝飾に適し、兼て昆蟲志想發達の資料となるやを鑑別し、三十五點以內の評點を附す。
第二項、製作、保護の良否を鑑別し、十五點以內の評點を附す。

第五、害蟲驅除豫防又は益蟲の保護、若しくは利用に關する器具、器械審査例則

第一項、使用の目的に適合せりや、及改良進歩の事實を審按し、五十點以內の評點を附す。
第二項、原質の撰擇、製作の完否を審按し、二十點以內の評點を附す。
第三項、製作の難易、製作費の廉否等一般普及の如何を審按し、十點以內の評點を附し、若し使用者に於て普通無償を以て得らるゝものなれば、滿點即ち十點を附す。
第六、飼育、採集、標本製作、其他昆蟲研究上必要なる器具器械審査例則
第五に同じ。
第七、害蟲驅除豫防に關する藥劑
第一項、驅除豫防に關する効力を審按し、五十點以內の評點を附す。
第二項、使用方法の難易を審按し、二十點以內の評點を附す。
第三項、製作法の難易、製造費の廉否等實用に適應するや否やを審按し、二十點以內の評點を附す
第四項、價格の當否を審按し、十點以內の評點を附す。若し使用者に於て普通無償を以て得らるゝものなれば、滿點即ち十點を附す。

昆蟲展覽會開催の準備

昆蟲に關する凡ての幼稚なる今日では、展覽會の良果を收むるには、豫め昆蟲學一般の講習を開設し、所謂素養訓練を施す事が必要である。從來縣郡等の敎育會、農會等に於て既に開設した所も不尠されども、未だ普及と稱するを得ないのみならず、隨分昆蟲學も近年余程進歩の速力を增加したから、短期のものを數年前に一回開催したとて、己に足れりと稱する事は言ふを得ないです。
展覽會を開催するには、凡そ一年又は八九ヶ月前には豫告をなす事必要である。兎に角出品するには一年を通して採集せざれば完全なる事は得られない。又開催の期節を大いに擇ばざるを得んのだ。最も適當とするは春陽晢蕩たるの頃である、然らば冬季閑の採集も、亦此の閑散長夜の時期に充分準備も終り得られ、且つ參觀人の來集にも尤も適します。併し秋季に於ても所謂小春日和の好期を擇べば、殆ど一年を通して採取し得らるゝから差閊はない。

出品者の注意

褒賞授與式に列し名譽の賞與を得るには、出品者は各種の方面に注意し、學術的技倆を發揮せねばならぬ隨て是等は特に余輩の不肖を以てして、諸君の前に陳述するの資格を有せざる處であるが、參考の爲に

其一二を列記すれば、出品物は第一相當なる目的を有せんければならん、例之ば分類標本は單に昆蟲分類の順序に依り排列したるのみにては學術研究若しくは應用上殆ど無趣味に歸するから、昆蟲分類の一般を知得せしむる爲、或は有吻目とか、或は倚一歩範圍を狹くし、浮塵子科に屬するものを網羅するとか、兎に角一種獨特の考案を作らす事肝要である。今左に其數例を示せば

（一）一年を通じ毎月に於ける發現昆蟲。（二）縣、郡、村等に於ける昆蟲の分布。（三）地上、地中、水中等に於ける昆蟲の種類。（四）試作物、例之ば稻田、麥畑、藍畑、胡瓜畑、蜜柑園、或は溫床內等に於ける昆蟲の種類。（五）樹林地、原野、堤防、畦畔に於ける昆蟲の種類。（六）庖厨、商品等に於ける昆蟲の種類。（七）人類若しくは家畜、家禽の衛生上に關する昆蟲の種類。（八）擬態、雌雄陶汰、他動物との共棲等の事實。（九）地形、地質と昆蟲との關係。（十）害蟲驅除豫防の成績、例之は或る一區域內に於て採取したる螟蟲卵塊若しくは幼蟲等の現物、若しくは圖畵、統計等。（十一）寄生蜂等寄生の方法。（十二）益蟲と害蟲との關係例之ば稻螟蛉の寄生蜂の爲に斃殺せらるゝ步合若しくは一頭內に寄生の頭數等を實物、圖畵、數字等を以て表示する事。

昆蟲を採取するもの丶多くは美麗なる蝶蛾類に着目するの傾向がある、之れは完全に各種の昆蟲を網羅する以所でない、故に昆蟲採集は特り捕蟲網を以て田野の間を奔走するに止めず、或は誘蛾燈、或は砂糖壺等を利用し、或は地中、石下、塵芥、鮮苔內等を適當の方法に依り搜索することが必要である。

標本を製作するに當りては各種の昆蟲に應じ可及的特徵を容易に見易からしむるのが必要である、例之ば鱗翅類は勿論、膜翅類の如き翅面の彩色、翅脉の配布に依り分類するもの丶如きは必ず展翅する事肝要で、亦翅の裏面に特徵を有する、例之ばウラギンシヾミ、ヒヨモンテフの如きは、裏面を見易からしむる事必要なるが如くである。標本內の排列は學術的順序、若しくは見るものをして注意するに足るの意匠を有し、且つ之れも適應する解說書を附する事も必要である。（完）

◎予が昆蟲界に於ける二三ツの發見

青森縣農事試驗塲內 新渡戸稻雄

予が諸君に見參する一昨年の春、我が地方にありては諸所に雪影を認め、仙臺附近は藤花を以て盛んに飾られ、東京以南は萬朶の櫻花は今や化して葉櫻となり、藤花亦凋み、木々の若葉は十分開展し翠滴ら

んばかり、夏尚涼しの感想起く岐阜の如きは、眞に我が地方の初夏に比すべく、恰も長良川の初鮎奢客の膳部を飾るの候なりき。其後予は病魔に襲はれ鬱々今日に至る、其間甚だしく諸君と疎遠せり。今や余が氣分稍々恢復せるを以て、此所に再び見參せんと欲す、希くば同好の士よ幸に後進者として愛を給へ。偖て予が發見せりと自慢するものは何ぞ。曰く。一、蜉蝣の成蟲が脱皮すること。二、昆蟲の翅に於ける巧妙一つ。三、昆蟲の脛節にある刺の作用。の三(予が日誌に記せる表題)是れなり。

一、予が日誌を開けば、過ぐる明治卅四年六月十二日、我が郷里陸奥三本木驛の宅內に於ける桑樹に於て、朝四頭の蜉蝣を採集したれば戯れに、籠の內に薔薇花を入れ之に放ち置きたるに、午後に至り三個の怪しきものあるを見出し、取り出して撿せるに紛ふ方なき蜉蝣の脱皮にして、翅痕も、肢跡も、尾毛も其形を存したり。而して其脱皮したりと思ふ蜉蝣を撿せるに、前より稍々黑く光澤を增したるのみ。予は茲に至りて大に迷へり。二三の書を見ると雖も此の記事なし、予は大なる疑惑を生じ、爾後是れが研究を企つると雖ども未だ其好期を得ず、何れ再び研究して確報することあるべし。

諸君は笑はん、然れども予は今より三年前には如斯幼稚なるものなりき。三十六年三月桑名伊之吉先生が著述せられたる昆蟲學研究法並に同年七月出版の矢澤米三郞氏著昆蟲生態學には、是れを亞成蟲と記載せられたり。諸君よ是れを推究する時は甚だ面白き點に迄考及するを得べし。予の其際の記事に脱皮せる三頭の內二頭は尾毛一本を失ひ二本宛を有せりとあり、遺憾ながら予が智識は其際總ての點に迄注意することを能はざりしと。嗚呼亞成蟲、亞成蟲、讀者の內未だ此の事を聽かさるの士は、昆蟲界に亞成蟲あることを記臆せよ。

二、昆蟲の翅は種類の異なるに從て其形を異にし、是が研究亦甚だ興味あり、予は其內の一蜂蟬の翅に就き如何にもと感せし所を一言せん。予、春風駘蕩百花笑綻の時、我庭園に高尙優美なりと人に愛せらるゝ櫻と、美人の俤ありと稱せらるゝ海棠(我が地方にありては櫻も桃も李も海棠も同時に開綻す)に昆蟲採集を試む、而して其獲たるものは鬚長蜂、熊蜂、蜜蜂其他二三の蜂と蠅虻等なりき、而して之を整翅するに當り、蜂の小形なるものは、能く展翅したりと思へば後翅彈ね戻り、又すれば又失敗、失敗又失敗、而して其際前翅を一度離して再び開展するにあらざれば能くする能はず、茲に於て予は靜考せり。遂に蜂を取りて精細一撿せしに、初めて造化の妙、嗚呼巧なり奇なりと予をして獨言せしめたり。何ぞ知らん後翅の前縁に微細なる鉤ありて前翅の後縁に鉤着せるとは、予は此所に於て他の昆蟲の翅をも研

究すべく始め、稍其一部を解せり。(讀者諸君中是れが研究を思立たば蟬に就て見られよ。昆蟲の翅は飛翔するに當りて一對となりて運動することを)

予は或時馬の步行に當りて其足の運び方を學べり、彼れは能く吾人の如く彼の四足を二足に使用することを昆蟲も亦然り、彼の四翅を有する昆蟲も之を二翅に使用す。諸君注意せよ、彼の鞘翅類は飛翔に當り前翅を使用せざるにあらずや、彼の鱗翅類を展翅するに當り、前翅を上に昇する時は後翅も共に上方に引かるゝを、又前翅と後翅の重着する工合、又半翅類や脈翅類や直翅類に、予は是れが研究を思立てるは三十五年の春なりき、然るに今や三十五年の十二月石川博士著昆蟲學教科書に此の事あり、予が二つの發見茲に至りて其陳腐なるを知るに至れり。卅五年に於ける予の智識は斯く憐なるものなりき。

三、予は不識、唯知る、後肢の脛節の末端即ち脛節の跗節と環節せる反對の緣端に於て有する二本の刺、謂所脛節の刺とも云ふべきか、之が作用に就て、予は昨夏偶然にも發見したることを報ぜんに、予は昆蟲界に於ける生存競爭を研究する爲めに多くの昆蟲の交尾法を調べたり(其方法の千差萬別奇々妙々にして甚だ趣味あれども此事は後日に讓らん)鞘翅類の姬金龜子を調ぶるに及んで殆んど半日を消したり。彼の蟲の交尾は甚しく困難なり、同目の虎斑天牛や瓢蟲類の如く容易なるものにあらず、金龜子は諸君も知らるゝ如く、其腹部は硬き幾丁質の板を以て造られ、肛門並に陰門のある所は堅く閉ぢて容易に開くべからず。然るに彼の雄は雌の背上に乘り、前肢と中肢にて能く捕へ、後肢を葉上に置きて左右の肢を動かすを見るべし。之れ彼の脛節に有する刺を以て開くべき城門(予は名稱を不知幾丁板にて密に閉ぢられたる肛門部)を尋ぬるのである、而して漸くにして之を見出し彼の刺を內に入るゝ時は雌は城門を開くべし、此時雄は交接せんとして腹部を下ぐ、然るに其れを待たずして雌は其城門を閉づるなり。然るときは雄は刺を以て尋ぬること幾回中には疲勞したるにや、葉上に置きたる後肢を高く上げて休憩するの狀を呈することあり(他より障害物來りたる時も亦然り)如斯大なる困難なるにも拘らず交接の目的を達し得るは、偏に此の刺の爲めとなさゞるべからず。而して此の刺は單に交接にのみ使用せられず其他の作用も多々あるべし。諸君注意せよ、彼の飛蝗の有する刺は此金龜子の有するものと其發達の如何を比較すれば無論交接に大なる關係を有せざるべし、併し予輩淺學の徒は能く之を論ずると能はざるなり。諸君よ、予は井中の蛙たることを免がれざるべし。希くば識者吝まず垂敎あらんことを、予は元より名譽の爲に是等を記したるものにあらず、予は本邦に於て出版せられたる昆蟲書は殆んど全く之を通讀せり然るに未だ此の事を見ざるが故に、杜撰を省みず茲に予が實驗の一節を日記中より抄出したるのみ。

書を讀むや
蚊に螫されたる
足の裏
(子規)

調査

螢
身にあまるおもひを見せて
飛ぶほたる誰がこひぐさの
朽ちてなりけん(橋守部)

◎愛知縣渥美郡産の昆蟲(蛾の部二)

名和昆蟲研究所分布調査部

番號	種名	豊橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豊岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	清田村
二九、	ウチスズメ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー
三〇、	ウンモンスズメ	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
三一、	モモスズメ	ー	一	ー	一	二	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	二	一	一	ー	ー
三二、	メンガタスズメ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
三三、	エビガラスズメ	ー	ー	ー	ー	二	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
三四、	シモフリスズメ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー
三五、	スズメガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
三六、	ベニスズメ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
三七、	コスズメ	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー
三八、	セスヂスズメ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー
三九、	ヒメハウジヤクガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
四〇、	カノコモンガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	一	一	ー	一	二	一	一	ー
四一、	イラムシノガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
四二、	ホタルガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー
四三、	ホタルガモドキ	ー	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	三	ー	ー	二	ー	ー	ー	ー
四四、	ミノムシノガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	ー	ー

四五、ゴマダラキイロガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー
四六、アカスヂシロガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	一	ー	一	一	ー	ー	ー	ー
四七、ゴマダラシロガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
四八、キンケムシノガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
四九、チヤケムシノガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー
五〇、ドクガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
五一、ウメケムシノガ	ー	ー	ー	一	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
五二、シロヨツホシガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
五三、オホアチガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
五四、ショクコウノニシキガ	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
五五、カヒコノガ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	一	ー	ー	ー	ー

◎ユリハムシの分布に就て

名和昆蟲研究所分布調査部

鞘翅目葉蟲科に屬するユリハムシは、軀長一分五厘乃至二分五厘、軀の背面に屬する部は美麗なる帶紫紅色を呈し、前胸の背面は少しく凹凸をなして微細なる凹點を有し、翅鞘には數條の微かなる縱線と凹點列あり、腹面に屬する部及び觸角幷に肢は黑色を呈す。該蟲は百合の害蟲にして、昨年五月、郡上郡上保村鹽田健藏氏が同地にて採集せるものを數十頭送附せられし外、他に於て未だ曾て見ざる處なるが、東京地方にても每年四月中旬頃より約半月程出現して百合類の若芽を食害するとて、今回東京市下谷區眞島町石川光春氏より數十頭を送附し越されたり。讀者諸氏中若し該蟲を採集せられたらば、幸に一蟲を寄せて分布を明にせられんことを望む。

ユリハムシの圖

◎靜岡縣磐田郡產の昆蟲

名和昆蟲研究所分布調査部

玆に掲ぐるものは、靜岡縣磐田郡岩田村神村直三郎氏が分布調査材料として送附せられしものにして、未だ調査中のものもあれば學術上の順序を定めず、只調査結了のものより順次列記するに過ぎざれば、讀者之を諒せよ。而して弧線内の數字は送附せられたる標本番號と知らるべし。

(四五)コサビハンメウ(Cicindla japanensis, Chaud.)二頭、三十七年三月廿六日、岩田村天龍川原砂地にて採集。此種は松村氏のコニハスズメと稱するものにして、サビハンメウに似て少しく小形、翅鞘に灰白色の鮮明なる斑紋あり◉(一八)コナガゴミムシ(Pterostichus longinguus, Betes.)五頭、ヒメヒラタゴミムシ(Colpodes sp.?)二頭、共に三十七年一月七日、岩田村田の中の藁の下、前者は躰長二分乃至二分五厘の黑色長形種にして、後者は躰長二分五厘、藍色を帶び、頭胸部は狹く、腹部は廣く扁平なり◉(三五)アトマルゴミムシ(Pterostichu subovatuss, Motsch.)一頭、三十七年三月十一日、岩田村山林。躰長五分五厘、全躰黑色にしてクロゴミムシに酷似せり◉(二二)メダカゴミムシ(Tachypus semilucidus, Motsch.)一頭、三十七年二月十一日、岩田村。此の種は躰長一分二三厘の微小種にして複眼突出し、躰形恰かも斑猫に似たり◉(一七)アヲバハチカクシ(Poederus idae, Lewis.)三頭、三十七年一月六日、岩田村田の中躰長約二分、橙黃色に、頭部及腹部は黑色をなし、翅鞘は藍色を呈する普通種なり◉(四三)テンタウムシ(Ptychanatis axyridis, Pall.)三頭、三十七年三月廿六日、岩田村松の芽。普通種にして變化頗る多し◉(五九)ベニヘリテンタウムシ(Novius limbatus, Motsch.)一頭、三十七年三月廿七日、岩田村松の木。躰長一分五厘内外、鞘翅に紅色を以て縁れるを以て此名あり◉(二一)コサビタマムシ(Trachys sub-bicornis, Motsch.)二頭、ヒメサビタマムシ(Trachys sp.?)一頭、三十六年五月三日、岩田村コナラの葉上。前者は躰長一分内外、黑褐色に灰褐色の斑紋を有し、後者は前者より少しく小形にして黑色に呈し幽微なる白斑を有す◉(三六)ベニホタル(Eros erythropterus, Gorh.)五頭、三十七年三月十一日、岩田村松の枯木にて躰長二分乃至三分、前胸部及翅鞘は深紅色を呈し、腹部及後翅并觸角は黑色を呈す。發光器なし◉(一九)コメツキムシの一種(Cardiophorus pullatus, Cand.)十頭、三十六年一月廿一日、岩田村川原の石の下。躰長一分七八厘の長形にして帶褐黑色を呈す◉(二五)(三九)スギカミキリ(Sympeziocera japonica, Lacord.)三頭、卅七年三月廿四日廿六日、岩田村杉の木にて。躰長四分乃至八分、全躰黑褐色にして翅鞘に四個の黃

褐色の斑紋を有す●（三八）コスギカミキリ（Semanotus rufipennis, Motsch.）五頭、三十七年三月廿六日、岩田村杉の木の中。躰長三分內外、雄は翅鞘藍色を呈し、肩部赤褐色を帶び、雌は翅鞘全部赤褐色を呈す●（二九）ギシギシノハムシ（Gastrophysa atrocyanae, Motsch.）二頭、三十七年三月十一日、岩田村。躰長二分、全躰瑠璃色にして野大黃に發生す●（一五）サルハムシ（Phaedon incertum, Baly.）五頭、三十六年十一月八日、磐田郡見付町。躰長一分餘殆んど圓形にして、黑色に少しく瑠璃色を帶ぶ●（四〇）ヤナギノルリハムシ（Gynandrophthalma chrysomeloides, Lacord.）七頭、三十七年三月廿六日、岩田村柳の花。此種は前種に頗る酷似し、瑠璃色にして腹部は黃褐色を呈す●（一六）ムシクソハムシ（Chlamys spilota, Baly.）二頭、三十六年五月三日、岩田村コナラの葉上。一名フンムシと稱し躰長一分內外にして頗る蟲糞に似たり●（一四）スナムグリ（Opatrum japanum, Motsch.）三頭、三十六年十一月六日、岩田村砂地小石の下。躰長二分五六厘、黑色にして土色を帶び、砂地に於ける石下に普通なり●（一三）クロスナムグリ（Opatrum pubens, Marseul.）三頭、岩田村砂地の石の下。躰長三分五厘內外、黑色にして翅鞘に條溝を有す●（三四）チャイロゴミムシダマシ（Uloma bonzica, Marseul.）一頭、三十七年三月十一日、岩田村朽木中。躰長三分五厘內外、帶赤暗褐色にして光澤を有す●（四一）マツノザウムシ（Pissodes obscurus, Roelofs.）二頭、三十七年三月廿六日、岩田村松の芽。躰長二分內外の長形にして全躰褐色に灰白色及黃褐色の斑紋あり●（四二）マツノミドリザウムシ（Scythropus scutellaris, Roelofs.）二頭、三十七年三月廿六日、岩田村松の木の芽。青色象鼻蟲科に屬し、躰長二分內外、褐色に灰白色の斑紋を有す。

◎東豫昆蟲研究會第一回惣集會景況

愛媛縣周桑郡小松町　矢野延能

豫定の如く、三月廿日、小松町(常盤組事務所)に開會す。會場の入口には貼紙に會場なることを標記し、場内には別に裝飾を爲さず。在名和昆蟲研究所講習生、研究生等數氏より本會に寄贈されたる冬期採集昆蟲標本數十点、農事試驗場東豫分場より出品の昆蟲分類標本、害益蟲標本、漬液標本等四十七函，乾田用船形捕蟲器、陸稻用捕蟲器、乳劑製造用竹喞筒、參考品には植物病害標本等を陳列し研究の料に供したれば昆蟲天然の形色自ら美觀を呈し、會員各自展覽筆記、質問應答あり。午后四時開會、矢野幹事會長に代り會務の報告をなし、次に會員五分間演說をなす、其氏名(抽籤順)演題要旨等左の如し

紀伊諒介君は東豫地方は蠶業及宇广郡の害蟲と題し、蠶業の不振を慨し、振起策に及び、同郡の害蟲につき驅防研究の希望を述べ●加藤徹太郎君は時局と昆蟲家と題し、昆蟲家たるもの非常の奮發を要するを說き●稻垣義教君は本會の開會を祝すと云ひ、時局と開會の一致を擧げ●山内幹衛君は害蟲の驅除普及策と題し、簡易なる驅防方法印刷物を有志家に配付し、之より一般に說示實行せしむべきを說き●越智芳太郎君は自村の三化生螟蟲に就て、昨年初めて之れが侵入する所となるを說き●小野令太君は除草と害蟲驅除と題し、君が既往三ヶ年の實驗に係る除草をば他人に委し、害蟲驅除は自ら之を行ふの利益を擧示し●長尾恭太郎君は農業科加設の小學校に於て教員一名つゝを本會に加入せしむるの希望を述べ●金成金彦君は昆蟲變態の一部に就て、君が研究の結果蠶の翅の生する順序を幼蟲態より詳述し●檜垣賴恒君は(不參草稿代讀)益蟲の保護に就て、標本製作用と雖も無暗に多くの益蟲を採集すべからざるを說き●森實義夫君は(同上)金龜子類誘集捕殺の便法としてポプラー樹栽植の利益と題し、君の果樹園に於ける實驗を詳述し演說終了せり。時正に午後六時(休憩夕食)

午後六時三十分より會務申合を爲したる概要は、現狀維持の外左の如し

一 害蟲驅防奬勵の爲め、場合により各郡内限り會員申合、講話會其他適宜の方法を執行することあるべし。二 會員各自害蟲防除の普通方法の得失に留意し、尚一層簡便適切なる方法の發見に勉むること。三 爾後惣集會には成べく昆蟲標本を携帶出品すること。四 成るべく本年秋季第二回惣集會を開會すべきこと。五 昆蟲標本を寄贈せられたる諸氏へ謝狀を呈すること。

右少時に之を了はり、引續き懇話會を開き會員諸氏の熱心なる實驗談あり、又東豫分場に於ける試驗成蹟中、苗代螟蛾捕殺を夕方に行ふの利益、今回出品の捕蟲器二種の浮塵子驅除効驗實地使用法 附稻正條植の必要と其利益、竹製ポンプの石油乳劑製造上効力、製法使用法、宇广郡に於ける瓜ハムシ驅防法調査等につき、矢野技手の談話ありて午后十一時閉會せり。本日は偶々事故不參者多數を占めたりと雖、參會諸氏は熱心に研究せられ、又稻垣君は名和昆蟲研究所修業中特に期日を繰上げ退所來會、同窓生諸氏より本會に寄贈の標本を齎し、尚開會準備上盡力せられ大に好都合なりき。

◎昆蟲に關する葉書通信　（第四十一報）

（一二三三）再び岐阜蝶に就て（静岡縣、神村直三郎）　余は先にギフテフ遠江に産することを報導したりされどこれは友人の採集したる卵塊及成蟲を見て報じたるものなりしに、本年四月十日、其友人と共に發生地に採集を試み、成蟲及卵塊を得たり。これにて確然と當國所産を公言するを得るに至れり。たゞ惜しきことには期節の少しく遲かりしが爲、成蟲は悉皆雌にて且破損したるもの多く、中に破れざるもの稀にあるも、翅粉已に剝落して美彩を賞するに足らざる程なりき、明年は三月末に彼れが閑棲を訪はんと今より待つものなり。是を以ても岐阜と其發生期を同じくするを知るに足る

（一二三四）小學生徒の枝尺蠖驅除數（徳島縣名東郡日開小學校長、鎌田愛藏）　余第十六回の講習を受けし御蔭にて昆蟲の何物たる事を了解し、歸國後研究すればする程面白く、既に此頃我校備付の昆蟲標本二十五箱の多きに達し、生徒は元より、村民に對し昆蟲思想を喚起し、稍其責を盡しつゝあり。既に去三月中旬よりは桑樹の害蟲たる枝尺蠖の驅除も、余郡衙へ出頭し、郡內擧て小學生徒に驅除せしむる事を建議せしに、直ちに用ひられ、命令を發して各桑園に兒童を入れ、各學校にて之に從事せしめ、三月末日迄に報告せしめし結果左の如き成蹟を得、當時の新聞紙上にも掲載せられ、大に社會の注意を惹きたり。

校名	驅除頭數	校名	驅除頭數	校名	驅除頭數	校名	驅除頭數
黒田尋高	三一七三九	國府尋高	七八六三	高樋尋高	一二五七	津田尋	八一六
日開尋高	一〇七三九	新居尋高	四五二〇	小塚尋	一三七五	齋田尋	四八六
上八万尋高	一一二九三	八万尋高	八三〇	一宮尋	一〇一五	八万南尋	七五

備考、捕獲數の多少は桑園の廣狹、發生の多少に關することゝ知るべし。（枝さばけ葉さばけ幹さばけし身も名和の鏡に照し出されぬ）

（一二三五）黴菌の害蟲驅除（岐阜縣加茂郡和知村、長瀨清五郎）　白僵蠶は黴菌的作用にして、其菌粉を食桑に撒布して與ふれば數時間にして續々僵蠶を生ずることは、最早何人も疑はざる所なり。而して蟬蕈は勿論、エンドノキリムシ、クソウジの成蟲、マツケムシなども往々黴菌に侵され、遂に草木にとまりしまゝ硬化して全身菌糸に被はれて死せるものを見ることあり、予は乃ち白僵蠶の例により其菌粉を彼の食餌に撒布し置かば同一の結果を生せんことを思ひ、昨年豌豆畑より得たる白僵蛾を粉末にし、試

みにあたりの山中(八九月頃と覺ゆ)に撒布し置けり。其後多忙に紛れ其まゝ忘却せしに、此頃豌豆の手を切らんとて同所に至りしに、其翅黑褐色にして黑き斑紋ある蛾の、地より一二尺位の所に止りたるまゝ黴菌の爲に硬化して死し居れるもの三四を發見せり。是れ或は予が昨年播き置ける菌粉の結果なるやを疑ふなり、若し斯の如くにして効ありとせば、東濃土岐、可兒邊の松林を食害するマツケムシ驅除等の一法として試みては如何、聊か所思を記して大方の諸氏に正す。

●(二三六)●兒島灣新開墾地害蟲驅除豫防に就て(備中國藤田政勝)　本開墾地は海面の開墾地にして、未だ僅々二三年を經過せざる今日、已に試作人をして米、麥、棉及瓜類の作付をなさしめ居るが、地元の田畑からウンカ、メイチユウ、棉のシンムシ、ウリハムシ、エンマコホロギ、イナゴ、アブラムシ等の害蟲の來集するを見、中々驅除豫防に忙がしくなれり。是等の爲め昨年より年々二三回宛新開墾地農談會を開き、色々の農談を催し、害蟲驅除豫防并に益蟲保護蕃殖等の件をも大に講究することになし、旁々農事試驗場を二ケ所も設立し、害蟲の研究(實用上)をも實行する樣になれり。何分農田は最初よりが肝腎の事故、今日より十分害蟲の驅除豫防を勵行する積なりとす、別して本年は米麥等一粒でも多く收むるの覺悟なかる可らず。是れ農民が軍國に盡す本分かと信ず。

●(二三七)●オホシモフリスヾメの採集と天田郡の害蟲驅除費(京都府天田郡一農夫)　四月十一日夜午後八時四十分、丹波國天田郡上六人部村字岩崎にて(近傍に梅樹あり)オホシモフリスズメ蛾(雌)一頭捕獲せりと、船本富士馬君より通報ありたり。(編者云、該オホシモフリスズメは船本氏より當所へ寄贈せられたり。仍て茲に其好意を謝す)●財政整理の名を以て經費緊縮の折柄なるも、京都府天田郡々費金貳百圓、各町村費は多きは百貳拾圓、少きは拾圓の害蟲驅除豫防費を備へ、稻の螟蟲、浮塵子には一米粒だも害を被らしめず、桑の尺蠖には一葉だも喰せざらしめぬ覺悟にて、當局者は意氣込居れり。

●(二三八)●螟蟲の羽化と正雪トンボ(靜岡縣、昆蟲生)　去四月十九日夜、既に靜岡近傍にては螟蛾の飛翔するを見たり。同夜靜岡縣農事試驗場にて點火したる驗蛾燈に雄二頭、雌一頭飛び入れり。又同場助手某氏は洋燈に近寄りたる雌蛾一頭を採集せりと云ふ。氣候の暖かなりとは云へ、實に其羽化の早きには驚くの外なし。又た此頃當地はカトンボ即ち正雪トンボ羽化を始めたるを以て、近々正雪トンボの合戰を見るならん。

（二三九）岐阜蝶山形縣西置賜郡に分布す（山形郡西置賜郡十王村南波克治）　予は去四月二十三日我山形縣西置賜郡十王村金剛山麓荒神下にてギフテフ十數頭を見たりしが、相憎く捕蟲網持參せざりし爲め帽子にて漸く二頭採集し、標本となしたり。右報じて當地に分布せることを確證す。

（二四〇）昆蟲雜信（陸奥國、狂昆生）　岐阜地方は最早櫻も笑を納むるの候ならんも、當地にありては今尚ほ殘雪諸所に屯し、四方の山々は半靑半皚の姿である。昆蟲界は、豆娘や蠅の類、二月中より其活動を見、擬蚊は三月より軒端に群飛し、ハヤバテフ、クジャクテフは三月三十日鐵道線路内に其飛翔するを見、本日初めてヤマキテフ、モンシロテフを見受けた●待ちに待つたる日露の戰爭も今は開かれ、殊に連戰連勝、實に欣喜雀躍手の舞ひ足の踏む所を不知の嬉悅は、皆御同感、時に甲辰軍事義會から、此度出征の軍人に繪端書を送つた。夫れに次の如く記してある「祝忠勇武烈帝國軍隊出征」として其繪には蜻蛉が大鷲を攫み殺して日輪を背後の中空に懸れるの圖であるが、中々面白い●予去月東都に遊んで歸途仙臺の第二高等學校の學生と同車したが、彼れの洋服の徽章を見るに蜜蜂であつた故に、予は問を發したら彼れは美的と勤勉を意味すと答へた。昆蟲も斯樣に應用さるゝ樣になると面白くなる（四月十一日投）

雜報

病人の起きて蚊を燒く半夜哉（子規）

螢

搔きすてし種井のきしのうきぐさに夏は螢ぞたれを浸しける（井上文雄）

●昆蟲標本陳列舘案内（其四）　（子）部に移れば各種昆蟲のアルコール漬標本あり（ナ）部は郡部より第五回內國勸業博覽會へ出品せし標本の一部を陳列せしものにして、本巢郡農會より出品の害蟲標本、大野郡農會（三等賞受領）、稻葉郡鶉沼村藤田喜市氏、安八郡農會等の出品に係るものなり。何れも該郡に於ける主要なる害蟲の經過を示したる完全標本にして、特に博覽會へ出品せし物なれば、各注意の上にも注意を加へて調製せられたるものなるを以て、一覽の價値あるべきを信ず。次にあるは當昆蟲研究所より同博覽會に出品せし一部の昆蟲標本にして、冬季に於て採集場所及方法の異なるに從ひ如何なる種類が獲らるゝか、換言せば昆蟲類が冬季如何なる場所に蟄伏し居るかを探究せん爲め、種々の方

法により採集したるものを分類調製せしものなり。故に各種に上圖の如き札を付し採集方法及場所を明かにせり。(ラ)部に移れば分類標本十一箱、外に蝶類各種六箱、天蛾類二箱、天牛類一箱、蟬類一箱、步行蟲類一箱、瓢蟲類一箱を陳列し、一々種名を付して硏究者に便せり。次に田中芳男先生の寄贈に係る世界第一大形の昆蟲あり。次にあるは本巣郡船木小學校兒童の採集に係る百舌鳥の刺餌の一部なり、嘗て其一部は鼠害に罹かりしことありしが、ツチハンメウ、マメハンメウの如きは一も食せざりしを見れば該蟲には毒物の含まれ居るを證せられたり。次にあるは明治三十五年一月中に當所員六名が山及野に於て石起、雜草、木皮、篩網、叩網等の種々なる採集法によりて獲たる蟲類を、同年二月八日より十日間岐阜縣物産舘構內第二號舘に於て開設せし岐阜縣冬季昆蟲展覽會の參考品として出品せしものにして、

冬季採集小札の圖

種類	石起	雜草	木皮	篩網	叩網
山					山
野					

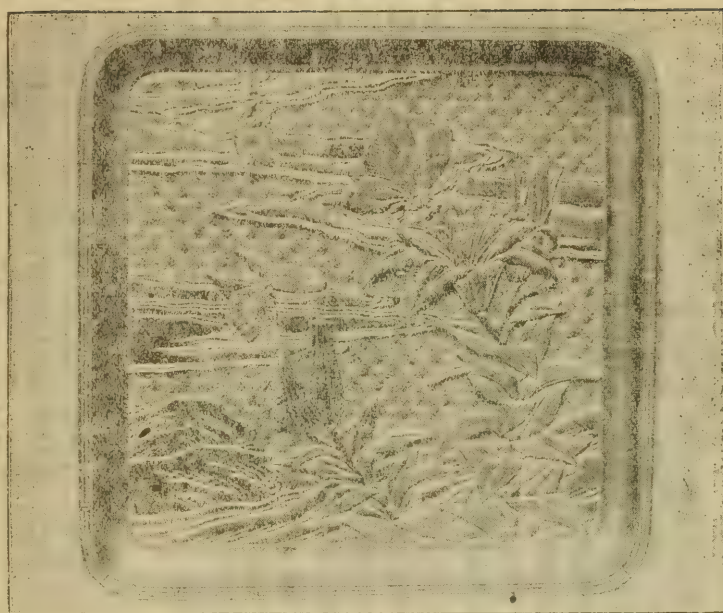
山に於て叩網採集法によりて獲たるもの二百十九種二千四百六十頭を八箱に收容陳列せし內、膜翅類に屬するもの六十一種六百九頭、鱗翅類十三種六十七頭、双翅類六十種九百四十二頭、甲翅類三十八種百三十一頭、半翅類三十二種六百七頭、直翅類五種七頭、羅翅類十種九十七頭ありて、浮塵子類尤も多し。山に於て石起採集法により獲たるもの三十一種六百十二頭(四箱)、內膜翅類八種百八十六頭、鱗翅類一種一頭、双翅類八種十二類、甲翅類四十七種三百六十六頭、半翅類六種三十七頭、羅翅類一種一頭にして、ウリハムシ最多く、スナガメムシ、アヅキガメムシ等之れに亞げり。野に於て石起採集法により獲たるもの九十種八百六十九頭(四箱)、內膜翅類六種八十七頭、鱗翅類二種四頭、双翅類七種十八頭、甲翅類五十一種千三百十六頭、半翅類七種二百二十頭、直翅類一種三頭にして、ナナホシテンタウムシ最も多く、ゴミムシ類、スナガメムシ、コメツキムシ等亦多し。山に於て雜草採集法によりて獲たるもの四十一種六百九十一頭にして(四箱)、內膜翅類二種二頭、鱗翅類一種一頭、双翅類一種一頭、甲翅類九種四百十八頭、半翅類二十四種二百六十頭直翅類二種七頭、羅翅類三種三頭にして、ウリハムシ最も多く、コメツキモドキ、アヅキガメムシ、イチガメムシ、スゝキガメムシ之に亞ぐ。野に於て雜草採集により獲たるもの五十四種九百九頭(四箱)、內膜翅類六種七頭、鱗翅類一種一頭、双翅類一種一頭、甲翅類廿一種五百四十一頭、半翅類十九種三百廿三種、直翅類六種卅六頭にして、七星瓢蟲最多く、アヲバハチカクシ、ホゝヅキガメムシ、ハリガメムシ等之れに亞ぐ。山に於て木皮採集により獲たるもの七十一種六百十二頭(四箱)、內膜翅類八種百八十六頭、鱗翅

類一種一頭、双翅類八種二十一頭、甲翅類四十七種三百六十六頭、半翅類六種三十七頭、羅翅類一種一頭にして、ヤニサシガメ、キクヒムシ最も多し。野に於て木皮採集により獲たるもの七十四種千六百四十八頭(四箱)、內膜翅類六種八十七頭、鱗翅類二種四頭、双翅類七種十八頭、甲翅類五十一種千三百十六頭、半翅類七種二百二十頭、直翅類一種三頭にして、象鼻蟲類最も多し。山に於て篩網採集により獲たるものは二百三十一種二千百五十頭(四箱)、內膜翅類二十九種八十九頭、鱗翅類五種十三頭、双翅類十七種六十六頭、甲翅類百二十二種千五百四頭、半翅類四十九種四百六頭、直翅類七種六十八頭、羅翅類二種四頭にして、コメツキモドキ、ウリハムシ尤多し。野に於て篩網にて獲たるもの百五十七種千五百三十五頭(四箱)、內膜翅類十三種三十頭、鱗翅類一種三頭、双翅類十四種二十九頭、甲翅類八十七種千百三頭、半翅類三十五種三百十頭、直翅類五種五十六頭、羅翅類二種四頭にして、サルハムシ、白星瓢蟲、青腰蟲、浮塵子の類多し。而して之れ等の標本は簡易製作法に依りたれば、外觀甚だ美ならずと雖も、能く玩味せば斯學研究上必要なるのみならず、農業家を利する多大なるを信ずるを以て、稍詳細に說明したる次第なり。次にある十箱の害蟲標本はミノムシ、アヲバハゴロモ、オホスカシバ、セスジスヾメ、ヒメコガネ、タケケムシ、テンダウムシダマシ、ホホヅキガメムシ、ウメケムシ、マツケムシメダカガメムシ、マメコガネ、マメハンメウ、モンシロテフの十四種につき、經過及被害の模樣を示したるものにして、亦農家に必要なる標本なり。

◉**佐々木博士の新著**　農科大學彙報第六卷中、佐々木博士の論文(英文)三編あり、皆斯學研究者の一讀を要すべきものなるを以て、左に是が概略を紹介せん。

On the wax-producing coccid, Ericerus pe-la Westwood.　此編はイボタ蠟を生するイボタカヒガラムシに就きて論せるものにして、最初に貝殼蟲によりて分泌せらるゝ蠟は通常蟲白蠟と稱せられて特殊の用に供し、通常イボタノキ。トネリコに生じ、小野蘭山の說によればネズミモチに生ずることを說き、次に外人の文献を引用し、遂に著者の實驗に論及し、第一に雌蟲の形狀より透明粘着の液を分泌すると、産卵のこと、卵の形狀を記して雄蟲の形狀に至り、次に此蟲の變躰即ち發生經過を說きて、其生產物に論及せり、本文十二頁にして彩色の美麗なる圖版二枚を挿入せり。

On the Feeding of Silkworms with the Leaves of Cudrania triloba, Hance.　此編は支那産の植物、奴柘Cudrania Trilobaを以て蠶を飼育したる結果を報ぜるものなり。即數年前本邦産の家蠶を飼養するに奴柘

應用昆蟲畫の一

の葉を以せしに、其結果十分ならざりしかば、支那に於て奴柞の葉と一部の桑葉とを以て飼へる家蠶の卵を取り寄せて之を飼育せしに好結果を得たりとて、其各齡に於ける生長の次第を記し、第四齡に於て之を二群に分ち、Aには奴柞のみを與へ、Bには奴柞と桑とを與へしに、AB其色彩を異にして、繭も亦其色を異にしたることを述べ、次に柞蠶とアヲビキ種との生長時日の差を表にて示し、次に奴柞のみにて養ひたるものと、奴柞と桑とを以て養ひたるものゝ繭より績きたる糸の重さ及び其長さを表示し又柞蠶に對する蛆蠅の關係を述べたり。尙其結論を擧ぐれば○第一、柞蠶は邦產種の五齡なるに關はらず、四齡を經るのみなり、而して邦產種と殆ど同一の大さに達し、食物を要する量も略同一なり。第二、柞蠶の繭より績ぎたる絲の量及び質は決して邦產の家蠶より劣らざること。第三、全く奴柞の葉を以て飼養したる柞蠶は蛆蠅の寄生を受くることなきこと。本文五頁にして彩色圖版二枚を挿入せり。

Some observations on Antheroea Yamamai. G. M., and the mothod of its Rearing in japan. 此編はヤマヽユにつきての觀察と日本に於ける飼育法とを記述せるものにして、最初に此蛾が從來多數の人によりて研究せられたることを述べ、次に此蛾は本邦の各地特に山地に於て廣く分布せることより、幼蟲の食物は櫧の種類即ち櫟、枹、ウバメガシ、ウラジロガシ等なることを說き、幼蟲は四月の末より出現し、六月の末、或は七月の初めに於て十分の大さに生長し、繭を績きて翌一週間の中に蛹

化し、其後四十日乃至六十日を經て羽化すること、其一雌は百五十より三百個の卵を產し、羽化後略一週間に於て死し、卵は冬を越え翌年の春に孵化することを說き、次に幼蟲の眠齡に於ける大小形狀の變化特に第四齡に於ける銀色點の數の如きは、廿頭につきて其多少を示し、次に繭及び蛹の形狀を說き、次に雌雄蛾の形狀を記し、最後に即長野縣有明村に於て行はるゝ野外飼育法を記述せり。本文七頁にして三色着色圖版二枚を挿入せり。

◉本號揭載の應用昆蟲畫に就て　本號に揭載の應用昆蟲畫の一、堆朱彫百合に黑鳳蝶の菓子盆は、新潟縣佐藤榮氏の寄贈に係るものにして同氏は特に同地方の彫刻家山脇松胤氏に命して彫刻せしめたるもので、其技術は中々見事にて、一見其熟練せるを知るも、蝶には聊か物足らぬ心地がする。是れ彫刻者に昆蟲の智識がない爲めであろう特に甚しいのは次に圖せる四脚の長角螇蚸(應用昆蟲畫の二)、八脚の蟷螂(同三)で、こは曾て當所員が安藝の宮島に到りし時紀念として同地有名の彫刻師某より求めしもので、前者は竹製の煙草入、後者は木製の菓子器である。其際某は先年シカゴの萬國博覽會に於て名譽賞狀を得しとて非常に自負し、其鋭鋒殆んど當るべからずと云ふ次第であつたから、所員は然し四脚の螇蚸には恐れ入るではないかと云ひ、其誤れるを聞かしめたら直ちに彫らんと云つた。所で今度は八脚の蟷螂は如何にすると云つて大に笑つた。實に昆蟲思想なき爲、何事でも折角のものが一文の價値なきものになるのは、返す〲も遺憾の極である。

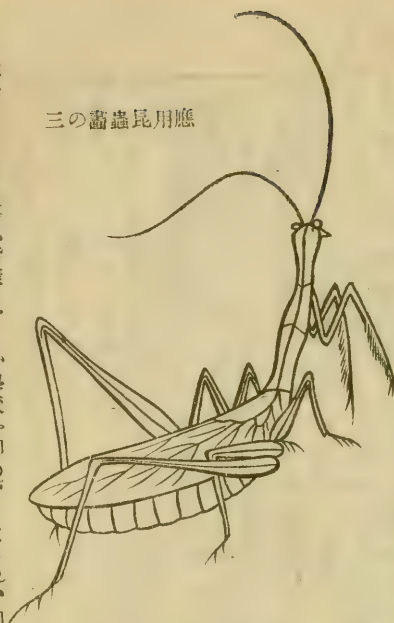
應用昆蟲畫の二

◉養老郡高田小學校の學藝會　岐阜縣養老郡高田尋常高等小學校に於て、去二月十三日同校の學藝會(女子部)開設に際し、當所長は森同校長の案内により之を傍聽せられたるに、尋常一年生より高等四年生に到る迄、二十餘名かはる〲、或は談話、或は朗讀をなせり、其內昆蟲に關するもの數名ありたる由なるが、今其原稿を得たれば、左に其一を揭げて讀者に紹介することゝなしぬ。

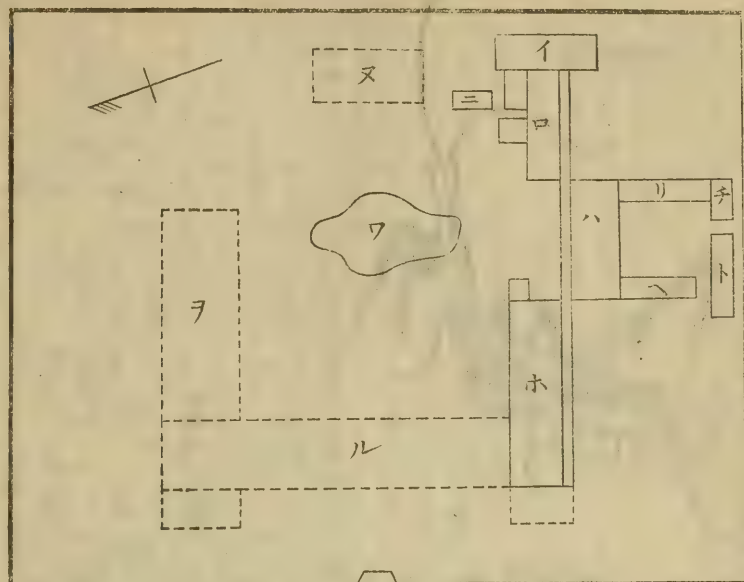
◎まかぬ種は生えぬ

高等科第四學年　佐竹美津ゑ

諺に蒔かぬ種は生えぬと云ふヿがあります、佛教の方では因果と申しますが最な事であります。豌豆の様な植物も種子をまかなんだならば花を開き實を結ぶヿはないでありませう。皆様も最早一、二ヶ月で證書授與式に御逢ひなされ、立派な證書を得られ目出度及第或は卒業せられます事が出來るのも、何時かよい種を蒔てをかれたからでありませう。このよき種子と云ひますは、みなさんが一ヶ年間風雨寒暑も厭はずに、毎日學校へ御通ひなされ、一心に御勉强なされたに依るのであります。

そうでありますに、田や畑などを害します恐ろしい害蟲、殊にうんか、ずいむしなど云ふわるい蟲が多くあります。これらの蟲は冬は見るヿが少くありますから、百姓のなんにも知らん人たちは此蟲は氣候の寒暖によつてわくのであつて。わく年にはわくし、わかぬ年にはわかぬものであると云ひまして、警察署、郡役所、役場等から害蟲を取りのける事即ち驅除するヿを申されますと、此等の人々は前述の様に思ふて居りますから、仕方なしにいや〳〵取りまれのやうなヿをする人がまゝありますが。之は大なる心得違の人であります。彼の害蟲はわくのでなく、又決して冬居らんのではありません。冬は冬眠と申しまして藁、稻のかぶなどに卵、幼蟲等と種々形を變へてすくんで居るから、吾々がよけ見るヿがないのであり升。かくて冬寒い中はすくんでをりますが、だん〳〵暖くなりかけますとめをだしかけまして、百姓が難儀して苗代田を作り種子を蒔きました苗に卵を生みつけたり、がいをわつたり致します。百姓はそれも知らずに苗を本田にうつし、一生懸命に肥料をあたえ、耕作をします。害蟲は驅除せられる事がありませんからよいあんばいだと思ふて、大なる速度を以て繁殖し、だん〳〵と害を及ぼし、莖をかぢり、葉を枯し、苗の發達を害します。このときに及び彼のわけを知らん心得違ひの人は始めて氣がつき、そら蟲がわいたと云ふてあはてふためきて驅除しにかゝつても、蟲は大變にふゑました時でありますれば功能は一向ないのであります。それよりは未だ苗につかまり卵で居る頃に驅除したならば、雜なく取れるでありませう。そうして此の驅除法はむつかしくないものであつて、年寄りでも子供でも、いくらも出來るヿであります。故にたれでも害蟲驅除と云ふヿをせられたならば、面白く且つ運動になるばかりでなく、一家の利、大きく申せば國家のためにもなる誠によい事でありますれば、皆様もどうか學校を御あがりなされ、御勉强の暇があつたならば、勉めて驅除してもらいたいものであります。

應用昆蟲畵の三

◎當所移轉地略圖に就て

當昆蟲研究所の移轉地は、岐阜市の東北方金華山麓なる公園内に

於て、面積二千五百餘坪を劃し、其周圍には自然に高く小堤をなして老松立ち連り、殆んど中央に一小池と築山あり、池には二ケの噴水ありて、一つは高く、一つは此水力を應用し、種々の車が廻り居て、童幼の眼を怡ばしむるも、更に之を昆蟲の方へ應用せんと、今より大設計をなし居れり、其傍には目下螢の飼育場を建設中なり。今回移轉の建物は圖に示す實線の分即ち百七十餘坪にして、此内移轉濟になりしは（イ）（ロ）（ハ）（ヘ）（ト）（チ）（リ）にして、點線の分二百餘坪は全く擴張の分で、漸次建設の豫定なり。

（イ）（ロ）は昆蟲標本室（ハ）は研究室（ニ）は養蟲室（ホ）は二階建研究室（ヘ）（ト）は住家（チ）は物置（リ）は炊事場（ヌ）は特別標本室（ル）は二階建昆蟲標本陳列室（ヲ）は宿舍並に研究室（ワ）は池

◉當所移轉地と昆蟲採集談　移轉したる當所の位置は、別項にもある如く岐阜市の東北隅金華山麓で、北には鵜飼で有名なる長良川が流れ、織田信長公の居住地たりし千疊敷は當所より數十間の山腹である。鬱蒼たる金華山は海面上一千尺にして、山頂に古城趾あり、實に好風致である、のみならず各種の植物に富めるに伴[illegible]せざ[illegible]蟲の種類も自か

ら多く、奇種珍品亦決して少なくない。四月上旬の事なりき、所内庭園を飛翔する[illegible]れたの蝶を捕ふれば其内に彼のギフテフの加ふるのである、是を見ても今後研究に便利である事は証明さる丶。若も庭内にウスバサイシンを植え置かば、岐阜蝶の自然に來りて産卵することは請合である。夫れ故庭内には自然の有様に草木を作るの必要あれば、目下着々歩を進めて居る次第である。實に今回の移轉地は採集に極めて便利なるのみならず、千疊敷の邊迄行かば常に清流潺々として小瀑布をなし、夏尚暑氣を忘れ、知らざるの間に種々の昆蟲を採集することを得るは、常に實驗する所で、時々休憩の時間に一寸捕蟲網を振て意外の獲物ありし事は屢々である。若し今後講習會が開かれても、廣大なる教室が設けらる丶上に天然の研究室が具つて居るから、便利と利益は云ふ迄もない。若し一山を越へて岩戸と云ふ所に行かば最も妙、尚一坂を越ゆれば更に妙なり。茲迄採集場所の秘密を漏せば、熱心なる諸君の中には續々當地に採集を試みられ、爲に當所は一大恐慌を來さん恐れあるも、斯學の爲めを思へば大ひに歡迎する所である。尚金華山中に於ける夜中糖蜜採集並に長良川水棲昆蟲採集談等は追々述ぶることに致さん。

◉シンムシ驅除管督規程　桑樹の害蟲たるシンムシは、岐阜縣が殆んど其本場とも云ふべく明治三十一年以來之が驅防に努め來り、其成蹟稍見るべきものありしも未だ十分の効果を得ざりしが、目下加害時期なれば、隣接地なる愛知、長野の二縣にも照會し、本年は是非共根本的に驅除せんとて、左の如き驅除管督規程を設け、目下督勵中なり。

一、縣廳より監督員として左の區域に依り吏員を出張せしめらる丶こと。

可兒、土岐及惠那の木曾川以南一人。加茂郡及惠那の木曾川以北一人。武儀郡及益田郡一人。郡上郡一人。大野郡及吉城郡一人。

二、前項の監督員の事務概れ左の如し

(イ)郡長、警察署長、分署長等と協議し、驅除の順序方法を定め且之れか實行を監督すること。(ロ)驅除其他の狀況は五日目(此の日並は五十の日とし、各方面一致せしむるものとす)毎に報告すること。但急報を要するものは時々報告のこと。(ハ)町村を巡視し、凡別紙甲號標準に基き驅除を行はしむること。(ニ)各町村に於ける狀況調査の上、別紙乙號表式に依り歸廳後報告すること。(ホ)作人驅除を行はず、法律を適用し命令を發するの必要あるときは、關係者と協議し、區域、命令事項、期日等を即報すること。

三、害蟲驅除監督囑托員十一人を設けられ、左の通配置すること。

調査及監督　二人。可兒、土岐兩郡及惠那南部　二人。惠那北部　一人。加茂郡　一人。武儀郡　一人。益田郡　一人。郡上郡　二人。大野及吉城郡　一人。

四、前項の監督囑托員は第一項の監督員を補け、實地に就き驅除を監督し、其狀況は毎五日（五、十の日に各方面とも一致のこと）報告するものとす。

（甲號）桑樹害蟲シンムシ驅除監督標準

一、町村長をして害蟲驅除豫防規則の命令を發せしむること。
二、前項の命令には概ね左の事項を具備せしむること。
（イ）驅除の方法及期日（此の日限は少くとも一大字以上同日に定め又間隔凡五日（雨天順延）を以て一回つゝの驅除を終熄まで繼續すること。（ロ）桑園には作人の名札を見易き所に建てしむること。（ハ）摘採したる桑芽は成るべく益蟲保護の設備（目籠に入れ水を盛り石油を少しく散布したる盥等の上に吊し置く等）をなさしむべし。若し其設備を爲し難きときは肥料瓶に投入せしむること。
三、町村に於て左の設備を爲さしむること、
（イ）監督員を可成大字毎に一名以上設置し其氏名住所は豫め郡役所及警察署に報告すること。（ロ）害蟲驅除に關する日誌を作ること。（ハ）桑園作人他町村に在るときは豫め驅除の日並を通知し同時に驅除せしむること。（ニ）別紙乙號表に準し調査を爲すこと。（ホ）役場員も亦驅除を監督すること
四、指定の期日に於て驅除に從事せず、又驅除するも不完全なるときは之を諭示し、又は警察官署に報告して召喚說諭を求め、不履行のものゝ爲に完全に驅除を行ひたるものを害せしめざる樣注意すること
五、本年に於ては害蟲驅除豫防費の補助を與へざる見込なるを以て其旨町村長を經て通し置くこと
六、出張員は苗代の改良及其害蟲驅除又は其他の桑の害蟲ケムシ、エダシヤクトリ、ハムシ、ハマキムシ等をも併せて驅除する樣奬勵監督すること。

（乙號）

町村名	大字名	發生月日 終熄月日	桑園 總反別	被害反別	被害步合 及狀況	被害桑 芽摘採量	損害見 積價格	驅除開始月日 同終了月日	備考

備考欄には詳細の狀況を記載すべし

● 天蛾類の印刷と受賞　當所にては今回名和日本昆蟲圖說なるものを發行することは、已に豫告によりて讀者諸氏の知らるゝ所なるが、該圖說第一卷は天蛾類にして、目下其圖版第三版迄印刷濟みとなり、全部も遠からず出來の運びなるが、當所の畫工及西濃印刷會社の石版部は、昨年八月以來專ら之に當り、原料の精撰は勿論、勞力と時間を惜まざれば、其精巧なるは茲に言を要せざるが、同會社は

其中二版を、先月飛州高山に於て開かれたる五二會品評會に出品し、銀賞牌を得られたり。今該出品解說書を得たれば之を左に揭載せん。

印刷物出品解說書

岐阜縣安八部大垣町大字郭百五拾參番戸

出品人　西濃印刷株式會社

第一號　天蛾類着色圖

本出品は名和昆蟲研究所長名和靖氏の考案に係るものにして、同氏は今回名和日本昆蟲圖說なるものを發行せんとて其印刷を當會社に依賴されしかば、當會社は之を引受け、今や其第一卷の第一、第二圖版を印刷したるもの即ち本出品にして、玆に同氏の許諾を得て出品したるものなり。該圖版は本邦產天蛾類三十餘種を圖解し、全五圖版より成ると雖ども、現今尙印刷中にて全版を出品するを得ざるは甚だ遺憾とする處なり。抑も印刷物中困難なるは色刷にして、特に昆蟲の色刷の如きは最も困難なるものと信ぜらる。如何となれば、昆蟲の分類たる、其色彩、紋理の如何、觸角、翅脈、肢脚關節等の微細なる點に至る迄、絲毫の差は遂に千里の誤を招くものなれば、之を印刷するに際し、綿密なる用意と、十分の注意とを缺きたる時は、專門家の眼には一文の價値をも有せざるに至るべし。然るに本圖版は、專門家監督の下に、熟練なる畫工の手によりて、皆な實物より寫生せしめ、特に十分精巧なる印刷者の手によりて成りたるものなれば、本邦に於ける完全なる昆蟲圖版の嚆矢たるは固より論なく、之を歐米諸國に示すも決して間然する處なきを信ずるなり。蓋し、該圖說出版の目的たる、名和昆蟲研究所にて調査されたる天蛾類を、獨り日本人に知らしむるのみに非ずして、廣く海外に示して、日本國に於ける斯學界の進步を示し、併せて本邦に於ける印刷業の進步をも知らしめんとするにあり。故に該圖版の明說は和英兩文を以てし、之れが印刷も近々着手するの順序に及べり、目的既に此の如くなるを以て、本會社は是に對して十分の責任を負ひたる所以なり。

審査請求の主眼　本圖版の、其眞に迫るは當會社獨特の技術にして、本邦は勿論、海外に於ても多く其比を見ず、故に該圖說の世に出

祝捷會餘興　西濃印刷株式會社の蜻蛉軸

づる時は、當會社の名譽のみならず本邦の面目を保つことゝ信ず。

◉**西濃印刷株式會社の祝捷會と蜻蛉の軸**　西濃印刷會社職員七十餘名は、去三日戰捷祝賀會を催されたるが、其餘興として、同社員は悉く意匠を凝したる聯隊旗模樣の服に、白チル洋袴、眞紅の帽子を戴き、四間餘の大蜻蛉が白旗を手にせる黑鳩を取挫かんとする飾り軸を曳き、征露軍歌を唱へつゝ行進したるは勇ましく時節柄昆蟲を應用したる處興味多く非常の喝采なりしと云ふ。上圖は即ち同社前に於て撮影したる其一端なり。

◉**長期害蟲驅除講習生の行方**　去三月を以て修了せし岐阜縣長期害蟲驅除講習生近藤伊祐氏は、農學及昆蟲學研究の爲め、北米カリフホルニア洲ワツリンビルへ向け、去月二十二日當地を出發し同渡邊樵四平氏は縣農會技術員となりて飛驒地方へ出張中にして、其他中井、小川、大橋の三氏は縣又は郡の害蟲驅除管督員を囑託せられ、各地方へ出張せり。

◉**シンムシ驅除管督員**　別項記載の如く、岐阜縣にては桑樹害蟲驅除の爲左の諸氏に本縣より該管督員を囑托せられたり。

可兒郡、土岐郡及び惠那郡の木曾川以南　小川謙司(長期講習)。郡上郡　古田恒彥(岐阜縣短期講習)
武儀郡　所嘉吉(特別研究)。益田郡　伊藤茁次郎(特別研究)。吉城郡　中井藤助(長期講習)。惠那郡の木曾川以北　松下千吉(岐阜縣短期講習)。加茂郡　馬淵治郎(特別研究)

◉**岐阜縣昆蟲學會第六十五回月次會記事**　本會は例により去る七日午後一時より、當所事務室内に於て開會せり。第一席森宗太郎氏は、本月一日より六日間縣下加茂、可兒、武儀の三郡へ桑樹害蟲シンムシ調査に出張せし顚末より、該蟲の習性經過に就て述べ、第二席所嘉吉氏は椿の花と昆蟲に就て、氏の實驗によるも椿の花の花粉媒助は、昆蟲よりも禽類によりてなさるゝ方多しと述べ、第三席小森省作氏は僞步行蟲科(Tenebrionidae)と朽木蟲科(Cistelidae)に就て說明し、第四席雄山瑞倫氏は佛教と害蟲驅除につき、平等門と差別門より論じ、害蟲驅除は却て功德善根なりと述べ、暫時休憩の後、第五席小竹浩氏は時局と害蟲驅除と題し、實業者及教育者の覺悟を述べ、第六席名和靖氏は金華山麓の昆蟲と題し、氏が金華山麓に於ける多年の實驗談より、當所將來の計劃を說明せられ、午後四時閉會せり。

◉**昆蟲標本陳列館の參觀人員**　去る四月中、當昆蟲研究所常設の昆蟲標本陳列館を參觀せし人員は總計三千四百八十四人にして、其の內最も多かりしは七日に於ける二百四十五人、最も少なかりしは十五日に於ける五十二人にして、一日平均百三十六人弱に當り、此の內實業家、學生最も多く、之れに次ぐは各府縣の敎育者、勸業視察員等なりき。

(雜報五月十二日脫稿)

Langia zenzeroides Moore. var Nawae Lothschild. (Oshimofuri-suzume)

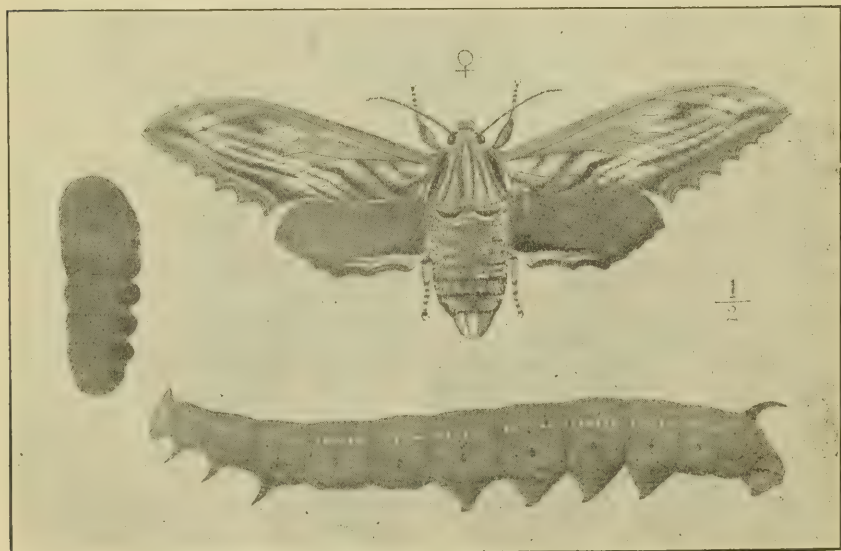
By K. Nagano.

Forewings white, sprinkled with blackish brown; costal, marginal and inner parts greyish pale-blue; five irregular blackish brown bands from dorsum towards apex, sometimes indistinct; outer margin very dentated; marginal line lilac grey with white inner fringe. Hindwings yellowish grey, with silky lust; marginal area lilac grey, with two white lines; submarginal line blackish brown; a short blackish brown band towards inner margin. Expanse 150–160mm. Thorax greyish pale-blue, with a deeper back belt, black lateral belts and several greyish yellow lines; abdomen greyish brown; body rough scaled.

Kiusiu, Honsiu; 5–9. Larva generally green; whitish yellow dotted; subdorsal line whitish yellow with a continual small process; horn very short, ochreus yellow, whitish yellow dotted. on prunus Mume, s et z, P. Armeniaca, L, etc.; 7–10.

昆蟲世界

（明治三十七年五月十五日發行） 第八卷第八拾壹號 （毎月一回十五日發行）

（明治三十年九月十日内務省許可）（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◉昆蟲文學募集廣告

▲小品文　昆蟲亂題（但季に關するものは夏）
▲新體詩　同（同）
▲漢詩　同（同）
▲和歌　同（同）
▲俳句　毛蟲十句（六月十五日占切）

投稿占切期日毎月十五日▲投稿用紙は郵便端書にても宜し▲屆先は岐阜市公園内名和昆蟲研究所

生儀今回農業及昆蟲學研究の爲渡米可致候に付ては餞別の御厚意に預り且つ御見送被成下候段奉感謝候就ては本日解纜の瀛船に無事搭乘致候間此段御禮を兼ね辱知諸彥に謹告候也

岐阜縣長期害蟲驅除講習修業生
四月廿六日　近藤伊祐

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

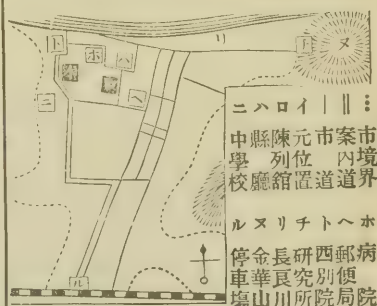
岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市京町名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所内
岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第六十六回月次會（六月四日）
第六十七回月次會（七月二日）
第六十八回月次會（八月六日）
第六十九回月次會（九月三日）
第七十回月次會（十月一日）
第七十一回月次會（十一月五日）
第七十二回月次會（十二月三日）

◉名和昆蟲研究所案内

⋮ 市境界　‖ 案内道　｜ 元位置　イ 陳列舘　ロ 縣廳　ハ 中學校　ニ
ホ 病院　ヘ 郵便局　ト 西別院　チ 研究所　リ 長良川　ヌ 金華山　ル 停車場

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園内即ち（チ）の位置に移轉せり、又常設の昆蟲標本陳列舘（五間に十八間）は從前の通り岐阜縣物產舘構内にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部　郵稅共　金拾錢
壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢
〔見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す〕

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉郵券代用は五厘切手にて壹割増とす◉爲替拂渡局は岐阜郵便局

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢
三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年五月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二
（岐阜市公園内）
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二
發行者　名和梅吉

同縣揖斐郡鶯村大字公鄉三番戸
編輯者　小森省作

同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF
"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"
GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] JUNE. 15TH, 1904. [No. 6.

昆蟲世界

第八巻第六冊　明治三十七年六月十五日發行　第八拾貳號

(明治卅年九月十四日第三種郵便物認可)

目次（禁轉載）

(毎月一回十五日發行)

名和昆蟲研究所發行

本所擴張寄附金品領收廣告第三回

一金壹圓也　岐阜縣揖斐郡本郷村　森　鉄次郎君
一金五十錢也　千葉縣印旛郡遠山村　齋藤啓二君
一金壹圓也　岐阜縣山縣郡保戸島村　岡田只治君
　右一名紹介人　岐阜縣　篠田五郎君
一金百圓也　新潟縣岩船郡神納村　佐藤研動君
一金壹圓也　茨城縣農事試驗場内　日比野吉彦君
一金壹圓也　三重縣志摩郡鳥羽町　大矢圓三郎君
一金拾圓也　備中國都窪郡妹尾町　兒島灣開墾事務所
一金拾圓也　岐阜縣本巣郡鷺田村　馬淵治郎君

　小計金百貳拾四圓五拾錢
累計金五百八拾壹圓拾貳錢

一大形硝子製鉢一個　厚板硝子十枚　岐阜市美園町　中川喜三郎君
一旗竿（長サ九間杉材）一本　岐阜市靱屋町　宮島助三郎君
一天幕柱（長サ一丈樫材）五本　岐阜市河原町　竹中正義君

右御寄附相成候に付茲に芳名を掲て其厚意を謝す

明治卅七年六月八日
岐阜市公園内
名和昆蟲研究所

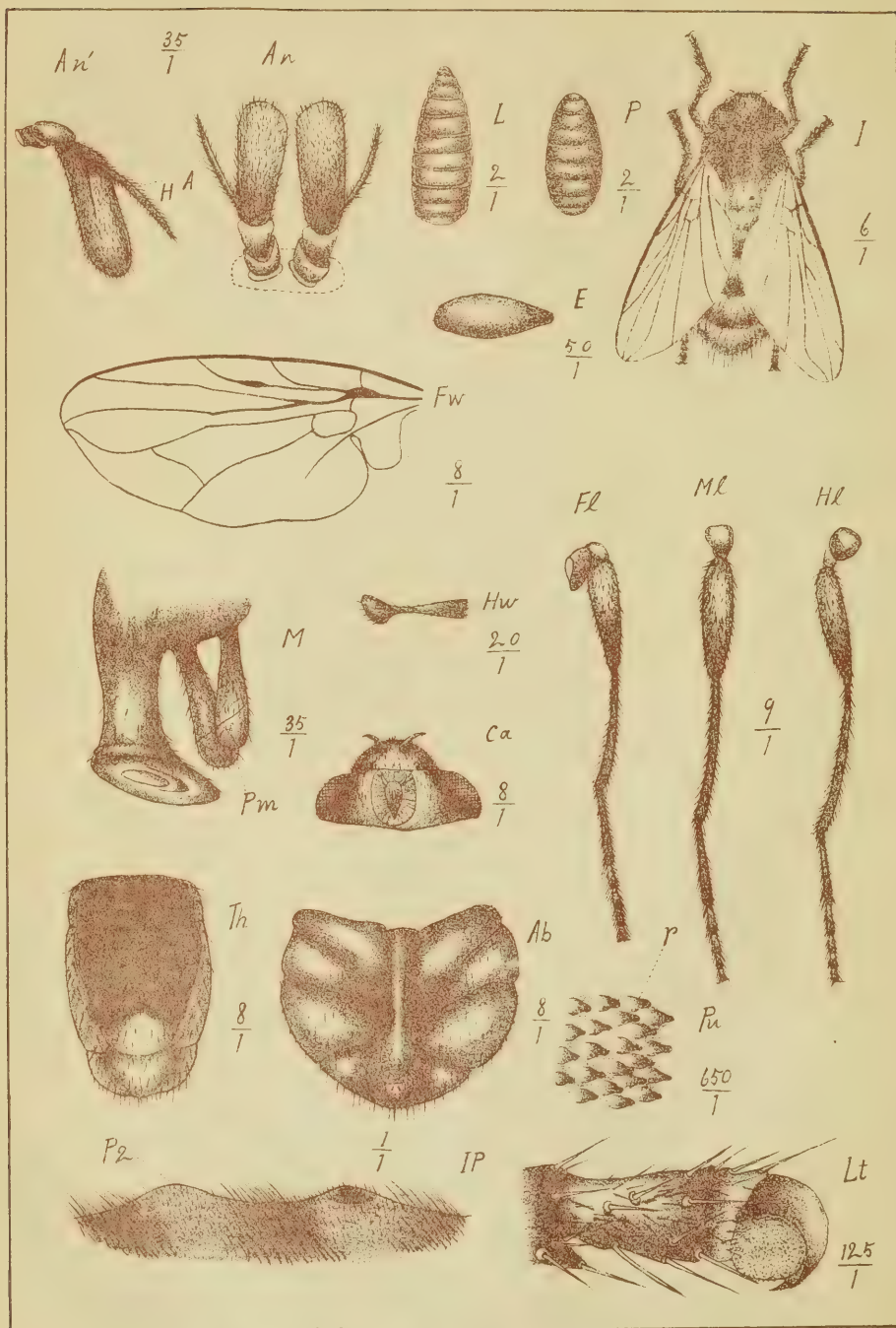
●本所擴張寄附金品募集廣告

本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園内にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より敎室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へんとす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは喪心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

岐阜市
明治卅七年三月　名和昆蟲研究所

大方諸君

An′
35/1
An
H
A
L
2/1
P
2/1
I
6/1
E
50/1
Fw
8/1
Fl
Ml
Hl
Hw
20/1
M
35/1
Pm
Ca
8/1
9/1
Th
8/1
Ab
8/1
r
Pu
650/1
P2
1/1
IP
Lt
125/1

犬寄生蠅の發育と解體

（明治三十七年第六月）

論説

蟬の聲
共に吹かるゝ
梢哉
（子規）

◎再び時局と害蟲驅除に就て

皇師一たび蠻露膺懲の途に上るや、海に、陸に、戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず取り、正義の師の向ふ所敵なく、大に我國威を宇内に發揚し、世界各國の異口同音に賞讃して止まざるに至りしは、是れ至仁至聖なる　大元帥陛下の御威稜によると雖ども、亦忠實勇武なる、我陸海軍人の偉勳の然らしむる所たらずんばあらず。然れども戰は未だ初期にあり、只目前の戰勝に驕酔せず、上下等しく最終の目的を達するに汲々たるは將に然るべき所なり。

吾輩爰に此最終の目的を達する爲め、擧國一致して財力の充實を圖り、軍人をして後顧の憂なく、振古未曾有の武力を發揮するに遺憾なからしむるには、寧ろ積極的方法を取るの可なるを論したりしが、幸にして、小部分を除くの外は、各府縣此方針を一にし、或郡の如きは經費節減の間に處し、直接生産的事業費に向ては削減せざるのみならず、特に害蟲驅除費の如きは、寧ろ增加するも、必竟最終の最大收利を目的とし、着々進行しつゝあるは、是れ其作戰計畫の當を得たるものにして、誠に慶賀すべきの現象なり。さはいへ、茲に農家に向て尙一言を呈するの止むを得ざるものあるを如何せん。抑も害蟲驅除の事たる、之を既往に徵するに、其聲の漸次高まり、當局者亦熱心に之れが實行を謀ると雖も、其効蹟

の擧らざる、必竟農業者自身の肺肝より出でし驅除にあらずして、只一片の義理的と云はんより寧ろ申譯的の驅除者多きを以て、徒に勞して効なきのみならず、折角の良法も、全然効なきを疑はしむるに至る。又遺憾ならずや。現時害蟲驅除の効果如何は、驅除其者の方法よりも、之を實行するの方法を講究せざるべからず。曩に大日本農會に於ては、懸賞を以て螟蟲驅除の方法を募集せられしを以て、妙案奇策の發表せらるゝ遠きにあらざるべし。然れども如何に明案なりとも、依然として申譯的驅除たらしめば、何ぞ好果を收むるを得んや。要するに、驅除者其者が精神的に一致實行せば、假令驅除の方法は稍拙なりと雖ども、必らず以前に倍蓰するの効果を得らるゝ期して待つべきなり。今や軍國多端にして、國力の充實を謀るに急なる秋に當り、依然舊套を脱せず、連戰連敗の醜躰を演ずる如きは、軍國農民の一大恥辱と云はざるべからず。起てよ農民諸士、害蟲軍如何に猛烈なるも、當局者の熱心細密なる作戰計劃と、農業者諸氏の精神的實行により機先を制せば、害蟲軍の撲滅を圖る、敢て至難の事に非らざるべし。奮へよ農家諸君忠勇なる我外征の同胞が、滿洲の野に健闘しつゝあるに對し、害蟲軍と奮戰して敢て遜色なきを期せよ。

人力の
森に入るや
蟬時雨
（子規）

◎鱗翅類の幼蟲に就きて

在東京　長野菊次郎

蝶蛾類の幼蟲の形は、下面の略平坦なる長き圓筒狀を呈し、全體殆んど同一の厚みを有するを常とすれども、往々兩端に至るに從ひ其厚みを減じて恰も紡錘狀を呈するあり、例へばヒカゲテフ、ジヤノメテ

フ等の如し。又ウチムラサキ、ルリシジミ其他シジミテフ類の幼蟲は收縮して貝殼蟲狀を呈し、セミヤドリ蛾の如きは略楕圓狀にして蛆の狀態を呈し、トゲシャクトリの如きは背部起伏し、葉質に孔を穿つハホリムシの如きは全く扁平なるを常とす。

體は頭部と胴部とに分れ、頭部は七關節の癒合して一塊となれるものなりと云ひ、胴部は十三節より成りて、前方三節は胸部に當り、後方十節は腹部に當る。然れども各種の幼蟲に於て、腹部の後方二三節は殆んど相癒合すること多く、特に第九節は甚だ小なるを以て、通常腹部を九節に算する人多し。

頭部は顯著なる部分にしてカイチン質にて形成せられ、其大小形狀には種々あり、稀には收縮して甚だ小なることあれども、通常胸部關節よりは明に之を區別すべし。其形は球狀を呈するを常とすれども、往々モ、スズメ、オホシモフリスズメ等の如く三角狀を呈するあり、コムラサキ、ゴマダラテフの如く二個の角狀突起を有するあり、或は側部に二個の隆起を有するあり、或は扁平又は截形を呈するあり。頭部を形成せるカイチン板は三個にして、兩側に位する半球狀の大板を顱頂板或は顳顬板と稱し、其前方にある小形の三角板を前頭板或は額板又は顱頂間板と稱す。顱頂板の前端兩側には各通例六個の單眼を有し、鉤狀に配列せり。其下部前方に觸角を有す。觸角は三或は四關節より成り、基部の一節は大にして自由に伸縮すべく、其先端には通常二本の粗毛及び數多の小突起とを有して外界の刺戟に感す。幼蟲が食物を搜索する時などに注目すれば、絶えず之を振動するを見るべし。口器は四箇の器管よりなるものにして、其第一を上唇と云ひ、額板の前端に位して略腎臟形をなせり。上唇の下方に當り、左右兩側より出でたるキチン板を上顎と云ひ、其形略長方形にして左右嚙み合ふ部分には數箇の鋸齒狀突起を有す。上顎の下方兩側より突出するを下顎と稱し、二乃至四節を有する圓錐狀突起と、感觸小突起を

有する球狀突起とを有す。前者を稱して下顎鬚と云ふ。下唇は口孔の下部より突出したる膜狀器官にして、左右二片の癒合より成り、二關節より成れる下唇鬚を有す。又其先端の中央より略圓錐狀を呈せる管を出せり。之を紡績孔と云ふ。蓋し此孔を通して絹絲を績出するものなり。頭部の色は胴部と同色のものなきにあらねども、多くは濃淡の度を異にするか又は全く其色を異にせるもの多し。例へばメンガタスズメ、スズメガの頭部は胴部よりも一層濃き綠色を呈し、シモフリスズメの頭は胴部よりも淡色を呈せり。其他多數の蝶蛾は黑褐、赤褐等の暗色を呈せり。又其色彩は頭部全く一樣にして紋理を有せざることとアゲハノテフ、クロアゲハ、ヤマガマス、テグスムシの如きあり、或はハンノキケムシの如く斑紋を有するあり、又エビガラスズメ、モモスズメ、カレハガ等の如く一箇或は二三箇の縱條を顱頂板に有するもあり、ビロウドスズメの如く網狀紋を有せるもあり、又其の面は平滑なること通常なれども、粗糙なることも亦少からず、往々微細の顆粒を有することとクチバスズメ、モヽスズメの如きあり。胴部即ち胸腹部は柔軟にして、往々襞皺ある皮膚を以て被はれ、甚だ移動に適せり。一節の襞皺數は種によりて一定せるものなり。胸部の第一節を前胸と云ひ、第二節を中胸と云ひ、第三節を後胸と云ふ。頭部に接する第一節は往々キチン質の角狀板を以て被はるゝことあり、之を硬皮板と云ふ。此三關節には各一對の脚を有せり。脚は三個の圓筒狀關節より成り、多少角質皮にて被はれ、基部は肥厚にして一端に至るに從ひて漸次尖り、其尖端に爪を有せり。此等の脚は眞正脚にして、成蟲の脚に當り一に之を胸脚と呼ぶ。但し小蛾類の或屬には之を缺くものあり、又シヤチホコムシは非常に長き胸脚を有せり。腹部の最終節は之を尾節と稱し、往々肛門の上部に三角狀或は新月狀の贅肉を有することあり、之を尾褶と云ふ。蓋し多數の種にては角質を呈せり。天蛾類、野蠶蛾類等にて之を見るべし。胴部の第

二、第三及び後部の一節を除くの外、各關節には脚の上部兩側に小き孔を備へたり。之を氣孔と云ふ。其數九對ありて最初と最後のものは他よりも大なるを常とす。角質の縁を有す、躰內の氣管に接續し、空氣を呼吸する門戶なり。此等の氣孔は往々氣孔紋と名づくる圓き斑紋上に存することあり。（未完）

本文に挿むべき圖は彫刻の都合により止むを得ず次號に讓る。

◎第一回岐阜縣昆蟲分布調査（七）

名和昆蟲研究所分布調査主任　小森省作

蜚蠊科（Blattidae）、眞直翅亞目に屬し、體形扁平にして上より見るときは長楕圓形をなし、褐色若しくば黑褐色を呈す。前胸部は扁く笠狀をなし、頭部は其下に曲りて後方に口を開く、觸角は細く鞭狀にして多節よりなり短毛を生ず。前翅は細長にして稍革質をなし、後翅の前半は前翅と殆んど同樣なれども、後半は薄く膜質をなす。又內には全く翅を缺くものあり。肢は各部共能く發達せるも特に基部は著しく發達し、走ること頗る速かなるを以て、此類を稱して走脚類と云ふ。今回の採品には左の三種を有するのみ。

（八〇）ゴキブリ（Stylopyga concinna, Hag.）　此種は常に厨房等にありて食器をあらし、又は革類を食害する普通種にして、暗褐色を呈し。觸角長く、腿節の內方及脛節には數多の刺毛を有す。雄は前胸部稍小にして多少凹凸をなし、翅長くして全く腹部を覆へども、雌は躰軀短大にして、翅は短かく、腹部の過半を露出す、岐阜、養老、本巣、山縣、郡上、可兒及び安八の一市六郡を除き各郡に於て獲られたり。

（八一）チャバチゴキブリ（Phyllodromia germanica, Steph.）　躰長五分內外の小形種にして、全躰茶褐色を呈し、前胸部の背面に縱に二黑紋有り、觸角細長く、脛節及腿節の內方には刺毛を有す。常に屋內に

ありて毛布及革類其他食料品等を食害するも、山林原野にも亦尠からず。岐阜、海津、本巣、益田、吉城及安八の一市五郡を除き十三郡に於て獲られたり。

(八二)オホゴキブリ(Paresthia angustipennis, Illig.) 黒褐色の最大形種にして、觸角ゴキブリの如く長からず、前胸部の表面異様に凹凸せり。常に朽木中に於て見る所なり。惠那、益田の二郡に於て獲られたり。

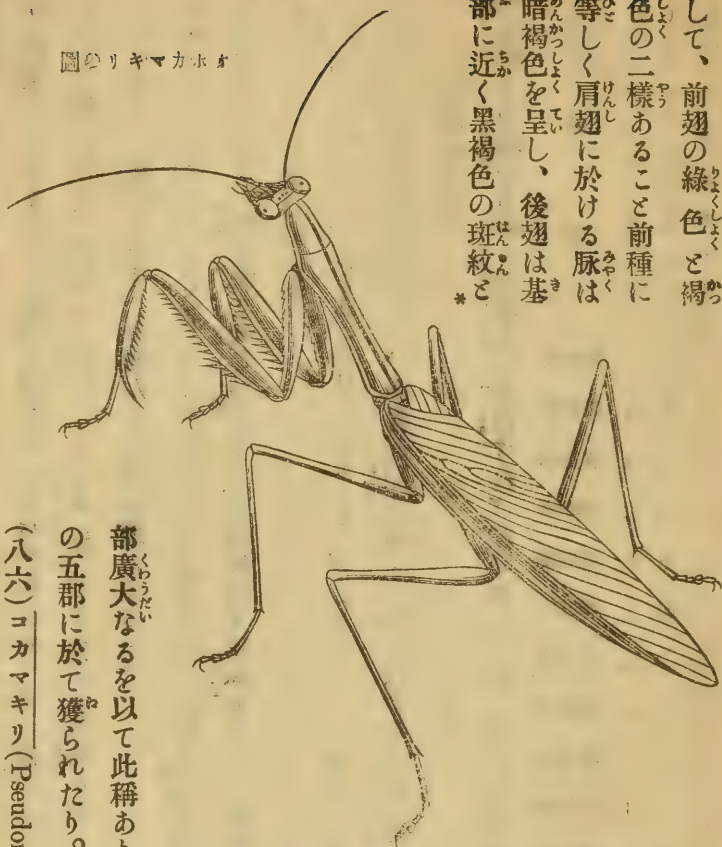
オホゴキブリの圖

蟷螂科(Mantidae) 此科に屬するものは頭部殆んど三角形をなし、複眼大きく突出して、其間に細長なる觸角と三個の單眼を有し、前胸部は非常に長く、頭部と接合點は縊れて頭部を自由に轉向するを得べく、前肢は頗る發達して基節長く、腿節及脛節には棘刺を有して鋸齒狀をなし、脛節の先端に一鋭棘を有し、物を攫むに適せり。中、後肢は細長く、跗節は五節とす、前翅は細長く、多少角質をなし、後翅は膜質にして不正三角形をなす。皆他蟲を捕食する有益蟲にして、今回左の五種を獲られたり。

(八三)カマキリ(Tenodera copitata, Sauss.) 最も普通の大形種にして、前翅は綠色と淡褐色との二樣ありて、前緣部は綠色にして少しく硬化し、肩翅は無色透明なり。後翅は薄く膜質にして稍褐色を帶び、前半には黒褐色の短横脉ありて斑紋をなす。稻葉、羽島、養老、不破、本巣、山縣、加茂、土岐、惠那の九郡に於て獲られたり。

(八四)オホカマキリ(Tenodera aridifolia, Stoll.) 此種は前種に頗る酷似し、邦產蟷螂科中最大形種に

して、前翅の緑色と褐色の二様あること前種に等しく肩翅に於ける脈は暗褐色を呈し、後翅は基部に近く黒褐色の斑紋と*

オホカマキリの圖

*前半には暗褐色の斑紋を有し、後半は一様に暗褐色を呈す。羽島養老、不破、武儀、加茂、恵那、大野、益田、吉城の九郡に於て獲られたり

(八五)ハラビロカマキリ(Hirodula bipopilla, Serv.) 緑色と褐色との二様あり、他種に比し頭部大きく、前胸部は短かくして太く、翅は幅稍廣くして前翅に殆んど中央に一個の灰白紋あり、雌蟲の腹部廣大なるを以て此稱あり。羽島、養老、不破、武儀及び加茂の五郡に於て獲られたり。

(八六)コカマキリ(Pseudomantis maculata, Thunb.) 躰長一寸二分乃至二寸、緑色と褐色との二種あり前肢の基節及腿節の内側に漆黒色の斑紋あるを以て容易に他種と區別することを得べし。岐阜、羽島、海津、養老、本巣郡上及安八の一市六郡を除き各郡に於て獲られたり。

（八七）ヒメカマキリ（Acromantis japonicus, West.）　躰長一寸内外、複眼大きく、翅は褐色にして前翅の前縁部は綠色を呈し、中、後肢には褐色の斑紋を有す。頗る活潑にして、稀に獲る所のものなり。今回武儀、土岐の二郡に於て獲られたり。

竹節蟲科（Phasmidae）、此科に屬するものは躰軀細長く圓筒狀にして、頭部小さく、中胸部頗る長く、多くは翅を欠き、肢長く、歩むこと頗る緩なるを以て此類を稱して緩歩類と云ふ。跗節五にして先端に鉤爪と膜辨を有す。今回左の二種を獲たるのみ。

（八八）ナナフシムシ（Lonchodes niponensis, De Haan.）　躰長三寸内外の細長圓筒形にして、綠色と褐色との二種あり、翅を缺き觸角短かく、中後兩胸部は頗る長し。稻葉、羽島の二郡に於て獲られたり。

（本誌第六十八號口繪參看）

（八九）トゲナナフシ（Acanthoderus japonicus, De Haan.）　躰長二寸内外、全躰褐色にして、翅を缺き觸角長く、躰の兩端稍細まり、中胸部頗る長く、躰には數多の棘狀突起を有す。揖斐郡に於て獲られたり。（同口繪參看）

以上記する處のもの丶採集數を表出すれば左の如し。但し表中△印は十頭以上と知るべし。

番號	種名	岐阜市	稻葉郡	羽島郡	海津郡	養老郡	不破郡	安八郡	揖斐郡	本巢郡	山縣郡	武儀郡	郡上郡	加茂郡	可兒郡	士岐郡	惠那郡	大野郡	益田郡	吉城郡
八〇、	ゴキブリ	｜	四	三	二	｜	二	○	二	｜	｜	三	｜	一	｜	三	五	三	三	八
八一、	チヤバ子ゴキブリ	｜	三	三	｜	三	四	○	二	｜	三	△	二	△	五	五	一	一	｜	｜
八二、	オホゴキブリ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	○	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	一	｜

八三、	ヤマキリ	—	一	六	—	三	一	〇	—	一	一	—	—	三	—	五	三	—	—	—
八四、	オホカマキリ	—	—	二	—	一	一	〇	—	—	—	二	—	四	—	—	二	六	三	四
八五、	ハラビロカマキリ	—	—	二	—	一	三	〇	—	—	—	二	—	三	—	—	—	—	—	—
八六、	コカマキリ	—	一	—	—	—	三	〇	四	—	一	三	—	四	一	三	三	三	七	二
八七、	ヒメカマキリ	—	—	—	—	—	—	〇	—	—	—	二	—	—	—	一	—	—	—	—
八八、	ナナフシムシ	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八九、	トゲナナフシ	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

◎犬の寄生蠅に就て（第六版圖參看）

鹿兒島縣農學校　生熊與一郎

本篇は、江間校長の指導により、當校敎諭宮原氏と共に調査研究したるものなれども、宮原氏の研究に係る病理的觀察は之を省き昆蟲に關することのみを報告すべし。

從來、鹿兒島縣下には飼犬に一種の皮膚病あり、俗に之れをコセと稱し、(IP)の如く皮膚膨腫を起し、爲めに犬は營養大に衰ふるも之れが爲め死に至る程のことなきを以て、一般に留意せざるものゝ如し。而して獸醫學者亦此等の患畜を目撃するも、他の毛囊蟲又は疥癬蟲等の寄生なるべしとて、敢て探究することなかりしが、余は宮原氏と共に、該病は全く一種の蠅の幼蟲の寄生に基因するものなることを發見せり。

元來、蠅類にして獸類に寄生するもの多けれども、鼻孔、咽喉、胃中等に寄生するもの多く、皮膚に寄生するものは割合に少なきのみならず。之が記載も冷淡なる研究の下に記錄されたるものあるのみ。殊に鹿兒島縣下の俗稱犬のコセ病なるものゝ病原たる蠅に就ては、本邦書には勿論、外國書にも是等の記載あるを見ず。故に去る明治三十四年十月本研究に着手せしより本日に至る迄、記すべきもの多けれども、玆には研究の大畧を記すことゝなしたり。

一、成蟲　体長六ミメ内外、翅の開張一四ミメ乃至一五、五ミメあり、家蠅より稍々小なれども能く肥大し、全体に黒毛を粗生す。頭部は長さ一、八ミメ、幅三ミメ内外あり、飴毛を呈し、前頭部に觸角を納むべき深き二縦溝を具へ、兩側に海老色の複眼を具ふ。單眼は紅色又は黄赤色をなし後頭部の背面に三個鼎狀に配列し、其間より二本の長粗毛を生ず。觸角は前頭部なる縦溝の上部に位し、頭部と同じく飴色にして長さ一ミメ幅〇、二四ミメありて三關節より成り（An圖）、第一、二節は小さく、第三節は長大にして（An′圖）の如く第二節より屈折したる位置に附着し、其基部外方に第三節と畧ぼ同長なる（長〇、六ミメ）一本の感觸突起あり、突起には更に觸毛を粗生す。口吻は頭部の腹面なる楕圓孔内にあり、抽出するときは家蠅の口吻と同じく先端膨大し（膨大部の長徑〇、七ミメ）長さ〇、七ミメ内外を算す。下腮鬚は口吻の基部に附着し、二環節より成り（長〇、六ミメ）棍棒狀を呈す。胸部は長さ三ミメ幅二、一ミメ内外あり、頭部と同じく飴色なれども、前胸部及び中胸部の背面は灰黒色を呈し、内に不判明なる三縦線を印し、黒粗毛を生ず。前翅は長さ五、五ミメ乃至六ミメ幅二、一ミメ乃至二、四ミメ許あり、無色透明にして、全面に短毛を密生し、九條の翅脉は各分岐點に於て著しく膨大す。後翅は（Hw圖）の如く變形し、長さ〇、七ミメあり、黄色を呈すれども先端の膨大部は少しく褐色を帯び粗毛を有す。然れども常に大なる白色のアルレーに依て被はるゝが故に、背面より之を見ること能はず。脚は三對共に飴色なれども中脚、後脚及び前脚の跗節は少しく灰色を帯ぶ。前脚は長さ六、三ミメ中脚は七、八ミメ后脚は七、五ミメ内外あり、跗節は共に五小節より成り、末節に強大なる二鉤爪及び其中間に一個の吸盤を具ふ。吸盤は嚢狀物にして、全面に小突起を整列す（pu圖）。腹部は飴色にして五環節より成り（末節は生殖器の周圍にあるを以て背面より見るときは四環節の如く見ゆ）、第一、二

三環節の末端は黑色を帶ぶ。長さ雌にありては五ミメ弱、幅三、五ミメ雄にありては四、六ミメ、幅三、二ミメ内外あり、全部に黑粗毛を生ず。

二、幼蟲　老熟したる蛆は强靭なる皮膚を有し、体長六ミメ幅二、五ミメ内外あり、白色にして淡黄色を帶び、十二環節より成り（第一環節は次節下に隱るゝを以て十一環節より成れるものゝ如く見ゆ）、各環節は横皺及び短毛を有し、尾端は切斷面をなして終り、其中央に肛門を具ふ。氣門は肛門の左右に二個存在し、黑褐色を呈す。而して該蛆は、老熟前と雖ども犬体より脱出せしめ、適應の濕氣を有する土中に放置するときは其まゝ化蛹する性あり。

三、蛹　は黝黑色にして俵狀をなし、九環節より成り、普通七、五ミメ幅三ミメ内外なれども、小なるものは五、八ミメ幅二、四ミメ内外あり（蓋し小なるものは食物の不足なりしものならん？）、何れも第二環節の前端の兩側に小突起を具ふ。之れ一種の氣門にして、蛆蛹は之れによりて呼吸をなす。

四、經過及び習性　此蠅は年二回の發生を營むものにして、越年したる蛹は、五月初旬乃至六月下旬頃迄に羽化して成蟲即ち蠅となり、數日を經て交尾し、飼犬を尋ねて其皮膚及び毛の基部に產卵す。卵は〇、三ミメ許りあり、白色をなし、肉眼にては塵埃の如く僅かに認め得らるゝのみなれども、鏡撿するときは兩端細く稍々棍棒狀をなす。此卵は間もなく（卵期不詳）孵化して卵子と畧ぼ同長なる小蛆となり、皮膚に蝕入す。然れども余り内部に侵入することなく、常に外氣に接したる部に棲息し、尾部を外方に出して尾端の氣門により、外部より來る空氣を呼吸し、頭部を內方に向けて營養分を攝取し、漸次生長し、二十五六日內外を經て老熟す。老熟したる蛆は漸次体外に匍出し、終に地上に落ち所々に匍匐し、稍々濕氣多く軟かなる所に至りて地中に侵入すること五分乃至二寸（乾燥したる地に

ては深く侵入す）にして止まり、靜止すること二十時間乃至七十時間にして（溫度により長短を生ず）漸々体長を減じ、淡黃褐色となる。其れより約一晝夜を經て褐色となり、赤褐色に變じ、黑褐色となり、終に黝黑色となる。之れ完全したる蛹にして、一ヶ月内外を經る時は再び成蟲となり、前同樣の經過をなし、十月初旬頃より漸々老熟し、犬体を辭して地上に下り、地中に侵入して化蛹し、其儘越年し、翌春に至りて羽化し、前述の如き經過をなす。此蛆は犬体の何の部分にも寄生するもの丶如くなれども、頭部及肢部には少なく、腹側部及び臀部に多く寄生す。

五、昆蟲學上に於ける該蠅の位置　以上說述せし所により、該蠅は双翅目（Diptera）蠅亞目（Brachycera）馬蠅科（Ōestridae）に屬するものなるや明かなり。而して余は之をOchromyia屬に屬せしむるを以て最も穩當なるものなるべしと信ず。

而して此蛆は佛國殖民地たるセチガル、殊に其の海岸カイヨル地方の犬の皮下に寄生する Ochromyia anthropophaga及びDermatobia nolialis等とは全く別種なるものと信ず。

（圖解）　I成蟲、E卵、L幼蟲、P蛹、Ca頭部の腹面（口吻及觸角の位置を示す）、Th胸部、Ab腹部の腹面、Fw前翅、Hw後翅、Fl前脚、Ml中脚、Hl後脚、Lt跗節の先端、Pn パルヴヒリーの一部（小突起「r」を示す）、An觸角、An′同上側面、AH感觸突起、M口吻、Pm小腮鬚、Ip蛆の寄生部の毛を刈りて示す、P2は二頭接近して寄生したる部。

◎皇太子殿下奉献中等敎育昆蟲標本詳解（其十）第五版圖參着

名和昆蟲研究所内　小竹　浩

（一一）羅翅類

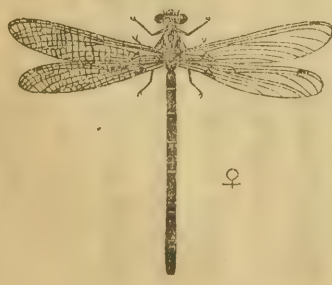
羅翅類とは蜻蛉、蜉蝣の如く膜質にして極めて薄き翅を有する蟲類の總稱なり。翅は多く網狀脈を有す

れども或は否らざるものあり、而して前後同大なるあり、後翅の極めて小なるあり、或は双翅なるありヂムキカゲロフの如き翅に鱗毛を有するものも、皆この内に屬す。口器は咬嚙に適し、變態不完全なるあり、完全なるありて一定せず。故にカムストック氏の如きは、之れを蜉蝣目、蜻蛉目、積翅目、白蟻目、嚙蟲目、食毛目、脉翅目、蝎蟲目、毛翅目の九目に細別し、當所編纂の日本昆蟲分科表には蜉蝣、蜻蛉、積翅蟲の如き不完全變態をなす蟲類を擬脉翅目とし、クサカゲロフ、ツノトンバウ等の如き完全なるものを脉翅目とし、ヂムキカゲロフの如き翅に毛狀の細鱗を裝ふものを毛翅目となせり。

（一二五）アヲハダイトトンバウ(Calopteryx virgo, L.)　豆娘科に屬し、体長一寸九分內外、翅の開張二寸四分乃至二寸七分、雄の翅色黑くして紫藍色の光澤あり、雌は上下兩翅共に暗褐色なれども、後翅は色稍濃く、体色雌雄共に青藍色を呈するを以てこの稱あり。而して雌は白色若くは黃白色の緣紋を有す。此の種は一見ハグロイトトンバウに酷似すれども、雌は緣紋を有すると、体の稍小なると、其他翅色に於ても多少の差あり。五月頃より發生し、常に河上を飛揚す。

（一二六）イトトンバウ(Agrion quadrigerum, Selys.)　前種と同科に屬する普通種にして、体長九分五厘乃至一寸一分、翅の開張一寸二分乃至一寸四分翅は透明にして見樣により水色の光澤あり、後翅は稍短し、中胸背は黑色にして暗綠色の二縱線あり、腹部背面は青色にして、每節の上緣は淡藤色を呈す。側面及腹面は黃綠色を呈す。雌雄共に褐色の緣紋を有す。肢は三對共に腿節の外面のみ黑く、他は一般に淡綠色なり。

イトトンバウの圖

前二種は腹部最も細くして長く、宛も糸の如く、頭部は横位をなし兩側に複

眼を有するの外、頭頂に三個の單眼あり、靜止のときは翅を体上に直立す。(本誌第四十一號參看)

(一二七)トラフ トンバウ(Somatochlora marginata, S.)　体長一寸七分內外、翅の開張二寸五分乃至二寸七分、雄の翅は透明にして黑色の緣紋を有し、雌は前緣に沿ふて幅狹く暗褐色を帶び、稀には殆んど雄の翅と異ならざるあり、內緣には乳白色の軟質部を有す。複眼暗褐色にして、上面は銅色を呈す。中胸背は黑くして黃色の廣き二縱線有り。腹部亦黑くして、各節の兩側より腹面に亘りて一個つゝの黃色紋を印す。是れこの名の起りし所以なり。肢は三對共に黑し。此の種は五月頃より山林に普通なり。

(一二八)ウチハ トンバウ(Ictinus clavatus, Fabr.)　体長二寸五六分、翅の開張三寸三分乃至三寸六分翅は雌雄共に透明にして斑紋なく、只黑色の緣紋を有するのみ。而して後翅の內緣角雄は內方に突出すれども、雌は圓し。全体黑色にして前頭部に黃色を帶び、中胸の背面及側面には六條の黃色縱線と二條の橫線あり、中胸後板、後胸後板は黃色に、腹部背面の一節乃至七節及八、九節の側面に黃色紋あり、第八節の腹面に團扇狀の附器ありて、普通雄のものは大きく、雌のものは小なり。雄には第二腹節の側面に耳狀物あり、夏秋の候廣き止水上を速に飛揚して小昆蟲を捕食す。

(一二九)カトリ トンバウ(Gynacantha hyalina, Selys.)　体長二寸二三分、翅の開張三寸乃至三寸一分翅は透明にして暗褐色の緣紋を有し、後翅の內緣角は雄にありては尖り、雌は圓し。体色帶褐暗色にして、第一乃至第二腹節は太く、第三節以下甚だ細し。殊に第三節に於て細く縊れたり。第三以下の各腹節背面の中央及後緣に暗綠色の斑あり。雄は第二節の側面に耳狀物あり。肢は太からず、暗褐色を呈す。常に繁茂したる林中に多く、夕景より出でゝ小蟲殊に蚊を捕食するを以て此の稱あり。

(一三〇)テフ トンバウ(Rhyothemis fuliginosa, Selys.)　体長一寸一二分、翅の開張二寸四五分、頭部

青藍色を帶び、翅は雄にありては前翅の過半は藍色に、先端は透明をなし、稀には先端に暗褐色斑を有するあり。後翅は殆んど藍色を帶び翅端僅に透明なるあり、雌は彩色雄に異ならざれども、其色暗褐色にして雄の如き光澤なし。雌雄共に後翅廣く、其彩色若くは飛揚の有樣蝶に似たるを以てこの稱あり。夏期多く空中を飛揚し、小蟲を捕食す。

（一三一）シホカラ トンバウ(Orthetrum japonicum, Uhler.)　体長一寸四分、翅の開張二寸三分内外、雄の腹部は灰白色の粉を覆ひたる如く、雌は黃色にして二條の太き黑線あり、一見シホヤ トンバウに酷似す。翅は透明にして、基部僅に黃褐色を呈し、緣紋黃褐色を呈す。此の種は常に山林原野に多し。

（一三二）キ トンバウ(Diplax croceola, Selys.)　体長一寸四分、翅の開張二寸一分内外を算す。体黃赤色にして、前後翅共に基部より翅端に亘り、前緣に沿ふて幅狹く黃色を呈し、且基部の翅半は黃色に、緣紋褐色なり。十月頃より山林原野に多し。

（一二七）乃至（一三二）の六種は蜻蛉科に屬する普通種にして、複眼甚だ大に、多くは頭部の背面に於て兩眼相接するを常とす。豆娘科に比すれば概して大形に、腹部亦太く、飛翔頗る快活なり。静止のときは翅を体の左右に横ふ。

（一三三）クサカゲロフ(Chrysopa perta, L.)　草蜻蛉科に屬し、翅の開張九分乃至一寸、翅色、躰軀共に淡綠色にして、前翅は後翅より稍大なり。翅脈網狀をなし、四翅共に甚だ薄弱なり。胸背にX字形を印す。其卵子は俗に優曇華と稱するものなり。其幼蟲は稍扁平にして長く粗毛を被り、常に蚜蟲を捕食す。（薔薇壹株昆蟲世界に詳說あり）

（一三四）キバチ ツノ トンバウ(Ascalaphus japonicus, M. L.)　長角蜻蛉科に屬し、体長八分、翅の開

張二寸内外、体黒色にして、雄は腹端に二個の糸狀附器あれども、雌は之を欠く。觸角長くして球捍狀をなし、頭部に毛塊あり。前翅は透明にして基部に黄色部あり、後翅は暗褐色にして鋭角をなしたる黄色の太き二線と、數條の細線及多くの短横線を有し、甚だ美なり。体に短毛を粗生し、肢は三對共に腿節の基半及跗節は黒色をなす。四五月頃堤防原野等の低き處を活潑に飛揚して小蟲類を捕食す。（本誌五十九號口繪參看）

（一三五）ホシウスバカゲロフ（Myrmeleon micans, M. L.　薄翅蜻蛉科に屬する普通種にして、体長九分乃至一寸二分、翅の開張二寸一分乃至二寸六分、複眼圓くして黒く、觸角稍長く棍棒狀をなし、腹部細長くイトトンバウのそれに似たり。翅は前後同形にして、前翅は稍廣く、四翅共に薄く透明なれども、見様により異様の光澤あり、前翅端に乳白色の斑紋あれども判明ならず、後縁の中央に一個の褐色斑あり、後翅端に近き處にも同色斑あり。肢は三對共に淡黄色を呈す。此の種の幼蟲はアリヂゴクと稱し、砂地に擂鉢狀の穴を穿て其中に潛居して蟻の來るを待て捕食するを常とす。（本誌五十八號口繪參看）

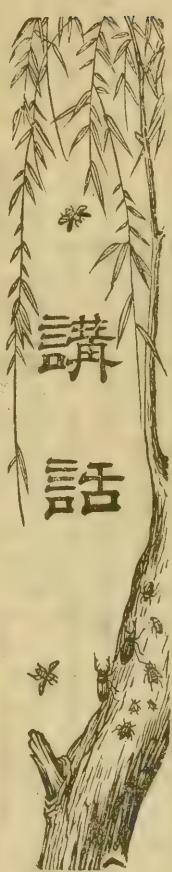
（一三六）ヱテフ（Panorpa japonica, Thunb.）　擧尾蟲科に屬し、翅の開張一寸二分乃至一寸四分、觸角鞭狀に、複眼は大ならず、二個の單眼は赤色を呈す。翅は前後兩翅共翅底より中央迄透明にして、數個の小斑あり、中央より翅端迄暗褐色にして、其中央に透明紋あり。体黒色にして、雄は腹端上方に曲り、末端に二個の鋏狀附器を有す。雌は腹端尖りて附器を有せず。口は殆んど象鼻蟲のそれの如く、長く延びて其端に咀嚼口を有す。肢は暗黄色にして後肢は長く、常に山林中殊に繁茂せる處に多し。第一回全國昆蟲展覽會出品目録にシリアゲムシとあるは之れなり。

（一三七）カハゲナ（Perla Sp?）　積翅蟲科に屬し、体長五分内外、翅の開張一寸一分乃至一寸五分、觸

角鞭狀をなし、複眼小さく、單眼は淡黄色なり。体黑色にして、腹端褐色なるあり、前翅は細長く、後翅は短濶に共に、稍暗褐色を帶び、前縁は幅狭く淡黄色なり。腹端に二個の糸狀附器あり。常に河邊に多く、幼蟲は水中に棲息す。

(一三八)ヂムキ カゲロウ(Phryganea Sp?) 石蠶科に屬し、体長七分内外、翅の開張一寸九分乃至二寸一分を常とすれども、罕には翅の開張一寸四分内外のものあり。觸角鞭狀にして暗褐色を呈し、其先端色淡し、複眼稍卵形に、二個の單眼は赤し。翅は毛狀の細鱗を以て覆はれ、前翅は帶褐灰色にして、中央に縱に一條の褐色線紋あり、後翅は廣く黄褐色にして、翅端黑し。

訂正、本誌七十八號双翅類の記載中(五七)のノラアブモドキは第一回全國昆蟲展覽會出品目錄のモモブトハナアブ(Helophilus virgatus, Coquill.)、(六四)のウシバヘは同目錄のコウシバヘ(Stomoxys Calcitrans, Linn.)にして、(五十)ツマグロムシヒキアブの學名はCyrtobogon bictibennis. 直翅類(一一七)アブラムシの學名 Periplaneta americana, L. は Stylopyga concinna, Hagenb. の誤

雷晴れて 一樹の夕日 蟬の聲 (子規)

◎二化性螟蟲の撲滅法

歩行蟲生

今や害蟲軍の總大將なる螟蟲は發現して、將に暴威を振はんとす。各團躰及個人に於ては、既に作戰計劃して居らるゝならんが、此作戰計劃に就ては、驅除其者の方法よりも、之を實行する方法を講究せねばならぬ事は、既に本誌卷首に論したれば、玆には驅除其者の方法に就て述べやう。先づ是迄の有樣を顧みれば、誘蛾燈に、採卵法に、掬蛾法に、枯莖切取法に、其他あらゆる方法手段を以てして、而して

之を撲滅し能はざるは如何なる原因なるか、此螟蟲なるものは、如何なる方法を以てするも撲滅し得べきものに非ざるか、先づ是等を研究するには、從來實行し來たりし方法より研究せねばならぬ。抑も害蟲驅除に最も必要なるものは、驅除者の精神である、共同一致であつて、凡て驅除者が精神的に驅除する考がなくては駄目である。精神的に驅除する考があつたなら自然と共同一致と云ふ事は行はれる。故に此の精神が一番必要であるのに、此精神が殆んどないのは、驅除其効を奏せざりし爲であろう。驅除其効がないと見れば、又其處に何か缺點があるに相違ない、今其缺點を申さん、或地方にて行はれつゝある誘蛾燈に就て見よ、彼の燈火を慕ひ來る蛾を檢すれば、螟蛾のみにあらずして、シバクサズキムシの如き雜蛾が大部分である、此蛾は稻螟蛾に頗る似て居るから、只でさへ區別に困難であるのに、石油の中に入る時は專門家でも中々容易でない。又假に全体が螟蛾であるとしても、既に産卵後のものもあり、或は此誘蛾燈には多數の有益蟲も罹るから、其効果は九牛の一毛でもないのに、是丈の蛾を誘殺したから是丈の利益になると、取越勘定をなし、之を以て滿足するのは間違つて居る。又たたとへ幾分の効はあるにもせよ、其れ丈位の蛾は晝飯時間に掬蛾しても採れる、特に貴重なる石油を消費するに就ては、常に余輩の大不贊成を唱ふる次第である。又採卵法は如何、是れも亦、幾十萬塊採りしにより幾許の利益があると速斷するも、茲に寄生蜂なる關係がありて、其勢力は非常なものであるにも係らず、其れも共に撲殺するのであるから、効果は殆んどない。又苗代田のみで、本田に於て採らない者があるが是れは苗代田ばかりでなく本田にても採らなければならぬ。よし採りたりとするも、益蟲の保護をしないと効果は誠に尠ない。又枯穗切取法に於ても、いつも其時期を誤る等、其他種々の缺點があるから効果がない、効果がないから精神的驅除をせぬと云ふ次第である。

茲に余輩が新しく撲滅法と云ふと、何か新しい明法でも發明した樣に聞ゆるが、別に珍しい方法を發明した譯ではない、只名和昆蟲研究所に於て、常に唱導する處を違算なく實行するのである、即ち其方法は左の手段を順次實行するに過ぎない。

一、苗代田採卵　　二、本田採卵　　三、枯莖切取　　四、枯穗切取

採卵は苗代田より本田に重きを置かねばならぬ、是れ螟蟲は苗代田より本田に多く産卵する性があるからである。而して三日乃至五日毎に必ず行ひ、且つ各個人に於て適當の方法を以て益蟲を保護せねばならぬ。以上の如くにして尚見殘したる卵塊は、遂に孵化して、七月下旬頃に到れば枯莖を生ずるから、

之を切取り驅除せねばならぬ。尙見殘したる者は羽化して產卵し、之が孵化して莖中に蝕入する時が枯穗の生ずる時である。此枯穗の一莖中には初め少なきは三十頭、多きは百頭以上も居るも、漸次他莖に移りて其數が少なくなり、遂には其莖中には居らぬ樣になるから、こは成るべく早く切取らねばならぬ此方法も初めに採卵法を十分に行へば其枯穗の數は從て少なくなるから譯のない事である。尙玆に注意して置くのは其驅除物の處分法である、決して燒却の文字を用ひてはならぬ。こは槌にて打ち殺し、之を肥料に利用するのである。

先づ撲滅法は以上の順序を以て行へば十分であるが、尙苗代の時に掬蛾を行へば結構である、而して是等を實行する事は、自ら行つて見れば六ヶ敷い事でない、何事でも喰はず嫌ひではいかぬ、殊に此頃は我外征の同胞が滿洲の野に於て奮闘しつゝあるに比すれば、內地の農民が螟蟲と戰ふ位の事は何でもない。是非本年よりは遺算なく實行して、假令一米粒たりとも彼等に蠶食せしめざる樣心掛けて貰ひたい是れ農業者の義勇奉公であるから。尙實行上に就て二三の注意事項を左に記さん。

一、凡て害蟲は發生の初期に防ぐは容易なれども、既に蔓延したる後に於ては頗る困難の業なれば、常に發生の有無を調査して之を未發に防ぐべし。

二、驅除の効果の擧らざるは、驅除の時期を失するもの多きに居れば、常に其時期を見極めて迅速に處置すべし。

三、寄生蜂、寄生蠅等天敵の制裁は頗る勢力ありて吾人の想像以外にあれば、害蟲驅除には必ず益蟲の保護の件はざるべからず、然らざれば却て害を後日に遺すことあるを忘るべからず。

四、驅除をなさんとする時は、先づ發生の原因、程度、驅除の方法、驅除の成蹟及結果等を觀察すべし、僅なる成蹟を以て、決して安心すべからず。

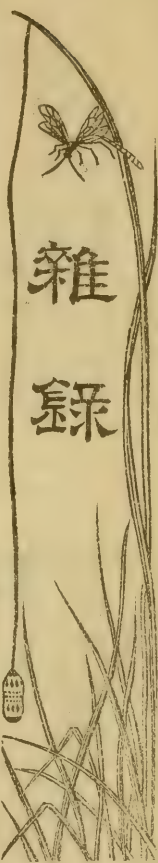
五、實驗の結果は僅か一二回の成蹟を以て斷定すべからず、宜しく繼續して之を實行すべし。

◎殺生も亦善根

岐阜市　雄山瑞倫

編者云、本篇は去五月七日、岐阜縣昆蟲學會月次會席上に於て、當市の雄山瑞倫氏か講演せられたる談話の筆記なり。世間害蟲驅除につき宗敎上の解見を謬れるもの尠なからず、爲に害蟲驅除普及上偉大の影響を蒙れるは、常に遺憾とする處なり。されば、特に玆に揭げて讀者諸氏の參考に資せんとなしぬ。

私は、本日當岐阜縣昆蟲學會の月次講話を始て傍聽に參りましたる所、豈計ん名和副會長より一席何なりとも話をせよとのこと、實に寐耳に水で、左樣な考は更にありませんから御辭退申たるも、是非と云ふこと故、强て御辭退するも失禮と思ひ、本日參りたる御挨拶だけすることに御約定申たることであります。抑私共僧侶でありまして、昆蟲など云ふことには經驗もなく、注意したこともない門外漢の私が、專門家諸君に御話すると云ふは實に釋迦に說法と云ふ譏を免れぬは無論でありますが、害蟲驅除と佛敎どの關係に付て、聊所思を御耳に達したいと思ひます。夫は外ではなく、佛敎には殺生と云ふことは佛の尤第一として戒むる所であります。殺生ほど罪惡の重くして深きものはありませぬ。殺生も亦人を殺すを以て最上とし、夫より次第〳〵に及せば、昆蟲を殺すも罪惡の部類であります。さすれば野菜、穀物及植物、花卉等に害を及す所の昆蟲は如何、是に處置する歟、一方の繁殖を欲せば勢ひ害蟲を驅除せなければならぬ。之を驅除するには殺生戒を破らなければならず、一方立れば一方立たず、實に矛盾の太しき次第であると思ふ方もありますかはしらぬが、是はまだ佛敎の一端を知て未だ全般を知らざるに依るのであります。如何となれば、佛敎には平等門と差別門とありて、差別なきの平等は惡平等、平等なきの差別は惡差別と申してあります。乃ち平等門から云へば無論殺生は罪惡業でありますなれども、差別門から云ふときは殺生罪を犯しても罪にならぬ、否大なる善根功德になります。又佛の慈悲心と云ふにも背きませぬ。先にも申ましたる通り、殺生は人を殺すが最大惡でありまして、昆蟲などに及べは次第に輕減になるのである。是即ち殺生罪の差別であります。只一概に殺生とのみ申せば、中には無益の殺生もあり有益の殺生ありて、人間、禽獸、蟲、魚、皆こもりて居ります。此點から云へば平等門でありますから殺生は無論罪惡業であります。今野菜、穀物、植物、花卉等の蕃榮を害する所の蟲を驅除し、殺生するは、有益の殺生で罪にならず、反て功德になります。人に善人あり、惡人あり、惡人を殺して善人を保護し、惡禽獸を殺して善禽獸を增殖し、惡蟲魚を殺して善蟲魚を滋育する等、一一差別して殺生すれば殺生する間に功德善根を積みつゝあるのであります。今戰爭に臨んで敵兵を殺し、敵將を生擒すれば大なる手柄であり、名譽であると同じことです。露國の如きものは殆んど世界を蠶食する所の最大害蟲であります。是を殺し、是を降伏させるは、世界に對し最大善根功德であります。依て害蟲驅除の如きも成べく、一人よりは一家中、一家よりは一村落、一村落よりは一郡、一郡よりは一縣、一縣よりは全國協同驅除に心を用ゆれば、實に黃金滿地の安樂世界を眼前に見ることであろうと思ふ。故に平等と差別の區

別を誤らぬことが肝要であります。先づ今日は參上致たる御挨拶迄に申上た次第で、幸に御參考の一助ともなりますれば望外の至りであります。

鳴きさして蟬の飛び行く夕日哉　（子規）

雜錄（六）

◎昆蟲文學

蟻　魯岳　倫草

蟻。穴居卵生。有赤黑大小數種。屬膜翅類。無翅者退化也。口兼吸嚼。性尤慧敏。大雨將至。封穴閉戸。豫爲之備。同族共食分勞緩急相救。對敵敷陣。整隊奮鬪不懼死。又於夏天蓄食以爲冬蟄之計。可謂勇且智矣。余又聞於熱帶地方。有蟻築塔高丈餘堅牢如鐵壁者。嗚呼雖蠢々一小虫。有爲如此。況於人間勉而不休何爲不成。而其否者。蓋非不能。不爲也。

南山曰。文意達暢。能述蟻經營。以矗世人。小品上乘者也。

螢　後藤　雲外

垂楊垂柳拂輕埃。螢火高低藍水隈。的皪夜光眞耐愛。囊中曾照讀書來。　南山曰。流麗可喜。

同　岩間　雲泉

低伏草間如露輝。高飄樹上似星飛。池邊求侶清涼夜。時訪書生來入幃。　南山曰。初二句可誦。

同　山內　栖雲

蠢蠕潛綠草。羽化集池汀。點々微風裏。宛然如亂星。

同　小木曾　蕙洲

柳陰螢火亂。明滅映清漪。日暮人憑檻。飛來入翠帷。

蚊　小木曾　蕙洲

囂々日暮襲來聲。不耐繙書對短檠。棄扇逃奔入櫥裏。敗軍之將守孤城。　南山曰。新奇。

同　後藤　雲外

新綠蒼々入夏時。幽窓沈座細風吹。蚊軍半夜繞帷處。一刺苦他勤學兒。　南山曰。請勉旃。

同　岩間雲泉

苦炎消一日。日暮竹風柔。只恐蚊軍襲。薰烟獨上樓。

同　牛風隱士

炎蒸三伏夕。般々似鳴雷。揮扇不堪煩。窓前去復來。

蟻　柳原菱齋

盡日尋羶爲伍行。君臣之義自分明。更看辛苦經營處。豫防雨風築小城。南山曰。智哉小蟲。

螢入書室　小木曾蕙洲

紗囊會照讀書櫳。腐草返魂猶有功。今夜無端飛小院。枕頭彷彿夢車公。南山曰。小蟲猶有益。使人奮起。

同　同人

三更月落綠池傍。獨閱史篇牽興長。燈火將消螢火入。借來車氏讀書光。

同　柳多湖塘

黃昏雨漸晴。綠蔭讀書聲。先哲今何在。螢光入牖清。南山曰。語端意長。私占地步。

同　山内栖雲

日暮涼風欄可凭。小螢明滅自相仍。忽看一點入窓裏。想起當年車子燈。南山曰。誰是車胤替人。

同　後藤雲外

臨水梧陰一草堂。三更燈盡夜窓涼。螢光明滅照人入。彷彿車公苦學房。

同　同人

清風陣々拂芭蕉。獨座閑亭所思饒。乍見一螢飛入室。三更涼味夜涼々。南山曰。清涼有味。

蟲五首　神村直三郎

柳蜻蛉

糸たるゝ小枝のみかは川風にやなぎとんぼのかげもなびけり

オトシブミ

生ひしげる樫の小枝の落し文主やいづこと問ふ人もなし

ゴミムシ

ごみむしの身にしあれども塵塚につもるいさをのたのもしきかな

トラフコガ子

恐ろしき鬼あざみにも宿れるは名に負ふ虎斑金龜子なりけり

福俵

苗代にたるゝ俵をかぞへつゝゆたけき秋のみのりをぞ待つ

新蟬　加藤きく子

みどりなる庭の木の間に新蟬の聲も涼しくなきそめにけり

名無草　服部綾足

古書とりて紙魚うちはらふ窓ちかく匂ふも清し芍藥の花

電信の柱目に立つ原中の古家めぐりて羽蟻の飛ぶ

拂へども又た拂へどもよる蠅にしば／＼うつす經机かな

蚊柱は風にくづれて椽先の葡萄の葉ごし月ぞほのめく

蛾をおびく青田のともし影更けてさびしき夜半を雨こぼれきぬ

うつら／＼蚤にくはれて眠られぬ枕に近き眞清水の音

接木せし梅の若葉をくやしくも惡き毛蟲に枯らされにけり

夕まぐれ蓮の香しるきおばしまに笛吹き止めて螢とぶ見る

楠の御夢のあとやここならんあはれ催す山蟬の聲（笠置山なる行宮の跡にて）

蚊

三國史蚊を打つて讀み更かしけり　華園
蚊の聲や麥藁積んで軒暗き　同
藪の井戸竹皮落ちて鳴く蚊哉　同
甘酒や晝の蚊がさす宮の森　同

三十三間堂
蚊の聲や佛並んでおはしけり　同
蚊の聲や用水桶の水の上　波空
我爲に蚊を燒く女美しき　同
蚊を燒やすや／＼と寝て可愛き子　同
蚊の聲や灯ともす遲き山の宿　同
蚊柱のいくつ杉苗畠哉　同
蚊の聲や留守にして置く瞽女の宿　冷石
晝の蚊や掃除に廻る行燈部屋　同
朝の蚊や疊冷き庵の雨　同
蚊を燒くや朋輩寢たる只一人　同
簔はづす跡に鳴立つ藪蚊哉　蛾生
縛られて一夜蚊責や熟の則　同
脊の子の足ぶら／＼と蚊を追ふや　同
暗がりに蚊を打つ音や凉臺　同
蚊の聲や味噌貯ふる小屋古りぬ　孤彬
蚊の聲や花の古水捨にけり　同
蚊柱を照らして暗き行燈哉　同
泥溝バタの草をむしればなく蚊哉　去水
曉の鐘つく堂や蚊のうなり　同
捨ててある西瓜の皮や蚊のとまる　同
蚊の聲や桑切る室の薄明り　翠園
栃の花蕗にこぼれてなく蚊哉　同
集會や晝蚊の多き藪の寺　同
庭の隅物動せばなく蚊哉　木槿

障子しめて蚊の居ぬ室に讀書哉　同
明方の明障子や蚊のうなり　城東
茶筌筒の物を落してなく蚊哉　同
押込の米櫃あけてなく蚊哉　明笛
雨の夜や洋燈にたまる蚊の屍　同
藪の中に馬をつなぐや蚊のうなり　友逸
血に染みし蚊の硝子戸に止りけり　同

紅蓼の露に蚊のなく淸水哉　歸麓園
銀屛に蚊のなくころとなりにけり　同
すをおろす閨の小窓や蚊のうなり　至沄
明近き土間の梯子や蚊のうなり　文翠
晝の蚊や雨に小暗き機の窓　零積
小料理屋裏口入ればなく蚊哉　歸子
渡場に舟待つて蚊に螫されけり　麓生

◎一茶の昆蟲句集（上）

月林生

古今、昆蟲は隨分澤山詩歌俳句に吟詠せられて居るが、其の中で最も多く之を取つて以て材とした俳人は恐らく一茶であらう。今左に一茶がものした昆蟲俳句を書いつけて見る事とした。若し其中に誤謬があつたならば、幸ひに大方諸君子の叱正を待つ。

（一）蝶

蝶ひら〳〵庵の隅を見屆ける
草庵の棚さがしする胡蝶哉
　茂林寺
蝶蝶のふはりと飛んだ茶釜哉
咎人を打つ手に縋る胡蝶哉
蝶飛ぶや蕭占を配る蕗の葉に
蝶飛ぶや此世に望ない樣に
鳥さしの竿の邪魔する胡蝶哉
舞ふ蝶のふりも直さぬ野猫哉
籠の鳥蝶を羨む目附哉
　湯田中
湯の中や人より人に蝶の飛ぶ

　蝶といふ姨山路の案内しけるに俄雨はら〳〵と降りければ
木の蔭や蝶と宿るも他生の緣
睦ましや生れ變らば野邊の蝶
蝶寢るや草引き結ぶ尻の先
葎からあんな胡蝶の生れけり
　常樂院の供養
花桶に蝶も聞くかよ一大事
田に畑にてん〳〵舞の胡蝶哉
門の蝶子が這ば飛び這ば飛ぶ
小男鹿や蝶をふるつて又眠る
氣の毒やおれを慕て來る胡蝶
引かける大盃に胡蝶哉

白黄色蝶も色どりしたりけり
淺黄だけ少しじみ也飛ぶ胡蝶
枕する腕に蝶蝶の寢たりけり
大笊にふせられはぐる胡蝶哉
來る蝶に鼻をあかする垣根哉
わが後につき損じてや歸る蝶
黄組白組來る蝶蝶の出立哉
賓都留の御鼻を撫でる胡蝶哉

（二）虻

飛ぶ虻に任せて行けば野茶屋哉
それ虻に世話を燒かすな明窓
虻一つ晝寢起してまはるなり
神風や虻が敎へる山の道

（三）蜂

熊蜂も軒を知つては歸りけり

（四）蠶

蠶醫者〳〵流行る娘哉

（五）蚊

櫻まで惡く言はする藪蚊哉
我一人食ひて淺茅に鳴く蚊哉
釣鐘の中よりわんと鳴く蚊哉
蚊の出て蚊を燒く草の生に皃
閨の蚊の殘り〳〵て燒かれ皃
蚊の聲に馴てすや〳〵寢る子哉
宵越の豆腐明りに鳴く蚊哉

夕暮や蚊の鳴出して美き
晝の蚊やだまりこくつて後から
隙人や蚊が出た／＼と振あるく
わが宿は口で吹ても出る蚊哉
　曲者隠れて覗ふ圖
哀れ蚊のついと古井に忍び凫
閨の蚊のぶんと許りに焼れ凫
南無阿彌陀佛の方より鳴く蚊哉
一つ蚊のだまつてしくり／＼哉
閨の蚊の初出の聲を焼かれ凫
たのもしき夜の藪蚊も初音哉
夕空に蚊も初聲をあけにけり
可愛らし蚊も初聲ぞ／＼
壁に生ぶる一本草や蚊の籠る
御佛にかぢりついたる藪蚊哉
晝の蚊の隠るゝ程の藪もがな
嫌はれて長生したる藪蚊哉
柱事などして遊ぶ藪蚊哉

（六）毛蟲

それそこに蟻の地獄ぞ這ふ毛蟲
手弱女の側へすりよる毛蟲哉

（七）羽蟻

羽蟻出る迄に目出度き柱哉
昨日には一倍増せる羽蟻哉

（八）孑孑

孑孑が天上するぞ三日の月
今日の日も孑孑蟲よ明日も又
孑孑や夜は結構な堀の月
孑孑よ精出して振れ明日は盆
　寺の庭にて
孑孑も御法の拍子とりにけり

（九）尺蠖蟲

斧の刃や尺蠖蟲のとり戻る
　幽栖
蟲にまで尺とられけり此柱

（十）火取蟲

どれ程に面白いのか火取蟲
木隠れや火のない庵に火取蟲
庵の燈は蟲さへとりに來り凫
如此決定してや火取蟲
逃された草にうぢ／＼火取蟲
斑猫に追はれついでや火取蟲
むだ噺蟲に行燈消されけり
兩三度うろ／＼下手な火取蟲
此雨の晴間をまたで火取蟲
火取蟲咄の腰を折られけり

（十一）蚤

飛べよ蚤同じ事なら蓮の上
木の猿や蚤をとばせる犬の上
蚤のあとそれも若きは美き
蚤飛べや野らは刈萱女郎花
蚤共に松島見せて放ちけり
よい日柄蚤が躍るぞ跳るぞよ
　歸庵
蚤共も豆息才ぞ草の庵
厄病神蚤も負はせて流しけり
蚤咬んでねせて行なり猫の親
飛ぶな蚤それ／＼そこが隅田川
草原にこすり落すや猫の蚤
ままつ子や晝寢仕事に蚤拾ふ
蚤のあと數へながらに添乳哉
蚤焼いて日和占ふ山家哉

（十二）蟬

蟬鳴くや山から見ゆる大座敷
狗は此處へ來よとや蟬の聲
諸聲の鳴きこぼれけり笠の上
蟬鳴くや神木の釘ぬける程
山蟬や鳴く／＼ぬける大座敷
湖に尻を吹かせて蟬の鳴く
初蟬と云へば小便したりけり
蟬鳴くや我家も石に成るやうに
蟬鳴くや天にひつつく筑摩川
願はくば念佛を鳴け夏の蟬
山蟬の袂の下を通りけり
松の蟬どこまで鳴いて晝になる
鰐口の口の奥なり蟬の聲
蟬鳴くやつく／＼赤い風車
初蟬のうきをみん／＼みみん哉
なつかしや床しや蟬の捨衣

（十三）水馬

山水の澄むが上にも水馬

（十四）蠅

やれ打な蠅が手を摺る足を摺
草の葉や世の中よしと蠅騒ぐ
長生の蠅や蚤蚊や貧乏村
笠の蠅もう今日からは江戸者ぞ
　歸庵
笠の蠅われより先に飛入りぬ
蠅打ては蝶もそこ／＼立に凫
椽の蠅手を摺る處打たれけり
親不知蠅もしつかり負ぶさりぬ
人一人蠅も一つや大座敷
塗笠にころりと蠅の辷りけり
御首に蠅が三疋とまつた
　心に思ふ事を
古里は蠅まで人を刺しにけり
豐年の聲を擧げけり門の蠅
蠅一つ打てば南無阿彌陀佛哉
蠅打つて今日も聞きけり山の鐘
世がよくばも一つ止れ飯の蠅
侍に蠅を追はせる御馬哉
　獨樂坊を訪ふに錠のかかりければ
蠅除の草を吊してさてどこへ
騒ぐなら外がましぞよ庵の蠅
蠅除の羽織かぶつて泣く子哉
慰みに蠅など取るや庵の猫
留守の中靜かに遊べ庵の蠅

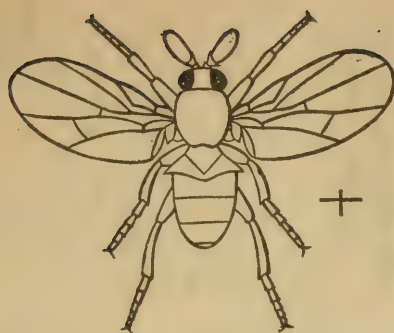
◎昆蟲に關する隨感隨筆（第九回）

昆蟲翁

（五十一）水棲昆蟲の一新採集法　本年四月上旬の事なりき、當研究所庭園内にある池を修理せしに、種々の水棲昆蟲の浮沈するも容易に捕獲し能はざるに由り、彼のインセクトールを注入したるに、水は直に乳白色となり暫くにしてミズムシの類を始め、各種のゲンゴロウムシ、ガムシの類、然も尤も小形なるものにて容易に捕獲し得ざるものを意外に多く採集したるは、實に愉快なりき。是迄石油を注入して採集したるとあるも、惡臭を發すると、容易に水に混淆せざるに比すればインセクトールの勝ることは慥に數倍にして實に妙法と云ふべし。

（五十二）水カマキリの飛揚力　同上の池水僅少となりし際、一頭の水カマキリ池邊に這ひ上り、直に翅を張りて空中に飛揚せり。此際西方の風中々强きにも拘らず、風に逆ひて暫時飛揚し、進行するのみならず漸次高く登るを見たり。其後方向を東南に轉じて愈々高く、愈々速に飛揚したれば、終に見失ひたり。其高く、其速なるには一驚を喫したり。

十

メセセリバヘの圖

（五十三）水カマキリの幼鯉捕獲　五月中旬のことなりき、當所内にある池へ僅一、二寸なる眞、緋兩種の幼鯉一千餘頭を放養せしに、其内衰弱したるものは水カマキリの爲に直に捕獲せられたるもの多く、然も一魚に二、三頭の水カマキリの爭ふて捕獲するの有樣は、實に驚くべき盛んなるものなることを始めて實驗せり。

（五十四）メセセリバヘに就て　メセセリバヘはメセセリ、メツツキ、メマワリ等の方言ありて、四、五月頃山林等に於て昆蟲採集の節は、該蟲の非常に多く來りて、殆んど採集の出來ざることあり、其五月蠅さきことと言語に盡し難く、加之、眼中に一、二乃至三、四頭の入ることは珍らしからず、實に一大閉口と言ふべし。曾て金華山上に於て故プライア氏の採集人と共に採集を試みたる際の如きは、實に非常にして、到底食事すると能はず、捕蟲網を被りて漸く握り飯を食したるとありき。世人は信ず、該蟲は

人眼を好みて來るものなりと。然し實驗に依れば決して眼のみを好みて來るものにあらず。假令ば眼を閉じ居るも矢張同樣に來れるなり。尙能く注意すれば頸筋の邊にも來り、結局該蟲の來るは全く人の臭氣を尋ぬるものなりとす。此事につき、去る頃面白き事實を發見せり、そは某と室外に談話中、某人の被りし帽子の左右に空氣貫の小孔二個宛あり、其孔口にメセセリの多數集り來り爭ふて孔中に入らんとするを見たり。是慥に頭部の臭氣、此孔中より甚しく出づるより、該蟲は特に此所に集合せしものなるべし。

（五十五）當所の移轉と螟蟲の墜落　當昆蟲研究所は、今回岐阜市の東北隅にある金華山麓公園内に移轉するに當り、最初其近傍に一戶を借りしに、該戶は新築後間もなくして未だ造作も終らず、疊建具の無きは勿論、天井もなければ、屋根裏の稻藁（普通は杉皮を用ふる所なれども）は恰も雀の巢に似たり。故に室外より少しく光線を得んとして雨戶を開けば、障子のなきゆへ忽ち風は入り來りて、屋根よりは塵芥を始め土塊の落つるは無數にして、到底仰ひて臥床すること能はざる程なり。其内頻りに頸筋等を這ひ回るものあれば、捕へ見しに、是れ圖らずも最大害蟲たる螟蟲なりければ、直に之を殺せり。茲に於て其近傍を調査すれば、書籍の間等何れの所よりも出で丶忽ち十數頭を捕へたり。又甚しきは硯の内に動くものあり、見れば眞黑となりたる螟蟲なり。實に驚くの外なし。是れ其源因を尋ねるに、全く新藁を用ひたるに依りて、多くの螟蟲の潛伏し居るが故なり。翁は去る廿四年濃尾大震災の節には、大不幸を來し其當時非常なる困難を受けたるに續きての困難を、今回圖らずも來したる次第なるが、螟蟲の室内に墜ち來りて紙を綴り衣を嚙みたるが如きは、慥に前回に勝る所の困難なることを知ると同時に、螟蟲が如何に藁の内に於て越冬するの多やを徵して餘ありと云べし。農家諸君宜敷注意せられんことを望む。

◎柑橘害蟲篇

静岡縣　岡田忠男

編者云、本篇は靜岡縣農事試驗場員岡田忠男氏が柑橘の害蟲に就て調査研究せられたる結果を印刷に附し、當業者に配附せられたるもの、今玆に揭げて讀者の參考に資す。

緖言　凡て農家は其栽培する所の作物に向て觀察する時は、時々生育に異狀を呈して目的なる收穫の如何に影響することを見る。而して此收穫なる目的に差異を生ずるは如何なる原因に依れるやを探究する時は、種々なる事情によれることを發見するに至る。是等の事情は從來一に天災なる語の下に併稱せられたれども、近來學術の進步と共に、天災なる語は自然に分解せらる丶に到れり。而して作物中果樹

に於ける生長の不良、果實の不結果は孰れより來れるかを類別する時は、天災の爲めに不良なるは、能く人爲の得て救濟することは至難の業なりと雖も、此天災以外に屬すべきこと即ち果樹の生理上より起る病症、或は黴菌の侵害より起る病症、或は有害なる小動物の所爲によりて成れる所の災害は、漸々判明するに至ると共に是れを救濟するごとを得るに到れり。然れども一般當業者が以外にも不注意にして一圓に蔓延せしめて而して後是れを防禦するが如きは、恰も今や死に瀕せんとするの病者をして醫師の診察を乞ふが如く、到底治療の目的を達せざると同じきを以て、豫め栽培家は常に自已の栽培する所の果樹に向て災害を未發に防除するの志想を有し以て事に當ること必要なりと信するを以て、以下章を追て是等關係の事項より、害蟲の各論に及ぼして説明せんと欲する所以なり。

果樹の害敵　果樹に對する害敵とは何ぞ、即ち果樹に於ける生育を妨害し、果實をして用ふること能はざらしむるに至る所の害を加ふるものにして、是等は如何なる果樹にても詳細に調査したらんには必ず受けつゝあるなり。而して其害を加ふるや、先つ果樹の莖根、枝葉、果實の孰れを問はず喰害するあり、枯死せしむるありて、全部に及ぶものあり、或は一部分に亘るありて一樣ならず。此現象を呈するに至るは即ち害敵の所業なりと認むることを得るなり。然れば栽培家たるもの如何に是れに向て處置し得べきか、即ち其害敵の何たるを了知して而して後に初めて手を下すにあらざれば失敗を招くに至るを以て、先つ左に害敵の種類を分たん。

害敵の種類　果樹に害を加ふる所のもの實に夥多にして枚擧すること能はされども、今大別すれば左の如く類別することを得。

一、生理的より來る病症　一、黴菌の寄生より來る病症　一、動物の加害

右の三者に區別するを得るも、是等能く果樹栽培上常に孰れより來りたるかを探究して以て是れに對するの策を講ずること必要なれども、這回茲に述べんとするは第三者に屬すべきものなれども、是れ又範圍の實に擴大なるを以て尙ほ是れを細別せん

動物の加害

一、鳥獸の加害　一、軟体動物の加害　一、節肢動物の加害

以上の三者中一二に屬するものは或る一地方又は一區域に限りて加害すれども、第三者即ち節肢動物に屬するものに至りては、著しく到る所に於て果樹に加害するを以て、世人は能く其加害することを了知せ

り。而して此動物中尚ほ細別する時は種々あれども、先つ果樹を害するものは節肢動物中昆蟲類と蜘蛛類に屬するものならむ。

昆蟲の定義　節肢動物中には甲殼類に屬すべきカニ、エビの如きもの、蜘蛛類に屬するクモ、ダニの如き、多足類に屬するムカデ、ヤスデの如きものありて、昆蟲類は以上の各類と其趣を異にして別に一類をなせり。而して昆蟲類の特徵は軀體の構造大に異なりて、昆蟲の充分成長したるものは、頭、胸、腹の三部分を具へ、二本の觸角を有し、四翅を具へ、六脚を有する所のものにして、此軀體、部分を有するものは昆蟲の名稱を下すことを得て、節肢動物中他類に比して大多數を有する所のものなり。

昆蟲の生活、變態、繁殖の模樣　夥多なる昆蟲類の生活に於ける有樣は、實に千差萬別にして、或るものは池邊に住みて小動物を食するもの、植物の液汁を吸收して生活するもの、木髓に宿りて髓中に穴を穿つもの、地中に隧道を作りて縱橫に步行して他蟲を捕食するもの、水中を游泳して生活するもの等其棲所に、其食餌に、其動作に、各々異なるの生活をなすこと實に多々なり。

此夥多なる昆蟲は終始同一なる形態を有するかと云へば、左にあらず常に其形態を變じて一ならず、或る時は不動の形をなし、或る時は活動の体に變し、實に豫想外の形を顯はすに至る。是即ち昆蟲の變態にして、彼等は繁殖の爲め、敵の防禦の爲めに斯くなす者ならん。而して其變態は親即ち昆蟲の成蟲は必ず雌雄の兩者を生ド、雌蟲は子孫を後世に繼續する爲め必ず卵子を產下す。其卵子たるや色澤に形狀に、產卵の場所に、皆異なれり。其一時代を經過すれば卵粒は破れて內より孵化したるものを出す、是れ即ち幼蟲にして充分成長する迄には數回皮を脫きて成長す。其局点に達すれば靜息の時代にして成蟲となるの用意をなす、此の時代を蛹期と稱し、或るものは靜止し、或るものは幼蟲と少しも異ならざるものあり、前者即ち靜止する時代を蛹と稱す。後者は卵より幼蟲に、幼蟲より直ちに成蟲と變ず。是れを不完全變態と稱へ、前者は蛹期を經て成蟲となりて一變態をなす是れを完全變態と稱す。數多の昆蟲は皆是等の變態をなすものなり。

繁殖の順序は主もに成蟲の產下する卵子によりて繁殖するは普通なれ共、特種のものは腹中の卵粒產卵門に於て破ぶれて幼蟲を出す、是れを胎生と稱す。昆蟲には皆此二種の繁殖を以て繁殖しつゝあるなり

柑橘の害蟲　果樹は勿論凡ての作物には是れを侵害する所の昆蟲あり、是れ等の昆蟲は農家の栽培する所の作物を侵害するを以て、農家は是れに害蟲たるの名稱を下して防禦しつゝあるなり。而して柑橘

なる農家の栽培する所の果樹に害を加ふる所の害蟲の有無に付て研究する時は、終始是れに向て多くの害蟲が加害しつゝあるなり。故に多くの柑橘は時々枝葉に異狀を呈し、或る時は枯死し、或る果實は自然の色澤を害し、或は落果せしむる等實に種々なる害蟲が柑橘に向つて寄生しつゝあるに、多くの當業者は少しも顧みず、若し往々注目するも實に姑息の手段を加へて一時を彌縫するに過ぎず、是れを以て樹枝は衰弱し、果實は充分の香味色澤を有せざるに至る、是等の事實は必竟昆蟲志想の缺乏より來るの結果なりと云ふも敢て過言にあらざるなり。若し栽培家にして眞に栽培せられて良好なる果實を得んと欲せば、能く害を除きて以て最良なる收穫を望むべきなり。要するに目今多くの栽培家は唯植ふることを知て害を除くことを知らざるの有樣なり、而して如何に善良なる土地を控へ、如何に氣候に適し、如何に良種ありて是を栽培するも、害蟲の防除を等閑に附したらんには計るべからざる損害を被むることは明かなる事實なり。然れども或人は云はん柑橘の害蟲は恐るゝに足らずと、是等の士は害蟲の何物なるを知らざるの人にして共に語るに足らざるなり。加之。活眼を開ひて柑橘栽培の有樣を見よ、我國到る處是れが栽培を初め、昨三十六年に於ける柑橘栽培地は二府二十縣の多きに及べり。故に甲の良種は乙地に移され、乙地の良種は丙地に栽培せられ、或は良種を遠く外國に仰ぎて以て栽培せんとせらるゝにあらずや、若し此際害蟲を共に輸送したらんには將來恐るべきの被害を見ることは從來の歴史に徴して明かなり。又一方より論ずる時は。國内の需用滿ちて海外に輸出する時に於て害蟲の附着したるもの又以て貿易市場の打擊を受くるのみならず、現に我國の輸出の植物果實は獨逸の輸入禁止となり、米國は時々輸入蜜柑に向て注意を促さるゝのみならず、我輸出蜜柑に對して皆消毒せらるゝと聞く、彼れを思ひ、是れを慮ふるに於て、栽培に從事するもの深く將來を鑑みて平素相戒め、相謀りて以て美果を產し此競爭塲裡に敗を取らざらんことを、柑橘の害蟲些々たりと雖も侮る勿れ、古諺に蟻穴能く崩堤の因となることは小事の忽かせにすべからざるの事なり、柑橘栽培者たるもの害蟲に注目する所あれ左に記する所は主として順次柑橘に於ける害蟲の形態、習性、經過等を說明し、併せて是れが驅除豫防の方法の現今世間に行はるゝものと自己の考へとを參酌して列擧し、以て諸君の注意を乞ひ、同時に自今益々柑橘に於ける害蟲の調査と、最良なる驅除豫防を講究せられんことを希望す。

(未完)

◎昆蟲の催眠術

東濃加茂郡和知村　長瀬清五郎

近時催眠術といへるもの非常に流行し來り、予も亦數々之を試むるに、暗示の効力を第二者に及ぼすことは固り自由にして、第三者に及ぼすことも、亦全く出來ざるにはあらず、予は現に之を實驗して、產婦の腹痛を緩め、乳兒の啼泣を止め眼病風邪等を醫治せり。哲學の泰斗釋迦はいへり、一切衆生は如來の智恵德相を倶有すと、吾等人間にして上述の如き催眠術をなし得るとせば同じく如來の種性を倶有せる昆蟲にもなし得らるべきなり。蚊の人血を吸ふに羽を微動する、蟻の甘液を求むるに蚜蟲の体を觸角にて摩する、クダバチの青蟲等を捕へ來て產卵する時びん〳〵言はする等は、所謂催眠的法方にあらずや。彼のマツケムシの法螺の響に樹より落ち、蚊の鵯鵊の聲に集る等は、皆爲に催眠さゝる者ならん。古來蟲送りとて鉦大鼓等を叩き、人々打囃し行くも、害蟲を催眠さするの目的にあらざるか、予は未だ是等昆蟲に對して一も經驗を持たず、故に若し名和先生の許可を得ば予は出岐研究せんと欲するなり。方法はまづ暗示力を第三者に及ぼすことより試みたし。但資力乏しくして、專ら之に從事するの意に任せず、依て之を篤學の士に訴ふ。

蟬なくや　行水時の　豆腐賣　（子規）

◎靜岡縣磐田郡產の昆蟲（二）　（神村直三郎氏送附）

名和昆蟲研究所分布調査部

（二三）ツチイナゴ(Acridium consanguineus, Serv.)一頭、三十七年三月十一日、岩田村山林。大形の褐色種にして、疊まれたる翅の背面は灰黃色を呈す●（二四）ヒシバッタ(Tettix japonicus, De Haan.)一頭、三十七年三月廿六日、岩田村。土色を呈す、躰菱形なるを以て此名あり、背面の紋理は變化多し●（二八）ミヅカマキリ(Ranatra brachyura, Horvath.)一頭、三十七年三月廿五日、岩田村小池の中にて。躰形細長く、前肢は變化して蟷螂のそれの如く、腹端に二本の長き尾樣物あり、水中に棲止せる時は、恰も塵芥の如く見ゆ●（二七）メダカガメムシ(Chauliops fallax, Scott.)三頭、卅五年六月四日、岩田村葛葉上、

体長一分許り、褐色の微小種にして、複眼著るしく突出す●（六〇）クロスヂカゲロフ（Sialis japonicus, M. L.）四頭、三十七年三月二十七日、岩田村小流の岸の草及近邊の松の枝に靜止せり。松村氏のセンブリと稱するものにして黑褐色の小形種なり●（四四）ビロウドツリアブ（Bombylius major, Linn.）三頭、三十七年三月廿六日、岩田村。全躰黃褐色の軟毛を以て覆ひ、肢は殆んど前半暗褐色を呈し、後半無色透明にして、口吻は頗る長く、空中に止まること恰も釣り置くが如し●（五二）ホシヒラタアブ（Syrphus arcuatus, Fallen.）二頭、三十七年三月廿七日、岩田村、空中に止まり居りて以て他蟲をとる。ヒラアブに比し、躰稍太く、腹部の背面黑色にして黃褐色をなせる六個の斑紋は相對して三條帶をなす●（五七）ハナアブ（Eristalis tenax, Linn.）一頭、三十七年三月二十七日、岩田村蕓苔の花。躰には黃褐色の短毛を密生す、最も普通種にして、常に各種の花に集まり花粉を舐食す●（五五）ノラアブ（Eristalis incisuralis, Loew.）一頭、三十七年三月廿七日、岩田村蕓苔の花。形ハナアブに似て稍小さく、翅には殆んど斑紋を有せず●（五六）モモブトハナアブ（Helophilus virgatus, Coquill.）一頭、三十七年三月廿七日、岩田村蕗及蕓苔の花。形ハナアブに似て躰少しく細く、胸背に二條の黃褐色の縱線あり、后肢太くして長し●（五八）クロバヘ（Calliphora lata, Coquill.）三頭、三十七年三月廿七日、岩田村。黑色の大形種にして頭胸部は少しく灰色を帶び、腹部は瑠璃色を帶ぶ。常に汚物に集まるを以て俗にクソバヘと稱す。

メダカガメムシの圖

ハナアブの圖

◎愛知縣渥美郡產の昆蟲（蛾の部二）

名和昆蟲研究所分布調査部

番號	種名	豊橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	伞呂村	福岡村	野依村	豊岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	清田村
五六、	子キリムシノガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	一	一	—	—	—
五七、	シロホシアカシタバ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—
五八、	シラフガ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—

五九、ハ子クロガ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
六〇、ギシギシノチキリムシノガ	|	|	|	一	二	一	|	一	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|
六一、クロクモガ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|
六二、イ子ノアオムシ	|	|	一	|	|	二	|	|	|	|	|	一	|	一	|	一	|	|
六三、アケビノキノハガ	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
六四、キシタバガ	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
六五、コガタノキシタバガ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	一
六六、モクメキシタバガ	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|
六七、オホトモヘモンガ	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	二	一	|	|
六八、カキノハマガヒガ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|
六九、トモヘモンガ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|
七〇、シロスヂトモヘガ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|
七一、フクラスズメガ	|	一	|	一	|	一	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|
七二、ウンモンクチバガ	|	|	|	|	一	三	|	一	二	|	|	|	|	|	二	|	|	|
七三、イヌガヤシヤクトリ	|	|	|	|	一	一	一	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
七四、エダシヤクトリ	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
七五、アチツバメシヤクトリ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一	二	|	|	|
七六、ナミサミダレガ	|	二	|	一	二	三	|	|	|	|	一	一	一	二	一	|	|	|
七七、サミダレガ	|	一	|	|	|	三	|	|	|	一	一	|	一	一	一	|	|	|
七八、ユフマダラガ	|	|	|	一	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
七九、モモゴマダラガ	|	|	|	|	|	二	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
八〇、フト井ノズ井ムシ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|
八一、イ子ノズ井ムシ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	一	|	|	|	|	|	|
八二、コメツヅリムシノガ	|	二	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|

晝中や
蟬の集る
大榎
（子規）

◎德島縣波阿郡螟蟲驅除奬勵規程

第八回全國害蟲驅除講習修業　德島縣阿波郡役所內　藤江龜七

本郡に於ける螟蟲に就ては、從來其れそれ驅除し來りしも、未だ十分の効果を收むる能はざりしかば、本年度より左の如き奬勵規程を設け、實行の運びになせり。最も初年の事故、其額甚だ僅少なれども奬勵の楷梯の事故。十分の意を用ひ大に實行の考なり。何れ他日其結果を報ずべき期あらんも、今は只其方法を告ぐるのみ。

阿波郡螟蟲驅除奬勵規程

第一條　本郡に於ける稻螟蟲の全滅を期せんか爲め、本規程に依り、買收及抽籤懸賞の方法を以て、驅除の奬勵を行ふものとす

第二條　明治三十七年稻作期中郡內に於て、苗代及本田畑に通じ、螟蛾、卵塊、及被害莖を採集したるものに對し、左の方法に依り買收及懸賞を行ふものとす。

一、買收金額を九拾圓と定め、本年事業終了後に於て抽籤券交付高を調査し、其數を以て該金を除したる商を買收單價と定め、各自其抽籤券所持高に依り通算の上、本年十一月中、村役場を經て現金を本人に交付す。

二、懸賞金額を九拾圓と定め、前項買收金を交付せる抽籤券總高を以て抽籤に付し、第十二條に定むる當籤金を交付す。

三、抽籤券は次の數每に各一枚を交付す。（イ）稻螟蟲蛾百蛾　（ロ）卵塊三十塊　（ハ）被害莖（螟蟲現在せるものに限る）尺〆一把。

但し苗代に限り螟蛾五十蛾、卵塊十五塊に對し各一枚を交付するものとす。

第三條　抽籤券は別紙樣式に依る。（樣式略す）

第四條　螟蛾は百蛾、卵塊は三十塊每に紙袋（宇田紙若くば類似のもの）に收容し被害莖は一尺廻りを一把となし、所轄村役場へ差出すへし。尤も苗代に於ける螟蛾及卵塊の員數は、第二條の末項に依るものとす。

第五條　村役場にありては採集者の名札を付し置き、取纏め當役所へ差出す可し。

第六條　郡役所は現品を精査し、引替に抽籤券を交付し、抽籤券交付名簿に登錄す。
第七條　抽籤券交付濟の螟蛾、卵塊、及被害莖は直に燒却するものとす。
第八條　前條買收及抽籤券交付締切期は十月十五日とす。
第九條　抽籤券を紛失又は毀損したるものは所轄村長の証明を得て再交付を請求すへし。但、再交付の場合は、前に交付せしものは無効とす。
第十條　採收したる螟蛾及卵塊、被害莖送付の費用は自辨とす。
第十一條　抽籤は明治三十七年十一月中本郡役所に於て各村長立會の上之を執行し、抽籤券持參者は隨意參觀を許す。
第十二條　抽籤等級及懸賞金を定むる左の如し。
甲、(壹人にて抽籤券三十枚以上を得たるもの)　一等　金七圓　一本。二等　金參圓　一本。三等　金壹圓五拾錢　六本。計八本
乙、(一人にて抽籤券十五枚以上三十枚未滿を得たるもの)　一等　金參圓　一本。二等　金壹圓五拾錢　二本。三等　金八拾錢　十本。四等　金四拾錢　三十本。計四十三本
丙、(一人にて抽籤券十五枚未滿を得たるもの)　一等　金貳圓　一本。二等　金八拾錢　十本。三等　金五拾錢　二十八本。四等　金貳拾五錢　八十四本。計百二十三本。合計百七十四本。
編者云、奬勵の方法としては頗る可なりと雖ども、驅除物の處分をなすに、燒却するは甚だ面白からざるなり。抑も卵塊は各村字若くば個人に於て、適當の方法を以て益蟲を保護せざれば其効少なく、被害莖は槌を以て莖中の螟蟲を撲殺し、之を肥料に用ひしむべし。徒に高價なる石油を用ひ、貴重なる肥料を灰燼に歸せしむるは、實に忌むべき事なり。宜しく適當の方法を設けて、之が處分を施されんことを切に望む。

◎昆蟲に關する葉書通信　(第四十二報)

(三四一)岐阜蝶を採集す(新潟縣岩船郡神納村、佐藤榮)　去五月七日午前中、寸暇を得、當村字松澤地內に於て昆蟲採集を試みしに、岐阜蝶三頭、外にウスバ細辛に產卵しあるもの十數個を獲たり。卵は目下飼育中にて、早きは孵化後四五日、遲きは未だ卵のまゝなり。予は曾て該蝶が當地に分布せることを話せしが、今茲に之を確証す。
(三四二)昆蟲片々(岐阜縣郡上郡上保村、壚田健藏)　昨年送附せし百合の葉蟲の幼蟲は白色にして、百合の根莖即ち鱗片を食害することを發見せり。發生經過は猶實驗を重ねて報ずべし●此頃大蟷螂の卵

及一文字蝶の幼蟲の寄生蜂發生せり●本年は雨天勝にて採集に困難なり、併し少々採集せしものあれば近日中笑覧に供せん●一昨日より桑樹害蟲驅除法當地にて行はる、監督を受け、督促を受けて自家の害蟲を驅除するといふ不合理なることには驚入りたり。一層昆蟲學發達の必用を感じ申候（五月廿八日附）

（三四三）椚の蟲癭と迷信（第十六回講習、徳島縣、鎌田愛藏）　本縣下にては、三月來椚の木に花咲けり、是れ帝國の大勝利の吉兆なりとて、都鄙老幼、或は見物に、或は採集に、非常に騒ぎ立て、迷信も甚しく實におかしき次第につき、予は實物を採集し、研究するに、豫想に違はず彼の蜂の蟲癭にてありき。如何なる原因なるか、本年は發生殊に甚しくありき。依て本縣新聞紙上にも研究の結果を圖解詳説し世の迷妄を打破せり。時節柄大に公益を與へしと確信す。是れも全く貴所講習を受けし賜と感佩せり。

（三四四）福井縣の蟲報（福井縣大野郡富田村、松本甚太郎）　害蟲の驅除に就ては、時局に鑑み、其筋にては注意を怠らざる所なるが、縣下足羽郡東郷村の如きは去月廿九日を以て植付に着手したると同時に誘蛾燈若しくば其他の方法を以て害蟲の有無を撿したるも、發生を認めざりしと、亦敦賀町一小部の苗代田に發生を見たりと云ふ。浮塵子の如きも頗る少數に止り、一畝歩に對し二三十頭位なるが、目下嚴に石油撒布捕蟲網使用中にして、郡衙よりも毎日吏員出張して督勵し、皆無を期すると云ふ勢を以て驅除中なり。大野郡には到る處苗代及び本田に大に螟蟲發生し、目下驅除勵行中にて、各區長に監督を命し、農家をして室内及室外に於て誘蛾燈を點火し、折角の驅除中なり。（六月四日附）

（三四五）二個繭雌雄四頭の蛾となる（岐阜縣山縣郡、篠田五郎）　カレハガの繭二個を採り、籠に入れ置きしに、昨朝雄二、雌一發蛾せり。夜に到りて撿せしに、雄雌各二頭つゝとなり、今朝檢せしに雌二雄一となり、雄は交尾の上逃去りたり。昨夜は隨分夥しく産卵したりき。只二個の繭を籠に入れ置きしのみにて雌雄各二頭つゝとなるは、雌蟲若しくば同種の香氣を尋ね他より來りしならんも、實に面白きことにこそ。（六月六日附）

雜報

草の葉や
生れたまゝの
蟬が這ふ
（逸名）

◉昆蟲標本陳列館案内（其五）　前號に於て紹介せし（ナ）及（ラ）部の一段高き所には生物を植物と動物との二に別ち、植物を更に原生植物、菌類植物、藻類植物、蘚苔植物、羊歯植物、裸子植物、被子植物の七に、動物を原生動物、腔腸動物、棘皮動物、蠕形動物、節肢動物、軟体動物、脊索動物の七に別ち、各數種宛の標本を配し、昆蟲は節肢動物に屬するものなることを示し、尚更に其節肢動物を多足類、蜘蛛類、昆蟲類、甲殼類の四類に分ちて昆蟲類の位置を示し、次に昆蟲に付きパッカード氏の七分類式、カムストック氏の十九分類式を掲げ、更に細別してカムスットク氏の式に則とり百三十五科に分ち、各科數種の標本を配し、表に製したるものを掲げたれば、一目瞭然、初學研究者の一覽すべき價値あるを信ず。一歩を進めて（ム）部に移らば、此處ぞ害蟲軍の主將として、農家の主要作物たる稻作に對し、年々數百萬石の收穫を減少せしむる豪將螟蟲に關するものを陳列したるものにして、即二化生螟蟲の經過標本、其他二化生螟蟲、三化生螟蟲の害蟲圖解（當昆蟲研究所發行）、農商務省農務局の藏版にして練木喜三氏の選述に係る螟蟲圖解（明治十九年二月刊行有隣堂發兌）、愛媛縣山内幹衛氏寄送の明治三十三年度愛媛縣新居郡三化生螟蟲驅除區域地圖、同縣矢野延能氏寄贈の三化螟蟲の被害稻數種と、無害稻との比較標本等、尚其他二化螟蟲の卵塊一瓶、岐阜縣内務部所藏の有害蟲類標本解説書、諸方に於て製造せし螟蟲蝕入莖切取鎌等は其重なるものなり。（ウ）部は稻作害蟲軍の副將以下下士即ちツマグロヨコバヒ、一文字セヽリ、キリウジガガンボ、イチノアヲムシ、イナゴ等の害蟲圖解（當所發行）及其經過標本、岐阜縣西堀彌市氏寄贈の稻葉郡正木輪中に於てトノサマバッタ、クビキリバッタの食害したる稻穗標本、其他浮塵子の被害せし稻穗標本、同米の標本、靜岡縣濱名郡に於て明治三十一年苗代田の害蟲を一回驅除して四斗二升入三十八俵半捕殺したる一部の標本（靜岡縣松島十湖氏寄送）、農務局藏版にして明治十八年四月有隣堂發兌の苞蟲圖解等を陳列せり。（キ）部に進めば桑樹の害蟲シンムシ、エダシャクトリ、クハケムシ、クハカミキリ、キンケムシ、イトヒキハマキムシ、ヒメザウムシ、トゲシャクトリ、アヲハマキムシ等の害蟲圖解及其經過標本、其他ヒメザウムシの被害桑樹、該蟲驅除用鋸等を以て充たし、（ノ）部にはタバコノアヲムシ、ミノムシ、エンドノキリムシ、チヤケムシ、テンタウムシダマシ等の害蟲圖解及其經過標本を配列し、（オ）部は水產昆蟲として養魚家の害蟲たるミヅカマキリ、ユリノハナスヒ、ガムシ、ゲンゴラウ等二十三種、家畜の害蟲ウマバヘ、ウシバヘ、ウシアブ等十五種の陳列あり。以上（ム）部より（オ）部に至る五部は此館の奥の院にして、最も重要なる農作物害蟲標本の陳列した

る所なれば、標本の如きも最も製作に困難なる經過標本を以てし、其他圖解に、驅除器等に至るまで網羅したれば、縱覽者の最も注意すべき所なるに、事實は之れに反し、蟲体の小にして美ならざる爲か、縱覽者の目的こゝにあらざるか、足を止むるものゝ少なきは遺憾なり。農家諸子宜しく驅除豫防の方法を講究すると共に、此邊に留意して益々改良發達を謀られんことを望む。

◉蚤と百斯篤の關係　臺灣醫學會雜誌に於て、蚤と百斯篤の關係につき、チラボーシー氏の研究を抄錄せられたれば、左に之を轉載して、讀者の參考に供することゝなしぬ。

◉蚤と百斯篤の關係　Dr. Carls Tiraboschi. 述　Arch. F. H. 46. B. 3. H. 1903.

ドクトル、カロー、チラボーシーは蚤と百斯篤との關係に就き研究豫報せり、從來蚤の百斯篤傳染の媒介を唱ふるもの少からず、即ちハンキン、スチイケル、エルザン、緒方等の如きは全く之に反對し疑はしと言へり。

以上の爭論を解決せんとするには、先づ鼠族の種類と蚤の種類を、動物學的に研究するの要ありとし先づ其種類を區分せしに左の如し。

（一）大鼠に寄生する蚤の種類　1. Ceratophyllus fasciatus Bosc. 甚だ多く寄生す。2. Pulex serraticeps Tsch. 稍多く寄生す。3. Pulex irritans L. 甚だ少し。4. Ctenopsylla musculi Dug. 甚だ少し。

（二）家鼠に寄生する蚤の種類　1. Ctenopsylla musculi Dug. 甚だ多く寄生す。2. Ceratophyllus fasciatus Bosc. 少し。3. Pulex irritans L. 甚だ少し。4. Sarcopsylla gallinacea Westu. 甚だ少し。

（三）鼷鼠に寄生する蚤の種類　1. Ctenopsylla musculi Bug. 甚だ多し。2. Ceratopoyllus fasciats Bosc 甚だ少し。3. Hystrickopsylla tnipectinata. 甚だ少し。

（四）森鼠に寄生する蚤の種類　1. Ceratophyllus fasciatus Rosc. 甚だ多し。

以上五種の內 Ceratophyllus fasciatus Roec. Ctenopsylla musculi Dug. Hystrichopsylla tinpectinata m. の三種は全く人體を刺螫せざるものなり、故に鼠族より百斯篤菌を人體に傳搬せしむるの能力なきものと認めて可なるべし。然るにPulex serraticeps Tsch. Pulex irrtans L. の二種は、鼠族に寄生すること比較的少きにも關せず、人體を刺傷するものなるを以て、病菌傳染を媒介するものとす。此の如く蚤の種類により其性能を異にするを以て、蚤と百斯篤との關係に就ては、從來一轍に出でざりしこと明なり。

又チイヅウェルはシドニーの百斯篤流行時に於て、鼠に寄生する蚤百足を捕獲し、其種類を區別せしに左の成蹟を得たり。

1. Pulex fosciatus. 十疋。 2. Typhlopsylla musculi. 八疋。 3. Pulex serraticeps. 一疋。 4. Pulex pallidus. 八十一疋。

而して第一、第三、第四は人體を刺咬するも、第二は刺螫せず、故に傳染の媒介を爲さゞるものとす

◉昆蟲掲示場記事　前號に於て該記事を休載するの止むを得ざるに至りたるは、四月初旬より當昆蟲研究所移轉の工事に着手し、該掲示場は取除けしも未だ移轉地に之を設置するの運びに至らず止むなく四月中は中止することとなりたればなり。然るに五月十七日に於て、不完全ながらも該掲示場を設置して、移轉地に於ける初回の掲示をなすこととなしぬ。而して掲示物は繼續的、臨時的、特別掲示の三樣なるは從前に異ならざるも、其內容に至りては從來の順序を追ふ能はず。是れ重なる縱覽者の異なるに從ひ、程度を斟酌するの必要より出でたるものにして、從來のそれと重復するの嫌ひあれども、幸に諒とせよ。今五月七日以來の重なるものを擧ぐれば、繼續的の昆蟲の七類には、膜翅類にヲナガバチ、クマバチ、アシナガバチ、ヂバチ、ダンゴバチ（膜翅類とは翅の膜質なるもの）。鱗翅類にアカタテハ、キアゲハ、モンシロテフ、モンキテフ、ゴマダラテフ（鱗翅類とは翅に細鱗を裝ふもの）。双翅類にシホヤアブ、オホムシヒキアブ、イヘバヘ、オホハナアブ、ベッコウバヘ（双翅類とは二枚の翅のもの）。甲翅類にヒゲコガ子、カブトムシ、ハンノキカミキリ、クハガタムシ、クハカミキリ（甲翅類とは上翅の堅きもの）。半翅類にユリノハナスヒ、ミヅカマキリ、タガメ、アヅキガメムシ、コオヒムシ（半翅類とは上翅の半は堅く半は軟きもの）。直翅類にアシベニイナゴ、トノサマバッタ、ハ子ナガイナゴ、ツユムシ、キリギリス（直翅類とは上翅の平直なるもの）。羅翅類にカハイトトンバウ、シホヤトンバウ、ハラビロトンバウ、ノシメトンバウ（羅翅類とは極めて薄き翅を有するもの）。等を揭げ、臨時的には寄生蜂にかゝりしエダシャクトリ及カモドキバチを示し、次の說明を加ふ。エダシャクトリは桑樹の大害蟲にして、本年は殊に其發生多し。之れを驅除するに當り、（一）の如き死せるエダシャクトリを見ば、其中より（二）の如きカモドキバチの出づるものなれば、其儘放置して保護し置くべし。次にキンケムシの幼蟲及繭を示し、次の說明を加ふ。之れはキンケムシと申して桑の害蟲で毒毛がありますから、驅除するに注意せねばなりません。この繭は此蟲の繭でありますが、この中よりどの樣な蛾が出ますか注意して

御覽ん。次に源氏螢と平家螢の幼蟲、成蟲を示し、簡單なる說明を加ふ。螢には色々の種類がありますが、此の二種は普通の種であります。是れ等の螢は卵も、幼蟲も、蛹も、成蟲も、皆光を放ちますから螢が此の世に出でゝより光の絕へたことはありませぬ。次に源氏螢、平家螢二種の腹面を示し、腹端の發光すべき個處を說明す。特別揭示物には西濃印刷株式會社印刷の本邦六大島蝶圖、名和日本昆蟲圖說第一版、第二版圖、笹魚等を揭け、簡單なる說明を加へたり。

◉三十七年度の害蟲驅除豫防費　本年度に於ける各府縣の勸業費豫算中に編入せる害蟲驅除豫防費は、昨年に比し、總計に於て殆んど半額以下に減ぜられたるは、實に甚しく遺憾とする處なりと雖ども、亦止むを得ざる次第にして、幸に當局者及農業者に於ても經費の多寡に關せず益奮て之に當り、軍國々民の本分を盡さるゝの意氣込なれば、敢て憂ふるに足らざるも、今參考の爲左に前年度に於ける費額と對照せんとす。但し表中▲印は減

府縣名	費目	前年度	本年度	前年ニ比シ増減
京都府	害蟲驅除豫防	一〇〇円	一〇〇円	〇円
大阪府	害蟲驅除豫防補助	一二五一六	三〇五〇	▲九四六六
茨城縣	害蟲驅除豫防	二五二〇	〇	▲二五二〇
栃木縣	害蟲驅除	一〇	一〇	〇
三重縣	害蟲驅除	六〇〇	六〇〇	〇
山梨縣	害蟲驅除	一〇〇〇	一〇〇	▲九〇〇
滋賀縣	害蟲驅除豫防補助	一〇〇	一〇〇	〇
岐阜縣	害蟲調查及豫防補助	二四二一	七三〇	▲一六九一
宮城縣	害蟲驅除豫防	〇	一〇〇	一〇〇
福島縣	害蟲驅除豫防	五〇	二〇〇	一五〇
岩手縣	害蟲驅除	〇	五〇	五〇
石川縣	害蟲驅除豫防	一〇〇	一〇	▲九〇
富山縣	害蟲驅除豫防	一六〇	八〇	▲八〇
岡山縣	害蟲驅除豫防	三〇〇〇	二七〇〇	▲三〇〇
廣島縣	害蟲驅除豫防	〇	一〇九九	一〇九九
香川縣	害蟲驅除豫防補助	一	一	〇
愛媛縣	害蟲驅除豫防	二八一九	〇	▲二八一九
大分縣	害蟲驅除豫防	二二七四	二二七四	〇
佐賀縣	害蟲驅除	四四一〇	四四一〇	〇
熊本縣	害蟲驅除	四三四〇	一六一九	▲二七二一
宮崎縣	害蟲驅除豫防	五二五	五二五	〇
北海道	害蟲驅除豫防	〇	三〇〇	三〇〇
計		三六九四六	一八〇五八	▲一八八八八

◉夜間昆蟲採集塔　當昆蟲研究所の票識として、本誌學說欄花枠に摸寫せる如き風見を設けし事は、既に第一回全國昆蟲展覽會開會の當時より世人の知る所なるが、今回移轉と共に少しく之を改善

し、中途に軍艦の砲塔の如きものを設け、其少しく上にアセチリン瓦斯を點じて夜間の昆蟲採集場となしたり。今其構造を少しく述べんに、高約七間の竿を建て、其殆んと先頭に害蟲を代表すべき螟蟲の經過摸型を以て方位を示し、卵塊を以て北と定めたり。而して其上には益蟲を代表すべき蜻蛉の摸型を以て風見となし、恐るべき害蟲にも亦益蟲の制裁あることをも示したり。其下には當所名の旗を揭げ、前記採集場は竿の殆んと中央にありて鉄にて造り、數人之に乘り得べき樣なしたり。又燈下には收受器を設け、燈火に集まるものは自然にも採集し得らるゝ樣になり居れり。上圖は即ち其眞景にして、次號より之を學說欄花枠に挿入せんとす。

學說

名和昆蟲研究所

◉害蟲驅防監督官の派遣

昨年秋季に於て氣候適順なりし爲、諸害蟲の越年せしもの殊に多かりし事は曾て之を警告し置きしが、果して本年の害蟲發生は甚しく、發生公報の如き頻々相繼き、今や全國到る處其發生を見ざるの地なきに到りしかば、農商務省は本省、本場及各支場より夫々監督官を各地に派遣せしめられたる由、其區城左の如し。

三重、大阪岡山、廣島、山口、島根、島取(齋藤技師)。愛知、石川、福井、富山、新潟(小貫技師)。和歌山、高知、岐阜(堀技師)。滋賀(恩田技師)。香川、愛媛、德島、京都(手村技師)。山形、秋田、岩手(大塚技師)。佐賀、長崎(莊島技師)。大分、鹿兒島、宮崎福岡、熊本(西田技手)。栃木、宮城、青森、福岡(宇都技手)。

◉惠那郡北部に於ける心蟲の情況

岐阜縣に於ける桑樹の最大害蟲たる心蟲の驅除につき本縣より驅除監督員七名を囑托せしことは、本誌前號に其人名を報せし處にして、各員よりは當所宛其情況を報告せしもの數十通に達し、其一部は岐阜縣農會報第百三十六號に於て、當名和所長が昆蟲雜記中に揭載せられたる處なるが、其後全國害蟲驅除講習修業生三宅幸三氏も其囑托を受け、惠那郡の北部に出張して調査したる有樣を當所へ報告せられたれば、左に之を揭げて參考に供せんとす。

五月十五日以來、一ヶ町村一日間宛の豫定にて日並を定めて各町村に出張、早朝より午後四時頃迄各部落を出來得る限り踏跋して調査を遂げ、午後四時同村吏員其他區長、組長、驅除員、地主又は小作人等に會し、當日調査の報告をなし、驅除の方針、並方法等を

議し、驅除の日並其方法等打合をなし、去る二十三日を以て受持區内の一周を了せり。今各町村被害狀況を示せば次の如し。

一、加害多き所　坂下村大字上野、數個乃至數十個宛の加害ある喬木澤山にして、中には數百個の加害ある甚しきものあるを見たり●坂下村大字坂下字袖洞、數個乃至數十個の加害あるを見たり●蛭川村字奈良井、二三個乃至數十個甚しきは二百以上あるを見たり●福岡村大字田瀬、二三個乃至十數個加害あるもの點々認む●笠置村河合一部の地に於て著しき被害を認めたり。

二、被害更に認めざる所　苗木町、同地大字上地に於て、前後二回調査の結果、僅々三個被害芽ありたり。

三、被害至て少く殆んど全滅の所　福岡村大字高山、福岡、鉢伏。

四、被害多少ある所　其他の各町村部落、一二個宛往々認む、偶に十數個あり。

從來被害の本場とも稱すべき笠置村、蛭川村の一部、加子母村、福岡村の如きは、一昨年來非常嚴重なる勵行の結果、僅かに一二個宛點々加害を認むる而已にて殆んど全滅に近く、之に反て、從來余り加害著しからず、一般の注意薄く又驅除冷膽に附したる個所は比較的意外の被害を現はすを見たり。蛭川村の奈良井、坂下村の上野、袖洞の如き其例なり。而して各町村一般加害、前年に比すれば實に輕微なれば、此際嚴重なる勵行を終熄迄繼續せば、全滅を期する敢て難事にあらざるべし。故に當業者に向ては一個の被害芽と雖輕視せず、被害の輕少なりとて驅除を等閑に附することなく、全滅を謀る樣特に注意を加へつゝ督勵せり。尙當郡北部に於ける被害の狀況に依れば、坂下村の如きは本月廿一日の調査に、最近四五日間に被害芽を現出して未だ枯凋せず、五六分は尙綠色を帶び萎靡しつゝあるを見、尙漸次加害の現出するものゝ如く見受られ、從て幼蟲の微少なるもの隨分認めたり。又一般寄生蜂の爲斃死のもの少なき樣見受けたり。（五月廿五日附第一回報告）

◉**青柳才次郎氏と滿州の昆蟲**　第七回全國害蟲驅除講習修業生、福岡縣鞍手郡新入村青柳才次郎氏は、今回日露事件に召集せられ、彼の蛤蟆塘の大激戰に加はられたる由なるが、今回其紀念として同地産の柞蠶蛾一頭、同繭二個に添へ、同地の昆蟲模樣を報じ越されたれば、其全文を掲げて讀者に報ずると共に、茲に氏の健康を祝することゝなしぬ

小生儀今回の日露事件に召集相成り去る四月三日韓國鎭南浦に上陸、同月二十一日鴨綠江着同地に於て多少敵と交戰、無事渡河を終り、五月一日同支流を無事渡河、九連城北方蛤蟆塘に於て不計大合戰となり、數多き死傷者中幸にも未だ無事消光罷在り候、元來多少嗜を入れたる昆蟲の事ども、行軍の途中旅行の徒然に散見する亦た一興あるも、別に珍しきもの無之、目下滿州の野に於て一種のアゲハを認め候、モンシロテフの如き四月下旬より之を認め、瓢蟲、葉蟲の如き既に數種現出致居候、小生の最も多く認めたるはベニハムシにして、内地のものと同一にて有之候、封内の蛾は、目下孵化を初

めつゝあるものゝ母蛾にして、土人の屋内の菰の中にあるものを見付候、是れ全く昨秋産卵後斃死したるものならん、卵は大さ直徑四厘餘の圓形にして、幼蟲の孵化當時は長さ三分、黑褐色の短毛を有し、頭部は褐色に御座候、先は戰爭紀念として、兎角送附仕候、幼蟲の食物は内地のタズの葉の如きものを用ひ候、是れ未だ櫟の發芽せざるに原因するにあらざるか、先づ不取敢御一報迄斯の如くに御座候

◎福井克雄氏　元當所助手たりし岡山縣福井克雄氏は、今回同縣農事試驗場昆蟲部主任となられし由、同地より通信ありたり。

◎新著紹介　（一）應用昆蟲教科書、本書は鹿兒島縣鹿屋農學校長江間定四郎、同校教諭生熊與一郎兩氏の合著にして、專ら甲種農業學校の教科用書として編纂したるものなりと雖も、又斯學を研究せんとするものゝ必讀すべき良書なり。全篇を分ちて前後二篇となし、前篇は更に之を七章に分ちて昆蟲學大意より標本製作法、及一般の驅除豫防法等に及ぼし、後編に於ては專ら害蟲各論を記述せり。而して本書中分類、標本製法其他各項中に細字を挾み、教授時間の都合又は程度により適宜省略するを得せしめたるは、教科書として最も適したるものなるべく、最後に索引を兼ねたる分類表を附し、研究者に便せり。全篇三百三十二頁よりなり二百十餘個の圖版を挿入せり。有隣堂發行壹圓貳拾錢。（二）The San jose Scale in japan. 本書は西ヶ原農事試驗場にて桑名伊之吉氏主任となり、本邦に於けるサンホゼー貝殼蟲につき、該蟲が本邦に輸出入及蔓延せし次第より、分布と現在の有樣、土地の形勢及耕地と未墾地に於ける關係、本邦に於ける寄生植物、該蟲の天敵、習性經過、本邦に於ける該蟲の處置等を實地踏査して、英文にて記載したるものなり。着色圖版二葉、分布地圖四葉、驅除實景の寫眞圖版二葉を挿入せり（三）滋賀縣農事試驗場害蟲試驗成蹟報告第五報、例により浮塵子の試驗にして、明治三十五年及同三十六年度に於て、褄黑横這と萎縮稻との關係に就て研究したるものにして、寫眞圖版八葉を挿入し、一目其被害程度の甚しきを知らしめたり。（四）害蟲驅除豫防（巖手縣農事試驗場臨時報告第一號）、害蟲驅除豫防法の大要より、藥品、器械及年中行事等を記載し、且つ稻桑を初め果樹蔬菜の害蟲二十二種につき習性經過、加害の狀況、驅除豫防法を說き、最後に害蟲驅除豫防に關する法令を添へたり。石版圖八葉を挿入し、農業者の必携すべき良袖珍書なり。（五）香川縣農事試驗場特別報告第二號、本書は梨の星葉捲蛄蟖、藍の螟蟲及象鼻蟲の三種につき形態、經過習性及び驅除豫防法を、同縣に於ける事情より、專

ら同場に於て飼育研究の結果を詳細記載したるものにして、着色圖版二葉外二圖版を挿入せり。

◉岐阜縣昆蟲學會第六十六回月次會記事　本會第六十六回月次會は、去四日午後一時より當所内に於て開會せり。會するもの三十餘名、例により名和副會長の開會の辭に次て、第一席馬渕治郎氏は、氏が此頃桑樹の害蟲シンムシ驅除監督の爲縣下可兒郡地方へ出張せし時の情況を報告し、第二席小竹浩氏は、戰勝後の昆蟲學界と題し、歐米の各文明國に於ける斯學の情況より我國現今の有樣を述べて、大に吾人斯學研究者に警告を與へ、第三席名古屋市立高等女學長甫守謹吾氏は、本邦女史の理科思想に乏しきを嘆して、特別研究生谷貞子氏の志望に望を囑せられ、第四席名和靖氏は夜中採集とアセチリン瓦斯の應用に就て講話せられ、終て一同紀念の寫眞を撮影して午后四時解散せり。

◉水曜昆蟲談話會記事　當所内に於て毎週水曜日夜間開會の同會は、相變らず盛會なるが、前々號報告後に於ける談話の要項を摘載すれば左の如し。

小竹浩氏は昆蟲の同種異名調査談及び昆蟲記載例につき、每會繼續して實物により說明し、◉高橋喜男氏は龍虱、瓢蟲及びクダマキダマシの飼育研究談◉棚橋昇氏は管蜂の產卵に就て、四月二十二日より、氏が疊みたる傘中に該蟲の來りて產卵するを見しに、土にて八日間に五個の巢を造り、其中に花粉を充たしめて之に產卵し、而して之を造るに每日午前九時頃より午後三時頃迄は來り其餘及雨天等には決して來らざりしと◉森宗太郎氏は寄生蜂と雌雄淘汰につき、偶然の研究なれば明言する能はざれども、或寄生蜂百五十頭を飼育調査せしに、內三頭は雄にして、其他百四十七頭は悉く雌なりき、斯く雌の多數なるに係らず、雄の觸角の著しく發達せるを見れば、觸角の發達如何は雌雄の多少に關せざるが如しと述べ◉馬渕治郎氏は松毛蟲の飼育及び桑樹に於ける害益蟲の調査談◉名和愛吉氏は鳳蝶の採集法、枝尺蠖の寄生蜂調査談及びミヅカマキリの食物に就て◉小森省作氏は蝶類の食草及び異節類に屬するメランデリデー及びアンチシデーに就て◉名和正氏は顯微鏡寫眞の實驗及びベニスズメの卵子に就て◉石田和三郎氏は例により每會近刊雜誌中の昆蟲記事を報告し◉谷貞子氏は名古屋市地方昆蟲方言、螢の幼蟲採集談、鳳蝶と其卵子等につきて談ぜられたり

◉昆蟲標本陳列館の觀覽人　去五月中に、當所常設の昆蟲標本陳列館を觀覽せし人員は四千五百七十八人にして、其內最も多かりしは一日の三百三十五人、最も少なりしは二十八日の五十五人にして、一日平均百六十三人強に當れり。

（雜報六月十二日脫稿）

Celeris galii Rottenburg. (Ibuki-suzume)

By K. Nagano.

Forewings dark olive-brown, with marginal ashy purple; base black, partly mixed with white; a rather broad whitish-yellow fascia from dorsum near base to apex, anterior edge with three well-marked projections. Hindwings rosy, partly whitish, towards dorsum white; basal area black; a subterminal fascia black. Expanse, 67–83mm. Head and thorax olive-green, bordered with white; abdomen banded with black and white on 1 and 2 segments, and with white on other segments; a dorsal belt olive-green, spotted with white on each segments.

Honsiu, Yezo. 8, 9. Larva black or olive-brown, sometimes yellow dotted; a subdorsal series of yellow black-edged spots on 2–11 segments; horn red: on Galium verum; 8, 9.

◉昆蟲學特別研究生募集

今回十數名の特別研究生を募集するに付規則書入用の向は郵劵相添へ至急照會あれ直に送致すべし

明治三十七年六月十日　名和昆蟲研究所

◉購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ほす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

岐阜市公園內
名和昆蟲研究所
昆蟲世界會計部

◉新刊害蟲圖解

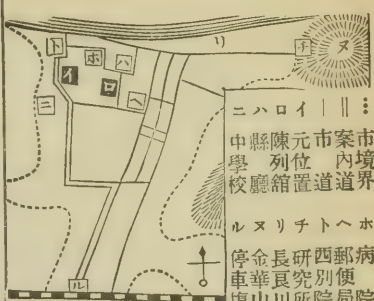
第廿三、粟及陸稻の害蟲アハノヨタウムシ
第廿四、桑樹の害蟲ヲグロクハハマキムシ
第廿五、大豆害蟲ヒメコガ子ムシ

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず每月第一土曜日午後一時より、岐阜市公園內名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も每會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所內　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第六十七回月次會(七月二日)　第七十回月次會(十月一日)
第六十八回月次會(八月六日)　第七十一回月次會(十一月五日)
第六十九回月次會(九月三日)　第七十二回月次會(十二月三日)

：市境界　‖案內道　｜市道　イ元位置　ロ陳列館　ハ縣廳　ニ中學校
ホ病院　ヘ郵便局　ト西別院　チ研究所　リ長良川　ヌ金華山　ル停車場

◉名和昆蟲研究所案內

當昆蟲研究所は從來上圖の如く(イ)の位置にありしが今回當市公園內即ち(チ)の位置に移轉せり、又常設の昆蟲標本陳列館(五間に十八間)は從前の通り岐阜縣物產館構內にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共　金拾錢
壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢
(見本は五厘郵劵貳拾枚にて呈す)

(注意)本誌は總て前金に非ざれば發送せず切手にて壹割增とす◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵劵代用は五厘

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年六月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戶ノ二
(岐阜市公園內)
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戶ノ二
發行者　名和梅吉

同縣揖斐郡鶯村大字公鄉三番戶
編輯者　小森省作

同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

(明治三十年九月十日內務省許可)
(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

(大垣　西濃印刷株式會社印刷)

(明治卅年九月十四日第三種郵便物認可)

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF

"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] JULY. 15TH, 1904. [No. 7.

昆蟲世界

第八巻第七册 明治三十七年七月十五日發行 第八拾參號

目次 (禁轉載)

(毎月一回十五日發行)

名和昆蟲研究所發行

本所擴張寄附金品領收廣告（第四回）

一金壹圓也　岐阜市矢島町　宮地良致君
一金參圓也　岐阜縣揖斐郡豊木村　所　嘉吉君
一金拾圓也　岐阜縣安八郡大垣町　片野源七君
一金拾圓也　名古屋市鐵砲町　岡谷惣助君
一金五圓也　名古屋市大曾根町　山田清助君
一金五圓也　名古屋市東田町　高木太助君
一金參圓也　靜岡縣磐田郡岩田村　神村直三郎君
一金壹圓也　靜岡縣磐田郡岩田村　青島平三郎君

小計金參拾八圓

累計金六百拾九圓拾貳錢

一共同椅子貳脚　岐阜市益屋町　杉山半治郎君

右御寄附相成候に付茲に芳名を掲て其厚意を謝す

明治卅七年七月七日　岐阜市公園內

名和昆蟲研究所

●本所擴張寄附金品募集廣告

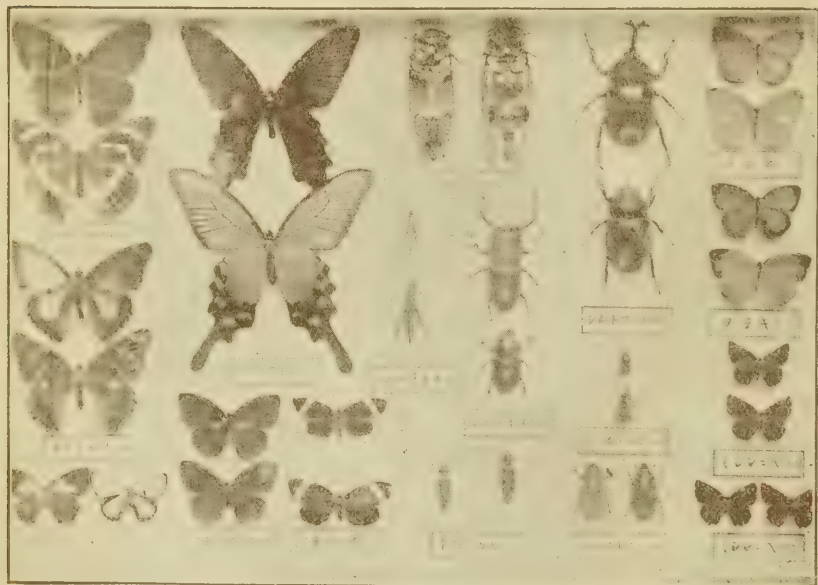
本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園內に卜し來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より敎室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へんとす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは衷心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

明治卅七年三月　岐阜市

名和昆蟲研究所

大方諸君

中等教育昆蟲標本寫眞（六）

論説

鐵拐の噴き出したる羽蟻かな（子規）

◎三たび時局と害蟲驅除に就て

海には旅順の閉塞、敵艦の轟沈、陸には鴨綠江畔九連城に鳳凰城に、金州南山の役、得利寺の戰を始め快報頻りに相踵ぎ、戰正に酣にして、振古未曾有の秋に當り、我農民軍の害蟲軍に當る、是又我外征の師が蠻軍を驅逐すると相俟て同一の感あらしむ。見よや、近時官報紙上に於ける害蟲發生の報告を、從來同紙上に於て、未だ曾て見ざるの報告にして、全國到處發生せざるの地なし、余輩曾て全國に於ける害蟲發生の模樣を一瞥の下に知らんが爲、官報紙上に現はれたる發生報告を掲載し來りしが、近時に到り頓に增加し、若し之を盡く掲載したらんには、本誌全卷を用ふるも尙足らざるの有樣となり、止を得ず一時其掲載を中止することとなしぬ。實に寒心すべき事ならずや。飜て之が防除の劃策を見よ、各府縣に於ける驅除費は、其實質に於ては之を知らざるも、表面に於ては前號雜報欄內揭記の如く昨三十六年度の三萬六千九百四十六圓に對し本年度の一萬八千五十八圓は正に昨年の半額を下る尙八百三十餘圓なりとす。誰か此の正反對の現象を見て奏効の完全なるを思ふものあらんや。然るに事實は全く之に反し、本年は時局に對して國力の充實を謀らざるべからざるにより、當局者は經費の有無を顧みず、農業者は軍國農民の覺悟を以て之に當り、兩々相俟て遺算なからんことを期し居れば、必ず効果の收むべき

ものあらん。尚本年に於ける害蟲の發生は、前年の發生に比し、官報に示すが如く劃然相違あるべきか是亦一考の値あるべきものなりとす。蓋し本年の發生は例年より多少多きに相違なきも、斯く非常なる差異あるものにあらず、必ず前年に於ても斯の如く非常なりしにも係らず、不注意の爲知らざりしもの本年は時局に際し、聊か永年の惰眠を醒したるに因るなるべし。果して然らば、徒に周章狼狽して驅除の本旨を誤るが如きことなく、宜しく冷靜なる頭腦を以て今後の作戰計劃を立て、十分秋收の勝利を期せざるべからざるなり。幸にして全國各地より來る情報は、目下皆農民軍の勝利に歸するもの丶如ければ、官報紙上に續々現はる丶は却て喜ぶべき現象なりと謂ふべし。

蚤飛んで
仲間部屋の
人もなし
（子規）

◎鱗翅類の幼蟲に就きて（續）

在東京　長野菊次郎

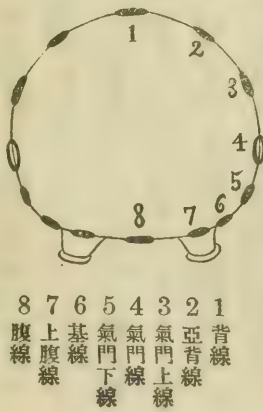
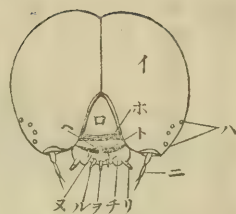
腹部には通常第六より第九節の間及び尾節に一對の脚を有す。之を僞脚或は腹脚と稱す。腹脚は肥厚なる内質にして、關節を有せずと雖も、皺を有せるを以て側面より見るときは二關節より成れるが如し。其先端粗糙にして能く動き、内方に曲りたる鉤を具備して攀緣に適せり。或は其先端平滑にして他物を攀づるに適せざるものもあり。但し外方に曲れる小鉤の連續したる、或は殆んど連續せる環を具備せり攀緣に適せる腹脚を有せるものは、大形の蝶蛾類に多し。但し樹幹に蝕入するクサギノシンクヒムシ、ヤナギノシンクヒムシの如きは例外なり。小蛾類の幼蟲には攀緣脚を有するもの一もあることなし。天

幼蟲の外貌を示す摸型圖

I—III 胸部
IV—XII 腹部
1 背線
2 亞背線
3 氣門上線
4 氣門線
5 氣門下線
6 基線
7 上腹線
8 腹線
イ 頭部
ロ 尾角
ハ 氣門
ニ 胸脚
ホ 腹脚
ヘ 腹脚中ノ尾脚
ト 尾褶

社蛾科、鈎翅蛾科に屬するもの丶幼蟲は尾脚を有せず。是れ最後關節は長き柔かなる突起或は尖端を以て終ればなり。例へばモクメ蛾(Cerura felina)、ナカグロモクメ蛾(Cerura lanigera)、シヤチホコムシ(Stauropus persimilis.)の如きは二箇の突起となり、オホトビイロカギバ(Oreta calida)の如きは一箇の尖端を以て終れり。尺蠖類の幼蟲は通常第九節に唯僞脚の一對を有するのみ。然れども或屬には第八節にも亦一對を有することあり。又糖蛾類の或る屬には全く僞足を缺くか或は六節又は時に七節に痕跡を有することあり、此他の幼蟲には前方の僞足は小にして後方のものより不發育なるもの多し。アケビノコノハ蛾の如きは全く前方一對を缺けり。避債蟲科の幼蟲は鞘中に住し、シジミテフ屬セミヤドリ蛾等の幼蟲の僞脚は甚だ短し。凡そ足の全數を有するものは匍匐性を有するものにして、大形蝶蛾の幼蟲は靜に匍行し、小蛾屬の幼蟲の運動は通常甚だ速なり。而して後者は前後に走ることを得、尺蠖類の進行は甚だ奇異なり。即ち其胸脚によりて確と體を支へ、然る後腹脚及尾脚を引き寄せ、其體をして殆んど弧形をなさしめ、其後腹脚及び尾脚によりて自身を固持し、體を

幼蟲體面の縱走線の位置を橫斷面に於て示す摸型圖

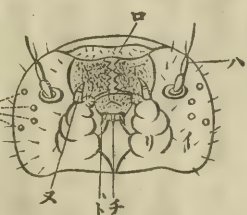
1 背線
2 亞背線
3 氣門上線
4 氣門線
5 氣門下線
6 基線
7 上腹線
8 腹線

幼蟲の頭部を前より見る圖

イ 顱頂板　ロ 額板　ハ 單眼　ニ 觸角　ホ 皺　ヘ 上唇　ト 下顋　チ 下唇　リ 下顋鬚　ヌ 下唇鬚　ル 紡績孔

前方に伸長せしめ、反覆之を行ふものなり。擬尺蠖蛾科に屬するベニシタバ屬トモヱ蛾屬等の幼蟲の運動法も亦尺蠖に類似せり。

幼蟲の形狀には種々ありて往々特殊なる形態を有せり。天社蛾科に屬するもの、中には背上に規則正しき隆肉を生ずるあり、即ちシャチホコムシの如きは二列の隆肉を有せり。又トゲシャクトリは背の中央に一列の隆肉を有し、アヲバシャクトリ(Geometra valida)の如きは二列の棘狀突起を有しモクメキシタバ(Catocala xarippe)の幼蟲なるウメノトゲムシの如きは背線上に數個の棘狀突起を有せり。其他背線の左右に一對の顆狀突起を一箇所又は數箇所に有することヤマカマスの如きあり、殆んど每關節に三對の顆粒突起を有することと樗蠶の如きもあり。又後部の一關節に金字塔形の突起を有するものあり。尾端に二箇の短突起を有するはジャノメテフに於て見るべく、二本の長突起を有するは前に述べたるオホトビイロカキバの如し。又タテハテフ類は叉枝ある硬針を縱に備へ又天蛾類の幼蟲は第十一節に、通常後方に彎曲せる尾角を有し、往々小顆粒又は粗毛を有せり。又幼蟲の側部下方には肉狀線絲(Fleshy filament)を有するものあり。

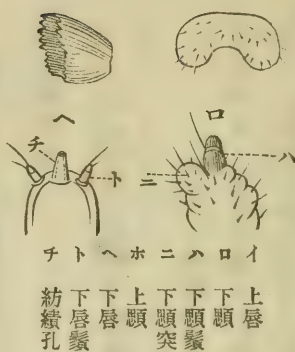
幼蟲の皮膚は裸軀なるあり、又は毛を有するあり、裸軀にも亦、夜盜蟲の如く全く平滑なるあり、又はモヽスヾメ、クチバスヾメ、ウチスズメ等の如く微細の顆粒を有して粗糙なるあり、或は規則正しく配列せる疣狀突起を有して各疣に微毛を生せるあり。有毛幼蟲にも種々あり即ちウメケムシの如く柔なる毛を比較的粗く

幼蟲の頭部を腹面より見たる圖

イ 顱頂板　ロ 上唇　ハ 觸角　ニ 單眼　ホ 上顋　ヘ 下唇　ト 下唇鬚　チ 紡績孔　リ 下顋　ヌ 下顋鬚

生ずるあり、或はカレコノハ蛾の如く短き毛を密に生ずるあり、又アカヘリシロタヘ(Creatonotos lactinea)の如く總の如き粗毛を密生するあり、又大なる疣上に毛を有して星芒狀に配列せることクワケムシ(Spilarctia imparilis)の如きあり、又ヒトリムシ蛾(Arctia caja)の如く、硬く長き毛を有して背上の星芒狀配列は一層長く見ゆるもあり、其他の幼蟲にてはマツケムシの如く毛を生せる上に毛束をも有するあり、或はスギケムシ、ツノケムシ等の如く兩側或は背上に毛總を有するあり。凡そ毛には脆くして折れ易きものと、柔かにして撓み易きものとあり、稀には披針狀のものあり、又有毛幼蟲には甚だ細き鬚毛(Barbs)ありて小孔を有し、之より么微の塵粉を發射することあり、此毛及び此塵粉は人の皮膚に觸れて激しき焮衝を起さしむ。

幼蟲の口器

イ 上唇　ロ 下顋　ハ 下顋鬚　ニ 下顋突起　ホ 上顎　ヘ 下唇　ト 下唇鬚　チ 紡績孔

幼蟲の色彩及び紋理　幼蟲の色彩には單純のものなきにあらねども、多くは多少の色を混じて種々の斑點條理を表はせり。條理は之を縱線(或は條とも云ふ以下同じ)、斜線、橫線の三種に分ち、斑點は之を點紋、斑紋の二種となす。縱線とは頭部より尾部に走れる線にして、背の中央を走れるを背線(1)と云ひ、其次に橫はれるを亞背線(2)と云ひ、氣門を連綴せるを氣門線(4)と云ひ、氣門線と亞背線との間にあるを氣門上線(3)又は側線と云ふ。氣門線の下に走れるを氣門下線(5)と稱し、其下にあるを基線(6)と云ふ。腹の下面の正中を走れるを腹線(8)と云ひ、其左右上方に橫はるを上腹線(7)と云ふ。上腹線は脚を連綴することあり、又は脚の內方に橫はることもあり。然れども上述の縱線は一の幼蟲にて悉く備ふるものにあらず、又往々二線相合して帶狀をなすことあり、斯る場合には便宜其名を選ぶべ

し。例へば亞背線と側線と相合して條を形成する時には亞背條と稱することあり、又は側條と呼ふこともあり、其他背線は時に二重なることあり、或は狹き線にて其全長を二分せらるゝことあり。斜線或は斜條には前方下部より斜に後方背部に向へるあり、前方背部より斜に後方下部に走れるあり、且其數は種類によりて一定せざれども、天蛾類の如きは第三或は第四節より第十一節に亙りて七條を有するを常とす。往々背上にて相結合して角を形成することあり、又は亞背線或は側線と連結せることもあり。横線或は横條を有する幼蟲は割合に少し。キアゲハの幼蟲は赤點ある黑色の横條を有し、クジャクテフの幼蟲は各節に三條の白色横點線を有し、セスヂスズメの幼蟲は各節の前端に黃色の點紋横帶を有せり。全體を通し不規則に點紋を散布せるは尺蠖類にて往々見るべく、各節に均列せる顆粒狀點紋を有せるはウチスズメ、モヽスズメ等の如し。斑紋には種々ありて圓形のもの多しと雖も、或は橢圓形、或は新月形、或は殆んど長方形に類するものあり、又圓紋の中央に色を異にせる小圓紋あるときは之を眼形紋と云ふ、其他種々の形狀を呈せる斑紋は類似したる形を選びて之を表はすべし。例へばX形紋、V字斑、へ字形斑紋等の如し。

（未完）

◎皇太子殿下奉獻中等教育昆蟲標本詳解　（其十二）（第七版圖參看）

名和昆蟲研究所內　小竹　浩

（一二）自然陶汰

凡そ生物は極めて變化し易きが故に、適者生存の理法に從ひ、外界の狀態により機關器能の上に大なる變化を起し、且其形質を子孫に遺傳するものなり。今春風駘蕩百花馥郁たる候より、樹草蔚々たる盛夏、或は木々錦を飾る秋月、天地玲瓏たる銀世界に變轉する四時に就て、精細に水陸に於ける昆蟲界を

窺はゞ、實に奇異の形態、萬別なる色彩、口能く其模様を形容し難く、筆尙描出するの至難を感すべし翠綠滴るの葉裏には綠色の蟲類簇りて咬嚼するあり、金色燦爛たる菜花には黃蝶の戯るるあり、雪を欺く白花には紋白蝶の靜止するあり、砂上若くは土上には土色のバツタ、コホロギ等の棲む等、其他枝尺蠖の樹枝に摸倣する、アゲハテフの幼蟲は其初め鳥糞に擬し、或は肉角より惡臭を放つ如き、三井寺斑猫の特殊の機關を備へて惡臭を放つ如き、皆是れ巧に敵害を免れ、安全に己が繁殖を圖らんが爲めに應化し、之れを子孫に遺傳し、幾多の世代を經て、玆に致りたるものなり。是れを自然淘汰といふ。若し生物が其敵に見出され易きか、若くは食物を得るに便ならざる抔、總て外界の狀態に適せざれば、必ず生を保つこと能はずして遂に其種を絶つに至るべし。然れども應變因襲の妙用により、適者は益々繁殖し、愈經て愈巧妙を極むるものといふべし。是等の事實を覺知すれども、往々目前に棲止し居る蟲類の容易に見出す能はず、飛揚して始めて心付くが如きは、採集者の屢々實驗せし處にして、今日動物の種族は皆此の自然淘汰の理によりて生存するものなり。

（一三九）オホマルバチ（Bombus ignitus Smith.）。（一四〇）オホイシアブ（Laphria mitsukurii, Coquill.）前者は膜翅類蜜蜂科に屬する普通種にして、体軀肥大に、黑色の軟毛を密生し、腹端の二節は黃色毛を密生す。複眼長形に、三個の單眼は一横列をなす。肢は扁平にして跗前節（跗節の第一節）は扁大に發達して花粉を附着せしむるに適す。而して雌の腹端には刺劍を有するを以て、鳥類も容易に攻擊せず。後者は双翅類食蟲虻科に屬する普通種にして、体色形態能く前種に似て黑色の短毛を密生し、腹端は黃色毛を有す。翅は透明なれども脈條附近は暗色を帶ぶ、肢は前種の如く跗節の第一節發達せざれども、毛を密生するは前種に異ならず。然れどもオホマルバチの如く刺劍を有せざるを以て、强敵の攻擊を防禦

する能はざるも能く形態の前者に摸倣するを以て其攻撃を免る。

（一四一）クロヂガバチ（Sphex argentifrons, Lep.）。（一四二）コウカバヘ（Sargus tenebrifer, Walker.）

前種は膜翅類細腰蜂科に屬し、体黒く、頭は横位をなし、複眼は長楕圓形にして頭の兩側に位し、褐色

クロヂガバチの圖

を帯ぶ。三個の單眼は頭頂にありて三角形に配列す。翅は稍暗色にして外縁部は濃色に、腹柄細長く、肢は後肢最も長く、脛節端には刺を有す。雌は螫針を有し、强敵の攻撃を免る。後種は双翅類水虻科に屬し、便所の近傍に普通にして体黒く、複限大に、翅は稍暗色を帯て廣く、腹柄を有せざれども腹部第二節の兩側透明色を帯び中央縦に黒きを以て、恰かも腹柄を有する如し。蜂の如く、螫針を有せざれども、其形態及飛翔の際一種の翅音を發する等、頗る前種の蜂に似たるを以て、巧に外敵の危害を免る。

（一四三）アシナガバチ（Polistes chinensis, Fab.）。（一四四）トラフカミキリ（Xylotrechus chinensis, Chevr.）　前種は膜翅類胡蜂科に屬する最も普通の種にして、肢長きを以てこの稱あり、樹枝等に單純なる巣を營みて仔蟲を養ひ、怒るときは忽ち螫劍を揮ひて攻撃防禦の策を講ずるは、人の能く知る如くなれば、外敵も敢て進撃するの勇なく、爲めに足長蜂は安全に子孫の繁殖するを得べし。後種は甲翅類天牛科に屬し、幼蟲はテツパウムシと稱するものにして桑樹の一大害蟲なり。成蟲は淡黃褐色にして背に矢筈形の黒條を有し、前胸丸く暗褐色にして、頭部に接する所は黄色に、中央に稍太き一條の赤褐色横帯ありて、其形態頗るアシナガバチに似たるを以て、

コウカバヘの圖

能く敵害を免れ、益々繁殖して加害を逞ふするもの丶如し。以上のオホイシアブ、コウカバヘ、トラフカミキリ等は皆自己より強き蜂に摸倣して巧に敵害を避け、益繁殖を遂ぐるものなり。

コブザウムシノ圖

(一四五)コブザウムシ(Scaphostennus scrobiculatus, Roe.) 甲翅類象鼻蟲の一種にして、体長三分内外の灰黒色小形種なり。頭部の口吻狀は長からず、前胸圓くして背面には無數の微小なる突起ありて甚だ粗造なり。翅鞘甚だ堅く、其面亦粗雜にして、前胸に接する處に縱に二條の短かき隆起あり、翅端尖りて稍突出す。常に櫟等の枝間に、右方の前中肢と左方の前中肢とを以て附着し、其狀瘤に似たるを以て容易に其蟲なるを見出し難し。

(一四六)ミミヅク(Ledra auditura, Walker.) 半翅類浮塵子科に屬するものにして、頭部より翅端迄の長さ四分五厘乃至五分五厘、全体暗褐色を帶び、頭部は前方に庇狀に突出して薄片なり。口具は其下面に隱る。頭部の兩側胸部に接する處に複眼を有し、其間に二個の單眼を有す。前胸背の兩側板狀に突出し異狀を呈す。是れこの名の起りし所以なり。櫟、柳等の枝に附着し居るときは、全く樹皮と異なるなきを以て容易に外敵の眼に觸れず。

(一四七)ユリノハナスヒ(Laccotrephes japonensis. Scott.) 半翅類紅娘華科に屬し、全体土色を帶び、扁平にして頭部甚小さく、腹端に二本の長き針狀附器あり。前肢は異樣に發達し、其腿節甚太く、内方に一本の太き刺を有し、蹠節は一本の爪に變ず。養魚家の害蟲にして、常に水中にあり、其形態木片の水中に沈む如く、且土色なるを以て容易に見出す能はず、他蟲の近くときは異樣の前肢を揮ひて之れを

捕獲し、己れの餌食となす。是等の擬態を名けて攻擊擬といふ。

(一四八)エダシヤクリ(Hemirophia atrilineata, But.)　鱗翅類枝尺蠖蛾科に屬する最も普通なる種にして、桑樹の大害蟲たるは人の能く知る處なり。腹脚三對を欠き、最後の腹脚及尾脚を以て桑枝に靜止し居る時は、其体形桑枝に酷似し、且其色澤亦枝に似たるを以て、容易に見出し難し。故に昔時よりソマシラズ、ツボワリ等の稱あり。其摸倣の巧みなる實に驚くに堪たり。

(一四九)ヒメバッタモドキ(Trilophidia annulata, Thunb.)　直翅類稻螽科に屬する一種にして、全体土色を帶び、後肢は著しく發達し、腿節の內方黑く、脛節紫黑色にして白色の部あり、二列に刺を有し刺端黑し。常に堤防等の砂土上に多く、保護色の巧みなるを以て容易に見出し難し。

(一五〇)キノカハガ(Dandaca senex, But.)　糖蛾類木皮蛾科に屬し、開張一寸內外の種にして、前肢は厚く、其彩色殆んど苔の如く、後翅は外緣部暗褐色にして、內方は暗色を帶びたる淡黃色なり。常に大なる椚等の生ずる山林中に多く、上翅の該樹皮に摸倣するを以て、其處に止まるときは到底凡眼の見る能はさる所なり。自然の妙實に言語に盡し難し。

(一五一)ヂムキカゲロフ(Phryganea, Sp.)　毛翅目(羅翅類)石蠶科に屬する普通種にして、幼蟲は水中に棲む。成蟲の靜止するや、常に樹幹に下向するを以てこの稱あり。前翅は縱に一條の黑褐色線と數多の判然せざる暗色の小斑を有し、後翅は帶黃褐色にして先端黑し。多くは椚樹等の幹に息ふ。其上翅の能く樹皮に似たるを以て容易に發見する能はず。

(一五二)ルリタテハテフ(Vanessa canacede, Niceville.)　鱗翅類蛺蝶科に屬し、翅の表面黑褐色にして前後両翅を通じ外緣に沿ふて瑠璃色の半圓狀の帶紋を有す。前翅の前緣角に近く大小二個の白斑あり

翅の裏面は内半は色濃く、外半は色薄き枯葉色を呈す。夏秋の候山林中に多くして、飛揚の際能く之れを認むることを得れども、若し櫟、楢、柳等の樹幹に靜止する時は、翅の裏面該樹皮に類似し居るを以て、容易に見出す能はず。

(一五三)ホホヅキガメムシ(Prionolomia sordidus, Thunb.)　半翅類凸眼椿象科に屬し、体朽葉色にして、腹部の邊緣は突出し、肢の腿節は著しく發達し、特に後翅に於て甚し。該蟲は常に茄科植物の酸漿馬鈴薯等に生じ、大害を與ふることあり。若し外敵の襲擊に遇ふときは、一種の惡臭を發し之を防禦す

(一五四)ヘコキムシ(ミヰデラハンメウと改稱)(Pheropsophus jessoensis, Mor.)　甲翅類歩行蟲科に屬し、頭部は帶黃淡褐色にして、前胸に接する處に黑斑あり。前胸は頭部と同色にして工字形の黑斑を有し、翅は黑くして帶黃淡褐色の斑あり。多くは夜間出でゝ小蟲類を捕食し、若し强敵に遇ふときは一種の惡臭なる瓦斯を發放して敵害を免るゝといふ。

(一五五)クロゴミムシ(Triblogenius ingens, Mor.)　甲翅類歩行蟲科に屬し、全体漆黑色にして頭部及前胸部は滑かに光澤あり、翅の條溝淺く、肢は短かく、腿節は殊に太し。夜間出でゝ他蟲を捕食するものなれば、全体黑色なるは此蟲にとりて好都合ならんか。

(一五六)アカガネヲサムシ(Carabur procerulus, Chand.)　甲翅類歩行蟲科に屬し、全体銅色を帶び、肢は長く、歩行速く、常に他蟲を捕食す。此蟲は飛翔するの必要なきより、後翅は退化して只絲の如きものを止むるのみ。

(一五七)マイマイカブリ(Damaster pandurus, Bates.)　歩行蟲科の大形種にして、全体黑色に、頭部圓筒狀をなし、前胸亦長く、翅端は鈎狀に突出せり。此蟲は朽木中に入りて他蟲を捕食し、飛翔の必要なきより後翅は退化し、前翅は相附着して開く能はず。若し强敵に遇ふときは臭液を出して危害を免る

◎第一回岐阜縣昆蟲分布調査（八）

名和昆蟲研究所分布調査主任　小森省作

稻蝗科(Acrididae)　口部は咀嚼に適し、觸角短く、三個の單眼を具へ、前翅は細長く平直にして多少革質をなし、後翅は膜質にして扇子の如く縱に疊むべくも、亦中にはヒシバッタ等の如く前翅の頗る退化せる、ナキイナゴの雄蟲の後翅の退化せる如きあり、又其雌及マルイナゴ、オホマルイナゴの如く兩翅退化して小片となれるもの、或はコマルイナゴの如く僅に其痕跡を留むるに過ぎざるものあり、前中兩肢は短かく、後翅は非常に長く、發達して跳躍に適し、其脛節には鋸齒狀に棘を有す。跗節は三節なり。腹部第一節の側面に圓板狀の聽器を具へ、或ものは後肢の腿節と前翅の側面とを摩擦して一種の音聲を發す。雌蟲の産卵器は四片より成る。今回の調査に於て集まりたるもの二十二種にして、今左に之を畧記するも、こは只分布調査上予が種類を鑑別せし要點を記載せしに過ぎずして且直翅類の標本は到底變色を免るべからざるものなるにも係らず、悉皆乾燥標本に就ての記載なれば其色彩紋理等に於て多少相違あるは、復た免るべからざれば、讀者幸に之を諒せよ。

(九〇)トノサマバッタ(Pachytylus determinatus, Thunb.)　軆長一寸二分乃至二寸、前胸背の中央縱に隆起し、其兩端即ち前後兩緣は突出して角をなし、前胸腹は平滑なり。前翅は淡褐色に黑褐色の細かき斑紋を有し、後翅は斑紋を有せず内半黄色を帶ぶ。此種の頭胸部及び後肢腿節の色彩は變化ありて褐色なるあり、或は綠色なるあり、又は斑紋を有するもの、有せざるものあり、後肢の脛節は橙黄色を呈す今回十三郡に於て多數獲られたり。

(九一)クルマバッタ(Oedaleus marmoratus, Thunb.)　軆長九分乃至一寸五分、前種に似たる種にして

前胸背の隆條は著しく高く、其前後兩緣は突出して鋭角をなす。前翅は黑褐色部多く、殆んど中央より斜に後方に向て特に淡褐色の一線を有し、後緣部即ち肩翅に於ける色は褐色と綠色との二種あり、後翅は前緣より後緣角に亘り中央に黑褐色の車輪狀紋を有し、其內部は淡黃色を呈し、外部は褐色を呈す。此種の色彩紋理も亦前種の如く頗る變化多く、後肢の脛節は紅色を呈す。惠那郡を始め十郡に於て獲られたり。

(九二)クルマバッタモドキ(Oedaleus infernalis, Sauss.)　躰長八分乃至一寸五分、前種に頗る酷似したる種にして、前胸背の隆條及前後兩緣は前種の如く甚しく尖らず、且前翅の中央より斜に後方に向へる斑紋を有せず、後翅の車輪狀紋は稍淡し。此種も亦色彩紋理に頗る變化あり、岐阜、羽島及び安八を除き各郡に於て多數獲られたり。

(九三)カハラバッタ(Sphingonotus indus, Sauss.)　躰長八分乃至一寸三分、前胸背の隆條は判明ならず前翅は淡褐色にして黑褐色の不判明なる斑紋を有し、後翅は藤色にして中央幅廣き車輪狀の黑褐紋を有し、肢は躰と同彩にして後肢の脛節は淡黃色に暗綠色の微かなる斑紋を有す。常に河邊の砂礫上にありて、其靜止するや容易に見出し難し。十郡に於て獲られたり。

(九四)ヒメバッタモドキ(Trilophidia annulata, Thunb.)　躰長六分乃至九分、前胸背の隆條は切れて三片となり、其兩側及頭部等にも多少疣狀凹凸ありて恰も土塊の如く、前翅は土色にして微細なる不明の斑紋を有し、後翅の先端は稍暗色を、內半は黃綠色を帶ぶ。前中兩肢は前翅と同色にして、後肢腿節の內側及脛節は帶黃白色に黑褐色の斑紋を有す。十五郡に於て獲られたり。

(九五)ヒナバッタ(Camnula sp.?)　躰長五分五厘乃至八分、全躰褐色にして雄蟲の觸角稍長く、前胸背に皷形の斑紋ありて其兩側部黑く、前翅は微かなる稍濃色の斑紋を有し、後翅の脉は褐色にして膜質

部は無色透明なり。九郡に於て獲られたり。

（九六）クロヒナバッタ（Camula sp.?）　前種に頗る酷似したる種にして、一見其判別に苦む。雄蟲の觸角前種より稍長く、前後兩翅共暗褐色なり。雄蟲の前翅前緣の中央部は彎曲して山形狀をなし、同翅の殆んど中央に透明部あり。飛騨三郡に於て獲られたり。

（九七）ツチイナゴ（Acridium consanguineus, Serv.）　躰長一寸乃至一寸五分、形トノサマバッタに似て褐色を呈し、前胸腹には長き疣狀突起を有す。前胸背の後端は圓く、翅を疊みたる時は頭胸部の背面より翅端に亘り黃褐色の一條を畫するを常とするも、亦此紋理を有せざるありて變化多し。前翅は淡褐色に濃褐色の斑紋を有し、後翅の脉は褐色に、膜部は無色透明なり。七郡に於て獲られたり。

（九八）イナゴ（Oxya velox, Fabr.）　稻葉を甚しく食害するを以て普く世人の識る處なれば、茲に略說を省く、翅短く、腹部の先端を露出す。十二郡に於て獲られたり。

（九九）ハヂナガイナゴ（Oxya sp.?）　前種に頗る酷似し、且つ前種に混して發生し、稻葉を食害するも翅は長くして腹端の後方に達するを以て、容易に區別し得べし。十三郡に於て獲られたり。

（一〇〇）アシベニイナゴ（Euprepronemis plorans, Charp.）　躰長八分乃至一寸三分、前胸背は殆んど平面にして黑褐の天鵞絨色を呈し、其兩側に淡褐色の條紋あり、前胸腹には疣狀突起を有す。前翅は淡褐色に黑褐色の斑紋を有し、後翅は透明にして紋理を有せず、後肢脛節の後半及跗節は鮮紅色を呈するを以て此名あり。九郡に於て獲られたり。

（一〇一）オホマルイナゴ（Padisma sp.?）　躰長雄は九分、雌は一寸一分内外、前胸腹は突起して先端尖る。帶褐綠色を呈し、形イナゴの蛹期の如く、四翅退化し、前翅は二分五厘、後翅は一分二厘内外不正

楕圓形をなす。不破、大野の二郡に於て各一頭宛獲られたり。

（一〇二）ニツコウイナゴ（Gn. sp.?）　躰長九分五厘、全躰帯黄褐色を呈し、頭部は前種に似て稍小さく前胸背は短小にして後緣は山形狀に突出し、前胸腹には疣狀突起を有す。前翅は褐色にして疊みたる時はカハラバツタのそれの如く翅端急に尖らず、中央稍狹まり、上部は圓くして圭角をなさず、後翅は基部稍黄色を帯ぶ。此種は明治二十八年九月十三日、日光山に於て名和所長が始めて一頭採集せられたるを以て日光稲螽の新稱を附せり。今回飛州大野郡楢谷尋常小學校二學年向田鉄次郎氏三十六年九月六日清見村字楢谷の野に於て一頭を採集せり。

オホマルイナゴの圖

♀

（一〇三）ヒメイナゴ（Gn. sp.?）　此種はハネナガイナゴの雄蟲に酷似し、躰長雄は八分、雌は一寸一分内外、觸角長く雄は五分五厘あり、頭胸部は黄綠色にして背面兩側に黒褐色の條紋あり、延て翅の中央に及ぶ。前胸背の後端は鈍角をなし、前胸腹は殆ど平滑をなす前翅の前緣部は黄綠色又は綠色にして、後緣部は黄綠色又は淡褐色なり、飛州三郡に於て五頭獲られたり

（一〇四）ツマグロイナゴ（Gn. sp.?）　形ハネナガイナゴに似て稍大きく、躰長雄は一寸二分、雌は一寸四分内外あり、前胸の背部後端は鈍角をなし、其の腹部は平滑なり。全躰雄は黄綠色に雌は淡褐色を呈す。前翅の基部前緣に沿ふて黄色と黒色の二條線あり、雄の翅端は黒褐色を呈し、雌の翅端は稍濃色を帯ふるを以て此稱あり、後肢脛節の兩關節は黒色を呈す。七郡に於て獲られたり。

（一〇五）ヒメバツタ（Epacromia tamulus Fabr.）　躰長七八分、前胸背の中央縱に淡褐色の幅廣き條紋

ありて隆條は明ならず、其後端は鈍角をなし、腹面には突起を有せず。前翅は淡褐色に濃褐色の斑紋ありてクルマバツタモドキのそれに酷似し、基部に於て脉に沿ふて綠色紋あり、後翅は外緣部暗褐色を帶ぶ。後肢の腿節は淡褐色に黑褐色の斑紋を有し、其脛節は黄、藍、紅の三色を呈す。武儀、土岐の二郡に於て僅か三頭を獲たり。

（一〇六）シヤウリヤウバツタ（Truxalis nasuta, Linn.）　躰長雄は一寸五分、雌は二寸五分内外、綠色と褐色の二種あり、又縞條の斑紋を有するありて變化多く、頭部は甚しく紡錘狀に突出して斜に上方に向ひ、觸角は褐色にして平たく、三角形をなして先端急に細まり、恰も禾本科植物の或葉の如く、前胸背の中央及兩側に隆條あり、前翅は躰と同色にして細長く、先端尖り、後翅も亦稍狹くして先端尖り、黄色を帶ぶ。後肢は著しく長し。十三郡に於て多數獲られたり。

（一〇七）オンブバツタ（Atractomorpha Bedeli, Boliv.）　前種の如く雄雌により著しく大小を異にし、体長雄は七分、雌は一寸四分内外、綠色と褐色との二種あり、頭部は紡錘狀にして先端に糸狀の太く且短かき觸角を有し、前胸背の隆條は明かならず。前翅は細長くして先端極めて尖り、後翅は短かくして無色透明なり十四郡に於て多數獲られたり。

（一〇八）キチキチバツタ（Gn. sp.?）　躰長雄は一寸、雌は一寸五分内外、頭部突出して先端三角をなし、觸角はシヤウリヤウバツタに等しく葉狀にして多くは紫紅色を呈し、頭胸部の背面兩側に同色の條紋あり、延いて翅に及び、其上部は紫紅色を呈するものと、体と等しく綠色を呈するものとあり、前翅頗る細長く、兩翅共先端尖る、六郡に於て獲られたり。

（一〇九）ツチバッタ（Criotettix bispinosus, Dalm.）　体長五六分、全体土色を呈し、觸角短小、前胸部の兩側に一棘を有し、前胸背は長く後方に伸びて先端尖り恰も上翅の如く見え、翅を其内に收む。前翅は退化して長一分以内の一小片となり、後翅は廣大にして前緣は硬化せり。八郡に於て獲られたり。

（一一〇）ハネナガバッタ（Paratettix histricus, Stal.）　前種に頗る酷似して稍小さく、躰長四分内外、前胸部は前種の如く長く後方に突出し、兩側に棘を有せず、前翅は又前種の如く退化し、後翅は長く前胸の後方に出づるを以て此稱あり。三郡に於て獲れたり

ツチバッタの圖

（一一一）ヒシバッタ（Tattix japonicus, Dehaan.）　躰長二三分の小形種にして、前種の如く前胸背は伸びて後方に突出し、躰菱形なるを以て此稱あり、土色を呈し、色彩紋理非常に變化あり。十四郡に於て獲られたり。

以上述べたるところのもの丶採集郡別又び頭數を表出すれば卽ち左の如し。但、△印は十頭以上。

番號	種名	岐阜市	稻葉郡	羽島郡	海津郡	養老郡	不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	山縣郡	武儀郡	郡上郡	加茂郡	可兒郡	土岐郡	惠那郡	大野郡	益田郡	吉城郡
九〇、	トノサマバッタ	｜	七	△	三	五	△	〇	｜	一	｜	六	｜	三	｜	四	△	三	三	三
九一、	クルマバッタ	｜	一	一	｜	一	一	〇	四	｜	三	三	｜	七	｜	六	△	｜	｜	｜
九二、	クルマバッタモドキ	｜	｜	△	一	一	△	〇	三	三	二	八	一	二	一	一	二	△	二	△
九三、	カハラバッタ	｜	｜	五	｜	三	六	〇	一	｜	｜	五	二	一	二	｜	二	｜	四	｜
九四、	ヒメバッタモドキ	｜	四	二	二	三	四	〇	二	四	二	△	｜	八	四	△	五	一	一	｜
九五、	ヒナバッタ	｜	四	二	一	｜	｜	〇	｜	｜	｜	三	｜	四	二	｜	一	五	｜	三
九六、	クロヒナバッダ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	〇	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	三	二	三

九七、ツチイナゴ	｜	三	一	｜	一	一	○	｜	｜	一	｜	｜	｜	｜	二	一	｜	｜	｜
九八、イナゴ	｜	△	△	四	△	△	○	三	一	｜	七	｜	△	｜	｜	△	△	｜	六
九九、ハ子ナガイナゴ	｜	△	△	三	六	△	○	｜	一	一	八	｜	△	八	△	△	｜	三	｜
一〇〇、アシベニイナゴ	｜	一	｜	｜	｜	二	○	六	｜	｜	三	｜	八	二	一	二	｜	｜	二
一〇一、オホマルイナゴ	｜	｜	｜	｜	｜	一	○	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	｜
一〇二、ニツコウイナゴ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	○	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	｜
一〇三、ヒメイナゴ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	○	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	二	一	二
一〇四、ツマグロイナゴ	｜	｜	｜	｜	三	二	○	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	｜	一	四	一	一
一〇五、ヒメバツタ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	○	｜	｜	｜	一	｜	｜	｜	二	｜	｜	｜	｜
一〇六、シヤウリヤウバツタ	｜	△	△	二	△	△	○	七	六	｜	△	｜	△	｜	△	△	｜	六	三
一〇七、オンブバツタ	｜	△	九	二	五	△	○	四	五	一	△	｜	△	△	△	△	｜	三	｜
一〇八、キチキチバツタ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	○	一	｜	｜	一	｜	二	一	一	二	｜	｜	｜
一〇九、ツチバツタ	｜	二	｜	一	｜	｜	○	｜	一	｜	一	｜	｜	｜	四	二	一	｜	二
一一〇、ハ子ナがバツタ	｜	二	｜	｜	｜	｜	○	｜	二	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	｜	｜
一一一、ヒシバツタ	｜	二	四	｜	五	五	○	一	｜	｜	△	一	△	七	八	五	二	四	二

酒臭き
車夫晝寐や
蠅の中
（子規）

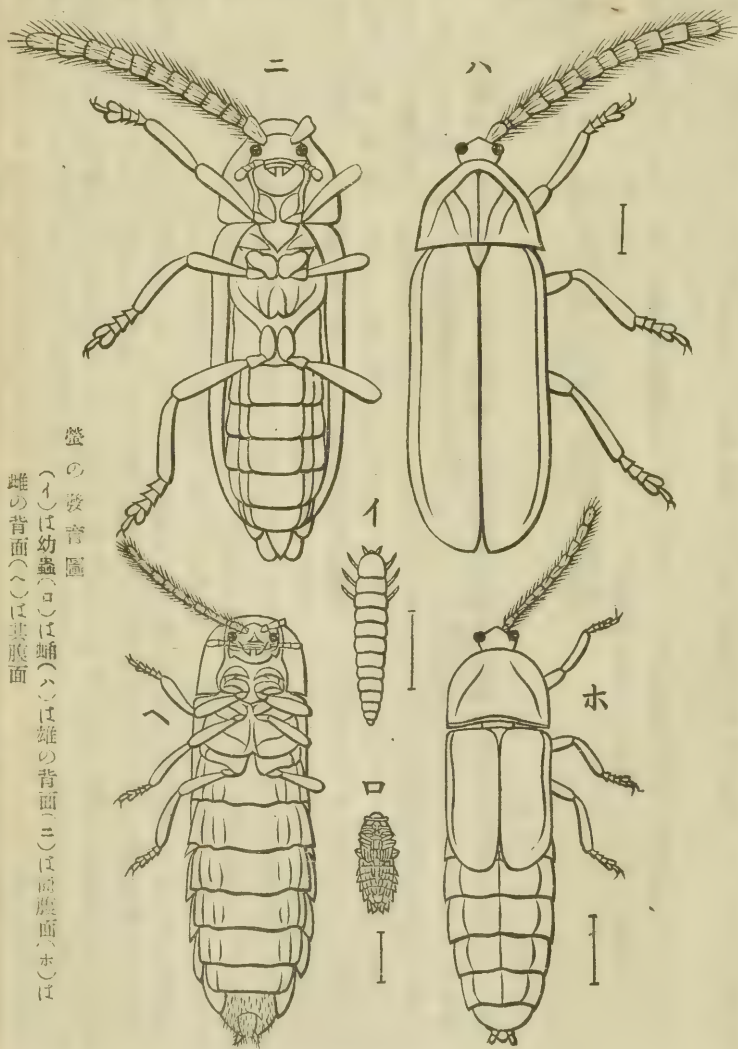
◎螢の一種に就て

名和昆蟲研究所助手　名和愛吉

編者云、本篇は曾て水曜昆蟲談話會席上に於て、名和愛吉氏が螢の一種につき調査報告せられたるものなり。該種は幼蟲、蛹の時代は共に發光するも、成蟲に至りて雄は發光せざるの奇種なれば、目下渡瀨博士に送りて之が調査を乞ひあれば、何れ其詳細を報ずべき期あらんと信ず。

螢は甲翅類螢科に屬する一種でありまして、夏の夜無數に集合して一光一滅、一上一下、爭ふが如く、

戯る丶が如く、飛び去り、飛び來る樣は、實に一大壯觀を呈します。されば昔より人々に賞翫されて、詩に、歌に、或は文章に草せられ、支那の車胤が燈火に代用したる故事もあり、其他色々に應用せられて隨分古くより世に知られて居つたものであります。我國で最も普通なるは源氏螢と平家螢の二種でありますが、私は昨年五月一種見慣れぬ幼蟲を採りまして、只少々羽化せしのみでありましたから、本年五月六日、岐阜縣山縣郡岩野田村へ參りまして其幼蟲を採集しました。處が該螢の幼蟲が居ましたから喜んで持歸り、之を飼育致しましたに、澤山に羽化して、意外にも是迄世に知られて居なかつた珍種でありましたから、今晩此の水曜昆蟲談話會の席に於て御披露致さうと存じます。

初め私は岩野田村に於て野薔薇の根本土上に於て二三頭乃至十四五頭宛集つて居たものを

螢の發育圖

(イ)は幼蟲(ロ)は蛹(ハ)は雄の背面(ニ)は同腹面(ホ)は雌の背面(ヘ)は其腹面

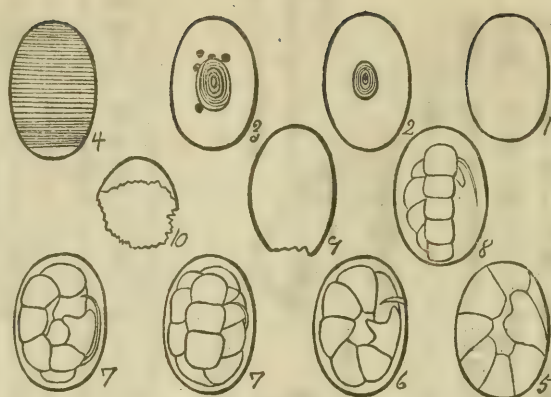
採集しましたが、其幼蟲は(イ圖)の如く体長三分三厘、体形長く、頭部は小にして第一節の下面に隱れ上顎が針狀に尖り少しく曲りて居ます。体の背面は黑色で、第一節は最も長く、末節は最も小さく、各節が判然として其形狀百足の關節の如くであります。腹面は淡紅色を帶んで、四節以下は每節U字形の隆起がある。三對の胸脚は細くして三節より成り、其先端に稍曲りたる爪があります。蛹化せんとするときには各節延びて接合部に紅色部が出來ます。蛹は(ロ圖)長二分二厘にして、背腹共に淡紅色を帶び、前胸は大きく八角形を折半したる如き形をなし、頭部を覆ふて居ます。而して外面より觸角の關節を認むることが出來ます。各腹節後緣の兩端は尖つて、末端の二節は淡黃色を帶びて土中二三寸の深さの處に居ります。成蟲は雄は躰長二分二厘內外、形扁平に翅の長さ一分五厘、雌は躰長三分內外、翅は一分二厘を算し、雄のものよりは稍短かく、腹部の過半を露出してゐます。雌雄共に頭部黑色に光澤を帶び、翅は黑色にして、腹部は稍淡く、腹面は黑色なれども雌蟲は色稍淡く、兩側は淡紅色を帶び、頭部の下面前胸に接する處紅色を帶んで居ります。發生時期は五月下旬より六月中旬頃で、川の岸或は畑の中等に居まして、源氏螢や平家螢の樣に幼蟲時代も蛹期にも發光致します、成蟲は雌蟲の腹端兩側に僅かに發光器を具へて光を放ちますが、雄は全然發光致しませぬ。此の種類は予が鄕里岐阜縣本巢郡船木村字重里に於ても見たことが御坐いますから、よく調査すれば意外に分布が廣いかも知れませぬから、幸に御注意を願ひます。

◎モモスズメの卵子孵化前後に於ける觀察

特別研究生　谷　て　い　子

編者云、本篇は特別研究生谷てい子氏が、曾て水曜昆蟲談話會席上に於て談話せられたる要項にして、中には參考に資すべき節もあれば、特に茲に揭載することゝなしつ。

私は去る六月三日朝、モヽスヾメの交尾せるものを捕へ來り、之を蟲針に留めて置きましたに、正午に至り、採集箱の內にて六個の卵子を產みました。依て私は之に就て少しく觀察しましたから、それを御報告いたし、今晚の責を塞ふと存じます。卽ち其卵は(1)圖の如く長八厘、幅五厘五毛の楕圓形でありまして、產卵の當時は透明なる綠色でございました。其翌日卽ち四日の午前に、卵の上面に白色の微細なる點が出來ました。然し肉眼では到底見ることが出來ませぬ。又(2)圖の如く卵面に凹みが少しく出

來ました。是れは卵殼內に幼蟲躰が少しく形造られた故であろうと存じます。六日には凹所が益々判然いたしました。七日即ち產卵後五日目になりますと、殼內に綠色のものが見えます、これは卵殼が透明なるに、中の幼蟲が綠色なれば斯樣に見ゆる樣になつたのでございませう。又(3)圖の如く、外面の凹所の緣に腫物樣のものが四つ五つでき。九日には(4)圖の如く、卵の先きが白色に成つて參りました。

モスズメの卵子孵化前后に於ける變化の圖

此部は中の幼蟲が出づる處でありまして、產卵の際母蛾の体を最後に離れた所でございます。又(5)圖の如く、卵殼內に於ける幼蟲の關節が見ゆる樣になり、十日即ち產卵後八日目の午後五時、遂に孵化いたしました。其孵化する四時間前には、(6)圖の如く卵の右方に赤色の條ができました。これは幼蟲の尾角でございます。今其孵化する前後の有樣を少しく申上樣ならば、六個の內二個は知らぬ間に孵化して居ましたが、殘りの四個の內一個は(7)圖の如く卵中にて頭部や胸部を上にして居り、其色は少しく濃くございました(卵殼より出づる時は俯向きになりて出でしならん)尙殘りの三個は(7)圖の如く、躰の下へ頭部も胸部も皆入れて居りました故、仰向きになりて出でし事と存じます。兩方とも出づる前には、口部を動かす所などは肉眼でもよく見えました。其孵化する五十分程前より(9)圖の如く出づべき口の卵殼を蝕ひ始め其仰向になりて出づるものは、(8)圖の如く、躰が半分程出づれば、自分の躰を卵殼の上にのせて蚑ひ上ります。併し中には自分の躰を半分程も卵殼中に入れながら他蟲の卵殼を食することもございます、其出づる時間は三分間でございまして、孵化後六分乃至十分間休みます。其後一時二十五分乃至一時四十分間(平均一時間半)位(10)圖の如く、全部の三分の二乃至四分の三迄其卵殼を食し、其餘は食べませぬ。其卵殼は無色透明にて玻璃樣でございます。其孵化せし當時の幼蟲は躰長二分五厘にて、淡綠色でございます。又尾角は長八厘、其先端赤色にて、凡そ二時間の內に黑色と變じ、背線も斜線も判然いたします。又卵殼より出でし時、尾角は蟲の左の方へ曲つて居りますが、三十五六分經て眞

直に立ちます。十一日は終日食しませんでした。十二日尾角が褐色に變じました。十三日には頭部少しく白色となりましたが、これは多分眠期になりました故でありませう。其眠れる時は常と同じく靜止して居りますれど、若し物に恐怖する時は尾脚と腹脚の第九節目にある一對の脚とにて止まり、躰を高く擧げます。十四日の午前に脱皮いたしましたが、眠期は二十二時間程で、其脱皮する時間は四分間でございました。脱皮の仕方は尾角が全く出づる迄歩み、其尾角が出づると又己れが脱皮せし皮に尾端がつく迄後にもどりて此處に靜止いたして居ります。脱皮後の躰長は三分二厘、尾角は六厘五毛、躰と同じく綠色で先端は赤黄色でございます。又頭部の前面は平たくなり、天蛾類の幼蟲の特性が現はれて參りました。又頭部の上には突起物がございまして、先端は二つに裂け、脱皮せし時は綠色でございますけれども、漸次黑色に變じました。尚此後に就ては只今飼育中でございますから、何れ今後十分取調べまして御話し申上やうと存じます。

雜録（七）

猿芝居
猿の蚤とる
樂屋かな
（子規）

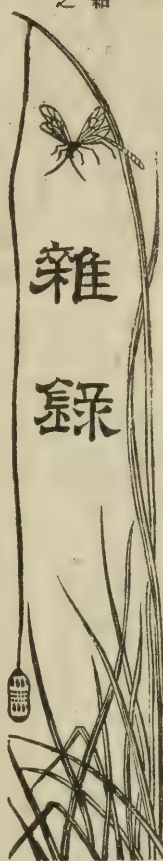
正誤
前前號漢詩蜻蛉結句中極影者涵影之誤植也

◎昆蟲文學

螢　魯嶽野衲

螢者。卵生而下腹放光。隨風飄揚。頗爲夏夜奇觀。聞螢之卵子。已有燐光。暗中可能辨。孵化之後。數日化蛹。再化成螢。每化愈增光輝。而屍猶且留光。余之學字幾三十年。而未能發一縷光明。不及螢遠矣。

南山曰。志于學者誰無此感乎。

蟬　大久保逸堂

吸風仍飮露。住在綠陰深。亂噪驚仙夢。淸吟悵客心。昔文高士辨。今上美人簪。閑座斜陽底。聽來妙似琴。南山曰。一讀双耳爽。

蟬　小木曾蕉洲

老松雲外秀。殘壘樹間存。孤蟬鳴落日。萬古吊幽魂。

草底留舊殼。樹上弄新聲。暑到青陰徒。秋來落葉驚。榮華過半歲。吟詠樂斯生。人事亦類汝。百年夢裏爭。

蟬　　後藤雲外

停杖茂林中。蕈深細徑通。一蟬聲斷續。風死復生風。

綠陰移榻獨繙書。好是淸閑涼氣舒。樹上群蟬啼不罷。騷人思句興新初。

騷客曳笻頻覓句。綠陰深處獨踞巖。鳴蟬聲和溪泉響。涼氣滿身還滿衫。

蟬　　山內栖雲

雨過山莊夏木淸。喧喧聾耳亂蟬聲。何愁轉變浮雲世。啜茗吟詩弄晩晴。

雨晴忘午熱。雲破夕陽鮮。老樹森森處。社頭聞亂蟬。

蟬　　岩間雲泉

風鳴篁竹水流平。屋後老槐涼氣淸。終日柴門人不到。閑窓獨座聽蟬聲。

綠樹涼於水。西窓獨讀書。暮蟬吟樹杪。山項月痕疎。

蟬　　中島楫川

白雨午晴明夕陽。梧陰影永徒吟床。新蟬奏樂自淸妙。斷續吟聲破夢涼。南山曰。淸涼有味。

蟻蛾　　半風隱士

司集草芽上。相親漆與膠。人情薄於紙。不及蟻蚜交。

螢火餘光

○　　山田三秋

鳴る神のこへのうちより雨晴れて片山ばやし蟬ぞ鳴くなる

世の中をとほくはなれし山寺は蚊のなくこへもきこえざりけり

わが門の板井の水はほたる飛ぶかげより外のかげなかりけり

○　　荻原嚴雄

里川のながれに添へるひとすじの道をや行かんほたる見がてら

かなし子のからを置きても歸るかな晝も藪蚊のたかる木陰に（亡孫埋葬の日墓所にて）

○　　志呂須美禮

ひるもなほいづる藪蚊のうるさきに窓のむら竹きらんとぞ思ふ

きのふけふ生ひしばかりの子かまきり三つ四つ這へりあぢさゐの花

○　　外山岩根

しじみとる船はかへりて矢はぎ川きしの柳にほたる飛ぶなり

○　佐脇　紫浪

もち籠のほたるながめて笑みし兒のいつしかゆめに入りにけるかな

○　藤野みどり

たちばなの花の香みてるゆふやみのみはしを過ぐる初螢かな

○　櫻木　よし

植へはててかへる田川のゆふかせに早苗なびきてほたる飛ぶなり

○　服部　綾足

雨たへて夜しづかなる松のかげ過ぎ行くほたる光さびしき

かせかほるはすの卷葉にやすらひて團扇とんぼの何ゆめむらん

這ふむしのわざはひ恐れひたすらに神いのりしはむかしなりけり

わが船のあとを追ひきて濱蝶のかけるも哀れ荒浪の上に（篠島よりの歸途甲板の上にて）

毛蟲

▽　三川選

石の上に踏みにじりたる毛蟲かな　三竿
朝朝に毛蟲を燒いて盡くしける　芽生
葉櫻の幹這上る毛蟲かな　冷石
草の戸や毛蟲落ちたる飾の石　直子
手洗鉢の水に落ちたる毛蟲かな　同
毛蟲燒いて雨となりたる夕かな　城東
杣人の笠に知らざる毛蟲かな　同
溝に落ちて毛蟲流れて行きにけり　歸麓園
鉢植の梅につきたる毛蟲かな　同
うろたへて毛蟲を拂ふ羽織かな　城北
猫の子の後退りする毛蟲かな　同
かたまつて雨に巣籠る毛蟲かな　去水
毛蟲這ふ葉櫻茶屋の小椽かな　同
毛蟲とる別莊守や若楓　比刀
釣床に毛蟲落ちたるあわてかな　同
毛蟲這ふ晝寢の人の毛脛かな　同
這ふて居る椽の毛蟲を彈きけり　村學究
首上げて雨ものうげの毛蟲かな　同
這ふ毛虫移らせんとす棒の先　同
漕寄せしボートに落つる毛虫かな　同

▽　華園選

木下闇毛虫の落つるしきりなり　三竿
桐苗の葉裏へ廻る毛虫かな　比刀
萩の毛虫とつては瓶に入れにけり　直子
巣に戻る毛虫弱るや日の盛　芽生
毛虫除蟻除したる牡丹かな　城北
地境に杏の木ある毛虫かな　木槿
毛虫とる梅の一木や晝曇　同
雨の日を葉裏にすくむ毛虫かな　城東

蜘の巣に小さ毛虫のかゝりけり　同
葉の脈を網目に殘す毛虫かな　同
青梅に塀の上這ふ毛虫かな　去水
病葉を食ひ殘し行く毛虫かな　同
葉櫻に蝶となるべき毛虫かな　同
夕風の糸に吹かゝる毛虫かな　冷石
植へ置きし桃いたはしの毛虫かな　同
蝸牛に疎ぜらるゝ毛虫かな　同
五月晴桃の毛虫は絶へにけり　同
梨畑の竹の柵這ふ毛虫かな　同

▽　華、三共選

葉櫻の毛虫落ちたる廊下かな　冷石
ゆさふりて梅落ちず落つ毛虫かな　芽生
毛虫ついて切り落したる小枝かな　歸麓園
學校の松の毛虫を燒きにけり　明笛
葉櫻に桃の毛虫の移りけり　同

▽　華園選

人　毛虫とる梅の一本や晝曇　木槿
地　梨畑の竹の柵這ふ毛虫かな　冷石
天　毛虫除蟻除したる牡丹かな　城北

▽　三川選

人　這ふて居る椽の毛虫を彈きにけり　村學究
地　ゆさふりて梅落ちず落つ毛虫かな　芽生
天　猫の子の後退りする毛虫かな　城北

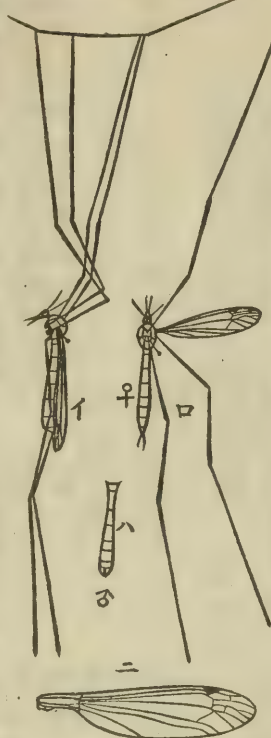
▽

公園の手入おこたる毛虫かな　華園
植木鉢昨日見落す毛虫かな　同
大雷雨松の毛虫をうち落す　同
胴中を挾む毛虫の藻掻かな　三川
毛蟲多き隣の桃を惡みけり　同
おばしまに禿驚く毛蟲かな　同
ごみ取に集めて流す毛蟲かな　同
石燈籠の笠に落ちたる毛蟲かな　同

◎昆蟲に關する隨感隨筆（第拾回）

昆蟲翁

（五十六）稻象鼻蟲雜草に生ず　金華山麓濕潤なる地に生ずる禾本科植物多分チカラグサならんと信ずるものに於て數頭のイチゾウムシを採集したり。是迄冬季採集の節權現山麓等にて得たるは、全く越冬の爲飛來潛伏し居るものと信じたるが、今回の實驗に依れば恐く該植物に生ずるものなりと確信せり。該蟲發生に適當なる稻作地は近傍更になし。（六月廿二日實驗）

(五十七)ユウレイカガンボに就て　多種のカガンボ中、尤も肢の細長にして且つ半透明なるを以て、一見朦朧たればユウレイカガンボの新稱を與へたり。此のものは金華山麓の濕潤にして且つ鬱叢たる暗黑の塲所に於て五六月の頃常に見ることを得るなり。一所に多く群集せば往々數百頭に達することあり、其擧動の面白き事はよく筆紙に盡し難く、今僅かに其擧動の一端を示せば、(イ)圖の如く肢端にて蜘蛛の糸其他種々のものに懸垂靜止するの際、若し一頭にても懸垂の儘運動を始むる時は、他の數拾頭乃至數百頭のもの悉く一時に運動を始む。中には四肢懸垂の儘運動するものあれば、三肢のもの、二肢のもの、一肢のもの、甚しきは全く懸垂することなく運動するものあり、其位置の變ることなきは實に不思議と云ふべし。此時間は十分乃至二十分間にして、漸次靜止するを常とす。

ユウレイカガンボの圖

(イ)は蜘蛛の糸に懸垂の有樣(ロ)は肢並に翅を張りたる雌(ハ)は雄の腹部(ニ)は翅脈の放大圖

(五十八)僞叩頭蟲蘇鉄の新芽を食害す　六月三十日の夜、當所内にある蘇鉄の新芽僅數寸伸びたる際僞叩頭蟲の來りて食害するを見たり、其多きこと甚しく、一見暗赤色の如く、恰も鈴成とも云ふべき程にして、一掬捕蟲器に入りたるもの實に三百十二頭の多きに至れり。其後近傍を見るに、頻りに諸方より飛揚し來るもの多く、又忽ち一百余頭を得たり。僅か二時間程の後(午後十一時頃)に於て見るに尚二百頭許來り居れり。夫が爲に全く蘇鉄の新芽は食害せらるゝに到れり。

◎柑橘害蟲篇 (續)

靜岡縣　岡田忠男

直翅目蝗蟲科　ツチイナゴ(方言ヤマイナゴ)　(成蟲)体淡黑褐色にして觸角は短く、複眼は楕圓形をなして頭上の兩側に橫はり、口は咀嚼するに適し、前中二脚は短小に、後脚は長大にして飛翔の用をなし、脛節の上方二列に短刺を存せり。前翅は淡褐色にして多少褐色の斑点を存す。形は細長にして、後翅は開展したる際は扇子を開きたる狀をなせども常に疊みて前翅の下に隱す。腹部は圓筒形をなし、体

長雌は一寸四分、雄は一寸三分内外なり。(卵)卵は不詳なれども他の蝗蟲科のものと等しく土中に產卵するものならん。(幼蟲)幼蟲は頭部大にして後端に到るに從ひ次第に細まれり。色褐色を呈し、成蟲と同じく前中二脚は短少にして、後脚は長大なり。此幼蟲は五回脫皮の後成蟲となる。(經過習性)此種は多く成蟲のまゝ枯草又は樹枝の葉間に於て越冬するものゝ如し。故に翌春雌蟲の產卵したるもの幼蟲を出し、幼蟲は孵化後五回脫皮を經て九月頃成蟲となる。此成蟲、幼蟲とも盛に柑橘の葉を喰害し、苗木の如きは著るしく害を被むる時は其發育を妨害す。成蟲は翅力强きを以て、若し柑橘園に人の來るあれば忽ち數町の遠きに飛翔し去るの性を有す。又柑橘類の葉のみならず、他の草木の葉をも貪食するをも認めたるなり。

防除法　一、此蟲の性質より見るときは人に恐るゝの性あるを以て、成るべく靜かに園内を巡視して搜索し、其棲息を認むる時は捕虫網を以て直ちに捕獲するを要す。一、冬間は成るべく柑橘園の周圍にある草叢を芟除し、又は燒却して成虫の潜伏し居るものを殺すこと。一、此害蟲と類似したる種類にして群をなして移轉し來り、害をなすことあるを以て常に注意するを要す。

直翅目蝗虫科　オホマルイナゴ　(成蟲)体綠色にして褐色を帶び、恰も普通稻田に棲息する蝗の如きも、唯翅の退化して短かく、且つ常に樹木の上に生活す。雌は体長一寸二分内外なり。前後翅とも短かくして、長さ三分内外、不正楕圓形をなせり。(幼蟲)体黃綠色にして、頭部は大に、尾端に至るに從ひて細く、他は成蟲と異なる所なし。(經過習性)經過は不詳なれども九、十月の頃幼蟲、成蟲とも生活し居るものなり。而して如何なる時代に於て越冬するやは不詳なれども、其加害するは幼蟲成蟲時代に於て柑橘の葉を貪食するの性あるを以て一種の害蟲なり。

防除法　前種に同じ

直翅目螽蟖科　クダマキダマシ　(成蟲)成蟲は体深綠色にして、觸角細長くして褐色を呈し、背上には翅を屋根形に疊み、雌は腹端に鈎形をなせる短かき褐色の產卵器を有す。前中二脚は短く、後脚は極めて長大なり。体長一寸一分、翅脚をも併せたる時は二寸内外にして、雄は小なり。(卵)雌蟲は產卵器を以て樹枝を挽き割り、此處に扁平楕圓形にして淡褐色の卵子を十數粒つゝ產付す。(幼蟲)幼蟲は綠色にして細長き觸角を有し、成蟲に似て無翅なるものなり。數回脫皮の後成蟲となる。(經過習性)此蟲は卵期の有樣にて越年し、翌春孵化して幼蟲となり、數回脫皮して九、十月頃成蟲となる。其間主もに動

物性のもの即ち昆蟲類を捕食するは益蟲の如く考ふれども、樹枝を挽きて産卵するを以て見れば一種の害蟲なり。又時としては柑橘類の葉を喰害することあるやの疑あれども、尚ほ調査するにあらざれば一概に判別すること能はず、されど産卵するの害を以て見れば一種の害蟲なり。

防除法 前に同じ。

半翅目貝殼蟲科 カヒガラムシ（總稱） 柑橘を害する所の貝殼蟲は其種類實に夥多にして、一に是を詳記すること能はざれども、今是等に付き大体の形狀、性質、變態の有樣を說明せんとす。

貝殼蟲一般變態性質經過ノ概要 （成蟲）凡て貝殼蟲は成蟲時代に於て雌雄其形態を異にし、雌蟲は不完全變態をなせども雄蟲は完全態變をなす。故に雌は成蟲期に至れば貝殼の下に自己の体を隱すと同時に、多くの種類は六脚を缺損して生ける袋の如く、糸狀の口具を樹皮、果皮面等に挿入して液汁を吸收して生活し、雄蟲は貝殼の下に於て蛹化し、羽化じて出づ。此際は普通昆蟲の如く頭部には二本の觸角及複眼を有し、口部は食する用をなさず。胸部には六脚及び二翅を具へ、後翅は退化して鈎形をなし、腹部の末端には一本の劍狀の如きものを有す。儘々附屬物を有するものあるなり。斯の如く一種の蟲にして雌雄全く異りたる變態をなす所のものなり。（卵）卵は雌蟲の貝殼の下に產卵するものあり、或種は卵巢を出して其内に產卵するものあり、特種のものに至りてはまゝ胎生をなすものありて一定せずと雖も、第一第二に屬するもの多く、卵圓形にして淡黃色を呈し、一雌蟲にして數百粒を產下す。（幼蟲）卵より孵化したる幼蟲は大概小判形をなして淡黃色を呈し、觸角、眼、口、六脚を具へ、自由步行して各所に移轉するは此時代なり、數回脫皮の後成蟲となる。（經過習性）貝殼蟲は多く成蟲、幼蟲の時代にて越年し、翌春に至りて成蟲時代のものは產卵し、幼蟲時代のものは雌雄を生じ、交尾後產卵す。卵期にて或る時代を經過すれば、幼蟲は孵化して液汁を吸收し、其間二回の脫皮をなし、貝殼を作るもの、臘質を分泌するもの等ありて一樣ならず。雌蟲は成蟲となり、雄蟲は蛹化し、羽化して成蟲となる。其害を逞ふするは幼蟲及び雌蟲の時代に液汁を吸收するを以て、著しく樹枝に衰弱を來すのみならず、枯死せしむるに至る。年一回繁殖をなすものあり、年四五回の繁殖をなすもの等ありて一定ならず。而して其生活の場所は多く樹枝の日光に當らざる方面又は葉裏に附着すれども、甚しく繁殖するに至れば、孰の部分を問はず附着して加害する所のものなり。今柑橘園に於て加害しつゝある所の主もなる種類を擧ぐれば左の如し。

一、カメノコカヒガラムシ　此種は到る處の柑橘樹に寄生して加害せり、而して世人が煤病の附着するを憂ふれども、其誘因たるもの多く此カメノコカヒガラムシの寄生より起る所のものにして、其雌蟲の排泄物に煤病の胞子は附着して蔓延し、遂に一面黑色を呈するに至る。故に煤病を防除せんと欲せば先づ此貝殼蟲を驅除すること先務ならん、依て左に是れが形態を少しく述べんとす。

（成蟲）雌蟲は体淡褐色にして楕圓形をなし、中央には縱の黑線を存し、短かき觸角、眼及び糸狀の口具短小なる六脚を有す。腹端に當れる部分は二ッに割れて凹部を生せり。雄蟲は体色橙黃色、長一ミリメートルにして尾毛二本あり、其長さ一ミリメートル五にして白色なり。觸角は九節にして眼は黑く、二翅淡橙黃色を呈し、後翅は鈎形をなし、腹端には一本の突起を生ず。六脚とも同大同形にして一跗節に二爪を有す。開翅するときは三ミリメートルなり。（卵）雌蟲の老熟したるときは順次白色の卵巢を出し其内に產卵す。卵は色淡黃色にして卵圓形なり。（幼蟲）孵化したる幼蟲は小判形をなし、淡黃色にして觸角、眼、糸狀の口具、脚を具へ、腹端は二ッに分れ、二本の粗毛を生せり。（蛹）雄蟲となるべきものゝ幼蟲は、背面の貝殼少しく隆起して白く龜の甲の形をなし、幼蟲は其下に於て蛹化し、蛹は淡黃色にして一ミリメートル内外なり。（經過）カメノコカヒガラムシは幼蟲のまゝ越冬し、翌春四月頃ろ蛹化して成蟲となり、卵子を產下す。孵化したる幼蟲は十月頃に至り成蟲となりて產卵し、幼蟲孵化して越年す。加害するには糸狀の吸收口を以て樹液を吸收して生活す。年二回の繁殖をなすものなり、

二、ナガカヒガラムシ　此種は雌蟲のまゝ越冬するものゝ如く見ゆ、貝殼は長くして少しく曲がり、褐色を呈し、雌は其內に住し、長き口吻を有し、脚は無脚にして躰色淡黃色なり。

三、トビイロカヒガラムシ　此種は貝殼暗褐色にして牡蠣の狀をなし、一端に脫皮の殼を附着す。雌蟲は黃色にして腹部の刻み目著るしく突起せり。雄の殼は白色にして、蛹化して越冬するものゝ如し。

四、クロイロカヒガラムシ　雌蟲の貝殼は圓形にして黑褐色なれ共、中央に褐色を存し、其中央に黑點を顯はせり。雌蟲は黃色にして圓く、腹端に向ひ少しく細まれり。溫州種の葉裏に多く附着す。

五、アカカヒガラムシ　此種の貝殼は黃色にして圓く、周圍は殊に淡黃色を呈せり。一所に群集す。溫州種に多し。

六、イセリアの一種（カヒガラムシ）　此種の雌蟲は背上に貝殼なく、數多に分裂突起して白色なれ共突起は黃色に、其頂上に白色の長き細毛を生せり。体長一分五厘內外。

七、ヒモワタカヒガラムシ　此種は產卵の狀恰もワタヒモの如く環曲せり。其幼蟲は小判形にして紀州密柑樹に加害すれども、其經過は不詳なり。

八、シロコカヒガラムシ（新稱）　此種の雌蟲は其形橢圓形にして三分內外、灰白色の粉末を附着し、觸角及び脚部は黑褐色を呈す。雌蟲は長き卵巢を出して其內に淡黃色の卵を產す。幼蟲も橢圓形にして淡黃色なり。雄蟲は頭及び腹部は淡褐色に、觸角は恰も玉を繫ぎたるが如く、脚は淡黑色に、翅は紫黑色を呈し、体長一分、翅の開張三分なり。

右の數種は我が靜岡縣の極く僅少なる部分に於て採集したるものにして、廣く縣下に亘りたらんには尙ほ數十種を得ること困難なることにはあらざるべし。而して是等の貝殼蟲は皆柑橘に害を與へつゝあるを以て、其習性形態を知るに至りては等閑に付すべきことにあらざるを以て、今左に一般の貝殼蟲に對する防除法を述べん。

防除法　一、剪枝法を勵行すること。（理由、柑橘に於て剪枝は從來餘り行はれざるを以て、爲に貝殼蟲の繁殖を助け、却て害を招きたることは屢々見る處なり、貝殼蟲は元來其性質として日光を嫌忌し、空氣の不流通を好むの性あるを以て、此剪枝法は自然的貝殼蟲の棲息に不適ならしむるに効あるものなり）。一、松脂合劑を散布して煤病を洗除すると共に、多少貝殼蟲を殺除すること。一、石油乳劑、除蟲菊合劑、硫黃食塩石灰液等を散布するも貝殼蟲を驅除するの効あり。但し、第三者は特に冬間のみ行ふものなり。一、益蟲たる瓢蟲を保護して天然の驅除を行はしむること。

半翅目蚜蟲科　みかんのあぶらむし　蚜蟲も前種と同じく種類多きも、特に柑橘を害する所のものは三四種に過ぎざるべし。然れども此蚜蟲は開花の際群集して害を加ふるを以て、其結果に著しき差異を生せしむるのみならず、又前種と均しく其排泄物には煤病を蔓延せしむるの媒介をなすものなれば、孰れの方面より云ふも、此種は柑橘に於ける一大害蟲なり。

（成蟲）柑橘に寄生する或る一種の蚜蟲は体長八九厘、翅を開展したる際は二分內外、頭胸二部は黑色に腹部は黃褐色を呈し、排密管は黑く、觸角、脚は黑色に褐色の斑点を存し、翅は透明なり。（卵）此種は初冬の頃雌蟲の卵子を產下するものにして、其色初めは淡黃黑色なれども次第に光澤ある黑色を呈するに至る、其形狀橢圓形なり。（幼蟲）春期卵より發生したる幼蟲は色淡黃色にして、眼は黑色を呈し、少しく突起し、体長二厘、次第に生長するに至れば四回脫皮を終りて成蟲となる。（經過習性）蚜蟲は凡て

他の昆蟲と其繁殖を殊にし、成蟲は無翅なるあり、有翅なるありて一定せず、大概幼蟲の際四回脫皮をなして成蟲となる。成蟲は翅の有無に關せず、春より秋に至れば胎生兒を以て繁殖をなす。冬期の初めに至れば初めて雌雄を生じ、交尾產卵するに至る。此害蟲は嫩芽花蕾等に集りて養液を吸收するを以て樹枝の勢力は次第に衰弱するに至り、若し開花の際なれば充分の結果を見ること能はず、而して其繁殖實に速かなるを以て、其蔓延は吾人の意外に出づ注意すべき害蟲なり。

防除法　一、蚜蟲を豫防せんと欲せば先づ剪枝法を行ひ、冗枝陰葉を除き、施肥に注意し、不時に新芽の伸長繁茂を防ぐを要す。一、冬期柑橘の日光に當らざる方面に於て光澤ある黑色の微少なる卵粒あるを發見せば、蚜蟲の卵なるを以て摩擦して殺すべし。一、少しく附着し居るを認めば用捨なく摘み取りて殺すべし、僅少なりとも放置すべからず。一、若し萬一非常なる發生を認めば、石油乳劑又は除蟲菊合劑等を製して噴霧器樣のものにて散布すること、成るべく滿面に行き亘るを要す。若し殘りたる所あれば其れより又蔓延を來すの恐あれば注意すべし。一、黃楝樹、除蟲菊等は蚜蟲驅除に有効なれば、成るべく園內の一隅に植へ置き、時に應し煎じて散布するも亦經濟的驅除の一法なり。其用量は其時の模樣、蟲の强弱使用の如何によるものなれば使用者は其邊を斟酌して用ゆへく、煎汁に石鹼の少許を加ふるも効あり。

（未完）

愛想は
蠅打ちて
蟻に與へけり
（子規）

◎八町蜻蛉の分布

名和昆蟲研究所分布調査部

ハッチヤウトンボ（Nannophya pygmaea Rambur.）に就ては本誌第六卷第六十一號に於て着色圖版を掲げ其名稱の起りしは頗る古く文化文政の頃にありて、尾張國矢田河原の八町畷に於て始めて採集せしに起因せるものにして、愛知、岐阜、宮城、岡山の四縣は其產地として既に世に知らるゝ旨を記せしが、去六月七日當所森助手は可兒郡地方へ出張の際同郡久々利村にて其の成蟲及幼蟲を多數採集し來りしかば、玆に其の蛹時代に於けるものゝ略圖を掲げて讀者諸氏の注意を乞はんとす。此の種は多く山間の沼

八町蜻蛉の蛹の圖

澤に産し、成蟲は飛翔力强からざるを以て容易に捕獲し得べく幼蟲(蛹時代のもの)は成蟲の小形なるに伴れ、亦頗る小さく、長さ二分五厘内外、灰褐色にして複眼黒色を呈し、愛すべき形なり。讀者諸氏の報告等により其後該種の分布を知り得たるは、福岡縣矢野宗幹氏の報に、明治三十三年六月下旬同縣嘉穗郡飯塚町附近の山中草間にて獲られ、又山口縣吉敷にも産すと(本誌第六十四號)。鳥取縣東伯郡服部村石龜一郎氏は明治三十六年(月日未詳)同村田畔に於て雄一頭を捕獲したりと竹信虎藏氏の報あり(同誌第七十四號)。又愛知縣田中周平氏は同縣三河國額田郡男川村及山中村に於て、明治三十六年九月前後其地の學校にて採集せられたる由を報せらる(同誌第七十五號)。尚明治三十五年愛知縣渥美郡昆蟲分布調査の際、七月二十三日同郡野依村に於て、同十日小澤村に於て各一頭を採集せられ、第一回岐阜縣昆蟲分布調査の際は武儀郡上有知尋常高等小學校尋常科四學年山田まさ子氏三十五年九月十二日上有知町畑にて、可兒郡上之鄕尋常高等小學校高等科一學年小栗宗一氏は同年九月五日上之鄕村畑にて採集せり。

◎愛知縣渥美郡産の昆蟲　（蜻蛉類の部）

名和昆蟲研究所分布調査部

番號	種名	豐橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豐岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	清田村
八三、	ハグロイトトンボ	一	—	—	—	—	一	—	—	—	一	—	一	一	—	一	—	—	一
八四、	カハイトトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八五、	アチイトトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
八六、	モノサシトンボ	二	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	三	—	—	—

八七、キイトトンボ	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—
八八、ウチハトンボ	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八九、サナヘトンボ	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—
九〇、ギンヤンマ	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九一、コヤマトンボ	—	—	—	—	—	三	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	一	—
九二、テフトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	二	—	—	—	一	—	—	—
九三、シオヤトンボ	—	二	—	—	—	三	—	—	二	—	—	二	一	三	—	二	一	一
九四、コシアキトンボ	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	一	—	—	—
九五、ハラビロトンボ	二	—	—	—	—	七	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—
九六、シヤウジヤウトンボ	—	—	—	—	—	一	—	—	—	一	一	一	一	—	一	—	一	一
九七、ミヤマアカネトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—
九八、ナツアカネトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	一
九九、ノシメトンボ	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	一
一〇〇、ヤブトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	一	—	—	—
一〇一、オホシホカラトンボ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—
一〇二、トンボの一種	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	一	—	一	—	—	—
一〇三、ハッチヤウトンボ	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—
一〇四、カスリウスバカゲロフ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	二	—	—	一
一〇五、オホカスリウスバカゲロフ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一〇六、ツノトンボ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—

孑孑の
蚊になる頃や
文學士
（子規）

◎靜岡縣磐田郡の螟蟲採卵方法

靜岡縣磐田郡　神村直三郎

本郡の螟蟲採卵に就ては、第三課長磐田郡視學川添誠一氏より、町村長、小學校長、農業學校長宛訓示を出して學校兒童になさしむることになりたれば、各校に於ても精々實行せらるゝ樣になり。定めて好結果を見るに至るべし。後日結了の後は重ねて報告する所あるべきも、左に該方法に於ける訓示を記載すべし。

小學校の兒童をして農作物の害蟲を驅除せしむることは、教育上利益少なからず、殊に農業科加設の小學校にありては、直接教授事項の實習となるべきにより、適宜實施されたく、就中螟蟲卵の採取は兒童に最も適したる作業なるを以て、農會長と御協議の上、毎日終業後若くは休業日に於て、隨意危險なる行爲をさけ、作物保護に關する注意を與へ、左の要項により是非共實行せしめられたく、蓋し兒童の智識を確實ならしむるのみならず、生産上にも至大なる結果あるものと認候條、依命此段及通牒候也。卅七年五月十四日

記

一、幼年生には課すべからざること●二、最初採卵法を教授する場合は格別、其他は必ず教授時間外たること●三、職員中に主任者を定め置き、採取したる卵を取集め、且つ兒童各自の採卵數を明記し置くべきこと●四、採卵は玻璃壜若くは紙袋の類に入れ、孵化せしめて其狀態を兒童に示し、且つ往々寄生せる小糠蜂(益蟲)の發生することあるものなれば、其死せざる前に於て放ち去らしむることに注意すべきこと●五、螟蟲卵は五月下旬より採集を始め七月中旬に至るべきものとす。水稻と陸稻の別なく、又苗代田と本田との區別を問はざること●六、農會長と協議し螟卵を買上ぐるか、或は其採集高に應じ、兒童に褒賞を授與すること●七、左記の小學校には嘗て寄贈し置ける昆蟲標本及附屬印刷物中に螟蟲、螟蛾、螟卵及び小糠蜂の標本及説明あり、必要ありたる場合には就て一覽すべきこと(校名略す)●八、着手したる時、實施せざる事情の存するとき、終結したる時は狀況を具して報告すべきこと●九、左記二件につきては郡農會長より町村農會長に對して通牒せり。(一)町村農會長は町村長、學校長と協議し、農民をして兒童の螟卵採集に異議なからしむる樣措置し、便宜を與ふべきこと。(二)町村農會長は螟卵を買上ぐるか或は其採集高に應じ兒童に褒賞を與ふべきこと。

◎三重縣員辨郡通信

三重縣員辨郡神田村　牧野濱治郎

本年本郡に於ける螟蟲驅除に就ては、一方には驅除豫防實施上に關する規程を設け、他方には昆蟲研究同窓會なるものを組織し、大に之が勵行に勉めしに、至極良結果にて、殊に本郡は各村大低一人宛名和昆蟲研究所講習修得生のあるを以て、各村其歩を一にし頗る好都合にて、採集の卵塊、蛾數の如き合せて百五十萬餘の多きに達し、本村の如きも學校生徒を督勵し採卵蛾數十一万以上に達せり。最も本年は始めて施行したるものなるを以て稍遺算なきにあらざりしも、爾後繼續するときは多大なる効果を收むるを得ること丶信ず。今左に本郡に於て定めし是等の手續等を錄せん。

○螟蟲驅除豫防實施上に關する手續　一、奬勵費交付規程第二條第一號部落等に於て共同實施をなす場合は村農會に於て監督し豫め村長幷に區長總代組頭等に協議を遂け代表者を定め實行すへき誓約書を徵すること。監督上に付ては村長に於ても充分助力を得る事に協議すべきこと●二、同上第二號小學校生徒に於て實施の場合は敎師の指揮監督を受けしむへき筈に付豫め校長に協議を遂げ其日時場所等を定め不都合なき樣取扱ふ事●三、同上第三號個人の實施に係るものは各本人より實施すべき旨の書面を徵すること●四、村農會長は勿論役員は時々實地を視察し實施の狀況を調査する事。村長幷に村役場員に於ても時々實地に臨み狀況調査を得へき事に協定すへき事●五、實施すへき部落名(代表者氏名とも)及個人の住所氏名等は五月廿日迄に申報すへき事●六、實施期間は五月十五日より六月三十日迄とす。但時宜により伸縮することあるへし●七、採取したる卵塊は其個數調査を了りたる後燒殺又は乾燥すべし但し調査の際益蟲の寄生せる卵塊なることを認めたるものは益蟲保護器に入れて之を發生せしめたる後處分する事●八、奬勵費交付の申請書は村農會長に於て悉く皆取纏め(小學校の分とも)來る七月十五日限り差出すべき事。但し右取纒め方便宜村長委囑するも妨けなし。

○害蟲驅除奬勵費交付に關する規程　第一條、螟蟲の驅除豫防實行者に對し本規程により奬勵費を交付す●第二條、奬勵費の交付申請は左之各項に依るを要す。(一)一村又は一大字若くは部落に於て共同實施をなしたる場合には代表者を定め該代表者より申請すべし。(二)學校生徒をして施行せしめたる場合には其學校長若くは首席敎員より申請を要す。(三)個人の實施に係るものと雖も申請をなすことを得、但實物の送付を要す。(四)奬勵費交付申請書には螟蛾及螟蟲卵塊の數を明記すべし●第三條、前條各項の申請書には村長又は村農會長の証印を受けて差出すべし●第四條、交付金額は申請書により調査をなし本會に於てこれを定むるものとす。其標準は凡そ左の如し。一、螟蟲蛾は其數千蛾に付金貳拾錢以內。一、螟蟲卵塊は同上金貳拾五錢以內。

○員辨昆蟲研究同窓會規則　第一條、本會は害蟲を驅除し益蟲を保護し以て郡內の福利を增進せしむる爲め昆蟲思想の普及を計る

を目的とす●第二條、本會は昆蟲研究同窓會と稱し事務所を郡役所内に設く●第三條、本會員は左の二種を以て組織す　一、正會員。二、名譽會員。正會員は名和昆蟲研究所に於ける講習を修得したるもの。名譽會員は郡内に於て名望あるもの及び本會へ金品を寄贈したるもの●第四條、名譽會員は總會の決議により之を推選す●第五條、第一條の目的を達する爲め左の事業を實行するものとす。一、害蟲發生又は發生の虞あるときは實地に就き其狀況を視察調査し驅除豫防法其他の手續を指導するものとす。一、害蟲及益蟲の經過を調査し普く郡民に知らしむ事。一、昆蟲に關する談話會を開設する事。一、昆蟲標本を製作して村役場又は小學校へ寄贈する事●第六條、本會に左の役員を置き其任期を三ヶ年とす。一、會長一名。一、副會長一名。一、幹事二名●第七條、會長は會務を總理し會を代表し會議の長となる。副會長は會長の事務を補佐し會長事故あるときは之を代理す。幹事は會長副會長の命を受け庶務に從事するものとす●第八條、會長及副會長は總會に於て撰擧し幹事は會長の特選するものとす。但滿期再選を妨げず●第九條、總會は每年春秋二季に開き必要の事項を議決し且つ會務事蹟を報告するものとす。前年度の經費決算は其年秋季總會の節報告すべし。臨時總會は會長に於て必要と認むるとき又は會員過半數以上の同意を以て請求あるとき開くものとす。本會の會計年度は其年四月一日より翌年三月三十一日迄とす●第十條、會議は會員過半數以上の出席するにあらざれば議決の効力なきものとす。但緊急事件にして會議を開く遑なき場合幷に同一事件に付再會の節は本文の限りにあらず●第十一條、正會員は會費として一ヶ年度五拾錢を總會の節兩度に其半額を納付するものとす●第十二條、本會費は利殖の爲常に確實なる銀行又は驛遞局へ預入れをなすものとす●第十三條、新たに正會員たるべき資格を有したるものは其都度會長へ届出て入會するものとす●第十四條、本會員は正當の事故あるにあらざれば脫會を許さゞるものとす。但會員たるの体面を汚したるものは會長に於て脫會せしむるものとす●第十五條、本會へ金員又は物品を寄贈するものあるときは之を受理し簿冊に登錄し其物品は永く保存し金員は本會の資産とす●第十六條、本會則は會員過半數以上の同意を得るにあらざれば變更するを得ざるものとす。

◎大分縣下に於ける本年の害蟲

大分縣大野郡白山村　三浦三平

害蟲の耐寒力の强きことは曾て聞きし所なるが、本年は益々之を確めたり。即ち昨冬は四十年來曾て無き寒威なりしとは其當時老人の言にして、室内の溫度さへ數度零點以下に下降せし底の酷寒なりしにも拘らず、本年の二化生螟蟲の發生多大なるは驚くべく、縣下一般に分布せり。就中余が實見せし中の玖珠郡の如きは、頃日採卵數を試みしに、苗代田約一尺平方内に於て卵塊五六より十四五、多きは二十一二塊を獲たり（素より二三村十六七ヶ所にて試みたるもの）。概見するに何れの苗代田と雖も一尺平方内

五六塊の卵は確なり。實に驚くべきにあらずや。本郡は素と大分縣の北海道と云ひ、山間且つ寒威凛烈なる所にて、陽春三月の花と世に云ふも、玖珠郡は(平年)四月中旬に至り花兄たる梅花も、杏も、桃も櫻も一時に開花するの土地柄なるに、加ふるに客冬の嚴寒なるにも不拘多數の發生には、同縣人も亦驚き居たり(蟲も寒地相應の習性に從ふと雖も)案ずるに、本郡のみならず、縣下各郡共非常の發生にて、其筋に於ても吏員總掛りの有樣にて、非常の督勵を加へつゝあるも、如何せん當事者の腦中害蟲の觀念薄く、最早即今早きは挿秧に取掛れるに、苗代田に於て充分驅除を行はずして本田に移植せば、他日杏直に臍を噛むの悔あらん。邦家の爲め憂慮の至りなり。三化生螟蟲は縣下至る處分布するも、甚しき被害を認めざりしが、近來益々繁殖し、北海部の如きは多數發生せし旨當該郡長より知事へ報告ありたり。尙交通機關の進歩すると共に、昆蟲の分布區域を擴張するとのことも、豫て聞きたる處なるが、是亦幾分確めたり。即ち縣下下毛郡中津町は大分縣に於ける九州鐵道の終點たる宇佐驛に通ずる中間にある驛にして、同町人士の言ふ所によれば、近來未だ曾て見ざる種々の蟲類を認むとのことなり。これ昆蟲眼の發達したるとは云へ、九州鐵道に依て他より輸送せられたるにも因るならん。

桃源や
水清くして
蚊も居らず
(逸名)

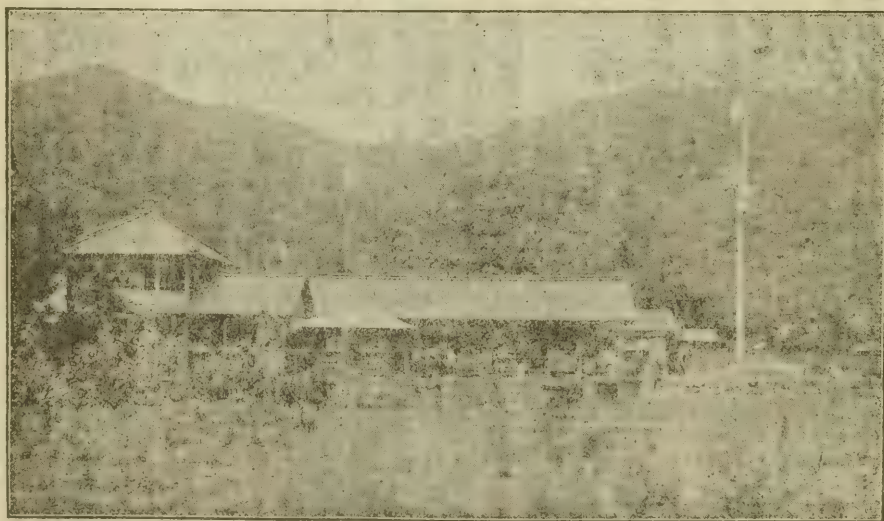
◉昆蟲標本陳列舘案内(其六)　(ク部)に移れば玆には蜂巣の各種を陳列し、ヤマバチ、アカバ、ミツバチ、アシナガバチ、トツクリバチ、ヂバチ等の巣は其重なるものにして、其形圓きあり、楕り、其構造數層より成るあり、單層なるありて一樣ならざるも、構造の巧妙なるに至りては實へし。(ヤ)部は有効蟲標本にして、俗にトスベリと稱して敷居に塗りて摩擦を防ぎ、其他種々のすイボタロウを初め、木附子(五倍子)の種類なるミゝブシ、ハナフシ(蚜蟲の一種の刺劇によりるもの)、蠶及クリケムシより取りたるテグス、其他天蠶糸の如きは其重なるものなり。(ツ)部にはセグロセキレイ、キセキレイ、三光鳥、メボソ、メジロ、ミソサヾヘ、ルリビタキ、アカモヅ、

キツヽキ、コゲラ、ノゴマ、キビタキ、イソヒヨドリ、アリスイ、カヤクグリ其他數種の有益鳥類を陳列したり。凡そ害蟲驅除の効果を收めんとせば勢ひ益蟲の保護を圖るべきは論を俟たざる處なれども、尙一歩を進めて昆蟲類の唯一の天敵たる益鳥の保護を圖りて初めて完全といふべければ、有益鳥類の普通なるものを茲に集めたる所以なり。(レ)部は愛翫昆蟲標本幷附屬品にして、クツハムシ、キリギリスウマオヒムシ、スズムシ、マツムシ等の美聲を弄して人々に愛翫せらるゝ種類より、ホタル其他各種の蟲籠等なり。(タ)部は衛生上の害蟲標本として、ノミ、蚊、ウジバヘ等幷に之れが驅除用物、其他蚕の經過を示す爲めに卵、幼蟲、蛹、成蟲の摸型標本あり、該摸型標本は明治三十四年第一回全國昆蟲展覽會の際產れ出でしものなるが、後第五回內國勸業博覽會の際一大飛躍して大坂硫曹株式會社の硫曹舘に移り、同舘の參考品として數ヶ月間滯在せることあり、今は當昆蟲標本陳列舘の(タ)部に座を占め、日々縱覽人を歡迎し、苟くも昆蟲界に列する我々微翅目は斯く立派に完全變体を遂げ、決して偶然に湧出するものにあらず、世の偶然說に迷はさるゝの人來れかし、見よかしと笑ふが如く、諭すが如く、嚴然座を占むる樣いと面白し。

◉第十七回全國害蟲驅除講習會開期に就て　當所に於て每年開催する同會の第十七回開期を昨年末以來全國各地より問合さるゝもの尠なからざるが、時局に對して害蟲驅除の忽にすべからざるの必要と、最早各官衙學校の夏期休業に到らんとし之を利用せんとせらるゝ趣もあれば、此頃に至り頓に增加し、殆んど其應答の繁勞に堪へざるを以て茲に一言し置かんに、當所の移轉建物は未だ完結せず、其敎室に充つべき研究室(前々號移轉地略圖ホの部)は九月に入らざれば着手する能はざる事情あるにより、爲に本年中は開かれ能ふや否やは今より明言するを得ず、折角志望者の多數なる意を滿す能はざるは、此際に於て特に遺憾とする處なり。故に當所に於ては是等斯學研究者に對し特別の利便を謀らんとして特別研究生規程を設け之を募集し來りしが、今日迄既に研究を了して退所せしもの十名に及びたり。其入退期日は研究者の適宜にして、短かきは一二週より長きは一二ヶ年に及ぶ、又研究の事項も一般の昆蟲學、害蟲驅除益蟲保護法、或は飼育法、標本採集製作法、又は特殊の研究等研究者の自由たり。第十七回講習會の開期は前記の次第なれば、昆蟲學の研究を望まるゝの士は此際特別研究生として研究さるゝ方却て都合宜しかるべし。因に記す、目下入所中の特別研究生は二ヶ月間研究宮崎縣兒玉龜太郎氏、一年間研究岐阜縣馬淵治郎氏、二年間研究愛知縣谷貞子氏の三名なり。

◉**名和昆蟲研究所の片影**　當所が去四月金華山麓公園地内へ移轉に着手せしより今日迄に終了せしは、本誌前々號掲載移轉地略圖の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)部にして、(ホ)部は縣試驗場との關係あるにより、九月以後にあらざれば着手する能はず此の(ホ)部にして移轉すれば移轉の部丈は結了する都合なり。茲に示せる圖は去五月廿三日撮影せしものにして、移轉地圖略の(ハ)及び(ロ)の一部を現はせるものなり。右方の旗竿は前號雜報欄に於て説明せし昆蟲採集塔にして、即ち本號學説欄花枠は其眞形なり。

◉**新刊紹介**　(一)愛媛縣農事試驗場特別報告第二號、本號は二化生螟蟲、三化生螟蟲、大螟蟲、稻螟蛉、稷黑横蚑、電光横蚑、二點横蚑、姫種褐色浮塵子背白浮塵子の九種につき、同場技手森莊之助氏が明治三十四年より同三十五年に亘り、各種共成蟲の壽命、移轉、産卵の狀況、時刻、回數、粒數及び卵、幼蟲、蛹の期間等凡そ十八九項に分ち、調査研究せられたる事項を記載せるものにして、經過の着色圖版七葉を挿入し紙數百八十七頁あり、蓋し斯學の參考に資する尠なからざるべし。(二)日本昆蟲檢索便覽、本書は著者の考案になれる頗る簡單なる檢索法に、邦産昆蟲一千餘種の和名、學名及び形躰、習性等の一班を記したる目錄を附し、初學者の好袖珍書と稱すべきものなり。著者は農學士今川猛雄氏にして、東京神田表神保町東京堂發賣、定價金六拾錢。

岐阜市公園内へ移轉中の名和昆蟲研究所(五月廿三日撮影)
右方の旗竿の中央にアセチリン瓦斯を点火して夜間昆蟲を採集す

◉堀內英力氏の書簡と滿洲の鳳蝶

曩に靑柳才次郎氏が蛤蟆塘の大激戰に參加せられたる紀念として、該地の柞蠶蛾を送附せられし事は前號に於て報じたる處ろなるが、今又宮城縣名取郡館腰村堀內英力氏（第七回講習）は淸國永甸縣附近にて敵前をも顧みず圖に示せる如き鳳蝶の一種 Sericinus telamon Donovan. var. telmona Gray. なるものを捕獲し、之を送り越されたるは實に大膽とも云ふべく、身敵地にありながら、尙斯學の爲を思はるゝには感謝せざるを得ざるなり。故に紀念の爲滿洲鳳蝶の和名を附し、尙左に該標本に添へられたる書簡をも錄して讀者に報ずることゝはなしぬ。

堀內氏の送られたる滿洲鳳蝶の圖

却說本月十一日、淸國永甸縣附近に於て別包鳳蝶捕獲仕り、御送附致し候に付、名稱御示敎仰ぎ度願上候、實は多々群飛致し居候も、敵兵追躡にて匆忙の際たりし故、やつと一頭を捕へしのみにて遺憾に存じ居候、翅色（鱗片）は多少剝落致し候も、色彩は現品と大差無之候、食草等も前陳の次第故確め申さず候、其他菜の蝶位の（少しく大）大さにて全躰黃色のもの飛翔致し居候も、之は捕へ兼候、何れ其內珍種の者捕へ候はゞ御覽に供し申べく候草々。五月廿五日於淸國寬甸城內堀內英力。

◉赤坂進德會の昆蟲部

愛知縣寶飯郡赤坂高等小學校にては、校長田中周平氏監督の下に赤坂進德會なるものを組織し、渥美郡福岡尋常高等小學校の良友會と聯合して良友新誌なるものを發行し、進德會よりは每號昆蟲に關する記事を掲載さるゝ事は、曾て之を報じ置きし處なるが、今左に最近發行の同誌上に於ける昆蟲記事を掲載し、赤坂進德會が如何に昆蟲に就て熱心なるかを紹介すべし。

○赤坂進德會の昆蟲部

コンチユー部のもくてきは、こどもたちが修學のあまりの時間で實業に入用な智德をやしなひ、農作物のしゆーかくをふやすことをはかり、國家のためにつさむるのであります●コンチユーを見た時は、すぐにさらへて教師のをしへをうけるがよい、たゞし地主又は農作人のゆるさぬ田や畑に入ることをばやめなさい●コンチユーをやしなひそだてることもするのであります●昆蟲ひよーほんを作りてほぞんするがよい●害蟲をくじよして益蟲をほごせねばなりませぬ●害蟲くじよの時に田のあぜをふみきり、又はなへをいためなどしてはなりませぬ●せいせきのよしあしをしらべて賞與を行ひます●コンチユーのことを記した文を良友新誌へ出すには、每

號かならず忘らぬことをのぞむ●此のコンチユーのけんきゆーはおもしろくたのしいものでありますから、コンチユーのせいしつを知り、又は害蟲をくじよしたり、益蟲をほごしたりなどの事に付いて、いつとなく發明することが多くあります●もし此の事にはんたいする人が有りとも、それにおそれてやめるのは勇氣のないのでありますから、はんたいする人があらば、なぜ其の人がはんたいするのか、其のわけをよくきいてやり、又こちらの思ふことをもきかせてやり、たがひに其の思ひをのべて、ともに力を合せて、國や家を富ますことをなさねばなりません●赤坂町のきんぼーの町村は、コンチユーをしらべるに最も善き土地でありますから、世界第一のコンチユー部になる事は、すぐには出來ませんでも、勇氣をふるつて永い年月のあひだたゆず行へば、ねんりき岩をもとほすと云ふことわざの如くきつと末には出來るよーになります。つとめよ、はげめ。まだ大切なことが一つあります、それはコンチユーをなぶりごろしにせぬこと、コンチユーを愛することでありますが、害蟲は人の害をするものだから止むを得ずころすのである、其のころすにはなるべくひとおもひにころすがよいです、さて又害蟲か害をするよーになつてからころすよりも、害蟲の發生せぬよーによぼーすることが第一であります、それは、ちよーどやまいにかゝつてからりよーじするよりも、やまひにかゝらぬさきによーじよーする方が善いのと同じわけであります。此の事を行ふには、コンチユーのせいしつをよくよくしらべてをられば出來ませぬ。

●今日飼ひある昆蟲　ヤマヽユ、かしの葉にて養ひ居る●八ノ字ネキリ、豌豆の葉にて養ふ●イボタムシ、いぼたの葉にて養ふ。

●今月成蟲の出たるもの　スヾメ蛾、昨年九月、やまのいもの葉にて養ひ蛹となりしもの。

○蚜蟲（アブラムシ）と其の敵味方

赤坂高四　山杉保一

アブラムシは半翅類にして、其の體小さし、此の蟲は幼時より死するまで一生の間、植物の液を吸ひ終には植物を枯らすことあり此の蟲の味方は蟻なり、蟻は膜翅類にして其の口は、吸ふと、かむとの二つをかね、アブラムシと共同棲息をなすには左の理由あるなり。アブラムシの腹の左右に一對の突起物あり蟻これに觸角を觸るればアブラムシは直に甘露を出す、蟻は之れを吸ひて其の甘味を覺ゆアブラムシは老廢物を出して快きを覺ゆるものなりと云ふ、植物の液不足する時は、蟻はアブラムシを他の植物に運送して移住せしむアブラムシは蟻によりて助けられ蟻はアブラムシによりて幸福を得るなり。此の敵は、テントームシ、クサカゲロー等なり。テントームシは甲翅類にして其品種甚だ多く中にも有名なるは、大テントームシ、七星テントームシ、二星テントームシ、カメノコテントームシ、ヒメカメノコテントームシ等なり、幼時にして能くアブラムシを食ふ、成蟲に至りてもアブラムシを食へど小食となる。クサカゲローは羅翅類に屬し、此の卵は俗に、うどんげと稱し、花の雄蕊の形に似たり、其絲の如き物の末に、小き卵あり之れを見て人間の禍福に關する事と思ひて大に之れを祝する人あり、或は大に之れを悲みて神經病となるが如き人ありと云ふ、是れ迷信なり。此の卵、孵化すれば活潑に樹枝を歩行して、アブラムシを貪り食し、約十日にして食をやめ、其後約四日にして白色の、まろき繭を成し、其中にて蛹となり、後八日ほど過ぎて、成蟲は繭を破りて出づれば又卵を生むなり。此の二者は、アブラムシの敵なるに

より蟻はこれと戰ふことあり。さてアブラムシの敵は人間の味方にして即ち益蟲なれば吾等は此の益蟲を保護せざるべからず。吾等の學校の隣りに正法寺あり其寺の梅樹に是等の蟲甚だ多き故に吾等は常にこれを見ることを得て面白きこと限りなし。

〇同　高三　佐竹準

アブラムシは半翅類にして植物の液を吸ひ其の植物を枯らしなどするものなり。蟻はアブラムシの吸ふもの無き樣になればアブラムシを運びて他の所にて多くふやすなり。又蟻がアブラムシの突起物に觸角をあつれば其尻より甘露を出す、故に蟻はこれを吸ひ取るためにアブラムシの味方となりて其敵なる、テントームシ又は、クサカゲローなどを、ふせぐ、テントームシ、クサカゲロー等はアブラムシを食とす。其多く食ふ時は幼蟲の時なり。テントームシには、品種多くして、大テントームシ、七星テントームシ、二星テントームシ。カメノコテントームシ、ヒメカメノコテントームシなどあり、是れは甲翅類にして、クサカゲローは羅翅類なり。此敵蟲は人間の益蟲なれば保護せざるべからず。

◉一月以來官報紙上に現はれたる害蟲

本年の害蟲發生は頗る多く、從て官報紙上に現はれたる害蟲發生の報告は、從來未だ曾つて見ざるの多數にて、本年一月より六月三十日迄の間に三府一道三十六縣二百八十三件に及び、而して其大半は二化生螟蟲及浮塵子にして、螟蟲は百六十個所、浮塵子は百三十五個所なり。此他發生の種類は稻に螟蛉、切蛆、三化生螟蟲、椿象、象鼻蟲、根食葉蟲、泥負蟲、稻蝨、苞蟲、アカコ。桑樹には尺蠖、シンムシ、姫象鼻蟲、穿孔蟲、桑葉蟲、金龜子、金蛄蟖にして、其他苹果には介殼蟲、巣蟲、葉捲蟲、大小麥に針金蟲。甘藷等に夜盗蟲、蚜蟲等なり。

◉岐阜縣昆蟲學會第六十七回月次會記事

同月次會は例により本月二日午后一時より名和昆蟲研究所内に開會せり、第一席谷てい子氏は草蜻蛉の卵の孵化してより成蟲となる迄の飼育實驗談を述べ其繭を造るには他の昆蟲と異となりて、腹部の末端より糸を出して作ることに就き説明し、第二席森宗太郎氏は岐阜縣西濃各郡に於ける害蟲視察の狀況を報告し、第三席宮崎縣兒玉龜太郎氏は、宮崎縣下既往十年前の害蟲驅除の方法より、卅三年同地方浮塵子發生し、皆無地殆んど二千町歩に亘りし當時の實況を述べ延て今日に至る迄の害蟲驅除豫防の模樣を詳細に口演せられ、其より暫時休憩の後引續き會員の講話あるべき筈の處、俄然天候一變して、大雷雨の爲に妨げられ、午后四時散會を告げたりき

◉害蟲驅除實行明細表と小衣斐區の苗代田驅除成蹟表

岐阜縣揖斐郡にては害蟲驅除勵行の爲、左上部に示せる如き害蟲驅除實行明細表を作り、之を郡内農家各戸に配付して驅除數を記入せしむることとなしたりしが、全部の成蹟はまだ實行中にて之を知るを得ざるも、同郡鶯村小衣斐區に於ては

今回共同苗代を新設し、區農會長長沼利雄氏、驅除委員貞光伊之助氏等專ら驅除を督勵せられたる結果苗代田總坪數三千三十五坪に對し螟卵三萬二千七百四十塊、螟蛾二千四百九十九頭を獲たる由、今其細別表を得たれば參考の爲之を左に掲ぐ。

害蟲驅除實行細明表

揖斐郡　　村大字

苗代田反別

耕作地反別

害蟲名稱	苗代田驅除數量			本田驅除數量		
	第一回	第二回	第三回	第一回	第二回	第三回
螟蟲卵						
螟蟲蛾						
青蟲						
象蟲						
苞蟲						
蝗蟲						
イナゴ卵						
整切白穗拔取						
ウンカ驅除石油使用量						

備考　苗代田耕作田地反別及姓名は各自豫め記入し置く事
驅除又は採集したるときは數量記入の上區長若くは害蟲驅除實行委員の實物點檢を受け本表に認印を受け置くを要す

○小衣斐區苗代田螟蟲驅除一覽表

苗代田坪數	採卵數	苗代一坪に對する採卵數	採卵回數	捕蛾數	驅除者氏名
一二〇坪	四九四	四、一	四	—	立川　國治
一二〇	四四四	三、七	四	—	小森　乙吉
五〇	二六二	五、二	四	—	田中　休作
一二〇	五四六	四、六	四	—	立川　善八
八五	一四八〇	一七、四	六	五四三	貞光伊之介
八五	一二四二	一四、六	五	—	石田　文八
九五	一二六〇	一三、三	五	—	細川　要作
一三五	一〇四九	七、七	五	—	貞光　孝藏
一四八	一二〇一	八、一	四	—	松原　鍬治
一三三	一一四〇	八、六	五	一一四	細川　末治
一四二	一二四二	八、七	四	—	不破松太郎
一六五	一一六〇	七、〇	五	—	村瀬常右衛門
一五一	二二七一	一五、〇	五	—	長沼　こま
二八	五〇	一、八	四	—	長沼　友吉
四〇	一二二七	三〇、七	五	—	下里　文作
九〇	六四〇	七、一	四	—	長沼賢治郎
一五四	四七〇	三、一	四	—	黑田宇三郎
五〇	九六三	一九、三	五	一一三	長沼武八郎
八五	一九二六	二二、七	六	二一二	長沼　要作

苗代田坪數	採卵數	苗代一坪に對する採卵數	採卵回數	捕蛾數	驅除者氏名
七	五〇〇	七一、四	四	—	長沼　秀實
一〇〇	一四〇一	一四、〇	六	八〇一	松原　啓助
一三〇	二六五三	二〇、四	六	三三二	松原　民治
一三八	一二九九	九、四	五	—	不破利三郎
四六	五九三	一二、九	四	—	長沼　ちせ
四五	三九六	八、八	四	三六四	村瀬善三郎
七五	一五九〇	二一、二	五	—	松原　恒吉
一四七	一二九二	八、八	四	—	長沼　音松
一五五	三三八六	二一、九	七	—	細川　豊藏
一一五	五六三	四、九	四	—	細川　秀繁
三〇三五	一三七四〇	一〇、八		二四九九	計

備考、青蟲、蝗蟲等の雜蟲は之を省けり

◎森宗太郎氏の入營　當所助手森宗太郎氏は豫て陸軍豫備役中なりしが、今回召集に應じて某師團に入營せられたれば、何れ征露の餘暇には滿州の昆蟲を送らるゝならん。

◎水曜昆蟲談話會記事　當所內に於て每週水曜日夜間開會の同會の、前號報告後に於ける談話の要項を一括すれば左の如し。

小竹浩氏は昆蟲の同種異名調査談を每會繼續して報告せられ◎名和正氏はセスヂスヾメの飼育談及びアセチリンに來る昆蟲に就て、同氏は每夜アセチリン瓦斯に燈火し、之に集り來る昆蟲を調査せしに、雙翅類に屬するもの最も多く、鱗翅類、甲翅類、膜翅類、羅翅類と順次之に次ぎたりとて、其標本を分類して說明せられたるが、其形の大なるもの、微小なるもの、又中には珍種もありて非常に多數なりき◎名和愛吉氏はオニアブの產卵、チヤバ子ガイダの卵子に就て、及び本巢郡船木村に於ける昆蟲採集談、並びに各種のトンバウの複眼に就て比較研究の結果を圖を以て示し◎小森省作氏は簡便益蟲保護法、及び稻螽科の分類に就て說明し◎棚橋昇氏は忍冬を食する或蛾の寄生蜂の調査、及び昆蟲標本製作法の經驗談◎所嘉吉氏は武儀郡地方の桑樹害蟲シンムシ驅除視察談◎角田伊德氏は處世雜感◎馬淵治郎氏は加茂郡地方桑樹害蟲シンムシ驅除視察談ヨツボシカミキリの飼育、モヽスヾメの卵ミチオシヘの飼育に就て實物を以て說明し◎石田和三郎氏は例に依り、每會近刊雜誌中の昆蟲記事を報告せられ◎森宗太郎氏は縣下各郡の螟蟲驅除の狀況を述べられ◎谷てい氏はモヽスヾメの卵子の孵化前後に於ける觀察、及び鳳蝶の蛹、オホカマキリの飼育研究に就て每會實物を以て說明せられ◎其の他高橋喜男氏の有益なる昆虫飼育談等ありたり。

◎昆蟲標本陳列館の觀覽人　去六月中に當所常設の昆蟲標本陳列館を觀覽せし人員は、總計二千六十七人にして、其內最も多かりしは二十六日に於ける百八十八人、又最も少なかりしは十八日に於ける十七人にして、一日平均七十九人强に當れり。

Rhagastis mongolianus Butler. (Birōdo-suzume)

By K. Nagano.

Forewings olivaceous dark-brown, posteriorly purplish-grey; costa whitish; a black spot on apex; a black discal dot; three or more black lines or dotted lines from dorsum to costa, sometimes indistinct; a black dotted spot near inner angle; basal fringe of dorsum whitish. Hindwings blackish-brown, with ochreous spot near anal angle. Expanse, 53–66mm. Body, olivaceous dark-brown; thorax deeper, yellowish-brown mixed, with white border.

Honsiu, Shikoku, kiusiu. 5–8. Larva pale brown, tinged with pale blue, anterior side yellowish-brown, finely streaked with dark; a blackish dorsal beet, with zigzag fringes, containing a series of yellowish-brown dots; a round brown spot enclosing a black dot encircled with black on 4 segment; 3 and 4 segments swollen and white dotted; blackish-brown subspiracular stripe, with zigzag upper fringe; horn ochreyellow, with bluish: on Vitis vinifera, Cissus japonica, Impatiens Balsamina, Berberis vulgaris; 6–9.

昆蟲世界

(明治三十七年七月十五日發行)　第八卷第八拾參號　(毎月一回十五日發行)

(明治三十年九月十日內務省許可)(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

◉購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

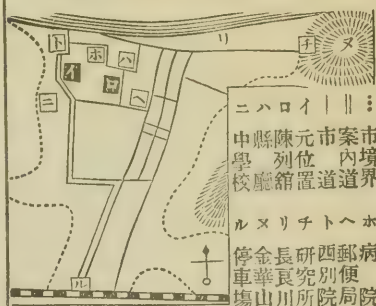
岐阜市公園內　名和昆蟲研究所　昆蟲世界會計部

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市公園內名和昆蟲研究所內に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所內　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し
第六十八回月次會(八月六日)
第六十九回月次會(九月三日)
第七十回月次會(十月一日)
第七十一回月次會(十一月五日)
第七十二回月次會(十二月三日)

：市境界　‖案內道　｜市道　イ元位置　ロ陳列館　ハ縣廳　ニ中學校
ホ病院　ヘ郵便局　ト西別院　チ研究所　リ長良川　ヌ金華山　ル停車場

◉名和昆蟲研究所案內

當昆蟲研究所は從來上圖の如く(イ)の位置にありしが今回當市公園內即ち(チ)の位置に移轉せり、又常設の昆蟲標本陳列館(五間に十八間)は從前の通り岐阜縣物產館構內にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部　郵稅共　金拾錢
壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢
(見本は五厘郵劵貳拾枚にて呈す)

(注意)本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢
三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年七月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戶ノ二(岐阜市公園內)
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戶ノ二
發行者　名和梅吉

同縣揖斐郡鶯村大字公鄕三番戶
編輯者　小森省作

同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

(大垣　西濃印刷株式會社印刷)

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF
"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] AUGUST. 15TH, 1904. [No. 8.

昆蟲世界

第八卷第八册　明治三十七年八月十五日發行　第八拾四號

(明治卅年九月十四日第三種郵便物認可)

目次　(禁轉載)

(每月一回十五日發行)

名和昆蟲研究所發行

◉出版廣告

名和日本昆蟲圖說　第一卷

◉鱗翅目 天蛾科 ▲出版期日 九月十日▲紙幅 竪一尺二寸五分横八寸五分▲紙質 舶來洋紙上質▲頁數 本文五十八頁▲圖版 五葉實物大着色石版十八度刷▲定價 金五圓▲小包料金拾錢

本圖説出版の事は既に豫告し置きたる所なるが愈々來九月十日を以て出版し得るの運びとなりたり抑も本圖説は日本産天蛾類三十四種を成蟲、幼蟲蛹の形態より出現の時期、嗜食植物、分布其他に注意すべき要件に就き和英兩文を以て詳細記述せるものにして、特に之に伴へる圖版は各成蟲、幼蟲、蛹共彩色刷實物大に表はしたるものにして、而して其印刷上の苦心は實に容易ならざるものにて、當所の書工が昨年八月以來滿一ケ年有餘の間專ら他事を抛ちて寫生し、斯業に最も熟練なる西濃印刷會社が之に當り、原料の精撰は勿論、勞力と時間を惜まざれば、其精巧なること本邦に於ける精密なる昆蟲圖版の嚆矢とも稱すべく、之を歐米諸國に示すも決して遜色なきを信ずるなり。されば本圖版印刷の始め西濃印刷會社が僅か其二葉を五二會品評會に出品して銀賞牌を得たるを以て見るも如何に其精巧なるかを證するに足るべし。本圖説の体裁はプライアー氏日本蝶譜のそれの如きも、稍大にして、記載の親切と、圖版の精巧なるは、到底同日の論にあらざるなり。

發行所　岐阜市公園内　**名和昆蟲研究所**

◉本所擴張寄附金品募集廣告

本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園内にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定りたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より教室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へとんす然れ共資力と固り限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは衷心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

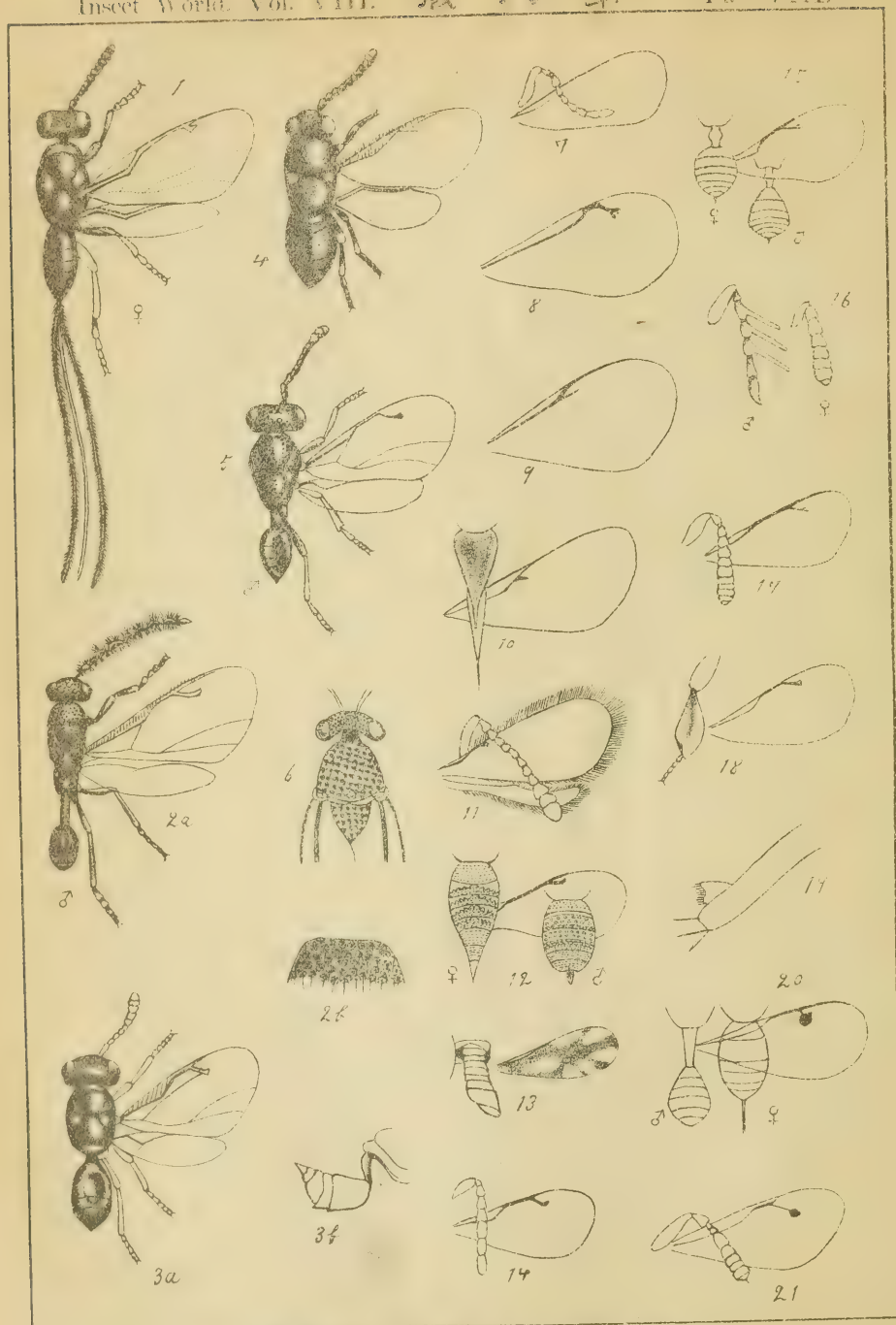
明治卅七年三月　岐阜市　**名和昆蟲研究所**

大方諸君

小卵蜂兩科諸屬索引表附圖

昆蟲世界　第八拾四號

（明治三十七年第八月）

赤蜻蛉
筑波に雲も
なかりけり
（子規）

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其十二）（第七版圖參看）

名和昆蟲研究所内　小竹　浩

（一三）　雌雄淘汰

動物の種族は自然淘汰の理法によりて生存するものにして、漸次外界の情態に伴ひ其形質に變化を起すことは前號自然淘汰の條に於て述べしが、昆蟲類には此自然淘汰の爲めに變化を來す外尙雌雄の關係によりても大に變化するものなり。昆蟲類の多くは雌蟲に比し雄蟲の數常に甚だ多く、隨て雄蟲は悉く配者を得る能はざれば、夫れが爲め勢ひ同種類の間に競爭の起らざるを得ず、其結果特殊の形態器能を具ふるもの先づ勝を占め益々繁殖す。かゝる必要より從て變化し、漸次進化發達して遂に殆んど別種と怪まるゝ迄に變化したるもの其例に乏しからず、之れを雌雄淘汰といふ。スズムシ、マツムシの雄蟲が美聲を弄するが如き、ジヤカウアゲハの雄蟲が芳香を放つ如き、カハイトトンバウの雄蟲が甚美麗に翅を彩らるゝ如き、ヒゲコガ子の雄蟲は非常に發達したる觸角を有する如き、カブトムシの雄蟲は頭胸部に兜に類似せる角を有する如き、是れ皆雌雄の關係によりて變化したる結果に外ならず。

（一五八）メスグロヘウモンテフ（Argynnis sagana, Doubl.）　鱗翅類蛺蝶科に屬する一種にして、雄は

翅色橙黄色に、前翅には外緣に並行して二列に黑色紋を、其内方に六個の黑色紋あり。特殊鱗は第一、第二、第三の三個翅脉上に存す、后翅は中央に雲狀紋と、外緣に並行して二列の黑色圓紋を有す。雌は翅色黑色にして、前翅は中央に二個、前緣角に近き處に數個の白色紋あり。后翅は中央に白色の横帶と外緣に並行して一列の白点と、二列の黑紋とを幽かに認むべし。該蟲は雌雄により翅色紋理甚しく異なるを以て、長く別種として知られたり。之れ雌雄淘汰の理によりて變化せしものならん。

（一五九）コムラサキテフ（Apatura ilia, Hiibn.）　前種と同科に配する種にして、幼蟲は柳等に發生し体綠色にして頭背に二本の長き叉狀の突起あり、腹端細くなりて二本の角狀突起となる。成蟲は翅の開張二寸三分乃至二寸五分の美麗の種にして、后翅の外緣は波狀の凸凹あり、前翅にも多少の凸凹あり翅色暗褐色にして前翅は外緣に沿ふて黄褐色の帶あり、前緣に近き處に二個乃至三個の白紋と、内部に四簇の黄褐色紋あり。後翅は中央に彎曲したる黄褐色帶と、外緣に沿ふたる同色帶ありて、其間に一個の眼紋を有す。雄にありては紫色の光澤を放ち甚だ美麗なれども、雌には之れを欠く。是れ雌雄淘汰の結果により、雄蟲の翅色に變化の起りたるものなり。

（一六〇）フヂグロアヲツバメテフ（Zephyrus taxila, Brem.）　小灰蝶科に屬するものにして、翅の開張一寸三分乃至一寸四分内外の小形種なり。雄は前后翅共に青藍色にして周緣巾狹く暗色を匝らす。雌は四翅共に茶褐色にして、前翅に紫色部あり、雌雄共に后翅に燕尾を有す。此の種も亦雌雄により其彩色甚しく異なりて到底別種の感なき能はざるは、雌雄淘汰の結果に外ならず。（本誌第七十二號參看）

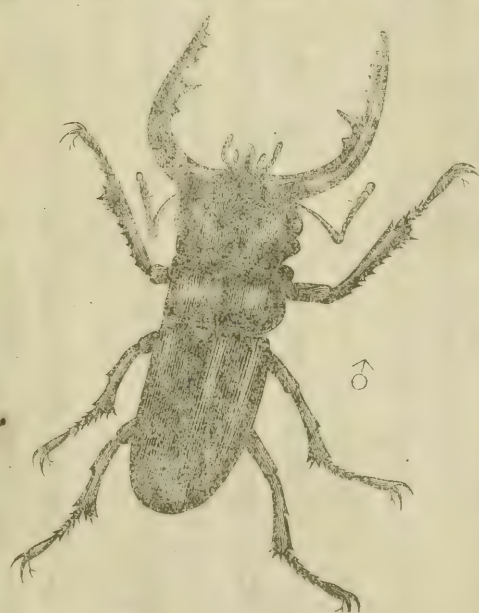
（一六一）ジヤカウアゲハ（Papilio alcinous, Klug.）　鳳蝶科に屬する普通種にして、幼蟲は馬兜鈴を食する極めて美しき種なり。發生の期節により成蟲の色澤大小に差あれども、雄は翅色黑色にして后翅の

裏面には數個の赤紋ありて表面より幽に認め得べし。体の側面には赤き斑紋を有す。雌は翅色灰色を呈し、裏面の斑紋は黃色を帶び表面より明に認め得べく、體側の模樣亦黃色なり。此種は雄蟲の翅より一種の香氣を放つは到底人造麝香の及ぶ處にあらず。

(一六二)コジャノメテフ(Mycalesis perdiceas, Hew.)　環紋蝶科に屬する一種にして、翅の開張一寸六分乃至一寸八分を算す。翅色暗色にして前翅の表面には大小三個、后翅に一個乃至三個の環紋を有す。裏面は內半と外半とは着色を異にし、前翅に三個、后翅に七個づゝの環紋あり、半經脉、肘脉、臂脉上に特殊鱗を有し、雄は尙其他後翅に一簇の長毛を有す。以上二種は雌雄淘汰の結果により雄蟲の翅より芳香を放つものなり。

ノコギリムシの雄蟲の圖

(一六三)シャーシャーゼミ(Cryptotympana pustulata, Fabricius.)　有吻類蟬科に隸する大形種にしてクマゼミと改稱せし種なり。翅の開張四寸餘、全体黑色にして胸腹部の間に白粉を覆ふ。翅は前後共に透明にして斑点なく、翅底は時褐色を帶ぶ。雄蟲は腹部に發聲器を有し、シャーシャーと大聲に鳴聲を出だす。(本誌第三號參看)

(一六四)チキイナゴ(Gn.? sp.?)　直翅類稻蝗科に屬し、體長雄は八分、雌は一寸一分內外にして頭部の下面斜狀をなし、複眼卵形に、觸角稍劍狀をなす、體

細長く、翅短かく、雌にありては著しく退化して飛翔の用をなさず、僅に聽器を覆ふ。雄は稍長けれども尙腹端を露出す。此の雄蟲は前翅と後肢とを摩擦して音聲を發す。以上二種は雌雄淘汰の結果により音聲に淘汰を起したるなり。

ノコギリムシの雌蟲の圖

(一六五)ノコギリムシ(Cladognathus inclinatus, Motsch.)　甲翅類鍬形蟲科に屬し、雌雄によりて大小形狀大に異なり、雌は體長普通九分內外なれども、雄にありては一寸四五分を算す。雄は頭部大きく、上顎長く延びて一寸余に達して彎曲し、其內方に刺を有して鋸齒狀をなす。體黑くして赤褐色の光澤あり。前肢の脛節は稍扁にして太き刺を有し、爪は長く彎曲し一見實に勇壯の狀あり。雌は體の小なるのみならず、顎は發達せず、一見別種の感あり。該蟲は雌雄淘汰により、鬪爭の爲め雄蟲の顎に非常の變化を來せるものなり。

(一六六)カブトムシ(Xylotrupes dichotomus, L.)　甲翅類金龜子科に屬し、體肥大にして雄は頭部に長き兜狀の角と胸背に稍短き一本の角を有す。雌は雄蟲に比すれば體小にして頭胸部に雄の如き長き突起を有せず、僅に三個の小突起あるのみ。幼蟲は塵芥中にありて有機物を食す。該蟲は威嚇的粧飾に變化を起したるものなり。

(一六七)ヒゲナガバチ(Melissodes bimaculatus?)　膜翅類蜜蜂科に屬し、翅の開張八分乃至八分五厘、頭胸部には軟毛を密生す。腹部は圓く各節の後緣に短毛を生じ、後肢の脛節には軟毛を叢生す、該蟲は地中に穴を穿ちて巢を造り、幼蟲を花粉にて養育す。雄蟲は嗅覺の發達したる爲め觸角特に長し。

(一六八)ホタルガ(Pidorus atratus, Butl.)　鱗翅類赤頭蛾科に屬し、翅の開張一寸五分乃至一寸七分大

の種にして、翅色暗褐色に、前翅には一條の白色帯あり、頸部赤色を帶び螢の如きを以てこの稱あり。觸角羽狀にして紫色の光澤あり、雌雄により觸角に大小の差甚し。

ヒゲコメツキの圖
(イ)は雄蟲(ロ)は其雌蟲の頭部

(一六九)ヒゲコメツキ(Pectocera fortunei, Cand.)　甲翅類叩頭蟲科に屬し、頭部小さく、前胸長くして其後緣の兩端尖り、胸部稍廣く、腹端に至るに從ひ巾狹く先端殆んど尖れり。全体赤褐色にして灰白色の微斑あり、雌は其觸角鋸齒狀をなせども、雄にありては櫛齒狀をなして立派なり。

(一七〇)コフキコガ子(Melolontha japonica, Burm.)　甲翅類金龜子科に屬し、體色鳶色にして翅鞘には數條の隆條あり、全體灰白色粉を覆ふ、之れこの稱ある所以なり。翅長からず腹端を露出し、雄の觸角は先端の七節鰓葉狀にして、雌の觸角は甚小なり。以上四種は皆嗅覺に變化を起したるものなり。

(一七一)キテフ(Terias hecabe, L.)　鱗翅類粉蝶科に屬する最も普通の種にして、發生時期により大小色澤等に差異を生ず。春期發生のものは全體黃黃なれども、夏期のものは翅端に黑色を帶ぶ。其極端と極端とを比すれば到底同種と見る能はず、而して雄は色稍濃し。(本誌第廿九號參看)

(一七二)ベニシヾミテフ(Chrysophanus phlaeas, L.)　小灰蝶科に屬する赤色の美麗種にして、發生時期により色澤に變化あり、前翅は紅色にして八九個の黑點を散在し、外緣部は稍巾廣く暗褐色を帶ぶ。後翅は暗褐色にして外緣部に紅色の凸凹帶あり、夏期に發生するものは春生のものに比し色濃し。

如上記述せし如く、昆蟲類は自然の淘汰により、若くは雌雄淘汰の結果大に彩色形狀等に變化を起すも

のなれども、尙氣候の爲めに翅色に變化を起すものなり、之れを氣候變形といふ。（一七一）乃至（一七二）は此の氣候變形の一例を示したるものなり。

◎訂正增補本邦産天蛾類目錄

長野菊次郎

本誌第七拾七號に於て公にしたる本邦産天蛾類の目錄は、舊來の配列に從ひ其學名も舊來の名を慣用したるが、著者の杜選なりしと印刷に非常の誤謬を生したりしは實に赧顏に堪へざる次第なりき。幸にロスチャイルド氏の懇切に敎示せらるゝ所あり、三宅恒方氏の動物學雜誌上に於て其誤を示さゝるありしは、實に余の感謝に堪へざる所なり。然り而して余の研鑽未だ不十分なる今日に於ては、世界の天蛾類につき精査せられて K. Jordan氏と共にA Revision of the Lepidopterous Family, Sphingidae を著はされたるH. W. Rothschild氏の所見に從ふを適當なりと信ずるにより、再び之が訂正增補の目錄を掲ぐる所以なり、蓋し、邦産天蛾類の總目錄に就ては、三宅氏既に動物學雜誌第百八十八號に於て之を公にせられたれば、重複の嫌なきにあらねども、本誌を讀みて動物學雜誌を見ざる人なきにしもあらざるべきを慮り、特に杜選のものに對して之が訂正をなすは記者の責任なるにより、再び本誌の貴重なる紙面を借ることゝなりぬ。括弧內の數字は前目錄の番號にして、二三の數字あるはロ氏によりて合併せられたるものなり。＊印あるは九月出版の名和昆蟲圖說第一卷に記載の種なり。

Revised List of Japanese Sphingidae, according to W. Rothschild.

By K. Nagano.

1. Herse convolvuli Linn. (15)*エビガラスズメ
2. Acherontia styx Moor. var. crathis Rothschild. (12)*メンガタスズメ
3. Psilogramma menephron Gramer. var increta walker. (15)*シモフリスズメ
4. Hyloicus ligustri Linn. var. constricta Butler. (14)エビガラウスベニスズメ(新稱)
5. Hyloicus crassistrigia Rothschild.
6. Hyloicus pinastri Linn. var. morio Rothschild.
7. Hyloicus caligineus Butler.(13)*クロスズメ
8. Dolbina exacta Staud.
9. Dolbina tancrei Staud. *サザナミスズメ(新稱)
10. Kentochrysalis consimilis Rothschild.
11. Oxyambulyx schauffelbergeri Brem. et Grey. (18)
12. Oxyambulyx ochracea Butler. (17)*ホソバスズメ
13. Oxyambulyx japonica Rothschild.
14. Clanis bilineata Walker. (11)*トビイロスズメ
15. Leucophlebia lineata Westwood.
16. Marumba gaschkewitschi Brem. et Grey. var echephron Boisd. (5)(6)(7)*モモスズメ
17. Marumba sperchius Mén. (4)*クチバスズメ
18. Langia zenzeroides Moore. var. Nawae Rothschild. (9)*オホシモフリスズメ
19. Parum colligata Walker. (10)*ギンボシスズメ
20. Mimas tiliae Linn. var. Christophi Staud. (3)*ヒサゴスズメ
21. Calambulyx tatarinovii Brem et Grey. (2)*ウンモンスズメ
22. Sphinx planus Walker. (1)*ウチスズメ
23. Phyllosphingia dissimilis Brem. et Grey. (8)*エゾスズメ
24. Haemorrhagia radians Walker (41)*スキバホウジャク
25. Haemorrhagia fuciformis L. var. affinis Brem. forma affinis Brem. (40)*クロスカシバ
Haemorrhagia fuciformis L. forma alternata But. (42)
26. Cephonodes xanthus Roth リウキウスカシバ
27. Cephonodes hylas Linn. (39)*オホスカシバ
28. Ampelophaga rubiginosa Brem. et Grey.

(19)(34)*クルマスズメ

29. Ascomeryx naga Moore (33)

30. Ascomerx castanea Roth. (32)*クロクモスズメ

31. Gurelca masuriensis But. var. Sangaica But. (35)*ヒメホウジヤク

32. Macroglossum bombylans Boisd. (37)*ヒメクロホウジヤク

33. Macroglossum stellatarum Linn. (38)*ホウジヤク

34. Macroglossum belis Linn.

35. Macroglossum pyrrhosticta Butler.

36. Macroglossum insipida But. var. poecilus Rotuschild.

37. Macroglossum mediovitta Rothschild

38. Macroglossum saga Butler(36)*クロホウジヤク

39. Macroglossum Fritzei Rothschild

40. Macroglossum corythus walk. var. platyxanthus Roth.

41. Macroglossum Passalus Drury.

42. Rhopalopsyche nycteris Kollar.

43. Celerio galii Rott. (20)*イブキスズメ

44. Celerio lineata Fabricius. var. livornica Esper.

45. Pergesa elpenor L. var. Lewisi Butler. (26)*ベニスズメ

46. Pergesa askoldensis Oberthür. (21)*ヒメスズメ

47. Hippotion velox Fabricius.

48 Theretra nessus Drury. (25)*キイロスズメ(改稱)

從來スズメテフ又はスズメガの和名ありしも和名の整理上改稱したり

49. Theretra clotho Drury.

50. Theretra alecto Linn. *シタベニスズメ

51 Theretra japonica Boisd (27)*コスズメ

52 Theretra Oldenlandiae. Fabricius (28)(31)*セスヂスズメ

53 Theretra pinastrina Mart (29)*イツポンセスヂスズメ

54 Rhagastis mongolianus Butler. (23)*ビロウドスズメ

55. Cechenena minor Butler *タカサゴスズメ(新稱)

第七十七號目錄中の(24)と(28)とは削除す

◎第一回岐阜縣昆蟲分布調査（九）

名和昆蟲研究所分布調査主任　小森省作

螽蟖科(Locustidae)、觸角は體よりも長く、雄蟲の右前翅の基部に透明なる發音鏡ありて左前翅と相摩擦して一種の美聲を發す、各肢の脛節には短刺を有し、前肢の脛節に聽器を有す。後肢は長くしてよく跳躍に適し、跗節は四節なり。雌蟲の産卵器は長く劍狀をなす。今回の調査に集りしもの十九種にして、今左に之を畧說するも、多くは乾燥標本に就ての記載なれば、其誤謬あるは免るべからざれば讀者之を諒せよ。

(一一二)クダマキモドキ(Holochlora brevifissa, Brunner.)　體長雄は八九分、雌は一寸一二分、全體綠色にして、頭頂は微に尖るも突出せず、複眼は少しく楕圓形にして、觸角は褐色にして長さ二寸八九分基節は綠色を呈して膨大す。前胸片の背面に屬する部は狹くして後方圓く伸長し、側面は垂直す。前胸板には刺を有せず。前翅は幅廣く、長さ雄は一寸二分乃至一寸四分、雌は一寸七分乃至一寸九分内外、後翅は前翅より長く後方に出づ。産卵器は幅廣く、長さ三分、上方に曲れり。縣下十一郡に於て獲られたり。

(一一三)ヒメクダマキモドキ(Phaneroptera nigo-antennata, Brunner.)一名ツユムシ　綠色と褐色との二形あり、體長五六分、觸角の長さ雄は二寸一分、雌は一寸九分、頭胸部は狹く側面殆んど垂直をなし頭頂は前種に等しく、前胸板には刺を有せず。前翅の長さ八分、後翅は一寸内外。綠色種の雄蟲は頭胸部の背面より翅尖に亘り暗褐色の條斑を有し、褐色種の前翅には不判明なる濃色の斑點列を有す。産卵器は長さ二分形前種に等し、海津及安八の二郡を除き一市十六郡に於て多數獲られたり。

(一一四)クツワムシ(Mecopoda elongata, L.)　體長一寸一分内外、綠色と褐色との二形あり、顏面殆ん

と垂直にして、複眼卵形をなし頭頂は尖らず、前胸片の背面は平濶にして前方狹く、後方圓き弓形の三板よりなり、側面は殆んど垂直にして小さく、不判明なる横溝を有す。前胸板には二個の鋭刺あり。前翅は幅廣くして雄は五分長さ一寸二三分、雌は幅四分長さ一寸六分內外あり。後翅は前翅より僅に廣く膜質にして先端尖れり。雌蟲の産卵器は長さ一寸斜に上方に向へり。八郡に於て獲られたり。

（一一五）ウマオヒムシ(Locusta plantaris, De Haan.)　體長雄は六七分、雌は八分內外あり、全體綠色にして、複眼圓く黒色を呈し、頭頂は細く尖り、前胸片は横に不判明なる溝を有し、後緣は斜に後方に向ひて背面の後方は廣く、頭胸部の背面は褐色を呈す。前翅は廣く、雄は幅三分長八九分、發音部は兩側に褐色の隆條ありて上面平たく異樣に發達す。雌の前翅は稍狹し。前中二肢の脛節の刺は長く、雌蟲の産卵器は四分內外少しく上方に曲る。岐阜、海津及安八を除き十六郡に於て獲られたり。

（一一六）クサキリ(Conocephalus fuscipes, Redt.)　體長一寸一分內外、綠色と褐色との二形あり、頭部圓錐形にして頭頂は甚しく尖らず、顏面斜に、觸角の長さ一寸九分、複眼圓形にして、前胸片は前方稍狹く、後緣は圓き三個の凸片となり　倒凸字形をなし、背部は平たく、其兩側多少角をなす。前胸板には長き二刺あり。前翅は長さ一寸二三分、後翅は一寸一二分、狹くして先端次第に細まり、雌蟲の産卵器は長さ八分五厘濶からずして平直なり。岐阜、郡上、及安八の一市二郡を除き各郡にて多數獲れたり。

（一一七）ツユムシ(Conocephalus Thunburgi, Stal.)一名クビキリバッタ　體長一寸一分乃至一寸五分、綠色と褐色との二形あり、頭部は圓錐形にして斜に上方に向ひ、頭頂は稍三角形をなして著しく突出し、其下面觸角の基部に於て半切れ込み、複眼は少しく卵形をなし、前胸片は前種の如くにして側緣に稍隆起條を有し、前胸板には刺を有す。前翅は狹くして長さ一寸五分乃至一寸八分、後翅は稍短かし。

腹部の背面中央縱に暗褐色の條斑あり、産卵器は長さ七分、餘り廣からず平直にしてよく尖る。四郡に於て獲られたり。

（一一八）カヤキリ（Conocephalus acuminatus? Fabr.）　體長一寸五六分、全體綠色の大形種にして、頭部は圓錐形をなし、頭頂は突出して先端鋭く尖る。觸角は長さ二寸四分綠色にして外方は黑色を呈し、複眼は圓形なり。前胸片は廣大にして背面の兩側角は褐色を呈し、前胸板には二本の長刺を有す。前翅は長さ一寸六七分、後翅は稍短かし。後肢は比較的發達せず。産卵器は長さ一寸一分平直にして幅一分二厘あり。加茂、大野の二郡にて獲られたり。

（一一九）ヒサゴクサキリ（Conocephalus? sp.?）　全體褐色にして幽かに藍色の斑紋を密布し、體形及大さクサキリに似たり。頭部は圓錐形にして頭頂頗る尖り、顏面斜にして藍色の山字形斑を有す。觸角の長さ三寸、前胸片の形クサキリの如くなれど後緣の背部は邊緣截りたるが如く、前胸板には刺を有し、前翅は長さ一寸二三分にして先端狹まらず不判明なる黑褐色の斑點を撒布し、産卵器は長さ六分五厘上方平直なるも下方彎曲し薙刀形をなす。此種は頭胸部の背面に暗褐色の瓢形斑紋あるを以て此新稱を附せり。此回の調査に羽島郡笠田小學校四學年田中亮二、揖斐郡大野小學校高等二學年小里健治郎、本巣郡席田小學校四學年堀口一郎の三氏により始めて採集せられしものなり。

（一二〇）ササキリ（Xiphidium melanum, De Haan.）　體長六分內外の小形種にして頭部は少しく膨大し、頭頂は顆粒狀に尖る。顏面は斜に、觸角は糸狀にして長く二寸七八分ありて基部は大きく、複眼は圓く比較的大なり。前胸片は幅廣く、其側緣は尖

ササキリの圖

りて側部三角形をなし、前胸板には刺を有す。翅を疊みたるときは頭胸部より翅に亘りて背面褐色を帶び、其兩側は黑褐色を呈す。前翅は狹く長さ五分内外、後翅は前翅より少しく長く前翅の後方に出づ。顏面及體の腹部及側部幷に腿節は綠色を呈し、脛節は淡褐色、跗節及後肢脛節の關節部は黑褐色を呈す産卵器は長さ二分五厘少しく上方に曲る。四郡に於て獲られたり。

（一二一）ヒゲナガサヽキリ（Xiphidium longicorne, Redt.）　體長六七分、前種と殆んど同形にして頭部及複眼は前種より稍小さく、頭頂は顆粒狀に尖り、觸角の長さ三寸一分基節膨大し、前胸片は稍長く、前胸板には刺を有す。前翅は帶綠淡褐色にして狹く長さ三四分、後翅は稍長くして先端少しく前翅の後方に出づ肢及體は綠色にして頭頂より腹部の末端に亘り背面に褐色の條帶あり。雌蟲の産卵器は平直にして長さ八分あり。八郡に於て獲られたり。

（一二二）ハチナガサヽキリ（Xiphidium longipenne, De Haan.）　體長五分乃至七分、全體綠色にして頭頂は鋭く尖り、觸角の長二寸二分にして基節著しく膨大し、頭胸部の背面縱に綠色又は淡褐色を包める暗褐色の斑紋あり。前胸板には刺を有す。前翅は狹く長さ六七分、淡綠色を呈して後緣部淡褐色を帶ぶ。後翅は前翅より一二分長くして少しく紅色を帶び前緣は綠色を呈す。腹部の背面は褐色を呈し、産卵器は短かく長さ二分内外なり。四郡に於て獲られたり。

（一二三）ヒメサヽキリ（Xiphidium sp.?）　體長四分内外、頭頂は顆粒狀に尖り、前胸板は刺を有せり前翅は狹く長さ五分内外、褐色を呈し、脉に沿ふて中央基部に暗褐色の斑點列あり。後翅は濶くして稍長し。全體綠色にして頭胸部より腹部の末端に亘り背面褐色を呈す。産卵器は長さ二分五厘平直なり。八郡に於て獲られたり。

（一二四）ミドリササキリ（Tetratura monstrosa, Redt.）　體長四分內外の小形種にして、頭頂の突出微かにして尖り、其稍下方兩側に二瓣を有す。觸角は長くして基節膨大し、前胸片は縱に長くして後緣及側緣は圓く、前胸板には刺を有せず。前翅は頗る狹く長さ五分內外淡綠色に暗褐色の微細なる斑點を有し、後翅は前翅より長きこと一分內外、濶くして翅端截りたるが如く角まる。雌蟲の產卵器は長さ二分五厘細くして稍上方に曲る（雄蟲の尾節板Cercusは異形をなすも完全なる標本なき爲め他日採集の上記載すべし）五郡にて獲られたり。

（一二五）キリギリス（Gomphoscelis mikado, Burr.）　體長一寸二三分、頭頂は稍圓く、觸角の長一寸八九分、前胸片は大きく背面後方に伸長して中胸を覆ひ、前胸板には刺を有す。前翅は腹部と殆んど同長にして長さ九分五厘綠色に黑褐色の斑紋及脈條を有し邊緣部は褐色を呈す。後翅は六分五厘透明にして脈は黑褐色なり。頭胸部の背面は普通褐色なれども、綠色なるあり又は兩色相交るありて一樣ならず。腹部及肢も亦其彩色一樣ならず。產卵器は長さ八分殆んど平直にして先端少しく下方に向ひて尖る一市十四郡に於て獲られたり。

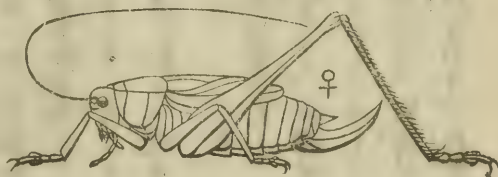
（一二六）ヤブキリギリス（Locusta japonica, Brunner.）　體長一寸一分內外、全體の地色は綠色にして頭頂は稍尖り、顏面殆んど垂直なり。觸角の長さ二寸五六分、前胸片及前胸板は前種に等しく、前翅は長さ一寸一分綠色にして翅を疊みたるとき背面に當れる部は褐色を呈し、後翅は長さ一寸にして少しく淡褐色を帶ぶ。肢は綠色に少しく黃色を帶び褐色の細點を密布し、腿節及脛節には短刺を有す。腹部は背面頭胸部の背面より腹端に亘りて幅廣く褐色の條斑あり、腹面には兩側に黃白色の二條を有す。產卵器は長さ一寸平直にして先端尖る。六郡に於て獲られたり。

(一二七)イブキキリギリス(Decticus japonicus, Boliv.)　體長八分五厘、形キリギリスに似て黑褐色を呈し、觸角の長さ一寸三分、頭は圓く、前胸片の後縁は斜に截形狀をなし、前胸板には刺を有せず。前翅は長さ五分、腹部の後半を露出し、後翅は長さ二三分、共に褐色を呈す。頭、胸、腹部の背面、後肢腿節の後半及脛節は色稍淡く褐色を呈す。雌蟲の産卵器は長さ三分五厘、濃黑褐色にして少しく上方に曲る。大野、益田の二郡に於て獲られたり。

イブキキリギリスの圖

♀

(一二八)コホロギヌ(Gryllacris sp.?)　體長九分内外、全體綠色にして、顏面平たく頭頂は圓く、複眼は稍楕圓形にして觸角の長さ三寸七分あり。前胸片は稍六角形をなして後方は中胸部を覆はず、前胸板には刺を有せず。前翅は膜質にして長さ九分、幅三分、後方は褐色を呈し、翅を疊みたる時は恰も上翅を除きたるが如く見ゆ。後翅は前翅より僅に長く幅頗る廣くして殆んど正三角形をなす。肢は各肢共殆んど同形にして太く發達し、聽器を缺き、前中脛節の刺は長し。腹部の末端に二個の尾狀突起ありて、産卵器は幅狹く上方に向ひて稍曲り、長さ八九分あり。養老郡に於て獲られたり。

(一二九)エビコホロギス(Gn.? sp.?)　體長雄は五分内外、雌は六七分、觸角の長三寸、全體綠色を呈し、頭胸部の形狀前種に等しく、前胸板には刺を有せず。翅は全く之を缺き、肢は又前種の如く殆んど同長にして太く、聽器を缺き、後肢腿節の基部は稍膨大し、雄蟲の尾節板は大きく、中央折れて垂下し恰も尾端に三角形の蓋をなしたる如く、其三角片の下部兩端には鈎狀の棘を有し中央には微粒突起を有す。雌蟲の産卵器は二分五厘内外上方に曲れり。大野郡に於て一頭獲られたり。

(一三〇)エビコホロギ(Diestrammena marmoratus, Brun.)一名オカマコホロギ　全體褐色に黑褐色の斑紋を有し、頭部は大きく卵形をなし、觸角は頗る長く、小顋鬚は又長く四節よりなりて末節は第三節より長くして先端に孔を有し、前胸片は後縁圓くして中胸部を覆はず、前胸板には刺なし。體は弓形に彎曲して腹部の末端に二本の長き尾狀物を有し、產卵器は長さ三四分少しく上方に曲り、肢は頗る長く、聽器を缺き、各腿節端に二個、脛節端に大小四個の刺を有し、後肢腿節の基部に膨大せり。十五郡に於て獲られたり。

以上十九種の採集郡別及頭數を表出すれば即ち左の如し。但し、△印は十頭以上

番號	種名	岐阜市	稲葉郡	羽島郡	海津郡	養老郡	不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	山縣郡	武儀郡	郡上郡	加茂郡	可兒郡	土岐郡	惠那郡	大野郡	益田郡	吉城郡
一一二、	クダマキモドキ	|	一	三	|	二	一	○	二	|	一	一	|	五	一	二	|	|	|	一
一一三、	ヒメクダマキモドキ	一	△	四	|	三	△	○	五	二	三	△	四	△	九	△	△	一	二	四
一一四、	クツワムシ	|	|	△	|	|	二	○	一	|	三	二	|	五	一	|	二	|	|	|
一一五、	ウマオヒマシ	|	九	△	|	一	三	○	一	一	一	六	一	三	六	五	九	二	一	一
一一六、	クサキリ	|	九	八	四	△	△	○	四	二	二	△	|	△	△	△	△	△	八	△
一一七、	ツユムシ	|	|	一	二	一	|	○	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|
一一八、	カヤキリ	|	|	|	|	|	|	○	|	|	|	|	|	一	|	|	|	一	|	|
一一九、	ヒサゴクサキリ	|	|	一	|	|	|	○	一	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一二〇、	ササキリ	|	|	|	|	三	一	○	|	|	一	二	|	|	|	|	|	|	|	|
一二一、	ヒゲナガササキリ	|	|	|	|	|	一	○	|	|	一	|	|	二	四	|	五	一	三	一
一二二、	ハ子ナガササキリ	|	一	|	二	|	|	○	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	一
一二三、	ヒメササキリ	|	一	二	|	|	|	○	一	|	|	三	|	一	一	一	二	|	|	|
一二四、	ミドリササキリ	|	|	|	|	|	|	○	|	|	|	一	|	一	一	|	一	|	|	一

一二五、キリギリス	一	｜	二	｜	四	三	〇	四	一	｜	一	一	二	一	二	二	二	二	二
一二六、ヤブキリギリス	｜	三	｜	｜	一	一	〇	｜	一	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	二	｜
一二七、イブキキリギリス	｜	｜	｜	｜	｜	｜	〇	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	二	｜
一二八、コホロギス	｜	｜	｜	｜	一	｜	〇	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
一二九、エビコホロギス	｜	｜	｜	｜	｜	｜	〇	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	｜
一三〇、エビコホロギ	｜	三	△	七	一	三	〇	｜	二	二	四	｜	四	五	五	三	四	一	五

糸つけて
ふりまはさるる
蜻蛉かな
（子規）

◎裝飾と昆蟲との關係

工學士　武田五一

本篇は、京都高等工藝學校教授工學士武田五一氏が當所へ立寄られし際、恰も水曜昆蟲談話會なりければ、同氏に一場の講話を乞ひ、それを筆記したるものにして、素より不完全なる筆記なれば、誤謬の點、文章の拙にして口調の言ひ及ばざるは、一に記者の責任にあり（所末　石田和三郎筆記）。

私は東北地方へ或研究の爲めに參りまして、其歸途茲を通りかゝりましたから、一寸立寄りました所が今晩は幸に水曜昆蟲談話會であるから私にも何か一席昆蟲に關する話をせよと名和先生より不意打を食はせられたれども、私は昆蟲と云ふ事には無經驗であり且つ又腹案もありませぬから、自分の專門の事で裝飾と昆蟲の關係に就て二十分間許り話しませう。

御承知の通り、私の仕事としては裝飾と云ふ事に就きて研究して居るのでありますが、凡て物は實用のみにてはいかない、實用以外になるべく美と云ふ事にも力を入れて人の能く目に留りやすく、所謂飾りがなければゆかぬので、我々は其の樣なことを研究してをります。又私は子供の時から岐阜に居りまして、中學校へ行きました頃は御當所の名和さんに昆蟲の事をも御敎授に預り、彼の有名なる夜叉が池を始め、伊吹山等へも登りて一所に昆蟲を採りに行つた事もありました。

其れから今日我々の専門に研究をして居る裝飾と云ふ事に就きましても、昆蟲と少なからぬ關係がある即ち裝飾其物は第一は色で、どんなものでも色のよきものでなければならぬ。第二は色がいくら能くても形がわるくては見惡きものである。然らば其色は何から出すかと云ふに、第一は天然物から出し、第二は歷史上より研究して行く事で、即ち歷史的の研究は今より以前八千年以來用ひ來りし色に就て研究をし之を用ひて使ふものであります。最も面白き裝飾的研究は即ち天然にこすものはない。凡そ天然物は其土地其土地に於て變化があり、其變化の妙を應用して研究するは尤もよい、故に昆蟲の如きは最も適して居る。其中でも第一番に昆蟲がよいのである。特に蝶類の如き種々變化ありて美麗なる彩色を有するものがよい。是等の彩色は蝶類自身にはなにも意旨ありて變化するものではない、只其土地、氣候に依りて其色合が違ひ、それが形の上に顯はれて居るものである。故に熱帶地方に住んで居るものは其色は鮮明で、温帶に產するものは其色も自然に穩かで、又寒帶地方のものは其色實に淡白である。其れだから熱帶地方の人の心も又斯の如くで、鮮明なるものを好むと假令ば南洋土人及印度人等に於けるが如く、日本、佛蘭西の如き溫帶の國にてはをちつきたるものを好み、英吉利、露西亞の如き寒帶地方では鼠色の如きぢみな色を好む性質がある。故に意旨よりなる人間よりも意旨なくして變化したる昆蟲の色などに就て研究し、其れより其土地の一般に好む所を考究するが肝要なのである、仮令は日本で友禪縮緬を染めて其れを外國へ送ろうとする時には、先ヅ其土地の蝶及花の色等によりて判定するが便利で、又大に好評を受くる者でありますから私は之も實行する事にしました。又形の如何も裝飾には必要で、如何程色が宜しくても形が見惡くてはいけないので、形と色とは鳥の兩翼、車の兩輪の如く、兩者相俟ちて始めて完全なるものである。此の形も矢張り天然物と歷史上の二つより考へねばならぬ、歷史上よりは昆蟲とは少し緣遠きを以て申ませぬが、天然物から其の形を取るには蝶なり蜻蛉などの昆蟲の摸樣等が殊に宜しく、翅脈の分岐の工合などは其法則に叶ひて裝飾等に恰好宜しきものにてあるから、古來裝飾は大抵天然物に取りまして昆蟲の形は根本的原となりて居る樣である、即ち我が日本にては藤原氏時代には蝶、鳥の摸樣が大に盛になり、其より年を經て蜻蛉の摸樣が行はれ、螽蟖の摸樣などは最も新しいのである。又埃及國は今より七千年以前に昆蟲スカラベー（即ち日本にて牛糞に發生する所の大黑蟲）を應用し、英吉利にてもスカラベー及蝶の摸樣を使ひ、其他にも天然物の形色を應用せし所が多くあります。昆蟲の裝飾は實に天然に叶ひて宜しくありますから、私は初年の時名和さんと親しく昆蟲採

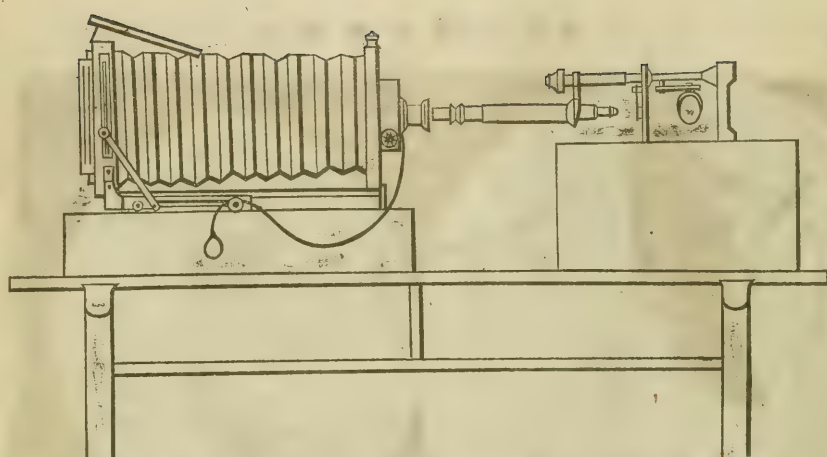
集等をなしたので、今日大に好都合を得ました。されば昆蟲に限らず、何事にても他物をば自分の業につけて應用する時は、專門以外の處より利益あることを發見するこどもあろうと考へます。
次に前とは別問題であるが、昆蟲と女子との關係に就きて一言申上たいと思ます。昆蟲と女子とは緣の深きものであろうと思ふ。婦人の長所と云ふは凡て觀察が密なるものであるが、又之と同時に大体に行渡らざる所謂る部分研究に限ると云ふ樣な缺点があります。故に女子には昆蟲などの或一局部を研究せしむるは今日の時世に最も適したるものであろう。昆蟲學の內でも害蟲驅除などゝ云ふ樣なとは婦人には適しませんから、宜しく男子の業務となし、幼蟲の飼育とか、顯微鏡を取りて一局部の研究などなさしむるは女子に於て至極妙だろうと思ひます。殊に男子には飼育術の困難なるも、婦人は必ず密なる觀察を以て小兒の守りをしながらも容易に飼育することを得るものなれば、男子は活潑の方面に向ひ、飼育術等の如き、或は他の室內研究などは婦人の仕事として適當であります。又婦人は美に感ずるの念が強くありまして、一片の布片の奇麗なる者を釣して置く時は第一番に婦人が目に附けると云ふ事は諸君も御承知でせうが、昆蟲も中々美なるものでありますれば是亦婦人に興味多く研究する事が出來るであろうと思ひます。是れ迄多く日本の女子は徒に家にありて何のなす處もなく一生を終りましたが、世の中が文明になるに隨て男子よりは女子の數が多くなる傾きがある、現に日本にては男五女五の割合なれども英佛の如きは男四女六と云ふ割合である。故に今後女子は男子にのみ賴ることは出來ぬから、女子には充分なる仕事を與へ、獨立生活を營む樣にせなければならん、是れに就ては女子に勞働は不適當であり、且目下一般女子に理科思想を養成するの必要があるから、昆蟲學を始め、是非共動植物等の學を研究せしめて女子の多數を占むる百年後の準備をせねばならぬと思ふ。

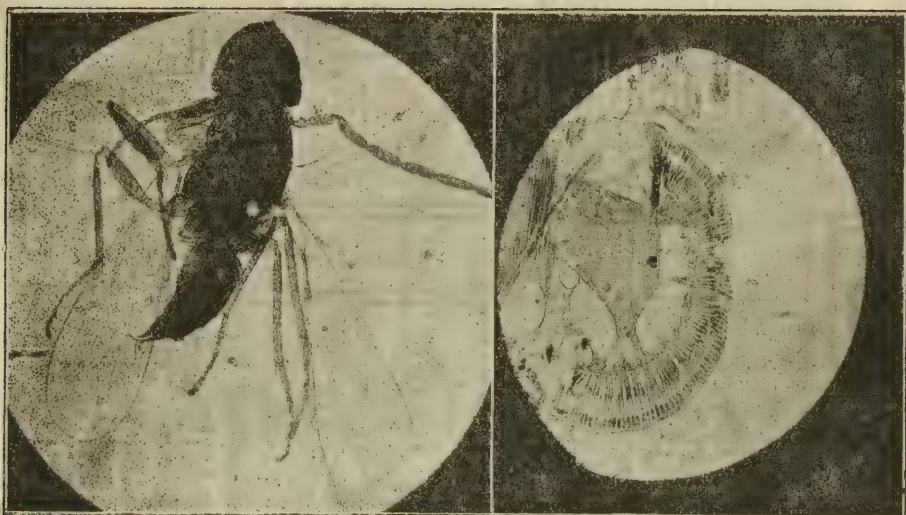
◎應用顯微鏡寫眞法

名和昆蟲研究所　名　和　正

編者云、本篇は名和正氏が曾て水曜昆蟲談話會席上に於て、簡便應用顯微鏡寫眞法に就て說明せられたる要項にして、茲に圖する影畵も亦同氏が撮影せしものなり。

今晚は顯微鏡寫眞に就て少しく私が實驗致しましたことを御話申上樣と思ひます。近年何れの學にも、此顯微鏡的研究と云ふ事は非常に必要に成りましたが、特に動植物學や細菌學を研究致しまするには最も必要なるものであります。此必要なる顯微鏡器械を以て擴大せられたる映像を其儘撮影する事が即ち

應用顯微鏡寫眞裝置の圖

顯微鏡寫眞であります。此寫眞の効用は實に非常なるものでありまして、先づ一度此器械に依て撮影致して置きますれば、再び顯微鏡の力を借ずして其形狀を知る事が出來、又顯微鏡は隨分複雜なる器械であるから初學者には之を使用することが困難である、然るに一度寫眞畵とすれば、如何なる人にても之を見ることを得且是等の顯微鏡映畵を世に現す時には、高價なる畵工の手を要せずして直に寫眞版となし、安價に且確實に現出することが出來るのであります。以上の如き利益を有するものなることは既に諸君の能く知らるゝ所なるが、此器械なるものは實に高價（並製小西商店にて百九十圓）なる爲め普通の人には到底購求し得ざるは惜むべきことであります。爰に於て余は偶々通常の顯微鏡と室內又は野外用暗箱の兩器械とを以て組立つれば、此高價なる顯微鏡寫眞器械に代用出來る事を考へましたから、之が詳細を左に說明致しませう。先づ此法を行ふに當り顯微鏡にプレパラートを押へにて押へ置き、肉眼にて普通の如く度を合せ、圖の右方に有る如く俯向きに置き、寫眞器械は室內用又は野外用の暗箱を持來り、其レンスと顯微鏡器械の接眼鏡と其高さを同じくし、間を一二分位隔てゝ置き、顯微鏡の反射鏡に太陽の直接光線を當てゝ反射せしめ、顯微鏡の前半部及び寫眞器の全部を焦點布を以て覆ひ（此時絞は最大なるを要す）然る後普通寫眞器に於て影畵の位置を取る如くするのである、若し此時影畵が中央部にあらざる時は兩器械のレンスの中心点が一直線上にあらざる証なるを以て顯微鏡の方を動かして其影畵を中央に來らしむべく、此寫眞の方法にありては焦點を取る必要なし、唯顯微鏡に於て其度を能く合せ置けばそれにてよいのである、然れども其畵影の大小によりてピント硝子を前後せしめねばならぬ。即ちピント硝子を前方に送る時は漸

顯微鏡寫眞畫の圖

蠶蛾の複眼の縱斷面と寄生蜂の一種

々其畫は小となり、後方に退るに從ひて漸次其畫は大となる物であるから、豫定の大さになりたる時乾板を挿入して空氣シャッターを以て開閉し、適當の露出を與ふのである。其露出時間は一定することが出來ぬ。何となれば反射鏡の種類、直接光線の强弱及び對物鏡の大小、其他種々の狀態により異なるものなれば宜しくピント硝子の明暗により二三回試驗を行ひ、大凡適當の寫度を知ることが肝要である、又乾板は成るべく度の强きものを用ひ、露出時間を短縮する必要がある、即ち對物レンスの高度のものに至りては細孔なる爲め日光の射入非常に少なきを以て大に注意せねばならぬ。以下現象及び燒付は普通法に異なることなければ之を略す。

前述の方法によれば顯微鏡器械と寫眞器械の高價なるものを要する如く聞ゆれども之れ決して然らず、即ち種々の高價なる器械を使用するに相違ふけれども、顯微鏡は其獨特の顯微鏡器械として用ゆるを得又寫眞器も同じく寫眞器械として獨立に之を使用し得るものなれば、各其方面の目的によりて購入せしものにて合体顯微鏡寫眞を行ふには、何物一品をも購入する必要がない、即ち顯微鏡器械と寫眞器械との間に於て更に一の新用途を見出したるのであります。要するに二個の目的に使用する器械を使用して三方面に使用するものなれば其一方面即ち合体顯微鏡寫眞法なるものは器械を用ひずして行ふも過言に

はあらざるべしと信じます。宜しく是等の器械を有せらるゝ諸君は實驗せられんことを希望いたします

◎モモスズメの幼蟲の發育

特別研究生　谷　貞　子

編者云、本篇は水曜昆蟲談話會席上に於て、特別研究生谷貞子氏が報告せられたる談話の草稿にして、前號講話欄内桃天蛾の卵子孵化前後に於ける觀察てふ實驗の續きなれば、前後相參照せられんことを望む。

私は前回に於て桃スズメの卵子の孵化前後に於ける有様に就て申上げ、尙其後に就ては飼育の上其結果を申上ぐる事に御約束いたして置きましたから、玆に其後の槪畧を御報告いたさうと存じます。さて前回には二齡の初日即ち六月十四日迄の事を御話いたしましたが、十五、十六日は別段變りもございませんでしたが、十七日即ち二齡の五日目の午後三時より眠りかけました。其眠ります時は體長五分二厘、尾角の長さ一分二厘五毛でございました。故に二齡の初めよりこの眠りにつきますまで體長二分、尾角は二厘五毛だけ長くなりました譯で、又此時胸部より腹部が少しく太くなり、胸部の綠色は少しく濃くなりました。十八日脫皮いたします少し前に見ましたに、躰が少しく透明となりまして頭部の少し上方に二つの黑點が見えました。これは旣に第三齡の口でございまして、舊皮は少しく前方に離れかけましたのでございます。午後五時五十七分に脫皮いたしましたが、その時間は六分間で、此二齡間に眠りて居りました時間は二十六時五十七分間で、眠起の當初の躰長は四分七厘、尾角一分五厘でございましたそれより十九、二十、二十一の三日間は全く變化がありませんでしたが、二十二日の午後一時より又眠りかけました。此時の躰長八分、尾角一分六厘にて、尾角の基部の前方及び先端が少しく紅色を帶んで參りました。二十三日午後三時半第三回の脫皮をいたしました。この眠期は二十六時三十六分間でありまして、躰の斑紋は第四節より第九節までに斜線が七個ありまして終りのものは尾角へ通つて居り、其他のものは背線迄で切れて居ります。此時の躰長六分五厘、尾角は二分で綠色でありました。二十四日より氣門は明瞭になり、腹部の先端が少しく紅色を帶んでまゐりました。廿六日午後二時より第四回の眠期に懸りました。この時体長一寸二分、尾角二分にて。其色は体より少しく白色を帶んで居りまして全体の色は少しくうるんで參りました。二十七日の午後四時に脫皮いたしましたが。眠期は二十六時間でありました。今其脫皮の仕方を少しく申上げんに、其脫皮する半時間程前より頭部を葉につけて腹部を葉につけたり、放したり、幾度かいたします、すると漸次脚の先きが白色となり、それより腹脚の第

一、二、三とを舊皮の中にて前へ出します故、脚が見えぬ樣になります、背面が第七節と第八節との關節の所まで裂け、腹部の第四關節と、第五關節、第六關節が白色を帶びてまゐりました。それより胸部の皮を脫がんとする時、体の側面第五節より第九節まで各關節に一個づゝの白點が現はれました、これは即ち氣門の皮を脫ぐのであります。此脫皮時間は七分時でございまして、脫皮後の体長は九分でございました。尾角は三分にて前より太く、色は綠色をして居りました。二十八日、二十九日、三十日は變化はございませんで、七月一日正午より又眠につき、二日の午後五時三十五分に脫皮いたしました。眠期は二十九時間でございまして、其脫皮に要せし時間は十分間、其有樣は以前と同じでございました。此時より胸脚の先端が紅色となり、又腹脚の下も赤色となりまして、頭部は變じて丸形となり、尾角の色は綠色に、躰長一寸五分、尾角は三分二厘でございまして、關節は甚だしく延びました。

それより三日、四日、五日、六日と少しも變化はいたしませんで、食しますばかりでございました。七日には体長二寸三分、其まわり(七八節の所にて)は一寸六分でございました。又尾角は三分五厘で全体白色を帶び、九日には背面大に紅色となりました。それから胸部が少しくひらたくなりました。而してころころとよく轉がる樣になりまして、木には少しもとまつて居りません、此時の体長二寸七分でございました。されば私はガーゼ瓶の中へ土を入れてやりましたれば、其中にむぐりこんで行き、上より二寸程の所にて靜止して居りました。十三日土中にて脫皮して遂に蛹となりました。

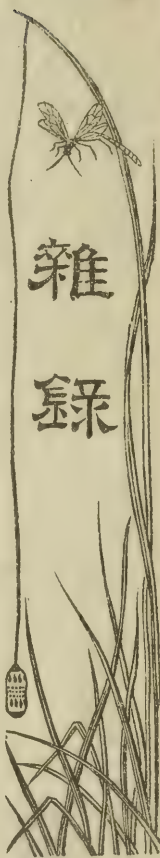
以上御了解になりかねる樣な事をくどくどしく申上まして誠に失禮いたしましたが、つまり卵期が七日と五時間、幼蟲期が二十八日と十七時間五十分でございました。尚前に申上ました事を表にいたして置きましたから、御覽を願ひます。尚私が飼育いたしました他の一頭は、六齡になりましてから体色が全く變りて黃色となり、斜線は赤褐色となりましたから、一言申添へて置く次第でございます。

モヽスヾメの幼蟲の發育表

	卵期	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	第六齡
各齡の日數	七日五時間	三日十五時間	四日九時間	四日廿一時三十分間	四日卅分間	五日一時二十五分間	土中に入迄六日十八時廿五分間 蛹まで十日十四時二十五分間
各齡期最初の体長	卵の大さ縱八厘 橫五厘五毛	二分五厘	三分二厘	四分七厘	六分五厘	九分	一寸五分

各齢間最後の体長	—	三分五厘	五分二厘	八分	一寸二分	一寸三分五厘	二寸七分
一齢間に生長の度	—	一分	二分	三分三厘	五分五厘	四分五厘	一寸二分
各齢期尾角の最初の長	—	八厘	一分	一分五厘	二分	三分	三分二厘
各齢期尾角の最後の長	—	九厘	一分二厘五毛	一分六厘	二分	三分二厘	三分五厘
一齢間に尾角生長の度	—	一厘	二厘五毛	一厘	—	二厘	三厘
脱皮に要せし時間	(孵化)四分間	四分間	六分間	六分間	七分間	十分間	土中にて驗することを得ず
脱皮終りし時日	(孵化)六月十日後五時	六月十四日午前八時	六月十八日午後五時五十七分	六月二十三日午後三時半	六月二十七日午後四時	七月二日午後五時二十五分	土中に入りしは七月九日正午十二時
就眠時間	—	二十二時間	二十六時間五十七分間	二十六時間	二十六時間	二十九時間	土中に入て脱皮する迄二十二時間
頭部の變化	丸くして大	丸くして大	縦長き三角形となる	同	同	同	小形にして丸形となる
体色の變化	初めは淡緑色なりしが漸次白色を帯ぶ	淡緑色にして日を重ぬるに従ひ斜線明となる	色は一齢の時より緑色の度深し	斜線しかと判明せず	体色變なし斜線七つありて終りは尾角に達し淡黄色なり	同	全体白色を帯ぶ其土中に入る前は背面紅色に變ず土中にては白緑色なり
尾角の變化	孵化の四時間前に右の方に赤色の尾角顯はる	先端が初め赤色なれども孵化後二時十分間の後に黒色に變ず卵殼より出づる時は右方にまげて出で三十五六分の後にたつ	先端初め赤色なれども漸次黒色に變ず	先端赤色にして基部の前方紅色を帯ぶ	同	同	尾角全体緑色となる
脱皮の有様	卵殼より出づるに仰向に出づるものと俯向に出づるものとあり	第三節迄背面を裂きて脱ぐ	同	同	七八關節の間まで背面を裂きて脱ぐ	四五回脱皮の際は氣門より一つづゝ都合五個の白點体側面に生ず之即ち舊氣門の皮にして皮と共に蛻皮す	全体白色を帯ぶ其土中に入る時は背面紅色に變ず土中にては白緑色となる

蜻蛉の
羽にかがやく
夕日かな
（子規）

◎昆蟲文學（八）

蠅

魯嶽倫草

蠅者。其形雖小爲害大也。尋臭逐穢。或嘗羹溺杯。其傳播病毒蓋由此。而擾擾群飛隨追隨來。殆令人不暇揮拂。其糞又善敗物雖玉不免云。宜矣古人之比諸群小人也。

秋水曰。歐陽子所以作蒼蠅賦。
南山曰。蒼蠅猶可拂。奈此滔滔群小何。

金龜子

南山牧野信

忽驚座客勢如狂。鞘翅映燈金甲裝。乘暗私逃林外陣。來謀奇襲入山堂。

魯嶽曰。此篇蓋題讀之。直知其爲金龜子。非老手不能也。

岩崎觀螢六首

南山牧野信

淡烟籠樹夕陽收。野水無人搏扁舟。徑細橋斜漸難辨。螢光點點映淸流。

誰向暗空散夜光。徹宵明滅趁淸涼。高飛着柳低浮水。或駕輕風綠渚傍。

水面浮光看欲流。忽搖弱翅上蘋頭。飄飆莫向城中去。恐被紗囊囊裏囚。

滿畔無處不螢光。明滅一齊映野塘。菟水奇觀稱絕世。濃州識否有此鄉。

飄然去入廣漢宮。身在群星的皪中。白帽青衫無限好。冷光光底御淸風。

涼氣逼肌知夜更。同人相促向歸程。紗囊幸有盛螢客。且代提燈光路行。

魯嶽曰。無連吟重複之弊。篇篇皆異趣。而首尾貫通。宛如針線貫連珠。感服感服。

蟻

八木半風

三伏炎威不可當。憐他群蟻覓糇糧。閑人自喜天恩厚。免得營營如此忙。

南山曰。有此閑日月者而始能知天恩至厚。請勗之。

せみしぐれ

○ 神村直三郎

やしなへる箱の戸あけて放ちやるかまきりの子のゆくゑをぞ思ふ(蟷螂)

ともしびに入りて燒かるる火取蛾のすくせいかなる宿世なるらん(火取蛾)

月見草花咲きそめしゆふべより暮れも待ちあへず雀蛾の飛ぶ(雀蛾)

晝もなほとぶ螢蛾をめづらしみあけはなちけりひさかきの窓(螢蛾)

しみいづる樫のあましる吸はんとや羽ならしつゝ山蜂のよる(蜂)

さしのぼる月のひかりもさやかにてくびきりばつた鳴く音涼しき(首切螇蚸)

更けし夜の窓に羽音のきこゆるは山繭の蛾の妻や戀ふらん(山繭蛾)

吹くかぜのかほるかなたを見渡せばじやこうあげはの影うるはしも(麝香鳳蝶)

のうぜんの花うつくしき松の上ににいくせみの日もすがら鳴く(蟬)

足音をそれとさとりて巧みにもくららざうむし身をかくしつつ(苦參象鼻蟲)

○ 山田三秋

ひとゝせにひとたびひらく寶藏のふるき文箱の紙魚はらふなり(紙魚)

たそがれの軒端をすぎし白雨に蚊のすくなきも嬉しかりけり(蚊)

○ 坪内華外

みやび男の歌に入りけんうつせみのはかなや蟻にひかれゆく今(蟬)

むしとるといそしむ小田の稻草にとんぼ三つ四つ羽やすめ居り(蜻蛉)

○ 佐脇紫浪

ひとすぢの青田のあぜのつくるところ塚あり松ありせみしきりなく(蟬)

○ 服部綾足

しろあとの古井を訪ひてかへるさの山路すずしきせみしぐれかな(蟬)

夏休み人げ絶へたるまなびやの窓の桐の木蟬鳴きしきる(蟬)

蟬

取り逃がす蟬屋根越へて飛にけり　孤彬

近づけばヂヂと蟬なき止みにけり　同

仰向に落ちて蟬なく畠かな　同

湧く雲の雨ともならず蟬の聲　同

甲蟲熊蟬雨の袂かな　同

梅雨晴や鬼灯畑の蟬の殻　同

藤の實の青き榎や蟬の聲　同

塀の内蟬かしましき屋敷かな　同

蟬時雨寺裏町の木立かな　芽生
蟬時雨合羽に澁をひく日かな　同
蟬ないて湖畔の森や雲起る　同
なき去つてあとなかぬ蟬殘りけり　同
蟬時雨田植の村を通りけり　同
蟬とりのみな／＼竹を持ち來り　同
庭師來て松作る日や蟬の聲　同
なきながら木裏へまはる小蟬かな　歸麓園
網干場蟬なく木立並びけり　同
蟬の聲甘酒の火の加減かな　同
夜の蟬行燈にあたり落ちにけり　同
蟬ないて叢の中へ落ちにけり　同
黐竿に蟬をふせたる梢かな　同
赤松の庭に秀でて蟬の聲　冷石
蟬暑し西日を受けて下り坂　同
蟬の聲東寺の塔に西日かな　同
杉の蟬鳥居にとんでなきにけり　蓼圃
一しきり鳴いて去りけり松の蟬　同
山裾の桐の木畑や蟬の聲　同
旱畑畔の樹に蟬なきにけり　四澤
蟬なくや畠境の雨三樹　同
蟬時雨鎭守の祭過ぎにけり　同
蟬なくや庚申堂の杉木立　木樵
溪の上樹高高と蟬の聲　同
蟬のなく樹蔭に舟を繋ぎけり　同

町中の一本松や蟬の聲　城東
斷崖に倒るる松や蟬の聲　同
唖蟬の榎廻りて止りけり　同
蟬とんで山門に夕日傾きぬ　水村
杉の奥に赤き鳥居や蟬時雨　同
とある木に蟬鳴て暑き日なりけり　同
掌中の蟬あはれみて逃がしけり　波空
せみしぐれ百日紅の花盛りかな　同
せみしぐれ甘酒鬻く木蔭かな　翠園
繭を煮る暑き匂ひや蟬の聲　同
門前のうつぼ榎や蟬時雨　至泫
軒につる笠に蟬居てなきにけり　同
避病舍の松の木高く蟬のなく　明笛子
蟬時雨洗濯婆を雇ひけり　亂水
雲の峯蟬のなく杉聳えけり　野州江
せみとりの帽子にぜみの尿りかな　四山
せみのなく出水の家の柳かな　華園
蟬時雨山門にたたむ日傘かな　同
せみの聲庭木まばらの借家かな　同
二番茶を苅る日蟬なきそめにけり　同
桐の蟬蕗に尿して飛びにけり　同

◎一茶の昆蟲句集（下）

月林生

（十五）螢

腕白や縛られながら呼ぶ螢
二三遍人をまはつて行螢
初螢其手は食はぬ／＼とや
片息になりて逃入る螢哉
大螢ゆらり／＼と通りけり
もう一つ川を越へよと飛螢
ゆけ螢さく／＼人の呼ぶ中に

不忍池

螢火や呼ばぬ龜は膳先へ
我袖を親とたのむか逃螢
疲たりな門の螢に至る迄
娘見よ身を賣られつつ行螢
人聲の中へやれ／＼初螢
逃げて來て溜息つくか初螢
螢籠惟光これへ召されけり
和睦せよ石山螢瀬田螢
勝螢石山さして引きにけり
飛螢泪の露がなりつらん
筏上の箸とからまる螢哉
蚊いぶしの草とも知らぬ螢哉
蘆の家や暮れぬ先から飛螢
呼聲の張合に飛ぶ螢哉
入相の鐘に撞き出す螢哉
初螢なぜ引かへすおれだぞよ
鍋尻にちらり／＼と螢哉
寢た振をすれば天窓に螢哉
露の葉に引つつんだる螢哉
今吊つた草にあれ／＼初螢
京を出て一息つくか初螢
寢むしろや野原同前に飛螢
椀籠に上手に潜む螢哉
初螢女の髪につながれな
切草鞋螢とならば隅田川
夜に入れば螢の花の芥哉
飯櫃の螢追出す夜舟哉
手枕やぼんのくぼより飛螢
行くな螢都の空はやかましき
出よ螢錠を下すぞ出よ螢
大家を上手に越へし螢哉
來よ螢一本草も夜の露
初螢都の空はきたないぞ
初螢ついとそれたる手風哉

（十六）蟲

機織るや此世は蟲に至る迄
わや／＼と蟲の上にも夜なべ哉
鳴くな蟲だまつて居ても一期也
蟲共が泣事云ふぞともすれば
蟲共も泣言云ふかこんな秋
鳴く蟲も節をつけたり世の中は
蟲鳴やわしらも口を持つたとて
世の中は鳴く蟲とへも上手下手
蟲鳴くや片足牛の藁草履

（十七）蜩

蜩の涼しくしたる家蔭哉

（十八）きり／＼す

籔村や燈籠の中にきり／＼す
きり／＼す聲が若いぞ／＼よ
きり／＼す身を賣れても鳴に鳧
錢箱の穴から出たりきり／＼す
法華讀む頭の上やきり／＼す
米櫃の中や鈴蟲きり／＼す
寢返をするぞ脇よれきり／＼す
彌陀堂の土に成氣かきり／＼す
きり／＼す三疋よれば喧嘩哉
よい聲の連はどうしたきり／＼す
きり／＼す案山子の腹で鳴にけり
おおそうぢや逃ろが勝ぞきり／＼す
音なしく留守をして居れきり／＼す

（十九）蟷螂

蟷螂や五分の魂これ見よと
其分にならぬ／＼と蟷螂哉

（二十）蚤

したたかに人蹴つて飛ぶ蚤哉
蚤蚤飛ぶぞ世がよい／＼と
御祝儀に蚤飛ぶなり馳走砂
枯枯の中に戀する蚤哉

（二十一）秋の蟬

仰向に落ちて鳴きけり秋の蟬

（二十二）蛼

蛼のころ／＼獨り笑哉
蛼の受取つて鳴く垣根哉
蛼の霜夜の聲を自慢哉
蛼の飛ぶや唐箕の埃先
蛼の大聲揚ぐる三十日哉

（二十三）鈴蟲

蟲も鈴ふるや住吉大明神

（二十四）放屁蟲

團子召せ蟲も屁をひる爺の家
御佛の鼻の先なり屁ひりむし
ぶん／＼と蟲も屁をひる山家哉
植へた木も花を咲かせよ放屁蟲
窓に來て鳴く代りかよ放屁蟲
おれよりも遙か上手ぞ放屁蟲
放屁蟲爺か垣根と知られけり

經堂
蟲の屁を指して笑ふ佛哉

（二十五）蜻蛉

蜻蛉の臂でなぶるや大井川
御祭に赤い出立の蜻蛉哉
今日も〳〵糸引きずつて蜻蛉哉
遠山の目玉にうつる蜻蛉哉
三日月をにらみつめたる蜻蛉哉
百尺の竿の頭に蜻蛉哉
蜻蛉の辷り落ちたる天窓哉
蜻蛉も紅葉のまれや龍田川
瘦腰やためつすがめつ見る蜻蛉
大膽の赤蜻蛉や神路山

（二十六）冬の蠅

北國は十分の世ぞ冬の蠅

以上二百餘句は、皆昆蟲其のものを主題とした句であるが、尙此外に人事、植物、天文など、普通の題の中へ景物として昆蟲を詠み込んだのが少しばかりある。更に之を錄して見やう。

春

中日と知つてかさばる虱哉
彼岸さて袖に這はする虱哉
小むしろや錢と胡蝶と散る櫻

夏

螢飛ぶ夕をあてにさし柳
蟻の道雲の峰より續きけり
炎天に蓼食ふ蟲の機嫌哉
逃ぐる也紙魚の中にも親と子と
ままな世や蓼食ふ蟲と火取蟲
人喰つた虻も乘るなり蓮の花

秋

寢むしろや虱忘れてやや寒き
うそ寒を早合點の蜻蛉哉
窓際や蟲も夜寒の小寄合
黑染の蝶が訪ふなり秋の風
今日迄は豆で鳴たよきり〴〵す
玉棚や上座して鳴くきり〴〵す
鹿鳴けば蟲も默りはせざりけり
蚤放つ程は草花咲きにけり

冬

やしばらく蟀だまれ初時雨
霜枯や番屋に虱うせるなり
芭蕉忌や今年もまめで旅虱
水仙や大仕合のきり〴〵す

◎昆蟲に關する隨感隨筆（第拾壹回）

昆蟲翁

（五十九）雀と筋切蟲　當研究所内の結縷草の間を毎日多數の幼弱なる雀來りて頻りに捕食するを見るに一種の幼蟲なることを知れり、故に該草の根邊を搜索せしに果して無數の筋切蟲發生し居るを始めて見出せり。茲に於て鳥類の如何に蟲類を見出すとの銳敏にして、如何に勢力あるやに至りては想像の外にあることを思へり。（八月二日）

（六十）スキと螟蟲　二化生螟蟲はススキの莖中に蝕入するや否やに對し試驗の爲數回寄生蜂に罹らざりし卵塊を稻葉の儘附着し置きしに、何時も一種の蟻の來りて其卵塊を蝕盡し、一もススキの莖中に蝕入することなくして死滅したるは實に殘念なりき。

（六十一）害蟲驅除の警告　石川縣農會に於ては本年六月を以て害蟲驅除の警告を出せり、即ち如左。

害蟲の驅除たる平時に於ても極めて必要なる事なるが、就中本年の如き國事多端の時に於て殊に然りとす。熟々本縣に於ける害蟲驅除の狀態を觀察するに、一般農家は官廳の督勵若くば命令に依りて漸く驅除するが如き有樣にて、實に吾輩の遺憾とする所なり。縣

下五十有餘萬の會員諸氏に、此際軍隊の戰場にあるが如き、其覺悟を以て此際一層自己の業務に精勵し、害蟲の如き他人の指導を俟ちて始めて驅除に着手するの愚を學はず、進んで突擊肉迫して鏖殺せよ。

(六十二)兒童の暑中休暇と昆蟲採集　愛知縣敎育會に於ては如何にして兒童を最も有益に暑中休暇をおくらしむべきかの方法に就て廣く縣下各學校より募集せられたるに、種々なる良法の內三河國額田郡福岡尋常高等小學校の意見は左の如し。

兒童をして最も有益に暑中休暇をおくらしむべき方法に付て愚見を述べよとのことですが、別に是れと申す程の考はありませぬ、が本年の夏期休業中には是非實行させて見たいと計畫して居る事を一つ申し上げませう。そは休業中日々自修時間を割て必ず昆蟲採集(主に害蟲驅除)を行はしむることである。當地方は農業者大部分を占め居るにも拘らず、農事の改良とか、害蟲の驅除とかいふことは一向冷淡で、只天然の收穫を待つといふ側のものが多いのは實に嘆息の至りである。幸にして昨秋郡敎育會の主催で昆蟲展覽會の開設あり、兒童も大に此の思想を養はれたやうに認めますので、本年は此機を外さず害蟲の多く蕃殖する時季即ち夏期の休暇を利用して每日一回一時間內外必ず採集に從事せしめ、昆蟲思想殊に實業思想を養成すると同時に收穫を增加するの一助となさんとの考案である。此の考案が果して都合よく實行せられなば、一般父兄は必ず大に此擧を歡迎するであらうと考へます。併し此事たる敎師が言ひ付け置くのみでは兒童が能く之を實行するや否甚だ覺束なき次第であるから、當校では休業中に於ける昆蟲採集內規を左の如く定めたのであります。

一、尋常科三學年以上高等科全体の兒童は八月一日より三十一日まで每日午前七時より九時までの間に於て約一時間內外必ず昆蟲採集(主に害蟲驅除)をなすこと。

二、採集したる昆蟲は其の種類名、頭數(卵ならば個數若しくば塊數)を日記帳に記入したる後燒棄づること。時宜により豫て授けられたる方法により標本に製するも差支なし。

三、兒童は八月十日及二十日午前八時各日記帳を携帶して出校し、前十日間に於ける採集の結果を敎師の查閱に供すべし(尋常科一二學年も出校)。標本に製したるものは現品を持參すること。二十日以後の事業は九月一日開校の際查閱を受くること。因に採集に要する捕蟲網及び標本製造に要する展翅板は學校備付のものを各兒童に纏めて數個づゝ貸與する筈。

(六十三)三川分流と蚊　岐阜縣大垣町に發行する西濃新聞紙上に三川分流と蚊と云ふ題にて左の記事あり。

或る人の談に「當町は低濕の地に位することゝて隨分蚊が多く夏の夜は團扇使ひに忙はしき有樣なるが、三川分流の結果水はき善くなりしがためか一二年來蚊の減少著しきものあるやに感ぜらる」とあり聞いて見れば成程と頷かればならぬやらでもあり且つは面白

き觀察なれば茲に掲げつ。

（六十四）昆蟲蚊何蚊　本年七月卅一日の日本新聞の新題柳樽に花垂坊先生の蚊七句を載せられたり昆蟲翁も果して昆蟲蚊何蚊を知らざるを以て、左に掲げて讀者諸君の判斷を請はんとす。

不平蚊はいつもブン／＼云て居り　好色家灯さもし頃を飛び出し　ザーの血を吸てこまそさ冒險蚊
裸體のモデル洋畫蚊たかつて來　金満蚊人の生血を搾り取り　理財蚊はブンダさいふが大將なり
棒ふりの昔は知らず擊劔蚊

◎二化性螟蟲油菜莖内蟄伏發見ご其經過研究に就て

佐賀縣農事試驗場技手　松　尾　英　雄

去る五月十三日、當塲に於て油菜菌核病被害調査の際、同莖内に一小孔あるを認め、此れを切開せしに殆ど二化性螟蟲蛹に酷似せるものを發見せり。依て同莖二三を採收し、之を飼育せしに、此れより現出したる成蟲も亦二化性螟蛾に異ならず。茲に於て少しく疑念を生じ、爾後此れが研究に着手し、漸く其經過の大要を知ることを得たれば、茲に其概略を記し、併せて其所置に付き意見を述べて參考に供せんとす。

五月廿日、二化性螟蟲の幼蟲數頭を採收し、油菜を植へ込みたる試驗箱内に投入せしに、暫時にして莖の柔軟なる部を撰み、早きは二時間、遲きは五時間餘にして蝕入し、上部に向て蝕害し、其蝕入孔より約一寸餘の上部に止まり、凡四五日にして蛹化し、十日内外にて蛾化し出でたり。之を曩に野外油菜圃中より採收したるものと對照するに、蝕入の狀、踊化の塲所、蛾化の狀態等毫も異なることなし。是に依て之を考ふるに、元と二化性螟蟲は禾本科植物殊に稻の害蟲たるや疑を容れざる所なりと雖ども、一旦彼れが其潜伏所を失ひたる塲合は雜草間、土中（乾土に限る）、其他孰れを問はず彼れが蟄伏に適する塲所に潜伏するは、已に世人の知る所にして、此十字科植物即ち油菜莖内に蝕入蟄伏するは深く疑ふに足らざるなり。然るに此油菜莖内蝕入の二化性螟蟲は、孵化の初期より蝕害せしものに有らざることは油菜生育期中此發生なきと、前述蛹化の塲所等に於て略ぼ推定することを得べし。然らば則ち平素稻莖内に蝕入越冬せる二化性螟蟲が如何にして好棲所を棄て菜莖に移轉せしや、蓋し冬期又は早春氣候溫暖なる日等に於て稻田内螟蟲の匍匐するは能く見る所にして、畢竟彼れが蟄伏に適せざる塲合即ち田面耕

鋤の爲め稻株露出し腐敗に傾くか、又は過濕なるか、其他の事情に依り其居所を轉するものならん。而して此幼蟲は老熟したるもの大半を占むと雖ども、或は前年發生の時期後れたるものにして尙食慾を保つもの少なからざれば(現に春暖の候古株内にて食慾を逞くするもの少からず)、是等は其潛所と好食物とを探求せん爲にして、此候恰も雜草等冬枯の時期にて莖葉等悉く硬化し、特り綠葉を止むるは麥類及油菜あるのみ、故に其柔軟なる莖部を撰み、蝕入して食慾を逞ふし、玆に蟄伏所を搆えたるに過ぎざるべし。而して油菜は在來種多數を占め、洋種は少なきを認む。是れ其莖の硬軟によるものならんか、油菜の如き大莖のものにありては此等僅小なる蝕害を蒙るも、之れが爲め減收を來すとは之なきと雖ども向後の驅除上影響を及ぼすものなれば、啻に被害僅少なりとて輕視す可きにあらざるなり。

以上は油菜に付ての調査なるも、尙ほ麥類に對し該蟲の被害ありしは、縣下二化性螟蟲多き地方に於て見聞せし處にして、此等蝕害の有樣は前者と大同小異なるも、麥類は莖の小弱なる爲め往々出穗する能はず、例令出穗するも白枯し、現に直接被害を被りつゝあり、是れ又注意を要す可き事なり。

右に對する驅除法

一、油菜田に於て該蝕害部は容易に認め得るを以て、刈倒の際注意し、被害(莢附以下にあり)莖は莢附の部より刈取り、下部の莖は速に燒棄す可し。

二、麥田に於て該蝕害の爲莖枯又は白枯穗を認むる時は、成る可く根際より拔き取り燒棄す可し。但し黑穗拔取の際同時に行ふを便とす。

三、油菜麥田内點火を行ふこと

右は當場に於て例年實行し來りたる事にして、初期發蛾の際麥田、油菜田、休閑田、苗代田等區別し、點火せしに、誘蛾多きは油菜田、麥田にして、殆んど苗代田、休閑田等に比し六七割の多きを示す。故に初期の點火は只に苗代田のみに則とらず、麥田、油菜田等に於ても點火せば、該蟲驅除豫防上奏効あることを疑はざるなり。

◎昆蟲實驗錄（一）

靜岡縣　神村直三郎

ウチスヾメの寄生蜂に就て　本年五月二日、灯下に來る同成蟲雌蛾一頭を捕へ、小箱に容れ置きたるに同夜多數の產卵をなしたり。已に交尾を了したる雌ならんには此卵孵化せずやと、其儘になし置きし

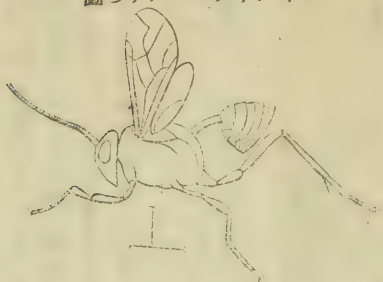
に同十二日に至り果して孵化せり、依てこれを飼育し見るに多數は發育良好にして、四回の脱皮も打揃ふに、中にて二頭のみ至て体格惡しく、殆んど一眠丈も後れたり。訝かりつゝも尙飼育を續け行くに、六月三十日に至り其一頭の背上に數多の小繭を見る。又七月二日に至り他の一頭の背上に小蛆即寄生蜂の幼蟲の蠶爾として營繭に忙しきを見る。此者等見るがうちに小繭を搆成せり。次で七月八日、前者の繭より多數の蜂羽化し出たり。後者は今蛹期なり。此事實に就て予は訝る、元來寄生蜂は其成蟲が宿主の体へ卵子を措くものにて、其体外と体内とを問はず、一に成蟲の直接置卵に基づくものなるを聞けるに今密箱中に飼育して食餌を細撿しつゝ與へたるに、此奇異の現象を見る、此れ其疑点なり。即蜂にも蠅の如く間接置卵の寄生法あるか如何。又他に原因あるか如何。敢て識者の實驗談こそ聞かまほしけれ。（七月十七日稿）

野蠶に就て　數年來少しづゝヤママユを飼育せしに是迄は更に氣付かざりしが、其繭の色に二樣あり即一は鮮綠色にして、一は黃綠色これなり。本年始めてこれを見出したるを以て、或は雌雄の關係にはあらずやとも思ひ居りしに、人あり食草によりて繭の色に變りありなど言はれたれど、皆同じく、卵より櫟のみへ與へて飼養したるものゝ然あるべき筈なければ、其成蟲に如何に二樣のものゝ現はるゝか、又同じものゝ現はるゝかなど噂しあへるうちに、黃綠色のもの一、鮮綠色のもの二、羽化せり、悉く雌なりしには一度落膽したり。去るにてもとよく見るに、其翅色に大に異變あり、即前者は翅の地色灰褐色なるに反して、後者は黃色にて普通に多き色なり。尙今後多數の繭よりは如何に翅色を裝ふて出るか、現今の觀察叙上の如し。今后の研究は重ねて報ずる所あるべし（七月十七日稿）

竹垣の
外は上野や
蟲の聲
（子規）

◎飛州吉城郡產の昆蟲　（一）

名和昆蟲研究所分布調査部

玆に揭ぐるは第一回岐阜縣長期講習を修了せし飛驒國吉城郡古川町の中井藤助氏が歸鄕の後同地方にて採集送附せられしものなり。但し名稱不明に屬するは他日に讓りたりき。

ヂバチ(Vespa cingrilata)一頭、卅七年六月一日野にて採集。躰灰黑色にして腹部の各節に黃色の横帶あり、地中に數層の巣を作りて群居す●蜚蠊卵蜂(Gn.? sp.?)二頭、黑色にして胸部大きく、腹柄細くして腹部は小さく、頗る奇形なり。蜚蠊の卵塊に寄生す●オホキベリゴミムシ(Chlaenius variicornis, Mor.)一頭、躰長七分内外、頭胸部の背面は光輝ある青藍色を呈し、鞘翅は黑色に藍色を帶び黃色を以て縁とらる●ホタル(Luciola, vitticollis, kiesenw.)三頭、一名源氏螢と云ひ、最も普通なる大形種なり●テンタウムシ(Ptychanatis axyridis, Pall.)五頭、六月十日畑、最も普通にして變種多し●ナナホシテンタウムシ(Coccinella 7-punctata, L.)一頭、鞘翅は帶黃赤色にして七個の黑點あり●セマダラコガネ(Phyllopertha orientalis, C. W.)一頭、躰長三分内外鞘翅黑色にして黃褐色の斑點あり　クロコガネ(Lachnosterna parallela, Mots.)一頭、黑褐色の大形種にして夕方出で丶桑葉を食害す●コハナムグリ(Ectinohoplia variolosa, Waterh.)一頭、躰長二分五厘内外の小形種にして、背面灰黃色に黑色の斑紋を有し、複面は黃色なり五六月頃花に集まる●ヨモギハムシ(Chrysomela aurichalcea, Gebl.)一頭、躰長二分七八厘、幅一分七八厘、全躰瑠璃色を呈す●ベニバハムシ(Crioceris parvicollis, Baly.)一頭、六月九日野。躰長二分内外、鞘翅は深紅色を呈す●ハムシの一種(Lema melanopa, L.)三頭　六月五日。躰長一分二三厘の細長形にして頭部黑く前胸部及肢は橙黃色、鞘翅は瑠璃色を呈す●キマワリ(Plesiophthalmus nigrocyaneus, Mots.)二頭、黑色に藍色を帶ぶ、大形種にして肢長く、大樹の朽木に多し●オホザウムシ(Sipalus granulatus, F.)一頭、最大形種にして灰褐色に灰黃及黑褐色の斑點あり。

ゴキブリタマゴバチの圖

◎靜岡縣磐田郡産の昆蟲(三)（神村直三郎氏送附）

名和昆蟲研究所分布調査部

蝶類に就ては屢々本誌に掲載したるを以て、細説するの要なければ、玆には唯名稱と採集月日及頭數を記するに止めり。但し採集地の記入なきものは悉く同郡岩田村にして、年號の特に記入したるもの丶外は凡て三十七年なりとす。

(七七)アゲハノテフ(Papilio xuthus, L.)一頭、五月七日。(六一)キアゲハ(Papilio machaon, L.)二頭、四月十、十九日採集及飼育。(六二)クロアゲハ(Papilio demetrius, Cramer.)二頭、四月十五、十七日、飼育

及採集。(六四)ジヤコウアゲハ(Papilio alcinous, Klug.)一頭、五月七日。(六三)アヲスヂアゲハ(Papilio sarpedon, L.)一頭、五月七日。(六五)ツマキテフ(Anthocaris scolymus, But.)四頭、四月八日、(六六)モンシロテフ(Pieris rapae, Linn.)四月八日。(四)モンキテフ(Colias hyale, L.)一頭、三月二十六日。(二)キテフ(Terias hecabe, L.)二頭、三月二十六日。(一)ルリタテハ(Vanessa canacede, Niceville.)一頭、三月廿六日。(三)アカタテハ(Pyrameis indica, Moore.)一頭、三月廿六日。(七〇)ミスヂテフ(Neptis aceris, Lep.)一頭、四月十八日。(六七)コジヤノメ(Mycalesis perdiccas, Hew.)三頭、四月廿八日。(六八)キマダラテフ(Neope gaschkevitschii, Men.)三頭、五月三日。(六九)ヒメジヤノメ(Ypthima philomela, johausen.)五頭、四月廿四日。(八)テングテフ(Lybithea lepita, Moore.)一頭、四月六日。(七一)ベニシジミ(Chrysophanus phlaeas, L.)四頭、四月九日。(七六)ヤマトシジミ(Zizera maha, Kollar.)一頭、四月廿四日。(五)シジミテフ(Cyaniris argiolus, L.)三頭、三月二十日。(六)ルリシジミ(Arhopala japonica, Murray.)一頭、卅六年十二月五日。(九)ウラナミシジミ(Polyommatus boeticus, L.)一頭、卅六年十一月十七日、同郡大藤村フヂ豆の畑にて。(一〇)ウラギンシジミ(Curetis acuta, Moore.)一頭、三十六年十二月七日。(一二)オホチヤマダラセセリ(Thanaos montanus, Brem.)一頭、三月廿七日。(七二)コチヤバネセセリ(Halpe varia Murray.)四頭、四月十七日、五月十五日、

◎愛知縣渥美郡產の昆蟲 (蜂及椿象の部)

名和昆蟲研究所分布調査部

番號	種名	豊橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豐岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	濱田村
一〇七、	トックリバチ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—
一〇八、	ヤマバチ	—	—	—	—	—	一	—	一	一	—	一	—	—	—	一	—	—	—
一〇九、	アカバチ	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—
一一〇、	ダンゴバチ	—	—	—	一	—	二	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—
一一一、	アシナガバチ	一	一	—	—	—	四	—	三	二	二	二	—	二	—	一	三	—	—
一一二、	オホマルバチ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—

一一三、クマバチ	一	—	—	—	—	三	—	—	三	—	一	一	一	—	一	—	—	—
一一四、クロサシガメ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—
一一五、ウスラガメムシ	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一一六、アカスヂガメムシ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

◎德島縣名東郡小學兒童の螟蟲採卵規程と其成蹟表

德島縣名東郡役所内　堀　龍資

本郡に於ける螟蟲に就て、本年は時局柄と謂ひ且は其發生比年より多きが如き狀態なりしを以て、之が驅防に小學兒童を奬勵して實行せしめたるに、其成蹟頗る良好にして且一般に昆蟲思想を普及せしめたる無形上の効果は、實に尠少ならざるべしと信ずれば、左に其規程と成蹟表を掲げて參考に供せんとす

螟蟲卵塊採取規程準則

第一條、小學校兒童が敎師の監督を受け苗代に於て採取したる螟蟲卵塊は、其數に應じ兒童に賞金を交付す●第二條、採取に從事せしむべき兒童は尋常三學年以上たるを要す●第三條、賞金は卵塊十個に對し金五厘の割合を以て交付す●第四條、村農會は苗代持主に對し本規程施行の旨趣を周知せしむるものとす●第五條、本規程施行に要する費用は村農會の負擔とす。

施行方法

一、小學校兒童をして苗代の害蟲驅除を實習せしめ、以て農業上の智識を授け、併せて公德心を養成するものとす●一、敎師は兒童を監督して規律正しく採取に從事せしむるものとす●一、畦を踏み切り、苗を倒し、其他苗代に害を及ぼすが如き行爲なき樣充分の注意を加ふること●一、兒童は必ず敎師監督の下に從ひ單獨の行爲なきを要す●一、採卵を容るゝに必要なる小鑵若は小袋を兒童に用意せしむる事●一、賞金は可成郵便切手を以て授け貯金に預け入れしむる事●一、敎師は各人別に成蹟を取調べ置き農會長並に郡長へ報告する事●一、卵塊は熱殺乾燥し紀念標本として學校に保存する事●一、學校に於て卵塊成育試驗を行ひ兒童をして害蟲の發生經過習性等を知得せしむる事●一、敎師は必要と認むるときは道路演說を行ひ普く一般に警戒を與ふる事●一、採取の期間は必要の

時期十四日間とす、但し必要あらば延長するも差支なし●一、約二畝歩の苗代に對し兒童二十人以上を一時に入れしめざる樣注意する事、但此比例を以て苗代の大小に應じ教師に於て斟酌を加ふる事●一、學校長は放課後及休日体操時間等を以て、一組兒童三十人を教師一人をして引率せしめ、一日平均四時間以上執業し、十四日間に關係苗代の全体を二回宛採取に從事せしむる事、但村の大小に應じ組數を適宜に設くる事。

右規程の下に本郡各小學校に於て本年苗代當時に行動せし結果を擧示すれば左の如し。

苗代田害蟲採收成蹟表

校名	執行日數	苗代田數	從業兒童人員	捕獲蛾數	捕獲卵塊數	蛾卵計
田宮	一八	一八二	二五三	二五二九七	七五四九四	一〇七九一
加茂名	二〇	四四一	二三二	三三六八	五四二一九	五七五八七
新居	一五	二三〇	三四五	二〇〇一七	五〇五二九	七〇五四六
日開	二五	二八〇	二〇九	九九一五二	一一九二一五	二一八三六七
國府	一四	三四五	二八四	六五五四	一〇八〇二九	一一四五八三
上八萬	二一	二四七	一三〇	一五九三五	五一一八一	六七一一六
一宮	一三	二三〇	五四	四四七七	二三五五七	二八〇三四
高樋	一七	一六一	九二	四六三二	一二六七六	一七三〇八
前	一四	二四九	一五〇	一二一二八	一四七九二	二六九二〇
嵯峨	一〇	二七六	四二	九一〇三	八八〇〇	一七九〇三
齋田	一四	一六二	八八	五六八三	四七二五	一〇四〇八
津田	一〇	一七	一三五	二九八九	二七四八	五七三七
沖洲	一八	七五	六〇	八八九	一二〇六四	一二九五三
八萬尋高	二〇	一二三	二六九	六八九〇	二五四四四	三二三三四
八萬南	一九	九〇	五一	九八一	八三二六	九三〇七
八萬西	三七	三〇〇	七六	八七七	二一九三三	二二八一〇
計	二八五	三四〇八	二四七〇	二一八九七二	五九三七三二	八一二七〇四

編者云、有形上及び無形上の効果の寡少ならざりしは深く信ずる所なりと雖ども、採卵の處分をなすに益蟲の保護を圖らすして直ちに熱殺又は燒殺するは最も忌むべきことなるを余輩の常に唱導せしに係らず、尙此語を用ひしは實に惜むべきことなりき。

◎螟蟲誘殺に就て

兵庫縣明石郡伊川谷村　井上藤太郎

本年苗代時代に於ける螟蟲誘殺に就て余が實驗の儘を記し、聊か參考に供せんとす。

從來我地方は農家一般住家の二階に藁を貯藏する習慣なるが、該稻藁中に螟蟲の潜伏せるものありて螟蛾の羽化するもの多きを察し、苗代田の誘蛾燈設置と同時に家屋內にも其設備をなし、誘殺に盡力せしが、非常の効果を得たり。即ち左表の如し。

螟蟲蛾誘殺表

月日	晴雨	風力	溫度	苗代田蛾數	屋內蛾數	備考
五月廿五日	曇	弱	六八	一	四	—
同　廿六日	曇	同	六八	〇	八	—
同　廿七日	曇	弱	六九	三	一三	—
同　廿八日	晴	同	六七	一一	三七	—
同　廿九日	晴	同	六九	一八	二八	—
同　卅日	曇	同	七三	二六	三三	—
同　卅一日	晴	同	七〇	四五	七六	—
六月一日	同	同	七一	六二	一一四	—
同　二日	同	同	七一	一〇六	一六四	—
同　三日	同	強	七三	〇	三一五	強風に付苗代田に點火せず
同　四日	同	弱	七〇	一六二	五五四	—
同　五日	同	同	七三	二五四	八三四	—
同　六日	同	同	六九	〇	六八〇	大雨に付苗代田に點火せず
同　七日	同	同	七四	二八〇	三四九	—
同　八日	同	同	七五	三一七	三九〇	—
同　九日	同	同	七五	二五八	二七〇	—
同　十日	曇	強	七三	〇	三三六	強風に付苗代田に點火せず
同　十一日	雨	同	七〇	〇	二一七	大雨に付苗代田に點火せず
同　十二日	同	弱	七一	一一	三〇五	—
同　十三日	曇	同	七四	一七五	二五二	—
同　十四日	同	同	七六	三三六	三四七	—
同　十五日	雨	同	七五	一五八	三五八	—
同　十六日	曇	同	七五	二六	二一五	—
同　十七日	同	同	七五	〇	一〇八	苗代田挿秧終了に付誘蛾燈を撤去す
同　十八日	同	同	七五	〇	九七	—
同　十九日	晴	同	七四	〇	六二	—
同　二十日	雨	同	七三	〇	六五	—
同　廿一日	曇	同	七六	〇	三一	—
同　廿二日	同	同	七四	〇	一六	—
同　廿三日	晴	同	七八	〇	五	—

右表中の蛾數は、苗代田に於ては面積三畝歩に對し誘蛾燈壹個の割合に點火し、家屋內は壹個、其各壹燈下に採收せし數を示す。

苗代田に於て發生せしは五月廿五日にして壹頭を得次第に其數を增し、六月八日を最多とし參百拾七頭を得たり。

屋內採收の第一日は五月廿五日にして四頭を得次第に增加し、六月五日に至り八百參拾四頭の最多數を算し、以後次第に減じて六月二十三日の五頭を以て羽化の終りを告げ、以來燈下に集るものなかりき。最初發見せしは五月廿五日にして、羽化を終了せしは六月廿三日なり。此間に於ける日數三十日なり。以上の日數間に苗代田に於ける壹燈下に採集せし蛾數は貳千百五拾九頭、屋內壹燈にて採集數六千百七拾壹頭、合計實に八千參百參拾頭の多額に達せり。螟蟲驅除の方法中誘蛾燈點火法も、完全に共同實行を成す時は大に與て効あることを信ず。

◎昆蟲に關する葉書通信（第四十三報）

（三四六）アメンボウと稻螟蛉蛹寄生蜂（長野縣、淸水藏）　本年當地方の苗代にイチノアヲムシ大に發生せしを以て之を捫殺し居りし際、螟蛉の水面に落下するやアメンボウ突然飛び付き、其吸收口を突き込み以て其体を吸收せるを目擊せり。玆に於てアメンボウの食肉性にして有益蟲なるを確めたり●又同作業中一種の寄生蜂飛び來り、前記螟蛉の繭に附着し、其產卵管を繭內に挿入して產卵するを見たり。其產卵の際の姿勢は、本誌第七十六號に鳥羽源藏氏の示されしオホヲナガバチの產卵の圖の如くなりき之に因りてイチノアヲムシの蛹に寄生蜂のあることゝ、產卵の姿勢を知るを得たり。

（三四七）八町蜻蛉栃木縣に產す（栃木中學、川口淸）　本誌前號に於て八町蜻蛉の分布に關する記事ありしが、中に未だ我栃木縣下に產するの記載なかりしかば玆に一報に及ばんに、縣下々都賀郡栃木町大字園部字箱の森に例年盛に發生す。但し、右地以外附近の土地に未だ見たる事なければ、該蟲はかく局部にのみ發生するは一般の習ひにや。

（三四八）螟蟲蛾の產卵次第に巧みとなる（愛知縣渥美郡田原町、中村義上）　本年は螟蟲の發生至つて多く、去月廿八日小農自作田の植付をなし、本月一日より本田の採卵を始め本日迄六回採集せしに其數一反五畝歩にて七百四十三塊の多きに達し、尙其他のものを合せ殆んど千塊を獲たるが、殊に彼等の產卵は次第に巧みにて、從來多く葉の表面に見たるも、自然淘汰の結果にや今は裏面に產附せるあり、又一層巧みなるは甲乙葉の先きを閉ぢ合せ產卵せるもあり或は枯葉の先きに僅かに產附せるものある等實に進化の妙用驚くべきばかりなり、宜しく是等の硏究こそ望ましけれ。（七月五日附）

雜報

◉本號の口繪に就て　本號には農事試驗場九州支場昆蟲部在勤中川久知氏の小蜂科及卵蜂科の分類法を掲載すべき豫定にて、既に玆に其附圖を口繪として挿入したる次第なるも、本文は編輯上の都合により止むを得ず次號へ廻したれば、讀者乞ふ之を諒せよ。

◉昆蟲標本陳列舘案内　（其七）　（カ）部に移れば、玆には農家に最も必要なる害蟲驅除用各種器械を陳列せり。今其重なるものを照會せんに、果樹害蟲驅除用紙帳（これは貝殼蟲等の發生せしとき樹木を覆ひて青酸燻蒸をなし之れが驅除をなすもの）、大西捕蟲器、浮塵子驅除器、苗代用浮塵子驅除器舟形殺蟲器（皆浮塵子驅除に用ふる器にして舟形殺蟲器は浮塵子發生の際田面に水のなきときに多く使用するもの）、誘蛾燈數種、殺蟲注射器（天牛の幼蟲即ちテッパウムシ驅除に用ふるものにして輕便有効なる器なり）、圓形捕蟲器數種（採集用としても害蟲驅除用としても最も必要なるもの）、不正三角形捕蟲器（苗代田に於て各種害蟲の發生せしとき捫殺するに用ふるもの）、半圓形捕蟲器（刈桑にハムシ類の發生せしとき桑樹を中心として該器二個を兩方より合せ拂ひ落すに用ふるもの然れども該器の應用甚廣し）方形捕蟲器（梨子架、葡萄架等の害蟲を拂ひ落すに用ふるもの）、咽喉付圓形捕蟲器、同三角形捕蟲器（共に害蟲驅除用として用ふるもの應用廣し）旅行用圓形捕蟲器（該器は平素小さく疊み必要に應じ組立つる樣になしあれば旅行用としては適當のものなり）、苗代用捕蟲器（三角形にして金網製のもの）、長柄圓形捕蟲器數種（浮塵子驅除用にして製法簡易其効力敢て遜色なし）、熱湯殺蟲器、燻烟器、稻株拔取器（三化生螟蟲二化生螟蟲等苟も稻株中に潛伏の害蟲を驅除するに欠くべからざる器なり）、噴霧器（該器は蚜蟲貝殼蟲等を驅除するに用ふるものにて藥劑と相待つて必要なる器なり）、輕便噴霧器、金龜子驅除器二種（武力製にして金龜子を驅除するに最も有効なる器なり）、注油器（浮塵子驅除の爲め田面に石油を注ぐに使用するもの）、散粉器（粉末の藥劑を散布するに最も必要なる器なり）、以上は其重なるものを擧げたる者にて、中には製法の複雜なるものもあり、極めて簡易にして如何なる素人と雖も一度現品を見ると

きは直ちに自ら製し得べきものもあり、從ひて其價も存外高價なるあり、安價にて製せらるゝものありて一樣ならず、而して其効果に於ては、價の高きもの、製法の複雜なるものなりとて必ず効力大なりと推定すべからず、價の低き製法の容易なるものなりとて其効力少しと侮るべからず、要するに害蟲驅除用として、普く一般に使用せしむるには、可成的價の廉にして極めて輕便なる即簡單有効なる器具を撰ぶを以て其當を得たるものなるに、往々複雜にして高價なる(効力の差異なきに係らず)ものを用ひて得々然たる如きは大に戒むべきことなり。一たびこの(カ)部に入りて精細に調査せば大に得る處あるべきを信ず。

●昆蟲掲示場記事　紙面の都合により前號には該記事の掲載を見合せしが、前々號掲載後に於ける重なるものを擧ぐれば ●昆蟲の七類として 膜翅類にキスヂバチ (螟蛉尺蠖等を捕へて幼蟲を養ふ益蟲)、ミツバチ(人々の飼養して蜂蜜をとる有用蟲なり)、ウスバヤドリバチ(他蟲に寄生する益蟲)、オホマルバチ(南瓜等の花粉媒助をなす)、ナシノハバチ(梨の葉を食する害蟲)、クマバチ(花粉の媒助をなす益蟲)等。鱗翅類にスヂグロテフ(蔬菜類の害蟲)、ヒオドシテフ(榎等の葉を食害す)、コムラサキテフ(柳等の葉を食害す)、フチグロアヲツバメ(赤楊等の葉を食害す)、アヲフモンガ(藍の害蟲)、ベニシジミ(害蟲)等。双翅類にヒラタアブ(この幼蟲は蚜蟲を食する益蟲なり)、カ(雌は血を吸へども雄は否らず)、コウカバヘ(肥料の害蟲)、ウジバヘ(肉類等に集りて胎生をなす)、ムシヒキアブ(小昆蟲を捕食する益蟲なり)等。甲翅類にはベニカミキリ(枯竹等の害蟲)、ホシカミキリ(蜜柑の一大害蟲)、ハンノキカミキリ(害蟲)、カナブイブイ(各種植物の葉を食害す)、ウリハムシ(瓜、南瓜等の葉を食害す)等。半翅類にカボチヤガイダ(害蟲)、ゴマガメムシ(害蟲)、アシナガサシガメ(他の小蟲を刺殺する益蟲)、オホツマグロヨコバヒ(害蟲)、ツマグロヨコバヒ(稻の大害蟲)等。直翅類にツチイナゴ(植物の葉を食害す)、クルマバッタ(植物の葉を食する害蟲)、ゴキブリ(害蟲)、ウマオヒムシ(雄は固有の美聲を弄す)、カマキリ(他蟲を捕食する益蟲)、シヤウリヤウバッタ(ハタオリとも稱し禾本科植物を食害す)等。羅翅類にはサナヘトンバウ、(苗代等に來りて他蟲を捕食する益蟲)、オホヤマトンバウ(益蟲)、キバ子ツノトンバウ(益蟲)、カトリトンバウ(蚊等を捕食す)、シホヤトンバウ(益蟲)、ヂムキカゲロフ(幼蟲は水中に棲みて其形ミノムシの如し)、テフトンバウ(益蟲にして雄は雌より美なり)等を掲げ●臨時的掲示物には二化生螟蟲の經過標本(稻作害蟲の首魁とすべき大害蟲なり。「一」は目下盛んに發生するところの成蟲にして既に「二」の

如き卵塊を產附するもの多し、孵化すれば「三」の如き幼蟲出で莖の髓部を食害す、宜しく此の際該卵塊を採り盡して害を受けざる樣注意すべし)。ツマグロヨコバヒ(この蟲は二化生螟蟲に亞ぐ大害蟲にして雌には圖の如き產卵管ありて稻のハカマを縱に切り上圖「圖は略す」の如く產卵す、幼蟲成蟲共に稻の養液を吸收して收穫皆無に至らしむることあり、明治三十年に七千五百萬圓の害を與へしは此等の蟲なり)ハンノキケムシの經過標本(この蟲は赤楊、柳其他種々の葉を食する害蟲にして「一」は幼蟲、「二」は蛹、「三」は成蟲、「四」は幼蟲に寄生する蜂なり。我國にては幸にこの寄生蜂の多き爲め非常なる害ありしを聞かざるも、米國の如きは寄生蜂の少なき爲か其害非常に恐るべきものなりと云ふ)、茶毛蟲經過標本(此の蟲は茶樹の葉を甚しく食害するものにして体に毒毛を有するを以て初め幼蟲の群集し居る際に其枝を切り取りて体に觸れざる樣注意して驅除すべし)、クリケムシの經過標本(この蟲は栗の葉を食するものにて幼蟲は長き白毛あるを以て俗にシラガタロウともいふ、この老熟したる幼蟲よりテグスを製す)●特別的掲示には夏の鳴く蟲としてコホロギ、マダラスズ、ヤブキリギリス、キリギリス、クビキリバッタ、アブラゼミ、ニイニイセミ、クマセミ、ヒグラシゼミ等を數回に示し一々鳴き方等の說明を加ふ其他セミタケ(これは古來冬蟲夏草と稱するものなるが、地中にある蟬類に寄生菌の胞子附着してかく奇形を呈せしものなり)等は其重なるものなり。(括弧中の文字は實物に附記せし說明なり)

◉堀內英力氏再び滿洲の昆蟲を送る

本誌前號に於て、第一軍に屬して出征せられたる宮城縣堀內英力氏が敵前に於て滿洲鳳蝶を採集し、之を送附せられし事を報じ置きしが、其後又圖に示す如き奇形の犬蠅を送り越されたれば、永く紀念として該標本に添へられたる書簡と共に讀者に紹介することゝなしぬ。此種は內地に產し、犬に寄生するものと異ならざるが如し。

予時別封淸國寬甸城內に於て捕獲仕候間御送申上候。該種は犬の血を吸ふものにて、丁度內地に於てダニの嚙みつき居るそれの如く、嚙入りて容易に離れ申さず候、內地にも發生するや否や小生には不明につき御示敎仰ぎ度御送附申上候草々。六月廿二日賽馬集攻擊か、靉陽邊門に敵の來襲か、轟々たる砲聲を耳にして

堀內英力

堀內氏の送られたる犬蠅の圖

◉保野中尉の戰死　第十六回全國害蟲驅除講習を修了せし陸軍歩兵中尉保野延次郎氏は、京都府南桑田郡千代川村の住保野佐平治氏の長男にして、資性沈着膽勇眞に天稟の好軍人たりしが、又常に意を敎育、實業等に用ひ、昨年八月當所開催の第十六回全國害蟲驅除講習會にも入會して熱心に研究せられ後南桑田郡農會技手に聘せられて斯學の爲に盡されし處尠なからざりしが本年四月出征の途に就き大孤山上陸軍に屬して盤嶺山附近に戰ひ、不幸敵彈に傷いて名譽の戰死を遂げられしと、實に惜みても尚餘りありと云ふべし。

◉第二回岐阜縣長期害蟲驅除講習規程　本年三月を以て終了せし第一回岐阜縣長期害蟲驅除講習終了後、直ちに引續きて第二回の講習開講の筈なりしが、時局の爲經費緊縮の結果、該講習費目は全く删除されしかば止を得ず一時見合の都合になり居りしが、當局者に於ても、斯る必要なる事業をも廢するは如何にも殘念なりとて、講習生に補助を與ふる事を廢め、私費生として募集することゝなし今回縣告示第百九十六號を以て左の如く講習規程を定められたり。

岐阜縣告示第百九十六號

第二回長期害蟲驅除講習左記規程の通開會候條講習生たらんことを欲する者は本月末日までに願書に履歷書を添へ所轄郡市長を經て願出づべし。明治三十七年七月十三日　岐阜縣知事川路利恭

第二回長期害蟲驅除講習規程

一、開期　明治三十七年八月十五日より明治三十八年三月三十一日迄◉二、場所　岐阜市公園内名和昆蟲研究所内◉三、講習科目左の如し（一）昆蟲學（二）昆蟲分類法（三）害蟲驅除法（四）益蟲保護法（五）實習◉四、定員　五人◉六、費用　講習に關する費用は自辨とす、但講習料を徵せず◉七、講習生心得　（一）講習生入學の許可を得たるときは此の心得に服從するの誓約書を出すべし（二）講習生は講師の指導する所に遵ひ干犯の所爲あるべからず（三）講習生は風紀を重し品行を愼み講習の科業を勉勵すべし（四）私事の爲に科業を休み又は他行せんとするときは講師の許可を受ぐべし（五）講習生は一定の寄宿舍に入るべし（六）講習生科業を怠り、講師の指導を遵奉せず、風儀を亂し又は前各號に違反するときは退學を命ずることあるべし。

◉第二回害蟲驅除監督官の派遣　本年第二豫備金より支出したる害蟲驅除監督費は既に六萬餘圓に達したるが、未だ少しも支出せざるは沖繩、和歌山、靜岡、神奈川、埼玉、北海道、青森の一道六縣なりといふ。又農商務省にては第二回害蟲驅除監督として左の府縣へ技師を出張せしめられたりと。

高知、山口、廣島、埼玉、和歌山の五縣へ農事試驗場技師牛村一氏◉京都、石川、福井、富山、新潟、神奈川の六縣へ同岡田鴻三郎氏◉長崎、鹿兒島、宮崎。佐賀、大分の五縣へ同齋藤萬吉氏◉岡山、岐阜、滋賀、三重、愛知の五縣へ同小貫信太郎氏◉群馬、茨

城、長野、山梨の四縣へ同堀正太郎氏●大阪、鳥取、島根の三縣へ農商務技師宇野曾一氏

◉夏期出張の昆蟲學講習會　本月中昆蟲學若しくば害蟲驅除講習會を開かれたる所は、岐阜縣武儀郡(一日より五日間)愛知縣中島郡(四日より三日間)にして同郡の如きは修業證書を與へたるもの百餘名に達し頗る盛會なりしと云ふ。尚十三日より五日間郡上郡に於て、十五日より五日間愛知縣教育會に於て開會せらるれば當所長及助手は之に出張せり。

◉第二回岐阜縣長期講習生の入學許可　別項記載の如く本月十五日より第二回岐阜縣長期害蟲驅除講習を開講することゝなりたるが、今回左の五名に對し入學の許可を與へられたり。

稻葉郡鶉村岩田才次郎▲本巣郡船木村久世貫一▲同郡本田村園田覺二▲揖斐郡養基村田中庫十郎▲土岐郡肥田村鈴木彥治

◉特別研究生の入所　滋賀縣野洲郡速野村大字洲本、北野清治氏は農作物害蟲驅除豫防法研究の目的を以て八月一日より一ケ月の豫定にて、三重縣多氣郡佐奈村大字神坂、根門宮太郎氏は害益蟲の關係につき研究の爲八月二日より一ケ月半の豫定にて、廣島縣沼隈郡赤坂村大字赤坂、宮宗源一氏は應用昆蟲學研究の爲八月十二日より約二週間の豫定を以て入所せられたれば、目下特別研究生は岐阜縣一人、愛知縣一人、宮崎縣一人、滋賀縣一人、三重縣一人、廣島縣一人の六名なり。當所に於ては是等研究者の希望により毎日午前八時より一時間づゝ昆蟲學大意、分類法、害蟲驅除益蟲保護法、昆蟲標本採集製作法等に就き講話をなしつゝあり。

◉東京第三中學生の昆蟲採集旅行　東京第三中學校生徒金子幾久、加賀正太郎の兩氏は、夏期休業を利用して昆蟲採集の爲中仙道を經て來所せられたるが、獲物は中々多く、中には又オホイチモンジ(Limenitis populi, L.)を始め蝶蛾類の珍種も尠なからざりき。

◉岐阜縣昆蟲學會第六十八回月次會記事　同月次會は例により本月六日午後一時より名和昆蟲研究所內に開會せり、第一席滋賀縣北野清治氏は滋賀縣下に於ける現今害蟲驅除の狀況を述べ、第二席小竹浩氏は本月一日より五日間開會せし縣下武儀郡害蟲驅除講習會の狀況より同郡に於ける害蟲驅除の有樣を述べ、第三席小森省作氏は稻象鼻蟲と根喰葉蟲の幼蟲を區別して本年揖斐郡豐木村地方稻株に白蛆の發生して被害劇甚なるは全く此稻象鼻蟲なる事を說明し、尙螽蟖科の分類法を實物に依りて述べ、其れより暫時休憩の後第四席長野菊次郞氏は蝶蛾の區別に就て、此區別は頗る複雜なるものにて

觸角の形狀とか、捿止の狀態とか云ふ如き事にて區別し得べき單一なるものに非らざるも、蛾類の多くは翅刺を有し、蝶類には決して之を有せざれば、是等の關係を考査すれば先づ大躰誤りなからんと云ひ尙其他の各部分に就ても內外に於ける蝶蛾類の例を擧げて說明せられたり。此時恰も愛知縣中島郡に於ける昆蟲學講習會に出張中の名和副會長は歸所せられしかば、同講習會の狀況より昆蟲の分布に就て一場の講話をせられ、午後四時閉會を告げたり。

◉水曜昆蟲談話會記事　當所內に於て毎週水曜日夜間開會の同會は毎會相變らず盛會にて、各會員は毎週間に於て實地に就き熱心に研究せし事項を詳細報告し互に智識の交換をなして斯學の爲に盡し來りしが、今前號報告後に於ける談話事項を揭ぐれば左の如し。

小竹浩氏は茶毛蟲第一期の飼育報告に於て幼蟲期は凡そ六十日間にして、一齡は八日間、二齡は十一日間、三齡は七日間、四齡は十日間、五齡は七日間、六齡は七日間、七齡は九日乃至十一日間にして、蛹化後羽化までは十六七日を要し、都合孵化後羽化まで七十六七日を要せりと其變化の詳細を說き、尙毎會昆蟲の同種異名調查報告をなし◉小森省作氏は稻禾科の分類に就て前回の續きを述べ尙扁柏の種子より出でし蜂に就ての疑問を述べて今後研究の必要を說き◉棚橋昇氏は毎會各蟲種に於ける標本製作上の秘訣を實物によりて說き◉馬淵治郎氏は蛾類の卵粒數の調查報告と伊吹山昆蟲採集談をなし◉名和正氏は背筋天蛾の飼育と顯微鏡寫眞に就て說明し◉名和愛吉氏は靑筋鳳蝶の飼育談◉谷貞子氏は毎會連續してモモスズメ及びオホスカシバの幼蟲飼育の結果を報告し◉兒玉龜太郎氏は宮崎縣地方に於ての害蟲と天然驅除に就て說き、同地方に於ては植付後田面に新竹を立つる時は、之に蜻蛉の來りて休止し、其下に糞を落すにより稻に非常の肥料となるとて一般農民は之を實行す、之れ蜻蛉の捿止場を作りて之を保護し、蜻蛉をして螟蛾、浮塵子其他の害蟲類を捕食せしむるの盲案より出でたるものにして決して偶然に竹を立てたるものには非ず、之によりて之を考ふれば、愈々益蟲の保護を等閑に附すべからざる所以を說かれたり。其他東北地方へ出張の歸途立寄られたる京都高等工藝學校教授工學士武田五一氏は昆蟲と裝飾との關係及び女子と昆蟲に就て一場の講話をせられ、此頃歸岐中の長野菊次郎氏は毎會出席して鱗翅類に就て講演せられ、又名和所長は昆蟲に關する雜話を毎會試みられたり。

◉昆蟲標本陳列舘の參觀人員　去る七月中當所常設の昆蟲標本陳列舘を參觀せし總人員は千九百六十八人にして、一日平均七十五人强に當り、其內最も多かりしは十七日に於ける百六十五人にして、最も少なかりしは二十二日に於ける三十九人なりき。

◉寄稿家に謝す　編輯上の都合により次號へ廻はしたる玉稿尠なからず、乞ふ之を諒せよ。

Parum colligata walker. (Ginboshi-suzume)

By K. Nagano.

Forewings greenish-brown, shaded with lilac brown; marginal area yellowish-grey; a silvery white discal dot; yellowish-grey blotch on base; a yellowish-grey fascia from before middle of costa to dorsum, and extended towards dorsum; a lilac-brown longitudinal band on median part; twice curved white stripe from dorsum to apex; irregular whitish spots on costa. Hindwings lilac-gray, with terminal greenish-brown; a white arched stripe and a blackish-brown band from anal angle to apox, terminally indistinct. Expanse, 76-87mm. Body greyish-brown; head olivaceous; thorax bordered with greenish-brown.

Honsiu, Yezo. 6, 7. Larva green, yellow dotted, lower side dark-brown dotted; dorsal line deep purple; on 4-11 seg. a series of yellow oblique lateral stripes; spiracles bluish-purple; horn green, yellow dotted. on Broussonetia papyrifera, B. Kasinoki; 8, 9.

昆蟲世界

（毎月一回十五日發行）　第八卷第八拾四號　（明治三十七年八月十五日發行）

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢詩　昆蟲亂題（但季は秋の事）　牧野南山氏選
▲和歌　昆蟲亂題（但季は秋の事）　服部綾足氏選
▲俳句　蜻蛉十句（九月五日占切）　鹽谷華園氏選

投稿占切期日毎月五日△投稿用紙は郵便端書にても宜し△届先は岐阜市公園内名和昆蟲研究所

◉新刊害蟲圖解

第廿三、粟及陸稻の害蟲アハノヨタウムシ
第廿四、桑樹の害蟲ヲグロクハハマキムシ
第廿五、大豆害蟲ヒメコガネムシ

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市公園内名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所内　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し
第六十九回月次會（九月三日）　第七十一回月次會（十一月五日）
第七十回月次會（十月一日）　第七十二回月次會（十二月三日）

◉名和昆蟲研究所案内

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園内即ち（チ）の位置に移轉せり・又常設の昆蟲標本陳列舘（五間に十八間）は從前の通り岐阜縣物産舘構内にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢　（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
壹年分拾貳部郵稅共金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年八月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二（岐阜市公園内）
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二
發行者　名和梅吉
同縣揖斐郡鶯村大字公鄕三番戸
編輯者　小森省作
同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

（明治三十年九月十日内務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

(明治卅年九月十四日第三種郵便物認可)

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF

"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] SEPTEMBER. 15TH, 1904. [No. 9.

昆蟲世界

第九卷第八册　明治三十七年九月十五日發行　第八拾五號

目次 (禁轉載)

(毎月一回十五日發行)

名和昆蟲研究所發行

中等教育昆蟲標本寫眞（七）

學説

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其十三）（第九版圖參看）

名和昆蟲研究所内　小竹浩

（一四）稲作害蟲

古來我國は農を以て基本となし、農作物の豊凶は直ちに國家經濟に至大の關係を及ぼすものなり。而して或は天災の爲め、或は蟲害の爲め非常の荒凶を來し、時として幾多の人命を損ひしこと古來其例に乏しからず。思ふに天災なるものは人力の防ぎ得べからざるものとするも、蟲害に至りては其經過を捜り之れが習性を究め、之れが驅除の方法を講ぜば敢て其害を防ぎ得べからざるものにあらず。今仮りに平年の蟲害を半減し得るとするも實に貳參千萬圓の巨額に達すべし、豈思はざるべけんや。近來我國の人口著しく增加し、年々外國米の輸入を見るに至りしにも係はらず、莫大の禾穀を蟲害の爲めに減殺せらるゝが如きは實に遺憾の極ならずや。幸に此の昌代に浴するもの奮勵一番無窮に瑞穗の美名を損する勿れ。

（一七三）キリウジカヾンボ（Tipula parva, Loew.）　双翅類大蚊科に屬する一種にして幼蟲をキリウジといひ、稲苗及麥等を害するものなり。成蟲は形蚊に似て遙に大きく、肢は甚だ細長し。雄は腹端肥大

なれども、雌は尖れり。五月頃濕地に數百粒の卵子を産付す。卵は長橢圓形にして少しく曲り、先端に三角形のものを附着し全体黑色を帶ぶ。孵化の幼蟲は殆んど圓筒形をなして土色を呈し、毎節小黑點を整列す。腹端には車輪狀の氣門二個を有す。老熟すれば八九分の大さとなり、濕潤なる土中に於て蛹化す。蛹は圓筒形にして各節の後緣に數個の小突起ありて其末端にあるものは殊に大なり。此の幼蟲は苗代田に來りて苗の根を切りて大害を與ふることあり、然れども名和先生の實驗によれば生植物を食せざるにあらざれども其嗜好物は腐敗有機物なりと、されば苗代に來りて根を切斷するは匍行の際妨げとなるを以て切斷するものならん。之れを驅除するは頗る困難なれば、有機物肥料を多量に施さゞること及苗代田の周圍に深さ四五寸巾五六寸の溝を作り、苗代の水を落すも常に此溝に水に湛へ置けば其害を免れ得べし。（本誌第五十七號參看）

（一七四）ツマグロヨコバヒ（Selenocephalus cincticeps, Uhler.） 有吻目横蚑蟲科に屬する一種にして、稻作害蟲中イチノズヰムシに亞ぎ尤も恐るべきところのものなり、古來蟲害の爲め屢飢饉に陷りしは此の蟲の害に外ならず、近くは明治三十年に七千五百萬圓の害を與へしも亦是れ等の種類なり。年四五回の發生をなし幼蟲、蛹、成蟲等にて越冬すれども多くは幼蟲にて越年するを常とす。五六月頃苗代に來り稻の葉鞘内に産卵す。孵化すれば幼蟲は吸收口を莖内に挿入して稻の養液を吸收し、漸次生長して遂に成蟲となる。後又前の順序を經て繁殖するを以て、若し氣候適順なれば其繁殖實に甚しく、最初の一雌雄も秋に入りて萬を以て算ふるに至るものなれば、其加害の恐るべき推して知るべきなり。該蟲は横に這ふこと巧みにして、雄蟲は翅の褄黑きを以て此の稱あり。之れを驅除するには、苗代田に於て時

々三角形捕蟲器を以て掬殺して産卵せしめざるは勿論なれども、本田に於て發生多きときは一反歩一升内外の石油を散布し、其内に拂ひ落して驅殺すべし。此法は幼蟲の漸次生育するに從ひて石油の分量を增さゞれば死せざるを以て、孵化の際直ちに行ふを要す。成蟲にありては圓形捕蟲器を以て掬殺するを尤も有効なりとす。

（一七五）イチモジセセリ（Parnara guttata, B. & G.）　鱗翅類挵花蝶科に屬する普通種にして、後翅に普通四個の小白紋を一文字形に並列するを以て此の稱あり。五六月頃より稻田に來り饅頭形の卵子を一粒づゝ稻葉に産付す。幼蟲はハマクリムシ、ツトムシ、カジ、コウジウ杯の俗稱あり、初め一枚の葉を綴り、漸次生育するに從ひ數葉を綴りて其中に入り、多くは夜間出でゝ稻葉を食害す。其發生甚しきときは田面一帶に綴り合すて以を一隅を以て動かせば全面動搖すべく、遂に收穫皆無とならしむると珍らしからず。此害は八月頃に於て最も甚しく秋季發生の成蟲は群をなして山に入り、尙一回笹等に發生し、幼蟲或は蛹にて越冬するもの丶如し、翌年五六月成蟲は稻田に來り産卵すること前の如くにして年三四回の發生をなす、幼蟲の老熟したるものは体長一寸二三分に達し、淡綠色にして紡錘狀に近く綴葉中に於て蛹化す。蛹は初め黃渇色なれども漸次赤褐色となり、体細長くして尾端急に細まる。普通害蟲は風透しの惡しき處に發生するを常とすれども、該蟲は風透のよき處に多く發生す。是れ成蟲は風に向て飛翔するの性あればなり。之れを驅除するには大畑潰殺器の類を以て潰殺するか、或は飛驒地方に行はるゝ器具（六分板を巾三四寸長六寸位に切り四隅を少しづゝ落し其一隅に數本の竹櫛を嵌め中央に適宜の手を附けたる板二枚を作り其れを以て打ち合せて潰殺すると同時に竹櫛を以て捲葉を櫛解する器なり但左手に持つ板には竹櫛を作るの必要なし）等を以て驅除するを簡便なりとす。且步行蟲の或種

の幼蟲並に成蟲は共に此の幼蟲を捕食するものなれば、時々田面の水を落し、歩行蟲の出入に便ならしめば大にこの害を減ずることあり、其他蜂、蠅等の寄生することも尠なからず。

（一七八）イチノズキムシ（Chilo simplex, But.）鱗翅類螟蟲蛾科に屬し、稻作害蟲の首魁と稱せらるゝ一大害蟲にして、全國を通ずれば之れが被害高年々四千萬圓を下ざるべし。年二回の發生にして、五六月頃羽化の蛾は早きは苗代に於て産卵すれども、多くは本田に於て一塊に三四十乃至三百五六十粒づゝの卵子を稻葉の表面上方に産附す。孵化の幼蟲は糸を引きて四方に擴散し稻莖に蝕入す。稻の稍枯黃するに至れば漸次他莖に移りて食害し、八月頃老熟して莖内に蛹となり、次で羽化し葉裏の葉鞘に近き所に産卵するを常とす。孵化すれば其初め多くは一莖内に蝕入し、然る後漸次他莖に移るものなり。此の時害の多き莖は遂に白穗となり、稍害の輕きものは白穗とならざるも其結實充分ならず。漸次此蟲の生長するに從ひ莖の下方に蝕ひ下り、多少刈株の莖内に於て越冬すれども、多くは藁の内にて越年し、翌春藁の一方に小さき穴を穿ちて糸を掛け蛹化し、五六月羽化産卵すること如上記述の如し。此の蟲を驅除するに目下最も有効なりと稱せらるゝは採卵法と心枯切取法、白穗切取法との三者を繼續して行ふにあり、採卵を行ふには苗代田に於て行ふは勿論なれども、前に述べし如く苗代よりも本田の産卵最も多きを常とすれば、本田の採卵法を極力勵行せざるべからざるは當然のことなりとす。然れども往々苗代の採卵法のみを行ひ、本田の採卵を輕視し、後心枯白穗の多きに驚き採卵法の無效を訴ふるもの尠なからず、之れ實に思はざるの甚しきものにして寧ろ其心情憫むべきものなり。普通第一回の産卵は苗代田に於て二乃至四、本田に於て八乃至六の割合なれば、採卵法に於ても苗代田に三の力を用ふれは本田に於て七の力を盡さゞるべからざることを記臆せざるべからず、且卵には塲所に於て一定せざれども

四、五割は寄生蜂の爲めに斃さるゝものなれば、適當の方法を以て該益蟲の保護を圖らざるべからず。次に多少打漏れたるものは莖內に入り心枯となるべければ、是れ等の心枯を機を逸せず可成根元より切り取りて適宜撲殺すべし。尙打漏らしたるものは羽化して八月頃產卵すれども此の時に於て採卵を行ふは到底不可能の事なれば、白穗の出づるとき直ちに該白穗を切取りて撲殺すべし。若し切取の時期一日を遷延せば夫れ丈け效力を減少するものなるにより、機を見て直ちに切り取るべし。此の三者を協同して數年繼續せば終に螟蟲全滅の域に達すべし。抑も螟蟲の害たる全國を通ずれば其最たるものなるにも係はらず、其害の急激ならざる爲め往々これを輕視し、精神的の驅除をなさゞるを以て常に好果を擧ぐる能はず、延ひては方法其者の當を得ざるにあらざるなきかを疑はしむるものなきにあらず、然れども害蟲驅除の事たる如何に無缺の良法たりとも、驅除者に於て經過の大要を知り、習性を辨へ、細心注意して精神的に實行するに非らざれば到底好結果を得べからざるは當然のことなり、仮とへば等しく白穗一本を切り取るも時機によりては中に數十頭棲息するあり、一二頭に止まるあり、或は已に空虛なるありて其效果に至大の差異を生ずること明なり。採卵法、心枯切取皆然り、是れ驅除者が機を逸せず精神的に實行せざるべからざる所以にして、當所長名和先生が講話に或は本誌に、其他或は各種の機關に於て幾回となく痛言せられしも亦是れが爲めなり。當業者諸氏自ら進んで確實に實行し、宇內各國注視の中心たる軍國農民として遜色なからんことを切望して止まさるなり。

◎第一回岐阜縣昆蟲分布調査（一〇）

名和昆蟲研究所分布調査主任　小森省作

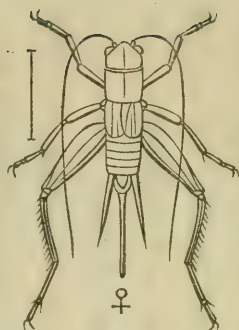
蟋蟀科（Gryllidae）、頭部大にして觸角は長く糸狀をなし、前翅は上面平たく體の兩側に於て垂下し、

雄蟲の翅脈は波狀をなし左右相擦合して特殊の美聲を發するを得べく、後翅は長くして縱に疊むも中には退化して之を缺くもの尠なからず、前中肢はノミバツタ及ケラを除き細く、後翅の腿節は細長きカンタンの類を除き能く發達膨大し、跗節は三節なり。腹端には二個の長き尾狀突起あり、雌蟲の產卵器は細長く鎗狀をなし斜に上方に向ふ。今回の調査に集まりしもの左の十二種にして、之が畧說は多く乾燥標本に就ての記載なれば其誤謬あるは到底免るべからざれば、讀者乞ふ之を諒せよ。

（一三二）ケラ（Gryllotalpa africana, Pall.）　全體褐色を呈し、觸角は長からず、複眼は稍卵圓形にして突出し、其中間の稍上部に二個の單眼を有す。前胸部は頗る大きく頭部を通じて卵圓形をなす。前肢は短大扁平にして其脛節及跗節の第一二節は鋸齒狀をなして鼹鼠のそれの如く變化し、前翅は長さ殆んど腹部の半にして、後翅は前翅より長く腹部より稍短かし。雌蟲は他種の如く產卵管を有せず。俗に蚯蚓の鳴くと稱するは此雄蟲の發聲なり。八郡に於て獲られたり。

（一三三）エンマコホロギ（Gryllus chinensis, Web.）　體長八分乃至一寸、頭部大きく球形にして顏面褐色に、後頭部は黑色にして光澤あり、複眼は楕圓形にして大きく黑色を呈し、單眼は頭頂及觸角の上部に於て三個あり、觸角は體より長く、前胸部は黑褐色に灰色の短毛を生じ、長さより幅に於て廣く殆んど頭部と幅を同じくし、二個の楔狀紋を有す。後肢の腿節は能く發達し、其脛節には二列に刺を有す。前翅は油質の光輝ある暗褐色にして腹部より稍短かく體側に於て垂下せる部は淡褐色を呈す。後翅は無色透明にして其脈は白色を呈し、細長く疊みて腹部の後方に出づ、腹部の背面は灰褐黑色を腹面は褐色を呈し、雌蟲の產卵器は褐色にして細く、腹部の長さより稍長し。岐阜、郡上及安八の一市二郡を除き十六郡に於て多數獲られたり。

（一三三）コホロギ(Gryllodes berthellus, Sauss.)　前種に似て少しく小形、頭部は圓形黑褐色にして顏面淡褐色の斑紋を有す、後頭部に短かき條斑あり。觸角は體よりも遙かに長く、複眼は稍楕圓形にして、單眼は頭頂の邊に三個鼎在し、前胸部は濶く黑褐色に褐色の不判明なる細斑あり、前翅は黑褐色にして雄蟲は波狀脈を有して腹部より稍短かく、雌蟲は雄蟲に比し尙短かくして腹部の三分の一を露はす。後翅は退化して小さく、肢は灰白色の地色に黑褐色の細斑を以て覆ひ、後肢脛節には二列に刺を有す。雌蟲の產卵器は褐色にして細く長さ五分內外あり。十四郡に於て獲られたり。

（一三四）クマコホロギ(Gryllodes blennus, Sauss.)　體長三分五厘乃至五分、黑褐色にして體の下面及肢は褐色に下顎鬚は白色を呈す。頭部は前種の如く圓く、觸角は體の二倍を有し、複眼は楕圓形、單眼は頭頂の邊に三個鼎在す。雄蟲の前翅は波狀脈を有し、雌雄共短かく僅か一分二厘にして腹部の過半を露出し、後翅は退化して頗る微小となれり。後肢の腿節は頗る太く、其脛節には二列に刺を有す。雌蟲の產卵器は細くして長さ三分餘あり。三郡に於て獲られたり。

♀

クマコホロギの圖

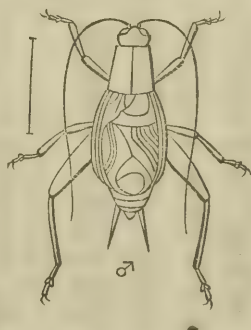
（一三五）ミツカドコホロギ(Loxoblemmus Haanii, Sauss.)　體長六七分、黑褐色にして雄の頭部は大に變形し、其顏面は額片、頰部及基唇板は上下左右に突出して斜に一平面となり、漆黑色を呈す。觸角は體よりも遙に長く、複眼は楕圓形にして單眼は額面に一個、觸角窩の上端に一個宛あり、後頭部の前半は漆黑色にして褐色の橫線あり其後半は灰黑褐色に褐色斑あり、前胸背は廣くして灰黑褐色に不判明なる褐色の細斑あり、前翅は腹部より稍短かく、雄蟲は波狀脈を有す。後翅は細く疊みて腹端の後方に出

づるも亦退化して痕跡を留むるに過ぎざるものあり。肢は灰白色にして黑褐色の細斑を有し、後肢脛節には二列の刺を有す。雌蟲は頗るコホロギの雌蟲に酷似せるも顔面稍平たくして黑く、前翅はコホロギに比し稍長く、産卵器は短かくして長さ三分あり。十一郡に於て獲られたり。

（一三六）オカメコホロギ（Loxoblemmus equestris Sauss.）　體長四五分、雄の顔面は前種に似て平たく斜に截りたるが如きも、頰部は前種の如く左右に突出せず、複眼は楕圓形にして單眼の位置は前種に異ならず。觸角は體より遙に長く其彩色紋理及雌蟲の形狀等は殆んど前種と異なる處なし。雌蟲の産卵器は細くして二分五厘内外あり。六郡に於て獲られたり。

（一三七）クマスズムシ（Scleropterus coriaceus, De Haan.）　體長四分内外、頭部は黑色圓形にして大ならず、複眼は圓形にして黑褐色を呈し、單眼は黃褐色にして觸角の稍上部頭頂の邊に三個並列せり、觸角は軀と同長黑褐色にして中央部灰白色を呈す。前胸部は黑色にして幅より縱に長く、後方に至るに從ひ稍濶し而して頭胸部には一面に微細なる凹窩を密布す。前翅は黑褐色にして體の殆んど三分の一を露出し、雄蟲はスズムシのそれの如く波狀の脈を有して上面幅廣く平たきも、雌蟲は然らずして全體圓筒形をなす、肢は各腿節黑褐色を呈し、脛節より末は灰黃色にして脛節の刺は極めて短微なり。腹部は黑褐色にして、産卵器は褐色を呈し、長さ二分斜に上方に向ふ。加茂郡に於て獲られたり。

クマスズムシの圖

♂

（一三八）スズムシ（Homoeogryllus japonicus, De Haan.）　體長五六分、全體黑色にして頭部は小さく、觸角は細長く體の二倍以上ありて基部二節は黑く、其より中央迄淡黃白色を呈し、中央より先端は黑褐

色を呈す。前胸背は短かく其中央部は凹みて灰褐色を呈す。前翅は黑褐色を呈し、雄蟲は大波狀脈を有して上面廣く平直をなし、側面は斜に內方に折れて腹側を覆ひ腹部の末端に到る。雌蟲は網狀脈を有して上面平かならず腹部の末端を露出す。後翅は退化して痕跡を留むるに過ぎず。肢は細長くして黃白色を呈し、腿節の先半は黑色を呈し、後肢脛節の後半に二三の刺を有し、跗節の第一節は頗る長し。雌蟲の產卵器は細く長さ四分ありて殆んど直立す。八郡に於て獲られたり。

(一三九)マツムシ(Colyptotryphus marmoratus, De Haan.) 體長六分餘、全體褐色にして頭部は球形をなし、複眼は卵圓形にして頭頂及觸角窩の上端に三個の單眼を有し、觸角は長く體の二倍以上あり、前胸背板の側面に曲折せる部は角をなして赤褐色を呈し、頭頂より背面中央縱に稍濃色條ありて其兩側に微かなる楔狀紋あり、雄蟲の前翅は前種の如く波狀脈を有し廣く平直にして腹部を覆ひ、雌蟲は網狀脈にして上部稍平かなり。後翅は長くして少しく腹部の後端に出づ、前中兩肢は殆んど同形にして餘り長からざるも、後肢は頗る長く脛節の後半に長刺を互生し、其跗節の第一節は太長くして末端に刺を有す尾狀突起は頗る長く、雌蟲の產卵器は長さ五分餘少しく上方に曲る。二郡に於て獲られたり。

(一四〇)ヒメクマスズ(Gn.? sp.?) 體長一分七八厘の微小種にして黑色を呈し、頭部は比較的大きく複眼楕圓形にして單眼は頭頂の部に三個鼎在し、觸角は黑色にして體より稍長く、下顎鬚は五節にして長く末端二節は白色を呈し、頭胸部には粗毛を生ず。雄蟲の前翅は波狀脈を有して腹部の先端を露はし雌蟲は之を疊みたる時翅端截りたるが如く、殆んど腹部の半を露出す。肢は帶褐黑色を呈し、尾狀突起は長くして產卵器は長さ七厘あり。二郡に於て獲られたり。

(一四一)マダラスズ(Gn.? sp.?) 形前種に似たる種にして體長二分內外、後頭部は褐色を呈し、下

は黑色を呈す。複眼は黑色楕圓形にして單眼は其間に三個あり、觸角は體より稍長く、胸腹部の背面は暗褐色に側面は黑色を呈し、雄蟲の前翅は波狀脈を有して腹端を露はし、雌蟲は先端截りたるが如く腹部の半を露出す。肢は灰白色にして黑色の判明なる斑紋を有し、雌蟲の産卵器は一分內外あり。六郡に於て獲られたり。

（一四二）ヒナササキリ(Gn.? sp.?) 體長三分乃至四分、頭部大にして額片隆起し、其後頭部と接する處は凹めり。複眼は卵圓形に隆起し、觸角は長く體の三倍以上あり。頭、胸、翅の背面及其側部の中央は縱に黑褐色を呈し、前胸背には二個の楔狀紋あり、前翅は短かく腹部の過半を露出し、後翅は退化して、頗る小さく、産卵器は體より長くして橫に平たく、上面黑褐色に下面褐色を呈す。肢は黃色にして前中兩肢は短かく、後肢は頗る長くして脛節の後半及跗節の第一節端に刺を有し、體形頗る螽蟖科のササキリに似たり。七郡に於て獲られたり。

以上十二種の採集郡別及頭數を表出すれば即ち左の如し。但し、△印は十頭以上

番號	種名	岐阜市	稲葉郡	羽島郡	海津郡	養老郡	不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	山縣郡	武儀郡	郡上郡	加茂郡	可兒郡	土岐郡	惠那郡	大野郡	益田郡	吉城郡
一三一、	ケラ	｜	｜	九	一	｜	二	○	｜	｜	｜	四	｜	三	｜	一	一	｜	｜	一
一三二、	エンマコホロギ	｜	八	△	八	△	△	○	四	三	三	△	｜	△	一	△	△	△	六	五
一三三、	コホロギ	｜	五	六	三	二	六	○	一	｜	一	△	｜	△	四	△	三	｜	一	二
一三四、	クマコホロギ	｜	｜	｜	｜	一	｜	○	一	｜	｜	｜	｜	｜	｜	一	｜	｜	｜	｜
一三五、	ミツカドコホロギ	｜	三	三	｜	一	五	○	三	二	三	五	｜	八	二	九	｜	｜	｜	｜
一三六、	オカメコホロギ	｜	｜	一	｜	｜	｜	○	｜	｜	｜	一	｜	｜	｜	四	二	四	｜	二
一三七、	クマスズムシ	｜	｜	｜	｜	｜	｜	○	｜	｜	｜	｜	｜	二	｜	｜	｜	｜	｜	｜

一三八、スズムシ　ー　ー　ー　ー　ー　一　六　〇　ー　ー　一　△　ー　六　二　ー　一　ー　一　ー
一三九、マツムシ　ー　ー　ー　ー　ー　二　〇　ー　ー　ー　ー　ー　ー　ー　一　ー　ー　ー
一四〇、ヒメクマスズ　ー　ー　ー　ー　ー　〇　ー　ー　ー　ー　ー　一　ー　一　ー　ー　ー
一四一、マダラスズ　ー　ー　ー　ー　ー　〇　ー　ー　一　一　ー　ー　五　ー　ー　一　一　ー
一四二、ヒナサキリ　ー　ー　ー　ー　ー　三　〇　ー　ー　二　八　ー　△　五　四　ー　ー　ー　二

正誤、前號に於て前胸片とあるは前胸背板、前胸板とあるは前胸腹板の誤りにつき茲に訂正す。

◎分類漫錄（小蜂科及卵蜂科の一）

（第八版圖參看）

在農事試驗場九州支場　中川久知

分類の科學に必要なるは茲に余の辨を俟たずして明らかなり、然るに本邦昆蟲學の現狀を見るに、斯學の輸入以來日尚ほ淺きが爲か、分類の事に至つては歐洲千八百四五十年の雜誌に比し、尙ほ之に及ばざるもの多きを知る、これ甚だ遺憾とする所なりとす。惟ふに邦文を以て記したる書中此類の記事乏しきが爲ならん。余不肖なりと雖も聊か外國の文字を解するを得るを以て、餘暇に分類の書を譯し、本邦産の昆蟲を其書によつて調査し、現時世に適切なるものと信じたるものは本誌に寄せて斯學研究者の參考に供せんとす。而して今回は寄生蜂中小蜂科、卵蜂科の兩科に屬するもの丶分類を記し、順次小繭蜂科姫蜂科のものに及ばんとす。

小蜂科、卵蜂科は往時 Pteromalini として一類に收めたり。左に掲ぐる索引表 Ratzeburg 氏の撰に係り撿索に至便なるものなりとす。

此類の形態は他の昆蟲と同じく頭部、胸部、腹部の三部より成るは勿論にして、唯だ異る所は胸部の四環節より成ることにして、其第四環節は腹部より進んで胸部の搆成に加はりたるものにて之を中間環節

と稱す(丙圖チク)。然れども學者は之を後胸として記載せるもの少なからず、其前位の三環節は卽ち前胸(丙圖ゼ)、後胸(同圖コケ)、中胸にして、中胸は前胸、後胸の間に位し最も廣大なる部分を占め前後の二板に分れ、前板は二個の溝によつて往々三區に分る、此溝(同圖ソ)を側溝と名く。もし前板が斯く三區に分るゝ時は、中央を中區、左右を側區と云ひ或は肩胛部と稱す。後板は中央部凸まり稍々三角形をなし、左右は溝を以て中央部と分るゝ事往々これあり、然るときは左右を腋部と名け、中央を後板とす、後胸は又た帶狀部と名くることあり。翅は二對あるを常とすれども罕には無翅のものあり、翅脈は簡單にして亞前脉(甲圖アゼ)、前脉(同圖ゼン)、外脉(同圖ガミ)、及び枝脉(同圖シミ)の諸部を具へ、前脉と亞前脉の相繫る所は(同圖ツ)時として毛を束狀に生ずることあり、肢は素より三對ありて各々基節(乙圖キ)、回轉節(同圖ク)、腿節(同圖タイ)、脛節(同圖ケイ)、跗節(同圖フ但し跗節は唯だ上部のみを記したるものにてフは第一節なり)の五部より成り、跗節は四五節のもの多く三節のものは罕れなり、或は時として前後節數を異にするものあり。

蜂の外部構造の圖

圖解 (アゼ)亞前脉(ゼン)前脉(ガミ)外脉(シミ)枝脉(ツ)前脉と亞前脉の相繫る点(ヘ)枝脉の柄(ト)枝脉の頭(シヨ)觸角(ソ)中胸の側板(キ)肢の基節(ク)回轉節(タイ)腿節(ケイ)脛節(オ)眼(セ)小眼(チ)中區(コ)中胸後板(エ)腋部(コケ)中胸後板(チク)中間環節(カ)顏面(ホ)頰(ジ)楯板(タ)大顎(カシ)下顎鬚(ハシ)下唇鬚

小蜂卵蜂兩科諸屬索引表

(一)亞前脉と前脉の相繫る點に剛毛束あり ……………… Sciatheras屬

(二)亞前脉と前脉の相繋る點に剛毛束なし……………………………………………………(三)(四)
(三)枝脉を闕き翅の周圍に長毛あり……………………………………………………(五)(六)
(四)枝脉存在す、假令枝脉を闕くも(七圖)翅の周圍に長毛なし……………………(九)(一〇)
(五)腹部の根基部に柄なし……………………………………………………Anaphes(アナフエス)屬
(六)腹部の根基部に柄あり……………………………………………………(七)(八)
(七)肢は四跗節を有す……………………………………………………Polynema(ポリチマ)屬
(八)肢は五跗節を有す……………………………………………………Ooctonus(ウークトーナス)屬
(九)翅に緣紋存在す……………………………………………………(一一)(一二)
(一〇)翅に緣紋を闕く……………………………………………………(一三)(一四)
(一一)雄の觸角に美麗なる櫛齒狀の枝あり……………………………………Dendroceras(デンドロセラス)屬
(一二)觸角は糸狀をなし又は僅に齒狀の突起あり……………………………Ceraphron(セラフロン)屬
(一三)亞前脉短くして翅の前緣に達せずして畢り或は根基より翅の前緣に沿ふて走行する
を以て前脉と區別すべからず……………………………………………………(一五)(一六)
(一四)亞前脉は翅の前緣に達し前脉と角度をなして相繋れり…………………(一九)(二〇)
(一五)亞前脉は翅の前緣に達せずして畢り、一枝を發す……………………Platygaster(プラチガスター)屬
(一六)亞前脉は其根基部より末端に至るまで翅の肥大したる前緣と合一し前脉と區別する
事能はず……………………………………………………(一七)(一八)
(一七)枝脉は長くして曲れり……………………………………………………Hadroceras(ハドロセラス)屬
(一八)枝脉は短くして顯著ならず……………………………………………………Aneure(アニユーレ)屬
(一九)枝脈は亞前脈と前脈の相繋る所より發し(八、九、一〇圖)或は闕如す……………(二一)(二二)
(二〇)枝脈は亞前脈と前脈の相繋る點よりも外方より發す……………………(三一)(三二)

(二一一)枝脉長し……(二一三)(二一四)

(二一二)枝脈短く或は闕如す(八圖)……(二一五)(二一六)

(二一三)枝脉は直線をなす……Teleas(テリアス)屬

(二一四)枝脉は曲線をなす……Ophioneurus(オフヒオニユーラス)屬

(二一五)中胸の側板は膨脹せず枝脈より一距を發す(一一圖)……Diapria(ダイアプリア)屬

(二一六)中胸の側板は膨脹す(乙圖)……(二一七)(二一八)

(二一七)腹部は左右より壓迫せらたるが如く扁平となる(側扁す)(一〇圖)……Copidosoma(コピドソマ)屬

(二一八)腹部は常形にして側扁せず……(二一九)(二三〇)

(二一九)頭部及胸部に凹窩を散布す(六圖)……Bothriothorax(ボスリオソラツクス)屬

(二三〇)頭部及胸部に大形にして深き凹窩を散布せず(四圖)……Encyrtus(エンサータス)屬

(二三一)腹部に大形にして深き凹窩を印す(一二圖)……Siphonura(サイフホニユーラ)屬

(二三二)腹部に大形にして深き凹窩を印せず……(二三三)(二三四)

(二三三)中胸側板膨脹す……(二三五)(二三六)

(二三四)中胸側板膨脹せず……(二四一)(二四二)

(二三五)中肢の跗節は肥大し下面に棘を具ふ……(二三七)(二三八)

(二三六)中肢の跗節は著しく肥大せず……Coccobius(コツコビアス)屬

(二三七)枝脈の發達微弱にして一點を爲すに過ぎず……Stenocera(ステノセラ)屬

(二三八)枝脈に柄部と頭部とを認知するを得べし……(二三九)(二四〇)

(二三九)産卵器は腹端を超ねて長く後方に突出す……Eupelmus(ユーペルマス)屬

(二四〇)産卵器は腹端を著しく超過せず……Eusandalon(ユーサンダロン)屬

(二四一)肢に四跗節あり……(四一)(四二)

(四二)肢に五跗節あり……(五三)(五四)

(四三)觸角の鞭狀部は葉狀に擴張し其長さは幅の三四倍に過ぎず(一三圖)……Telegraphus屬

(四四)觸角の鞭狀部は其長さ幅に數倍す……(四五)(四六)

(四五)觸角の鞭狀部(雄)は長毛に圍擁せらる(一四圖)……Geniocerus屬

(四六)觸角の鞭狀部は單に毛を生するのみ……(四七)(四八)

(四七)腹部の根基部に柄あり(少くも雄に於ては)(一五圖)……Elachestus屬

(四八)腹部の根基部に柄なし……(四九)(五〇)

(四九)觸角の鞭狀部に三個の枝ありて櫛齒狀に並列す(雄)(一六圖)……Eulophus屬

(五〇)觸角の鞭狀部に櫛齒狀の枝なし……(五一)(五二)

(五一)產卵器は後方に長く突出す……Lonchentendon屬

(五二)產卵器は顯著ならず……Entedon屬

(五三)胸部に凹窩を印す(二一a二一b圖)……(五五)(五六)

(五四)胸部に凹窩なし……(五七)(五八)

(五五)腹部の根基部に柄あり、鑛物の光彩なし……Eurytoma屬

(五六)腹部の根基部に柄なく、鑛物の色彩あり……Perilampus屬

(五七)產卵器は突出して腹部の一半よりも長し……(五九)(六〇)

(五八)產卵器は隱伏す、假令突出するものあるも腹部の一半よりも短し……(六三)(六四)

(五九)觸角は末端に向て漸次著しく肥大す(一七圖)……Roptrocerus屬

(六〇)觸角は著しく肥大せず……(六一)(六二)

(六一)枝脉は小形の突起に過ぎず(一圖)……Torymus屬

(六二)枝脉は膨大したる頭部より成る(二〇圖)……Megastigmus屬

(六六三)觸角の末端に一尖起あり(二一圖)……Storthygocerus屬
(六六四)觸角の末端は鈍頭をなす……(六六五)(六六六)
(六六五)腹部の根基部に柄あり(三a、三b圖)……(六六七)(六六八)
(六六六)腹部の根基部に柄なし……(七一)(七二)
(六六七)枝脉短く頭部顯著ならず……Prosacantha屬
(六八)枝脉長く頭部顯著なり……(六九)(七〇)
(六九)觸角短く、節間相距り、急に肥大す……Asaphes屬
(七〇)觸角長く、節間短縮して節々接着し、漸次に肥大す……Chrysolampus屬
(七一)中肢(雄)の脛節に葉狀の一突起あり(一九圖)……Mesopolobus屬
(七二)中肢の脛節に葉狀の突起なし……(七三)(七四)
(七三)中肢の脛節濶大なり(一八圖)……Platymesopus屬
(七四)中肢の脛節濶大ならず、常形をなす……(七五)(七六)
(七五)後肢の脛節に二個の距あり……Cleonymus屬
(七六)後肢の脛節に一個の距あり……(七七)(七八)
(七七)中胸前板は側溝によつて三區に分かたる(丙圖)……Tridymus屬
(七八)中胸前板は三區に分かたるゝことなし(五圖)……Pteromalus屬

(注意)　(三三)(三四)の中胸側板を見んとするときは、先づ蟲を横に倒し、前翅の付け根より腹面に至るまでの間にして、前肢と中肢の間の部分が圓く膨れたるか或は扁たき乎を區別すべし、扁たきものには多少の凹み又は溝あるものとす。

右の索引表は一千八百五十二年に出版せしものにて、今日にては少し古き感あれども、本邦今日の昆蟲學の程度にては至極適當なるものと信ず。然れども屬名に於て爾後の學者は之を訂正したるもあり、或は

一屬を數屬に分けたるものあるを以て、左に右諸屬の異名を掲げ、更に其宿主の何たるを記し研究者の便に供すべし。又もし右の表にて調査したる寄生蜂に右の屬名を附せんと欲せば、屬名の次に細字にてRatzeburgと記すべし。然るときは其屬はラッツブルグ氏の所定なること判然するがゆへに、今日に於て假令其屬名變更したるものありとも決して研究者の誤とならざるものなりと心得置てよし。

異名表

ラッツブルグ氏の屬名	異名
Sciatheras.	Cerocephala Westwood.
Anaphes.	
Polynema.	
Ooctonus.	
Dendrocerus.	Lygocerus Förster.
Ceraphron.	Megaspilus Westwood.
Platygaster.	Amblyaspis Förster.
Hadroceras.	Ceraphron Jurine.
Aneure.	Elasmus Westwood.
Teleas.	Telenomus Haliday.
Ophioneurus.	Poropoea Förster.
Diapria.	
Copidosoma.	
Bothriothorax.	Phaenodiscus Förster.
Encyrtus.	Aphelinus Dalman, Phaenodiscus Förster, Rhopus Förster, Habrolepis Föerster, Microterys Thomson, Eucomys Förster, Copidosoma Ratzeburg, Litomastix Thomson, Homalotylus Mayr, Ericydnus Walker, Ageniaspis Dahlbom, Aphycus Mayr, Blastothrix Mayr.
Siphonura.	Ormyrus Westwood.
Coccobius.	Aphelinus Dalman.
Stenocera.	
Eupelmus.	Eusandalum Ratzeburg.
Eusandalon.	
Telegraphus.	Cerapterocerus Westwood.
Genioceras.	

Elachestus. (エラクスタス)	Pleurotropis (プリユーロトロピス) Förster.
Eulophus. (ユーロフアス)	Hyperteles (ハイパーテレス) Förster, Tetrastichus (テトラスチカス) Haliday, Entedon (エンテドン) Dalman, Olynx (オリンクス) Förster, Cratotrechus (クラトトレカス) Thomson, Microplectron (ミクロプレクトロン) Dahlbom, Miotropis (ミオトロピス) Thomson, Cirrospilus (シロスピラス) Westwood.
Lonchentendon. (ロンヘンテンドン)	Aprostocetus (アプロストセタス) Westwood.
Entedon. (エンテドン)	Euderus (ユーデラス) Haliday, Hyperteles (ハイパーテレス) Förster, Tetrastichus (テトラスチカス) Haliday, Secodes (セユーデス) Förster, Sympiesis (シムピーシス) Förster, Eulophus (ユーロフアス) Geoffrey, Elachistus (エラキスタス) Spinola, Cirrospilus (シロスピラス) Westwood.
Eurytoma. (ユーリトマ)	Isosoma (アイソソマ) Walker,
Perilampus. (ペリラムパス)	
Roptrocerus. (ロプトロセラス)	
Torymus. (トリマス)	Oligosthenus (オリゴスセナス) Förster, Syntomaspis (シントマスピス) Förster.
Megastigmus. (メガスチグマス)	
Storthygocerus. (ストルシゴセラス)	Rhaphitelus (ラフヒテラス) Walker.
Prosacantha. (プロサカンサ)	
Asaphes. (アサフエス)	
Chrysolampus. (クリソラムパス)	
Mesopolobus. (メスポロバス)	
Platymesopus. (プラチメソパス)	Eutelus (ユーデラス) Walker,
Cleonymus. (クレオニマス)	
Tridymus. (トライダイマス)	
Pteromalus. (プテロマラス)	Habritys (ハブリチス) Thomson, Stenomalus (ステノマラス) Thomson, Caenacis (シーナシス) Förster, Trichoglenus (トリコグレナス) Thomson, Dibrachys (ダイブラキス) Förster, Schizonotus (シゾノータス) Ratzeburg, Rhopalicus (ロパリカス) Förster, Eupelmus (ユーペルマス) Dalman, Homoporus (ホモポラス) Thomson.

宿主表

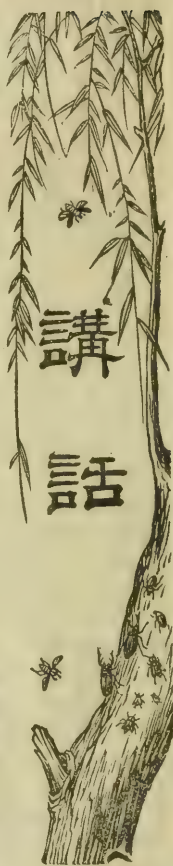
屬名	宿主	屬名	宿主
Sciatheras. (シアセラス)	穿孔甲蟲の類	Polynema. (ポリネマ)	鳳子蝶の類
Anaphes. (アナフエス)	穀蛾類	Ooctonus. (ウークトーナス)	未詳

Dendrocerus.	タマバチの類
Ceraphron.	(鱗翅目)ツノケムシ蛾、ハマキ蛾、穀蛾類(双翅目)ヒラタアブの類、タマバイの類(半翅目)蚜蟲(鞘翅目)穿孔甲蟲の類
Platygaster.	(双翅目)タマバイの類(膜翅目)セグロアカハバチの屬、カベジカクシハバチの屬其他鱗翅類
Hadroceras.	(鱗翅目)穀蛾の類(双翅目)タマバイの類(鞘翅目)象鼻蟲の類、
Aneure.	ミノムシの類
Teleas.	(鱗翅目)穀蛾の類、蠶蛾の類、天蛾の類、ツノケムシの類、ウメケムシの類(膜翅目)タマバチの類
Ophioneurus.	ハマキゾウムシの類
Diapria.	(鞘翅目)象鼻蟲の類(双翅目)タマバイの類
Copidosoma.	鱗翅目
Bothriothorax.	(双翅目)タマバイの類(鞘翅目)キクヒムシの類
Encyrtus.	(鞘翅目)テントウムシの類、オトシブミの類(双翅目)タマバイの類(半翅目)介殼蟲の類(鱗翅目)穀蛾の類、ネキリの類、アワノヨタウムシの類、キヽモンテフの類、ベニシタバの類、マツケムシの類、蠶蛾の類(膜翅目)ハバチの類
Siphonura.	(膜翅目)タマバチの類(双翅目)タマバイの類
Coccobius.	介殼蟲の類
Stenocera.	未詳
Eupelmus.	(鞘翅目)象鼻蟲の類、キクヒムシの類、穿孔甲蟲の類、天牛の類ヒゲゾウムシの類(双翅目)タマバイの類(膜翅目)タマバチの類(鱗翅目)ミノムシの類(膜翅目)セグロアカハバチの類
Eusandalon.	タマムシの類、象鼻蟲の類、穿孔甲蟲の類
Telegraphus.	介殼蟲の類
Geniocerus.	(膜翅目)タマバチの類(双翅目)タマバイの類(鱗翅目)ハマキの類
Elachestus.	(鱗翅目)穀蛾の類、ハマキ蛾の類(膜翅目)タマバチの類(双翅目)タマバイの類(鞘翅目)象鼻蟲の類
Eulophus.	(鱗翅目)穀蛾の類、葉卷蛾の類、毒蛾の類、ホフグロテフの類、八ノ字キリの類、ヨトウムシの類、キンモンテフの類、シリア

屬	宿主
	ゲムシの類(膜翅目)タマバチの類、小繭蜂の類、セグロアカハバチの類(鞘翅目)象鼻蟲の類、穿孔甲蟲の類(双翅目)タマバイの類、カヾンボの類
Lonchentendon.	タマバチの類
Entedon.	(膜翅目)タマバチの類、セグロアカハバチの類、クロアナバチの類、チウレンヂバチの類、ヒラタハバチの類(鱗翅目)穀蛾の類ピストルミノムシの類(鞘翅目)ヒゲゾウムシの類、ヂンガサムシの類、天牛の類、キクヒムシの類(双翅目)カヾンボの類、蠅類
Eurytoma.	(鞘翅目)タマムシの類、穿孔甲蟲の類、天牛の類、(膜翅目)セグロアカハバチ類、タマバチの類(双翅目)タマバイの類(鱗翅目)ブランコムシ蛾の類
Perilampus.	カブラバチの類
Roptrocerus.	穿孔甲蟲の類
Torymus.	(鱗翅目)エゾシロテフの類、キンケムシテフの類、ハマキ蛾類(膜翅目)マツノクロハバチ類タマバチの類(双翅目)カヾンボ類
Megastigmus.	(双翅目)タマバイの類(膜翅目)タマバチ類(鱗翅目)ハマキ蛾類
Storthygocerus.	穿孔甲蟲の類
Prosacantha.	未詳
Asaphes.	(半翅目)蚜蟲(鞘翅目)象鼻蟲類、
Chrysolampus.	(半翅目)蚜蟲(鱗翅目)毒蛾科
Mesopolobus.	タマバチの類
Platymesopus.	タマバチの類
Cleonymus.	未詳
Tridymus.	(膜翅目)セグロアカハバチの類(双翅目)タマバイの類(半翅目)介殼蟲の類、蚜蟲の類
Pteromalus.	(鞘翅目)キクヒムシの類、象鼻蟲の類、穿孔甲蟲の類、天牛の類、タマムシの類(双翅目)蠅の類、タマバイの類(膜翅目)タマバチの類、小繭蜂の類、姫蜂の類、ハキリバチの類、キンバチの類、セグロアカハバチの類、マツノクロハバチの類、クシヒゲハバチの類、アカバチの類(鱗翅目)毒蛾の類、穀蛾の類、蠶蛾の類、ハマキの類、アゲハテフの類、ヒオドシテフの類、モンシロテフの類、ズキムシ蛾の類(半翅目)介殼蟲の類

宿主の名はみな成蟲の名稱を用ひたれども、寄生蟲は成蟲に寄生するものは殆んどこれなく、卵、幼蟲、蛹にのみ寄生するものと知るべし。

理學博士　松村松年

◎昆蟲雜話

本編は理學博士松村松年氏が昆蟲採集旅行の途次先月中旬來所せられ、其際當所員及び研究生等の爲めに特に一場の談話を試みられたれば其要領を筆記したるものにして、固より不完全は免れざる所、句調の拙劣は勿論、誤脱ありて或は其意の違ふ所もあらん、是等の責は固より筆記者にあり、讀者之を諒せよ。(所員石田和三郎筆記)

今晩は只茶呑話として自分の脳に浮び出でたる事を暫く話しませう。固より雜談の事ですから諸君の筆記する程の事はありませぬ。

私が獨乙留學の途次日本を出發して先づ柴棍に行きました、此土地には長崎鳳蝶や一文字鳳蝶が澤山居りました、又鳳蝶の如き形で後翅は丸くして蛇の目の紋がある所のモリフヒデーの種類も居りました。又新嘉坡にては蟻が非常に多く山を造りまして栖息しまして甚しき勢であります。之を捕へ樣と致しますと直に嚙み付きます。此蟻は足が余程長いのです。此の蟻の爲に害せらるゝものにや歩行蟲の如きものは一頭も見當りません、最も此の歩行蟲なる者は寒帶地方に多く居るものにて、我國の北海道などには澤山居りますが、此近邊とても多少は居らなければならぬのであります。或は此蟻の餌食となりて撲滅せられたのではありますまいか。航海中には日本で云へば家蟻に能く似たる蟻が船中に巣を作ッて種々の物を害しますから非常に困難を感ずることがあります。私も此の蟻の爲に大切の標本を害せられました。其れから歐羅巴へ行き昆蟲界の有樣を見ますと、某氏は何類、某氏は何科と各自分業的に研究せられて居りますから、其調査も隨て細密に渉り意外に進步發達の狀を呈して居る、勿論昆蟲學なる者は其範圍が頗る廣くありますから、是非共分業的に一科一類と專門でなければ到底十分なる研究は出來ませぬ。又歐洲にては一般に雜誌は研究上の好資料として頗る貴んで愛讀するが、書籍は之と反對で只雜誌の抜書き位のものであるとして餘り重きに置かぬのです。其れに私は前申す樣な廣い學問でも研究せようと思ひて試に其の意志を或る人に語りますると、學名のあるものでも三十五萬種程もある宏大無邊な

ぐ昆蟲學全体を一人で研究せようと云ふは、如何に日本人でも余り大膽であるが、而し其位な心で研究したならば幾分かは調べる事が出來るだろうと申して笑はれたとがありました。其後伯林大學に入り昆蟲學の講義を聞きました處が、其講義は思の外簡易で大抵は承知して居る事のみでしたから、其處も止めて、大學敎授の宅に至りて研究をしました。此國の昆蟲學者としては大學敎授中にはカルシユ氏が鱗翅類、クルカツ氏は半翅類、ベツク氏は蠅と云ふ樣に專攻學者が七人居り、各自皆助手二三名を使つて研究して居り、伯林博物館には甲蟲學者にてコルベ氏と倘外に一人居ります。其他ホルン氏の斑猫、セバイ氏の鱗翅類等の專門的學者が輩出して攻究調査して居るを以て、其の進步の狀は推して知るべしです。是と同時に又一方には昆蟲學會が各所に組織せられて、孰れも有力家を會長に押して互に敗けず劣らず會員の增加に務め且熱心に研究せられるのであります。

獨乙人は少年の時より不撓不掘の精神を以て一心不亂に研究するので、且最も呑氣に、少しも焦ると云ふとは致ませぬ。今一例を申しますれば、獨乙の學生は朝八時か九時半頃より學校に出て行き勉强に取り掛ると一生懸命に勉强をする、日本人の樣に晝食などを食して緩々としては居らぬ。只焦らずに勉强しながらパンを嚙んで居る。而して老人でも皆此の風です。顯微鏡を見ながらもパンを嚙ると云ふ樣な風で、午後三時頃迄は勉强する、其後は任意の行動をとるのである。業務終れば共々に一所に會して食事をなし、玆にて終日の勞を慰め、其焦つて急速に事を處すると云ふとは決して獨乙人の好まざる所である。又大學敎授のみにて組織せられたる博物硏究會がある、此會の如きも實に呑氣なもので、其初よりビールを傾けつゝ持ち來たれる昆蟲標本を一同に廻覽し、其內珍らしきものに注目する位の者である。所謂理屈的感念を去りて實物により最も愉快に硏究すると云ふが獨乙人の特性であります。斯樣な研究の仕方でありますから、其土台は實に堅いのである。獨乙が今日の如く進步せしは、一は普佛戰爭の時佛國に勝ちて後各方面に向て注意を促がせし結果であろうが、又一つは前述の次第が一大原動力となりしものならん。

日本は其れに比較すると表面上は餘程何事も發達して居る樣な者の內部は實に脆い者である、其れも其筈で日本が僅か二十年前から漸く今日の如くに立ち至つたのは餘程焦つてやらなければならんのである其れだから昆蟲標本なども二十年以來のもので、其以前のものは殆んどありませぬが、獨乙などには數百年以前の昆蟲標本も保存せられてあり、此中には隨分貴重な標本もあります。而しながら昆蟲の學名

には獨乙で未だ解らんものが澤山あります。然るに墺國の方は獨乙よりも古く開け、有名なる昆蟲學者もあり、殊にウキンナの博物館は世界に於ける最も古く、其の陳列品の如きも世界第一なるを以て昆蟲標本の如きも多く所藏せられ、日本の昆蟲類も澤山あります。學名は大抵附き居りて昆蟲學研究者には大に便利であります。此の館長も亦昆蟲學者で膜翅類の專門家であります。同館陳列の日本昆蟲類は多くは墺國公使館員が日本にて採集して販られたるものらしく、又買求めたるものも多くあります。又樞密院顧問官でブルンナー氏と云ふ昆蟲學者は直翅類の專門家であります。此の人の所藏の昆蟲標本を墺國政府にては一萬五千圓にて買受けました。メリシャ氏は半翅類の專門家殊に世界浮塵子の泰斗であります。氏は醫學博士にして齒科醫なりしが衛生局の官吏を奉職し傍ら浮塵子を研究せし人で、其の研究も晝間は多忙の身なるを以て夜間にランプの光線を凸鏡を以て集中し其燒点の處にて浮塵子の生殖器を調査して分類したるのである、最も浮塵子類の分類は雄の生殖器に凹みたる所で分類をするのです。其他にもフキーバー氏は控訴院に奉職の傍ら研究せられましたが、何分歐洲にて純正の昆蟲學丈を研究するのでは到底生計を立てゝゆく事が出來んから、先づ生計を立つべき途を求めて其餘裕の時間を利用して研究するので、假令ば標本を販賣するとか、官衙公署に奉職の傍ら調査するとか、或は醬油販賣の傍ら研究する等にて研究して居ります。日本にても矢張其通りで、私なんども止むを得ず學校の講座を受持ながら研究して居ります。次に匈牙利は今より一千百年程昔歐洲に入り、今は墺地利の屬國となつたが何事も元氣にやることなどは日本に能く似て居り、日本人には頗る同情を表して居ります。私は同國よりの依頼により暫く足を留めて同國の浮塵子を分類しましたが、茲の博物館には浮塵子の種類などは實に多くあります。茲に居るクサンツ氏と云ふは日本へ採集に來たことがある、又白蠟蟲科の內の大きな長さ一寸餘もあるウンカを持て居ります。此國には立派なる昆蟲學者もありますから今後十年には必ず世界に芽を吹きだす樣になるでせう。私は露國へは未だ行きませぬが、露國のモッチョロスキー氏は日本の昆蟲を余程持て居れ共此人は未だ日本へは渡航したることはありませぬ。故に是れは樺太事件の當時商人及び其他の人々等が日本へ來た時採て歸つたものらしく思はるゝ。又ヤンロー氏は此國の半翅類の專門家である。英吉利の博物館は東洋の昆蟲が澤山あり、其種類も亦澤山ありますれど實に不整頓にして調査困難である、是等は始め英國政府にて昆蟲一種を記載すれば壹圓五拾錢、壹屬なる時は拾圓の金を與へると云ふ樣な工合であつたから、調査するものも成るべく種類の多きが利あるを以て變種なども別名

を付けたのが一の原因である、日本の昆蟲は茲にも多くあります。日本の鱗翅類を能く知て居るリーチと云ふ人がありますから英國でも日本の昆蟲を調べるには極都合が宜しい。其他昆蟲學界に名ある昆蟲學者としてはオ、レル氏の蟻、英國ワインハム氏の小蛾、墺地利ギルバーエル氏の甲蟲類、膜翅類の泰斗と云ふべくして年齡百歲に及べるマクラクラム氏、白耳義のカンテツ氏は叩頭蟲、佛國のレジマン氏は水棲昆蟲等であります。亞米利加は日本の如く輓近に開けたる所なれ共古より其國富裕にして金力を惜まず、昆蟲標本の如きも諸方より材料を蒐集し居るを以て、今日の處では完全に發達して居ります。其れから昆蟲の分布に就て少し申ますれば、日本の昆蟲の五割は撒拉利亞、中央亞細亞邊に多く分布し居るを以て日本で採集したもので珍らしきものにても早速に新種として學名を附する事などは實に危險千萬である、歐洲は昆蟲割合に少く、學名の付きたる全体にても今日の處七八萬程ですが、其の中甲蟲が三萬種位ある。浮塵子類の泡吹蟲は歐洲に二十三、日本に四十で其內アホロホラは歐洲四日本に二十以上です。其日本に多きは本邦は溫帶で植物の種類が多くあるに起因するのであろをが、又撒拉利亞が太古熱帶であつた時に、共に棲息せし動物は氷河が南流し來て多くの動物はウラル山を越へて歐洲に、ビーリング海峽を經て北亞米利加に至るものもあり、或はヒマラヤ山を越へ印度に至りなどしたるものであるが、其時日本へも移て來たものであろう。其樣になつて各所に分布する樣になつたのである。其れだから今日四國に居る猿と、中央亞細亞に居る猿と、印度に居るものとは大同小異であると云ふ風である如く、又交通の便利になるに隨て一國の害蟲は世界の害蟲となる、假令ばケラなども初めは印度に居りしものが支那から日本へと漸次移りし如く、又ザンホゼー貝殼蟲の如き。米國より日本へ來るが如く、今後も世界の進步と共に世界中の害蟲は皆何れも分布する樣になるだろうと存じます。

◎八齡を爲すハラアカシロタヘに就て

名和正

鱗翅目即ち蝶蛾類の幼蟲は大抵世人一般に蠶の如く四眠起即ち五齡にして幼蟲期を終るものゝ如く考ふる者多き觀あるも、實際に於ては斯る單純なるものにあらずして、歐洲に於ては少なきは三齡多きは八齡の多き齡を重ね蛹化するもののあるを聞けり。現に本邦に於てもセスヂスヾメの如きは四齡、茶毛蟲の如きは七齡にして蛹化するとは既に知らるゝ所なるも、余は爰に最も普通に存在する所のハラアカシロタエ（一名ハラアカカシロガ）が八齡の多き齡を重ね蛹化するとを發見せり。仍て茲に其の經過を世に紹介

せんとす。抑も此の飼育を始じめたるは明治三十七年六月十七日、余が庭園を散歩し、偶々桃樹の葉裏に於て三四十粒を一塊として産卵しあるものを採集飼育せし結果なりとす。

卵、卵は葉裏に於て三四十粒を一塊として附着しあり、一粒の形状はほゞ球形をなし、色は黄乳白色にして孵化前に至り少しく黑味を帶ぶ。

第一齡、午後二時頃卵殼の上部を食ひ破りて出づ、體長七厘黑色の細毛を有す、此者二日目に至り橙黄色となり、常に群集して桃葉の表裏何れかの表皮及び葉綠質を食す。是等の歩行する時は常にウメケムシの幼蟲が異動するごとに吐糸して進行する如く、僅かの糸を吐きて歩行す。此もの眠に着く前に於て今迄で食し居れる不潔の葉を辭し、新鮮にして比較的暗き所の葉に密集して眠る。

第二齡、體の全部に黄褐色と白色の毛を混生し、第四及び第十關節の亞背線部に於て各一對づゝの黑點を生ず。歩行は一齡に比し活潑にして爲めに群集することなけれども眠期前に於て全く集り、後眠に着く

第三齡、體は橙黄色に少しく綠色を帶ぶ、若し之に觸るれば體を一時彎曲して後非常に活潑に歩行する性を有す。

ハラアカシロタヘの圖

♀

第四齡、體長三分二厘となりて、第二及び第十一關節の亞背線部に於て第二齡に生じたるものと同じき各一對の黑點を生ず。

第五齡、本齡は別に變化なし。

第六齡、此期の幼蟲の各關節間は淡綠色を帶ぶ、然れども眠期に於ては此の淡綠色部は認め得ずして體色濃厚となる。

第七齡、體毛は頭部及び尾部に於て長く、中央部は短し。又此兩端に於て特別に長き白毛四五本づゝを有す。尚本齡の始じめに於ける蛻皮に就て少しく記さん、蛻皮十時間前より新生毛は各關節の間に於て束となり黑色に見え、宛がら金箍を箝めたる如く見え、蛻皮したる當時は黄白色の毛に多量の水氣を帶び互に先端に於て附着しをるにより、幼蟲は頭部を上下左右に動し、毛と毛とを摩擦せしめて之を捌く、此時未だ頭部及び腹部は黄乳白色を呈す。

第八齡、本齡に至り一層多くの黄金色を有する細毛を密生し、爲に前後四對の黑点は認め難きに至る。本齡の終りに至り體長一寸五分となり、二日間餘は巣を營む

場所を見出す爲にや飼養箱内を上下左右に歩行し、遂に枯葉の暗き所に於て土塊及小石を以て稍完全なる巣を營む。是より三日を經へて蛹化す。今左に各齡日數及び各齡最初の体長を比較表として之を掲ぐ。

	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	第六齡	第七齡	第八齡
各齡日數	五日半	四日半	三日	四日	六日	六日	八日	八日
各齡最初の体長	七厘	一分六厘	二分一厘	三分二厘	四分	六分	八分	一寸一分

此の幼蟲は薔薇科植物の桃、梅及び桑科の桑等を最も良く好み、其他種々の植物を食す、現に薔薇科植物と最も縁の遠き天南星科の芋の葉にも産卵し有るを見受たり。

蛹、蛹は長さ六分二厘にして中央部の幅二分六厘なり、蛹化當時は淡黄褐色にして、漸次褐色となり、終りに黒褐色となれり。十五日を經て羽化す。

成蟲、此ものは鱗翅目中鵞蛾類燈蛾科に屬するものにして、体長五分三厘、開翅一寸五分、翅は前後共に白色にして少しく黄色を帶び、前翅の中央後縁に近く二個の黒点を有し、腹部の上半面は赤色にして背部は縦に潤き黒紋列を有す。頭胸及び腹の下半面は翅と同色をなし、腹部の兩側に黒点十數個を有す

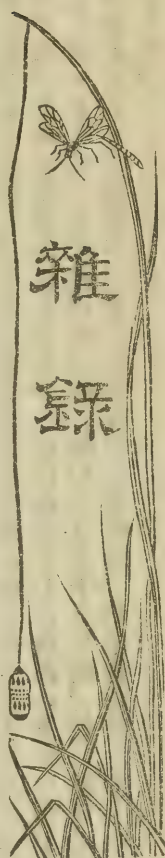
◎メンガタスズメの飼育談

特別研究生　兒玉龜太郎

編者云、本篇は水曜昆蟲談話會席上に於て、特別研究生宮崎縣兒玉龜太郎氏が報告せしメンガタスズメ飼育談の概要なり。

私は八月一日より小竹講師に從ひ岐阜縣武儀郡害蟲驅除講習會へ出張致しました節に、メンガタスズメの卵を採り少しく觀察致しましたこと並にそれを飼育しました事の概畧を申上げ様と存じます。扨八月二日同郡有知町附近の胡麻畑に於てメンガタスズメの卵を四十粒採集致しましたが、内三十七粒は葉の表面に、三粒は裏面に産付してありました。私は或る昆蟲書によりて此の蟲の卵は葉の裏面に産む様に承知しましたから、不思議に思つて餘程裏面に注意致しましたが、一向見當りませず僅に三粒を獲たのみでありました。翌日又他の畑にて僅に四粒採集せしに皆葉の表面に産んでありました。故に私の採りましたものでは表面に産みたるもの四十一粒に對する裏面のものは三粒といふ割合で、大体に於てメンガタスズメは葉の表面に産卵するといふことを承知しました。而して卵は殆んど圓形で初め淡緑色でありますが、漸次淡黄褐色に變じて孵化前には殼内の幼蟲を外部より認めることが出來ます。孵化の始に當て口器を動かし卵殼を喰ひ破る様子を認めましたから注意して居ましたに、五十分を經て体の出掛ふ

丈の穴を明けました。夫れより五十五秒を經まして全く出で終り直ちに卵殼を喰ひ初めまして十八分乃至三十分を費して卵殼の二分の一乃至四分の三を食しました(四頭に就ての觀察)。後一時間餘も葉上を匐ひ廻り、孵化後二時間乃至三時間にして葉を食ひ始めました。孵化の初め体淡黃褐色にして体長二分尾角の長さ八厘內外ありまして十八分乃至三十分を經て尾角は稍黑味を帶び、五十分乃至一時間にして眞黑色となりました。此の尾角變色の遲速は卵殼を食する多少に關係なきかを疑ひ、孵化後直ちに他に移し卵殼を與へざりしに、孵化后三十九分を經て稍黑味を帶び一時間と九分にて眞黑色となり、卵殼を食せしものに比すれば稍變色の時間が遲れました。然しこれは只一頭試みたのみですから甚だ不確實ではありますが、兎も角私の調べたのは斯樣の結果でありました。次に其幼蟲の經過を申上げませう、八月三日午後二時半に四頭孵化しましたが、孵化后二時間乃至三時間にして葉を喰ひ始め、漸次体は淡綠色に變じ、八月六日午前五時半第一回の脫皮をなし第二齡に入りました。本齡に入りましてから体に綠色の背線を生じ、側面は淡白色となり、全身及尾角に白粉を散布したる如き小さき疣狀物が澤山出來ました。尾角は脫皮せし時は体と同色で尖端乳白なりしが、二時間半を經て中央部より漸次光澤ある黑色に變じ、常に斜めに後方に傾て居ます。八月八日午前五時半頃第二回の脫皮をなし、第三齡となりて体長五分二厘となりました。体は綠色にして側面より背面の後方に向ひたる七條の白色斜線が微かに顯はれ、最後の斜線は尾角の兩側へ達してゐます。八月十日午前九時半に第三回の脫皮をなして第四齡に入り、体長七分となり、脫皮後一時間を經て黑色の氣門を認むるを得、斜線は益判明になりました。八月十三日正午十二時第四回の脫皮を終り第五齡となりて胸脚黑く、氣門は眞黑色となり、斜線は黃色に變じ、尾角は暗黃色にして先端稍黑くなり、十五日午前に各斜線の上部に淡黑斑を生じ、十六日より次第に變じて紫藍色となり、第四節以下十節迄の背面には無數の紫色小斑點が出來、十八日午後老熟して土中に入りました。本齡に於て生長の極度に達したるとき二寸七分乃至三寸二分、尾角三分乃至三分五厘でありました。土中に入りましてから四日を經るも未だ蛹化せざりしを以て箱內の土を調べますれば乾燥に過ぎし樣に思ひましたから、二十二日午後四時濕氣を少し與へ置きたるに、翌朝に至り一頭は暗褐色の蛹となり、次で漸次蛹化致しましたが、一頭は如何せしか胸部の下方に傷を生じ脫皮する能はざりしが尙生存して居りました。此幼蟲期間は第一齡が二日と十五時間、第二齡は二日間、第三齡が二日と四時間、第四齡が三日と二時間半、第五齡が五日と十時間、孵化後老熟して土中に入る迄十五日と七時間半を要しました。

（九）

◎昆蟲文學

蟲のこゑ／＼

○　神村直三郎

川ぞひのはんのき林やなぎ木立ほしかみきりのすみかなりけり（星天牛）

はたおりはまだ出でなくにれさむしのはやもいそしむ森の下かげ（筬蟲）

鷄頭の花をたづねて日もすがら一文字せゝり暮らせり（一文字弄花蝶）

實になりしあやめの畠おとないて腹びろとんぼ今日も飛びつゝ（腹濶蜻蛉）

歌によき楠の下庵春秋に青すじあげは訪ひもたがへず（青筋鳳蝶）

○　山田三秋

月ふみてかへる暇の松原に賣りのこしたる蟲放つなり

よもぎ生ふ屋敷さびしき藏住居蟲もなく夜をねぶつぼく／＼

蚊帳つらでひろくいねたるわがねやのまくら涼しき虫の聲かな（以上蟲三首）

去年の今宵はなちすてたる松蟲のその子なるらんなき出しにけり（松蟲）

○　志呂須美禮

いしづへは萩にすゝきにうづもれて蟲の音かなし都府樓のあと（名所蟲）

御贄棚かきてつかへし磯山のそなれ松が枝松蟲のなく（松蟲）

○　佐脇紫浪

むしぼしの佛書をしまふ僧堂の夕松のへに蟬の音涼しき（蟬）

○　服部綾足

なれそめし都の人の波の書に歌書く宵をこほろぎのなく（以下三首ちぎれ藻百首の中より）

はゆま路のはゆまつなぎし松原にのこるひびきの鈴蟲のこへ

たゞづみてよべ蟲きゝしあとならんたほれながらに撫子の咲く（遠州濱名の辨天島にて）

蚜蟲

ありまきの甘露ふるなり木の茂り　四澤
開き得ざる薔薇の蕾や蚜蟲　同
動くとも見へずありまき殖にけり　同
飛石に降るありまきの甘露かな　同
前栽のもの皆やせてあぶらむし　同
あぶらむし手入怠る庭の薔薇　同
伐株に吹く土用芽やあぶらむし　同
あぶらむし落ちし安居の疊かな　奇遇
鉢の木に羽蟻飛び來ぬあぶらむし　同
伸びがての大角豆や蚜蟲居たり　同
あぶらむし菊の蕾をつみすてぬ　同

蚜蟲這ふや大角豆の籠の中　城東
中垣に隣のばらやあぶらむし　同
庭前の梅の一樹やあぶらむし　同
蟻見ゆる梅の若枝やあぶらむし　岐水
夏菊に老がかごとやあぶらむし　歌朗
最愛のうばらにつくやあぶらむし　城北
あぶらむし鉢にふゝめる薔薇かな　歸麓園
檜梅のしづ枝ほづ枝やあぶらむし　三川
縮れたる接木の梅やあぶらむし　同
あぶらむしつくや年々庭の薔薇　同
蜜蜂の蜜ありまきの甘露かな　同
羽あるが洋燈に來りあぶらむし　同

◎昆蟲に關する隨感隨筆（第拾貳回）

昆蟲翁

（六十五）養鯉と昆蟲　當昆蟲研究所内にある池中には大小數百尾の鯉を養ふ。其餌としては蠶の蛹などを與へ來りしも、此頃に至りて大豆、萩、葡萄等の葉を食害する所のマメコガネムシを始めイナゴ、イチモジセセリ等の害蟲を集め來りて之を養鯉に與るに、皆非常に喜びて食するを見たり。是れ一擧兩得の法なりと信ず。

（六十六）ガチャ〱とスイッチョ　某昆蟲熱心家、時節柄クツワ蟲、馬追蟲等の採集に行きしに、馬追蟲はスイッチョ〱と頻りに美聲を弄しつゝあり、聲を尋ねて之に近寄るに、少しの足音にても早や鳴聲を止むるを以て、捕獲に困難なるも、是に反してクツワ蟲はガチャ〱〱と混雜なる大聲を發するを以て、足音位ひにては容易に鳴聲を止むるとなきに依り、直に捕獲し得たりと云へり。此時昆蟲翁の大ひに感じたるは、人に於ても亦同樣の事情多々あるべきことなり。深く注意すべきことにこそ。

（六十七）クロトビバへに就て　本年六月の頃なりき、クロトビバへは、當所内の池水上は勿論少しにても貯水のある上を、少きは數頭多きは數百乃至數千頭の群飛するを見る。其速力の早きと實に甚しく

クロトビバヘ並に其前肢の放大圖

♂　♀　♂　♀

恰も不正の輪を水上に畫くが如くにして、其數愈々多きに到れば非常なる繁雜を來すも、而も一の衝突を爲すことなきは驚くの外なしと言ふべし。然るに稀に衝突したりと思へば、左にあらずして全く接尾をなしたるものなり此蟲は小形なるものにして、茲に面白きは雄蟲の前肢の跗節の第一節甚しく膨大せるにあり、是れ恐く接尾の際雌蟲を捕持するに利便なる爲め特に發育したるものならんと信ず。

(六十八)日本人は人に非ず昆蟲也　此頃中の日本新聞紙上に、露國農民の日本人觀と題し、日本人は人に非ず昆蟲也と云ふ一事を掲げたり。昆蟲翁は已に露人は昆蟲にして然も二化乃至三化螟蟲は愚か千變萬化螟蟲即ち世界の有害蟲として、本年三月の本誌論說欄內に於て論じたることありき。今其の露人にして日本人を昆蟲となす、實に露國農民の無智なる驚くに堪へたりと雖ども、豈又面白からずとせんや。吾人は假令昆蟲とするも蜻蛉洲の蜻蛉男兒なれば世界の學者が齊しく許す所の有益蟲なり。されば神は世界の最大有害蟲なる露人を此の有益蟲たる蜻蛉の日本人を以て驅除せしめつゝあるなり。蓋し遠からずして蜻蛉の世界に雄飛するを見るを得ん。今露國農民の日本人觀を左に記す。

●露國農民の日本人觀(日本人は人に非ず昆蟲也)　露國オデッサの新聞オデッシー、ノヴオステヰー主筆は、露國農民の日本人に關する意見如何を知らんとしクルスク、莫斯科、ポドリヤ等露國內地の所々を旅行せしが、農民の多くは日露戰爭のあるを知らず、又日本の何れに在りや、又開戰の何に因するやをも知らず、されど一農夫は同主筆に告げて極東に露國が送兵せしは支那人が反亂を謀りし故之を鎭定せんためなりと云ひしと。是に於てか該新聞主筆はその農夫に諭すに、露國は支那人と戰ひつゝあるに非ずして日本軍と交戰しつゝあるものたるを以てせしに、該農夫は暫くその指を鼻の上に置き熟慮すること須臾にしてその口を開き「予は足下の言を解する能はず足下は日本人なるものを見しことありや」と曰ひし故、その數々之を看たるを告げしに、農夫はその新聞記者を以て虛言を弄するものなりとせるもの丶如く忽ち憤怒の相を滿面に示して曰く、是れ虛言なり、日本人なるものは決して見らるべきものに非ずと。是に於てか更に何故見らるべきものに非るやを反問せしに、其農夫は答へて曰く「日本人なるものは人間に非ずして

唯暗夜に於てのみ生活し得る頗る微細の昆蟲なり、故に足下もし白晝之を見んとするも叢に隱れて容易にその影を示さず、露兵の日本兵なるものに惱さるゝは全く斯る微細の昆蟲なるが故にして、兵卒の靴の中に噬み入り其生血を吸ふが故に、その日本人と稱する昆蟲の滿腹せる頃は兵士の魂魄は何れにか飛び去る也、足下よ斯る疫病神の如き小昆蟲と戰ふは到底能はざることなり云々と。

◎昆蟲實驗錄（二）

靜岡縣　神村直三郎

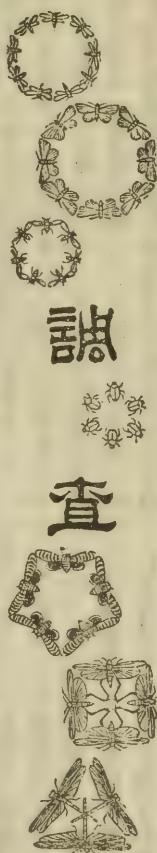
三、葉切蜂の被害　石垣の間に葉切蜂の一種發生せり。其体長五分、翅は比較的短小、腹部腹面に灰白毛を簇生す。此蜂見るがうちに庭園に往來して楕圓形の葉を持ち來りて穴に入る。其葉を切るや少しもムダなく、自已の欲する形ちに切り拔くなり。庭園をめぐりて被害植物を撿したるに、ハナザクロ、月見草、ニハザクラ、イボタノキ、クロモジ、クリ、サクラ、ジンジユ、グミ、シヤクヤク、チーセルチヤノキ、青ダコ、ハナノキ、草フヂの十五種は確かに害をうけたり。其葉をきりぬくや大なる葉をば一枚の中に數個の穴を穿つなり。其切拔く大きさは大なるものにて、楕圓の長徑六分三厘短徑三分五厘小なるものにて、長徑三分短徑二分五厘なり。小なるものは比較的圓に近き形をなせり。此蜂を始て見出して捕へしは七月廿日にして、爾來日々怠ることなく害を重ねつゝあり、故にクロモジの如きは其一本の葉全体恰も網の如くなり了れり。さて此蜂が葉を穴に運びて如何に使用するかに至ては疑問なり。實驗家の示敎を乞ふ。

四、陣笠蟲に就て　余のジンガサムシと稱するはムラサキシキブの葉上にて常に捕獲する鼈甲色の大形なる普通種なり。本年七月四日偶然同樹葉上にて一の蛹を得たり、其蛹は成蟲に酷似して周邊の緣は銳突起の陳列にて成蟲の翅鞘のそれの如く圓邊をなさず、且背上には黑色にして多突起を有する舊皮を被れり。因て一見蟲とは誰も氣付かざる程の保護色備はれり。又同日ヨモギの葉上に於てアカザジンガサムシの幼蟲を捕ふ。黃色の体にして周邊に有枝の棘狀突起を並列す、背面に黑色の舊皮を被るとジンガサムシの如し。此幼蟲が食害をなす狀況は其葉の肉のみを食して其膜を殘すの性あり、附近のヨモギを見るに如此害せられたるもの頗る多し、此蟲亦菊科植物の一害蟲たるを証せり。

五、蜻蛉の一種　幅廣からぬ小川の兩岸矗々として水面を抽く蘆葦の葉上に平然として風に搖くものを余が地方の一種の蜻蛉となす。此の蜻蛉体の大きさはシホカラトンボより少しく小形にして、色澤はシホカラトンボの雄の如くにて然かも雌雄を備ふ。飛翔力余り强からずして、多く水面に近く浮遊する

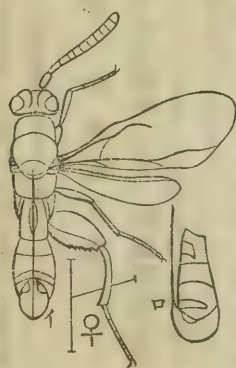
糖蚊の類を食ふ。稀には田の面に來ることあり。又夕方道路を飛びて蚊をも捕ふ。他の地方にも此種產するか如何。又名稱判然し居るか如何示されたし。

編者云、其は當所に於てコシホヤトンボ（Orthetrum sp.?）と稱する種ならん、該種は靜岡縣下に多數產す。又此頃佐賀縣農事試驗場より一頭送られたれば同縣に於ても亦之を產することを知りたるも、未だ他縣に於て之を產するを聞かず。

◎對馬國產の昆蟲　（二）

名和昆蟲研究所分布調査部

（平田駒太郎氏送附）

チウレンジハバチ（Hylotoma pagana, Panzer.）一頭、頭胸部は黑色にして瑠璃色の光澤を帶び、觸角は三節にして第一二節は短かく、第三節は頗る長し。翅は暗色にして瑠璃色を帶び、腹部は黃色を呈す●ケンオヒバチ（Leucospis sp.?）一頭、體長四五分、翅の開張六分乃至九分、頭部は黑色にして中央縱に淺き窩溝を有し、觸角は其內方下部より出で丶基節を其內に藏む。觸角は長からずして黑色を呈し基節は黃色を呈す。胸部及腹部は黑色にして黃色の橫條あり、翅は暗褐色にして、後肢の基節は非常に發達し、其腿節亦膨大せり。雌蟲の腹端は上方に曲りて固着し、產卵管を體上に負ふ●クマアリ（Camponotus marginatus Latr.）三頭、體長雄は三分內外、雌は五六分あり、全體黑色にして無翅なるも、或時期に到れば淡褐色の翅を生ず●コアシナガバチ（Polistes hebraeus, Saus.）三頭、アシナガバチに酷似し、前胸部は黃褐色を呈し、中胸背及後胸背にも同色の條斑あり、腹部の後半は殆んど黃褐色を呈す●クマバチ（Xylocopa circumvolans, Smith.）二頭、體長八分內外、圓く肥大して黑色を呈し、胸背には黃色の軟毛を密生す。蜜蜂科に屬する普通種なり●アカマルバチ（Bombus agorum, Fab.）七頭、體長四分乃至八分、前種の如く躰軀肥大にして、頭部小さく黑色を呈し、胸背及腹部前半の背面は赤褐色、腹端は黑色の軟毛

ケンオヒバチの圖
（イ）は背面より見たる有樣（ロ）は其腹部を側面より見たる有樣

を密生し、腹面は黑色を呈す。翅は褐色なり●オホトラバチ(Bombus sp.?)一頭、前種に酷似し、胸背及腹部前半の背面は黃色、腹端は赤褐色の軟毛を密生す。腹面は黑色なり●毛蠅の一種一頭、標本不完全なるを以て確むる能はざるも、恐らくヒメクサバヘ(Penthetria japonica, Wieb.)ならん、斯種は天鵞絨色の黑色にして頭部小さく、胸背は黃赤色なり●コウカバヘ(Sargus tenebrifer, Walker.)一頭、常に便所の近傍に飛翔せる大形種にして、全體黑色、平均翅は球捍狀をなし、腹部第二節の兩側は透明色をなし、形恰も蜂の或種に似たり。俗に之れをコウカバチと稱す●オホハチモドキバヘ(Eupyrgota luteora Coquill.)一頭、體長五六分、翅の開張一寸一分內外、全體赤褐色にして頭部は稍蜂のそれの如く、觸角は稍長く末節の中央より一個の長き剌毛を生じ、複眼は長楕圓形にして、口吻は長く膝狀をなす。平均翅は球稈捍をなし、腹部の第一節は長くして稍細く、全體の形狀恰も蜂に似たり。

◎飛州吉城郡產の昆蟲 (二)　(中井藤助氏送附)　名和昆蟲研究所分布調查部

クロバヘ(Calliphora lata, Coquill.)一頭、三十七年六月十日、最も普通の大形種にして黑藍色を呈し、常に不潔物に集まる、俗に之をクソバヘと稱す●ウラギンスヂヘウモン(Argynnis laodice, Pall.)一頭、三十七年六月一日野、橙黃色に黑色の斑紋を有する美麗なる種にして、後翅の裏面は中央縱に銀色の斑紋列を有して二分し、其內半は黃綠色、外半は褐色を呈す。雄蟲は前翅の第一第二翅脈上に特殊鱗を有す●クロヒカゲ(Lethe diana, But.)一頭、三十七年六月十日山、形狀紋理ヒカゲテフに似て黑褐色を呈し、雄蟲は前翅裏面の後緣に黑色の長毛を有す●ベニシジミ(Chrysophanus phlaeas, L.)一頭、三十七年六月一日、赤色に黑斑を有する最も普通なる種なり●クロスヂセセリ(Adopaea leonina, But.)一頭、卅五年六月二日山、翅は橙黃色にして邊緣黑褐色に、翅脈は黑く判然せり。雌蟲は表面黑色部多し●コガ子マダラ(Psychostrophia melanargia, But.)一頭、三十七年六月九日山、體長四分、開翅一寸三分內外、表裏一樣に黃色に黑色の判然したる斑紋を有し、日中林間に飛翔せる尺蠖蛾なり●セジロウンカ(Delphax furcifera, Horv.)多數、體長一分內外、褐色にして中胸背の中央縱に淡黃色の斑紋あり、稻の大害蟲なり●ルリガメムシ(Zierona caeurulea, Linn.)一頭、體長二分五六厘、全體瑠璃色を呈す●マユミガメムシ(Gn.? sp.?)多數、背面は黑褐色に淡黃色の斑紋を有し、腹面は黃色を呈す。(本誌第七卷第七十四號十五頁參看)●ゴキブリ(Stylopyga concinna, Hagenb.)一頭、一名アブラムシと云ひ、常に厨房等に棲息する普通種なり

●オホヂムキカゲロフ(Neuronia sp.?)一頭、三十七年六月三日璧、體長一寸餘、開翅二寸八九分、前翅は褐色にして一面に黑色の斑紋あり、後翅は黑色に瑠璃色を帶び翅端に近く黄褐色の幅廣き帶紋を有す●カハイトトンボ(Mnais pruinosa, Selys.)一頭、體青藍色にして雄蟲は白色を裝ひ、翅は赤褐色を呈す、雌蟲の翅は無色透明なり●アキノザウムシ(Lixus impressiventris, Roel.)一頭、三十七年六月十日山、體長三分五厘内外、細長く圓筒形にして黑色を呈す。

◎滿洲昆蟲雜信（其一）

距遼陽十三里於賈家堡子　青柳才次郎

編者云、第七回全國害蟲驅除修了福岡縣青柳才治郎氏は、第一軍に屬して蛤蟆塘の激戰に參與せし紀念として同地産の柞蠶蛾を送附せられし事は、曩に之を報じ置きしが、其後同氏は各地に轉戰せられしも幸に微傷だもなく健在せらるゝ由なるが、今滿洲に於ける昆蟲につき軍務の傍散見せられたる事項を通報せられたれば、之を本欄に收めて讀者に紹介することゝなしぬ。

謹啓、内地も頃日は既に害蟲發生の眞際中ならん、農家の繁忙當局者の煩腦如何ばかりかと察せられ候然し國家多端の今日、如何なる手段を用ふるとも、本年の豐凶如何は大に出征軍の勝敗の一因ともなるべければ、斯る時には神佛の加護を受け、天の惠に預り度きものに御座候。貴所に於ても定めし戰時の昆蟲策につき積極的學理の研究と實利の應用に汲々たるならん。時節柄身體を大切にし、益々國家の難局を處せられん事を囑望の至りに候。實は小生も切角滿洲の野に徜徉候故、何か戰術以外に科學の研磨仕度考なるも、元來素要なき上に疲勞前後を忘るゝの頃日、爭でか無性者の不肖に出來得べき、只止むなく昆蟲の一端に嘴を入れかけたる因果にて、時況旁々左に徒然の思出でを綴りて御報知申上候條御笑覧遊され度候、若し此の中の一端にても征露の紀念として貴誌の餘白に掲げられ候はゞ、小生の光榮之に過ぎず候。尙亂筆拙文の次第は吳々も御容謝あつて御推讀あらん事を奉希候。

七月十九日、二十日の兩日に細河沿一帶の强敵を擊退して遂に之を占領せり。此役は前後殆んど四十時間餘に涉り隨分苦戰仕候。夫より彼是戰鬪動作續きにて七月三十一日、八月一日の兩日に涉り楡樹林子

の役に移り、又々之を占領し、目下賈家堡子と稱する山間中の平坦部落に戰闘前哨を張り滯在致居候。細河沿及楡樹林子役に於ける詳細は、新聞紙上にて既に御承知の事と存候へば、只茲にては愚感雜事取混ぜ御報知申上候。世間で戰爭と言はゞ常に敵對注丸の事のみと推知さるゝならんも、實に以ての外の見解にて、戰闘以外に我々の戰ふものは左の色々に御座候。

一、炎熱と戰ふ夏戰の難事　二、糧食と戰ふ山谷の難路　三、病魔と爭ふ蠻土の不潔　四、降雨と戰ふ前哨露營の難澁　五、南京蟲の夜襲に困まる痛痒　六、蠅群の奇襲に食事の際も安心ならざるの一事。

以上の六項は確かに內地人の想像以外、出征將卒の困難に困難を重ねつゝある事項にて候。然し一利一害で、蠅が山野平地の區別なく深山幽谷殆んど人跡の未だ嘗て至らざる處にても、戰闘上我々が初回の跋涉と思ふの溪谷も、蠅の生存せざる處なく、否な群棲せざる處なく、三度の食事の際、實に用心に用心を重ぬるにあらざれば、蠅食動物と變化するの思ひ有之候。其の代りに夜間蚊群の來襲なきには、一同偶惠にも其難苦の一を免れ候。之れ全く夜間の冷氣が蚊の發生を妨ぐるに依るならんか。故に小生は滿洲の蠅か蠅の滿洲と言ふか、何れが穩當なるやと愚痴を溢し候。

蠅の種類　數種あるも前述の蠅は普通の家蠅にして、內地のものとは同一なるが如し。然し擧動極めて敏捷にして、我々が晝眠の大害敵は實に此の蟲に候。夜間は前哨で眞に眠に附かれず、晝は蠅群の襲擊滿洲軍の困難御推察下され度候。前記家蠅群襲が山谷の無人境に迄及ぶ所以のもの、是れ全く山野に放牧の結果自然に繁殖したるものなからんか。

由來ウルサイ事を五月蠅と書き、拂へば來る夏の蠅と云ふ言を、不肖は未だ內地にて解し得ざりしが、豈計らんや濤波千里の遠征たる滿洲の野に於て此の俚言に逢遇せんとは。當地の蠅は至る所群棲する事は、今其の一例として之れを示さんに、日中人家近くの不潔なる處又は稍々濕氣なる片隅に至る時は、地上黑布を敷けるの狀をなせる蠅軍は、一時に飛翔して離散するの狀さながら蜜蜂の窩巢を破打したるが如く、彼等の羽音は一齊にヴン〳〵と閧の聲を擧け、實にすさまじきものに御座候、從て土人も又此に患に堪ふる能はざるか、上圖の如き釆を以て蠅の襲擊を豫防致し居候右馬尾毛は多く白色にして其の中央部に赤色の毛を加へ、且つ柄部には眞鍮

土人の蠅追具
(イ)は馬毛(ロ)木柄(ハ)は紐

又は紐等を以て裝飾を施し隨分美なるものあり、毛の長さは一尺五寸許り柄は一尺許にて、蠅拂には極めて輕便にして室内又は乘馬者等之を用ふるを見る。

滿洲の野に岐阜蝶　過る七月十九日我が軍は細河沿附近を占領し、二十一日橋頭の臺に我が中隊は前哨の勤務に當り、不肖は小哨の位置にありて隊の中央小高き邊の後方森林に位置を占め、夜間の不眠を補はんが爲旁々前日の疲勞の爲め、一睡を貪ぼりしに、耳朶の邊りに頻に羽音の聞ゆるにぞ不圖驚き目を醒せば、こはそも如何に、雌雄の岐阜蝶は最も睦げに戯れ居り候、依て疲れし脚をひきずり之れを捕へんとせしに、彼は恰も天來の使客の如く、怨みの涙を殘して高く飛び去れり。後にて考ふるに彼は或はギフテフ擬きにあらざるかの念を抱き、熟考するに、其の翅の地色の黄色にして后翅后緣の一隅に赤色の斑紋ありしより想ふも、全くのギフテフにして紛れもなき事と存じ候。是れ或は萬里遠征の不肖を慰めんが爲め、天が名和家の定紋たる岐阜蝶を態々遣はされたるにはあらざるか呵々。

滿洲に横這　叢草の中に往々之を見るも赤手採集出來難く候、種類の正否は頗るあやしきも、前日橋頭の松林中にて夕食の折、大横這の手掌に來るを捕へたり。褄黑は屢々之を目にし、電光も亦之を目擊致し候。採集の二三を送らんと思ひしに、夜間活動の際遂に之を落失せしは如何にも殘念の至りに候ひき

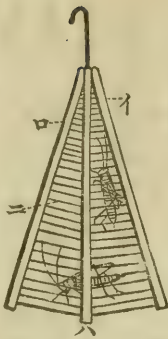
滿洲の柞蠶　六月上旬のことなりし、蛤蟆塘戰鬪后山蠶云々に付き一寸御通知申上置候、定めて御落掌の事と存じ候。去る七月上旬賽馬集西方三里、四方砬子に於て該蟲の上簇を初めたるを見る、早きは現に結繭したるも多くは上簇中なりき。此の蟲の上簇するや櫟葉を曲げて其下に結繭し、降雨及日射を防ぐには實に感心に堪へざる處に候家蠶は此時此地尙ほ四齡前后にて、非常に生育の後れたるを覺ゆ。

チヤバネゴキブリの圖

南滿洲蟲況　七月上旬賽馬集附近に於て多くの蝶を見る、中にも四方砬子に於て殊に其の飛翔の數多なるを認めたり。此の地は一般に山谷樹木鬱蒼として其の繁茂の狀は他に比を見ざる所に候、土地肥沃にして山谷の斜傾又急なり、出征以來七月に入り最も多く蝶蛾の飛翔するを覺ゆ。其目擊したる種類はキテフ、（七月上旬）山間の小徑にある馬糞又は水の小溜り等の邊に數十群集す。モンシロテフ、點々飛翔するを見る（七月より八月に至る）。イシガケテフ、七月下旬橋頭附近に於て山野に飛翔するを見る、大小二三種あるが如し。翅色白灰色にして稍后翅に黄味を帶び、翅の前面に石垣狀の網目線を見る。アカタテハ、橋

頭に於て八月一日始めて之を見る。ジャノメテフ、數多飛翔するを見る（七月上旬より八月上旬）。キマダラテフ、七月下旬より八月上旬頃橋頭附近にて見る。尺蠖の幼蟲五分許りの者を見る、色靑し（八月上旬）。蜚蠊、土人の家屋に數多群棲す、八月五日賈家堡子にて孵化當時のもの數多を見る。バツタ類數種あるも日本のイナゴは一度も認めず。バツタの一種にして夕方より非常に高き翅音を響かせ飛翔するものあり、人の近寄るときは直に飛び去る故に之を熟視するを得ざるも、飛翔の狀によるに全身褐色なるが如し、四十間を隔つも確かに聞くを得。翅音はぎや〱と聞ゆ。テントウムシダマシ、土人は一般に馬鈴薯を栽培せるが爲め到る所に被害を見る。茄子にも同じ。然し別に收穫上影響したるを不認、七月上旬より八月上旬尙成蟲を見る。

土人と螽蟖　七月廿三日勤務の爲め橋頭を距る南三里金穴に到りしに、此地の土人中キリギリスを飼ふを見る、是れ小生等宿舍の裏方に其聲の聞ゆるに氣附ト其蟲籠あるを見たり。此の家は鄉里の長にして我が日本の村長に當るものならん。金穴にて部落四十個許の處露助の爲めに燒却せられ、只だ僅かに土塀の殘るのみ。是れ此地に馬賊ありて露兵を殺したるに起因するとか、彼等の慘虐每度ながら人間業とは思はらず候。

螽蟖と籠　螽蟖の翅は未だ發育せざる爲めか、叉は種を異にせるにや普通に比して短かゝりし。今左に土人の作れる籠の構造を示さんに、籠は高さ五寸の錐三角形にして、三角の一方幅三寸位に候。材料は高黍を用ひ、（イ）（ロ）（ハ）の三柱は高黍の外皮を去りたるものにして、三方の横枠即ち蟲の出でざる串（ニ）は高黍の外皮の硬き部分なり。要するに總べての材料皆高黍のみに候。

土人の螽蟖籠

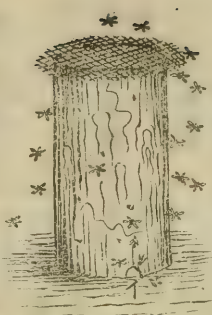
イ　ロ　ニ　ハ

（イ）（ロ）（ハ）は高黍の心（ニ）は高黍の外皮

南滿州に於ける蟲種と植物　日本の如く夥多の蟲種を不見、是れ全く土人耕作物の單準なると、山野植物の種類少なきによるならんか、由來四方砬子附近に於て、他に比し多くの蟲類殊に蝶類を見たるは、全く山谷の樹木他に比し鬱蒼繁茂せるが故ならん。

耕作物と樹種　耕作物は高黍、玉蜀黍、大豆、小豆、其他豇豆、菉豆等の豆類、南瓜、稗、荏、蓖麻亞麻、馬鈴薯の類なり。然し荏、蓖麻、稗等は其耕作區域極めて少部分とす。樹種に至りては頗ぶる之れが判定に苦しむも、其多くは松、櫟、柳、榎に似たる木、其他は只矮少の雜木數種なるが如し。縱は

四方砬子附近にて見る。果樹類は別に栽培したるものとてはなく野生のみなるが、其種類の主なるものを擧ぐれば杏、李、葡萄、梅、胡桃、梨、林檎の類にして、何れも野生なるが、梨は農産なり。然し日本の山梨に等し。目下母指頭大。杏は橋頭附近にて其老熟したるを食せり（七月下旬）。梅も亦同じ。林檎は二度見たるのみ。李は目下食ひ頃、葡萄は一房三四十粒にして極めて粗肉酸味強くして到底物になりそうになし、形は我が甲州種と彷彿たり。以上は皆路傍にありて、我々は行軍中渇を凌ぐ一の好材料と致し居り候。案ずるに野生種の斯くあるより見れば、滿州一帶は果樹類の栽培には最も好適地たらざるか、研究すべき事に有之候。

土人と蜜蜂　四方砬子附近に於ては家の門口又は裏方其他に丸木の中空の丈け四尺餘のものを据え、其下に小さき入口ありて、上蓋として樹枝又は高黍の簀を用ひて外敵の侵入するを防ぐ、蜂の大さは別に日本種と畧なるところなきが如きも、稍大なるやの感もあり。右の次第にて滿州の野に養蜂の出來るより察するに、蜜蜂は寒氣と闘ふの力、吾人が今日迄想像せしより遙かに強きを覺え候。

土人の蜜蜂飼育方法の圖
（イ）は蜂の入出口

昨日賈家堡子にて兵舍建立の際虜りたる蜚蠊及蝶一頭封入致し置き候へば御笑覽下さるべく候。尚二三日中に螽蟖と蟋蟀を御送附申上べく候條、有がた迷惑かと存じ候へども、分布調査の一端御參考の一助とも相成候はゞ幸甚の至りに候。

編者云、送られたる蜚蠊はチヤバ子ゴキブリなり。蝶は三筋蝶の一種にして、形ち大三筋蝶に似て稍大なるが如く、前翅の裏面中室内に三個の黑點を有す、今回紀念の爲之に滿洲三筋の新稱を附せり。其他藤吉螢の雄、尺蠖蛾及椿象をも送られたるが、是等は他日紹介すべき時あらんと信ず。

◎昆蟲標本陳列館案内（其八）

（オ）部に移ればサンホゼー貝殼蟲圖解及該蟲の本邦分布地圖、

被害樹、並に岩見勇藏君の著に係る昆蟲分類一覽表、其他雲南產の冬蟲夏草（寺島昇君寄贈）、蟬茸、大黑蟲（石蠶の一種の巢にして防州岩國錦川にて之を人形石と云ふ）、古渡夏草冬蟲（京都山本章夫氏より來るものなりとて田中芳男君の寄贈）、臺灣產の蟻の巢（臺北八芝蘭國語學校新家鶴七郎君寄贈に係り形殆んど蜂の巢の如く貝殼蟲保護の爲め斯く營巢せしものなりと）等の陳列あり。（ワ）部に移れば裝飾的七分類標本（羅翅類はヒメヤマトンバウを以て代表し三角形に配す、直翅類はカハラバッタを以て代表し方形に、半翅類はニイニイゼミを以て代表し五角形に、甲翅類はコガチムシを以て代表し六角形に、双翅類はハナアブを以て代表し七角に、鱗翅類はルリシヾミテフを以て代表し八角に、膜翅類はヂバチを以て代表し九角形に配列したるものなり）。明治廿八年第四回內國勸業博覽會に出品せし裝飾標本の寫（各種昆蟲を以て養老瀑布を摸造したるものにて現品は宮內省へ御買上げの名譽を得たるものなり）、其他當部に於て最も注意ずべきは愛知縣渥美郡昆蟲硏究會の系圖に添ふる同會の事業の一部を表にしたる明治三十三年渥美郡稻作一世鏡と稱するものなり、該表は圓を細かく區分し、風の方向、種類、天候溫度、害蟲發生時季、程度、驅除せし時刻及方法、除草の時期等稻作一代に關する凡ての出來事を表にしたるものにして、青年諸氏が各自分業的に取調べたるものを表に現はしたるものなり。其表は美術的に製作したるものにあらざるを以て人或は輕々に觀過するものなきにあらざれども、其內容を注視せば實に價値ある表なり、斯く心掛けてこそ農事の改良發達を見るべく、從て害蟲驅除も完全に行はるゝものならん。（ヌ）部に轉ぜば、當所長が多年苦心慘憺して內外國博覽會に昆蟲標本を出品し受領せられたる賞牌類（第三回內國勸業博覽會に於て受領したる有功一等賞牌、廿六年コロンボス世界博覽會に於て受領したる優等賞牌、第四回內國勸業博覽會に於て受領したる進步一等賞牌、明治廿九年大日本農會より受領したる綠白綬有功章、佛國巴里に開設の千九百年世界博覽會に於て受領したる銀賞牌等は其重なるものなり）並に各種團隊より當所長の勞に酬ゆる爲め寄贈せられたる銀杯の一部、其他高崎正風男の當所に寄せられたる詠歌も此中にあり（本誌第五十四號に該詠歌あり）、其他英人ロスチャイルド君寄贈の展翅板英國製昆蟲留針見本等なり。（ル）部は第一回全國昆蟲展覽會役員徽章（陶器製ギフテフ型）の種類、同賞品見本、其他ロスチャイルド君の寄贈に係る幼蟲吹脹乾燥器及醫學士奈良坂源一郎君寄贈の英國製昆蟲留針見本等なり。

●昆蟲揭示場記事

前號報告後に於ける昆蟲揭示場の概要を擧ぐれば●昆蟲の七類には膜翅類

にヨツボシアリ（蟻は雌雄の外に職蟻ありて社會生活をなす）、カブラバチ（大根、蕪菁等の葉を食害す）シマキセイバチ（子キリムシに寄生する益蟲）、キマダラオナガバチ（樹蜂の幼蟲に寄生する益蟲）等。鱗翅類にクロスヂサラサ（幼蟲は椚等の葉を食害す）、エビガラスズメ（幼蟲はサツマイモ等の葉を食害す）オホマダラキシタバ（尺蠖の一種にして害蟲なり）、ハラアカシロタヘ（各種植物の葉を食害す）等。双翅類にハマダラカ（マラリヤの媒介をなす）、ホシヒラタアブ（益蟲）、オホツリアブ（益蟲）、オホハチモドキ（蜂に似たる双翅類の一種）等。甲翅類にはタマムシ（害蟲）、オホハナムグリ（害蟲）、ウバタマムシ（害蟲）、クロコガ子（桑葉等を食害す）等。半翅類にはムギヨコバヒ（害蟲）、ホホヅキガメムシ（害蟲）、オホマルガメムシ（大豆の害蟲）、トゲサシガメ（普通の椿象は害蟲なれどもこれは益蟲）等。直翅類にクダマキモドキ（雄はキリ〳〵〳〵と長く續けて鳴く）、クルマバツタモドキ（害蟲）等。羅翅類にはキトンバウ（益蟲）、オホクロスヂカゲロウ（益蟲）、コヂムキカゲロウ（幼蟲は水中に棲む）、マツカハヂムキカゲロフ（幼蟲は水中に棲み水草を食す）等なり●臨時的揭示物には鳴く蟲と題し、クツハムシ、ウマオヒムシ（クツハムシは其雄ガチヤ〳〵〳〵と大聲に鳴くを以て俗にガチヤ〳〵と稱し、ウマオヒムシは夜間ジーンチヨ、〳〵又ズイツチヨ、〳〵と聞ゆる清音を發す、何れも左右の前翅を摩擦して發音す）、スズムシ、マツムシ（スズムシはよき音を出してリーン〳〵〳〵と抑揚ある鳴き方をなし、マツムシはチンチロリン、チンチロリンと清き音を出して鳴き、何れも人々の愛賞する昆蟲なり）、クサキリ、ヒメクダマキモドキ、（クサキリは日暮より草間に於てジー……と稍低き音にて長く鳴き續け、ヒメクダマキモドキは夜間枝に止まりてジーンス、ジーンスと「管」を卷く如き鳴き方をなす）等の標本を示して其鳴き方を説明し●特別的揭示物には、セスヂスズメの經過標本（此の幼蟲「一」はイモムシと稱しサトイモ等の葉を食害し、老熟すれば土中に入り「二」の如き蛹となり、遂に成蟲「三」となる）、ショクコウノニシキの幼蟲、成蟲（此の蟲はイボタの葉を食するを以て俗にイボタムシと稱す、小さき間は体に七本の長き角の如きものあれども成長すれば其角され体色亦變ず、俗に肺病の妙藥なりとて食するものあれども其効能の如何を知らず）、イチモジセヽリの經過標本（この蟲は稻葉を捲き其内に入り、多くは夜出でヽ稻葉を食害す、時としては田面一体に葉を捲きて出穗を妨ぐることあり）等なり。

◉滿洲鳳蝶に就て　本誌第八十三號に於て圖示せし堀内英力氏の送られたる滿洲鳳蝶（Sericinus telamon Donovan. var. telmona Gray.）は今回又岐阜縣羽島郡笠松町出身軍人高見德二郎氏及當所の森助

手より送り越せり。該蝶は滿洲のみならず北京地方にも一般に產するものなりといふ。翅の地色は淡黃色にして圖の如く黑斑を有し、後翅前緣の中央より肛角に向ひて走れる黑斑中に赤紋ありて肛角部のもの最も著明なり。前翅にも赤色紋を有するものあり。今回送附し越せしものは形稍大なるに伴れ尾は頗る長く前者の二倍以上あり。

◉森助手送附の昆蟲と通信の一節

當所助手にして今回召集に應じて從軍せし森宗太郎氏より、今回滿洲鳳蝶一頭、藤吉螢雄三頭、犬寄生蠅（前號掲載堀内氏の送られたるものと同種）八頭及瓢蟲、椿象、象鼻蟲各一頭づゝを送附し越されしが、其標本に添へし通信中の一節を左に掲げん。

漸く土城子を通過して寬甸縣に着せり、生等此處に暫く守備すること、なりしが未だ着せし許りにて、露助は勿論昆蟲の顏も一向見ざる位にて、何も申上ぐる程の事なきも、只一二眼に止りし事を申せば、生の乘りし船中には例のチャバ子ゴキブリは隨分非常なりし、其れより鴨綠江の河口に停泊中黑鳳蝶、小灰蝶等を見しが陸を距る最近の處にて二里許りなりしかば、蝶類の飛翔する距離は二里以上なる事を始めて知れり。龍巖浦附近の左右兩岸には黑鳳蝶、紋白蝶、蛺蝶の類飛翔し居れり。安東縣附近には僞瓢蟲の發生甚しかりしが、又瓢蟲も中々多かりき、併し邦產種とは全く別種にして生の是迄見たるものは赤色の地色に多くの黑點を有するのみなりき。生は行軍中四十種許の昆蟲を獲たるも、何處にて失せしか着後一もなかりしには大に失望せり云々。

◉河内忠二郎氏の書簡

米國理學博士河内忠二郎氏は、昨年歸朝以來專ら東京の私宅に於て昆蟲學の研究に餘念なかりしが、日露交戰となるや第一軍某師團附外國通信員掛となりて渡淸し、今回當所へ宛て書を寄せられたれば左に其内の一節を掲げて讀者に報ずることゝなしぬ。

扨て小生義も昨春歸朝以來獨り私宅に於て昆蟲學の研究に從事致居候處、今般計らずも征露の軍に從ひ參る事と相成、今尙ほ遼陽より路遠からぬ山中に無事無聊の日月を送り居申候、最も小生の執るべき事務は至て少くして閑散を極め居候が爲め、聊か滿洲の生物に就ては研究致し候處も有之、且つ暇さへあれば日々野に出でて昆蟲の採集に心を委ね居申候、何れ九月の下旬か十月の初めには一應歸朝の上再び昆蟲學講義の續稿をも出す心得に御座候間辱知の諸君へも宜敷御斷り置下され度候。

世に北淸の草木蟲魚は北米の東部に產する者と全く異れりと云ふ說有之候へども、小生の見たる者に就て申せば、當地近傍に產する生物は却て日本產よりも遙かに米國產に似たる樣思はれ申候。彼の植物學の大家故クレー氏が、昔米國の水師提督ペリーの携へて歸りたる少許の植物を見て、日本の植物は北米の東部に產する者と能く似たる者あり云々と論じたるの末、支那の草木などは全然米國の者と異る樣述べたるの一章は、多少折衷して讀まねばならぬ事と存じ候云々。

◉特別研究生の入退

前號報告後に於ける特別研究生の入退は、宮崎縣兒玉龜太郎氏、滋賀縣北野淸次氏、三重縣根門宮太郎氏、廣島縣宮宗源一郎氏の四名退所し、三重縣四日市市藏町十番地山内甚太郎氏は農作物害蟲研究の爲四ヶ月間の豫定を以て九月一日より、長野縣東筑摩郡山形村百瀨今朝雄

氏は三週間の豫定にて九月十日より入所せられたれば、目下特別研究生は四名となりたるが、尚近日中に二三名入所の筈なり。

◉諸學者の來所　各專門學者は各其專門とする處を調査研鑽せん爲夏期旅行を試むるを常とせり茲に舊紀州藩主德川賴倫侯は人類學者鳥居龍藏氏等と共に飛驒地方へ調査の途次、大學教授理學博士石川千代松氏は鯢魚調査の途次、高等師範學校教授理學博士丘淺治郎氏は蛭調査の途次、札幌農學校教授理學博士松村松年氏は浮塵子及び一般昆蟲調査の途次、同校教授林學士新島善直氏は小蠹蟲調査の途次其他農事試驗場技師昆蟲部主任農學士小貫信太郎氏は害蟲驅除監督の途次、水產講習所長松原新之助氏は水產事業視察の途次來所せられたれば、當所の講習生及研究生等の爲に特に一場の講話を乞ひたるもあれば、是等の筆記は順次本誌に揭載することにすべし。

◉叢中の蟲聲　我國螟蟲一種の爲に損害を蒙るのが年々四五千萬圓である、若し害蟲驅除を勵行して其害の半分丈け助かるとしても大したものではないか◉本年は遉が時局に顧みてか何處から何處迄も害蟲驅除を勵行した、いつもやる氣でやればやれるのであるが、やらぬ氣でやらぬのであるからやれぬのである◉其所で一鄕よく幾百千萬と云ふ數を殺した所もあるが、是れで全体から云ふと一割も驅除が出來たのであらふかと或一寄生蜂と步行蟲が話して居た◉害蟲の中でも害の甚しきものは形が小さいが、益蟲も亦微細なるもの程勢力がある、それであるから之が害蟲であるの彼が益蟲であるのと云ふても農民には一向譯が解らん筈だ◉害蟲の王と云へば螟蟲であるが、益蟲の大將と云へばやはり螟蟲の卵寄生蜂であろふ、近時螟蟲の採卵法は行はるゝ樣になつたが一方の益蟲保護はやらぬから勞して効がなしだ◉害蟲や益蟲の事が解らぬのは强ち農民ばかりでもない、各府縣よりの報告や驅除規程を見ると、採卵したものは直ちに燒却せよと立派に書てある、然し未だ益蟲驅除をせよと明に書かぬ丈が面白ろい◉それはさてたき、此頃の新聞雜誌や出征軍人の通信を見ると、我忠勇なる出征軍人は、彼の露助には一向恐れぬが南京蟲を始め蚊に繩に、蚤や蝨の奇襲には殆んど閉口することある、さすが南京蟲の本場だけあつてチャンの不潔さ加減が聯想され、出征將卒の勞苦が想ひやらるゝ◉愈々凱旋となると是等の蟲軍が續々輸入することであろふから、吾人は今より大に之が研究をせねばならぬ、のみならず淸韓の昆蟲研究は邦人の義務であろふと思ふ◉戰爭の爲めに聖路易萬國博覽會の話は一向ないが、戰勝國の我出品は非常に喝采を受けると云ふ事である、當研究所から出品した標本も農業館中第一人目をひく好位置

に優美に陳列されたと、織田事務官から報知があつた。（なにがし）

◉**稻莖切鎌の改良**　螟蟲被害莖切取の必要より各地に於て莖切鎌なるもの製造せられ、其種類も漸次多きを加ふと雖ども、然も輕便にして確實なるものは靜岡縣燒津町吉野寅之助氏の製造專賣に係るものゝ右に出づるものなきは、少しく斯業に熟達せるものゝ首肯する所なり。然るに素人は兎も角其用方を誤りてバチを脱せしめ、又は切れぬとの評ありしかば、同氏は今回之にバネ止（イ）を附け、且つ鋼質と製作方に注意せられたれば、如何なる素人にても用ふるを得べく、能く切れて一層便利となりたり。代價壹挺につきバチ止あるもの八錢、バチ止なきもの五錢なりといふ。

稻莖切鎌の圖（イ）はバネ止

◉**飛州古川町の大火と中井藤助氏**　先月廿五日飛州吉城郡古川町の大火は實に世に稀有の大火にして燒失住家八百餘戶殘るは僅に三百戶許にして其慘狀實に目も當てられずとなん。玆に第一回岐阜縣長期害蟲驅除講習修了生中井藤助氏は又其罹災者の一人にして、氏は當日螟蟲驅除監督の爲大野郡高山町へ出張中なりし由なるが此急報に接し直ちに腕車を飛ばして歸れば、憐れ鄕里は已に全く其影をも止めず、氏が一意集めし三十餘箱の標本を始め、自費を投じて購求せし顯微鏡や藥品、器具、日々要する捕蟲器、採集箱、毒瓶は勿論、家財盡く烏有に歸したりと、實に氣の毒至極の至りならずや、然れども氏は尙之にひるむなく、益々昆蟲の採集に勉め、之を究めんと力み居らるゝ由。

◉**苞蟲の發生と豐年**　苞蟲の事を豐年蟲と云ふ所あり、凡て害蟲は晴天打續き、溫度高き年には必ず大發生するを常とすれども、特に該蟲に於て然りとす、又稻に於ても溫度高き年は自然豐作なれば、自から一致する所あるを以て斯くは世人の信ずるなり。本年は如何にと云ふに、苞蟲の大發生は世人の已に知る所にして、又近年稀有の大豐作なるを信ずるなり。而して該成蟲即ちイチモジセセリは八九月の交山に入るの性あれば、群蝶天を覆ひて飛行す云々と云へるを屢々耳にするも敢て怪しむべきにあらざるなり。此頃も當所內の萩の花に集るもの頗る多く、蟷螂の頻りに之を捕食しつゝあるを見る。又本日も滿一年と七ヶ月の小兒が蝦夷菊の花に來りしものを赤手能く捕へたるを見たり。是れイチモジセセリの花蜜を吸收するの熱心なると感覺の遲鈍なるによるべけれど亦本年發生の特に多數なるを証となすに足れり（九月九日の實驗）

◉當所移轉工事の進行　當町の移轉工事は、本年四月より着手して未だ其全部を結了する能はざりしは、全く當所移轉建物中に縣農事試驗場及縣農會事務所のありしが爲なりしが、同試驗場及農會の移轉新築工事は大に進捗し、旣に其移轉を了したれば、本月より當所建物の移轉に着したれば十月中には移轉を了し全部成功すべし。然らば諸般の整理一先づ段落を告げ、今後研究上大に便利となるべし。

◉岐阜縣昆蟲學會第六十九回月次會記事　同月次會は、本月三日例により午後一時より當昆蟲研究所內に開會せり、第一席小森省作氏は果して害蟲を知れるものありやと題して害蟲の習性經過及び天然との關係より現今の害蟲驅除の有樣を述べ、必竟害蟲驅除の實の擧らざるは農家を始め當局者が昆蟲に關する智識に乏しく、害蟲の眞價を知らざるによれりと論じ、第二席大垣中學校敎諭森宇多司氏はモンシロテフの卵の發育順序に就て調査せられたる細胞分裂の有樣を述べ、第三席小竹浩氏は岐阜縣郡上郡地方の害蟲驅除に就て視察の狀況を報告し、第四席岩田才治郎氏は各種の害蟲と驅除時期に就て述べ、第五席谷貞子氏はメンガタスヾメの飼育談をなし、最後に名和副會頭は斯學研究者の心得を說かれ、午後五時閉會を告げたり。

◉水曜昆蟲談話會記事　當所內に於て每週水曜日夜間開會の同會は、會員の增加に伴れ益々隆盛に趣きけるが、前號報告後に於ける談話の要項を一括すれば左の如し。

棚橋昇氏は標本製作中大蜚蠊の腹中に寄生蜂の蛹あるを發見せしが、該蜂蛹は長さ三分餘にして其形體より推考すれば無翅なるが如しと實物を示して說明し、其他松毛蟲蛾、朽葉天蛾、縞蠅の卵粒調査の報告をなし●石田和三郎氏は夏季の熱度と螟蟲との關係に就て調査せし事項を報告し●小竹浩氏は此頃整理せし蛾類の名稱を每會報告し●小森省作氏は直翅類の種類と採集上の心得を述べ●名和正氏は八齡をなす腹赤白砂の飼育談をなし●高橋喜男氏は櫻毛蟲●名和愛吉氏は每會靑筋鳳蝶の飼育談●谷貞子氏は目下美聲を弄する直翅類、蟬類の採集及黑雲天蛾、車天蛾の飼育談を實物を示して說明し●兒玉龜太郎氏はメンガタスズメの飼育及び養老地方の昆蟲採集談をなし●馬淵治郎氏は有吻目異翅亞目陸棲四節類の分類●北野清次氏は養老地方昆蟲採集談及昆蟲學研究に就て自已の所感を述べ●鈴木彦治氏は土岐郡地方に於ける數年前と現今の稻蝨の繁殖の有樣を述べ、目下大に之が減少を來したるは全く之を採集して食用に供するに至りしが爲なりと其情況を說き●其他根門宮太郎氏の蜜柑樹を害する天牛の驅除實驗談、宮宗源一氏、岩田才治郎氏、林兵太郎氏、久世貫一氏等の談話ありたり、

◉昆蟲標本陳列館參觀人員　去る八月中當所常設の昆蟲標本陳列館を參觀せし總人員は二千四百六十一人にして、一日平均九十四人に當り、其內最も多かりしは二十七日に於ける百九十五人にして、最も少なかりしは三十一日に於ける二十七人なりき、而して本月は各種學校等の夏期休業なりし爲め遠來の學生、敎育者最も多く、各府縣の勸業當局者及び中央官衙の諸官吏等も亦中々多かりき。

●出版廣告

名和日本昆蟲圖說 第一卷

◉鱗翅目 天蛾科

▲紙幅 竪一尺二寸五分横八寸五分
▲紙質 舶來洋紙上質
▲頁數 本文五十八頁
▲圖版 五葉實物大着色石版十八度刷
▲定價 金五圓
▲小包 金拾五錢

本圖說出版の事は既に豫告し置きたる所なるが愈々九月十日を以て出版し得たり抑も本圖說は日本産天蛾類三十四種を成蟲、幼蟲蛹の形態より出現の時期、嗜食植物、分布、其他注意すべき要件に就き和英兩文を以て詳細記述せるものにして、特に之に伴へる圖版は各成蟲、幼蟲、蛹共彩色刷實物大に表はしたるものにして、而して其印刷上の苦心は實に容易ならざるものにて、當所の畫工が昨年八月以來滿一ヶ年有餘の間專ら他事を抛ちて寫生し、斯業に最も熟練なる西濃印刷會社が之に當り、原料の精撰は勿論、勞力と時間を惜まざれば、其精巧なること本邦に於ける精密なる昆蟲圖版の嚆矢とも稱すべく、之を歐米諸國に示すも決して遜色なきを信ずるなり。されば本圖版印刷の始め西濃印刷會社が僅か其二葉を五二會品評會に出品して銀賞牌を得たるを以て見るも如何に其精巧なるかを証するに足るべし。本圖說の体裁はプライアー氏日本蝶譜のそれの如きも、稍大にして記載の親切と、圖版の精巧なるは、到底同日の論にあらざるなり。

發行所 岐阜市公園内 名和昆蟲研究所

（毎月一回十五日發行）第八卷第八拾五號（明治三十七年九月十五日發行）

（明治三十年九月十日内務省許可）（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢詩　昆蟲亂題（但季は秋の事）　牧野南山君選
▲和歌　昆蟲亂題（但季は秋の事）　服部綾足君選
▲俳句　浮塵子十句（九月五日占切）　上原三川君選

投稿占切期日毎月五日△投稿用紙は郵便端書にても宜し△届先は岐阜市公園内名和昆蟲研究所

◉新刊害蟲圖解

第廿三、粟及陸稻の害蟲アハノヨタウムシ
第廿四、桑樹の害蟲ヲグロクハハマキムシ
第廿五、大豆害蟲ヒメコガチムシ

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市公園内名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所内　岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し
第七十回月次會（十月一日）　第七十一回月次會（十一月五日）
第七十二回月次會（十二月三日）

◉名和昆蟲研究所案内

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園内即ち（チ）の位置に移轉せり・又常設の昆蟲標本陳列舘（五間に十八間）は從前の通り岐阜縣物產舘構内にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵税共金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
壹年分拾貳部郵税共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす◉爲替拂渡局は岐阜郵便局

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年九月十五日印刷並發行
岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二（岐阜市公園内）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二
發行者　名和梅吉
同縣揖斐郡黛村大字公郷三番戸
編輯者　小森省作
同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

（明治卅年九月十四日第三種郵便認可）

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF "NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"

GIFU JAPAN.

VOL. VIII.]　OCTOBER. 15TH, 1904.　[No. 10.

昆蟲世界

第八卷第拾冊　明治三十七年十月十五日發行　第八拾六號

目次（禁轉載）

（毎月一回十五日發行）

名和昆蟲研究所發行

●本所擴張寄附金品募集廣告

本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園内にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より教室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へとんす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは衷心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義俠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

明治卅七年三月

岐阜市 **名和昆蟲研究所**

大方諸君

NAWA: ICONES JAPONICORUM INSECTORUM,
VOL. I.
LEPIDOPTERA SPHINGIDAE,
BY K, NAGANO.
(Price 5 yen per copy)

The author, Mr. K. Nagano, is an enthusiastic student of entomology, his spesialty being Japanese moths, to the study of which he has devoted more than fifteen years. The present volum ei sa result of his patient and laborious studies. All the specimeus of Japanese Sphingidae contained in the collection of the Nawa Entomological Laboratory are explained in simple Japanese and English languages. The volume also contains a large number of original colossred plates, representing life-sized Imago, Larva and Pupa of each moth.

Published by
Nawa Entomological Laboratory,
Gifu, Japan.

蕈をつくる蟻

學說

◎鱗翅類の和名に對する卑見

於名和昆蟲研究所内　長野菊次郎

動植物の名稱につき純粹的學問上よりいはゞ、學名だにあらば和名の必要なきこと固より論なしといへども、歐米人が學名を記憶することは吾人に比して數倍容易なるにも關せず尚各國其俗名あるを見れば、和名も亦決して捨つべきにあらず、乃ち換言すれば、學名は學問的、和名は通俗的にして共に必要を感ずるものなり。苟も和名にして必要なる以上は、之を命ずるにも多少の規約即ち標準を定めて是に準據し、各人各箇にして殆んど統一なきことは大に避けざる可からざるは固より余の喋々を俟たざるな

顯花植物には幸にも古人の早く是に法意せし結果、和名の大勢既に定りたりしにより新に和名を命ずるにも左程の困難を感ぜざるのみならず、古人が多少の研鑽を積みたると比較的區別の容易なるとにより系統的關係を示すに足るべき名稱の既に多々ありしこと例へば菊科に屬するものには語尾にキクを有し、蘭科に屬するものにはランを有するごときは實に吾人の多とする所なり。然れども昆蟲の如きに至りては普通なるもの特に大形なるもの丶少數にのみ和名を存せしに過ぎざりしを以て、新に和名を命ぜんとするに當りて非常の困難を感ずることは諸學者の經驗せられし所ならん。余少しく鱗翅類を研究するに際し、之が不便を感ずること少からず、然り而して今日に於て之が基礎となるべき標準を定めざ

れば後來非常の混雜を生じ、後進者をして殆んど其據る所を知らざらしめんことを憂ひ、聊か余の卑見を草して大方諸賢の叱正を請はんと欲するものなり（此篇重に鱗翅類につきて論ずれども他の昆蟲にも亦適用すべきことを信ず）。和名は固より學名の如く一定の規約の下に命ずるものにあらざるを以て、固より分類的の要素を含蓄するものにあらざれども、一和名にして確定せし以上は永久變更する必要なきを以て、彼の學名が分類學の進步と共に幾回も其變更の必要を生ずるに比し大に便利なる點あるなり、此点より謂はゞ和名は唯物の符牒として如何なる名稱を附するも妨なく、唯早く定めたる人の名稱を墨守すれば其にて事足るが如しと雖も、生物の討究漸次密なるにつれて漸次其數を增すに當り、之を識別するに便ならしむるには如何なる方法による可きかは大に吾人の考慮せざる可からざる所なり。幸に蝶には略一定の和名定りて分類上の關係さへ多少存せること、例へば鳳蝶屬には多くアゲハの語尾を有し豹文蝶屬にはヘウモン、蛺蝶屬にはタテハ等の如き、其他屬を異にするも同科のものにて同じ語尾を有するは小灰蝶科に於けるシヾミ、蛇目蝶科に於けるジャノメ等の如し。是等は記憶の上よりいふも、系統上よりいふも、最も適當なる和名と信ずるなり。然るに蛾類に至りては天蛾科の多數がスヾメの語尾を有し、硝子蛾科のものがスカシバの語尾を有せる如く、一二蝶類と同一轍に出でたる例なきにあらずと雖も、其他は實に亂雜極りなく、甚しきは幼蟲の名か成蟲の名か判じ難きものさへあり。抑蛾の名稱たる蝶の名稱より推すも固より成蟲につき命ずべきものにして、幼蟲の名其儘を成蟲に宛つべきにあらず、然れども蛾は其色彩紋理蝶の如く顯著ならざると、比較的小形のもの多きと、其種の多數なる等は之が和名を命ずるに非常の困難を感ぜしめ、止むを得ず往々幼蟲の名を成蟲に宛て、或は其の下に蝶或は蛾の文字を加へたると、例へばサクラケムシ蝶或は蛾、イボタノイモムシ蝶（蛾）等の如し。若し櫻叉

は白蠟樹に生ずる幼蟲が一種ならば此和名にて少しも妨げなしと雖も、櫻の毛蟲にも白蠟樹の烏蠋にも今日既に數種あり、又討究の進むに從ひ今日知られざる幼蟲の增加すると疑なきを以て、漸次混雜を加ふるや必せり。特に或る人は蝶と呼び或人は蛾と稱ふるなど一層の亂雜を生ずる原因なり。抑蝶と蛾との區別につきては分類學上判然たる區劃あるにあらねども、若し區別を主とする點より云へば和名にも蝶、蛾を區別すると必要ならん、唯蛾の文字を語尾に附するに當り大に其口調を害するにより世の諸賢の之を採用するに躊躇する所あらんと信ず。然れども一步進みて思考すれば、蝶或は蛾の文辭を附すると附せざるとは、草に對してクサを附し木に對してキを附すると同一にして、或る場合には殆んど無意味のものなり。例へばキアゲハ、ルリタテハ、ヤマトシヾミ等にて少しも妨げなく、必しも蝶を附するの必要なきなり、故に余は蛾に命名するにも蝶蛾の語尾を附せずして成語をなすものを選びなば少しも蝶蛾に拘泥する必要なく、若しシヾミが貝類の蛤と混じ、スヾメが鳥の雀と混ずる樣の場合に際し蝶或は蛾を附するは諸人の心に任じて可ならんと信ず、故に余は和名を命ずるに略左の標準に據らんこと如何にと愚考するものなり。

一　成蟲によりて命ずること。

二　近緣のものには成るべく同一基名を用ゐること。

三　外部に現はれたる形態の特徵によること（例へば觸角の形狀、眼球の色彩、脚の形狀、翅の色彩紋理形狀大小厚薄闇明、躰軀の形狀色澤、其全體の狀貌等）。

四　形態によらざるものは他と區別すべき名辭を基語に冠すること（例へば人名「古來の英雄、名譽學者、功勞ある人等」鬼神の名「鬼、魔等」地名「始めて採集したる地、分布の地、多産の地等」

五　其他顯著なる名辭)。
　　學名の意味を採ること。
六　嗜食植物の名を冠すること。
七　習性によること。
八　口調を好くすること。

尚少しく之を詳論せんに、第二に擧げたる基名とは鳯蝶屬に於けるアゲハてふ名辭にして、其アゲハは即第七の習性より來りたるなり、之を基名として是に黃或は黑等を加て以て種を區別するは翅の色を冠したるなり。又松村博士が Aeronycta 屬には、複眼の後方に黑斑あるにより同屬のものにホ、グロの基名を命じて是に痲、櫻、杏等の名辭を加へて種を區別せられたるは、即第六と第二との結合によるなり其他硝子蛾科にてはスカシバが基名となりて、或は蝦夷、葡萄、小等の文辭の冠せるは皆前條に適合するものなり。但し基名は口調の都合或は他の理由により必しも語尾とならざることもあらん。又第五の學名の意を採るに當り、其種名が既に形狀、色彩等によりて命せられたるときは、則ち其實第三に據ると同一なれども、種名が人名或は地名等によりて成れるときは宜しく是に基名か又は他の言辭を加へざれば混雜を生ずる恐れあるなり。例へばジョネス氏(Jonas)の記念として命じたる種に對し直にジョナシ蝶(蛾)と命ずるときは Neoris(Caligla) Jonasi も Catocala Jonasi も同一となりて既に今日此兩種は同一和名を有せり。

前述の理由により余は野蠶科に屬する各種に對し舊來の和名を改正せんと欲す、今日にては野蠶蛾科より分離したれども從來同科に隷したる彼のイボダムシテフと云へる Brahmia japonica には古來蜀江錦

の和名あるにより之を根據とすると同時に、此科に屬するものは紋理も美麗なるによりニシキを以て之が基名とし、各種の錦を此等の各種に配當すること左の如し。

新稱	舊來の名	學名
やまとにしき	ヤママユノテフ、ヤママユノガ	Antheraea yamamai Guer.
からにしき	サクサン	Antheraea pernyi Guer.
あやにしき	シンジユサン	Philosamia cynthia Dru.
おほあやにしき		Attacus atlas L.
つゞりのにしき	テグスノテフ、クリケムシノガ	Caligula japonica Moore.
えぞにしき	ジヨナシテフ	Neoris jonasi But.
あづまにしき	ヤマカマステフ、ヤマカマスノガ、ツリビク	Rhodia fugax But.
あをにしき	オホミヅアヲテフ、オホアヲガ	Tropaea artemis Brem.

此の如く殆んど獨斷的に和名の改正を計ること實に唐突の至りにして、大に諸賢の叱咤を受けんこと固より期する所なれども、今日に於て大英斷を施し根本的に基礎を定めて和名の統一を謀るにあらざれば千歳の後、後進者を如何にせん、況んや本邦産數千の蛾に對し如何にして和名を命ぜんとするか、併し余は唯余が卑見を發表するのみなれば、敢て諸賢に對して余の說を強ふるものにあらず、大に諸賢の忠言に從ひて唯其標準の大體なりとも一定せんことを希望するものなり。大方の諸君　幸に余の卑見の誤れる所を敎示せられなば余は喜んで其敎に從はんのみ。

◎分類漫錄　其二（小蜂科の二）

在農事試驗場九州支場　中川久知

前回は小蜂科、卵蜂科の二科を分離せざる索引表を掲げたるが、今小蜂科だけを一層細かに分類したる

Föerster氏の索引表を左に記すべし。研究者は同一の標本を兩表にて捜索せらるべし。

小蜂科亞科索引、

甲　五跗節のもの

(一)後肢の腿節非常に肥大す……(三)(四)
(二)後の腿節肥大せず……(五)(六)
(三)前翅は疊折す……Leucaspoidae.
(四)前翅は疊折せず……Chalcidoidae.
(五)中胸の側板に溝或は凹所なし、中肢の脛節の末端に一個の大なる距あり……(七)(八)
(六)中胸板に溝或は凹所あり、中肢の脛節に大距なし……(十一)(十二)
(七)觸角は八節を超へず……Myinoidae.
(八)觸角は八節以上なり……(九)(十)
(九)中胸後板の前に深き凹所あり、顱頂の後邊は鋭き縁をなさず……Eupelmoidae.
(十)中胸後板の前に深き凹所なし、顱頂の後邊は鋭き縁をなす……Encyrtoidae.
(十一)觸角は口部に接して附着す……(十三)(十四)
(十二)觸角は口部より離れて上方に附着す……(十五)(十六)
(十三)觸角短くして十節より成る……Pyrenoidae.
(十四)觸角長く十節を超過す……Spalangoidae.
(十五)中胸非常に發達して背面凸隆す……(一七)(一八)
(十六)中胸は特別の發達をなさず……(一九)(二〇)
(十七)枝脈は發達せず、腹部の第二環節は次位以下の環節を被覆す……Eucharoidae.
(十八)枝脈は短しと雖顯著なり、腹部第二環節は次位以下の環節を被覆せず……Perilampoidae.

(一九)前胸は非常に發達し方形又は長方形をなし或は圓錐形に尖れり……………(二一)(二二)
(二〇)前胸は大に發達せず短かくして横位をなす……………(一七)(一八)
(二一)枝脈は非常に短縮す……………(二三)(二四)
(二二)枝脈は短縮せず……………(二五)(二六)
(二三)腹部は特異なる紋理あり、雄に於ては圓柱形をなし雌に於ては圓錐形をなし産卵器は突出せず……………Ormyroidae.
(二四)腹部は特異なる紋理なく、雄に於ては左右より壓迫せられたるが如く、(側扁し)雌の産卵器は長く突出す……………Torymoidae.
(二五)前胸は方形又は長方形をなし大に發達し腹部は側扁し又は圓柱形なし背面は穹隆す……………Eurytomoidae.
(二六)前胸は延長して圓錐形をなし著く發達す、中肢の脛節には巨大なる距あり、腹部の背面は平坦なり……………Cleonymoidae.
(二七)腹部の根基は柄をなす……………Miscogasteroidae.
(二八)腹部の根基は柄をなさず……………(二九)(三〇)
(二九)觸角は珠數狀をなす……………Hormoceroidae.
(三〇)觸角は珠數狀をなさずして糸狀、紡錘狀或は棍棒狀をなす……………Pteromaloidae.

乙　四跗節のもの

(一)亞前脈と前脈は間斷なく連續す……………(三)(四)
(二)亞前脈に斷切部あり……………(七)(八)
(三)中、後、兩肢の腿節は側扁にして大に發達せり……………Elasmoidae.
(四)中、後、兩肢の腿節は側扁せず……………(五)(六)

(五)側溝完全顯著なり……………Elachistoidae.
(六)側溝完備せず……………Euloppoidae.
(七)前脈長くして翅の中央よりも外方に達す……………Entedonoidae.
(八)前脈短くして翅の中央以外に出です……………Tetrastichoidae.

丙　三跗節のもの

(一)……………Trichogrammatoidae.

小蜂科屬名索引

第一　Leucaspoidae.

唯だ一屬あり……………Leucospis Fabr.

第二　Chalcidoidae.

(一)頭部武裝す(棘の如き攻擊の用に供すべきものを有す)……………Dirrhinus Dalm.
(二)頭部武裝せず……………(三)(四)
(三)腹部の根基は長き柄をなす……………Smicra Shin.
(四)腹部の根基の柄は短かし……………(五)(六)
(五)觸角は前額の中央に附着す……………Chalcis Fabr.
(六)觸角は口部に接して附着す……………Halticella Spin.

第三　Myinoidae.

(一)前翅の枝脈の下に毛を生せざる線あり……………(三)(四)
(二)前翅の枝脈の下には毛を生せざる線なし(翅の全部一樣に毛を生す)……………Coccophagus Westw.
(三)觸角最末の三節は大さ同じからず……………{Agonioneurus Westw. / Myina Nees.

(四)觸角最後の三節は大さ同じ……Mesidia.

第四　Eupelmoidae.

(一)後肢の脛節及び第一蹠節は側扁す……Halidea.
(二)後肢の脛節及び第一蹠節は側扁せず……(三)(四)
(三)額部は觸角窩に沿ふて櫛齒狀の突起あり、中位の小眼は觸角窩の內に隱る……(五)(六)
(四)前額は觸角窩に近く櫛齒狀の突起なく、中位の小眼は觸角窩の外にあり……(九)(一〇)
(五)中肢の脛節は非常に伸長す……(七)(八)
(六)中肢の脛節はは伸長せず……Ratzeburgia.
(七)觸角は口部に接近して附着す……Stenocera Walk.
(八)觸角は口部を離れて上方に附着す……Polymoria.
(九)中胸後板の中胸前板に接する所は幅廣し……Calosoter Walk.
(一〇)中胸後板の中胸前板に接する所は幅狹し(尖端を以て接す)……(一一)(一二)
(一一)中肢の第一蹠節の下面は棘を密生す……Eupelmus Dalm.
(一二)中肢の第一蹠節の下面は棘を密生せず……Charitopus.

第五　Encyrtoidae.

(一)中胸の後板の尖端に毛束あり……(三)(四)
(二)中胸の後板の尖端に毛束なし……(五)(六)
(三)前脉甚だ長く枝脉外脉甚だ短かし……Chiloneurus Westw.
(四)前脉甚だ短かく枝脉及び外脉甚だ長し……Eucomys.
(五)顏面及顱頂に大窩を密布す……(七)(八)
(六)顏面及顱頂に大窩を印せず……(九)(一〇)

(七)觸角の莖節は長くして顱頂に達し前脉欠如す或は甚だ短かし……Bothriothorax Ratzb.
(八)觸角の莖節は短かくして顱頂に達せず前脉長し……Discodes.
(九)觸角の莖節及鞭狀部は共に幅甚だ廣し……(一一)(一二)
(一〇)觸角の莖節及鞭狀部は共に幅廣からず……(一五)(一六)
(一一)全身甚だ扁たく(翅を欠く)……Anusia.
(一二)全身扁たからず……(一三)(一四)
(一三)鞭狀部は紡錘狀をなし枝脉は前脉より長し……Euryscapus.
(一四)鞭狀部は紡錘狀をなさず枝脉は前脉より長からず……Ceraplerocerus Westw.
(一五)中胸は甚だ小さく殆ど横位をなす……(一七)(一八)
(一六)中胸は小ならず又横位をなさず……(二一)(二二)
(一七)觸角は十節より成る……Metalon Walk.
(一八)觸角は十節を超過す……(一九)(二〇)
(一九)腋部は左右のもの中央にて接觸す、頭部と胸部は尋常の紋理と印痕あり Choreia Westw.
(二〇)腋部は相接着せず中胸後板は基底部に於て二個の凹を有し、頭部胸部は平滑にして印痕なし……Aglyptus.
(二一)觸角は九節より成る……Cercobelus Walk.
(二二)觸角は九節を超過す……(二三)(二四)
(二三)腹部は著しく突出したる産卵器を有す……(二五)(二六)
(二四)腹部には突出したる産卵器を有せず……(二九)(三〇)
(二五)腹部は往々大に發達し時として側扁し、觸角の鞭狀部は甚だ長く糸狀をなす Copidosoma Ratzb.
(二六)腹部は著しく發達せず又側扁せず、鞭狀部も特別に長からず……(二七)(二八)

(二七)顱頂は幅狹くして外側の小眼は大眼の内邊に接す、觸角の棍棒狀部は鋭く尖れり Echthroplexis.

(二八)顱頂は幅廣く左右の小眼は大眼に接せず、觸角の棍棒狀部ハ幅廣ク圓ミテ帶ブ Cerchysius Westw.

(二九)前脉枝脉及外脉皆長し……(三一)(三二)

(三〇)前脉枝脉及外脉皆長からず……(三三)(三四)

(三一)鞭狀部の環節は密接し雌雄共に短毛を有す……Ericydnus Hal.

(三二)鞭狀部の環節は分離し雄に於ては長毛を環列す……Sterrhocoma.

(三三)腋部は左右遠く相離る……Dinocarsis.

(三四)腋部は互に遠く相離れず……(三五)(三六)

(三五)額部は顱頂部に漸次移り行きて境界判然せず、身体扁たく鑛光なし……Rhopus.

(三六)額部と顱頂部は角度をなして相連り其境界を區別し得可し、身体扁からず鑛光を放つ(三七)(三八)

(三七)鞭狀は殊に細長なり……Leptomastix.

(三八)鞭狀は殊に細長ならず……(三九)(四〇)

(三九)中胸後板の尖端と頸部は葉狀の鱗片を供ふ……Habrolepis.

(四〇)中胸後板の尖端と頸部は葉狀の鱗片を供へず……(四一)(四二)

(四一)觸角の鞭狀部の末節は長くして他の諸節を合したるものと其長さ相等し Sceptrophorus.

(四二)觸角の鞭狀部の末節は他の諸節を合したるものより短かし……Encyrtus Dalm.

第六 Pyrenoidae.

(一)下顎鬚は四節より成る……(三)(四)

(二)下顎鬚は二節より成る……Pirene Hal.

(三)大眼は雌雄共に遠く相離る……Calypso Hal.

(四)大眼は雄に於ては接近す……Macroglenes Westw.

第七　Spalangoidae.

（一）觸角は口部の直上に立つ……Spalangia Latr.（スパランジア）

（二）觸角は口部の直上よりも離れて上方に立つ……Cerocephala Westw.（セロセフハラ）

第八　Eucharoidae.

一屬あり……Eucharis Latr.（ユーチャリス）

第九　Perilampoidae.

（一）腹部の根基は柄をなさず……Periampns Latr.（ペリラムパス）

（二）腹部の根基は明かに柄をなす……（三）（四）

（三）中胸の前板及後板は深窩を印す……Lamprostylus.（ラムプロスタイラス）

（四）中胸の前板及後板は深窩を印せず……Elatus Walk.（エラタス）

第十　Ormyroidae.

唯だ一屬あり……Ormyrus Westw.（オルミラス）

第十一　Torymoidae.

（一）後翅の腿節は齒を有し又齒と小粒を具ふ……（三）（四）

（二）後翅の腿節は齒を有するも小粒を備へず……（五）（六）

（三）後肢の脛節は甚だしく屈曲す……Palmon Walk.（パルモン）

（四）後肢の脛節は甚だしく屈曲せず……Cryptopristus.（クリプトプリスタス）

（五）後肢の腿節に齒あり……（七）（八）

（六）後肢の腿節に齒なし……（九）（一〇）

（七）後肢の莖節に齒あり又中胸は革皮の如き皺紋あり……Monodontomerus Westw.（モノドントメラス）

（八）後肢の莖節に齒なく又中胸は深き針痕あり……Diomorus Walk.（ダイオモラス）

(九)後肢の腿節に小なる顆粒あり……………………………………Glyphomerus.

(一〇)後肢の腿節に顆粒なし……………………………………(一一)(一二)

(一一)外脈は前脈と同長なるか或は前脈より長し枝脈は肥厚したる頭部を有すMegastiqmus Spin.

(一二)外脈は前脈より遙に短かく枝脈に肥厚したる頭部なし……………(一三)(一四)

(一三)中胸後板は其尖端より前に深き横溝あり而して溝より後は平滑なり……Syntomaspis.

(一四)中胸後板に横溝なし……………………………………(一五)(一六)

(一五)中胸の側溝は後板に近く腋部に達す……………………Lochiles.

(一六)中胸の側溝は後板より離れて腋部に達す…………………Callimome Spin.

第十二　Eurytomoidae.

(一)後肢の脛節に雌雄共微小なる剛毛の列を有す……………Decatoma Spin.

(二)後肢の脛節に剛毛の列を有せず……………………………(三)(四)

(三)前胸及中胸の背面及中胸後板は深き凹窩を密布す…………Eurytoma Ill.

(四)前胸、中胸の背面及中胸の後板に深き窩を有せず…………(五)(六)

(五)中間環節の後端は直角に削りたるが如し…………………Systole Walk.

(六)中間環節の後端は直角に削りたるが如くならず……………Isosoma Walk.

第十三　Cleonymoidae.

(一)翅を有せず……………………………………………(三)(四)

(二)翅を有す……………………………………………(五)(六)

(三)産卵器は殆ど突出せず……………………………Tricoryphus.

(四)産卵器は長く突出す………………………………Cea Hal.

(五)前肢の腿節は頗る肥大す…………………………Heydenia.

(六)前肢の腿節は肥大せず……(七)(八)
(七)觸角に毛を輪生す……Plutothrix.
(八)觸角に毛を輪生せず……(九)(一〇)
(九)觸角の第二節は横走の印痕あり……Tetracampe.
(一〇)觸角の第二節に横走の印痕なし……(一一)(一二)
(一一)中胸の後板は尖端の前に深き横溝あり……(一三)(一四)
(一二)中胸の後板は尖端の前に深き横溝なし……(一五)(一六)
(一三)側溝顯著なり……Trigonoderus Westw.
(一四)側溝は中胸後板の前に至りて漸次消滅す……Caudonia Walk.
(一五)中肢の脛節と第一蹠節は肥大す……Prosopon Walk.
(一六)中肢の脛節と第一蹠節ハ肥大せず……(一七)(一八)
(一七)翅の根基は(緣紋に至る迄)前緣肥厚す……Platynocheilus Westw.
(一八)翅の根基は(緣紋に至る迄)前緣肥厚せず……(一九)(二〇)
(一九)觸角の棍棒狀部は下側を削りたるが如し……Notanisus Walk.
(二〇)觸角の棍棒狀部は下側を削りたるが如くならず……(二一)(二二)
(二一)柄節と繫節の間に二個の輪狀節を有す……Macroneura Walk.
(二二)柄節と繫節のと間に一個の輪狀節を有す……(二三)(二四)
(二三)觸角は雌雄共に十二節より成る(但し輪狀節も算入す)……Cleonymus Latr.
(二四)觸角は十三節より成る……Merostenus Walk.

第十四 Miscogastroidae.

(一)頭部は非常に發達し顏面は大眼の內側に於て二個の鋭き突起を有す……Caratomus Dalm.

(二)頭部は非常に發達せず……………………………………………………………………(三)(四)

(三)前脉は非常に發達し翅の前縁の大部分を占有す……………………(雄)…Dipara（ダイパラ） Walk.

(四)前脉は特別に發達をなさず……………………………………………………………(五)(六)

(五)前脉は大に肥厚す……………………………………………………………………(七)(八)

(六)前脉は大に肥厚せず…………………………………………………………………(一三)(一四)

(七)中胸の背板は深き溝に依て分離せらる……………………………Pachycrepis.（パキクレピス）

(八)中胸の背板は溝に因て分離せられず………………………………………………(九)(一〇)

(九)腹部の背面は平坦なるか又は凹む……………………………Pachyneuron（パキニユーロン） Walk.

(一〇)腹部の背面ハ穹隆す………………………………………………………………(一一)(一二)

(一一)腹部の第六節(柄節は第一節として)は第五節より長く第七、第八の兩節甚だ小なりEunura（ユーニユーラ） Walk.

(一二)腹部の第六節は雌に於ては第五節の三分の一に過ぎず雄に於ては第五節の殆ど二倍に達するのみ第七節は小にして第八節は見る可からず…………………Hypsicamara.（ヒプシカマラ）

(一三)下顎鬚の末節は非常に肥大し球狀亦は匕狀をなす………………………………(一五)(一六)

(一四)下顎鬚の末節は肥大せず……………………………………………………………(一九)(二〇)

(一五)下顎鬚の第三節は第二節より短からず…………………(雄)…Cyrtogaster（シルトガステル） Walk.

(一六)下顎鬚の第三節は第二節より遙に短し………………………………………………(一七)(一八)

(一七)枝脉の頭端肥大す……………………………………………(雄)…Sphaeripalpus.（スフヒーリパルパス）

(一八)枝脉の頭端肥大せず…………………………………………(雄)…Pachylarthrus.（パキラースラス）

(一九)中肢の脛節は棍棒狀をなす……………………………………Spaniopus（スパニオパス） Walk.

(二〇)中肢の脛節は棍棒狀をなさず…………………………………………………………(二一)(二二)

(二一)前胸の背面は殆ど方形をなす…………………………………Syntomopus（シントモパス） Walk.

（二二）前胸の背面は其前緣圓し……（二三）（二四）
（二三）觸角の鞭狀部に長き毛を生す……（二五）（二六）
（二四）觸角の鞭狀部に長き毛を生せず……（二七）（二八）
（二五）觸角は一個の輪狀節を具へ十二節より成る其末節は小なる節に分れず……Arthrolysis.（アースロリシス）
（二六）觸角は二個の輪狀節を有し十三節より成る其末節は二小節に分る……Dichalysis.（ダイカリシス）
（二七）前脉は其長さ亞前脈に等し……Panstenon Walk.（パンステノン）
（二八）前脉は其長さ亞前脈より短かし……（二九）（三〇）
（二九）腹部の第三環節は後方の環節を被覆す……Cryptoprymna.（クリストプリムナ）
（三〇）腹部の第三環節は後方の環節を悉く被覆せず……（三一）（三二）
（三一）觸角は十二節より成る……Isocyrtus Walk.（アイソシルタス）
（三二）觸角は十三節より成る……（三三）（三四）
（三三）觸角の第五節は小なり……Micromelus Walk.（ミクロメラス）
（三四）觸角の第五節常形をなす……（三五）（三六）
（三五）枝脉の頭部は非常に肥大す……Lamprotatus Westw.（ラムプロタタス）
（三六）枝脉の頭部は肥大せず……（三七）（三八）
（三七）腹部の柄は甚だ長し……Sphegigaster Spin.（スフエジガステル）
（三八）腹部の柄は短し……（三九）（四〇）
（三九）腹部は多少側扁す……Toxeuma Walk.（トクシユーマ）
（四〇）腹部は側扁せず……（四一）（四二）
（四一）腹部の幅は胸部の幅の半ばに過ぎず……Tityros Walk.（タイチロス）
（四二）腹部の幅は胸部の幅に畧ば等し……（四三）（四四）

(四三)腹部の第三環節は第二環節と殆ど同大なり……(四五)(四六)
(四四)腹部の第三環節は第二環節より遙に小なり……(四七)(四八)
(四五)第二環節の後縁は圓く後方に突出せり(雌)……Cyrtogaster Walk.
(四六)第二環節の後縁は直線をなす……Isocratus.
(四七)第二環節の大さは後方諸環節の和の三分の一に過ぎす中間環節は背面の中央に隆起線なし……Merisus.
(四八)第二環節は後方諸環節の和の二分の一より長し……(四九)(五〇)
(四九)一側の大顎は曲り他側のものは直行す……Dicyclus Walk.
(五〇)大顎は兩側とも直行す……(雌)…Pachylarthrus Westw.

(未完)

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其十四）（第九版下圖參看）

名和昆蟲研究所内　小竹浩

（一五）桑樹害蟲

養蠶の事業は、我國重要の副産業として一日も忽にすべからず、特に、生糸は我邦輸出品の主位を占むるものなれば、其重要の事業たるや明かにして、益改良發達を期し、愈國益の増進を圖るべきなり。從來蠶業の甚幼稚なりし時代には、一の投機的事業視せられ、一盛一衰を免がれざりしも、近來漸次發達の緒に就き、唯一の副産業として廣く飼養するに至りしは、大に喜ぶべきの現象なり。然れども、退て之れが根元たる桑園を見るに、未だ昔日の觀を改めざるもの多く、假令一部改良の途を開くも、之れが害蟲驅除の如きは、實に冷視せられ、爲めに一朝蟲害を受くるに至れば、忽ちに桑葉の暴騰を來し、折角の蠶兒良好にして結繭又欠くるなきも、遂に終始相償はざるの不幸に陥り、甚しきは中途にして蠶兒

なを放棄するの止むを得ざるに至ること、往々耳にすることあるは、最も遺憾とする處なり。宜しく蠶業界の發達を期すると共に、桑園の改良を圖り、同時に之れが害蟲の種類經過を研め、以て驅除の方法を案じ、敢て遺漏なからんことを期すべし。

（一七七）クハハムシ（Luperus impressicollis, Mots.）　甲翅類葉蟲科に屬する一種にして、一分八厘乃至二分二厘內外の小形種なり。翅鞘瑠璃色を帶び、腹面は黑色を呈し、肩部は稍隆起す、前胸節は中央廣く、前后に於て狹まる。觸角十一節より成りて糸狀をなし、第二節は甚だ短し。顎鬚は短くして太く、肢には細短毛を有し、跗節の第三節は分裂す。幼蟲は多く砂地の桑園に產し、根を害す。五月頃羽化して成蟲となり、甚しく桑葉を食害す。之れを除くには、廣口の捕蟲網の內に拂ひ落して捕殺するを良とす。

♀

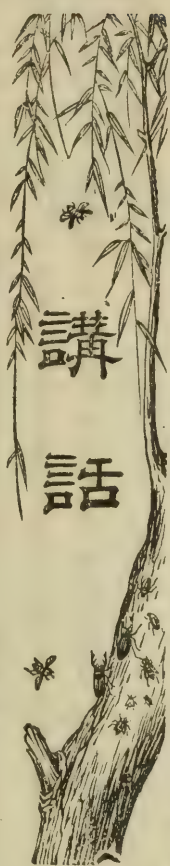
クハカミキリムシの圖

（一七八）クハカミキリ（Apriona rugicollis, Chevr.）　甲翅類天牛科に屬する普通種にして、翅鞘は灰黃色を帶び、其基部には多くの顆粒狀小黑点を散布す。觸角十一節より成り、第二節甚短く、第一、第二節は黑色を帶び、第三節以下は、各節の基半は灰白色に、末半は黑色を呈す。複眼腎臟形にして、顎鬚長く、唇鬚稍短し、前胸背には波狀の橫皺を有し、兩側は針狀に突起す。跗節は末端の一節を除くの外は多少分裂し、裏面には毛を有す。該蟲は七八月頃最も多く現はれ、發育よき新梢の基部をu字形に嚙傷し、其內に產卵す。卵子は卵形にして、孵化すれば直ちに髓部に喰ひ入り、兩三年其中に生活して甚しく樹心を食害す。老熟すれば其中に於て蛹となり、遂に羽化して成蟲となるものなり。之れを除くには、成蟲を捕殺するは勿論なれども、糞の出づる穴より殺蟲注射器を以て除害菊

粉の水溶液（純粹の除蟲菊十匁を水一升の中に入れ一晝夜程を經て使用すべし、若し早く使用せんとせば溫湯の中に除蟲菊粉を入るゝを要す）を注射して幼蟲を斃すべし。且冬季農閑の頃に於て、產卵個所を剖開して其幼蟲を殺すべく、往々其時卵內に小さき蛆の數多あるを認むるときは、こは寄生蜂の幼蟲にして、卵は之れが爲めに多く斃さるゝものなれば、大切に保護し置くべし。

（一七九）エダシヤクトリの蛾（Hemirophia atrilineata, But.）　鱗翅類枝尺蠖蛾科に屬する普通種にして年二回若くは三回の發生をなし、桑葉を食害すること甚し。成蟲は發生の時季により大小色澤に多少の差あれども、普通灰色にして黃褐色と淡褐色とを混じ、無數の暗褐細短橫線を有し、前翅に黑色の彎曲線二條と、后翅に一條とを有すれども、后翅にあるものは橫に殆んど一直線をなし、其內方と外方とは色澤を異にす。今回之れをマツカハクロスヂと改稱す。卵は綠色にして、多くは桑葉の裏面に一個所に數多を產附す。孵化の幼蟲は、初め背面は黑色に、腹面灰色を帶び、漸次成育するに從ひ全体枯枝に似たる色澤を呈し、晝間は適宜の枝に止まりて枯枝に擬するを以て、容易に見出し難し。頭部稍扁にして各節に微小なる黑點數個つゝを有すれども不明なり。只四節背面の二個若くは五節の二個は稍明かに認むることを得べく、八節の背面には橫に肉狀隆起ありて、第一乃至第三腹脚を欠く。老熟すれば樹の凹所或は葉の間に粗造の繭を營み、其內に蛹化す。蛹は褐色にして、腹部の下半は急に細くなり、末端に先端二分して曲りたる針を有す。冬季は幼蟲の有樣にて樹の凹所又は枯葉の間等に入り越冬し、翌春發芽の時期に於て、潜所を出で新芽を食害すること甚だし。之れを驅除するには、秋季に於て樹に藁等を掛け、潜伏所を設け、冬季に於て之れを捕殺すると、春季潜伏所より出でたるの時に於て、其幼蟲を捕殺すべし。若し、幼蟲の黑くなりて斃れたるものあれば、そはカモドキバチの爲めに斃されたるものな

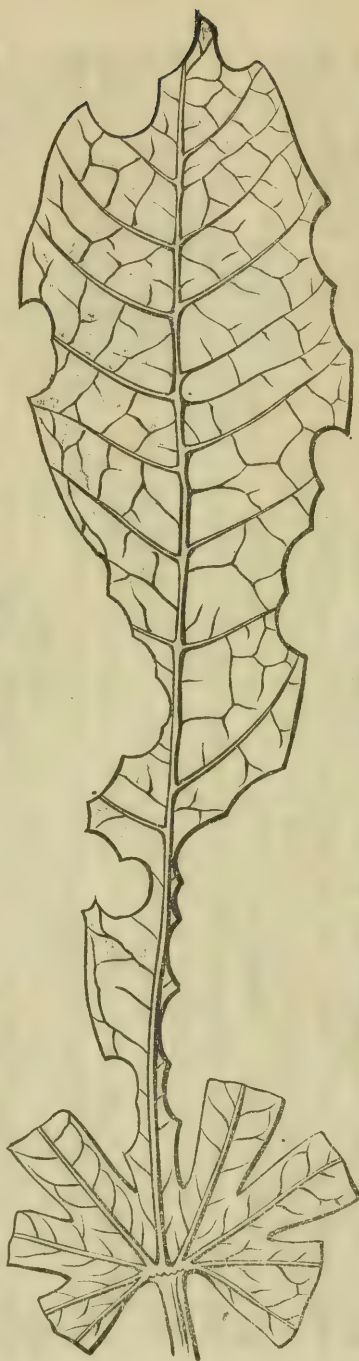
鱗翅類毒蛾科に屬し、年二三回の發生をなし、れば、其儘大切に保護し置くべし。

（一八〇）キンケムシの蛾（Leucoma similis, Fuessl.）往々桑園に大害を與ふることあり。卵子は多く葉裏に數十乃至百余粒宛一所に產付し、毛を以て被覆するを常とす。幼蟲は成長すれば一寸内外に達し、体黃色にして背線の中央縱に橙色の線を有し、亞背線部には各節大なる黑色の疣狀物ありて中央白色を帶び、第一節にあるものは赤色を呈す。氣門下にも各節二個の疣狀物と、第四、第五、第十一節の背面中央には、稍大なる瘤樣物ありて毛塊狀を呈す。而して此各疣狀物よりは多くの毒毛を生ずるを以て、之れに觸るれば痛痒を感ずるものなり。老熟すれば、葉に繭を附着せしめ、其内に蛹化す。羽化の成蟲は、翅色純白にして殆んど斑紋なく、僅に黑斑を有するあり。今回之れをコシロタへと改稱す。冬季樹皮の裂目若くば枯葉等の中に入りて幼蟲にて越年するものなり。之れを除くには、葉に產附しある卵塊を採ると、適宜の方法を以て幼蟲を捕殺するを良とす。

◎蟻の菌畑（第十版圖參看）

理學博士　伊藤篤太郎

下等なる動物の中で、蟻ほど生活の狀態の、人に能く似て居るものは他に無いといつても宜からうかと思ひます。先づ多數相集つて立派なる社會的生活をなし、女王を推戴し、朋友相信愛し、巢を建築し、隧道を掘り穿ち、農業を營み、他の昆蟲を畜養して、それから甘い汁を搾り取つて幼兒を養育し、また非常の塲合には戰爭を開き、奴隷を使役し、殊に驚くべきは、吾々人間の未だ知ること能はざる一種の通信法ありて、互に意志を交換するが如き擧動を示すなど、蟻の生活ほど愉快なるが如くにして、また、

面白きものは、蓋し動物界中、他に比類が尠なからうかと思ひます。殊に熱帶地方にては、蟻の種類も多く、隨て蟻に就いて面白い事も澤山ありますが、今茲にお話し致しますのは、亞米利加の熱帶地方に産するハキリアリ一名をヒガサアリと申し一種の奇異なる蟻のことであります。熱帶亞米利加の森林中なる山道をヒガサアリが長い行列を作つて横切りつゝ、各自その口に五錢の白銅貨程の大さなる木葉の小片をくはへ、恰も日傘をさしたるが如く、之を太陽に打翳して進み行く狀態は、同地方を旅行した人々の熟知する處ろであります。ハキリアリには數種ありますが、ベーツと申す英吉利の博物學者の研究しましたハキリアリは、一種の内に五つの區別がありまして、第一は雄蟻、第二は女王即ち雌蟻、第三は小さい尋常の職蟻即ち仕事をする蟻（圖版中にある小形の蟻）、第四は長い紅毛の生へて居る大頭の大

アイヒムと稱する植物の葉にしてハキリアリの爲めに葉面の嚙み取られたる狀を示す（實物大）

蟻（圖版中にある大形の蟻）、第五は大きな藥罐頭の大蟻であります。その中、第四、第五の二大蟻は軍蟻であるとの説もありますが、實は決して戰爭をすることは無く、尋常の職蟻と同伴して、若し之に危害を加へやうとするものがあると、之に對して防禦の役を勤め、護衛の任務を盡すものであると申します。さて、ヒガサアリの日傘にする葉の小片は、何處から持つて來るのかと云ふに、此の蟻は大なる隊伍を整へて、一ツの目的植物に向つて進行し、之に達すると、直ちに樹幹に攀ぢ登り、枝を傳はつて各自手當り次第に枝上にある葉を嚙み切つて小片となし、之を口にくはへて持ち去ります。葉を嚙み切る

には、その鋭くして鋏の如き顎で葉の縁より切り始め、僅かに二三分間にて切り取りまして、一振り振つて小片を頭上に擔ぎ上げ、已が巣に向け歸途に就くのであります。ですから、ハキリアリの大軍に襲はれた植物は、葉を切り取られて爲めに大害を蒙り、終に枯死すると申すことであります。圖版に示してあるのはハキリアリがアイピムと云ふ植物の葉を種々の形狀に嚙み切つて擔ぎ行く狀態でありまして葉の小片の形狀は一々最近の實驗說を參考して描き出したのであります。またハキリアリの侵害する培養植物は、珈琲樹、薔薇、甘藍、マンゴ（熱帶地方に廣く培養せる喬木にして甘美なる果實を結ぶもの）蜜柑類などであります。夫れ故、熱帶亞米利加の諸地方では、ハキリアリを農家の大敵として怖れて居ります。ハキリアリは其の巣の近傍にある植物を害する許りでなく、時によると、その巣から半哩も離れて居る土地に遠征を試み、植物に大害を與ふることがあります。斯樣に非常な遠路をも厭はず、己が嗜好する植物の葉を切り取つて持ち歸り、之をその巣の中に運び入れます。一種のハキリアリに於いては、此仕事をする役は、尋常の小さい職蟻のみで、大蟻は唯小さい職蟻と共に出掛ける許りでありまして、葉を切り取ることや、運搬する仕事は一切致さぬとの說があります。然るに、一說にはハキリアリの一種には、大形の蟻が自ら葉を切り取つて、之を運搬するの役を勤むるものがあると申してありますこの兩說中、何れが正確であるか、或は又ハキリアリの種類の異なるによつて、兩說共に事實であるか尙ほ實地に就いて之を確むるの必要があらうかと思ひます。それはさて置き、彼の切り取つた葉の小片は、その巣の中に持ち歸つて後、之を如何なる用に充つるのであるかと云ふ事に就いては、從來、能く分つて居らなかつたのでありまして、或はこの葉の小片を以て、巣の內の障壁を作る材料にするのであるとか、或は巣の內の造作に入用なる一種の紙を製するのであるとか、或はまた、蟻は葉の液汁を吸うて食とするのであるとか、種々の說が專門學者によつて提出せられましたが、獨りベルト氏は、蟻は葉の小片から作つた塊に菌を培養して、之を食するのであらうと申されましたが、此の說は學術上未だ之を正確なりと認むるに至らなかつたのであります。然るに、近年、獨乙の植物學者アルフレッド、メルラー氏は、自ら熱帶亞米利加に渡航して、此の點に就いて精密なる研究を遂げ、以つてベルト氏の豫言の正確なることを證明しました。此の研究は學術上實に有益なるのみならず、一般の人々にも面白い事であらうと思ひますから、諸君に紹介を致さうかと思ひます。ハキリアリの巣は實に廣く且つ大なるものでありまして、大なる巣は半町餘位のものもあるとのことであります。半町位と申せば、人間の住居に致

しても、可成大なるものでありますから、蟻の巣としては非常に廣大なるものと申さなければなりませぬ。また、クラークと申す人の説によれば、南亞米利加洲ブラジル國のリオデジヤネロ市に一の河流がありまして、此の河の幅は丁度英吉利のロンドン市なるテームズ河のロンドン橋附近位の河幅（百三十一間）であると申してありますが、ハキリアリは此の河の底なる地下に隧道を穿つて、此河を横切つて通行するのを見掛けたと申してをります。ハキリアリはその廣大なる巣の邊に、葉の小片を運び込みまして、巣の外に於いて之を細かに噛み砕き、足と顎とを以て之れを軟かな餅の如きものとなし、次第に之を搗いて、丁度カステーラか、又は海綿の樣なものを造つて、之を巣の中の奥まつた處に移し、此處に菌畑を作ると申します。又、葉にて造つたカステーラの如きものは、最初は綠色を帶びて居りますが、後、次第に青黑色に變じ、遂には黃褐色となるとのことであります。又、その中には數多の微細なる菌の絲が縱横に繁殖して居ります。若し精密にこの菌絲を觀ますと、菌絲の側部から微細な白い球の如き物體の無數に着生して居るのが分ります。その菌絲に着生して居る狀態は、恰かもコールラビと云ふ甘藍の變種の莖に小さい球が數多附着して生じて居るのに能く似て居りますから、メルラー氏は之をコールラビ塊と呼ばれました。コールラビ塊は、蟻の最も大切なる常食物でありまして、若し之なき場合には、蟻は遂に餓死するに至るとのことであります。ハキリアリの小さい職蟻は、常にその菌畑に在つて此菌の培養に從事し、或は他物の生ずるのを取り除き、或は菌絲の一部を噛み切つて餘り伸び過ぎない樣に注意し、以てコールラビ塊を生ぜしむるとの事であります。このコールラビ塊は、全く蟻の多年菌絲を培養した結果として、遂に斯樣な一種の變形物を生ぜしめたものでありまして、丁度、人が多年培養したる結果として萊菔の胞大せる根や、甘藍の球を變生せしめたのと同樣であります。菌絲は絶へず蟻の爲めに切り取られて、成長を遂ぐることが出來ませんから、生殖部を生ずることは極めて稀でありますが、偶々菌絲の成長して生殖部を生じ、蟻の巣の上に傘を擴げたやう

ハキリアリの培養するアリタケのコールラビ塊（一百五十倍）

な狀をなして、松蕈に似たる一種の菌を生ずることがあります。メルラー氏はこの傘形部を發見して後始めて彼の菌絲の植物學上、未だ世に知られない一種の新菌に屬することを認識し、此新菌に命ずるにロジテス、ゴンギロフヲラと云ふ學名を以てせられました。私は便利の爲め、之をアリダケ又はアリノツクリダケと呼ぶことゝ致します。アリダケを培養するハキリアリには四種あると申します。アリダケは蟻の巣の外、地上に於いて之を見たとは無いとのことでありますから、つまり、ハキリアリはアリダケのコールラビ塊を常食として生活し、またアリダケは蟻の爲めに培養せられて生育し、兩者相互に共棲して世に生存するの狀は、實に奇妙なりと云ふべきであります。若し試に彼の菌畑から蟻を逐ひ退けますと、菌絲は異常に伸長して、爲めにコールラビ塊の發生を停止すると申します。熱帶亞米利加に於いて菌を培養する蟻は、ハキリアリの外、ケアリ(學名アプテロスチグマ)とセムシアリ（學名シフヲミルメックス）とでありますが、此等の蟻の培養する菌絲には、前に述べたものとは少しく違つてをるコールラビ塊が出來ると申します。ハキリアリが地下の巣の中でアリダケを培養することは、蟻の智識の程度の非常に進歩して居ることを示すに足れる一例と申すべきものであります。人も蟻の如く、既に高等菌類を培養することを知つて居りまして、我が國に於いてもシヒタケを培養し、また、歐羅巴に於いては、ツクリダケ一名ハラダケを培養し、之を食用として居りますが、試に人の高等菌類培養法をハキリアリがアリダケを培養してコールラビ塊を造り出したのと比較して見ますと、遺憾ながら、菌類培養者としての人類は、蟻類に及ばざること數等であると申さなければなりませぬ。

附言、ハキリアリ、一名ヒガサアリ(Atta disigera)の外、アリダケを培養する蟻類の諸屬は、本文に記載し於けるが如く、ケアリ（Apterostigma）と、セムシアリ（Cyphomyrmex）との二屬なり。而してケアリ屬にして、菌類培養をなすものは、(一)Apterostigma Mölleri, Forel.、(二)Apterostigma pilosum, Mayr.、(三)Apterostigma Wasmanni、及(四)學術上未だ說明せられざる一種、即ち都合四種ありて、皆ハキリアリ屬よりは稍小さき社會を形成し、巣も亦小くして、之を造營する原料には、昆蟲の幼蟲の嚙み碎きたる木屑と、糞とを用ふと云へり。又、メルラー氏によりて研究せられたる、セムシアリ屬のものには、二種ありて其一をCyphomyrmex auritus, Mayr.と云ひ、其二をCyphomyrmex strigatus, Mayr.といふ。この兩種共にアリダケの培養者にして、その菌畑はケアリに於けると同樣なりと云ふ。

◎害蟲驅除と益蟲保護の關係 附歐洲昆蟲談

理學博士　丘　淺次郎

本篇は去九月上旬高等師範學校教授理學博士丘淺次郎氏が邦產蛭類調査の途次來所せられし際、當所の研究生、講習生等に對し一場の講話を乞ひ、そを筆記したるものにして、例により不完全なる筆記なれば誤謬の点は筆者の罪なり。（所末石田和三郎筆記）

只今名和さんから何か話をせいと云ふ事でありましたから、害蟲驅除益蟲保護と云ふ事に就て一言申上様と存じます。勿論私は昆蟲に就てはよく識りませぬのに、是等御研究になつて居らるゝ諸君に對しては釋伽に說法かとは存ずれど、私は私の考へ丈けを申上様と存じます。扨て害蟲は益蟲に對し、益蟲は害蟲に對し如何なる關係があるか、先づ害益蟲の定義を申しますれば、害蟲とは吾人が培養する所の作物を始め吾人に有用なる植物其他を食害する所のものにして、益蟲とは其等の害蟲を餌食となし以て被害の低度を少なからしむるものである、故に害蟲が繁殖すれば益蟲の餌食は裕となり從て益蟲は繁殖し、害蟲を驅除すれば益蟲は其餌食に缺乏して生存上困難となり遂に自滅するに至る、故に理論上より之を云へば、害蟲驅除益蟲保護と云ふ事は到底不可能の事である。假令ば茲に一萬の害蟲を九千九百九十九頭驅除したりとせんか、之に伴ひ益蟲は餌食を失ひて生存することを得ずして死滅す、此時殘り居たる一頭は再び繁殖し來るものであるから、益蟲保護を以て絕体的に害蟲驅除を謀ることは到底出來ぬ、此の兩者の均衡即ち害蟲の發生が益蟲によりて制裁せられ、益蟲の多寡が害蟲の多寡によりて左右せられ、茲に均衡を保つは、恰も市場の物價が賣手と買手とによりて高下が出來、而して自然の相場が極まると同樣である、其れ故一度十分に害蟲を驅除したりとて、其れで翌年より害蟲は發生せぬと云ふ譯にはゆかぬ、其後驅除を怠らば又同じ事になるのであるから、益蟲は出來得る範圍內に於て保護し、害蟲驅除も出來得る限り年々歲々之を行ひて害蟲の繁殖を押へ得べき丈け押へて其害を防ぎ、決して一度驅除したりとて其後は安心なりと云ふ樣な念慮はなき樣にせなければならぬ結局害蟲驅除益蟲保護は永く續けて行はざれば効能なきものなり、然るに世間には極端な考を以て一時的害蟲驅除を行ふ所から、往々失敗することがあるから一寸御參考迄に申上げた次第であります。

左は、右講話後丘先生の雜談中の談片を綴れるものなるが、頗る參考に資すべき節あるを以て茲に揭ぐることゝなしつ。

私が獨逸及び佛蘭西へ行きたる時特に感じたることは、小學校の教員などが博物思想に富みて昆蟲や植物を能く知る者が多くありました事なのです。昆蟲の事などに就ては岐阜縣の小學校教員中には余程知て

居らるゝものもあるでせうが、獨逸あたりの敎員は、我國の敎員の如く一年とか二年にて他へ轉ずる樣なことがなく、永く一校に止まりて敎鞭を取ると云ふ風で、五十年間位は奉職して居るものも隨分あります。或時私は獨逸の小學校敎員と同道した事もありましたが、昆蟲及び植物の名稱などは能く知て居る其の上に何處にはどんな昆蟲が居るとか、どの道を行けば何んと云ふ植物があると云ふ樣な事は能く知て居りて、恰も自分の庭の如く詳しいから非常に好都合でありました。斯の如く名稱などを能く知りて居るのは、參考に資すべき書籍などがありて實物を採りては對照して調べると云ふ樣に研究の道が立て居りますのでありますが、日本には動植物の圖畫なども少々位はありますが、昆蟲と來ては其名稱も不明の者が多いから隨て研究するものも少いのでせう、今回此の研究所から御出しになる天蛾類の圖説の樣なものが續々發行になれば大變都合が好くなるでせう。前申す樣に敎員が理科思想に富んで居るのであるから、小供などでも外に行くときは必ず植物なり昆蟲なりを採集しては持ちて皈り、又は態々採集に出掛るものも在る。而して其採集せし標本を携て博物舘に行き、丁寧に之れを見比べて名稱を記入して行くのです。日本の小供などは恐らく斯の如き事はありますまい。其れから歐洲などでは素人にても本業の傍是等の研究をするものが澤山ある、恰も日本で碁とか將棋などを樂みにする樣に娯樂的に調べる人も少くはない、斯の如く素人の樂みにやる樣になれば一体に進歩しませう、我邦などでは本職のものさへ研究の出來ざるは遺憾の次第である、其れから博物に政府で金を掛けるのは露西亞が第一でありませう、夫れだから立派な昆蟲學會なども建て居り、博物學上の立派な雜誌なども出て、我が理科大學動物學敎室などにも多く送つてくれます。今日では敵國でありますでどうだか知りませぬが、一度こちらより何か送る時は必ず雜誌などは送て呉れます。其他泰西では一目或は一科丈けの雜誌を出しまして能く研究して居ります。例へば獨逸などにて膜翅類の分類丈けを書く雜誌の如きでありますと云々。

◎昆蟲文學（十）

螟蟲驅除（原五首） 水谷奥嶺

毒蛾産細卵。散布秧針端。日夜不驅之。侵蝕及莖根。慘哉螟之害。秋獲至耗殘。驕日嚴於燬。驅螟幾村村。不論老與少。自朝以至昏。採卵盈腰籃。捕蛾揮粗紈。抽根兮割莖。水漬兮火燔。孜孜期滅盡。也是稼穡難。似否外征士。冒險殪兇頑。

脊嶽曰。此詩自匠慘憺中來。不知者或以爲平易。宛如讀趙孟頫耕織之詩二十四首。

南山曰。用筆自在。細寫螟蟲驅除之狀。一結想及外征將士。着眼非尋常。冀於次號見示殘四首。

蟋蟀（三十吟之二） 福井椿陰

終宵泣盡有何思。正是金風白露時。機杼頻鳴非織帛。繅車長響不成絲。廢園寂寞空頹石。古寺荒涼獨斷碑。請看人間前代跡。秋來都府草蟲悲。

南山曰。世態推移。桑田碧海。感慨非一。一併以付蟲吟去。詩人情絲纒綿。感興無限。收盡五十六字中。何等筆力。

叩頭蟲 石崎香山

身穿堅甲勢追風。忽見生擒學鞠躬。休笑平生無氣骨。人間亦有叩頭蟲。

南山曰。鬖髿冉冉。載高帽。穿眼鏡。朝奔朱門。夕過酒亭。媚彼。昵此。叩頭百拜。以幾計生之徒。讀之果有何感。

螢 華南小隱

雨歇長堤暮色濛。醉來橋畔怯江風。忽疑身到銀河上。人在昆光萬點中。

南山曰。輕妙自在。

蚊 八木半風

軒頭日夕亂紛紛。聒耳雷聲不耐聞。憐殺營營奔利輩。貪婪恰有似蚊群。

南山曰。可悪群小之輩。

蜩影

○ 神村直三郎

訪ふ人もたねて年月ふるでらの軒の下なる蟻の塔かな（蟻の塔）

萩すゝき今を時なる小松原夕こね來れば鈴蟲の鳴く（鈴蟲）

月かげのきよくさしたる柴の戸にたれをまつむしひとり鳴くらん（松蟲）

壁落ちて屋根かたむきしひとつ家のあたりさびしくこほろぎのなく（蟀）

紅色のすゝきの墓をたづねつゝきちくばつた姿かくしぬ（小螢蟲）

○ 坪内華外

とらへつと思ひし蟬は逃げ去りてとなりの枝にとまりてぞなく（蟬）

日ざかりを釣床にして文讀めば蟬なきしきり若葉ねむたき（同）

晝の間をひそみつる蚊のたゝかれていづる木魚のおとのぼく〳〵（蚊）

○　ふもとのや

百尺の竿のかしらにかまきりの何を見て居る夕日影かな（蟷螂）

あさかぜに露とこぼるゝ芝垣の零餘子に立つるかまきりの斧（同）

○　如水生

行き暮れて宿かりし夜を山寺の湯殿のあたりこほろぎのなく（蟀）

○　千歳山人

うつ網の音に夢をやさまされし早瀬横切る赤蜻蛉かな（蜻蛉）

○　服部綾足

秋風につばさやぶれし蝶ひとつすがるもあはれ石蕗の花（蝶）

這ひいでゝ爐ぶちをつたふきり〴〵すあゝいつまでの命なるらん（螽蟖）

蜻蛉

草夕日兼平墳に蜻蛉かな　松間生

蜻蛉や片瀨へ出づる草の山　同

とんぼ飛ぶ高津の坂を日傘して　同

蜻蛉や大極殿の前廣ら　同

石濱で舟を上れば蜻蛉かな　同

里の子や草を結んで蜻蛉釣り　冷石

樋に近く萱の茂りや水とんぼ　同

道傍に苅藻干したる蜻蛉かな　同

蜻蛉や新田へ越す手繰舟　同

石橋の擬寶珠に止る蜻蛉かな　同

秋の霜蜻蛉の翅いたみけり　四澤

庭畑の末枯れし草に蜻蛉かな　同

蜻蛉や物干臺の日晴れたり　同

蜻蛉の尻に食ひつく蜻蛉かな　翠園

蜻蛉の羅嫉む蝗かな　同

夕榮の黎畠や赤とんぼ　同

曼珠沙華終日來つぐ蜻蛉かな　歸麓園

蜻蛉やあか汲み出す擊舟　同

海苔麁朶の中に群れ飛ぶ蜻蛉かな　同

蜻蛉の終日池を廻りけり　蓼圃

とんぼ飛ぶ出水の跡の田の面かな　同

棒振ふ人に遠退く蜻蛉かな　茅生

仁王門の前籾干すやとんぼ飛ぶ　同

赤とんぼ野萩も咲いて小川かな　木槿

野の流れ岸低ふして蜻蛉かな　同

夕とんぼ唐黍苅つてしまいけり　水村

草の中側量の杭に蜻蛉かな　同

裏門へぬける人追ふ蜻蛉かな　明笛子

蜻蛉や砂川淺き下り梁　乱水

城外の黍畑に飛ぶ蜻蛉かな　城東

田の中の丘に集る蜻蛉かな　至泜

稲苅の笠に夕日の蜻蛉かな　秀影生

高窓の障子にうつる蜻蛉かな　山人

浮草に飛んでは止る蜻蛉かな　載月

蜻蛉や居なほりかへてもとの竹　四山

峠茶屋めづらしく蜻蛉飛ぶ日かな　華園

實となりて薏苡枯るゝ蜻蛉かな　同

◎昆蟲界之花壇（其五）

在米國　名和梅吉

（一二）害蟲視察狀況　余は去る八月上旬以來、機會を得て、害蟲視察の爲め日子を費すこととなり、米國加洲桑港を距る東北地方百哩以內の地に於て、兩三ヶ所に就き實地視察を終へ、九月上旬に歸來したれば、今左に其狀況の概略を記して報告せんとす（最も余の視察せし重なる地はサクラメント、サンタローザ及びペタルマ地方なり）。

一、南瓜の椿象　此種は、サクラメント畑に多數發生加害しつゝありたり。最も普通のものゝ由にて、該蟲に就ての發生經過等は、既に昆蟲學者の研究されしもの多くありと云ふ。洋名スクアーシユバッグと稱し、學名は*Anasa tristis.*と謂へり。加害部は葉、蔓及び南瓜等にて、群居し甚しきは全く蔓を覆ふ迄になり居り、其狀恰も本邦に於けるホホズキガメムシのそれに等しき觀あり、當時幼蟲が大部分を占め居たるも、亦卵子、成蟲等をも一時に發見するを得たり。而して此種は、軀長四分內外にて、淡褐黑色を呈し、本邦種のチャバネガイダと同色をなしたり。幼蟲時代は綠色を呈し、觸角、脚部は赤色にして美麗なり、軀よりは一種の惡臭を分泌すること甚しく、其發生の蔓に觸るゝ時は忽ちそが臭氣を感ずる程なり。該蟲目擊の後、某雜誌を見しに、該蟲の記事ありしが、蛙を捕へ、該蟲と共に同一器に投入し置く時は、蛙の其臭氣の爲め昏倒し、遂に死に到る由記しありたり。

二、南瓜の蚜蟲　此種は、サクラメント、サンタローザ及びペタルーマ地方何れも同植物の栽培しある所には發生し居るを見たり。而して加害中は中々甚しき模樣にてありき。未だ其學名を慥めずと雖も、*Aphis*屬の者なるが如し。全体淡綠暗色を呈し、葉裏に棲息して甘液を分泌する事多ければ、自然、葉面黑色を呈するに至れり。故に、遠方より既に該蟲の發生を豫知し得べし。

三、葡萄の浮塵子　此種は、葡萄の葉裏に發生加害するものにて、各地にて目擊せしものなるが、殊に多かりしは、サクラメント市を距る三、四哩の地、即ちフロクレとて、本邦人の多數栽植し居ら

る丶葡萄園にてありき。全躰淡黄白色を呈し、赤色の條線を有し、一見恰もクハノアカフヨコバヒに似たり。而して加害の結果生ずる模樣も亦それに酷似して、米糠を散布したるが如き觀を呈せり。

四、苺の粉蝨　フロクレに於て多數發生し居るを見たり。此種は最も小形なる白色種にて、葉裏に發生し、葉液を吸收するが爲め、葉は自然萎縮を呈し、甚しきものは枯死するものあり。該地は苺の栽培を以て有名の地なるが、此蟲の爲めに受くる損害は、莫大なることを確認したり。然りと雖も、各栽培者は殆んど之を知らざる模樣にて、該蟲の爲め枯死するものあるも、之を他に原因を置き居るもの丶如し。

五、サンホゼー貝殼蟲　此種は、各所の苹果梨樹に發生加害し居るを見たり。大なる樹幹に發生するものは、左程の加害を見認められざるも、小なるものに於ては、著しく加害の猛烈なる狀を察知し得べし。

六、黑色貝殼蟲　此種は學名を Leeaninm oleae. と稱するものにて、各所とも桒果、梨、杏、桃等のある所には必ず發生加害し居るを見たり。特に細枝に多く、該蟲發生の枝は多少黑變し居るの觀あり當時卵及び幼蟲時代にてありき。

七、苹果の貝殼蟲　此種は、苹果、梨等の樹枝幹等に發生加害するものにて、多少の發生を各所にて認めたり。

八、苹果の蠹蟲蛾　此種はコッドリン、モッスと謂ひ、學名をCarpocapsa pomonelba. と稱し、苹果の害蟲として有名なる丈ありて、其發生非常に猛烈なるを認めたり。當時該蟲は蛹期なるが如くにて、多くは樹皮間に入り、造繭し居るを見たり。故に、加害苹果中には、僅かに棲息蟲を見るのみなりし該蟲加害の爲め墜落せし苹果は甚だ多く、恰も本邦に於て、夏期暴風の爲め柿の墜落せるを見ると同樣の觀あり、實に此墜落果實を見て、如何に加害の旺盛なるかを知るに足る、而して倘樹上を見れば幾多の蟲痕を存するもの殘り居ると云ふ有樣にて、如何に各栽培家が、此一小蟲の爲めに莫大なる費額を、喑々裡に損傷されつ丶あるかを思はざるを得ず、實に寒心の到りと云ふべし。

◎柑橘害蟲篇（續）

靜岡縣　岡田忠男

半翅目　ウンカ　柑橘にも時々ウンカの害を被むることあり、而してウンカなる語は總稱にして學術

上簡單に是れを類別する時は左の如し。

ウンカ(通稱)　ヨコバイ科、ウスバヨコバイ科、ツノゼミ科、キジラミ科、アハフキヨコバイ科

右の如くウンカの俗稱の下に、學術上よりは四科に分つことを得るも、今柑橘に寄生し害を加へつゝある所のものを擧ぐれば左の如し。

一、ヨコバイ科　オホツマグロヨコバイ、コミドリヨコバイ、サジカシラヨコバイの一種、キシヨウヨコバイ(新稱)(採集地の木負と云へるを以て命名す)、シロイロヨコバイ(新稱)。

一、ウスバヨコバイ科　アヲバ、ゴロモ、ベッコヲハゴロモ、グンバイウンカ、ハチノジヒショコバイ、マルガタウンカの一種。

一、ツノゼミ科　コツノゼミ(新稱)。

一、キジラミ科　ベニアカキジラミ(新稱)。

右の如く四科十二種に屬するウンカは、現在縣下各地の柑橘園に於て加害するものなることを認む。而して是等は特に成蟲のみ寄生するものあり、幼蟲、成蟲とも寄生するものありて一樣ならず、然れ共半翅目の特徴として口吻を樹皮中に挿入して常に樹液を吸收す、故に樹勢を衰弱せしむるに至る。現に和歌山縣に於て或る一種のウンカが柑橘に甚しく加害すと聞く、本縣內に於ては未だ蚜蟲、貝殼蟲の如く甚しき害を被りたることなけれ共、現在に於て多少害を被り居るを以て、將來何時繁殖して以て加害するやも計るべからざれば、特に種類の多きことより一般ウンカの性質、經過を述べて、後來斯業者に警戒を與ふる所以なり。(經過習性)以上列擧したるウンカ類に付き其經過の大体を述べんとす、是等のウンカは多く成蟲時代に於て柑橘に寄生するものゝ如きも、或る種は幼蟲の時代より成蟲の時代に至る迄始柑橘の樹皮に口吻を挿入して養液を吸收す。成蟲は大抵樹皮內に自己の產卵器を以て一粒又は數粒つゝ一ヶ所に產卵し置き、幼蟲は孵化して樹液を吸收し、生長する際數回脫皮して成蟲となる。故に加害は幼蟲、成蟲の時代に於て與ふるものなり。

防除法　目下驅除法としては、其棲息するを認め捕蟲網にて捕獲するの外なし。

鱗翅目　鳳蝶科　アゲハテフ　(成蟲)成蟲は大形の蝶にして全身光澤ある淡黃色に黑色の斑紋を有し眼は茶褐色にして圓く、觸角は棍棒狀にして先端は少しく細くして曲り、口吻は長きも常に螺旋狀をなし、前翅は不正四角形にして、後翅は殆んど三角形にして尾角を有し、黑色に黃色を交へたるの斑紋を

顯はせり。後緣と內緣との界に赤色の斑紋を有す。然れ共時期によりて翅面の斑紋色澤を異にせり。春生のものは体長七八分、翅の開張一寸四五分にして、夏生のものはこれより稍々大形なり。(卵)卵は圓形にして始めは淡黄色を呈し、嫩芽、嫩葉の裏面に一粒つゝ産卵するを常とす。(幼蟲)卵より孵化したる際は恰かも蠶の毛蟻の如く淡黑色にして粗毛を生じ一分三四厘なり、少しく生長すれば頭部は漆黑色に色淡褐色を呈し、体上淡白色の一斜線を走らせり、二回の脫皮をなすに至れば体上黄色の突起を生じ斑紋は判明なるに至る。四回の脫皮を了れば綠色に變じ、体上黑線を走らし、側面には白点を顯はし、頭部も綠色なり。充分生長したる時は体長一寸二三分に至る。(蛹)幼蟲老熟すれば口より糸を吐きて自体の中央及び腹端を樹枝に纒ひて蛹化す。其際は殆んど二等邊三角形にして下圖(圖を略す)に示すが如き有樣をなし、頭上に二本の突起を出し、胸背にも一本の突起を出す。其色は多く草綠色なれども、蛹化したる場所の色に能く類似し居るは自然淘汰ならん。(經過習性)蛹のまゝにして樹枝間に於て越冬し翌春四五月の交羽化して成蟲となり花間を飛翔して花蜜を吸收し、花粉の媒介をなす。其間に雌蟲は柑橘類の嫩芽、嫩葉の裏面に卵子を産付す。此卵は一週間內外にして、孵化したる幼蟲は嫩葉を貪食し、四回脫皮の後綠色に變じ、五齡の時期を經過して蛹化す。斯く變態をなすこと普通三回なれども甚だ不規則なり。而して此成蟲則ち蝶は、春生のものは小形にして色鮮麗に、夏生のものは大形なり。是等の蝶は春夏の際は花間を飛翔して蟲媒介植物の花粉を輸送すれども、幼蟲は柑橘の葉を貪食すれば一種の害蟲として數へたる所以なり。

防除法　一、柑橘園の周圍に殼枳山椒等を栽植せざること、若し是等を植ゆるに於て、自然是等に生活したりしもの又移轉し來りて其害を免がる時なし。一、蝶の飛翔する際は特に柑橘園を巡視し、嫩芽、嫩葉の裏面に注目し、産付したる卵子を除去すること。一、孵化したる幼蟲を搜索して捕殺すること。一、冬間蛹化したる蛹を蒐集して捕殺すること。

鱗翅目　鳳蝶科　クロアゲハ　(成蟲)此種も前種と同じく大形の蝶にして、全身黑色にして觸角、口、眼等は略ぼ前種に類し、前翅は三角にして黑色に、後翅は長方形にして尾角を具へ、外緣、內緣には赤色の斑紋を顯はし、体長夏生にては一寸二三分、翅の開張四寸內外あり。(卵)卵は前種に同じ。(幼蟲)幼蟲も略ぼ前種に類似し孵化の際は餘り異ならざれども、一回脫皮後、色鈍白色を呈し光澤を有す。四回脫皮をなしたる後は大に異り、全体濃綠色にして口部、腹面及び脚部は紫褐色を呈し、第二環節の上に

背面は淡黄色の細線數多を走らせり。(經過習性)經過習性に至りては前種と大差なし。

(蛹)蛹は黄綠色にして頭上の突起は前種と異り少しく鋸齒の狀をなし、背面には赤黑色の點四個を有し

に向け紫褐色の一斜線幷に九環節にも同樣の斜線を有す。充分生長したるものは体長一寸五分内外なり。

は黑線を以て畫ける斑紋を有し、第四環節には紫褐色に黑線を交へたる一線と、七環節より八節の背上

防除法　前種に同じ。

鱗翅目　鷇蛾科　エカキムシ　(成蟲)成蟲は微少なる蛾類にして鷇蛾に類し、体長七八厘、色銀白色にして、頭は方形に、觸角は細長く、眼は黑く、前翅は細長くして光澤ある銀白色を呈し、翅尖には淡赤色の色彩を有す。前翅中數多の黑線及び黑點を有し恰も其外觀孔雀の尾羽の如し、縁には白き縁毛を具へ、後翅は三角形にして白く、前翅と同じく長き縁毛を有せり翅の開張一分七八厘なり。(卵)不詳なり。(幼蟲)充分成長したる幼蟲は体淡黄色にして、口は色少しく濃黄に自由に咀嚼するに適ひ、十二の不同なる環節あれども中央は稍々太く尾端は細し、体長一分三厘内外。(蛹)蛹は体長一分内外にして頭部に一本の突起を生じ、胸部及び腹部一端、翅部は淡黄色をなし、腹部の一部は淡黄色なり。(經過習性)此蟲は蛹の有樣にて葉の曲りたる所に潜伏して越年し、翌春發蛾して嫩芽の裏面に産卵するものゝ如く考ふれども、微少なるを以て未だ確に之を知ることを得ず。幼蟲は孵化して表皮内に蝕入し、初めは細小なるも漸々太く、其中央に排泄物を殘して進行す。其際は口具の作用によりて葉肉を食し、次第に進行す。故に嫩葉は發育一方に變じ、異形なる葉となり、延て全体の發育に影響を及ぼす所のものなり。年四五回の發生をなすものゝ如し。

防除法　一、僅少なる際は指頭にて潰殺すること。一、成るべく春期遲く窒素肥料を行はざること。

鱗翅目　葉捲蟲科　ミカンノシンクヒムシ　(成蟲)此成蟲も小蛾の類にして、体長六分、翅の開張一寸二分、全体黄色にして、眼は黑く大に、觸角は細長く、翅は前後とも三角形をなし黑点數多を散布せり。腹部も同樣に各環節に黑點を有せり。(卵)卵は果皮に産付し圓形にして淡黄色なり。(幼蟲)孵化したる幼蟲は直ちに果面に穴を穿ちて内部に侵入す。幼蟲の成長したるものは体長一寸内外にして淡紅色を呈し、各環節に淡黑色の斑紋數個を存して短毛を粗生す。(蛹)蛹は褐色にして果實内又は土中に於て蛹化し、体長五分内外なり。(經過習性)此蟲は幼蟲のまゝ土中にて越冬し、翌年六月頃蛹化し、羽化して成蟲となり、柑橘園に來りて果面に産卵し置くを以て、孵化したる幼蟲は内部に蝕入し、遂に落果せ

しむるに至る。幼蟲は茲に蛹化し尚ほ一回即ち八月項羽化して成蟲となる。最も第一回は害を被むること多きも、第二回に於ては他の種々なる關係の爲め其被害少なし。此蟲は蜜柑の外桃等にも寄生す。

防除法　一、冬期に先ちて柑橘園を耕作して幼蟲の越冬するものを凍死せしむること。一、落果したるものを直ちに拾ひ取りて燒却すること。一、柑橘園の周圍に桃樹を植へざること。

鱗翅目　葉捲蟲科　ミカンノハマキムシ　(成蟲)成蟲は小蛾にして、頭部及び前胸部は黑褐色に、下唇は長く突出して鉤形をなし、觸角は黑くして細し。前翅は灰褐にして長方形をなし小黑點二三を散布す。後翅は淡黑にして長方形をなし、腹部は黑褐色に、脚は灰白色を呈せり。体長二分、翅の開張五分内外なり。(卵)卵は嫩芽に小粒なる圓形のものを産付するものゝ如し。(幼蟲)幼蟲の老熟したるものは一寸内外にして淡綠色を呈し、頭部及び第一環節硬皮板は褐色に、各環節には小斑紋に短毛を生ぜり。(蛹)蛹は褐色にして、嫩葉の一部を卷きて其内に蛹化す。(經過習性)幼蟲の有樣にて越冬し、翌年五月頃蛹化し、六月頃に至りて羽化す。而して未だ年何回の發生なすやは不明なれども、柑橘類の嫩葉喰害する所の害蟲なり。

防除法　一、指頭にて壓殺すること。一、多く棲息する場合にて發蛾期を見計ひ、捕蟲網にて成蟲を捕殺すること。

鱗翅目　尺蠖蛾科　ハナクヒシヤクトリ　(成蟲)此成蟲なる小蛾は体赤褐色にして多少黑色を交へ、体長二分内外、眼は大にして黑褐色を呈し、下唇は眞直に前方に突出し、前後翅とも殆んど三角形にして体色と同じ、翅を開張したる際は六分前後なり。(卵)花の外部に産卵するものゝ如く考ふれども未だ詳ならず。(幼蟲)幼蟲は四分内外にして全体純白色を呈し、背線は淡褐色、頭部は褐色なり。此幼蟲は腹脚五對中三對退化して二對を保つを以て、尺蠖の名稱を附したる所以なり。(蛹)蛹は淡褐色にして、温州蜜柑の開花の際幼蟲は其花に寄生して各部を喰害し、其落ちたる花瓣中に入りて蛹化し、六月中旬羽化して成蟲となる。其後の經過は未だ詳ならず。

防除法　開花の際柑橘園を巡視して、其花に被害を認めば、蛹化の際落花したる花瓣と共に採集して殺すの外なし。(未完)

◎昆蟲實驗錄（三）

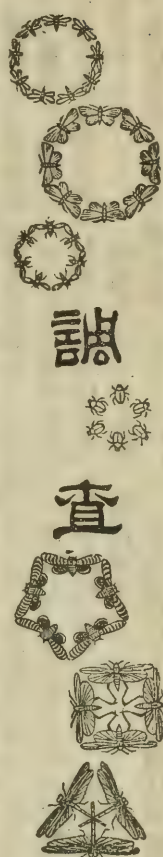
靜岡縣　神村直三郎

六、ツバメシジミの飼育　本年八月二日、荳科植物コマツナギの葉上に於て、体長三分弱の幼蟲一頭を捕へたり。体の色は黄綠色にて、体形は長楕圓形をなし、十二の關節を有す。背線微かに現はれ、頭は下面にかくれ居ること、ホタル蛾幼蟲のそれの如し。体の兩側及前後とも縁邊は、薄片狀となりて、葉に密着するの看あり。八月十三日より靜止し、八月十四日に化蛹せり。蛹は長さ三分これも楕圓形にして、少しく長く、縊蟲の如く糸をかくれども其絲長からず、因て蛹は枝に密着するの看あり。蛹体全面に細毛を有し、背面は、隆起ありて、八對即十六個の黒点を有す。前部より數へて、第一對目のものは、廣くして、隆起の外に出で、第二對目よりは、隆起の中に入るも、第三對目のものは大にして、少しく八字形をなせり。此蛹初のほどは、灰黄色なりしに、八月十七日よりは、少しづゝ黄色を増して、八月十八日には、大に濃黄となり、八月十九日に至り、外皮鼈甲色となり、第一對の廣き黒點の直下に徑五厘位の黒紋を見る。これは成蟲の複眼にあらずやと思ふ。八月二十日胸部と思はるゝ皮下に當り、蝶の頭及胸と思はるゝ部分、黒色に現はる。同時に又腹部に褐色の液の浸出せるものあり。因て羽化の近きなるならんと思ひ、これまではグラス瓶の中に飼育したりしも、余りに密塞してはと、注意して、銅網の目の三厘四方位の籠に移せしに、八月廿四日に至り蛹皮の頭部烈開して、肝心の成蟲逸出し了れり予は思ふ、これは蝶にあらずして、寄生蜂の逸したるものならんと。されど其蛹皮を撿せしに、全く蝶の蛹皮のみにして、蜂の繭皮なし。讀者の判斷を乞ひたきことゞもなり。

余りの無念に八月廿七日又同一草村をたづねて、幼蟲を捕へたり。八月廿九日より靜止せり。此時体長は、四分弱に達せり。幼蟲は二頭なりしに、一頭は八月三十日黄色となり一頭は、綠色となれり。八月卅一日に至り、黄色のものよりは、寄生蠅の蛆出でゝ化蛹し、綠色のものは、蝶の蛹となれり。其蛹は先に、失敗したりしものと同一なり。此度は無難にして九月七日に至りて羽化せり。正に宮島氏のツバメシジミと稱するものにして、蝶類圖説の十九版、第六圖なりし。

右の八月卅一日に化蛹したる、蠅の蛹は九月九日に至りて、羽化せり。此蠅は家蠅の雄蟲より少しく小形にして頭部胸部背面、腹部背面には剛毛を多生せるも、腹部腹面及側面には粗毛の稀にあるを見るのみ。

七、ヤヾギリの産卵　七月十五日雌一頭を捕へ籠中に飼養す。七月廿三日に至り頻に籠より出んと試み、又其尾劒を籠底につきたてゝ地に産卵せんとするの狀を擬す。因て籠底に五六分乃至一寸の厚に土

砂を容れて産卵の便を與へやりたり。見るがうちに産卵を初め、頻りに所々にこれをなす。其卵初めは淡黃色なれども、後には、暗色となる。長さは、二分ありて、扁平紡錘形なり。七月三十日に至り第二回目の産卵をなし、八月七日斃死せり。

◎京都府加佐郡東舞鶴産の昆蟲（一）

名和昆蟲研究所分布調査部

茲に掲ぐるは、小山彰氏が、東舞鶴字北吸に於て、本年七月より九月上旬に亘りて採集し、之を送附せられしものなり。而して弧線内の數字は送附せられし標本番號と知るべし。

（一）（二）ドウガネブイブイ（Euchlora cuprea, Hope.）多數七月、青銅色の大形種にして、常に葡萄の葉を食害す●（三）クロコガネ（Lachnosterna parallela, Mokch.）一頭七月三十日夜、軀長七分内外、黒褐色圓筒形にして、七月頃最も多く、黃昏より出で丶桑葉を甚しく食害す●（四）（五）ココガ子ムシ（Anomala geniculata, Mokch.）三頭、翅鞘は淡褐色に青藍色を帶びて金屬の光澤を有し、頭、胸及腹端の背面は多く青藍色を呈す。形ハンノキコガ子に似て更に光澤あり●（六）オホハナムグリ（Cetonia submarmorea, Burm.）一頭八月五日、軀長八分餘、形カナブイブイに似て青銅色を帶び、背面に灰白色の細斑を散布す●（七）ノコギリカミキリ（Prionus insularis, Mtkch.）一頭七月七日、大形種にして、黒色に少しく褐色を帶び、觸角は稍鋸齒狀をなし、前胸部の兩側に鋸齒狀棘刺あり●（八）オホキマハリ（Plesiophthalmus aeneus, Motsch.）二頭八月七日、大形の種にして、黒色に藍色を帶び、肢は長し●（九）キマハリ（P. nigrocyaneus, Motsch.）一頭八月三日、前種に酷似して、稍小さく、黒色に青色を帶び、肢は頗る長し●（一〇）ムツボシキノコムシ（Diaperis rewisi, Bates.）多數八月一日、僞歩行蟲科に屬し、黒色にして翅鞘に赤斑六個あり●（一一）ゴシキクチキムシ（Gu. sp.?）多數八月一日、僞歩行蟲科に屬し、軀長三分五厘、翅鞘はミハシラムシの

ムツボシキノコムシの圖

それの如く頗る美麗なり◎（一二）ヒメカメノコテンタウムシ（Propylea conglobala, L.）三頭七月二十三日乃至八月三日、躰長一分四五厘の小形種にして、黄色に黒色の龜甲紋を有す◎（一三）ヒメクロオトシブミ（Apoderus nitens, Roel.）三頭七月廿九日乃至八月三日、葉捲象鼻蟲科に屬する黒色の小形種にして肢は黄褐色を呈す。

◎愛知縣渥美郡産の昆蟲（甲蟲の部の一）

名和昆蟲研究所分布調査部

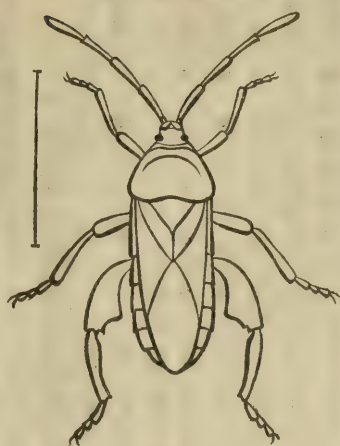
番號	種名	豊橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豊岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	清田村
一一七、	ミチオシヘ	—	—	—	—	—	一	—	—	一	—	—	—	一	一	—	—	—	—
一一八、	サビハンメウ	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	一	一	—	一	—	—
一一九、	ミチシルベ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—
一二〇、	アチチサムシ	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一二一、	アカガ子チサムシ	一	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—
一二二、	マイマイカブリ	—	一	—	—	—	三	—	—	—	—	一	—	—	一	一	—	—	—
一二三、	アチゴミムシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—
一二四、	キモンアチゴミムシ	一	—	—	一	—	二	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一二五、	セアカゴミムシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	二	—	—	—	—
一二六、	ヒラタゴミムシ	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一二七、	ミ井デラハンメウ	—	一	—	一	—	一	—	—	一	—	—	一	一	一	二	一	—	—
一二八、	クロゴミムシ	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一二九、	ゲンゴロウムシ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一三〇、	コガタノゲンゴロウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—
一三一、	キスヂゲンゴロウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—
一三二、	ミヅスマシ	一	—	一	一	—	三	—	—	—	一	—	—	—	四	一	—	—	—
一三三、	ガムシ	—	—	—	—	—	四	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—

◎滿洲昆蟲雜信（其二）

於賣家堡子　青柳才次郎

時に、先回一寸時況旁々二三の蟲報御送り申上候ひしが、今又一二の蟲種に添へ、二三申上ぐべく候。

蟬の鳴聲　滿洲には蟬は少なきが如く、其の鳴聲は、七月下旬、橋頭の臺に於て始めて聞き申候。そは、內地にて夏の初め、松林にてゼー〳〵と鳴き聲を聞く每に一層炎暑を覺ゆる、ハルセミの鳴聲に彷彿たる思ひ有之候。八月十二日夕方、ツクツクボーシゼミに似たる小蟬の鳴音を耳にし、早速捕獲せんとせしも、遂に逸失したりしは殘念に存じ候。此蟬の鳴音は、チジー〳〵と小聲にて歌ふが如く聞え申候。

蜚蠊　曩に御送附申上げしものは、家屋を距る五六町、山の中腹なる森林中樹木の根元にて捕へしものなるが、今回のものは、土人の家屋內にて採集せしものに候（共にチャバ子ゴキブリ）。昨日午後二時頃、橫臥の儘文藝倶樂部の繙讀に餘念なかりしに、不圖頭上を飛ぶものある故、眼を注ぎしに、一頭の蜚蠊は南の壁隅より北の壁に向て飛び行き候。元來チャンの家屋は、一言に盡すに、長方形にして、一二間每に窓を設け、中央に幅一間半位の土間ありて、兩側即ち右の窓の處に人間が寢る、此處の幅は一間許に候。而して此の兩側土人の起臥する處は、煉瓦又は石材を以て、二尺許高く床を設けられ候、是れ其床は、チャンの所謂オンドロなるものを通じて炊焚の火氣を導く火道有之、隨分都合能き方法に候。前記の次第なれば、蜚蠊の飛翔力は、一時に三間以上なることを認め申候。

滿洲椿象の圖

尺蠖蛾の一種　昨夜は舊十三日、滿洲の野に照り渡る月もいとさやかにて、一しほ內地の情に打たれ候。此蛾（フチグロキイロクチバ、一名モンキシヤクトリ）(Bizia aexaria, But.)は、此夜先輩の夏瘠を見舞

はんと出行きし折柄、蠟燭の光に戯れ來りしを手捕りにしたるものに候。

螢　滿洲に於て螢は少なく、唯七月上旬、四方砬子に於て目撃したるものみなりしが、昨夜標高百五十許の嶮峻なる岩石山に於て、前哨勤務中辛じて二頭(藤吉螢の雄)捕獲せり。平地の川原などにては餘り見當らざりしが、此山頂には點々飛翔せるを見たりき。

今夜より愈々攻撃らしく候へば、不敢取、朝六時に此狀を認め差出し申候、乘るか、反るか、幸に命あらば餘は後便に讓る(八月二十四日)

編者曰く前號に於て靑栁氏より椿象の一種を送られしを報じ置きしが該種は有緣椿象科に屬し茶褐色を帶びて光澤あり後脚の腿節は甚太く内國にては未だ見ざる種にして圖の知し今回紀念の爲め滿洲椿象と命名せり

◎昆蟲に關する葉書通信　(第四十四報)

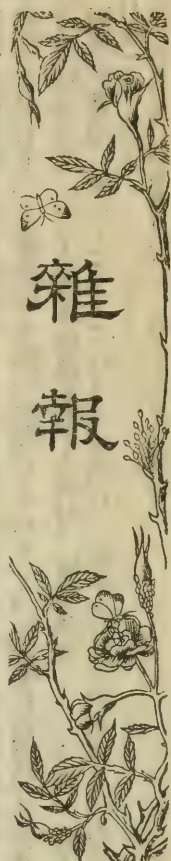
(二四九)蝗を斃す菌(岐阜縣惠那郡坂下村川上、原攝祐)　長野菊次郎氏は、本誌第六十八號六足蟲彙報卵の卷に於て、蝗を斃す菌につき掲載せられしが、余は偶々稻螽驅除中、多數が此の疫病に罹れるものを發見せり。元來稻螽は綠色なるものなれども、此疫病に罹る時は胸部は橙黃色を呈し、夫より漸次に脚、頭、腹部も淡橙黃色に變じて死し、複眼は少しく水色を呈し、翅も亦退色し、後ち褐色に變じて乾固す。其有樣、長野氏の御說の如く、稻の頂に至り、前中二脚を以て確と莖を抱きながら死期を待ちたるものゝ如く、其狀態を失はざるなり。躰軀は始め柔軟なれども、乾固すれば各關節より分離して白色の瓶狀胞子を散布す。故に褐色に變じて死したる稻螽の近傍は白粉を散らせるが如き狀を呈す。されば此胞子の附着したる植物を食する時は、忽ち感染するならん。尙目下研究中なれば、他日を待ちて其成蹟を報告するの期あらんとす。

(二五〇)戰爭と螟蟲(長崎縣師範學校內A、K、生)　本縣下對州の如きは、螟蟲の被害絕えて無き位なるに、本年は其發生多く、〇〇近傍は非常なる損害なりと云ふ。是れ右の土地には軍馬輻輳の爲、福岡地方より多量の藁を持ち來りしに原因するものなるや疑なし。又當縣農事試驗場に於ては、本年は例年になき螟蟲の發生を見たり。是亦對州と同一原因なるべしと、同場長向坂氏は物語られたり。

(二五一)廿四鳥羽蛾郡上郡に產す(岐阜縣郡上郡上保村、壚田健藏)　昨夜、燈下に於て廿四鳥羽蛾一頭採集せり。同種が當地に產することを證すると共に、余が之れを報告するの榮を得たるを喜ぶものなり。(九月五日附)

編者云、壚田氏は其後同蛾二頭を贈られたり。玆に其厚意を謝す。

雜報

◉昆蟲標本陳列舘案内　（其八）

（マ）部は各所の蟲塚の碑文の寫及び之れが來歴等を集めたるものにして、大分、石川、福井、宮城等の各縣に於ける、古來饑饉に頻せし蟲害の摸様、蟲送りの有様を知ると同時に、古人の用意周到にして、其蟲の種類、被害の摸様より驅除の方法に到る迄、碑に刻み、子孫をして此の慘害を再びせざらしめんとの注意は、實に感ずべきことなり。然るに明治三十年に於て、是等の害毒を繰返へしたるは、甚だ遺憾の極にして、祖先の戒に對しても實に申譯なき次第ならずや。（ケ）部は教育、日用品幷玩具等に昆蟲摸様を應用したるものにして、葡萄に蜂の摸型標本を始め蜻蛉の摸型、蝶の透し彫狀差、蝶形寫眞掛、頬に蜂の嚙付たる猿形花生等は其重なるものなり。（フ）部は昆蟲應用の漆器類にして、牡丹に蝶摸様の盆を始め、文具、菓子器、卷烟草入、其他の日用品に蜻蛉、蝶等の蒔繪摸様數十点なりしが、菜花に紋白蝶、蚜蟲に瓢蟲の摸様付菓子器は中々面白し。（コ、エ）の兩部は、昆蟲應用の陶器類にして、火鉢、水差、鉢、皿、杯、湯呑、茶碗、花瓶、香爐等に群蝶摸様、若くは蟷螂、蜂、蜻蛉等の摸様付、其他蝶形花生等所狹き迄に陳列せられたるが、萬古燒の野菊にキリ〴〵ス摸様付皿、石川縣工業學校製の群蝶摸様付花瓶、金華山燒のウスバサイシンにギフテフ摸様付の花瓶、多治見燒の桑樹にクハカミキリの文鎭、溫古燒のカブトムシノ彫摸様付香爐、其他中々見るべきもあり。（テ）部は昆蟲應用竹器幷彫刻品の陳列にして、竹製蟬形柱掛花生、茄子に馬追蟲の香爐、蜻蛉と蝶刻の菓子器、蟬、蜻蛉瓢蟲の刻摸様付茶合、野菜に蜂、萩に蟷螂、長春に蟬、松皮に蟬の浮彫摸様等の茶合其他蝶、キリギリス、コホロギ、カマキリ彫摸様付竹製、若くば木製菓子器甘蔗にバッタの蝶貝摸様の柱掛、蘭にイナゴの蝶貝摸様の柱掛、カマキリ、蝶、キリギリス刻の竹製柱掛等は其重なるものにして中には其技術の見るべきものあり、本誌第八十一號に照會の四脚の蜈蚣、八脚のカマキリも亦此中にあり。（ア）部は昆蟲繪扇子幷團扇等數十点の陳列ありしが、多くは草花に蝶摸様にて、一見美なるが如きも、殆んど想像畫なるを以て、其種名を判別し得らるゝもの少なく、香雲女史のヘチマにキリギリスと

モンキテフの畫其他稻葉に螟蛉、螟蟲、浮塵子、石竹に蟷螂、蜻蛉キリギリスを畫きたる扇子等は慥に實物によりたるものらしく、一見其何種たるを知るべし。繪の出來不出來は兎も角、當部の萃たるものなり。以上各部に於ける昆蟲應用品にして、實物に依りたるものは大に見るべきものあれども是等は甚だ稀にして多くは繪畫を手本とし、若くは想像に出でたるものなれば、其彩色の如き一見美なる如きも彩色を施せば施すに從ひ愈々實物に遠ざかり到底其種名を判別し得ざるのみならず、中には兒戲に類する滑稽的の誤りを來し、あたら良品も殆んど價値なきに至らしむるは、返す返すも惜むべきことなり。日本美術の眞價を現はさんとせば深く是等に留意ありたきものにこそ。

（長野菊次郎氏肖像）

◎長野菊次郎氏の渡米

長野菊次郎氏は久しく中等教育に奉職の傍ら、昆蟲類特に鱗翅類を專攻せられしことは、本誌上に於て既に愛讀者諸君の了知せらるゝ處なるも、未だ面識なきの士に對し、茲に同氏の肖像を揭ぐることゝなしぬ。而して氏の斯學に忠實なる、從前の研究に滿足せず、愈々今回職を辭し、專ら其薀奥を窮めんとて、奮勵一番、獨力を以て渡米の途に就かれたり、依て九月十八日當所に於て、所員を始め長期講習生、特別研究生一同は、送別の微意を表し、席上特に各鱗翅類に關する談話をなしたり。時

に偶然にも、岐阜療病院長佐々木醫學士、及岐阜地方裁判所中田判事は、戰地より歸途の安藤日本新聞記者を伴ひて臨席せられ、各一場の談話を試み、長野氏の行を盛んにせられたり。倘席上長野氏の發起に係る天狗俳諧を催し丶に、一層の興を添へ、抱腹絶倒、臍も宿替せん斗にて、殆んご時の移るを知らざりき。今佐々木曠氏の談話の要領を擧ぐれば左の如し。

今夕は圖らずも御邪魔致したるが、軍國の時期親しく遼陽の大捷戰に列し、未た征服の儘の一記者を案內して、此宴に加はるを得たるは、時節柄多少の興味あるべし、當研究所は、曩に名和梅吉君の米國留學あり、今又長野菊次郎君の奮發洋行を見、其益隆昌なるを慶祝す。抑も學問の研究は、軍事上偵察斥候の重要なるご一般、之れに由て造化の薀奥を窮むるにあらずんば、文明の大勝利を得る克はざるなり。昆蟲の如き微細の事物も之れが研究の結果、氣候の變動、流行病の發止、動植物の榮枯、社會の盛衰等、至大の關係を明にすることゝ、猶細菌學天文學に於けるが如く、愈精しければ愈々密に、殆んご際限なかるべし。今長野君が、自ら奮起、斷然遠征の途に上り、新學界偵察の一大任務を遂行せんとす、其壯圖思ふべし云々。

◉創傷に對する蠅の害　滿洲に於ける蠅の如何に多數なるかは本誌通信欄內青柳才次郎氏の報告に於て既に知らるべし。抑も蠅には縞蠅の如く自已の食物となるべき者には直ちに胎生する者と、或は直に卵子を產附する者とありて、例へ卵子を產附する者にても其發育の速かなる驚くに堪へたる者あり、而して蠅の發生は不潔を意味するものにして又は各種傳染病の媒介をなすものなれば、滿洲軍が是等の防疫其他軍隊の健康保全上如何に困難なるかは察するに餘あり、殊に左の某軍醫部長の報告の如く負傷者の創傷部に蠅蛆の發育する如き、是等は到底內地人の想像にだも及ばざる所なるべし。

滿洲に蠅の多きことは豫て聞く所なるが、其の群を爲して來襲するの狀は實況を見ざる人の想像にだも浮ばざるべし、之が爲め繃帶に蠅蛆の附くには閉口す、初めは戰場より收容することの遲き故なるべしと思ひたるに、昨今の如き負傷後即刻野戰病院に收容せしものと雖も直ぐ蛆涌き、又朝に繃帶を交換し夕には已に蛆を見る有樣にて、民家を使用せし野戰病院にては蚊帳を用ひて稍や防ぎ得たるも天幕病院にては此事出來ず、中にも金蠅のひりつけたる卵子は發育殊に早きに驚く云々。

◉當所長の盲生に對する昆蟲談　九月廿六日、當昆蟲研究所長は、岐阜聖公會訓盲院長森卷耳氏の請により、同院盲生に對し、一場の昆蟲談を試みられしが、一同は大に感ずるもの丶如く、夫々詠歌を送られしものありたり。今其一二を紹介せんに。

すみ渡る月見えぬ身をこほろぎのなくさめかほの聲のさやけさ　　中澤　新

見えぬ身もうれしく學ぶ御代なるになどこほろきの悲しけになく　　野口小つる

見えぬ身をわびしさまさる秋の夜になくさむものはこほろぎの聲　　加藤彌三

尙其原文は次の如し

第五子ンセイ　ナカサハ　シンゴ

スミワタル　ツキミエヌミヲ　コホロギノ

ナ　グサメガホノ　コヱノサヤケサ

第四子ンセイ　ノグチ　コツル

ミエヌミモ　ウレシクマナ　ブミヨナルニ

ナ　ドコホロギノ　カナシゲニナク

第四子ンセイ　カトウ　ヤ　ゾウ

ミエヌミヲ　ワビシサマサル　アキノヨニ

ナ　グサムモノハ　コホロギノコエ

◉岐阜縣昆蟲學會第七十回月次會記事　同月次會は、本月一日、例に依り午後一時より當昆蟲研究所内に開會せり。第一席鈴木彦治氏は、本邦産の小鳥類中、重に昆蟲を捕食する種類を擧げて其關係を説かれ、第二席林兵三郎氏は、縣下稻葉郡鏡島村にて、竹毛蟲潜伏の場所を調査したりし狀況の實物を示して報告せられ、第三席馬淵治郎氏は有吻目食肉椿象科に屬する、コバチサシガメ、トゲサシガメに就て詳細に其構造を陳べ、第四席雄山瑞倫氏は、昆蟲に關する文學意見と題して歷史的文學を引証し、昆蟲學者と雖も氣韻高尙を保つ上に於て又修めざるべからざる理由を立論し、第五席谷てい子氏は、目下調査中の鳴く蟲數十種に就て、實物標本を以て一々説明せられ、第六席小竹浩氏は、昆蟲七分類に就き、其各類の要點を講せられ、最後に名和副會頭は、征露軍人より送られし昆蟲標本に依りて一場の説明を試み午後五時無事閉會を告げたり。而して當日出席會員の重なる者は甫守謹吾氏、雄山瑞倫氏を始め、其他多數の師範生等なりき

●水曜昆蟲談話會記事

當所內に於て、每週水曜日夜間開會の同會は、各自熱心に研究せし事項を說明し、大に參考の資となるもの尠なからず。今其大要を一括すれば左の如し。

●小竹浩氏は、クチバスヾメの飼育に就て、氏が七月八日百六十餘粒產卵せるものを飼育せしに、普通天蛾の幼蟲は四、五齡期を有するを常とするも、該種は八齡期を有すること、即七月十五日に孵化し、十九日第一回の脫皮をなし、廿七日第二回脫皮、八月三日第三回脫皮、十日第四回脫皮、廿二日第五回脫皮、三十日第六回脫皮、九月十日第七回の脫皮を遂げて第八齡に入り、廿一日には體長三寸六分に達し、廿八日土中に入り十月四日蛹化したることより、其間に於ける變化の摸樣を。其他トックリバチの孳殖の有樣等に就て、詳細の談話を試みられ、●小森省作氏は、蟋蟀科と螽斯科との區別の要點、並に螽斯科の分類に付き、實物によりて詳しく其の要點を說明せられ、●棚橋昇氏は、シモフリスヾメは、腹部の第八、九の環節間に發音器を有し、それによりて、發音することと及蚊の產卵、其他蟻に就て觀察せられし事を說明せられ、●鈴木彥次氏は、蝶と蛾との產卵の差異、即ち蛾類は、普通一ヶ所に多數產卵し、蝶類は普通一所に一粒つゝ產卵ずること、又蛾類は、羽化後間もなく交尾を終へ產卵するも、蝶類の多くは、比較的長時間を經て產卵する等、其他イチモジセヽリの產卵、並に其卵數調查の結果を報告せられ、●名和愛吉氏は、ルリシジミの產卵は、樫の新芽の傍に最も多く、稀に葉の裏面に見るも、表面には全く見當らざりしことを、平素注意調查されし結果として話され、●石田和三郞氏は、害蟲驅除の管見、及キテフ飼育談、○馬淵治郞氏は、食肉椿象科に屬するアカサシガメ、トゲサシガメの特徵、及竹毛蟲の加害狀況調查の報告、●山內甚太郞氏は、三重縣四日市の昆蟲方言、及キリギリス採集法に付、同氏の實驗せられし奇法を話され●林兵三郞氏は、武儀郡中有知村に於ける害蟲驅除の摸樣、及武儀郡地方に於ける昆蟲採集談、●百瀨今朝雄氏は、長野縣山形村の粟の夜盜蟲の加害狀況、並にアハノズケムシの驅除に就て有益なる談話あり、●谷貞子氏は、鳴く蟲に就て氏の實地研究談ありたり目下は隨分種類も多く、泣くが如く笑ふが如く、悲むが如く訴ふるが如く、或は高く或は低く、幾多の音樂隊は、夜と云はず晝を問はず得意の美音を弄しつゝあるも、降霜一たび來れば、大に其數を減し、又今日の如くならず、目下は是等研究の好時期なれば、氏の研究の幾部を紹介せんとす。螽斯科○キリギリス、チョン、ギース、○ヤブキリギリス、リース、リース、○クツワムシ、ガシヤガシヤ、○ウマオヒムシ、スイン、スイン、スイーンチョ、ザーンチョ、○クダマキモドキ、キリキリキリ、○ヒメクダマキモドキジーンス、ジーンス、○ササキリ、ジリジリジリジリ、○クサキリ、ジー、○ヒゲナガサヽキリ、ジリー、ジリー、○コバ子キリギリス、リリ、リリ、○ツユムシ、ジー、蟋蟀科○エンマコホロギ、コロ、コロ、コロ、リリリー、○ミツカドコホロギ、チユチユチユ、○コホロギ、リユウ、リユウ、○オカメコホロキ、リリリリ、リリリリ、又はリー、リー、○クマスヾムミ、キリキキリキリキリ、○クマコホロギ、チツチツチツチツ又はチツチー、○ヒメコホロギ、チリリリ、チリリリ、○マツマシ、チン、チンチロリ、○スヾムシ、リーン、リーン、○カ子タヽキ、チン、チン、チン、○ヤマトスヾ、ザイー又はチー、○マダラスヾ、リリリ、リリリ、リー、リー、リー、○ヒメクマスヾ、リリリリリ、リリリリリ、○イブキヒバリ、リユウ、リユウ、

●昆蟲標本陳列舘參觀人員

去る九月中、當所常設の昆蟲標本陳列舘を參觀せし總人員は、六千八百二十六人にして、一日平均二百五十二人强に當り、其內最多かりしは、二十三日に於ける二千九百八十八人、最も少なかりしは、二十日に於ける廿七人なりしが、重に各種學校の學生、及敎育者、各府縣の勸業當局者等にして、實業者も又少なからざりき。

名和日本昆虫図説第一巻第一版
NAWA: ICONE. JAP. INSEC. VOL. I, PL. I
Herse convolvuli.

（明治三十年九月十日内務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◉名和昆蟲研究所案内

：…市境界　‖…案内道　｜…市道　イ…元位置　ロ…陳列館　ハ…縣廳　ニ…中學校
ホ…病院　ヘ…郵便局　ト…西別院　チ…研究所　リ…長良川　ヌ…金華山　ル…停車場

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園内即ち（チ）の位置に移轉せり・又常設の昆蟲標本陳列館（五間に十八間）は從前の通り岐阜縣物産館構内にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵税共金拾錢
壹年分拾貳部郵税共金壹圓八錢
（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵券代用は五厘切手にて壹割増とす

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢
三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年十月十五日印刷並發行

發行所　岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二（岐阜市公園内）　名和昆蟲研究所

發行者　岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二　名和梅吉
編輯者　同縣揖斐郡鶯村大字公郷三番戸　小森省作
印刷者　同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二　河田貞次郎

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF
"NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY"
GIFU JAPAN.

Vol. VIII.] NOVEMBER. 15TH, 1904. [No. 11.

昆蟲世界

第八卷第拾壹册　明治三十七年十一月十五日發行　第八拾七號

（明治卅年九月十四日第三種郵便物認可）

目次　（禁轉載）

（每月一回十五日發行）

名和昆蟲研究所發行

本所擴張寄附金品領收廣告 第六回

一金壹圓也　愛知縣丹羽郡多加森村　山崎信太郎君
一金貳圓也　愛知縣名古屋市江川横町　岡田孝次郎君
一金壹圓也　石川縣鹿島郡島屋村　稻葉久左衛門君
一金五拾錢也　三重縣度會郡島津村　桑名楢之進君
一金貳圓也　北海道後志國岩内郡幌似村　田中熊太郎君
一金壹圓也　千葉縣印旛郡安食町 田坂農場事務所内　後藤新左久君
一金壹圓也　千葉縣山武郡公手村　行木勝君
一金貳圓也　愛知縣西春日井郡農會長　寺内悠磨君
一金貳拾圓也　東京市釜屋堀　東海人造肥料株式會社御中
一金拾圓也　岐阜市湊町肥料販賣者 東京釜屋堀　林善太郎君
一金貳圓也　岐阜縣惠那郡中津町　山中平太郎君
一金五圓也　岐阜縣益田郡下呂村　中川支店肥料部御中
右二名紹介人大阪府由比昌太郎君並に岐阜縣片野源七君

小計金四拾七圓五拾錢
累計金七百五圓拾九錢

右御寄附相成候に付茲に芳名を掲て其厚意を謝す

明治三十七年十一月十日　岐阜市公園内　名和昆蟲研究所

第五回寄附金領收廣告中渡邊次郎君の五錢は五拾錢の誤り又小計金額及累計金額は壹圓宛を加算す茲に其誤りを訂して粗漏を謝す

來る廿七日當所移轉落成式を擧行す

明治三十七年十一月十日　名和昆蟲研究所

●本所擴張寄附金品募集廣告

本昆蟲研究所は今や機運漸く熟し地を岐阜市公園内にトし來四月以後に於て移轉建築の計畫を定めたり而して之れと同時に斯學研究者の便益を圖り特別標本室の設置より教室及宿舍等の設備を完全にし以て平民的研究に一層の利便を與へとんす然れ共資力固より限あり未だ十分の施設を行ふの餘裕を有せず是れ本所が此擴張の好機に際して頗る遺憾とする所なり從來本所が江湖諸氏の眷顧に負ふ所頗る多し今復た金品の寄贈を乞ふは衷心洵に忸怩たるものありと雖ども此好機を逸すれば諸般の設備に至大の不便を生じ斯學研究者に滿足を與ふる能はざるのみか其普及の上に於ても大に反障なき能はず茲に本所は意を決して擴張の方針を執り廣く大方の義侠心に訴へて金品の喜捨を仰んとす冀くは本所の微意を諒とし多少に拘らず御寄贈あらんことを

明治卅七年三月　岐阜市　名和昆蟲研究所

大方諸君

中等教育昆蟲標本寫眞（八）

學説

◎臺灣稻害蟲鉄甲龜

農學士　小貫信太郎

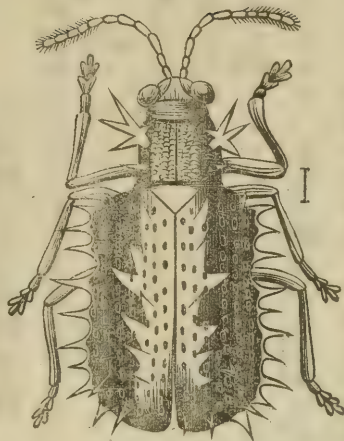
臺灣稻害蟲鉄甲龜と稱する蟲に就ては、二三の知人より標本を添て質問を受け、該地にありては、稻害蟲とて最も甚しきものなる旨附記し、幷せて驅除法等に就て答案を求められたり。依りて之の蟲を調査するに、葉蟲科に屬するヒスパHispa（種名未詳）トゲトゲ類なるを知り得たり。而して其被害の狀況は、稻の葉肉を害し、葉をして白變せしめ、又其幼蟲は天牛に類し、同樣の被害をなすと云へり。本邦にも亦トゲトゲの一種を存ずれども、是れは其數少く、常に雜草内に住し、害蟲と稱すべき程の者にあらざれば、是等の經過等の調査は未詳に屬し、從て臺灣のトゲトゲが如何なる經過をなすを知る能はす。從て驅除の如きも、十分なる方法を得る能はざるを遺憾とせり。今印度博物舘報告を閲するに、該國にも同じくトゲトゲ屬の一種（Hispa ænescens）を存し、稻を害すること甚しく、最も大なる害蟲なるを説けり。これらに依り見るに、この害は恰も本邦に於ける泥蟲と同樣の被害にして、即ち稻の植付期に出で產卵し、成蟲、幼蟲、共に葉の脈を殘して軟部を食し、暫時にして白變せしめ、爲に生育を害する事甚しく、又尋て數回の發生をなすと云ふ。是れに依て之を見れば、或は該蟲と同樣の驅除法を行ひて有効なるべきか。其方法は、石油を一反に付一升五合乃至二升を浮べ、早朝蟲を拂ひ落すにあり。

今少しく其蟲の如何なる形態を備ふるやを説明し。幷せて本邦産及印度産と異なる部位を説明せんとす

全体扁平にして刺毛を存し、黒綠色の光輝を有し、全長一分五厘あり。頭部は小にして、復眼は左右に凸出し、觸角は細長にして十一節よりなり尖端少しく太し。胸部は長さより幅少しく廣く、粗面にして左右より二對の刺を生ず、其一は肩部にありては一莖より四個に分岐せる大刺を生じ、猶他の一對は後胸の兩側面より出で、單一の大刺なり。楯板は滑かにして、翅鞘は扁平にして長く、全面に粗大なる

鉄甲龜の圖

I

縱點線を有し、三個の縱列を以て長き大なる四五個の大刺を生し、全周圍にも數多の刺を列生す。脚は無刺にして蹠節は四個なり。

以上の蟲を本邦産のものと比較するに、本邦産にありては、体長稍長く、觸角は短く、太く、全体に小毛を生じ、各環節略同長なり。但し、第一節は最も大にして、頂に近く一個の大刺を生ず。胸部の刺は左右三對あり、第一、第二對は一莖より二刺を生じ、第三對は單一なり。叉翅鞘に生する刺は短く、其數頗る多し。全体の色は黒色にして光輝を有せず。

印度産のものに比較する時は、印度産にありては、觸角の第一節に短刺を生ずるを異にして、余は殆んど同一なりと信ず。今左に印度産の經過を抄錄せん。

卵は多分稻葉に産附せられ、直ちに孵化して稻葉の軟部を蝕害し、蛹は同じく葉上に營まれ、成蟲は一週間より三週間の間に産卵す。三週乃至一ケ月間に一代を經過し、一年數回の番殖を營み、成蟲態

の一節あり。

にて越年し、叢間或は木石等の下に潜伏す。驅除法として燻煙法及乾田法を附記しあれども、共に有効なるものにあらざるを評論し、又亞砒酸劑の有効なるを説けども、費用に堪へざる旨をも記せり。又被害狀況に關して、當業者の手翰として左の一節あり。

シャンキーポカ白蟲（稻葉を白變せしむるより云ふ）は、黑色の甲蟲にして、稻の幼時に發生し、葉を害す。殊にアムーン種に於て甚し。此蟲は葉緑を食し纎維を殘すを以て、稻田は須臾にして白變し。枯燥す。稻は爲に生長を害せられ、其損失高は百分の五十乃至二十に至る。然れども全く枯死する事なし。此蟲の出現期は六七月にして、非常なる大數を以て襲來し、數平方哩を黑色に變ぜしむ。此時は稻の移植後にして、殆んど水中に浸されたり。然れども病床にありて少許の水を灌漑せらる所に生ずる稻を犯す事なし。此等の苗は本田に移植せられ、多量の水を灌漑するや否や被害を受く、總て葉の柔なるを好み、十分生長して硬化するに及びては之れを害せず、故に十分生長したる稻にありては新葉のみを犯す。被害は水の田面に存する限りにして、水を減退せしむべき時期に及ぶ時は、皆逃去る。故に、時として水を全く引去る時は、被害を減ずる事あり。

此蟲の驅除に就ては、農民の間に一種の咀咒的方法あり、其方法はバードロ(Bhadro)月に生れたる大人、又は小兒をして被害田を歩行せしめ、其或る場所に椰子の葉一枚を立て、次に數匹の蟲を捕へて頭部を摘み棄て、其場に無頭の殘骸を埋むるにあり、然る時は此の蟲の害を免るゝと云ふ。

◎皇太子殿下奉獻中等敎育昆蟲標本詳解（其十五）（第十一版上圖參看）

名和昆蟲研究所内　小竹　浩

（十六）茶樹及蔬菜之害蟲

茶は本邦重要なる輸出品の一にして、之れが栽培地甚だ廣く、殊に唯一の富源として培養製造するの地方少からず。されば近來栽培に、製法に、種々改良を加へ、漸次好況に向ふは國家の爲め喜ぶべきなり然れども印度茶、錫蘭茶の如き本邦茶の强敵現はれ、近年之れが爲めに往々不況を招くことあるは實に戒むべきことならずや、當業者細心注意して粗製濫造を戒め、益々改良の歩を進め、以て國益の增進を圖るべきなり。蔬菜は副食物として一日も缺くべからざる必要作物にして、到る處栽培せざるの地なく、尙近來海外の良種を輸入して大に良品を出すに到りたるは誠に喜ぶべし。さはいへ時々害蟲の襲ふ所となり、折角の良品も大害を被り、往々計畫を水泡に歸せしむることあるは遺憾なり。聞く明治廿九年に宇治茶園四十餘町歩に茶の尺蠖發生して八万五千圓以上の大害を被らしめ、且十五町歩餘の茶樹を枯死せしめたりと。嗚呼一種の蟲害猶且此の如し、況んや幾種の害蟲は常に機を待ちつゝあるに於ておや、豈注意せざるべけんや。宜しく豫め種類を究め、經過を知り、習性を搜り、以て豫防驅除の道を講ずべきことにこそ。

（一八一）モンシロテフ（Pieris rapae, Linn）　鱗翅類粉蝶科に屬する最も普通の種にして、前後兩翅共に濁白色を帶び、前翅には二個の暗褐点を有し、前縁角部は暗褐を呈す、基部及前縁は稍黑みを帶べり。后翅は前緣に暗褐小点を有し、翅底は黑みを帶ぶ。翅の裏面は、前翅に二小暗褐点を印し、前緣角部黃色に、後翅は斑紋なく稍黃みを帶ぶ。然れども發生時期によりて大小色澤一樣ならず。幼蟲は綠色なれとも濃淡一樣ならず、且氣門線部を界として背面濃色に、腹面色淡きあり。体形漸次下節に至るに從ひて太まり、第十一節最も太し。背線、亞背線等幽かに認め得べきものあれども普通明ならず、蛹は帶蛹にして黃綠を呈し、翅鞘には黑點條を有す。年四五回の發生をなし、常に油菜、甘藍、大根、蕪菁等

を害すること甚し。三月下旬頃より五月上旬頃に於て第一回の發生をなし、十字科植物の葉の表裏を撰ばず一所に一粒つゝ産卵す。五月下旬頃より六月上旬頃に於て第二回、七月中下旬に第三回、八月中下旬に第四回の發生をなす。該成蟲の産卵して孵化したるものは九月下旬に至りて蛹化し、其儘越年するものと、尚一回發生して十一月初旬に蛹化して越冬するものとあり。該蟲の發生せし處には常に米粒大の黄色の繭の集合したるものを見るべし。是れキマユヤドリバチとて小繭蜂科に屬する一種の寄生蜂にして、モンシロテフの幼蟲に寄生し、之れを斃すこと多ければ能く注意して愛護すべし。

(一八二)アヲバハゴロモ(Poecilopterа distinctissima, Walk.)　半翅類薄翅横蚑科に屬する一種にして茶樹害蟲の一なり。翅の開張六七分内外、前翅は淡綠色にして外緣及内緣は稍赤色を帶び、脉條は青綠色を呈す。後翅は薄くして乳白色をなす。口吻長く、腹眼は灰赤色にして、複眼と觸角との中間稍前方に位して、黄白色の單眼あり、觸角は短かく、第三節小にして、其先に針狀毛を有す。幼蟲は白色綿樣物を分泌して体を覆ふを以て、一見綿の如し。之れに觸るれば跳躍するの性あり。

(一八三)チヤケムシ(Artaxa Conspersa, But)　鱗翅類毒蛾科に屬する一種にして茶樹の一大害蟲なり。雄は翅色暗褐色にして、前緣角部暗黄色を帶び二個の小黑點を印す。外緣の内角に接する部分は暗黄色にして、翅の中央に二條の屈曲したる細條を有す。後翅は一層濃色にして黄色の緣毛を有す。往々前翅も濃色にして黄色部を欠き、二小黑點と二條の屈曲條を幽かに認め有べきものあり。雌は兩翅共黄褐色にして、前翅には么微なる黑點を散布す。前緣角には二小黑點を有し、腹端には毛魂あり。觸角は羽狀にして、雄のものは太し。大体に於て雄は黑く、雌は黄色なるを以て、今回オスグロウコント改稱せり年二回の發生をなすものにて、十月下旬即第二回目發生の成蟲は雄の翅色殆んど雌と異ならざるを常と

す。幼蟲の老熟したるものは七八分内外に達し、黄褐色にして黒褐の大き背線と、灰白色の側線とを有す。第四節以下毎節多くの黑色疣狀物を有し、背線の兩側にあるものは大なり。此多くの疣狀物よりは灰褐色の毒毛を簇生し、之れに觸るときは甚しく痛腫を感ず。幼蟲の小なるときは常に群居すれども、漸次成育するに從ひ離散すれども、就眠の際は又一所に集まるの性あり。六回の脫皮後八九日を經れば灰褐色の繭を作り蛹化す。蛹は褐色にして、翅脈は翅鞘を透して見ることを得べし。腹端急に細まり、背面には毛を有す。卵は葉裏に數十粒乃至二三百粒一塊となし、毛を以て之れを蔽ひ、卵子の有樣にて越冬す、之れを除くには、幼蟲の初期は一所に群居するを以て葉と共に切り取るか、若くは燒殺器等を以て驅殺するを良しとす。

（一八四）ミノムシ Eumeta minuscula, But.）　鱗翅類避債蟲蛾科に屬する一種にして、兩翅共に灰褐色を帶び、斑紋なく、後翅は小にして殆んど三角形をなし、体には長軟毛を有す。特に胸部に多し。觸角羽狀にして、雌は四翅を缺き、躰軀肥大にして圓筒形をなし、淡褐黃色を呈し、巢中に產卵後斃死す。今回オスウスヾミと改稱せり。孵化の幼蟲は葉等を小さく喰切り、之を綴りて巢を作り、常に其内に入りて頭部を挺出し、葉を食害す。漸次体の大きくなるに從ひ其巢を增大す。老熟の幼蟲は肥大にして、頭部は灰褐色を呈し、第一乃至第三節は背面黃褐色にして皮膚厚く、背側面には濃褐色の縱帶あり第四節以下は濃灰褐色にして、腹面は色淡し。蛹は褐色にして、雄は細長く、胸部の背面稍隆起して平滑に、腹端急に細まり二本の曲りたる針を有す。雌は肥大にして殆んど圓し。年一回の發生にして七八月頃羽化し接尾の後雌は巢中に產卵す。孵化の幼蟲は茶、柿、梅等の葉を食害し、幼蟲にて越冬し、翌年六月頃に入て蛹化す。之を除くには幼蟲を捕殺するは勿論なれども、殊に六月頃蛹化せし際には注意して驅除すべし。

◎分類漫錄 其二の續（小蜂科の二）

在農事試驗場九州支場 中川久知

第十五 Hormoceroidae.

（一）腹部は側扁せず……（三）（四）
（二）腹部は側扁す……（一一）（一二）
（三）觸角は十三節より成る……（五）（六）
（四）觸角は十二節より成る……（九）（一〇）
（五）側溝完通す……Hormocerus（ホルモセラス） Walk.
（六）側溝は不完全なり……（七）（八）
（七）觸角に雌雄共に輪狀節二個あり、產卵器は突出せず……Urolepis（ユーロレピス） Walk.
（八）觸角に輪狀節三（雄）或は二（雌）あり、產卵器は幾分か突出す……Anogmus.（アノグマス）
（九）觸角に輪狀節三個あり……Micradelus（ミクラデラス） Walk.
（一〇）觸角に輪狀節一個あり……Tripedias.（トライペディアス）
（一一）胸部扁平なり……（一三）（一四）
（一二）胸部凸隆す……（一五）（一六）
（一三）觸角十二節より成り、側溝完通せず……Psilonotus（シロノータス） Walk.
（一四）觸角十三節より成り、側溝完通す……Isoplata.（アイソプラタ）
（一五）觸角の末節は末端鑿狀に尖れり……Rhaphidotelus（ラフヒドテラス） Walk.
（一六）觸角の末節は末端鑿狀をなさず……（一七）（一八）
（一七）三小節より成れる觸角の末節は其前位の二節の和より短し……Meromalus（メロマラス） Walk.
（一八）三小節より成れる觸角の末節は其前位の二節の和と同長なるか又は長し……Gastrancistrus（ガストランシストラス） Westw.

第十六 Pteromaloidae.

（一）側溝は完通し且つ鮮明なり……………………………………………………（三）（四）

（二）側溝は完通せず……………………………………………………………（一一）（一二）

（三）觸角は十一節より成り腹部の第一環節は殆んど後方の諸環節を悉く被覆す……Megapelte.（メガペルテ）

（四）觸角は十一節を超過す………………………………………………………（五）（六）

（五）觸角は十三節より成る……………………………………Tridymus Ratzb.（トライダイマス）

（六）觸角は十二節より成る………………………………………………………（七）（八）

（七）胸部に針痕なく翅の肢脈の頭部より發する一ツの毛列を有す……Systasis Walk.（シスタシス）

（八）胸部に針痕あり、翅に毛列なし……………………………………………（九）（一〇）

（九）雄の觸角は二個の輪狀を備へ末節は二個の小節より成り、雌の觸角は二個の輪狀節を備へ末節は三小節より成る、側溝は腋部に達し、肢脈の頭部は肥大す……Oxyglypta.（オクシグリプタ）

（一〇）觸角は二個の輪狀節を有し末節は三小節より成る、側溝は中胸後板に達し、枝脈の頭部は肥大せず……Stictonotus.（スチクトノタス）

（一一）觸角は十二節より成る……………………………………………………（一三）（一四）

（一二）觸角は十三節より成る……………………………………………………（一五）（一六）

（一三）胸部は腹部より長し……………………………………Meraporus Walk.（メラフホラス）

（一四）胸部は腹部より短し……………………………………Metastenus Walk.（メタステナス）

（一五）顏面は針痕を密布し、產卵器は長く突出す……………Roptrocerus Ratzb.（ロプトロセラス）

（一六）顏面は僅に針痕を有し或は全く針痕を欠く、產卵器は殆んど突出せず……（一七）（一八）

（一七）觸角に三個の輪狀節あり…………………………………………………（一九）（二〇）

（一八）觸角に二個の輪狀節あり…………………………………………………（二三）（二四）

（一九）鞭狀部は末端に至るに從ひ非常に肥大す………………Metopum Walk.（メトパム）

(二〇)鞭狀部は末端に至るに從ひ幾分か肥大す……(二一)(二二)

(二一)胸部の背面平坦にして、身體狹長なり……Platyterma Walk.（プラチテルマ）

(二二)胸部の背面凸隆し、身体短濶なり……Amblymerus Walk.（アムブリメラス）

(二三)枝脉の頭部頗る肥大す(腿節は肥大せず)……Caenacis（シーナシス）

(二四)枝脉の頭部肥大せず……(二五)(二六)

(二五)前脉は頗る肥厚す(腿節は肥大せず)……Xenocrepis（ゼノクレピス）

(二六)前脉は肥厚せず……(二七)(二八)

(二七)頭部に於て大顎の根元より眼窩の外側を周りて顱頂に達する平滑なる線あり……Peridesmia（ペリデスミア）

(二八)頭部に於て大顎の根元より眼窩の外側を周りて顱頂に至る平滑の線なし……(二九)(三〇)

(二九)翅の前縁著しく彎曲せり……Simopterus.（シモプテラス）

(三〇)翅の前縁彎曲せず……(三一)(三二)

(三一)枝脉及び外脉は前脉に比して著しく短し……Dibrachys.（ダイブラキス）

(三二)枝脉及び外脉は前脉に比して短かゝらず……(三三)(三四)

(三三)二個の輪狀節は次位の繋節より著しく小ならず……Coelopisthia.（シーロピシア）

(三四)二個の輪狀節は甚だ小なり……(三五)(三六)

(三五)胸部の背面は著しく突出す……Diglochis.（ダイグロキス）

(三六)胸部の背面は著しく突出せず……(三七)(三八)

(三七)腿節は强大にして肥厚す殊に前肢に於て然り……(三九)(四〇)

(三八)腿節は細長なり……(四九)(五〇)

(三九)前脉は肥厚す……(四一)(四二)

(四〇)前脉は肥厚せず……(四三)(四四)

(四一)外脈と枝脈は短縮して前脈の半ばに過ぎず、二個の輪狀節の和は柄節の長さに及ず….Metacolus.

(四二)外脈と枝脈は其長さ前脈の一半より長し二個の輪狀節の和は柄節の長さに等し….Pandelus.

(四三)枝脈の頭部は下方に曲て圓し……Dinotus.

(四四)枝脈の頭部は下方に曲ることなし……(四五)(四六)

(四五)前肢の腿節は末端の前にキレコミあり後肢の脛節は細棘を列生す……Pachychirus. Ag. Nom.

(四六)前肢の腿節にキレコミなく又後肢の脛節に棘を列生せず……(四七)(四八)

(四七)枝脈の末端は棍棒狀をなす……Rhopalicus.

(四八)枝脈の末端は棍棒狀をなさず然れども翅の內方に向て著しく肥大せり……Acrocormus.

(四九)外脈の長さは枝脈の二倍に達す……Etroxys Westw.

(五〇)外脈の長さは枝脈の二倍に達せず……Pteromalus Swed.

第十七　Elasmoidae.

此亞科には左の一屬あるのみ……Elasmus Westw.

第十八　Elachistoidae.

(一)後肢の脛節は二個の長き距を有す……Euplectrus Westw.

(二)後肢の脛節は二個の長き距を有せず……(三)(四)

(三)腹部に短かき柄あり……Elachistus Spin.

(四)腹部に柄なし……(五)(六)

(五)側溝は後板に達し、觸角に二個の輪狀節あり……Aulogmnus.

(六)側溝は後板を離れて腹部に達し、觸角に一個の輪狀節あり……(七)(八)

(七)觸角は八節より成る而て末節は雌に於ては二小節より成り、雄に於ては小節に分れず….Olynx.

(八)觸角は九節より成り末節は二小節より成る……Teleogmus.

第十九　Eulophidae.

(一)中胸後板に縦溝あり……(三)(四)
(二)中胸後板に縦溝なし……(七)(八)
(三)觸角は八節より成り後板の溝は腹部に達す……Cirrospilus Westw.
(四)觸角は九節より成り後板の溝は前板に達す……(五)(六)
(五)觸角は口部に接して立ち、後胸後板は雌に於て見ること難し(雄は大腿を欠く)……Melittobia Westw.
(六)觸角は口部を離れて上方に立ち後胸後板は甚だ大なり(雌)……Solenotus.
(七)雄の鞭狀部に櫛齒狀の枝あり、雌の末節は二三の小節より成る……Eulophus. Geoffr.
(八)雄の鞭狀部に櫛齒狀の枝なし……Sympiesis.

第二十　Eutedonoidae.

(一)觸角は十二節より成る(唯一個の輪狀節を有す)……Epiclerus Hal.
(二)觸角は十二節よりも小數なり……(三)(四)
(三)觸角は棍棒狀をなす……Rhopalotus.
(四)觸角は棍棒狀をなさず……(五)(六)
(五)雄の觸角は鞭狀部は甚だしく鋸齒狀をなし且つ毛を環生す、雌に於ては無色の輪を具備す(白色輪……Astichus.
(六)雄の觸角の鞭狀部は齒狀をなさず、雌に白色輪なし……(七)(八)
(七)中胸後板の正中線に溝あり……Holcopelte.
(八)中胸後板の正中線に溝なし……(九)(一〇)
(九)前翅に數多の毛列あり……Euderus Walk.
(一〇)前翅に毛列なし……(一一)(一二)

(一一)前翅に判然たる前室なく唯一個の毛列に依て前室の位置を畫するのみ……Secodes.
(一二)前翅に前室なし……(一三)(一四)
(一三)外脈の長さ枝脈の長さに等し……(一五)(一六)
(一四)外脈の長さ枝脈の長さに等しからず……(二一)(二二)
(一五)亞前脈は著く肥厚す……Pleuropachys Westw.
(一六)亞前脈は肥厚せず……(一七)(一八)
(一七)中間の環節に側隆起線あり……Pleurotropis.
(一八)中間環節に側隆起線なし……(一九)(二〇)
(一九)中胸後板に顯著なる鱗紋あり……Entedon Dalm.
(二〇)中胸後板平滑なり……Asecodes.
(二一)腹部は末端鋭く尖る……Omphale Hal.
(二二)腹部は末端鋭からず……(二三)(二四)
(二三)觸角は八節より成る……Chrysocharis.
(二四)觸角は九節より成る……Derostenus Westw.

第二十一　Tetrastichoidae.

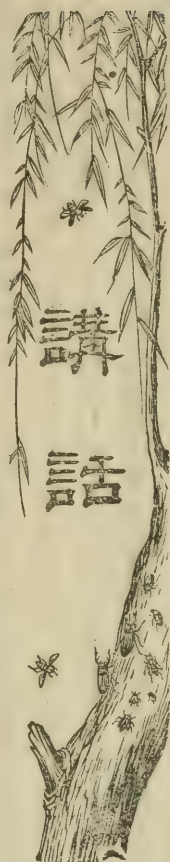
(一)中胸後板に溝なし……(三)(四)
(二)中胸後板に溝あり……(九)(十)
(三)觸角は一見三節よりなるが如し……Triphasius.
(四)觸角は明に三節よりも多く節數を有す……(五)(六)
(五)枝脈を欠く……Anozus.
(六)枝脈を有す……(七)(八)

(七)前翅の周圍に長き毛を生ず……Pterothrix Westw.
(八)前翅の前縁には長き毛を生ぜず……Trichaporus.
(九)觸角の莖節は非常に肥大す(雄)……(一一)(一二)
(一〇)觸角の莖節肥大せず……(一三)(一四)
(一一)前翅の周圍に長毛を生ず……Ceranisus Walk.
(一二)前翅の前縁には長き毛を生ぜずと雖も前脉上には長き剛毛を生ず……Baryscapus.
(一三)觸角は十節よりなる(輪狀節を欠き大形の一節之に代はる)……Hyperteles.
(一四)觸角は雄に於ては九節よりなり輪狀節を欠き雌に於ては十節より成り二個の輪狀節と三小節より成る末節を備ふ……Tetrastichus Hal.

第二十二　Trichogrammatoidae.

(一)前翅に毛の列あり……(三)(四)
(二)前翅に毛列なし……(一一)(一二)
(三)亞前脉は翅の前縁に達せず……Poropoea.
(四)亞前脉は翅の前縁に達す……(五)(六)
(五)亞前脉は翅の前縁に達し弓狀に曲り外後方に下りて枝脉を形成す(脉は總て相繫りて弓狀をなす)觸角は八節よりなる……Trichogramma Westw.
(六)亞前脉は前條の如き弓形をなさず觸角は八節よりも少なし……(七)(八)
(七)前翅の周圍は長毛に圍まる……Chaetosticha Walk.
(八)前翅は前脉の終りたる處より外端に至るまで短毛によりて圍まる……(九)(一〇)
(九)觸角は七節より成り、一個の輪狀節と四小節よりなる末節を有す……Lathromeris.
(一〇)觸角は六節よりなり、輪狀節を欠き、末節は三小節よりなる……Centrobia.

（一一）觸角は七節より成る……………………………Asynacta.（アシナクタ）
（一二）觸角は六節より成る……………………………（一三）（一四）
（一三）前翅は幅廣く周圍に纎毛を生ず……………Brachysticha.（ブラキスチカ）
（一四）前翅は小さき長毛を以て圍まる……………Oligosita Hal.（オリゴシタ）
右の屬名の下に記者の名稱を付せざるものはみなFöerster（フエルスター）氏の命名に係るを以てFöerst.なる略字を付し記述すべし。

講話

◎人は萬能なる能はず宜しく專門の業を究むべし

農商務省水產講習所長　松原新之助

本篇は農商務省水產講習所長松原新之助氏が、本年夏期、水產事業視察の途次來所の節、當所特別研究生及講習生等に對し一場の講話を乞ひ、それを筆記したるものなり。其辭句の拙なるは勿論、誤謬の點なきを保し難し。是等は筆者の罪なり。讀者乞ふ之を諒せよ（所末石田筆記）

私は目下農商務省水產講習所長を奉職して居る者であります。水產と昆蟲とは隨分關係もありますが、昆蟲の事は克く存じませぬから、只今自分が從事して居る事に關して少しく申上樣と思ひます。吾講習所は、日本の水產事業の發達を圖る目的であつて、仕事を二つに分けて居る、即ち一つは學生の養生、一つは事業の經營であります。又之を分けまして、漁業法、水產製造法、及養殖法の三といたして居ます。熟々世界の大勢を見ると、日本も尚少しく學理を應用して實際の働きを十分にせなければ、國家を富ます事は出來ない、學問をすれば隨分學理を發見して世の中を利する事はあるけれども、それのみにては實利を擧げて實際の用に立たせる事は出來ぬ。さればとて、學問をせなければ暗夜に提灯なしで行くと同樣、步くことも出來ない、學理と實地は、恰も鳥の兩翼、車の兩輪の如くで、如何にしても相俟ちて

進行しなければならない。そこで之を養魚に就て御話しやう。昨日本縣下の大垣町に到り、それより安八、海津の養魚地を見ましたが、海津郡の如きは多少養魚に手を附け、鯉の仔を放ちてある所も幾分かあるけれども、先づ荒蕪で、只水があるのみと云ふてもよい位なのです。外國へ行きて見ると、獨乙、和蘭等の如きは、如何なる小なる場所でも、水さへあれば相當に利用して居る、例へば其れが清水であれば鱒、濁水なれば鯉、鰻、スッポン等を放ち、周密に飼育する有樣は、恰も本邦の農夫が田畑を耕すと等しく、この水面なら原料を何程入れ、餌食を何程與へて幾許の利益があると云ふ豫算を立てゝやる而して又同じ魚にても種類を撰み、且人工によりて需用者の好む風味のよい價の高いものを作ると云ふ風であるから、近來は益々其事業が進歩發達するといふ次第である。安八、海津の如きつまらぬ方法でなく、同じ魚を太らすにも、只急いで大きくするといふのみでなく、一定の期間に一定の方法を以て太らせ、例へ他から持つて來ても僅の間に色合といひ、味といひ、其土地のものと同じ樣になし、其土地の産物として賣り出す事が出來るから、小なる面積から大なる利益が上る。安八、海津の如き、若し彼れが田畑であるなれば、決してあの樣に荒して置くものでない、早くより手入れをして居るに相違ないが、實に天然の好養魚地を其儘荒蕪に附して置くのは遺憾なる次第である、水産事業も、之を列國に比すれば、まだなさけない事ではありませぬか。

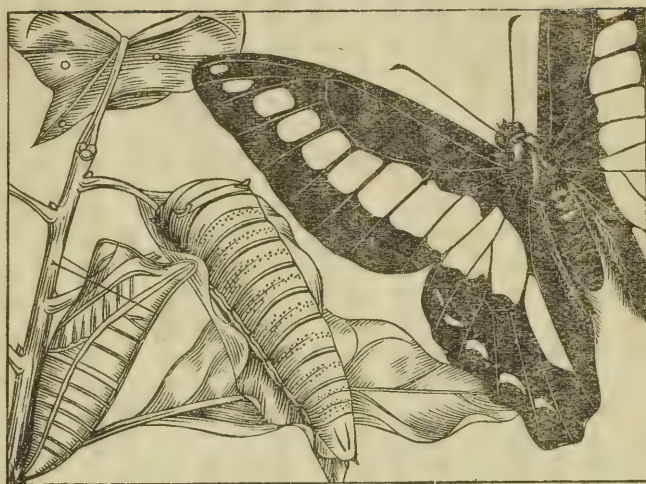
外國にては尙一層進んで、病理及昆蟲との關係をも研究して居る、私の友人にプロノフオーヘルと云ふ人がある、この人は獸醫專門學校の敎授をして、其傍魚病研究所を設け特に蝦の研究を主として綿密に研究して居る、處が近來蝦のペストが流行して、何處の湖河も非常な蔓延であつて假令ペスト發生地の水がかゝらぬ飛だ所迄も傳染すると云ふので、頻りに研究した結果、始めて其傳染の理由が解つた。其れは網によりて傳染するので、濕りたる網は勿論、乾いたものでも消毒しないで、一度使つた網を使ふと、矢張其病毒が感染すると云ふことが、慥かに其人によりて研究された。其他にも魚類には多くの病氣があつて、傳染病のみにても一昨年私が歸朝の當時では三十五六種研究されて居つた。先日着した同所にて發表せし書中にも尙其より少し多く書いてあつたと思ふ。水産害蟲も矢張加へられて研究されてあつたが、相當の人がないから害物としての研究は甚だ少なかつた。又同所も頻りに生徒を養生して居ります。私の行きし時は、多くは女生徒でありました。プロノフオーヘル氏が私に話されるには、全國の魚類の傳染病を防がんとしたならば、非常に多くの人を要し、到底人が足りないから困る、併かし養魚場又は池湖水の魚類の監理をして居る人は皆結婚者のみであるから、夫は之れが監理をなし、妻は病

理の研究等をして居るとの事でしたが、何事でも人が多くなけらねばならぬ。又如何なる事業でも、一つは人物次第で出來ないことはなけれども、それも多くの人の手を借らなければならぬ。故にどうしても人物を養成せなければならない。此事を名和先生に話しました所が、丁度名和さんも同じ意見で、害蟲驅除の上に於ても此方針で進んでゐらるゝとの事を承りまして、私は非常に愉快に感じました。凡そ人の世に處するに萬能なる能はざれば、何か一の仕事を撰ばなければならぬ。其仕事は又專門的で、且狹くとも深く究めなければ實際の用に立ち、國家を利すると云ふ事は出來ぬ、そこで私の居る水產講習所でも、漁業、製造、養殖の三つに分れて其中の一部分丈でも各自に深く研究さするつもりである、斯くの如くすれは世の中には或は用ひられざる事もあらんが、それは致し方がない。世の中を利する考へで狹く深く研究せねばなりませぬ。

縣廳の役人とか、小學校の敎員になるなれば、左程狹く深く研究する必要もありませぬが、自己の目的を立てゝやりかけたならば、達する迄は貫かねばならぬ。諸君の研究も隨分面倒なる研究には相違ないが、學理と實際とによりて深く研究せられ、間接の仕事として害蟲を除くなれば、其利益は非常に大なるものであります。諸君の如く一の專門事業を研究し、國家を利せんとせらるゝ人に遇ふて話をなす事を得たるは、誠に私の滿足する所であります。殊に名和さんとは十五六年前より交際して居りまして、昨夜も御願ひした事ですが、どうぞ水產害蟲の研究なども十分にして私共の仕事を援けて戴きたい、可成ならば諸君の中にても養魚の或害蟲を專門に調べて戴きたい、先程拜見しました通り、鯉などに害蟲類を應用し、之を餌食とする如きは餘程感じました。獨乙の先輩の云ふに、鯉でも他の魚類でも、天然餌料を與ふるに加かず、例へば十坪の池がありて人工の餌食を與ふるよりも、十坪の中、八坪魚を養ひ二坪は餌食となる蟲類を繁殖せしむるが利益なりと申しましたが、是等の研究も是非願ひたい、私の方でもやる考であるから、お互に氣脉を通じてやつて戴きたい、名和先生の實行は私の意見と符合し、一人で働いても仕方がないから、有爲の人物を養成すると云ふ事は最も意氣相投合し、非常に愉快に感ずる。斯る所に於て、諸君に向つて御話するのは、又非常に喜ぶ次第であります。

◎靑筋鳳蝶の飼育談

名和昆蟲研究所助手　名　和　愛　吉

編者曰、本篇は水曜昆蟲談話會席上に於て、助手名和愛吉氏が靑筋鳳蝶飼育の結果を報告せし概要なり。

私は本年八月十日當所内樟樹の若葉に産卵し有るアヲスヂアゲハ（Papilio sarpedon L.）の卵子を採集し來りて之を飼育いたしましたから、今其發育の概況を御話いたさうと存じます。

このもの、翌日即ち八月十一日午前に孵化しました、體長一分、其色は黑色なりしが、午後に至り、頭部黑色に、第一節は淡褐色を呈し、第十二節は灰色となりました、又第一、二、三の三關節には圓錐形の突起物が各一對づゝありまして、第一節の突起物は第二、三節の突起物より稍大きくありました。又第十二節には水色の突起物があります。又、第四節より第十一節に亘り微小なる顆粒狀突起物が各節に六個づゝありまして、其突起物には濃褐色の刺毛が澤山あります。而して幼蟲は常に葉の表面中央に棲止して居ます〇十三日になりまして體稍綠色を帶び〇十四日午後、第一回の脫皮をして二齡となり、脫皮前は體色褐色を呈すれども、脫皮後は淡黑色に稍綠色を帶び、頭部は黄色にして第一節の突起物は黑紫色を呈し、第四節より第十一節に至る小突起は無くなり、第十二節の突起物は大きくなり、體長二分となりました〇十五日午後、體色淡綠色に、頭部は褐色となり、體形第一節小さく、第二節大きく、第三節は尙其れよりも大きくして、第四節よりは腹部の末端に至るに從ひ漸次細くなり、體長二分五厘となりました〇十六日、體の背面は淡綠色を呈し、腹面は鉛色を呈す、體長二分八厘となれり。〇十七日午後、第二回の脫皮をした、全體淡綠色にして頭部淡褐色を呈し、第一節の背面に濃褐色の斑紋を有し、第一二、三の關節は不明瞭となり、第四節目より腹部の末端に至るの關節は明かにして濃色の數多の斑點が現はれました。而して第一、二、三節の突起物は青色となり第十二節の突起物は白色となりました。又、頭部より腹端に亘り兩側の稍下面に白色の毛を生じ、體長三分五厘とな

青筋鳳蝶發育の圖

りました○十八日、體色第一節より第四節に亘り綠色に、第五節より第十一節に亘り淡綠色に、第十二節は鉛色となりました。其第十二節の突起物は黄白色を呈し、體長四分五厘、又、脱皮前は第五、六節の處より腹端に至る迄淡褐色に變じました○廿日朝、第三回の脱皮をいたしました。其脱皮したる當時は頭部褐色に、體は淡綠色にして稍褐色を帶び、第一、二、三節の突起物は白色なりしが、三十分許にして青色となり、又、第一、二、三關節は濃綠色を呈し、第四節以下は綠色となり、腹面は淡綠色となりました。又、前三對の突起物は第一第三大きく、第二は稍小形となり、第十二節の突起物は淡黄色を呈し、其先端は青色をなし、躰長五分二厘となりました○廿一日には、第三節の上部に黄色の横線が現はれ、第四節より第十二節に至る側面の下方に黄色の基線が現はれ、體長八分となりました○廿二日、體色青綠色を呈し、第十二節の突起物は黄色に、先端灰色となり、體長八分五厘となりました○廿三日第四回の脱皮をいたしました、體黄綠色にして、第一、二節の突起物は非常に小さくして一見黑點の如くなりました。然し、之を檢鏡すれば黄色にして先端黑色であります。而て第三節の突起物は非常に大きくなり、先端は黄色、中部は黑色、基部は黄色を呈し、其基部の周圍に黑線を書き、第十二節の突起物は褐色となりました。此脱皮後は第一節より第三節の背面が廣くなり、體長九分六厘となりました○廿四日、體長一寸、綠色を呈す○廿五日、體長一寸一分○廿六日、頭部綠色となり、體長一寸三分○廿七日、體色黄綠色を呈し、體長一寸一分五厘に短かくなり、食を止めました○廿八日朝、體色前日の如くして稍透明となり、午後に至り體に糸をかけました○廿九日、午前に蛹化しましたが、第三節より舊皮二つに裂け初めて、第二節、第一節より頭部と順次裂けて、其より腹端の方へ漸次脱出して行きましたが、蛹化する前には幼蟲の舊皮内にて已に蛹形が見えました。玆に於て卵が幼蟲に孵化してより蛹化までの日數は十八日間でありました。

蛹は淡綠色と赤褐色との二形ありまして、其胸部の背面は非常に突起して恰も葉柄のそれの如き看があります。而して其より頭頂、胸側、及腹端に向ひて六條の黄色隆起線がありまして、背面のものは更に二條に分れて居ます。背面より之を見ますと全体が樟樹の若葉の如く見えます。このもの、九月十二日に羽化いたしました。

雜錄

（十一）

◎昆蟲文學

聞蟲　小木曾蕙洲

草蛩何處咽荒烟。玉韵隨風斷續絃。夜色蒼蒼無限興。滿天冷露月娟娟。南山曰。清韻高調。

同　柳多湖塘

金風蕭殺夜三更。月照疎簾轉惹情。庭草露深蟲切切。征人何處聽斯聲。南山曰。獨景感物。則懷征人。

同　岩間雲泉

浮雲過去一天清。月色團團滿地明。夜座三更情不盡。閑吟獨步聽蟲聲。

同　山內棲雲

何處群居聒聒兒。月明涼夜露華滋。閑吟漫步孤村外。地僻三更聽得奇。南山曰。響蟲聲亦可以聲。

秋夜聞蟲　南山樵夫

月色凄涼樹影圓。滿庭風露夜娟娟。百蟲相和聲如一。繞屋終宵伴客眠。

蘆洲曰。一樣蟲聲能喜人亦愁人。不知樵夫聽去感若何。

更深覺冷木綿衾。耿耿殘燈照客心。爲是懶眠過午下。終宵愁聽草蟲吟。

蘆洲曰。是能愁人者。蓋樵夫自招之災也。

月照西窓夜幾更。木綿衾冷夢難成。百蟲聲斷一庭寂。只有寒蛩到曉鳴。

蘆洲曰。幽絕。

魯嶽曰。有此人而能聽此聲。

滿洲昆蟲說　曩征露之軍起也。名和昆蟲研究所所員某某。亦從軍在滿洲之野。而以軍事餘暇。捕昆蟲。送致數十種。乃一一以製標本。供衆覽。中有我國所無者。乃皆冠以滿洲二字紀名。今也王師連戰連勝。所向無前。安知捕擭彼烏鳩。以製社會害蟲之一大標本。而示天下亦在近乎。聊爲之記。（魯嶽倫草）秋水曰。奇想。

蟀聲　神村直三郎

○

田の畔の豆の葉かげをたよりにてかく生ひ立ちし土いなごかな（土螽）

朝日影きよくもにほふ茶の花を訪ふや小春のあかたては蝶（アカタテハテフ）

ふじまめは莢となりたる垣根道うらなみしじみうらく\と飛ぶ(ウラナミシジミ)

○　山田　三秋

戰友のかばねをうづむ新墓のかはらぬ土にこほろぎの鳴く(蟀)

朝顔のふたはな三花すずむしに惜しくもつみて與へけるかな(鈴蟲)

○　坪内　華外

君まさばこの蟲の音をふたりしてめで聞かんものを五百里の西(蟲)

芋五升酒にかへ得てかへるさの小田のなかみちいなご飛びかふ(蝗)

○　天　山

泉水の菖蒲にやどるかねたたきうら枯るる葉を悼むなるらん(鐘叩き)

○　久津見　銀次郎

ふけゆけばむしのさまぐ\なきいで丶夜おもしろき園のくさはら(蟲)

○　秀　康

いざりせしあととは見へで千町田の穗なみゆたかにいなご飛ぶなり(蝗)

○　ふもとのや

千草原怫然としてかまきりの斧を立てたる夕嵐かな(蟷螂)

○　服部　綾足

くろがねの網やぶるべくしのびよるふもと草原たゞ蟲のこえ(蟲)

もろかりし武運をかこつ雨の夜の寢臺にちかきこほろぎの聲(蟀)

◎昆蟲界の花壇(其六)(害蟲視察狀況の續き)

在米國　名和梅吉

九、赤色貝殼蟲　此種はサクラメント市にて夥多發生し居るを見たり。學名をAspidiotus aurantiiと稱し有名なる害蟲丈に加害中々大にして、枯凋せんとするものありき。最も柑橘は一の果園としてあるにあらず市中の街側に並木の如く植付たるものと、人家の庭前庭後及公園地內等に植附けのものに就て視察せしものとす。加害狀況は、樹の下方の部分より漸次上部に蔓延し行く如くにて、特に甚しきは直接日光を受けざる所謂日蔭の部分に多きが如し。而して被害葉は黃變し居るを以て、甚きものは隨分遠方より既に該蟲の加害たるを認知するを得べし、尙葉のみならず果實に迄加害を及ぼし、中には全く生育を止たるものさへありき。斯く該蟲の發生多き丈に、之に對する敵蟲も從て多く、余は之に寄生する所の微小なる寄生蜂の、葉上葉下を活潑に步行するものを認知したり。然し瓢蟲類は割合に少き樣にて、只本邦に於る微小瓢蟲の一種コクロテンタウムシ大にて能く類似のものを認めたるのみなりき。

一〇、ソフト、ヲレンヂ、スケール　此種は前種と同棲し、是亦加害隨分多きが如し、學名はLecanium hesperidumと稱するものなり。該蟲發生の柑橘は、恰も本邦にてカメノコカヒガラムシ加害の爲め枝葉上黑變すると同樣の觀を呈せり。是れ全く躰より分泌する甘液多くして、枝葉上に附着するや一種の黴菌の發生繁殖せしに依るものにて、その害少なからず。右の如くにて、前種は加害の爲め葉を黃變せしめ、此の種は黑變せしむると云ふ有樣にて、能く遠方より發生の如何を豫知し得べし。聞く所に依れば、柑橘栽培家は常に該蟲の加害を憂ひ居れりと云ふ。

一一、紫色貝殼蟲　此種は發生多からざるも、亦加害あるを見たり。學名はMytilaspis citricolaと稱するものなり。元來當洲には發生なかりし種の由にて、先年苗木と共にフロリダ洲より輸入せしものと謂へり。余の見し所にては、各樹とも加害なきも局部發生にて、衰弱を來さしめ居れり。

一二、苹果の綿蟲　此種は苹果のある所何れも發生加害し居るを見たり。就中サンタローザ地方にては、該樹の多き丈に多くの發生ありたり。當時枝間には少なきも、加害の痕跡に依り確知すると同時に、根際の裂間等には隨分繁殖し居るを以て明かなりとす。而して加害甚しき樹は非常に衰弱を來し他の無害と思ふべきものと比較し見る時は、慥かに區別するを得べし。

一三、エンドノムクゲムシ　此種はペタルーマに於て發生するを見たり。該蟲加害の豌豆葉は、恰も米糖を散布したるが如き觀を呈せり。當時幼蟲時代のもの最も多く、漸次成蟲を增すもの丶如き狀況にて、被害少からざる模樣なりき。幼蟲は淡黃色を呈し、成蟲は暗黑褐色にて活潑なり。斯の如き種類は本邦に於て余は見受けざりき。

一四、ダニ　此は昆蟲範圍外なりとは謂へ、其發生甚しく、苹果、梨、桃、櫻、柑橘、薔薇、其他各種植物に發生して加害猛烈なるを見たり。當國にては昆蟲學を硏修する學者にして此類を硏究さる丶ものにて、普通昆蟲書には該蟲の記事あるを常とす。余は今昆蟲以外なるを知れども、該蟲加害の甚しきを紹介し置かんのみ。

一五、余の見ざる昆蟲　右畧記の外報ずべき害蟲ありと雖も、今回は之れにて筆を止むることとなせり。此處に見ざる昆蟲と謂へば珍種を得し樣に思はるれど、實は然らず、此旅行中奇異に感じたれば附記するのみ。卽ち見ざる昆蟲とは、本邦にて最も普通に見られ得べき種類にて見られざりしものにて、第一にコガチムシ、第二セミ類、第三カミキリムシ類、第四コメツキムシ類、第五カマキリ類

第六キリギリス類、先づ以上のものとすべし。是等は全く氣候と土地の關係ならんも、兎に角余の感せし處なりき。

◎柑橘害蟲篇（續）

靜岡縣 岡田忠男

鱗翅目 擬尺蠖蛾科 アケビノキノハガ 此蟲は、成蟲時代即ち蛾の有樣にて蜜柑の實に害を與ふるものにして蜜柑の黄熟に先ちて、其黄熟するものより口吻を挿入して液汁を吸收するを以て、蜜柑は俄に黄色を呈し落果するに至る。而して幼蟲時代は野生のアケビ等に寄生する處の擬尺蠖の一種なり。成蟲即ち蛾の形狀に付て云へば、頭小にして、觸角は褐色にして光澤を有し、眼は褐色にして圓く、下唇は長く上方に突起し、口吻は常に環曲すれども其の先端は黑褐にして鋭利なり。胸部は褐色に、前翅は褐色なるも、翅尖より後緣の中央に向て青黑色の一斜線を走らせり。前緣に近き處の中央及び內緣に接したる處に二個の綠色の點を存し、翅脈にも小黑點を併列せり。其形狀木の葉の如く、裏面は黄色にして、其中央に黑色の二條の太き線を前緣より後緣に向て走らせり。後翅は黄色にして、中央及び外緣に接して、前翅の裏面と同じく黑き太き線を有す。腹部は黄色を呈し、圓筒形にして尾端は細し。体長一寸三分內外、翅の開張三寸七八分なり。翅を疊みて靜止するの際は、恰も木の葉の狀をなす。故に木の葉の名稱を存する所以なり。加害の狀に至りては、九十月頃の夕景日沒頃より飛翔し來りて、已に黄熟せんと欲する果皮面に口吻を挿入して液汁を吸收し、一度食餌を得れば又潜伏地に歸るを以て容易に認むること能はざれども、夜間燈火を以て靜かに搜索する時は、數多果面に付着するを見る。此蛾は蜜柑のみならず、梨、葡萄等にも加害す。

鱗翅目 擬尺蠖蛾科 コガタノキノハガ 此蛾も亦前種と同じく果實の液汁を吸收する所の害蟲なり然れども、其形狀大に異なるを以て、今左に是等の有樣を記せん。此蛾は、頭部長く突出して二個に分かれ黄褐色を呈し、胸背は褐色に、前翅は木の葉に類似して褐色に雲形狀を顯はし、裏面は灰黄色を呈し、後翅は三角形にして灰黄色に、腹部は灰色にして先端に至るに從ひて細し。体長八分、翅の開張一寸九分內外、翅を疊みたる時は恰も木の葉に類似するを以て此の稱あり。加害の狀は前種に等し。

防除法 一、常に柑橘黄熟するに先ちて、其落果如何を驗し、若し少しにても落果を發見する時は、特に夜間柑橘園に到り、燈火を以て搜索し、捕獲すること。但し、此際は捕蟲網を以てすること。一、

古き木綿を縄となし、夜間園の周圍に點火し置き、豫防すること。一、前種は餘り糖密に來らざるも、後種は糖密に集まるの性あるを以て、被害を發見せば特に糖密誘殺を行ふこと。

甲翅目　天牛科　ホシカミキリ　成蟲は色光澤ある黒色を呈し、口部は咀嚼に適し觸角は体より長く十二節より成りて第二節は頗る短かく、各節黒色と灰青色との部分より成る。前胸は方形にして兩側に一對の突起を存し、前翅は漆黒色にして白點數多を散布し、腹部は灰青色を呈し、六脚は其色畧ぼ觸角に同じ。雌は体長一寸一分内外、雄は八九分内外なり。(卵)卵は乳白色にして卵圓形をなせり。(幼蟲)幼蟲は色乳白色にして、頭部は小にして褐色に、第一環節は大に、其の他は次第に細まりて圓筒形をなし、体上には銀白色の粗毛を生ず。(蛹)蛹は幼蟲の生活したる根の内部又は土中に出で丶蛹化す。其際は乳白色にして、明かに眼、口、觸角、翅、腹脚等の各部を具へ、甲蟲の蛹なることを顯はせり。(經過習性)柑橘の害蟲中最とも恐るべきは此ホシカミキリにして、如何なる所の柑橘園も害を被れり。成蟲は毎年七月頃羽化して柑橘園に來り、雌雄交尾の後幹の根部に近き所を倒丁字形に截りて卵子を一粒つ丶産付す。此卵は十日内外にして孵化し、幼蟲は初め外皮と木質との間を喰ひ居れども、外部より見ること能はず、此際特に注意すべきは、外面に水分の露出し居るを以て、其棲息如何を認むることを得。此蟲は成長すると同時に、次第に喰ひ廻り、後木髓中に侵入して排泄物を外部に吐出す。俗に是れを鐵砲蟲と稱す。此蟲は多く根の髓中を喰して生活すること二三ヶ年に及ぶを以て、遂に枯槁するに至る後蛹化し羽化して出づ、柑橘の大害蟲なり。此蟲は柑橘の外、柳、無花果等にも寄生す。

防除法　一、成蟲の羽化期に於て早朝園内を巡視して成蟲を捕殺すること。一、七月中旬より八月に亘り、幼蟲孵化するときは外面に水分の附着し居るを以て、此部を小刀又は針等にて堀りて幼蟲を殺すこと。一、幼蟲の發生したるを發見せば除蟲菊の浸出汁を注射すること。一、園の周圍にある柳、無花果等を除去すること。一、夏期産卵期前根部の周圍五寸位を、粘土にスサを入れて塗り置くこと。

甲翅目　金龜子科　ハナムグリ、オホハナムグリ、ハナムグリモドキ　此三種は金龜子科に屬するものにして、其色畧ぼ同色なるも、大さに於て多少異れり。而して、多く是等は溫州及夏密柑等の開花の際、花中に入りて内部を喰害するを以て、其結果に著しき影響を與ふる所のものなり。或果には、其形に不正なる形狀を呈せしむるが如き事あるを以て、是等は殊に驅除する所以なり。今三種の區別を記せん

種名	体長	体色	特徴
ハナムグリ	五分五厘	ハナムグリモドキに似て淡黄色の毛を密生す淡黄白點を存す	腹部には特に淡黄色の短毛を生じ大さは後二種の間に居れり
ハナムグリモドキ	四分八厘	青色にして光澤あれ共淡褐色の短毛を生ず淡黄白點を存す	頭部の先端特に凹字形をなす
オホハナムグリ	八分	光澤ある青色を有す淡黄白點を存す	頭部の先端は特に外方に廻はれり

甲翅目　金龜子科　バラコガネ　此種は、頭部は黒く橢圓形に、前胸部は草緑色にして大に、他の胸部及び腹部は前胸部と同色に、腹部には淡褐色の毛を生ず。前翅は茶褐色を呈し、体長三分五厘内外、脚は黒褐色なり。此種は温州種の花に集りて、前種と同じく内部を喰害する所の害蟲なり。

甲翅目　竊蟲科　ハナクヒコヲチユウ　此種は小なる昆蟲にして、体長七八厘、全体茶褐色にして、眼は黒色を呈し、觸角は先端膨大に、前胸部は大なり。常に温州、紀州種等の花糸、花瓣を喰して、生活し、卵は圓形にして白く光澤を有するものを花糸に產卵すれども、未だ幼蟲、蛹等の經過は知ること能はず。

甲翅目　葉蟲科　アカハムシ　此葉蟲は、体赤色にして、体長一分三厘、觸角、眼及び脚は黒褐色なり。成蟲のまゝ葉間に隱れて越冬し、幼蟲は毎年七八月頃葉上に生活し、幼蟲、成蟲とも葉を喰害するを以て一種の害蟲なり。

甲翅目　象鼻蟲科　ミカンノゾウムシ　此象鼻蟲は灰白色にして、前胸部は少しく褐色を帶び、前翅には二條の横線を存し、体長二分内外なり。温州ネーブル等の嫩芽を喰害す、經過は詳かならず

防除法　以上各種の甲蟲類は、能く其有無如何を觀察し、成蟲時代の如きは捕蟲網を以て捕獲するを要す。(完)

◎昆蟲實驗錄(四)

靜岡縣　神村直三郎

八、櫧の木の害蟲　櫧の木の害蟲數多あるが中に、同時に二種の蠶蛾類ならんと思はるゝものを得て飼育したる亦一奇である。二種なるが故に、假に甲乙として記述すべし。甲は本年四月卅日其幼蟲を捕へたり。勿論櫧の木に於て捕へたるなり。幼蟲の体長は此時一寸弱、茶褐色にして体に長短の突起多し

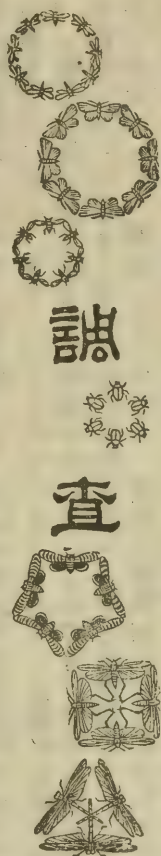
試に之を記せば、第二、第三の關節背面に長さ三分の突起二本宛、五節背面に長さ一分の者二本、十一節背面に二分五厘長さの者二本、尾端に三分强のもの一本あり、六節以下にも背上に少しく突起の狀を現はせども、著しからず、而して尾脚を欠く。五月二日葉中に蟄し、五月四日化蛹せり。蛹は長五分ありて、鼈甲色を呈し、稍透明にして脂油光澤を有す。頭上に二本の長角を備へ、其の長さ一分五厘あり而して角端は膨大す。繭とて別に著しきものあらず。されど其蛹を置く所は强絹絲を以て葉を綴合し頗る安全を謀れり。其絲は茶褐色なり。

五月十九日に至り羽化せり。成蟲は、体長四分五厘乃至五分、開翅一寸乃至一寸二分あり、羽狀の觸角を有し、頭部は比較的小なり。前翅は黄褐色にして、翅端鈎狀をなし、外緣に添ふて上半部に紫褐色の斑あり。翅の中央部は褐色殊に濃く、又翅全面に渉りて濃色の点紋を散布せり。前翅と異にして後翅は色淡く、たゞ濃色点紋の散布を見るのみ。後翅の形狀は畧三角形なり。これを甲の記事となし、以下乙の記事に移るべし。

乙の幼蟲を得たるも同じく本年四月三十日なり、此時幼蟲の体長一寸一分强、頭部白色、第一節白色、第二節乃至第六節黑色にして六節には少しく白斑あり、七、八の二節又續いて白く、それより以下黑色なり。以上体色參差複雜なれども、要するに黑白交互なるに過ぎず。尾脚なくして、其端尖る。而して其端には一の針狀物を備ふ。櫧の木の葉を食ふや、尖端小口より食ふの性あり。これも五月四日繭中に入る。繭は木の葉を筒形に卷き、其中に同じく筒形のものを作り、前後には底と蓋との如く殊に緻密なる構造を備へ、一見竹の節の如き觀あり、此繭中央は白色なれども、兩端は褐色なり。形狀奇異にして精功を極む。此幼蟲たゞ一頭なりしを以て蛹の形狀を調べざりしは遺憾なりし。五月廿一日羽化せり。其成蟲体長五分、肥大にして、開翅一寸六分あり、前翅の翅端鈎狀をなせること甲種のそれの如く、全翅の色彩は、淡黄褐色にして、中央大部分は透明、其周緣は濃褐なり。後翅の色彩も前翅同樣なるも、其中央の透明部至て小なり。四翅共に翅脈細纖にして、頗優美所謂素々衣に勝えざるの觀あり、此二種其所屬を詳かにせずと雖も、蠶蛾か、天社蛾かの中ならんと信ず、敢て識者の敎示を仰ぐ所なり。

編者云、實物を見るにあらざれば明言する能はざるも、恐らくは蠶蛾類、鉤翅蛾科(Drepanulidae)に屬するものならん。

九、アヲバシヤクトリ　本年五月廿日、椎の木の下なる椎の枯葉に靜止する一の幼蟲を捕ふ。其何の幼蟲なるか判然せざるを以て、飼育することに決す。其幼蟲体長一寸二分あり、全身淡黄褐色にして、

五、六、七、八の四節背上に各二本の突起を有す。此者已に成熟したるものと見え、翌廿一日に至り、椎の枯葉の小なるもの數葉を綴りて其中に入る。之を綴るや强絹糸を以てす。六月十三日に至り羽化し出づ。即青翅尺蠖蛾にして、体長一寸、開翅二寸八分、体には黄褐色の毛を有し、翅は地色濃綠色にして、多くの波狀紋あり、其位置は翅の中央より少しく外緣に近き所に鮮明なる二條ありて、これに接近したる外方に稍不判明の一條あり、今一條は翅の基部に近く、判然としてあり、以上は前翅に就て謂へるものにして、後翅に在ては、中央に一條判然とありて、其外方に二條の痕跡斷續してあり。

◎桑樹の天牛と分布に就て

名和昆蟲研究所分布調査主任　小森省作

桑樹を害する處の邦産天牛は多種あるべしと雖も、最も普く且つ多數にして加害の甚しきものはクハカミキリ(Apriona rugicollis Chevr.)及びトラフカミキリ(Xylotrechus chinensis Chevr.)の二種なりとす。而して前者は本島の平坦部に多く、後者は山地若くは北海道地方に多し。岐阜縣に於ては、當岐阜市近傍の如きは專ら前者に屬し、其加害中々尠なからざるも、後者は其數極めて尠なく、只僅に分布の名を存するに過ぎざるの情態なるも、飛驒地方の如き山地に屬する部に到れば專ら後者の多く、其加害非常に劇甚にして、前者は却て尠なく、其被害又認められざるが如し。然るに又茲に面白き一事は、對島國に於ける桑樹の天牛なり。同國の平田駒太郎氏(目下島根縣高等女學校敎諭)の言によれば、對州には前二者共に産すれども、桑樹の害蟲として專ら慘害を逞しくするものは更にキボシカミキリ(Gn.? sp.?)と稱する一種なりと云ふ。該種は明治二十五年七月二十九日當名和所長が江州長岡驛より濃州垂井驛の間滊車中にて始めて一頭採集せるものにして、當所にては之を頗る珍種なりと思考せしに、先年平田氏が對州産の蟲種を送られける其が中に此一頭ありければ、之を同氏に照會せしに、同氏は對州にて桑樹を害する最も普通なるものなりとて其多數を採集して送られたり。是等の現象は氣候の關係によりて、生じたるものにして、同一植物を食する同一蟲種が、其氣候によりて、一地方に於て繁殖を逞しくするも

或地方に於ては全く衰へ、又其地方に於て勢力なきも、他地方にて勢力を有するが如きは、強ちあり得べき事にして理の當然なりと雖も、尙大に留目すべきものたるを信ずるなり。玆に於て余は愈々分布調査の必要と其趣味を感じたれば、左に該蟲の形態を略記し、尙讀者諸氏にしてこれが分布を知るあらば幸に一報を煩はされんことを希ふ所以なり。

キボシカミキリの圖

キボシカミキリ　體長八分内外、觸角十二節よりなりて長く、雌は體の二倍、雄は約三倍あり、黑色にして第四節以下各節の基部灰白色を呈す複眼は黑色にして余り隆起せず。頭及前胸部は殆んど圓筒形にして長く、前胸部の兩側に微小なる突起を有し、翅鞘の先端は僅か截りたるが如し。全體の地色黑色にして少しく灰色を帶び、頭、胸、腹及翅鞘の全面に黃色の斑點と、後頭部の中央に同色の縦條あり、肢は軀の地色と同色を呈す。風姿頗る優美なる種なり。

◎丹後の宮津產の蝶蛾類

名和昆蟲研究所分布調査部

玆に掲ぐるは、東京市本鄕區金助町田中五一氏が、京都府丹後國與謝郡宮津町に於て、本年七月より八月に亘りて採集し、之を送附せられしものなり。

モンキアゲハ(Papilio helenus, L.)三頭。ジャノメテフ(Satyrus dryas, Scop.)二頭。コハナセセリ(Parnara mathias, Fab.)一頭。コチャバチセセリ Halpe varia, Murray.)一頭。エビガラスズメ(Herse convolvuli, Linn.)十頭。コスズメ(Theretra japonica. [illegible]d.)三十頭。ベニスズメ(Pergesa elpenor L. vor. Lewisi But.)一頭。カキノハトモヱ(一名カキノハガ、ヒガ、Hypopyra dulcina, Fel.)一頭。シロスヂトモヱ(Spirama interlineata, But.)二頭。ビロウドトモヱ(Spirama japonica, Men.?)六頭。オホトモヱ (Nyctipao crepuscularis)七頭。ヤマトトモヱ(一名トモヱモンガ、Spirama retorta, Clerk.)十四頭。ウンモンクチバ(Remigia annetta, But.)十一頭。モクメウハバ(Amphipyra erebina, But.)三十頭。コスヂコノハ(一名コガタノキノハガ、Calpe excavata, But.)二頭。クチダケウロコ(一名タケノコキリムシ、Palydes mia)二頭、シロスヂウハバ(一名シロスヂガ、Amphipyra tripartita, Butler.)一頭。キシタバモドキ(Chrysorithrum amatum

Brem.)二頭。コキシタバ(Catocala esther, But.)一頭。ツマキンウハバ(一名ツマキンガ、Plusia chrysitina Mar.)一頭。カタクロヒトホシ(一名カタクロガ、Toxocampa enormis, But.)一頭。フタホシクチバミシン(Cl·oerodis dictynna, But.)一頭。ヘリトリナミシモフリ(Hypochroma pryeri, But.)一頭。ミドリサラサ(Comibaenea diffecta Walk.)一頭。

名和昆蟲研究所分布調査部

◎千葉縣長生郡産の蜻蛉及蟷螂類

名和昆蟲研究所分布調査部

左に掲ぐるは、明治三十六年十月十九日千葉縣長生郡鶴枝村林壽祐氏が採集送附せられしものなり。之によりて見れば、コシホヤトンボは同地にも産するを見る。

ツノトンボ(Ascalaphus subjacens Walk.)。コシホヤトンボ(Orthetrum sp.?)(本誌第八十五號三十二頁參照)。テフトンボ(Rhyothemis fuliginosa Selys.)。ウスバキトンボ(Pantala flavescens Fabr.)。ナツアカ子、トンボ(Thecadiplax erotica.)。キイトトンボ(Ceriagrion coromandelianun Selys.)イトトンボ(Agrion quadrrgerum Selys.)。オホカマキリ(Tenodera aridifolia Stoll.)。カマキリ(T. capitata Sauss.)。コカマキリ(Pseudomantis maculata Thunb.)。

◎愛知縣渥美郡産の昆蟲（甲蟲の部の二）

名和昆蟲研究所分布調査部

番號	種名	豊橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豊岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	清田村
一三四、	テンタウムシダマシ	—	—	—	—	—	四	—	—	—	一	—	—	—	三	六	—	—	—
一三五、	テンタウムシ	一	—	—	△	—	△	—	—	△	—	—	—	四	—	一	—	—	—
一三六、	ナヽホシテンタウムシ	一	一	—	一	—	二	—	—	三	一	一	一	—	三	四	二	—	—
一三七、	ヒメカメノコテンタウムシ	二	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—
一三八、	セスヂテンタウムシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—
一三九、	キクイムシ	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	四	—	—	—	—
一四〇、	タマムシ	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一四一、ウバタマムシ	一	|	|	|	|	一	|	|	|	一	一	一	|	三	一	一	二	|
一四二、クロタマムシ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|
一四三、コメツキムシ	|	一	|	|	|	三	|	|	三	|	|	|	一	五	|	二	|	|
一四四、ヒゲコメツキ	一	|	|	一	|	|	|	|	二	|	|	一	|	|	|	|	|	|
一四五、サビキコリ	|	|	|	一	|	一	|	一	|	|	|	一	|	二	|	|	|	|
一四六、ウバタマムシモドキ	|	一	|	|	|	一	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一四七、ヒメサビコメツキ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	一	|	|	|	|
一四八、ホタル	|	|	|	|	|	三	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一四九、ヒメホタル	一	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|
一五〇、クワガタムシ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	一	|	|	一
一五一、ミヤマクワガタムシ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	一	|	|	二	一	一	|
一五二、ノコギリムシ	一	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	六	|
一五三、カブトムシ	二	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	一	二	一	一
一五四、パラコガネ	一	一	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	一	六	|	|	|	|
一五五、コハナムグリ	|	一	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	八	|	|	|	|
一五六、ピロウドコガネ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	六	|	|	|	|
一五七、コウカコガネ	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一五八、コカブトムシ	|	|	|	|	|	一	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一五九、チヤイロコガ子	|	五	|	|	|	四	|	|	|	|	|	|	|	|	二	|	|	|
一六〇、コフキコガ子	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	一	|	一	一	一	|	|
一六一、ハナムグリモドキ	|	二	|	|	|	一	|	二	二	|	|	一	一	二	|	三	|	|
一六二、コガ子ムシ	|	一	|	|	|	一	|	一	|	|	|	|	|	|	一	一	一	|
一六三、ヒメコガ子	|	|	|	|	|	二	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|
一六四、クロハナムグリ	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一六五、マメコガ子	|	|	|	|	|	三	|	|	|	|	|	|	|	|	二	|	|	|

一六六、オホハナムグリ	一	|	|	|	|	一	|	二	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一六七、ドウガネブイブイ	|	|	一	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|
一六八、ハナムグリ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一六九、ハンノキコガネ	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一七〇、クロコガネ	|	二	|	|	|	三	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一七一、スギコガネ	|	|	|	|	|	|	|	二	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|
一七二、カナブイブイ	一	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一

備考、表中△印は十頭以上なりとす。

◎螟蟲調査成績（其二）

三重縣阿山郡　西岡嘉十郎

予は、本年初夏以來、聊か螟蟲に關する調査に從事せしを以て、今其成績の大略を報じ、當業者諸氏の參考に供す。

第一、誘蛾燈効力調査　調査の目的は、螟蟲の驅除豫防として、我が地方に於て專ら奬勵施行しつゝある誘蛾燈使用に對する効力の有無を確めんと欲するにあり、而して調査の方法は、第一化期にありては面積壹反歩を有する苗代田に完全なる誘蛾燈(構造略す)壹個を、又第二化期にありては面積壹畝歩を有する本田に第一化期に使用せし誘蛾燈壹個を裝置し毎日午後五時より翌午前五時に至る迄點火し、毎朝其誘殺蛾に就て卵の有無を調査せり。其成績は左表の如し。

第一化期の部

月日	天候	有卵蛾	無卵蛾	計	誘殺蛾百に對する有卵蛾の歩合
五月廿七日	曇	五	〇	五	一〇〇、〇
同　廿八日	雨	欠調			
同　廿九日	曇	二四	七	三一	七七、四
同　三十日	曇	二六	一五	四一	六三、四

同三十一日	曇	七四	二九	一〇三	七一、八
六月一日	晴	五一	一六	六七	七六、一
同二日	晴	六三	二三	八六	七三、三
同三日	晴	一五六	四七	二〇三	七六、八
同四日	晴	二六一	五二	三一三	八三、三
同五日	晴	三五二	四一	三九三	八九、五
同六日	雨	欠		調	
同七日	曇	二九八	五六	三五四	八四、二
同八日	晴	七四	五八	一三二	五六、一
同九日	晴	二〇一	六六	二六七	七五、三
同十日	晴	八二	五六	一三八	五九、四
同十一日	雨	欠		調	
同十二日	曇	八一	三八	一一九	六八、一
同十三日	曇	二四	一九	四三	五五、八
同十四日	晴	五	二〇	二五	二〇、〇
同十五日	曇	四一	三〇	七一	五七、七
同十六日	曇	九二	六四	一五六	五九、〇
同十七日	晴	一一	二六	三七	二九、七
同十八日	雨	欠		調	
同十九日	雨	六	二三	二九	二〇、七
同二十日	曇	三	一〇	一三	二三、一
同二十一日	曇	五	二一	二六	一九、二
同二十二日	晴	三	二五	二八	一〇、七
同二十三日	雨	四	二五	二九	一三、七
計二十八日	晴十一日 曇十一日 雨六日	一、九四二	七六七	二、七〇九	七一、六九

第二化期の部

月日	天候	有卵蛾	無卵蛾	計	誘殺蛾百ニ對スル有卵蛾ノ歩合
八月二日	晴	〇	一	一	〇
同三日	同	〇	〇	〇	〇
同四日	同	〇	〇	〇	〇
同五日	曇	〇	〇	〇	〇
同六日	晴	一	〇	一	一〇〇、〇
同七日	同	〇	〇	〇	〇
同八日	同	〇	一	一	〇
同九日	同	〇	〇	〇	〇
同十日	同	五	一	六	八三、三
同十一日	同	一	一	二	五〇、〇
同十二日	同	二	五	七	二八、六
同十三日	同	二	〇	二	一〇〇、〇
同十四日	同	七	二	九	七七、八
同十五日	同	五	八	一三	三八、五
同十六日	同	八	一一	一九	四二、一
同十七日	同	三	四	七	四二、九
同十八日	同	二	五	七	二八、六
同十九日	同	〇	一	一	〇
同二十日	同	一	三	四	二五、〇
同二十一日	同	〇	四	四	〇
同二十二日	同	〇	四	四	〇
同二十三日	同	〇	二	二	〇
同二十四日	曇	〇	〇	〇	〇
計 廿三日	晴二十一日 曇二日	三七	五三	九〇	四一、一

右表によれば、第一化期にありては誘殺蛾總數に對する有卵蛾の步合は甚多く、實に七一、六九％の多きを示したりしが、第二化期にありては誘殺蛾數割合に少數なりしを以て、充分なる調査を行ふに於て頗る遺憾なりしと雖も、是亦有卵蛾の步合は四一、一一％を算したりき。以上の結果によれば、誘蛾燈の効力も亦頗る多大なるや明なり。而りと雖も、玆に注意を要す可きは、第一、第二何れの化期にありても、有卵蛾の步合なるものは、發蛾最盛期以前に於ては最も多くして、以後漸々其步合の減ずること是なり。故に誘蛾燈を使用せんと欲せば、豫察燈點火及び被害莖の調査等（被害莖の調査は重に第二化期に於て行ふ）を周密に行ひ、時期を逸せず完全に共同實行するに非らざれば、其効果は著しく減少するものたる事なりと信ず。（未完）

◎昆蟲に關する葉書通信（第四十五報）

（二五二）天蛾類の分布報告（高知縣高知市、武內護文）　今回貴所出版の昆蟲圖說、書林の手を經て拜讀す、圖版の精巧未だ嘗て其比を見ざる所、大に滿足を表し、思はず拍手喝采せり、就ては之によりて、從來當地に於て小生の採集せるものにして種名の判然せるものを擧ぐれば左の如し。
エビガラスズメ、メンガタスズメ、シモフリスズメ、クロスズメ、モモスズメ、クチバスズメ、ギンボシスズメ（卅年八月香美郡槇山村楮樹）、ウチスズメ、ベニスズメ、キイロスズメ、コスズメ、セスヂスズメ、ビロウドスズメ、オホスカシバ、クロホウジヤク、クロスカシバ、スキバホウジヤク、ヒメクロホウジヤク、ホウジヤク、ヒメホウジヤク。

（二五三）二十四鳥羽蛾の採集送附（東京市、田中五一、岸田松若）　別封送附の二十四鳥羽蛾は、十月廿七日午前八時頃箱根底倉の旅館の壁に止り居りしものにて、總捕獲數は六頭、其他は見當らず。

（二五四）蜉蝣の生活期（備中國妹尾町、藤田政勝）　本年九月十八日、當地方水田中よりカトンボの幼蟲を採集し、之を飼育せしに翌日多くは羽化し、後二三時間にして更に脫皮成蟲となりたり。爾後瓶中（空氣の流通は自由）に養ひ置けり。然るに學說の如く容易に死せず、確かに五六日間は活潑にして後斃れたり。是れ雌雄交接することの機會なかりし爲斯く永く生存せしにや、敢て識者の示教を仰ぐ。但し一頭宛養ひしなり。

（二五五）警察官吏の害蟲驅除講習會（山梨縣南都留郡農會幹事、小澤啓太郎）　山梨縣谷村警察署及び

吉田警察署にては、部内駐在巡査をして害蟲驅除の督勵をなさしむる爲め、山梨縣農會農藝委員瀧口喜造氏を招聘し、去る八月中害蟲驅除法講習會を開き、巡査をして害蟲及び益蟲の習性經過を講習し、各駐在巡査は町村農會役員と共に之が驅除豫防を督勵せしに、頗る効果を得たり。是れ實に本縣に於ける警察官吏が害蟲驅除講習會の嚆矢なりとす。

(二五六)點火誘殺の効力(岡山縣久米郡埰和村農會內、松阪佳一郎)　本年は我岡山縣一般時局問題の爲め經費節約と唱へ、稻苗代地に於て螟蟲蛾の點火誘殺を行はざりしに、是迄嘗て螟蟲卵塊の如何なるものなるやを實見せしことなき地方の苗代田に於てすら、挿秧の際は勿論、其以前早く多數の卵塊を見るに至り、採集に力を盡したるが、多數の卵塊は採集し盡すに至らずして、挿秧後被害多く、現に其被害稻莖の切取りを行ふこと三回に及びたるも、尙續々被害の實あるを認むるを以て、農家は一般に點火誘殺の螟蟲驅除に力あるを知覺し居れり。

編者云、是れ本年點火誘殺を行はざりしにより、爲に螟卵の非常に多く、被害の激甚なりしに非らざるならんと信ず。元來點火誘殺なるものは効力なきものにあらざるも、斯くも有効なるものに非らざるなり、而してそは一般が、從來螟蟲の卵塊は勿論、該蟲は如何なる經過をなし、如何なる習性を有するものなるやを知らず、只螟蟲驅除法なるものは、點火誘殺を以て十分効あるものとなし、之を行ひて最早殲滅せしものと考へ、敢て省みざりし結果、非常に加害しつゝあるにも係らず之に心付かざりしによるなり。然るに本年は氣候の適順により幾分發生の多かりしによると雖も、一は時局に警醒せられ、始めて螟卵なるものを知り、且つ加害の激甚なるに驚きたるならん。論より証據、明年は試みに點火誘殺と採卵法とを並行せしめよ、必ず點火の効ありとするも、決して螟卵の産附は尠なきものにあらざるなり。但し採卵は苗代のみに限らず、本田移植後にも行ふの必要あり。

(二五七)蜻蛉の句を見て(岐阜縣巡查敎習所內、廣瀨警蟲)　本誌昆蟲文學欄蜻蛉の名吟を拜見して、警蟲も一寸一句「いさぎよく露打拂ふ蜻蛉哉」「けふよりは何處へ羽をのす蜻蛉哉」

(二五八)蟷螂の雌交尾をなしつゝ雄を喰む(島根縣仁多郡役所內、川島吉太郎)　去る十月十五日害蟲驅除狀況視察として出張の節、立稻穗先きに三頭の蟷螂集合せり、一頭は雌にして、二頭は雄なり、交尾を催す狀況なるにより便宜を與へたりしに、一頭の雄交尾すれば他の雄は忽ち去れり。故に余は其交尾に費す時間を試みん爲め暫時休憩をなし之を注視したるに、凡そ五分間を經て雌蟲は雄蟲を抱きながら首の下より喰ひ始め、畧ぼ十分間の內に首半分より頭部半分喰ひ盡したるも尙交尾を止めず、而して

雌雄共身體の自由を失ひたる如くなりしにより相分離せしめたるに、雄は殆んど死したり。他の蟷螂交尾の有様は之と反し、雄は雌の背上に横はり雌蟲を背より抱くを以て常とすれども、今回の分は雌雄向き合にて居たりき。

◉昆蟲標本陳列舘案内（其九）　（サ）部は昆蟲摸様付提燈并團扇の陳列なるが、玉章畵のケトウにトンバウ摸様の團扇并に小華畵の柳に蟬、其他薄葉細辛に岐阜蝶畵の團扇、尾花に鳳蝶畵の岐阜提灯若くは竹に螢、群蝶、クダマキモドキ、カマキリ、スヾムシ摸様付の提灯等は其重なるものなり。（キ）（ユ）部は昆蟲應用染摸様若くは昆蟲應用織摸様にして、草花に蝶崩し摸様等多けれども、該崩し方は實物を基礎としたるにあらず、只無鉄砲に據なき崩し方なれば、別に賞讃の辭を漏すべきものなし。（ト）部の西端の一箱は昆蟲應用化粧品、日用品等にして蟲形鈎鉤八種、蚊形鈎鉤五個、其他蟬鋏簪、團扇に螢付の簪、富山製蝶形簪（該品は和歌山師範學校敎諭淺尾重敏君の寄贈にして同君の書信によれば富山縣越中地方にては從前五月節句の前後に於て女兒一般に自製の蝶形簪を用ゆる常習あり云々と）、寺島昇君寄贈の蝶形簪、篠田靜枝の君が贈られし蜻蛉或は蝶形簪、八田達也君寄贈の甲州印傳蝶摸様付巾着、同蜻蛉摸様付煙草入、同蝶と蜻蛉摸様付蛙口等は其重なるものなり。次の一箱も同じく化粧品等にして、リボン製蝶形天止、蝶蒔繪付櫛、ゴール製蝶根掛、金糸製蝶天止、鳥貝製蜻蛉形簪、貝細工菊に蝶簪、同キリギリス型の簪、花寄せに蝶の前差、リボン結蝶根掛、同蜻蛉根掛、鳥貝製合蝶天止等六十余点あり。次の一箱は昆蟲類摸型其他數種にして、波江寛子氏按出の結び鳳蝶、蝶形熨斗包、其外クロアゲハホシカミキリ、マイマイカブリ、アシナガバチ、ミンミンゼミ、スズムシ、アゲハテフ、スミナガシ等の昆蟲類摸型、英國製蝶蛾摸型標本廿四種等なりしが、一層目立つは英國製蝶蛾摸型標本にして、其形狀彩色の眞に迫れる、一々學名の記入しある等は到底本邦製のそれと同日の論にあらざるなり。次の一箱は菓子に昆蟲摸様を應用したるものにて春日神社の御供物の蝶摸様を初め、薄葉細辛に岐阜蝶摸様付、繭

型盛込に蠶蛾付等、見るべきものあり。次は昆蟲摸樣付の石鹸入、同巻煙草入、其他群蟲角彫パイプ、芦に蜻蛉彫栞、猫に蝶彫角製栞、蝶若くは蜻蛉彫摸樣の煙管筒は其重なるものなり。次の一箱は蝶形襟止虻形襟止を始め蝶形、蟬形、蜻蛉形鉸、其他蜂形若くは蟻形徽章等八十余点あり。次は昆蟲應用の錺、茶托皿等にして、キリギリス、トンボ、カマキリ等の透し彫若くは浮摸樣付の錺等には隨分巧妙なるものあり。(二)部は桑樹害蟲桑天牛、姫象鼻蟲被害の摸樣を示したるものにて、桑天牛産卵の有樣等は一見其實際の摸樣を知るを得べし。(六)部は白墨細工にしてクサカゲロウ、蚊、紋白蝶、鳳蝶、蚤、大圓蜂、梅尺蠖、イチモジセヽリ等の卵子若くは卵塊を摸造したるものなり。抑も白墨の屑の如きは常に兒童の弄びて所撰ばす落書等に使用し大に閉口するものなれども、かゝる道に利用せば惡戲を妨ぐのみならず一方に科學的知識を得て一擧兩得といふべし。されば當所が之を明治三十四年全國教育品展覽會に出品して褒狀を受領せしは故なきにあらざるなり。

◉天長節當日の當所内昆蟲陳列室光景　十月末を以て當所移轉工事落成せしを以て、西端の一室を陳列室に充て、本月三日　天長節の佳辰をトし公衆の縱覽を許すことゝなしぬ。該陳列室は十八坪の室にして廣からずと雖も、何分工事の都合により早くより陳列するを得ず、咄嗟の間に所員を始め講習生、特別研究生一同は日夜勵行して漸く二日の夜を以て陳列を終りたれども、尙不備の点尠なからざるは遺憾なりき。該陳列品の重なるものは、室の入口には昆蟲自働器あり、こは圓筒形の自動回轉器三個ありて、其一個には鳴く蟲廿一種を配置して鳴き方を說明し、中央の一個には昆蟲の數種に就き卵子より幼蟲各齡期、蛹期、成蟲期に至る迄該器の回轉に伴ふて昆蟲の變態の有樣を覺らしめ、其他の一個は四期に分ち、回轉するに從ひ春季に發生する昆蟲類、夏期發生のもの、秋期、冬期と、漸次各四期に於て發生する重なる昆蟲類を配置したる器なり。次に自然淘汰標本として玻璃箱内に山水を摸造し、クロクモウハバ、オホモクメウハバ、フクラスヾメ、其他二三の蝶蛾類が巧に保護色を利用して樹幹に靜止する有樣、ユリハナスヒ、タガメ、コオヒムシ、トンバウの幼蟲等が水中に靜止若くは步行するも、擬態若くは保護色の關係より其蟲類なるを知る能はざる有樣、カハラバッタ、シロハンヌウが河原に靜止するときは翅色の砂礫に似たるを以て其所在を知る能はざる摸樣、其他ツチバッタ、ハチナガバッタ、ヒシバッタ等各蟲類が翅色の土色なるを利用して土上に靜止したる有樣、ナツアカチトンボが樹枝に止まりて他蟲を捕食せんと機を伺ひつゝある有樣等天然の眞景を摸造しあり、次に實物寫生用標本アルコー

ル漬標本、前記以外の自然淘汰標本、雌雄淘汰標本、昆蟲解体比較標本、愛玩昆蟲標本（三十五種を配列し一々其の鳴き方を明記す）、夜中糖蜜採集蛾類標本、重なる害蟲經過標本、外國産昆蟲十函、出征軍人より送付の滿洲昆蟲、時局に緣める裝飾用標本、椿象標本、瓢蟲標本、外國産昆蟲寫生圖、天蛾類圖版、近日上梓の鱗翅類汎論圖版、内外國製昆蟲繪葉書、害蟲圖解、昆蟲學講習會寫眞、内外國博覽會に受領せし賞牌等各意匠を凝して陳列し、其他幾多の標本を以て充たされたり。明れば三日は、昨夜來の微雨の爲め、本日の天候如何と氣使ひしが、天亦此佳節を祝するものゝ如く、朝來雨歇み、雲散し、旭日晴空に輝き、池の噴水は一層高く噴出して公衆を招くが如く、池邊の百花は美を競ひて吾人を迎ふるが如く、本年は時局の發展に伴ひ、國威宣揚の折柄、何となく一種の感深かりき。午前八時會塲開かれぬ、有志者續々入り來り、忽ちにして陳列室は縱覽者を以て充たされ、午后に於て愈混雜を極め入るもの出づるもの引きも切れず、講習生、研究生は交々説明の勞を執れども到底公衆に滿足を與ふべき餘地なく、中に熱心なる者は、この混雜の中にては充分に眼を通す能はずとて園内を散歩しつゝ時機を待つあり、或は十數人、或は數十人團をなして説明を乞ふあり、批評を漏すあり、特に滿洲産昆蟲の眼に觸るゝや、出征者の送品に係るを以て一種の感に打たれたるものの如く、眼前に大敵を迎へながら身戰塲に在るを知らざるものゝ如く、昆蟲類を採集して送るが如き日本軍人の沈着にして餘裕あるを証すべし連戰連捷の榮譽を荷ふ亦宜ならずや、など評し合へるも一段の興味を添へたり。かくて時鐘五時を報し日西山に沒し四面將に暗膽たらんとするの時に於て漸く閉されたり。此の日設備不充分にして觀覽劵等の設けなければ縱覽員數を確むるに由なけれども、恐らく約千名を下らざるべし。因に記す、該陳列室は每日有志の縱覽を許す筈なれば、平日に於て縱覽する方返て研究者の便利多きことならん。

◉**昆蟲揭示塲**　記事の都合により前號に於て該報導を欠きしが今前々號揭載后に於ける重なるものを擧ぐれば左の如し。

昆蟲の七類には、膜翅類スズバチ（螟蛉、尺蠖等を捕へ仔蟲を養ふ有益蟲）、ツチスガリ（土中に巣を造り螟蛉等を捕りて仔蟲を養ふ益蟲）、キマルバチ（蜜蜂科に屬する一種の益蟲）、モンキバチ（同上）、コシアキハバチ（鋸蜂科に屬する一種の害蟲）、ハキリバチ（管蜂科に屬する一種の害蟲）、鱗翅類シロオビホタルモドキ（蚕蛾類の一種に屬する害蟲）、ベニスズメ（月見草等に發生するイモムシの成蟲）、ギフテフ（鳳蝶科の一種にして幼蟲はウスバサイシンを食す）、イチモジテフ（幼蟲はニンドウを食す）、ミスヂテフ（蛺蝶科に屬する一種にしてアカシヤを食す）。双翅類ベッカウクロアブ（害蟲）、ヒメムシヒキアブ（他蟲を捕食する益蟲）、カトンボの一種（害蟲）、アブ

(害蟲)イヘハヘ(家蠅科の普通種にして是等の蟲類が大に出征軍人を困めつゝありといふ)。ガホハナアブ(肥料の害蟲)。甲翅類マメコガネ(豆の葉などを食害する害蟲)。半翅類ムギヨコバヒ(麥の害蟲)、テングヨコバヒ(害蟲)ミヅカマキリ(水に捿み養魚を害す)、イネサシガメ(食肉椿象科に屬する一種の益蟲)、メダカガメムシ(大豆等の害蟲)、アヅキガメムシ(害蟲)、直翅類ヒメサヽキリ(愛玩昆蟲の一なり)、アシベニイナゴ(害蟲)、シヤウリヤウバツタ(ハタオリムシとも云ひ雌は甚だ大なり)、カマキリ(益蟲)、オンブバツタ(稻螽科に屬する害蟲)、ケラ(土中に捿み俗に蚯蚓の鳴くといふは此蟲の誤なり)。羅翅類コシアキトバンウ(益蟲)、ホシウスバカゲロウ(幼蟲は地に擂鉢狀の穴を堀り蟻の陷いるを捕食す)、カハイトトンバウ(雄の翅色甚だ美なり凡てトンボ類は有益蟲なれば愛護すべし)ウチハトンバウ(益蟲)、アチトンバウ(益蟲)、ノシメトンバウ(益蟲)等にして●臨時的掲示には、鳴く蟲としてエンマコホロギ(畑中の塵埃の積みたる處又は草間にてコロ、コロ、コロ、コロ、リリリリーと晝夜共に鳴く)、ヒメクマスズ(濕地の木の葉の下又は小石の下等にて晝夜共に小聲にてリリリリリ〳〵〳〵と体を動がして鳴く、ミツカドコホロギ(堤防其他の草間に於て晝夜共に固有の美聲を以てリリリリリリ〳〵と鳴く)、オカメコホロギ(濕地の小石の下又は落葉の下等に於てリー、リー、リー、と小聲に鳴くものなり)、カネタタキ(樹梢稍小高き處に止まりてチンチン、チンチン、と鉦を叩く如くに鳴くを以て此の稱あり)、ヒゲナガサヽキリ(草間に於て小聲にてジリー、ジリー、と固有の鳴聲を弄す)、ササキリ(多く堤防等の草に止まりて晝夜の別なくジリジリ、ジリジリと餘り高からざる音を以て鳴くものなり)、クマコホロギ(多く山下の雜草の茂れる所に捿みて多くは夜チツチツチツチツ、と續けて鳴くか、又はチツチーチツチーとも鳴くとあり)、クマスズムシ(濕潤なる草間又は小石の下等にて晝夜の別なくよき聲を出しキリ〳〵〳〵と早く鳴くものなり)等の鳴き方を示せり●特別的掲示物には、桑樹の害蟲マツカハクロスヂの經過標本(幼蟲をエダシヤクトリといひ桑葉を食害す、特に春季芽出の際に之れが害を受くること甚し、故に冬季又は春季桑の發芽前に於て幼蟲を捕殺すべし、然れども黑色となりて斃れたるものはカモドキバチの寄生し居るを以て其儘殘し置くべし)、ハラアカシロタヘの經過標本、(この蟲は桑の害蟲にして七回脱皮の后蛹となる、而して桑葉のみならず種々なる植物の葉を食するを常とす、之れを驅除するには捕蟲器の內に幼蟲を拂ひ落して驅殺すべし)、松樹害蟲マツカハマダラの經過標本、(幼蟲をマケツムシといひ松樹の大害蟲にして往々松樹を枯死せしむることあり而して毒毛を有するを以て驅除の際注意すべし)等を示して弧線內の說明を加へたり。

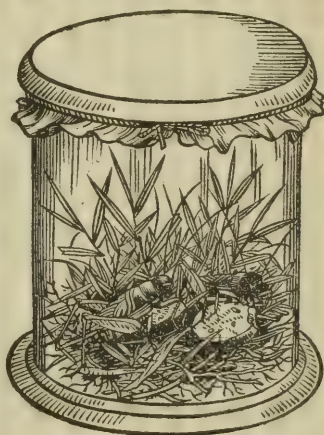
◎鳴く蟲の研究法

當昆蟲研究所內にある池邊に十數個の大形土管を適宜の距離に建て、其內に結縷草等を植へて各種の鳴く蟲を其內に容れ、適宜の食物を與へて之を飼育したる結果は意外に面白く且つ常に其傍らに蟲名と鳴聲並に簡單なる說明を記し置きしに、縱覽人は來りて其美聲を愛するのみならず小學兒童の如きは夫等の鳴聲を記憶し居て、其後如何なる塲所に於ても其鳴聲を聞きて直に何蟲たるとを云ふもの追々增加したるは當所の尤も喜ぶ所なり。然るに是にては尙滿足の出來ざるなり、玆にガーゼ瓶を應用して其內に結縷草と、コホロギ、クマスズムシ其他各種のものを一種毎に數頭宛を容れ食物として茄子等の一小片を與へ置き、瓶の廣口を寒冷紗にて纏ひ置けば、十數日を經過するも變化す

ることなく晝夜を別たず鳴聲を發するを以て、應接室なり、床の間なり、寢室の枕邊なりに置く時は、其蟲の音聲を聞き得るのみならず其擧動をも親しく見るの便あり。十月中のことなりき、岐阜訓盲院に該瓶二三個宛送りて盲生をして何種たることを知らしめて後其鳴聲を聞き別せしめたることあり、兎も角鳴く蟲の研究にはガーゼ瓶應用は至極面白きことなりと信ず。本年は最早時期遲ければ致方なけれども明年の三、四月頃にはマダラスズムシ等の出づるを待ちて實驗せられんことを望む。

がーぜ瓶中に鳴く蟲を容れたるの圖

◎青森縣昆蟲學會々則　青森縣農事試驗場技手新渡戸稻雄氏は同縣師範學校敎諭木梨延太郎氏、畜産學校敎諭澤山繁次郎氏等と謀り、先頃青森縣昆蟲學會を組織せられたる由にて、今回該規則書を送り越されたれば、左に掲げて同會が事業の一般を示さん。

第一條、本會は昆蟲學の進歩普及並に其應用を圖るを以て目的とす●第二條、本會は青森縣昆蟲學會と稱し事務所を青森縣農事試驗場内に置く●第三條、本會事業の概目左の如し。一　青森縣昆蟲標本を製作すること。二　青森縣昆蟲目錄を編成し且つ蟲分布を明にすること。三　青森縣害蟲調査を行ふこと。四　談話會又は講習會を開くこと。五　昆蟲展覽會を開き又は昆蟲採集旅行を催すこと。六　廣く昆蟲に關する質疑に應ずること●第四條、毎年一、四、七、十の各月に青森縣昆蟲學會報（又必要の場合には臨時增刊を發刊し）普く會員に配布す●第五條　本會は隔月一回通常會を事務所に開き學術上の講演談話標本圖書の展覽又は會務を協議するものとす。總會は毎年四月適當の場所に開き會務の協議及役員の改選並に講演談話を行ふ●第六條、會員は名譽會員正會員の二種に分つ。名譽會員とは本會に特別の功勞あるもの又は斯界の名士を本會總會に於て推選せるものを云ひ、正會員とは本會の目的を賛同して入會したるものを云ふ●第七條、會員は會費として左の金額を毎年二月迄に前納するものとす。甲種　金五拾錢。乙種　金參拾錢。甲種會費を拂込みたるものには青森縣昆蟲學會報並に臨時增刊を配布し乙種會費を拂込みたるものには青森縣昆蟲學會報のみを配布するものとす●第八條、本會に入會せんとするものは住所姓名職業を記し之に會費を添へて事務所に申込むべし●第九條、會員にして退會せんとするものは其旨事務所に申込むべし、但既納の會費は返戻せず●第十條　本會に左の役員を置き會務を處理せしむ。役員は總て名譽職にして會長の外は任期を滿一ヶ年とす、但再選することを得。會長一名青森縣農事試驗場長を推戴し本會一切の事務を總理す。幹事長一名正會員より選擧し會長の命を受け幹事と會務を協議劃策し又會長に故障あるときは代理するものとす。幹事三名正會員よ

り選擧し會長及幹事長の命を受け庶務會計に從事するものとす●第十一條　會長は會務の必要に應じ評議員及調査員若干名を囑托することを得。

●**巡回昆蟲展覽會の嚆矢**　愛知縣西春日井郡農會に於ては、郡内の各小學校にて採集製作の昆蟲標本二百廿八箱を十月廿一、二の兩日間同郡役所の樓上に陳列し、出品者相集りて各自親しく研究し然る後各町村小學校に於て巡回昆蟲展覽會を開き生徒は勿論父兄等にも縱覽を許すのみならず、親しく利害得失のある所を説明して戰時經營の一部に當らんとて、寺田會長の如きは非常の奮發なり。併し該會も今回は全く端緒を開きたる迄にて、今後に於て一大展覽會を開設する考へなりと云へり。兎も角、巡回昆蟲展覽會は未だ曾て他になき所の方法にして恐く好結果を得らるゝとは信じて疑はざる所なり。因に記す、該會長よりの招聘にて當名和所長には出張の上一塲の講話をなせり。

●**巡査敎習所に昆蟲學の一科を加ふ**　明治卅四年頃、富山縣を始め其他に於ても夫々敎習所に昆蟲學の一科を加へられしとを聞知せしが、今回岐阜縣巡査敎習所にも該科を加へられたり。是れ監督上の必要と縣當局者の注意深きによると雖も、亦現今の敎官廣瀨警部の熱心にして細心なるによれり。今や警官にして昆蟲學思想に富みて害蟲驅除の監督に從事せば、必ず好結果を得ると期して待つべきなり。

●**昆蟲標本陳列の三階級**　當昆蟲研究所常設の岐阜縣物産館構内にある昆蟲陳列館（五間に十六間の建物）は、去る明治三十四年八月より公衆の縱覽に供し來りしが、其陳列の程度は初等敎育に相當するを主眼として陳列したるも、今回當所移轉の建物中に設けたる昆蟲陳列室の面積は比較的狹隘なるも其程度は專ら中等敎育に相當するのを主眼として陳列せり。而して尙茲に當所の特別標本は、内外各國の昆蟲併せて一萬餘種、數十万頭の多きに達するも、之を一々陳列して公衆の縱覽に供するとは能はざるを以て悉く完全なる標本箱に收めて保存せるも、該標本は特別研究者に限りて特に示して研究の利便に供し居れり。故に當所の特別標本は全く專門的高等敎育に相當する程度を有し茲に初等、中等、高等の三階級とはなしぬ。

◎**昆蟲學研究生の便利**　當昆蟲研究所の移轉工事も十月末日を以て悉皆落成し、諸事整頓したるにより、今後の研究には頗る便利となりたり。内にも特別研究生の如きは、從來研究室狹く、僅か十

數名を容るゝに止まり、研究上不便の點尠なからざりしが、今よりは數十名を容るゝも尚十分の研究をなすに足るの餘地あり、且今回是等研究者の便を計りて所内の一部に標本陳列室を設備したれば一層便利となりたり。而して尚特別研究生の便利とする所は、各自希望の學科を希望の期間、希望者の都合に依りて適宜に入退し得らるゝの一事にして、斯學研究者の爲には一大便利を計り居る次第なり。故に寄宿舍の如きも特に指定しありて、學資の如きも出來得る限り節減せしめ、却て修得の多大ならん事に注意し居れり。今後戰局の發展に伴ひ、愈々國力の充實を圖らんが爲め、害蟲驅除の必要にせまられて斯學研究の必要を感じ續々入所を望む者あらんも、此際當所は是等に對して出來得る丈の便利を與へ、以て聊か國家に盡す所あらん考なり。因に記す規則書入用の者は往復葉書にて申込みあれ、直ちに郵送すべし。

◉蚊軍蠅軍蚤軍床蟲軍　滿洲には固有の床蟲即ち南京蟲を始め蚊蠅の繁殖は實に非常にして、常に我外征將士の之等に惱まさるゝことに就ては屢々之を報じ置きしが、曾て遼一〇子より蚊軍、蠅軍蚤軍、床蟲軍と題して日本新聞に掲げられし一節は、よく其有樣を述べたるものなれば、左に之を轉載せん。

晴天の今日起出したのが午前の六時だ、昨夜は一時頃まで起きて居たが眠むくなつて寢ると蚊軍、床蟲軍、蚤軍の來襲で遂に又起きると蚊の食ふ所は首と手の腕首から先き計りだ。其少し計り出て居る所に種々の蟲軍がヤツて來るのである、顏には面蚊帳があるが、夜中になると夢中で取離してさんでもない所にいつて居る、若し完全に被ぶつて居るとしても何時も五六疋の蚊は這入て居る、朝見ると血に飽いた眞赤な蚊が碌に飛び切れずに居る、手も最初の間は外套の隱嚢の中に突込んで蚊軍、床蟲軍御座んなれと云ふ仕度だが、一寸眠るとモー駄目だ、非常に痒いから目がさめる、苦しいから起きる、灯を燈す、暫くはボリ／＼搔く、莨を呑む、蚊帳を頭に突込むで手には手袋をはめて今度コソは大丈夫と思ッテ寢る、又目がさめる、手袋の上から刺す、首の曲を食ふ、非常に苦しいから起る。朝の四時だ、夜が明けて居る、手、足、身體何處と云ふ別がなく惡痒くて實に困る、まだ／＼寢が足らぬ、眠い事非常だ、今度は蚊は居ないが入替て蠅軍が來襲する、目、鼻、口、耳、面一面、手、シヤツ、ズボン下の破れ目から體にもぐり込む、實に腹が立つ、刎れ起きて外套で無茶苦茶に追ひまくる、ワーンと喊聲を擧げて鬪ひ立つかと思ふと、又たヤツて來る、蚤もムズ／＼する、虱も居る樣だ迚も眠られぬから今度は斷然起きる、楊枝を噛へて顏洗ひに行く。（中略。此處で蟲と言へば第一に床蟲、虱、蚤、蚊、蠅、油蟲、毛蟲、羽蟲、米蟲、アト其他名も知れぬ蟲が何十種かわからぬ、夫れに尚ひどいのは蝎と云ふ宮守見た樣な蜴蜥見た樣な蟲まで居る、以上の蟲ば大概寢床から食卓の邊に居る、壁に居る、土間に居る棚に居る、天井に居る、コイツ等が鰹節も食ふ、飯も食ふ、菜も食

ふ、麵包も食ふ、馬の死んだのも食ふ、人間が生きて働いて居るのにも喰ひつく、油斷して呼吸をすれば鼻の中へも飛込む樣に澤山の蠅が居る、鍋の蓋にも飯碗にも群集して眞黑く蠅を山盛りにした樣だ、是等の蟲軍は夜の闇ひのにも居る、朝は明けるが早いか先頭第一で大勢押寄せる、實に〱ひどい苦しいものだ、今度は蚊だが是もひどい隨分ひどい、夕方からワン〱ヤッテ來るが是は起て居る間は大抵軍服の儘で食はれる所は手先と顏だから凌ぎが付くが寐るとひどい、顏には面帳があるからよいやうであるが却々いかぬ、首の所からもぐり込む、手首を食ふ、是れと勢を同ふして否一層ひどいのが床蟲だ、大きなのはダニ位で小豆色をして居る、小さいのは赤豆色に似て居る、尙小さき者は半白だ其次の卵は白だ、此の蟲は實に狡猾なもので迚も蟲の心とは思へぬ程だ、晝間などは何處に居るか少しも判らぬ夜も容易に判からぬ、火を消して寐るとバサ〱とヤッテ來る、ソシテ寐息を伺ふて首筋、手、足といふやうな所を重に刺すのだが此所の樣に多い所では別に區別もなしに滅多矢鱈に刺すのだ、夫れで時に火を消して狸寐をして居ると奴さんコソ〱と枕の邊に來る、直にマッチを付けて見ると遂に遁場を失ふて先生知らぬ顏で死んだ風をして居る、ソコニ至て人間の方が智惠が多い死んだ眞似だと言ふ事を知り拔いて直に炮烙の刑に所するのである、毎晚三四十も大小三色の奴が來て居るのを燒き殺す、床の下、塵の中、壁の中に隱れる奴を四五疋も燒く間には他勢は旣に其踪跡を失ふのだ、毎夜〱攻められるので同宿の中誰か一人は必ず床蟲と喧嘩をして遂に起きる裸体で蠟燭を點じて壁の穴、板の間、張紙の間、吳坐の目と云ふ風に狩をするので翌朝は其の捕獲數が話柄に上る、昨夜は五十疋燒いた、今夜は四十疋三十疋と云ふ如く、大凡毎晚の事だが夫れでも少しも減つた樣子もない。夫れから蚤だが是もひどい性質は矢張り敏捷だ、早ひ事鹿の如しだ、色が日本のやうに赤味ざして居ない、殆んど黑いと言つて然る可きだ、夫れが何れも日本のよりは小形の瘦せ形だ、大きくて丸ひ樣なのは居ない、ソレだから其喰ひついて刺すのが丸で餓鬼の噛み付く樣にコタエルが手をヤッテ見ても手にはかゝらぬ、同勢は矢張り非常な大軍だ、朝起きて腹卷きを取つて見ると、ピョン〱刎れ出す、容易に捕獲する事は出來ぬ、シャツやズボン下の白いのは丁度形付の着物の樣に蚤や虱の糞が浸み込むで居る。幸に半風子丈けはまだ免れて居る、風呂に浴せざる旣に五十日だが先きに言つた淸水で毎日水浴をする、シャツなどは馬丁が氣を付けて洗つて吳れるから虱丈けはまだわかぬ、一体半風子は自製の不潔蟲だが其他のものは皆外來の敵軍だ、半風子さへわかれば耻にはならぬ。

◉昆蟲の額面

遼陽の激戰に名譽の戰死を遂げられたる步兵中尉河野通義君は、美術、音樂等の嗜好ありし人にして、戰地の風景、風俗の撮影、寫生圖、其他珍らしき昆蟲類を採集して、烟草の空箱などに入れ、趣きある標本風の物を作りて、母堂の徒然を慰むべく、屢々送られしと。身戰地にありながら、已が嗜好と、其趣味とを實地に用ひて、母堂を慰めたるの美德は、誰か欽仰の感なからんや。戰

死の報傳はるや、知巳學友の人々相圖りて、其水彩畫と、昆蟲とを額面に仕立て、白馬會展覽會に出陳して、公衆の觀覽に供せりと、萬朝報に見たり。

◎青柳才次郎氏名譽の負傷　當所の講習修了者にして第一軍に屬し、軍務の傍屢々滿洲の昆蟲に關して通信せられ、且各種の標本を送られたる陸軍步兵少尉青柳才次郎氏は、鴨綠江の役に蛤蟆塘の激戰より楡樹林子及遼陽の戰を始め、各地に轉戰して非常に勳功を立てられしが、遂に沙河戰の役に名譽の戰傷を受けられたり、創は右耳下より左肩上へ貫通銃創にして頗る重傷なるも、經過良好にして生命には危險なしとは、先づ不幸中の幸と云ふべきか。

◎森助手滿洲の昆蟲を送る　當所助手にして從軍せし森宗太郎氏は、目下城廠にありて屢々敵と接觸しつゝあれば、ロスキーの彈丸は無暗は食はざるもいつ何時身命を君に捧ぐるやも知れざればとて軍務の餘暇に採集せし蟲類を今回又々送られたり。今之を一々發表するを得ざれば只其種類のみを記さんに、蜻翅目二十種三十六頭、鞘翅目二十四種三十八頭、双翅目三種十頭、微翅目一種四頭、鱗翅目八種十頭、脈翅目一種二頭、有吻目八種十三頭、直翅目八種十五頭、擬脈翅目一種一頭、計七十四種百二十九頭にして、內には內地にて獲られざるものもあるべけれど、其過半は邦產種と異ならざれば、滿洲種の研究は邦人にとりて大に必要なる所なり。

●殘菊の蜂語　眠むたい樣な蟬の聲や、涼しく聞ゆる松蟲鈴蟲、哀れに覺ゆる蟋蟀の聲もいつしか絕えて今は僅に一株の殘菊に集へる地蜂、土蜂、雞冠花蜂のさゝやけるを聞くのみだ、今此種々なる物語を一纏にして左に記さう。(なにがし)

愛知縣三河國寶飯郡赤坂小學校長田中周平氏は相變らず昆蟲學の熱心家である、同國渥美郡福岡小學校と共同で發行する良友新誌は每月二回發行で、目下其第五十一號に達したが、自校生の研究したることは細大となく每號該新誌に揭載せられ、生徒の昆蟲思想の發達した事は驚くべきである●同縣尾張國西春日井郡に於て、先月廿一、廿二の兩日間昆蟲展覽會を開かれたが、出品總數二百廿八箱の內、名古屋市岡田孝次郎氏の出品は殆んど全部の三分の一を占め、其出品中には伊吹山の昆蟲や、白山の蟲種もあつて是等は令息と共に自ら採集せし由なれども、他と交換した各地產のものも隨分澤山あつたと云ふ事である。田中氏と云ひ、岡田氏と云ひ共に愛知縣人である。昔愛知縣に博物學の大家を續出した因もあれば決して偶然ではなかろう●岐阜縣では如何である、博覽會で二等賞を取つた揖斐、不破を始め海津、養老の各郡は、各自展覽會も開いて一時やかましかつたが、此頃は少しも音沙汰がない。然し不破の垂

井校の如きは、又ヒンをそれナフタリンを送れと折々依頼があるから、矢張やつて居るのか知らん、何分愛知縣の赤坂校の如き發表機關がないから、分らぬ●揖斐の鶯校では稻蝨を肥料とすれば油粕や燐酸より効能があると云つて毎年生徒に採らせるが、本年も百匁壹錢づゝにて買ひとり、其金を恤兵部へ獻金させるげな。今假りに全國の兒童が幾人あるか知らぬが、一人につき百匁づゝ採らせて其額を不殘恤兵部へ出させたならば非常な巨額になるではないか●第七回岐阜縣害蟲驅除講習會を來る十二月五日より二週間名和昆蟲研究所内に開くと縣公報に出た、聞けば此經費は節減の爲め全く皆無と云ふ事である。併し非常の際には非常の手段を以て開くこそ必要なれ、研究所も一層是等に盡す考であるぞ●阿波の蟲男君に御答するが、女學世界第四卷第九號博物小話中に蟲の學問と題して某農學士が廿八星瓢蟲を圖示して傍に益蟲と書し、昆蟲十二種圖と云へるものを掲げて第一番にワラジムシ、第二番にゲジを畵いたのは如何なる根據でせうかとの御質問は別に不思議な事でもない、昆蟲學が大に進歩した結果ゲジも昆蟲の仲間に入る樣になつたのでせう、益蟲と害蟲の區別は其目的物によつて異なるから一樣に申せぬ●近時日本の昆蟲學は非常に發達して其書籍も隨分出來たが甲書に益蟲とあるもの乙書に害蟲と記載され、又同名異種、同種異名のものがあり又外國種も往々内地に發生するから殆んど寄る所が出來ぬと囁やくものがあるも。これは昆蟲學の(横道に)發達した結果であるから致方がない●此頃松村博士が千蟲圖解を宮島理學士が日本產蝶類圖說を出した、研究所よりも名和日本昆蟲圖說を發行したが、斯る書籍が續々出ることういふ發達の仕方が漸次退歩するであろう●尚此頃研究所で鱗翅類汎論といふ大部な書籍が印刷中で、其中には和名學名を有する七百餘種の蟲種が記載してあると云ふ事だ、愈々これが出ると鱗翅類も少しは光明を放つか●名和日本昆蟲圖說第一卷の天蛾類の圖版を見たものは、實物より確實で便利であるとの評である、此際採集せられた標本と比較して本邦產天蛾類の分布を早く調査して欲しい●對馬國の平田駒太郎氏は豫て同國產の昆蟲多數を送り越され、研究所にても夫々調査の上漸次報告するの都合となつて居るが、同氏は今回島根縣高等女學校教諭に轉任されたから、島根縣の昆蟲も定めて驚くであろう●第一回岐阜縣長期害蟲驅除講習生近藤伊祐氏は本年四月渡米された事は一寸本誌に報告してあつたが、此頃書簡に添ふるに紀念になるべき種々の昆蟲を送り越された●在北海道の小川七次郎氏も屢々同地產の昆蟲を採集して送り越さるゝが、此頃も亦多數の標本を送られた、いつも其熱心には謝する次第である●岐阜市忠愛婦人會を主として組織された中田久子氏は、岐阜驛通過の傷病兵を慰勞せんとて雜誌等の寄附を受けて贈らるゝとの事であるから、研究所からも昆蟲世界二千六十部を同氏の手許迄送られた●聖路易萬國博覽會の農產物審査官たりし織田利三郎氏の話を聞くと、研究所より出品の害蟲標本の樣に植物を添へて發生經過を示したものは他になかつたから、非常の稱贊を受けて直ちに名譽大賞を擬せられたとのことである、兎に角、本邦に於ける斯學界の名譽であろう。

◎岐阜縣昆蟲學會第七十一回月次會記事

同月次會は本月五日當名和昆蟲研究所樓上に於て例により午後一時より開會せり、第一席山内甚太郎氏は戰爭と害蟲驅除に就てと題し、本年は時局

の爲め大に害蟲驅除に力を盡したりと雖ども、尙農家の無頓着より生ずる損失は非常に莫大なるものなりとて之を統計的説明し、若し一層注意を加へ、此損失を防ぎて以て其獲る所を軍需に使用せば、其利害は幾許なるや計り知るべからざるなり、農家が害蟲に對するは、軍人が敵に對すると一般國家に盡す義務は更に異なる所なければ、此の千歳一遇の時に際しては今後尙十分の覺悟を以て實行せざるべからずと論じ、第二席鈴木彦治氏は螟蟲蝕入の枯莖調査の結果を報告し、第三席小森省作氏は害蟲驅除と廢物利用法に就て、稻蝨、金龜子等を始め昆蟲を肥料として適したるものゝ分拆表を示し、之を肥料となす時は大に効果ありと、氏の實驗に基づきて説明し、其他各種の使用法を談し、第四席石田和三郎氏は昆蟲の雌雄淘汰に就て標本によりて委しく説明せられ、午後四時散會せり。

◉**水曜昆蟲談話會記事**　當所内に於て毎週水曜日夜間開會の同會の前號報告後に於ける談話の要項を一括掲載すれば左の如し。

名和愛吉氏はアカタテハ蝶は冬季屋根の瓦の間に多く入りて潜伏越冬する事、又シマヤドリバチは河原に於て越冬するものなるか、其越冬する有樣は石の下に白き糸の如きものを覆ひて越冬するものにして、時に依れば一個所に四五十頭も群集する事ありと。又同氏が本年十月二日本巣郡船木村にてミヽズクの産卵しつゝあるを實見せしに、其産卵樹は赤楊にして、縦に二分五厘程樹皮を截破して其兩内側に三四個粒つゝ並列して産附し、其外觀恰も赤楊の天牛の産卵跡に類似せりと報告し◉石田和三郎氏は蠶兒の腹部の黑点の有樣に依り雌雄を識別する事を圖に依りて説明し◉名和正氏は昆蟲の解体標本製作に就て實物により、最初は昆蟲の頭部、胸部、腹部等に分解して克く視察したる後製造する事、特に頭部の諸器關を分くる時には注意すべき事等の實驗談をなし◉鈴木彦治氏は弄花蝶科に屬する一文字セヽリの産卵時季及び卵數、バッタの卵數等の調査談、及び蚊姥の外部の構造に就きて説明し◉山内甚太郎氏は、實物を示して桑葉蟲、瓜葉蟲、雷葉蟲等に就て構造及び加害植物等を説明せられ◉谷貞子氏は蟬、蟋蟀、蝨斯科に屬するものゝ發音器の構造を説明し◉馬淵治郎氏はアシナガサシガメ、アカシマサシガメ、ビロウドサシガメに就て實物研究の結果を報告し◉棚橋昇氏は蠅に就ての觀察及び條黑蝶の産卵等に就て談ぜられ、其他第十六回全國害蟲驅除講習修了生杉山吉三郎氏はユーカレイ樹の害蟲驅除劑としての効果に就て話されたり。

◉**昆蟲標本陳列舘參觀人員**　去る十月中當所常設の昆蟲標本陳列舘を參觀せし總人員は四千五百三十六人にして、一日平均百五十一人强に當り、其中最も多きは十五日に於ける六百三十九人、最も少なかりしは十四日に於ける三十九人にして、其多くは各府縣の實業家及び敎育家學生等なりき。

名和日本昆蟲圖說第一卷第一版
NAWA: ICONE. JAP. INSEC. VOL. I, PL. I.
T. Kawata imp.
Theretra Oldenlandiae.
5. a-c. Herse convolvuli.
エビガラスズメ

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢詩　○○○○○昆蟲亂題（但季は秋又は冬）　○○○○○牧野南山君選

▲和歌　○○○○○昆蟲亂題（但季は秋又は冬）　○○○○○服部綾足君選

▲俳句　○○○○○龍蝨十句（十二月五日占切）　○○○○○上原三川君選

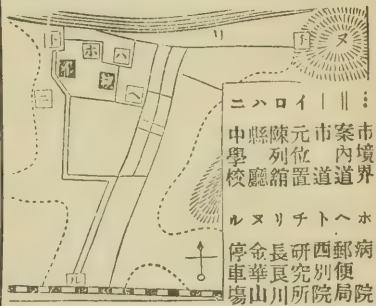
投稿占切期日毎月五日△投稿用紙は郵便端書にても宜し△屆先は岐阜市公園内名和昆蟲研究所

ゲンゴラウ（龍蝨）は鞘翅目龍蝨科に屬し圖に示す如き形態にして黒色をなし背面の兩縁は黄褐色を呈す全體滑かにして油狀の光澤あり常に水中に捿みて活潑に游泳し魚介類を暴食するを以て養魚家の一大害蟲なりとす夜間飛翔して甲池より乙池に移り又燈火に來ることあり（イ）は雌の實物大（ロ）は雄の前肢の放大圖

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

岐阜縣昆蟲學會は規則第三條に依り晴雨に關はらず毎月第一土曜日午後一時より、岐阜市公園内名和昆蟲研究所内に於て開く、本會員は不及申、何人も毎會御出席相成度候也

名和昆蟲研究所内
岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し
第七十二回月次會（十二月三日）

◉名和昆蟲研究所案内

記號	名稱
‥	市境界
‖	案内道
｜	市道
イ	元位置
ロ	陳列館
ハ	縣廳
ニ	中學校
ホ	病院
ヘ	郵便局
ト	西別院
チ	研究所
リ	長良川
ヌ	金華山
ル	停車場

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園内即ち（チ）の位置に移轉せり・又常設の昆蟲標本陳列館（五間に十五間）は從前の通り岐阜縣物産館構内にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵税共金拾錢　（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
壹年分拾貳部郵税共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢
三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年十一月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二（岐阜市公園内）
發行所　名和昆蟲研究所

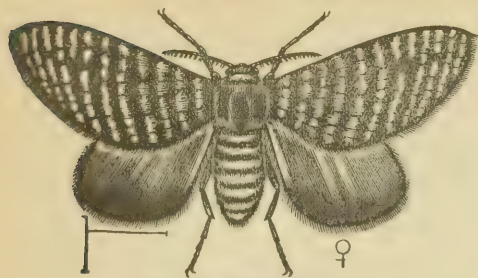
岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二
發行者　名和梅吉

同縣揖斐郡鶯村大字公郷三番戸
編輯者　小森省作

同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二
印刷者　河田貞次郎

（明治三十年九月十日内務省許可）
[illegible]

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）

THE INSECT WORLD.

Epipyrops Nawai Dyar.

A MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED BY

YASUSHI NAWA

DIRECTOR OF "NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY" GIFU JAPAN.

VOL. VIII.] DECEMBER. 15TH, 1904. [No. 12.

昆蟲世界

第八巻第拾貳冊　明治三十七年十二月十五日發行　第八拾八號

（明治卅年九月十四日第三種郵便物認可）

目次　（禁轉載）

（每月一回十五日發行）

名和昆蟲研究所發行

本所移轉擴張寄附金品領收廣告 第七回

一金壹圓也 岐阜縣武儀郡關本町 深川淳一君
一金四圓也 岐阜縣内務部第四課員 畠中牛五郎君
一金參圓也 岐阜縣内務部第四課員 大野績君
一金參圓也 岐阜縣内務部第四課員 渡邊治右衛門君
一金參圓也 岐阜縣内務部第四課員 酒本勇四郎君
一金參圓也 岐阜縣内務部第四課員 大野勇君
一金貳圓也 岐阜縣内務部第四課員 松尾國松君
一金貳拾五圓也 岐阜縣安八郡大垣町 中嶋直次郎君
一金貳圓也 岐阜市益屋町 日比野久五郎君
一金拾圓也(第二回)岐阜市靭屋町 宮崎助三郎君
一金參圓也 岐阜市今町 坂井雅太郎君
一金壹圓也 岐阜縣稻葉郡長良村 山下光太郎君
一金五圓也 岐阜縣安八郡大垣町 槌谷祐七君
一金五圓也 岐阜市私立岐阜病院長 佐々木曠君
一金五拾錢也 岐阜縣本巣郡船木村 名和吾市君
一金五拾錢也 岐阜縣揖斐郡八幡村 高橋美之助君
一金五拾錢也 岐阜市益屋町 高井助右衛門君
一金貳圓也(第二回)岐阜市益屋町 田邊友三郎君
一金五圓也(第二回)東京市本鄉區金助町 田中芳男君
田中五一君
田中健太郎君
一金六圓也 岐阜縣農事試驗場技手 山田與十郎君
一金壹圓也 秋田縣仙北郡神宮寺町 富樫明治郎君
一金參圓也 岐阜縣巡査教習所教官警部 廣瀬壽太郎君
岐阜縣巡査教習所教官巡査部長 池田弘君
岐阜縣岐阜警察署詰巡査 小境安次郎君

岐阜縣岐阜警察署詰巡査 新田宇賀吉君
同 堀部與三藏君
同 河村源一君
同 西村多作君
岐阜縣中津警察署詰巡査 桂川竹次郎君
同 黑田彦太郎君
岐阜縣垂井警察署詰巡査 仲谷宅三郎君
同 青木末吉君
同 竹中宇七君
同 福井才次郎君
岐阜縣大垣警察署詰巡査 堀部竹夫君
同 竹中慶次君
岐阜縣關警察署詰巡査 井深祐吉君
岐阜縣八百津分署詰巡査 鈴木捨吉君
岐阜縣北方警察署詰巡査 山田齡次郎君
岐阜縣竹ヶ鼻警察署詰巡査 林京次郎君
岐阜縣古川分署詰巡査 小嶋賴次君
岐阜縣高山警察署詰巡査 堀本吉助君
岐阜縣笠松警察署詰巡査 和田左衛門君
三重縣四日市市藏町 山内甚太郎君
一金貳圓也

小計金八拾六圓五拾錢

累計金七百九拾五圓六拾九錢

一端書五拾枚 岐阜市富茂登區 藤井小平治君

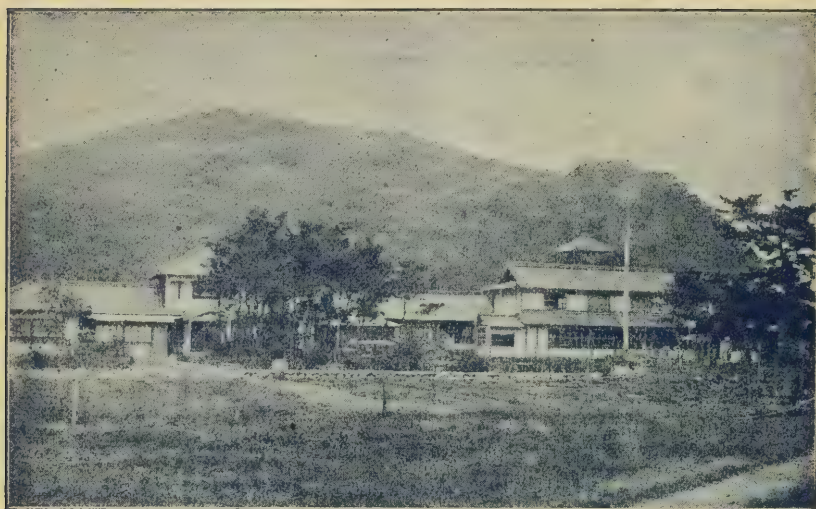
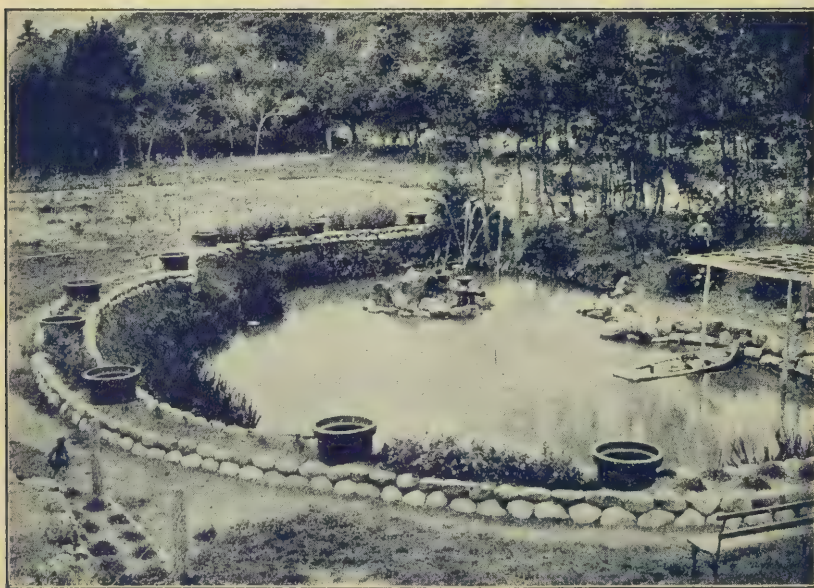
右御寄附相成候に付茲に芳名を掲て其厚意を謝す

明治三十七年十二月十日

岐阜市公園内
名和昆蟲研究所

名和昆蟲研究所の全景（正面より撮影）

名和昆蟲研究所庭園の一部

學説

◎松のモノフレバス蟲と瓢蟲

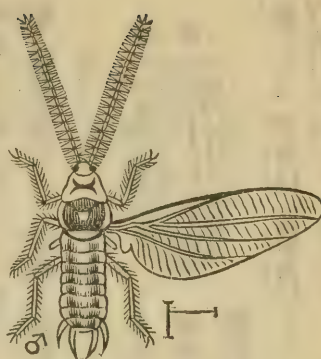
理學博士　佐々木忠次郎

モノフレバス蟲は本邦各地に產するものにして、學名はモノフレバス、コーピユレンタス、クハナ（Monophlebus corpulentus, Kuwana）と稱す、桑名氏は右雌蟲に就きては充分調査せられたるも、其雄蟲及び瓢蟲に就きては調査せられざるが如し。是より雌雄の兩蟲を略陳し、瓢蟲が雌蟲に擬態せる有樣を述べんとす。

雌蟲は長楕圓形にして幅廣く、外形は略ぼ濕所に住めるワラジムシに似たり。其長けは五分餘ありて、幅三分前後あり、背面は暗紫褐色なるも、其周緣と腹面は橙赤色なり。單眼は二個ありて黒く、觸鬚は同く黒色にして九節より成る。口吻は短きも、之より伸出せる絲狀の口具は頗る長し。脚は太く稍や短くして深黒なり。（第一圖）

第一圖　松のモノフレバス蟲の雌

雄蟲は扁長にして薄赤紫なり、体長は一分六厘、頭部は小形にして、眼は黒く觸鬚は殆ど体長に均く長毛を生ず。翅は二枚ありて淡灰紫色を呈し、波形の横皺あり。平均棍は扁長にして、其尖には八本の鉤を具ふ。脚は紫褐にして毛を生じ、腹端には四個の角狀凸起を具ふ。（第二圖）

第二圖　松のモノフレバス蟲の雄

雄蟲は四五月より產生し、雌蟲と交尾し暫くして死するものなり。然れども、雌蟲は久しく生活し、其皮膚の全面より白色の絲縷を排出す。特に腹端より排出する絲縷は極めて多く、之にて產出する卵子を包み、所謂卵囊を成す。雌蟲は卵子を產出するに從て体軀は短縮し、卵囊は增大し、全軀は殆ど白色の絲縷にて包まれ、僅かに其前端の背部のみを露出するに至る。

卵巢內には千顆內外の卵子を藏し、卵子は楕圓にて淡橙黃色を呈するが故に、卵囊は同色を帶ぶるものなり。

雌蟲と幼蟲とは、松樹を初めとして楢、櫟、栗、樫等に寄生し、其養分を吸取するも、雄蟲は別に食することなく、交尾し終はれば斃るゝものなり。

雌蟲の棲息する所には、往々一種の瓢蟲の幼蟲の共棲するものありて、頻りに雌蟲を食害するを見る。

此瓢蟲の幼蟲(第三圖)は、同く長楕圓にして平く、暗紫色を呈し、且各軀節の左右には各々乳頭狀の腫起を存し、此腫起は橙赤色を呈するが故に、恰も雌蟲の橙赤色を帶びたる體緣を見るが如く、爲めに熟視するに非ざれば雌蟲と瓢蟲の幼蟲とを區別すること困難なり、實に擬態の一好例とす。此擬態に依り、幼蟲は自由に雌蟲に近寄り之を食するの便利を得、雌蟲は擬態に依りて其身を危くするものなりと云ふべし。

第三圖　モノフレバス蟲を食する瓢蟲の幼蟲

此瓢蟲の學名は判然せざるも、コクシネラ(Coccinela)屬の一種と見做して可ならん、此体長は二分ありて幅一分六厘あり、全軀は礬紅色にして橙黃色を帶びたるが如く、複眼は濃褐

觸鬚は暗褐にして八節より成り短毛を粗生し、末端は長橢圓なり。下顋鬚は四節より成り、末端の一節は極めて扁大にして、其游離端は斜めに切りたる如くして、殆ど紡錘形の平滑面をなす。脚は短きも丈夫にして、大腿及脛の二節は極めて扁長なり。蹠節は三片より成りて、第一及第二の蹠節は短小にして之には一個づゝ灰褐の三角薄片を具へ、第三蹠節は著く長形なり。
松のモノフレバス蟲は他の介殼蟲の如く介殼にて蟲體を保護するなきも、其皮膚は厚く堅靭なるが故に容易に傷き難く、且冬日の寒氣に堪ゆ。其變態は不完全なり。但し、雄蟲は變態完全にして、常に白色圓筒形の繭内に蟄する蛹より化生するものなり。
松のモノフレバス蟲は獨り松のみに寄生するに非ずして、欅、楢、樫、栗等にも多く棲息し、雌蟲の形は草鞋に酷似するが故にワラジ介殼蟲と名付けて可なるべし

◎熊本に於る昆蟲の觀察二三を報ず

在農事試驗場九州支場　中川久知

(一)稻の成長と螟蟲の成長

魚兒を飼養したる諸君は、其容器の大小によりて稚魚の成長する度合に遲速あることを熟知し居らるゝならん。これ決して餌料の不足と否とに由るにあらざることは、何程多量の食物を與ふるも亦形の養魚池に於ては魚兒の發育大に遲延するを以て明らかなり。余は螟蟲に於ても恐らく其理一なるべしと思考し、本年八月二十二日、同じ大さの二化性螟蟲を大小の稻に放飼し、一ヶ月を經て九月二十一日に至り、稻莖を割きて在中の蟲の大さを計りしに、果して豫期せし如く、成長の度の進みたる稻莖中の蟲は、成長の後れたるもの〻中に在りしものよりも速に成長したることを證明し得たり。今其試驗成蹟を擧

れば左の如し。

稻の大小	放蟲の際に於る稻の高さ	根元より二寸五分の高に於ける莖の周圍	九月二十一日剖撿したる時の蟲數	蟲の体長（平均）
大	尺 二、九〇	分 七、八	頭 一五	分 六、一
小	二、〇四	四、八	一一	四、四

以上の試驗成蹟によれば、氣候寒冷なる北陸地方に於ても、二化性螟蟲が善く二化の名に背かずして年二回の發生を完了し、同一の時季に毎年出現し得る理を明らかに了解し得べし。何となれば富山縣下の如き、挿秧は五月中に於て其終りを告げ、九州地方に比すれば一ヶ月乃至一ヶ月半早く成長し得る機會あるが故に、螟蟲も亦た隨つて速に成長し、寒冷の成長に及ぼす阻害を補償するを得べければなり。而して熊本縣下八代の如き温暖なる地方にて、挿秧期の早きものは稻草の發育速かなるに熱度相加わるを以て、二化性螟蟲に就て云ふも、七月下旬より八月初旬に渉りて早く已に第二回の羽化を遂げ、產卵を見るを得べく、隨て第二回發生の幼蟲も亦た其發育頗る迅速なり。余は本年八月二十日、八代町に於て一個の稻莖中に頗る成長したる第二回發生の二化性螟蟲數頭群棲することを目擊せり、仍て之を携へ歸り飼養せしに、九月七日に至りて羽化せり（二化性螟蟲の第三回發生）。此結果によれば早稻を栽培する地と否らざる地は、螟蟲の第二回羽化期の遲速に大なる差異を生ずべく、隨て收穫の期に於る蟲の大さ及び位置に相異る處あるべき理なりとす。

（二）稻の螟蟲亡滅せば其卵寄生蜂も亦亡族する乎

從來、昆蟲を單食性（Monophagous）複食性（Polyphagous）の二類に別つこと昆蟲家間の通說なりしも、斯學研究の步漸く進むに隨ひ、前者は漸く其數を減じ、今日に於ては眞正の單食性昆蟲なるものは殆んど

其跡を沒せんとするに至れり。今本題に揭げたる螟蟲卵寄生蜂（ズヰムシアカタマゴバチ）も亦た決して單食性のものにあらざるは、農事試驗場特別報告第六號に於て余已に之を辨せり。此後、此蜂に就て研究漸く進むに至らば、其宿主も亦た漸く其數を增加すべきは疑なし。

抑もズヰムシアカタマゴバチは、苗代に於て先づ蕃殖し、挿秧の際は本田に移り、本田產付の螟蟲卵に寄生して一時再び繁殖するも、螟蟲（二化性のもの）蛾の第一回發生期漸く畢れば、寄生蜂も亦漸く其數を減じ、遂に一時は稻田中全く其影を見ざるに至るものとす。これ第二回發生の螟蟲蛾が產下したる卵に於ては、最初殆んど寄生蜂に侵されたるものなきを以て知るべし。然れども、此時に當り、此蜂は全く其地方に於て消滅せしにあらず、唯だ稻田に於て見ざるのみ。眼を轉じて畑地の藍もしくは粟葉上に產付したる粟の螟蟲卵を見るときは、卵塊の一部分は黑變して寄生蜂の害に罹りたること明らかなり、試に此卵を採りて貯ふるときは、ズヰムシアカタマゴバチの羽化して此卵より續々出るを見ん。爾後八月に至らば、該寄生蜂は粟畑に於て大に繁殖し、粟葉上の螟蟲卵は其全部黑變するもの往々これあるに至る。故に稻田に於て一時該寄生蜂非常に多く發生し、宿主たる螟蟲悉く滅絕し、二化性螟蟲（及三化性螟蟲）全く亡族することありとするも、該寄生蜂は粟の螟蟲卵の如き他種の昆蟲卵に寄生し、宿主を全く失ひ殄滅するが如きは決してこれなきものとす。

今ズヰムシアカタマゴバチの本邦に於て棲息する眞相を探るに、其生活期は極めて短かく、僅々一週日内外に止まるを以て、二化性螟蟲の如き最初の卵期と爾後の卵期の間頗る遠きものに寄り、周歳の經過を計る能はざるは明らかなる事實にして、夫の藍、粟の螟蟲の如く、春期より秋末に至るまで殆んど間斷なく產卵するものにあらざれば、以て其常時の養料を供給するに足らざるなり。而して粟は熊本縣下

に於る畑地の主要農作物の一にして、其一年間に地上に存在する時期も、後文に述ぶるが如く頗る長日月に渉るを以て、余が今日まで調査したる所によれば、之に寄て生活する粟螟蟲の卵こそ本種卵寄生蜂の本來の宿主と云べく、殊に該螟蟲は蓼科に屬する雜草にも產卵し得るものなれば、假令粟を主用作物とせざる地方に於てもズヰムシアカタマゴバチの主たる宿主たるを得べきや勿論なり。故に該寄生蜂を利用せんとせらるゝ諸君は、寄生蜂の亡滅する期あらん事を憂ふるに及ばず、判然其利用に關する試驗を決行せられんこと余の希望して止まざる所なり。

（三）昆蟲の繁殖植物と營養植物

凡そ複食性昆蟲一種の食用に供せらるゝ植物の種數は、多きあり寡きありて一定せざれども、善く觀察すれば、其食餌たる植物中に母蟲が產卵して孵化したる幼蟲の食餌に供すべきものあり、或は其母蟲の食料たるに止り、假令卵を產下し其卵が孵化するも幼蟲は其植物にては生育せざるものあり、夫の綠色椿象が桑葉に產卵したる時の如き即ち是れなり。余は西ケ原に於て、五六月の頃、桑葉にて此椿象の幼蟲を屢々飼育せしに、一も成功したることなし。以上は椿象の如き母蟲と幼蟲と同一の食物を要する昆蟲に就て述べたるものなれども、汎く昆蟲界を見渡すときは、其食料たる植物に斯くの如き區別あるもの往々これあり、此場合に於て卵を產付せられ、其卵孵化して出たる幼蟲の食料に供せらるゝ植物を繁殖植物(Breeding plant)とし、假令卵を產下せらるゝも孵化したる幼蟲を養育するに足らず、唯だ母蟲の食料たるに止るものを營養植物(Feeding plant)と名く。而して一種の昆蟲にして、其繁殖植物二種以上を有する時、一は吾人の栽培に係り、一は野生のものなるときは、母蟲が甲に產卵する場合に於てのみ著しく多數の發生をなし得べきや明らかなり。又若し其二種以上の繁殖植物が孰れも吾人の栽培に係

るものなりとせば、就中最も多く且汎く栽培せられたるものに母蟲が產卵したる時、其子孫著しき繁殖を爲すを得べきや論を俟たず。

今綠色椿象は全國到る處多少之を產せざる地は無かるべしと雖も、熊本縣下に於て粟に發生したる時程其數多く且其害の太甚しきは、本州にては到底聞く事を得ざるものとす。余が曩に當地の高等學校に職を奉せしとき、九、十月の交、圃間を逍遙せし際に於て、一年右の椿象が夥しく粟の穗上に集り、殆んど全く穗を被覆して、外面よりは粟粒を見ること能はざるに至りしことありき。本年六月、余が再び當地に赴任せし已來、已往の被害を追懷し、先づ此蟲の經過發生に就き觀察を力めたるに、此蟲は年二回の發生をなすものにて、第一回は六七月の交に幼蟲を生じ、第二回は九月より十一月の間に幼蟲を見るを得たり。此第二回のものは粟に於て最も多く、前に述べたる大發生は即ち此第二回發生のものに屬す然れども、本年は熊本地方は非常の旱魃にして、粟の成長大に後れ、高原地方の乾燥せる土地に於ては其一半は枯死するに至りしを以て、該蟲の粟に於る發生は太甚しきに至らざりき。

抑も、アヲガメムシが粟に集り大害をなすに至るには、豫じめ初回の繁殖旺盛ならざるべからず、而して其旺盛を致すは、第一回發生の際に於る繁殖植物が汎く且多く栽培せられたるものならざるべからず余は七月上旬圃間を徘徊し、該椿象の最も多く集り生ずるものを探りしに、當時菽類を栽培したる畑地に至りたる時、此蟲の頗る多きことを知り得たり。然れども、其最も多きは大豆にして、幼蟲は殆んどみな第五齡に達し、續々羽化せんとする狀態にありたり。故に、大豆は此椿象の第一回發生に際し、其大繁殖に好機會を與ふるものなりとす。何となれば、本縣に於ては、畑地は概ね三作をなし、麥間に大豆を播下し(夏大豆)、此大豆の間もしくは大豆の跡地に粟種を下す(秋粟)習慣にして、二毛作田にても

麥間に大豆を栽培し、大豆は綠肥として用ゐるの習慣あるを以てなり（田地の大豆は早く六月に於て土中に鋤き込むを以て椿象の幼蟲は之に由りて成育を遂ること難からん乎）。以上は綠色椿象に就て僅に一例を擧たるに過ぎずと雖も、一般の害蟲の身を托する植物に就て、善く繁殖用と營養用の別を調査し、大發生に由て來る所を探究せば、庶幾くは驅除豫防の方案を講ずるに大に便する所あらん乎。

（四）一期の粟作に二回粟地蠶を發生す

熊本地方の畑地に栽培する粟は、秋粟最も多く、夏粟は極めて罕れなり、而して秋粟の下種は、前に述べたる如く大豆の間に於てするあり、大豆の跡地を耕耘して播下するものありて、期節は七月中なりとす、故に七月下旬より八月の間に於る天候は最も粟の繁茂に大關係あるや論を俟たず、本年當地方の如く七月下旬より八月の末に至るまで殆んど一滴の降雨なき年に於ては、早く下種したるもの丶外其發育遲延し、或は全く枯死するに至り、幸に生存するものは、九月上旬多少の降雨を得て急に伸長し同月中旬より十月に跨りて抽穗せり。故に十月の中下旬に至るも穗の成熟一齊ならず、僅に梢葉間より穗の一半を出せる幼稺の粟を交へ生ずるものあり、斯くの如きものは、本年にては十一月六七兩日の大結霜に遭遇して悉く枯死するに至り、實に本年は粟作の大凶年と云ふも可なり。抑も、本縣下に於て粟の收穫は毎年十月下旬より十一月の上旬に渉り、粟の平年に於る成熟期よりも遙に遲延するを常例とす、これ全く晩稻收穫の時期と衝突するにより、貴重品たる稻草の刈取を先にするに起因するならん。故に本縣下に於て粟の畑地に存在する時期は、實に五ヶ月の長日月に渉るものなりと云ふを得べし。

翻て粟地蠶の本縣に於る發生の模樣を調査せんとするに、記録の徵すべきもの殆んどこれなく、十年前即ち明治二十七年に於る大發生の次第に就て、適々老農に問ふも記臆漠然として梗概を知らんとす

ることすらなし能はず、唯だ被害の大にして區域の廣かりし事を證するに過ぎず。其一年間に於る發生回數の如きも、未だ確乎たる標準を得る能はず。然れども、五六月の交麥圃に發生することは老農の言を信ずべき處あり、之を余は第一回の發生とす。次は七月に於て、去る明治三十五六の兩年葦北郡の粟畑(夏粟か)に發生したりと云ふ熊本縣廳の報告にして、之を第二回の發生とす。其後に至りては、本年九月十一日飽託郡吉野村字岳及字野出に於て余の目擊したるものにして、蟲は既に過半化蛹し、幼蟲の狀態にあるものも全く老熟し居れり。其被害の狀を見るに、輕微なるものは僅に畑地の周邊に生じたる粟の葉を食ひしに止るも、加害の大なるものに至りては、一區の粟畑中葉は言ふに及ばず、穗も全く食盡されたるものあり、之を第三回の發生とす。余は同地に於て五六百の蛹を採集し、携へ歸り、羽化したる後飼育函內にて粟に產卵せしめしに、十月初旬に至り卵は續々孵化を始めたり。仍て吉野村に至り自然の狀態に於るものを調査せしに、嫩幼なる穗に於ては粒間に二分許の幼蟲數頭潛み居るものあり、又葉鞘を開き見るに概ね一二の糞塊を有し、三分許より五分位の幼蟲一頭を容るゝもの多し。就中莖の下方に位する葉鞘內に在るものは上方のものよりも大なり。又莖下の地中を堀發せしに、古き草鞋の下又は前年の麥株の下に於ては、數頭群居するを見る。此日は朝來好天氣なりしも、十二時前後に至りては雲翳須臾く陽光を遮ぎるに至りしが、葉鞘間に潛伏したる幼蟲は逸早く葉上に移り、葉を害するを見たり。之を第四回の發生とす。去る明治二十七年に於る粟地蠶の大被害は、十月下旬巳後なりしといふを以て、即ち第四回發生のものなるや疑ひなし。余は十一月上旬鹿本郡來民町、飽託郡西里村及津浦村等を巡回せしに、一望の粟畑中葉の存するものなく、粟稈並立する狀は檣を竝べたるが如く、其慘憺たる光景は覺へず吾人を戰慄せしむるに至れり。此巡回中最も余の注意を惹きたるは、鹿本郡來民

町に於ては粟葉全く盡き、蟲は鄰接したる蕎麥畑に移りたるも、更に蕎麥を害すること無きこととなり尤も蕎麥間に麥を生じたる畑に於ては、麥葉は悉く粟地蠶の爲めに喰盡されたりと云も可なり。又十一月十日再び吉野村の野出地方に至り見るに、該地は二ノ岳の東南側に位する向陽の高地なれば、去る六七日の霜害を被むることとなく、蛹は已に羽化して唯だ空殻のみ土中に存留せり。仍て此地に於ては第四回發生の蛹蟲は遂に生育を畢りて第五回の蛾を生じ、此蛾は其儘越年するならん。何となれば、此蟲の產卵に適する植物は、當時殆んど枯て蛹蟲の餌料を供給すること能はざるべければなり。

以上歷見したる事實により、余は熊本地方に於て、粟地蠶は年に四回の發生を遂げ、其第三回第四回發生のものは粟作に害を加ふるものとす。

（五）二三化性螟蟲の生存競爭の一例

本年十月の初旬、福岡縣下八女郡に於て、又十一月初旬、同縣山門郡に於て三化性螟蟲の稻莖內に於る位置を晩稻に就て調査せし時、往々二化性螟蟲と三化性螟蟲の兩種に屬するものが同一の稻莖中に伏在するもののあるを目擊せり、此時に於て二化性螟蟲はみな大形にして殆んど老熟し、莖の下方に住し、三化性螟蟲は未だ幼穉にして上方に占居せり。これ恐らくは三化性螟蟲が先きに食ひ入り居たる莖に、後に至りて二化性螟蟲が移り來りたるものならん。而して十月初旬に於ては、三化性螟蟲の位置は莖の下端より一尺內外の上方に在るを以て、兩種の占居する位置は頗る間隔あると、十一月初旬に至りては、晩稻刈取の期に達し、三化性螟蟲は遙に下降して莖端より六七分の所に在るを常とす。然るに前に述べたる如く、二化性螟蟲の侵入したる莖に於ては三化性のものは充分降り來ること能はず、收穫の時期に於ても尙ほ未だ莖の下端より五六寸の交に止り居れり。故に今之を刈取る時は三化性螟蟲は株中に入る

こと能はず（山門郡にては株の高さは茎の下端より二寸五分なり）、止むなく藁中に存留せざるべからず隨て無事に越冬することは、到底覺束なきこととなりとす。此場合に於ては、二三化性螟蟲の間に起る生存競爭は二化性螟蟲の勝利に歸し、三化性のものは遂に淘汰の否運を免るゝこと能はざるものとす。熊本縣下の如き、先年は三化性螟蟲甚だ多かりしも、近年大に其數を減じ二化性螟蟲特に繁殖を逞ふするに至りたるは、恐らく兩者間に生存競爭の行はるゝ結果ならん。前に述べたる例は、即ち兩者間の生存競爭の一例として見るべきものたるや明らかなれども、本縣下に於る三化性螟蟲の減少が、悉く此方法によりて起りたるものとすべからざるは勿論なり、何となれば、前に述べたる如き場合は寧ろ罕れなる現象なるを以てなり、今茲に之を記したるは、斯くの如き競爭の事實は他に幾許もこれあるべきを以て、聊か世人の注意を喚起せんとするの微意あるのみ。

◎皇太子殿下奉献中等教育昆蟲標本詳解（其十六）（第十一版下圖參看）

名和昆蟲研究所内　小竹浩

（十七）山林果樹及竹林害蟲

我邦建築の材料を始め薪炭の原料は、皆是れ山林より取り、其他工業界に、製造界に、其供給を山林に仰ぐもの甚多し。今や其材料は需用を充すに足らず、年々其價格騰貴して、殆んど底止する處を知らず、遂に山林の濫伐となり、其結果大雨數日に亘れば、忽ち河水汎濫して、或は堤防を破壞し、家屋を流失し、田畑を押流し、甚しきは人命を傷ふこと珍しからず。嗚呼、是れ植樹を省みずして妄に伐採せしに歸因すと雖も、亦其需用の如何に莫大なるかを證するに足る。當局者夙に之れを憂ひ、濫伐を禁じ盛に植樹造林の道を講せらるゝは、吾人の大に多とする處なり。然れども、山林の業たる、一朝一夕に

成るべきものにあらず、少くも二三十年を經ざれば使用に堪へざるものなれば、其間に種々の障害なきにあらず、特に蟲害の如きは最も注意すべきことなり。果樹は近來其種類大に增加し、從て珍種異品少なからず、之れに伴ふて害蟲亦多く、貝殼蟲に、蚜蟲に、天牛に、蛄蟖に、往々勢を逞ふし、其收益をして往々皆無に歸せしむることあり。見よ、一貝殼蟲の爲めに、果實を初め其他苗木に至る迄輸出の途を一時杜絶せしにあらずや。是れ、當業者の損害は言ふ迄もなく、實に我邦の面目に係る事にして、豈輕々に觀過すべけんや。竹は其種類により、食用に、將た細工用として需用多けれども、未だ竹林の事業甚だ幼稚にして、種類の撰擇に、培養の方法等に注意するの士甚だ稀なり。況や害蟲の豫防驅除に於ておや。然れども、一蟲害の豫防驅除にして効を奏せんか、其利する處實に多大なるべし。語に曰く、一利を興すは一害を除くに如かずと、諸士夫れ勉めよ。

（一八五）マツケムシ(Dendrolinus pini, L.　鱗翅類蛄蟖蛾科に屬する一種にして、年一回の發生をなし七八月頃松葉に一所に多く產卵するを常とす。卵は楕圓形にして綠色を帶び、漸次赤みを加ふ。八月上旬に孵化し、松葉を食害す。幼蟲の充分生長したるものは二寸五六分に達し、背面は帶赤黃色なるあり、灰白色なるありて一樣ならず、腹面は樺色を帶ぶ。全体毛を有すれども、側面にあるものは長く、特に第一乃至第三節の側面の毛は長し。第二、第三、第十一節の背面には藍黑色の叢毛を有し、之れに觸るゝときは甚しく痛腫を覺ゆ。年内に六七分に達し、樹皮の裂目或は近傍の落葉等の間に入りて越冬す。翌年四月頃より出でゝ松葉を食害し、七月初旬に至り松葉或は樹皮の裂目又は樹枝の分岐せる處等に帶褐灰色の大なる繭を營み、外部に黑色の毒毛を撒布し、其內に入りて蛹化し、七八月頃羽化產卵す成蟲は、雄にありては翅の開張一寸五分乃至二寸四分、觸角羽狀をなし、翅色黃褐色なるあり、茶褐色

なるあり、暗褐色なるありて一様ならず。其斑紋亦種々にして、前翅の中室外方に一小白点を有し一條の黒白相接したる波狀線と二條の白色波狀線とを有するあり、或は黒色の波狀線のみ幽に存在するあり亦稀には白色波狀線を有せずして褐色又は暗褐色の廣き横帯を有するあり。尙其他變化甚多く、後翅は多少翅色に濃淡の差あれども、皆斑紋を有せず。雌は翅の開張二寸乃至三寸内外にして、觸角細く、腹部甚肥大なり。翅色幷に其斑紋は雄と共に變化甚多く、今回マツカハマダラと改稱せり。該蟲は松樹の一大害蟲にして、發生多きときは、數百町歩の松林も一葉の青を止めざることあり、而して其發生の多寡は、通風の良否如何に關すること大にして、同一地方と雖も、僅に地の高低の差を以て被害に著しき差異を生ずることあり。該幼蟲は、寄生蜂（圖版左の上方參看）の爲めに斃さるゝこと多く、且時として黴菌の作用にて大部分斃死することあれども、松の單純林を造るを避け、仮令發生するも食物欠乏の爲め中途に斃死するの注意を要す。

（一八六）ウメケムシ（Clisiocampa neustria, L.）　前種と同科に屬し、梅、桃、梨等薔薇科植物に發生し其葉を食害する果樹害蟲の一なり。年一回の發生にして、六月頃羽化し、交尾の後枝に環狀に卵塊を產付し、其儘越冬して翌年三四月頃孵化す。幼蟲は其初め糸を吐きて天幕様の巢を作りて群集し、漸次生長するに從ひ四方に散亂するを常とす。充分生長すれば一寸六七分に達し、背面藍色を帶び、同色の背線と、之れに接して黒色及赤黄色の細縦線とを有し、側面は赤褐色にして赤黄色の側線と氣門下線とを有す。頭部藍色にして二個の黒点あり、第一乃至第三節及第十二節の背面には稍大なる黒紋あり、且各節に横黒條を有し、全体軟毛を生ず、五月頃軒下或は壁等に來りて黃白色の繭を營み、或は葉の間に繭を造りて蛹化し、六月頃羽化す。成蟲は翅の開張一寸一分乃至一寸五分にして、雄は翅色黃褐色を呈し

前翅に二條の赤褐色斜線を有し、体には長軟毛を覆ふ。雌は赤褐色にして、前翅の中央に濃色の廣き斜帶ありて、其内外は色淡く稍黃みを帶ぶ。今回ヒロオビヴハバと改稱せり。之れを驅除するには、落葉後に於て卵塊を採るか、孵化の當時群居するを以て、之を燒殺するを良しとす。

（一八七）タケケムシ(Procris funeralis)　　纈文蛾科に屬し、竹の一大害蟲にして、發生甚しきときは往々枯死せしむることあり、年二回の發生にして、六月下旬孵化の幼蟲は、七月下旬に蛹化し、十余日を經て羽化産卵す。九月上旬に孵化の幼蟲は、九月下旬に造繭、其中に入り、幼蟲の有樣にて越冬し、翌年五月頃蛹化するを常とす。然れども、稀には三回の發生をなすことあり。幼蟲は薄樺色にして、大さ六七分に達し、各關節に四個つゝの黑色斑点を正例す。第一、第二及第十一、第十二節にあるものは稍大なり。この斑点よりは短毛を生ず。蛹化の際は多く藪の周圍にある朽竹の內部に入り、多數集りて四分內外の灰色扁平楕圓形の繭を造り、其中に入りて蛹化す。蛹は稍扁平にして淡黃色なれども、羽化前には全体黑色に變ず。成蟲は体長三分五厘乃至四分、翅の開張六分乃至八分內外、雌雄共に腹部藍色の光澤を有し、翅は薄くして黑色を呈するを以て、今回ヒメクロウスバと改稱せり。

右揭げ來りし解說は本誌第七十三號より以來、號を追ふ茲に十六、其間名和所長を初め所員一同の尠からざる助勢を得て、今や全く結了するに至りたり。然れども、予の淺學なる、尙多少の誤謬を免れず、是れ等は他日を待て訂正せんとす。讀者幸に諒せよ。

◎桑樹害蟲の一種に就て

岐阜縣可兒郡中村　西川砂

生絲は桑の化身にして、桑は生絲の原料たり。故に近年桑樹栽培改良の聲高く、漸く其緒に就きたるも之に伴ひ種々の病蟲害は愈々猖獗を逞ふし、當業者の心膽をして寒からしめたる結果、先づ是等は世

人の注意を以て大に研究せられ、其驅防法の如きも略ぼ發見せられて當業者をして稗益せしめたる所尠なからざるなり。然るに、余は未だ嘗て其研究せられたるを耳にせざる（佐々木博士著に係る日本農作物害蟲編中明治二十七八年頃群馬縣に於て加害を逞ふせし桑葉のスセップスに酷似する所ありと雖該蟲の觸角に於て著しく相違し且つ該書には其詳細を記せざるを以て果して之に該當するものなる哉否や詳かならず）桑樹の蟲害を認めたり。之に就て余の聊か調査せる所を記して大方識者の示教を仰がんとす是即ち我地方にありては、八九月頃桑葉の著しく萎縮するものにして、今日初めて發見せるものに非ざれども、其當時にありては其原因をして詳かにするを得ざりき。其現象の多くは、或る種の桑樹に殊に著しく發現するを以て、天候により樹勢虚弱なるもの丶斯る現象を呈せるものと思意し、特に注意を加へざりき。人も亦斯くありしならんか。

其現象たるや、諸種の桑樹中殊に小牧に最も多く、其他一二種の桑樹に明かに發現するものにして、一目恰も能く彼の萎縮病に罹れるもの丶桑葉に酷似し、多くは著しく卷縮し、硬化するものにして、之を育蠶に供するも、廢桑頗る多し。然れども萎縮病の現象とは其趣を異する所少からず、而して被害桑樹は一枝或は一株のみに非ず、園中の一部或は前面に渉り、或は一枝にありても全部此現象を呈するもの、或は梢端なる軟葉部のみ呈するあり、或は梢端未だ然らずして其他の部分已に呈するあり、甚だしきは園中一枝も滿足なるものを見ざるに至るもの少からず。亦同一地方に於ても、當現象を全く呈せざるもの等あり。今多數の桑樹に就きて是を觀査せんに、元より同種の桑樹に於ても、發育の結果、桑葉の硬軟により一定せずと雖、多くは小牧、九紋龍、青木等の如く葉肉薄すき種にして豐軟に發育せるものは殆ご其葉萎縮し、之に反し十文字、魯桑、島の內、四ッ目等の葉肉厚くして且つ硬きは、前者の如

く著しき現象を呈せず。然れども、此内には往々上部の軟葉部のみ著しく萎縮せるものあるを見、亦硬葉部にありては著しく萎縮せるを見ずと雖、桑葉の表裏共に暗褐色を呈するを見る。是亦必ずしも桑園の全部に渉れるに定らず、一枝中にありても重に中部の硬葉に多く、梢端の軟葉には未だ之を見ざるなり今試に彼の萎縮せしもの、或は桑葉の暗褐色を呈せる桑梢に振動を加へんか、忽ち無數の極微なる粉末狀物の飛散するを見る、之れ一種の昆蟲にして、幼蟲は体長僅かに一二厘位なり、是を顯微鏡下に照す時は、頭部の兩側には各一個の大なる單眼を有し、前方には一對の觸角あり、觸角は十四節よりなりて基部の第一節より第三節に至る三節は球狀にして各節の前方よりは粗毛を生じ、第四節より第十節に至る七節は密接し、暗色を帶び、接合部明かならず、第十一節より第十四節に至る四節は遽かに細そくして黑色を呈し、第九節以下の各節には前方より棘狀に粗毛を生ず。口部には下顋鬚、下唇鬚の大小二對を具へ、上顋は黑色にして咀嚼に適す。胸部は前、中、後胸の三部よりなり、前胸は稍々三角形をなして接合部明かなれども、中、後の二胸は合一して判明せず、胸部の腹面には各一對宛の脚を有し、其先端爪を缺き、之に替ふるに囊狀附器を具ふ。腹部は九環節よりなり、中央部大にして、後方に至るに從ひ漸く細そく、第九環節の末端は突起して肛門を開き、當節の兩側には各三本宛、其他各節の兩側には各一本宛、先端圓ろくして膨大せるバチ狀の粗毛を生ぜり。幼蟲は体色淡綠色なれども發育して三厘內外に達する時は橙色を呈するに至る。

成蟲は体長三厘內外ありて頭部の兩側には黑色なる複眼を有し、左右複眼の中央部には三角形に配列せる赤色の單眼三個を具へ、內前方の一個は稍々小形なり。複眼の前方よりは一對の觸角を生ず、九節よりなりて各節の前方よりは棘狀に粗毛を生じ、第一節より第六節迄は連球狀をなし、先端に至るに從ひ

て細そし、口部は幼蟲と異る事なく、胸部は前、中、後胸の三部よりなり、前胸は分離して圓ろく、中後の二胸は合一し腹面には各一對宛の脚を有す。脚は幼蟲と同形なりと雖、後脚は僅かに發達して他の二脚よりも稍々長大に、且つ各節よりは刺狀に粗毛を生ぜるを見る。中胸の背面兩側よりは二對の翅を生じ。翅は膜質にして、後翅稍々小なりと雖四翅同形をなし。周圍には翅の先端に至るに從ひて長がき綠毛を具へ、活潑に飛翔するの機能を有す。腹部は大にして九環節よりなり、橙黃色を呈し、幼蟲と異る事なし。

該蟲は昆蟲綱總翅目毳翅蟲類に屬する毳翅蟲の一種にして、變態不完全に、加害狀況は幼蟲、成蟲の別なく、共に日夜間斷なく、日光の直射は之を避けて漸々蔭所に轉し、葉柄、葉脉、葉肉の別なく（多くは桑葉の裏面）口器を以て是を喰害し、併せて葉液を吸收するが故に、葉柄葉脈は其當時にありては被害部判明ならざれども、葉肉の甚だしく喰害せられたる部分は凹陷し、葉綠素を失し、或は恰も物質を以て葉肉を壓せしが如き狀を呈す。是を日光に透視するときは、其部分明らかに生活力を失せるを見る桑葉は斯く加害を受くるが故に、爾後其發育に平均を失し、葉肉偏薄にして且つ豊軟なるものは著しく玆に萎縮し、猶甚だしきは葉緣より漸々枯死するに至る。是に反し、葉肉厚くして硬きは幾分萎縮の狀を呈すると雖、小牧等の種類の如く著しき現象を呈せず。然れども其被害部分は、時日を經るに從ひて漸々暗褐色を呈するに至る。蓋し、其部分生活力を失ひて變色し、或は該蟲の排泄物及び喰害部より流出せる汁液に菌類の寄生繁殖せるが爲めなる可し。

該蟲の經過に付きては未だ是を詳かにするを得ずと雖、幼蟲の十分發育して成蟲となる時は、翅を以て更に他樹に移るは勿論、一枝にありても上部の軟葉に轉じ、是を害すると共に葉面に産卵し、益々繁

殖加害するものにして、一年二三回の發生を繰返へすが如し、今該被害桑葉を撿するに、已に著しく變形し、或は暗褐色を呈するものには幼蟲多く、未だ異狀を呈せざる上部の軟葉部に於ては、多くは成蟲を存す、其數多きは一平方センチメートルに對し十頭内外の該蟲頻りに喰害しつゝあるを認む。

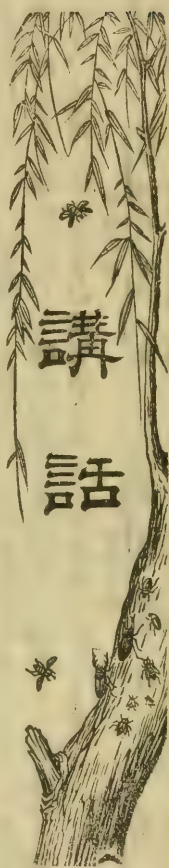
實に右の如くにして、桑葉の異狀と、暗褐色を呈するとは該蟲の著しく喰害せる現象にして、桑葉の當現象を呈するに至れば、該蟲必ず多數に存し、該蟲多數に存すれば必ず該現象を呈す。是れ余の當現象を以て該蟲の加害なりと稱ふる所以なり。

右の外猶形態を異にせるムクゲ蟲及び浮塵子あり、是れ當加害に幾分の關係ある可しと雖、余の地方に於ては決して其主害蟲に非ざるなり。

該蟲の驅除豫防法に關しては愚案なきに非ざれども、其奏功未だ確實なるを認め得ざれば、是が發表は暫く後日に讓らん。又天敵としては瓢蟲あり、之れ當害蟲調查中目擊し得たる所のものにして、体長一分二三厘、橫徑一分内外ありて恰も球を切半せるが如く、全体茶褐色を呈して、翅鞘には左右各六個宛淡黃色にして且つ圓ろく徑三厘内外の斑紋を裝ひ、觸角は棍棒狀にして十一環節よりなり、各節共に粗毛を生せり。其他猶二三種の瓢蟲の襲來するを認めたり。

該毳翅蟲は著しく桑葉に加害するを以て、桑樹の生理に障害あるや推して知る可く、桑葉は勿論著しく硬化するを以て、從て養分の減少亦尠からず、是を育蠶に供するも、蠶兒は食慾不良にして發育に適せず、廢桑をして多大ならしむ。實に蠢々たる微細の昆蟲なりと雖、其加害の甚だしき夫れ斯の如し、吾人斯業に從事するもの、豈之れが驅除豫防をして忽緒に附すを得可けんや。

以上は余の出張の序、路上に於て聊か調查せる所のものを筆にせるのみにして、素より病蟲害研究の

如き、淺學短才なる吾等の到底及ぶ所に非ざれば、又誤謬にかゝる所尠からざる可し。願くは幸に識者諸賢明教を垂れ給へ。

◎姫葉蟲外部の構造研究談

三重縣　名和昆蟲研究所特別研究生　山内甚太郎

桑樹の姫葉蟲は學名をPhyllotreta funesta, Baly. と申す小形なる甲蟲でありまして、桑の葉を食する害蟲であります。此の蟲は体の長さ一分三厘程ありまして、其の色は光澤ある黒色で、頭部は同じく桑の害蟲なる桑葉蟲、及び柳等の害蟲なる雷葉蟲と能く似て居るなれど、其の形は略ぼ正四角形で、その色は光澤ある黒色で点紋はなくして平滑であります。複眼は割合に大きくして側面に突出して居り、色は濃き褐色の如くでありますが、一見黒色に見えます。觸角は十一節より成りまして長さ七厘、その位置は複眼と複眼との間にて少しく前方にあります。而して其の形狀は他の葉蟲等と同じく糸狀でありますが之を能く調べまするど第一關節は細長くありて先端は膨大して居り、それより第二關節、第三關節は球狀で、第四關節より第十關節迄は殆んど卵形であります。末端部即ち第十一關節は楕圓形で、他の節にもそれ／＼周圍に極く淡き樺色の短毛が生へて居りますが、特に此節には短毛密生してあります。第一第二、第三の此の三關節は、一見した所では短毛無きが如く思はるれども、此れを能く精密に調ぶれば多少はあります。次ぎに各節の色彩に就きて述べますれば、第一關節より第三關節までの各節は淡き樺色で、第四關節より第十一關節迄は淡き樺色で黒色に見えます。胸部は光澤ある黒色で、短毛があり前胸背板は略ぼ方形で無數の点紋があります。肢は色淡き樺色なるも腿節のみは濃き樺色でありまして一寸見た所では、黒色に見えます。その形狀は、前中兩肢の腿節は略ぼ同形で、後肢の腿節は幅が廣くして、外側の方に凹部がありまして、此の所にも短毛が多少密生してあります。脛部は前中後の三肢とも同じ形で、之れにも短毛が密生して居ります。跗節は四節より成りまして、第一關節は長き扇狀で、第

ヒメハムシの圖
（イ）は其全圖（ロ）は觸角（ハ）は前肢（ニ）は中肢（ホ）は後肢（ヘ）は翅鞘（ト）は後翅

二關節は第一關節より短く、第三關節は先端二つに分裂して居ります。此の所には特に先端に短毛密生して居りまして、其の間から長き棍棒狀の第四關節が出で、其の先端に淡き樺色の爪が二つありますが、此の爪は桑葉蟲等のものとは異なりて居りまして、少しく爪の基部が太くあります。次の各肢の長さを述べんに、前肢は七厘弱位で、その中腿節は二厘、脛節は三厘、跗節は二厘弱であります。中肢は八厘で、その中腿節は三厘、脛節は三厘、跗節は二厘であります。後肢は一分一厘弱で、其の中腿節は五厘、脛節は三厘、跗節は三厘弱でありますれど、跗節の第一、第二關節は三肢共に長短がありまして、後肢のもの最も長く、前中肢のもの之れに準じ後肢は長大で能く發達して躍ぶに適してゐます。翅は前翅即ち翅鞘は光澤ある黑色で、其の形は桑葉蟲の翅鞘に能く似て居りますが、前胸に近き所に疣の如き凸部がありませぬ。その外緣には細き緣のごときものがありまして、又その表面には無數の点紋があります。後翅は他の甲蟲のものと同じくして、翅脉も同じきを以て略します。腹部は五節よりなりて黑色に、その表面は短毛が密生して居ります。雌の腹部は末端部翅鞘より出づれども、之れに反して雄の腹部の末端は全く翅鞘にて被はれてゐます。終に臨み此蟲の体、觸角、肢の長さの調査表を掲げて御參考に供します。

體長	觸角の長	前肢の長				中肢の長				後肢の長			
		腿節	脛節	跗節	計	腿節	脛節	跗節	計	腿節	脛節	跗節	計
約一分三厘	七厘	二厘	三厘	二厘弱	七厘	三厘	三厘	二厘	八厘	五厘	三厘	一厘弱	一分一厘弱

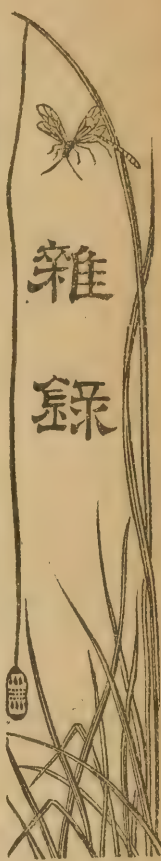
◎螽斯科の頭部調査一覽表

名和昆蟲研究所特別研究生　愛知縣　谷　貞　子

編者云、本表は曾て水曜昆蟲談話會席上に於て谷貞子氏が示されたるものなり

私は鳴く蟲に就て聊か研究いたさうと思ひまして、直翅目の螽斯科のものや、蟋蟀科、有吻目の蟬科のものを少しく集めましたが、此頃螽蟖科に屬するものゝ頭部の調査一覽表樣のものを作りましたから、今晩之を御覽に入れて、この水曜昆蟲談話會の責を塞がうと存じます。然しながら、是れは螽蟖科全体ではなく、只私が本年集めましたもの丈でございます、而して表中觸角の列に二倍とありまするのは、體に比較しての長さで、基二節大とあるは、觸角の基部二節大なりと申す意でありますから、其の御意して御覽下さる樣に願ひます。

種名	頭	複眼			觸角			顏面	頭項	下顎鬚及ビ下唇鬚ノ色
(一)クツワムシ	小	卵形	黑褐	突出セズ	二倍	褐色	基二節大	垂直	尖ラズ	体ト同色
(二)ウマオヒムシ	小	卵形	同	突出ス	二倍	淡褐	同上	丸ミナナス	尖リテ紅色ス	綠色、尖端褐色
(三)ヤブキリギリス	大	隋圓	褐	突出ス	二倍	褐	同上	同上	尖ル	体ト同色
(四)キリギリス	大	隋圓	同	突出ス	二倍	同	同上	同上	尖ラズ	同
(五)コバネキリギリス	大	卵形	黑	突出セズ	僅長	黑褐	同上	同上	尖ラズ	同
(六)イブキキリギリス	大	隋圓	同	突出セズ	同	同	同上	同上	尖ラズ	同
(七)ヒゲナガサゝキリ	大	圓形	褐	突出ス	五倍	褐	同上	斜	尖ル	綠色
(八)サゝキリ	大	圓形	黑	突出ス	三倍	黃褐	基二節黑クシテ大	同上	白色ニシテ尖ル	綠色、先端黑褐
(九)ヒメサゝキリ	大	圓形	灰褐	突出ス	三倍	褐	基節綠色	同上	褐色ニシテ尖ル	体ト同色
(十)ハネナガサゝキリ	中	圓形	黑褐	突出ス	三倍	同	基二節大	同上	同色ニシテ尖ル	綠色、先端褐色
(十一)クサキリ	大、圓錐形	圓形	褐	突出ス	二倍	同	同上	同上	尖ル	体ト同色
(十二)ヒサゴクサキリ	大、圓錐形	圓形	同	突出ス	三倍	同	同上	斜ニシテ山字形ノ班紋アリ	黑褐ニシテ尖ル	体ト同色
(十三)カヤキリ	大、圓錐形	圓形	黑	突出セズ	二倍	黑	同上ニシテ綠色	斜	著シク尖ル	体ト同色
(十四)ミドリサゝキリ	小	圓形	淡褐	突出ス	三倍	淡褐	基二節大	同上	尖ル	綠色
(十五)ヒメクダマキモドキ	小	圓形	黑褐	突出ス	二倍	同	同上	垂直	尖ル	綠色、先端褐色
(十六)クダマキモドキ	小	卵形	同	突出ス	二倍	褐	同上	同上	尖ル	綠色
(十七)ヒゲナガキリギリス	小	圓形	同	突出ス	四倍	同	同上	同上	著シク尖ラズ	綠色
(十八)クビキリバツタ	大、圓錐形	卵形	黑	突出セズ	少シク長	同	同上	斜ニシテ上部切レコム	著シク尖ル	体ト同色

（十二）

◎昆蟲文學

蟋蟀吟　福井椿陰

新涼初動暑炎空。秋意頭番屬草蟲。影隱露團庭綠裏。聲寒風細月明中。朱門白屋鳴無異。騷客逸人聽不同。最是閨中獨捿女。夢魂今夜到遼東。　南山曰。前聯巧緻。

草庭泣露羽聲雙。高低斷續學曲腔。引愁破壁蕭蕭宅。說怨空閨小小窓。急聲促織三更杼。淸韵催詩半夜釭。老火漸衰秋又到。傷心依汝酌銀缸。

千村萬落陷愁圍。白露光中燭影微。無此傷心欺哭泣。有何悲思學歔欷。月明如語庭中草。風冷似鳴窓下機。莫弄啾啾滿州野。鐵腸將士濕戎衣。

星斗闌干月一梳。西風先入野人居。五更殘夢啾啾枕。數點疎燈唧唧廬。枯骨生聲秋草露。暗魂呼恨故城墟。片言隻語誰能盡。滿目荒涼晝不如。　南山曰。草露有聲。秋涼逼人。

秋來皷羽漫呼吁。催起新涼似自娛。月下風前嘆薄命。草根石隙托微軀。聲醒客夢添愁思。態配花枝入畫圖。破壁疎燈人不寢。吟魂一夜到平蕪。

秋蝶　無名子

一雙弱翅繞疎籬。猶逐幽香展兩眉。憐汝霜晨眠不穩。寸魂斷夢與秋衰。　南山曰。瘦蝶可憐之態。寫得太佳。

聞蟲　柳多湖塘

蒼茫夜色月三更。獨座燈前詩未成。萬籟聲收天地靜。閑庭只有草蟲鳴。　南山曰。淸韵徹耳。

聞蟲　山內棲雲

曳杖秋邦夜氣淸。不知鐘響報三更。月明風露娟如玉。斷續高低蟋蟀聲。　南山曰。淸幽可愛。

聞蟲　小木曾蕙洲

朔風萬里遠征難。月下吟蛩帶露寒。勇士不知邊地別。秖聞促織覺秋闌。

雜詠

○　　　　　　　　　　安田志紀臣

庭の面に粟穗積みたるさむしろの下に蟲鳴く灯に遠くして

いにしへの大宮人は秋の野に露にぬれつつ蟲撰みせり

萩しげき向ひの岡の宵宵に灯のほのめくは蟲や捕るらん

○　　　　　　　　　　蓼　圃

淡月に芙蓉花さくればしまに鈴蟲の籠つるしてぞ置く

もののふの猪首にきなす鍬形の甲に似たるそのかぶと蟲

鈴蟲を捕らまくほりて秋の野に竹の小筒に柿入れて置く

○　　　　　　　　　　坪内華外

蟲田をし悲しと翁夕かぜに幣たてまつり蟲やらひをり

おほ水に荒れし田の面に高く低くあきつみだれて日は夕なり

○　　　　　　　　　　輝　文

蟲の音のかそけく更けし秋の夜にふみぞ讀みゐる飽く時知らに

○　　　　　　　　　　ふもとのや

蓼の穗の下行く水の早き瀨に落ちにしいなご渡りあへなく

○　　　　　　　　　　深井青海

秋風に堪へずやあるらん薄日さし飛べる胡蝶の翅破れたり

○　　　　　　　　　　潮　音　生

わが宿の秋立ち草に百合はなけごゆりはなすひの來りぬるかな

ぬば玉のか黒なる身にありながらゆりはなすひよ汝が名やさしも

浮塵子

田草取る鼻に目に飛ぶ浮塵子かな　四　澤

試みにうんかをふるひ落しけり　同

落水浮きて流るゝ浮塵子かな　同

提灯にうんか集る野路かな　翠　園

夜仕事の灯にとび來るうんかかな　同

其中に浮塵子も交り灯取蟲　同

田續きの畠に來るうんかかな　歸麓園

稻の花風に群れ飛ぶ浮塵子かな　同

山裾田最も多きうんかかな　同

螽逃げて顏にとびつくうんかかな　波　影

田の神に幣上り浮塵子やく　同

畦道に夜夜松明やうんか取り　去　水

昆蟲の標本箱のうんかかな　同
夥しく浮塵子殖ねたる殘暑かな　蓼圃
畦豆の葉に飛び移るうんかかな　明笛子
電燈の笠にさびくるうんかかな　城東
畦道を行けはむれとぶ浮塵子かな　四山
はら〳〵とうんか飛來る洋燈かな　和階
夜を罩めて松明ともすうんかかな　兆生
名和氏を訪ふて浮塵子の話かな　一樂
畦行けば顔にとびつく浮塵子かな　輝文
夥しくうんか飛び來ぬ誘蛾燈　至浤
こぬかむし洋燈の笠をあちこちす　秀影
畦草と共に燒かるゝ浮塵子かな　三川
うんか燒く人や罵る裏田圃　同
到る處浮塵子の多き話かな　同

蟷螂

かまきりの其身に戀はなかりけり　水村
蟷螂や引き殘されし豆の蔓　同
草の露かまきり鎌をといで居る　同
蟷螂や溢食つたよな面構　同
かまきりの老ひては悔ゆる事多し　同
蟷螂や萩腐りたる繩に居る　波影
百花園徑に這ひ出し蟷螂かな　同
かまきりや叢に居て人知らず　同
蟷螂の力及ばぬばつたかな　城東
かまきりの螽追ひ伏す草の中　同

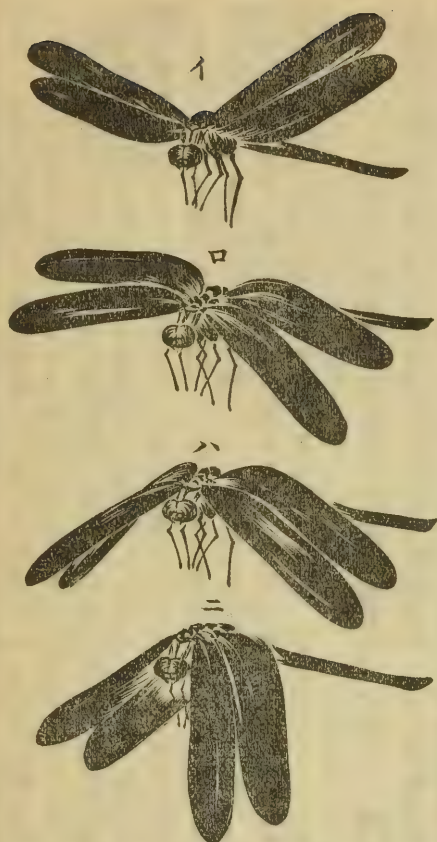
かまきりの居るや煙草の花盛り　同
かまきりの思返して止みにけり　冷石
朝顔に蟷螂を見る垣根かな　同
かまきりの金燈籠を上りけり　同
墓參蟷螂の居て驚かす　木槿
初嵐かまきりの居て吹かれけり　同
かまきりや名もなき草の花白し　同
蟷螂のうしろに飛んで螽かな　歸麓園
蟷螂やつまくれなゐの花一つ　同
稻田にかまきり飛んで一つかな　同
蟷螂や野分のあとの曼珠沙華　晁東
かまきりの何を思案やあともどり　同
戲るる猫に斧ふる蟷螂かな　明笛子
霜の秋かまきりの色かはりけり　同
蟷螂や野分のあとの倒垣　去水
破芭蕉かまきり風に吹かれ居る　同
豆垣を我物顔の蟷螂かな　四山
蟷螂の吹かれきつたる野分かな　翠園
露時雨かまきりの斧力なき　青海子
標本の箱に斧なき蟷螂かな　文翠
蟷螂の眼に鞘豆や稻光　華園
産れた日早かまきりの怒りけり　同
蟷螂や死んでも死なぬ腹の蟲　同
かまきりに氣に入る蟲は無りけり　同
蟷螂や糸瓜の尻で水鏡　同

◎昆蟲に關する隨感隨筆　（第十三回）

昆蟲翁

（六十九）異樣の優暈華と紙を綴る面白き昆蟲　本年一月發行の本題第七回第四十四に於て、異樣の優暈華と題して記載（圖入）したることあり、其後、在東京市田中五一氏より、丹後國宮津にて同品を採集せられし趣き報知ありたり。翁は福知山邊にて得たるものなれば、丹波、丹後に深き關係あるを信ず。又同じく第八回第四十八に於て、紙を綴る面白き昆蟲と題し、圖入にて記載したるに、其後在岐阜市雄山瑞倫氏より自宅の障子に生じ居たるとて、特に惠贈せられたり。是は美濃、尾張に深き關係あるが如し然れども決して是等の區域に限られたるものにあらざれば、熱心なる諸君、特に注意ありたし。

（七十）鼈甲羽衣寄生蛾　該種の事は、昆蟲世界第六十五號（三十六年一月發行）に於て、蟬寄生蛾と共に着色石版書を以て發表し置きたるも、未だ鼈甲羽衣寄生蟲の如何なる成蟲となるや否を知らざりしも幸に在名古屋市の斯學熱心家岡田孝次郎氏は、本年、同市近傍にて採集し得たりとて特に惠贈せられしを以て玆に記して其厚意を謝す。何れ他日を以て詳記すべし。

ナツアカ子トンボ棲止の際翅を上向より下向にするの順序

（七十一）ナツアカネトンボに就ての實驗　當研究所内の池中には一丈四五尺の高き噴水あり、本年九、十月の頃なりき、ナツアカ子トンボの來りて頻りに其噴水の頂点に棲止せんとするも、直に水滴の爲に打れては他に飛び去るも、又來りて又去り、其擧動の面白きは、幾回見るも飽くことなかりき▲又當所の移轉工事の際十數間の電信線を所々幾條も高き所より斜に張りありたるに、該トンボの來りて棲止するもの一線能く幾十頭、時としては百頭以上にも達する

ことあり、其行列の有様實に愉快なり若一其線條を引きて急に放つ時は、彈力の爲め、トンボは一時に彈き飛されて四方に飛散するも、亦來りて元の如くに棲止するを常とす。然し是等のことを數回連行すれば漸次他に飛び去るなり、當時數萬頭の該蜻蛉高き空中を群飛するを見るに、恰も雲霞の如き感ありたり▲該蜻蛉の棲止するや、最初は翅の位置体より上方に斜度をなすも、直に体に平行せしめ、再び垂れて体の下方に斜度をなすを常とす。何時も初めは上向して後漸次下向するは普通なれども、急に下向することあり、又二三回乃至四五回に段落を付けて下向せしむることあり▲該蜻蛉の蠅等を捕へて食する時の有様を見るに、中後の四足にて棲止し、前の二足は稀に食物に觸れて捕食を助くるも著しきことを見ず、假令自己の頭部より大形の食物を捕ふるも、大口を開きて巧みに食するを常とす▲本年はトンボに始まりたれば、玆にトンボにて筆を止むるも亦面白からずや。

◎本年の岡山縣下二化螟蟲被害に就て

岡山縣兒島灣開墾事務所内　藤田政勝

本年岡山縣下一般に、農田には二化螟蟲の被害多かりし。就中開墾地の如き平地農田には、被害甚だしかりしもの丶如し。余は余の在住地方に於ける本年該蟲害の經過に就き、日誌を繙き、室內並野外的觀察より少しく左に述ぶる所あらんとす。

昨三十六年冬季、兒島灣開墾地にある稻藁內部を檢せしに、蟄伏し居る所の二化螟蟲の幼蟲比較的數多きやの感ありき。偶々本年五月四日、該幼蟲のみを室內に採り來りて養ひ置きしに、同月十四日には蛹を作りつ丶あり、六月九日檢せしに、立派に蛹化せるを認む、同月十四日には巳に孚化し一頭の雌蛾飛びつ丶あり、右は室內にての實驗なれど、野外にても同時期苗代に來蛾產卵するもの極めて多かりしなり。先是、縣令にて從來の螟蟲殺蛾燈使用を隨意とするの改正令發布ありたれば、農民は殆んど殺蛾燈の使用をなすものなきに至り、單に網羅法及採卵法をのみなすに過ぎざりき。爾後六月下旬より七月上旬にかけて田植をなし終はる（他地方に比し如此挿挟遲る丶は用水の流末上より關係の然らしむる所なりとす）然るに七月中旬乃至下旬より八月上旬にかけて稻は非常に二化螟蟲の爲めに害せられたり、最初の間は、螟蟲の所爲なりとは農民も氣付かずして、鹽害の致す處ならんかとて右に對する處理法を頻りに講じつ丶ありしなり。余偶々此報を聞き、農田を巡視せしに、皆螟蟲の害なることを確認し、猶豫なく株切法を斷行せしめ、繼植をなさしめたり。爾後八月中旬頃に至り、被害は先づ靜止せるを認めたれ

ば、當時枯死の狀ある稻莖内を檢せしに、幼蟲若くは蛹化したるものを見出せり。如此を以て、本秋の再害を患ひ、非常に株切をなさしむ。此等の爲めなるや、幸ひ本秋には特に被害を見ずして止み、豐作を唱ふるに至れり(本秋苅取は十一月下旬迄とす)。以上によつて熟考するときは、本年の二化螟蟲の發生は、其數多くして被害亦決して尠少ならざりしは已に爭ふべからずして、岡山縣下は槪して如此しと云ひて過言に非らざるべし。然らば之れが源因を討究するの要あるは、後來豫防の參考に供する上に於て非常の價値あるべきを信ずればなり。余の信ずる所によれば、第一本年春に二化螟蟲の發生夥かりしは、已に余の實驗せし昨冬幼蟲比較的多かりしを以て見るも其正さに然るべき所以怪むに足らざるべく詰まり昨年捕り殘こしの該蟲多かりしものゝ如し。尙左に示せる岡山縣螟蟲採卵統計表によるも、昨年は一昨年に比し採卵數減じ居るを認む。余は窃かに信ず、昨年の螟蟲發生量秋季分に於て多大なりしものにはあらざるなきやを。

岡山縣稻螟蟲採卵數統計表

年次	螟蟲卵塊採取數	奬勵金配當額	年次	螟蟲卵塊採取數	奬勵金配當額
明治三十三年	四、八九一、九三一	七、〇〇〇、〇〇〇	同 三十五年	二二、八二一、五六一	四、四一八、二五八
同 三十四年	三、三八五、〇九七	三、三八五、〇九七	同 三十六年	二二、二七八、五六五	二、九九八、七〇四

備考、右調査表は三十六年刻成岡山縣統計表書より拔萃せしものとす。

第二本年春二化螟蟲の爲め被害少なからざりしは、余の地方に於て信ずる所にては、殺蛾燈を隨意にしたるが爲め殆んど之れを使用せしものなく、從て蛾(成蟲たる)の捕殺不完全なりしや必せり。素より採卵に至つては充分の履行を認めたるも、成蟲の網羅法は不確實なりしものゝ如し。惟ふに点火殺蛾法は一旦裝置すれば、他働的に捕殺し得るも、網羅法は不絕自働的ならざれば其効なきなり。從て人類の惡習たる「橫着」なる心さへなしとすれば、後者の法のみにて可なるべきも、人類として此心性ある以上は前者をも兼行するに如くはなし。況んや前者は夜間に於て農民の休眠を利用し得、後者は晝間行ひ得べき、實に晝夜兼行の油斷なき經濟的方法に叶ふべきものと信ずるなり。若し夫れ螟蟲の点火誘殺法を以て却て已れの田の被害を增すものなりとし、全く排斥し去るの論者あらんか、恰かも火なるものは危險なるもの故全く使用を廢すべしとの論斷と何んぞ異ならんや。實に余輩の執らざる愚說と外解し得ざるなり。假令或は危險なるものと謂へども、適當の塲合若くは効ある仕様に使用せんか、却て偉効を奏す

るものなるを知らざるべからず。余は信ず、平地たるべき開墾地に於ては、斷然螟蟲驅除豫防法の一として殺蛾燈の使用を奬勵するの優れるを、殊に共同苗代に於て益々効利多大なるを認定する所のものとす。以上は余の地方に於ける本年の實檢所信を提供し、汎く識者の示敎を請はんとし、旁々本年各地方に於ける該蟲に就き諸君の所信を交換し、研究に附せんと欲する所以のものなり。

調　査

◎キボシカミキリに就て

京都府下葛野郡花園村字谷口　鈴木元次郎

昆蟲世界第八巻八十七號に記載せられたるキボシカミキリは、當地に於ては最も普通なる種なり。尙又當地附近の桑の天牛類には、トラフカミキリ最も多く、キボシカミキリ之に次ぎ、クハカミキリは却て稀なる方なり。今左に本年の採集比較を示さん。

　當地附近に散在する五十有餘本の立木に就て採集す

トラフカミキリ　樹幹の下部に多く、六七月より十月に至る間頗る多し、本年の採集數二百以上に及べり。

キボシカミキリ　樹梢の葉面に多し、本年の採集數百五十に及ぶ。

クハカミキリ　僅に十餘頭を得たるのみ。

調査主任云ふ、キボシカミキリに就ては、本誌前號に述べし如く、先年名和所長が江州長岡驛より濃州垂井驛間滊車中にて始めて捕へたりし以來、未だ曾て本島に於て產するを聞かず、曩に名和所長が捕へしもの丶出所につきて常に怪しみつ丶ありしに、今此鈴木氏の報を得て實に其意外に驚きたり。而して氏は又氏が所有の該標本中最大なるもの及最小なるもの丶二頭を送附せられしが、最大なるものは躰長九分、最小なるは四分五厘なり。尙氏は之と同時に凸眼椿象科のヒラタガメムシ、Dasyllidae に屬する Euciteis bimaculata Guerin.僞紅色葉蟲科に屬するベニハムシダマシ(Saula japonica Gorh.)、葉蟲科に屬するカメノカフハムシ(Melospila consociata Baly.)、シラフアカガネハムシ(Bromius japanus Motsch.)、ヨツボシハムシ(Aulacophora 4-plagiata Baly.)等を送られたれば、茲に附記して其分布を明にす。

◎愛知縣渥美郡産の昆蟲（甲蟲の部の三）

名和昆蟲研究所分布調査部

番號	種名	豊橋町	田原町	福江町	花田村	吉田方村	牟呂村	福岡村	野依村	豊岡村	小澤村	高根村	老津村	大崎村	相川村	野田村	高松村	堀切村	清田村
一七三、	ノコギリカミキリ	一	—	—	—	—	二	—	—	—	一	一	一	—	一	一	一	一	—
一七四、	クロカミキリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—
一七五、	クハカミキリ	一	—	一	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—
一七六、	ホシカミキリ	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	—
一七七、	タケベニカミキリ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	一	—	一	—	—	—	—
一七八、	ヨスヂカミキリ	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七九、	ミドリカミキリ	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	一	—	—	一	—	—	—	—
一八〇、	カミキリムシ	一	—	—	—	—	三	一	—	—	一	—	一	—	—	—	一	—	—
一八一、	ヤマカミキリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—
一八二、	リンゴカミキリ	—	—	—	一	—	四	一	—	—	—	—	—	一	一	—	一	—	—
一八三、	キクス井カミキリ	—	—	—	—	—	一	—	—	二	—	—	—	—	・四	—	—	—	—
一八四、	スギカミキリ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八五、	アカガネハムシ	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八六、	クハハムシ	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八七、	アカヂクロボシ	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	—	—
一八八、	ヤナギノルリハムシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	—	—
一八九、	ウリハムシ	—	四	—	一	—	三	—	—	四	—	—	—	一	五	一	—	—	—
一九〇、	クロウリハムシ	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一、	ヂンガサハムシ	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二、	キマワリムシ	—	—	—	—	—	三	—	一	—	一	二	一	—	一	二	—	—	一
一九三、	ゴミムシダマシ	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—

一九四、	スナムグリ	三	|	|	|	|	二	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|
一九五、	ミハシラムシ	|	三	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	三	|	|	|	|	|
一九六、	キクスヰダマシ	|	|	|	|	|	|	|	|	四	|	|	|	|	四	|	|	|	|
一九七、	オホザウムシ	|	|	|	一	|	|	|	|	一	|	|	|	一	|	一	|	|	|
一九八、	ヒメザウムシ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|
一九九、	ゴバウザウムシ	|	|	|	一	|	|	|	|	|	一	|	|	|	一	|	|	|	|
二〇〇、	シロザウムシ	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	一	|	|	|	|
二〇一、	コフキザウムシ	|	|	二	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
二〇二、	ヒメクロオトシブミ	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
二〇三、	ヘマキザウムシ	|	二	|	一	|	一	|	|	五	|	|	|	一	一	|	|	|	|

◎京都府加佐郡新舞鶴產の昆蟲（二）（小山影氏送附）

名和昆蟲研究所分布調査部

(七四)アゲハノテフ(Papilio xuthus L.)一頭、九月二日●(一三〇)モンキアゲハ(P. helenus L.)一頭、八月二十二日●(一四)モンシロテフ(Pieris rapae Linn.)二頭、八月五日●(一五)キテフ(Terias hecabe L.)二頭、七月二十三日乃至八月四日●(七五)モンキテフ(Colias hyale L.)三頭、九月一日二日●(七六)ヒメアカタテハ(Pyrameis cardui L.)一頭、八月十一日●(一六)ミスヂテフ(Neptis aceris Lep.)一頭、八月四日●(一七)スミナガシ(Dichorragia nesimachus Boisd.)一頭、八月七日●(七七)ヒカゲテフ(Lethe sicelis Hew.)一頭、九月八日●(七八)ウスイロコジヤノメ(Mycalesis gotama Moore.)二頭、八月十三日●(一八)キマダラテフ(Neope gaschkevitschii Men.)四頭、七月三十一日乃至八月四日●(一九)ヒメウラナミジヤノメ(Ypthima philomela Johausen.)四頭、八月三日乃至六日●(二〇)ヤマトシジミ(Zizera maha Kollar.)二頭、八月五日●(二一)ツバメシジミ(Everes argrades Pallas.)二頭、八月五日●(七九)ベニシジミ(Chrysophanus phlaeas L.)一頭、八月二十九日●(八〇)シジミテフ(Cyaniris argiolus L.)二頭、八月十三日乃至九月四日●(八一)イチモジセヽリ(Parnara guttata Brem & Gray.)六頭、八月二十九日乃至九月八日●(二二)ダイメウセヽリ一名クロハナセヽリ(Daimio tethys Men.)二頭、八月三日乃至七日。

通信

◎靜岡縣志太郡昆蟲界の有樣

靜岡縣志太郡靜濱村　増田秀雄

昆蟲研究部の活動　去明治三十五年八月本郡農會の開催にて、縣農事試驗塲技手岡田忠男氏を聘し一週間害蟲驅除豫防の講習會を開かれしが、終りて會員一同研究會を組織し、貴所講習員も加入せり。從來本郡には農業俱樂部なるものあり、彼れ是れ同一員の事とて遂に同部を合同し、春秋二期大會を開き來れど、他に何等の仕事も爲さゞりしが、本年四月より研究且活動の一助にもと、會員相談の上害蟲驅除豫防注意書なる一小冊子を發行し、會員并に町村農會長に配付し、共同事を擧げんとせり。此は貴所講習生たりし増井林太郎氏、楠藤吉氏、多々良理吉氏等の力にて、殊に増井氏は本郡に於ては斯界の燈臺にて色々盡力され、氏の研究事項の多くは之を前記注意書に掲載せり。これまた貴所講習の御蔭にして若し此事一分の効あるとせば、眞に名和先生の賜もの、先生に對して御恩の萬一を報ずる儀と信ず。今該注意書頒布の主意書を左に掲げん。

日露の戰開けてより、我勇敢なる海軍は優勢なる敵の軍艦を轟沈し、砲臺を擊破し、旅順口を閉塞し、浦塩艦隊を辟易せしめたり。我陸軍も亦將に此の如けんのみ。由來、露國は專制の國、蠻勇の士、到底文明の敵にあらざるなり。然れども彼れ亦世界五大强國の一と誇稱するもの、容易に屈服するものにあらざるべし。幾年月間繼續すべきか今に於て得て知る能はざる所、其間此敵に對しては忠勇なる將士のあるあり、而して之が後援となりて常に軍需を供給するは吾人國民の任ならずや、徒に捷報に接して狂喜するも何の益する所あらん、而して軍需の一なる粮食の供給を豊にするは又吾人農業者の責務なりと信ず。然るに吾人農業者に對しては露に優るの勁敵ありて、比年之が爲に苦めらるゝも尚且之が掃蕩をなすべきを講究せず、從て防禦の術を施すべきことを知らざるなり。勁敵とは何ぞや、曰く螟蟲、曰く浮塵子にして、其他の小敵は實に數ふるに遑あらざるなり。近き兩三年來、この大小の勁敵に害せられたる米穀を以て軍需に供給せんか、優に數年を支ふるに足るべし。然るに古昔元冠の時西海の颶風の如く、只天候を恃むものあり小敵なりと侮りて彼れの爲すがまゝに委するものあり、時に防禦を施すも、個々彼れに敵して、其勞を空しくするの農業者を最も多しとす、是れ必竟防禦者たるもの一齊射擊を行はざるに因るものなりと信ず。本年は何卒諸君と共に一齊射擊を適當の時機に於て

適當に實行し、不測の被害を免かれ、對露の軍需を充たさんこと、これ當研究部員の一同に希望して止まざる所なり。故に茲に軍令ならぬ害蟲驅除豫防注意書を毎月諸君に頒たんとす。願くは當部の希望を諒せられ、此注意書を斟酌し、共同一致して害蟲軍を擊退せられ、侵害を十分に防禦せられんことを。明治三十七年三月。

害蟲驅除豫防委員の任命　本郡農會にては、害蟲驅除豫防のため督勵委員なるもの四人を設け、四月苗代準備時期以來各町村を巡回指揮敎導して實効を奏することに力められたり。即ち増井林太郎、多々良理吉、伊藤藤太郎、山田良吉の四氏此任に當れり。

小學兒童螟卵採集成蹟　本郡農會長は本年始めて小學兒童をして螟卵採集をなさしむる樣夫々依賴せられしが、其結果左の如し。但し、表中尋とあるは尋常、高は高等、尋高は尋常高等小學校と知るべし。

校名	採卵塊數	校名	採卵塊數	校名	採卵塊數	校名	採卵塊數
岡部尋高	三六、六七三	大富尋高	一七、六三七	大洲　尋	二二、二二五	小川　高	五三、七九七
朝比奈同	二、〇五三	和田　同	四四、九一五	靜濱　同	六八五	靜濱　同	九〇、六二五
青島　同	三〇、〇〇〇	西益津同	七、六五六	相川　同	二三、〇五九	計	四八五、〇九八
高洲　同	五、〇〇〇	東益津同	一、六〇〇	吉永　同	五四、九〇一		
豊田　同	六九、〇二〇	燒津　同	二五、〇〇〇	稻葉　高	二五〇		

右の外朝比奈校は螟蛾千百六十九頭を、西益津校は同四百四頭を、稻葉校は同六百五頭を捕獲し、豊田校は藁中の螟蟲九千七百七十六頭を採集せり。

◎螟蟲調査成蹟（其二）

三重縣阿山郡　西岡嘉十郎

第二、螟蟲蟄伏數調査　調査の目的は、被害莖に蟄伏せる螟蟲は時期又は藁の部分により如何なる變動をなす可きやを知らんと欲するにあり、而して調査の方法は、第一化期にありては初めて被害莖（心枯）の現はれたる時を第一回とし、爾後三日毎に十回の切採りを行ひ、單に蟄伏蟲數の調査に止め、第二化期にありては、初めて被害莖（枯穗）の現はれたる時を第一回とし、爾後三日毎に十回の切採りを行ひ、時期と藁の部分による蟄伏蟲數を調査せり、其成蹟は左表の如し。

第一化期之部　（時期による螟虫蟄伏數調査）

調査期	切り取りたる藁の數	虫の入り居らざる藁の數	生活せる虫數	斃死せる虫數	切取藁百に對する蟄伏蟲歩合
第一回七月十三日	一五	二	一四	一	九三、三
第二回七月十六日	三五	七	三一	〇	八八、五
第三回七月十九日	二五	四	二一	〇	八四、〇
第四回七月廿二日	一二	三	一〇	〇	八三、三
第五回七月廿五日	一七四	九八	六七	九	三八、五
第六回七月廿八日	七五	五二	二二	一	二九、三
第七回七月三十一日	八〇	五三	二五	二	三一、二
第八回八月三日	一二〇	八五	三二	三	二六、六
第九回八月六日	八九	六二	二四	三	二六、九
第十回八月九日	一一四	七六	三七	二	三二、四
計	七三九	四四二	二八四	二一	三八、四

第二化期之部 (時期と藁の部分による蟄伏數調査)

調査期	切取りたる藁の數	虫の入り居らざる藁の數	生活せる虫數				斃死せる蟲數
			根際より已上一寸の間にあるもの	同一寸已上三寸の間にあるもの	三寸已上の部分にあるもの	計	
第一回九月一日	二〇	〇	九	一九五	六三〇	八三四	三
第二回九月四日	二〇	二	一〇	八四	三八四	四七七	〇
第三回九月七日	二〇	一	〇	一九	三九〇	四〇九	一〇
第四回九月十日	二〇	一	〇	七	三九七	四〇四	〇
第五回九月十三日	二〇	二	〇	一二	二八三	二九五	〇
第六回九月十六日	二〇	一	一六	六一	一九〇	二六七	〇
第七回九月十九日	二〇	〇	一八	四九	一八一	二四八	〇
第八回九月廿二日	二〇	〇	一八	四一	一三三	一九二	三
第九回九月廿五日	二〇	〇	一四	二二	四一	七七	八
第十回九月廿八日	二〇	〇	一一	二九	三二	七二	一
計	二〇〇	七	九六	五一九	二六六〇	三二七五	二五

以上の成蹟によれば第一、第二何れの化期にありても刈取たる被害莖に對する蟄伏虫數は、初期に於て最も多く、以后調査期毎に漸々減少するものなるや明なり。而して又第二化期にありては、蟄伏虫の發育するに從ひ、稻莖の根部に向て降食する事實をも確め得たり。故に螟虫驅除として被害莖刈取を行はんとせば、宜しく初期に於て實行せざる可らず。

右の調査は、予農耕の傍、唯一部分の調査に止りし事なれば、廣く一班を推究し難きは勿論、調査杜撰の譏りを免かれず、讀者諸氏幸に諒せられよ。

◎靜岡縣盤田郡內小學校生徒螟蟲卵塊採集成績一覽

靜岡縣　神村直三郎

本年本郡に於ける螟蟲の採卵は、小學校及農業學校の生徒に之を行はしむることゝなし、其方法は本誌第八十三號に掲載し置きしが、今左に其成績を報せんとす。

採卵校名	採卵塊數	採卵校名	採卵塊數	採卵校名	採卵塊數
幸浦尋常高等小學校	五〇、一六三	東淺羽尋常高等小學校	四五、四二五	豐浦尋常高等小學校	一五、七九三
西淺羽尋常高等小學校	五〇、七五四	上淺羽尋常高等小學校	四八、六四九	笠西尋常小學校	一四、三八七
愛野尋常小學校	二、八七五	田原尋常小學校	一〇、五六一	鎌田尋常高等小學校	三二、七四三
南御厨尋常高等小學校	一九、二七九	福島尋常高等小學校	四、〇一四	大原尋常高等小學校	四二、五四四
西貝尋常高等小學校	一一、八三五	見付高等小學校	四、六九四	中泉尋常高等小學校	一三、七八三
豊丘尋常小學校	六四、三九五	長野尋常高等小學校	一九、三〇〇	袖浦尋常高等小學校	一四、八九一
十束尋常小學校	二八、七三一	井通尋常高等小學校	一〇六、七五八	池田尋常小學校	二、八八八
富岡農業學校	四二、五九二	岩田尋常高等小學校	九九、八五三	廣瀨尋常高等小學校	四二八
向笠尋常小學校	一六、一七五	今井尋常高等小學校	一〇一、五六九	三川尋常高等小學校	一二七、九二二
敷地尋常高等小學校	九九、六一二	野部尋常高等小學校	二七、六〇二	二俣高等小學校	一、五四八
阿多古尋常小學校	一、五六四	合計	一、一二〇、三二七		

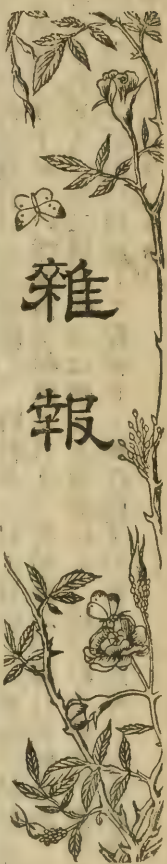
◎昆蟲に關する葉書通信 （第四十六報）

(二五九)草蜻蛉の卵期は五日なり(三重縣阿山郡、西岡嘉十郎)　予本年六月八日草蜻蛉の雌一頭を採取し、之を瓶中に入れ置きしに、其夜産卵したり、此卵同月十三日孵化せり。又七月廿八日同しく採取したれば、是亦瓶中に入れ置きしに、其夜産卵しありて、孵化せしは八月二日なりき。乃ち知る草蜻蛉の卵期は五日なる事を。

(二六〇)本年兒島灣開墾地内の蟲害(岡山縣妹尾町、藤田政勝)　春季稻苗代より本田挿秧后間もなく二化螟蟲の爲めには非常に害せられた。然し、浮塵子の成蟲は可なり居りしも、時候夏夜鬱せざりし故か蕃殖少なく被害なかりき。エンマコホロギ(當地方方言キリゴ)の蕃殖旺盛にして、夏より秋迄棉の被害多かりし。秋より冬にかけてケラの發生多きを見、麥の根を目下著しく害しつゝあり。キリゴとケラの實用上巧な驅除豫防法あらば、識者示教に吝なる勿れ。

(二六一)梨の害蟲青蚜蟲に就ての實驗(越後國北上浦郡長浦村、曾我彌四郎)　此蟲は青色にして其形胡麻大なり、六七月頃より葉裏の主脉に密着して養液を吸收し、獰惡恐るべき蟲なり。其繁殖を度餘り速かならざれども、恣に蔓延せし時は一株忽ち落葉するに至る。驅除法としては石鹼合劑を散布すれば忽ち斃死す。

(二六二)飛州益田郡川西村通信(飛州、杉下千吉)　本年は時局に鑑み、一般に農家は害蟲驅除を熱心に勵行せし結果、大に其効を奏したるものゝ如く、馬鈴薯の害蟲は近年稀に少く、稻の如きも螟蟲其他の被害頗る少なく、苞蟲の如きは殆んど見當らざる如き有樣にて、其他蔬菜の害蟲も亦少かりしが、唯現今麥のキリウジ發生し、其被害尠なからず。

(二六三)京都府天田郡の蟲况(天田郡役所内、菅沼岩藏)　客年名和先生の御訓陶を受けし實業者幷に敎育者は、時局に際し愈々害蟲驅除の勵行を促したれば、乍不及、極力監督を加へ、螟卵の採取に勉めたり。御蔭にて各學校及農會は之を奬勵し、町村費を以て買收し、郡費の補助を交付する事とし、官民一致從事せし事故、府下第一の採集高と相成りたり。其効果か、將た天候の然らしむる事か、吾々の判斷する所にあらざれども、第二回の螟蟲は殆んど皆無にて、燒津町吉野氏の莖切鎌も用ふる餘地之れなき有樣なりき。但四五百挺は周旋して配付せり●浮塵子の發生も近年になき僅少●イチモジセセリは之に反し、近年稀なる大發生なりき。

◎昆蟲標本陳列舘案內(其十)　入口より上段を仰ぎ見れば、四枚折額面を掲け、草花に昆蟲放大圖を描きたり。右側は百花にクロアゲハ、キアゲハの戯るゝ様、左側はキアゲハ、キテフ等の將に花に止まらんとするあり、モンシロテフの花を臨んで遠方より飛び來るあり、キテフの花に止まりて花蜜の饗應に餘念なきあり、蜻蛉の各所を飛翔して獲物を求むる等、昆蟲界の自然の現象を描けり。中央の右はコガネムシ、マシカハクロスヂ(エダシヤクトリムシノガ)、ワライロホソバ(イチノズキムシノガ)クハカミキリ、ツマグロヨコバヒ、ヒメザウムシ、イナゴ、シラフミツボシ、(エンドノキリムシノガ)等普通害蟲、左はヒラタアブ、馬尾蜂、カマキリ、サナヘトンバウ、ナナホシテンタウムシ等の有益蟲圖なり。少しく奥に入り右側の上段を仰げば、叩網採集圖、石起採集圖、木皮採集圖あり、左側の上段はマツグロヨコバヒ、二化生螟蟲、三化生螟蟲、家蠅、蝨及南京蟲、蚤、蚊、ハマダラカ等の經過放大圖を掲げ、最奥の上段右側には、第一回全國昆蟲展覧會の際坪井伊助氏の試作に係る各種の竹類を以て螟蟲蛾に擬し製したる出札口、中央には同展覧會の目標に建てたる細辛に岐阜蝶の摸型、左方には瓢蟲女史の揮毫にて同展覧會の參考品として出品したる百花群蝶圖等あり。賣店に通ずる通用口の上には、皇太子殿下に奉献の裝飾用昆蟲標本　皇后陛下に奉献の裝飾用昆蟲標本の寫あり、南側の上段を背面より見れば、全國害蟲驅除講習府縣別人員一覧表、明治三十年各府縣浮塵子被害比較表あり、該表中新潟縣の一千八百八十四萬九千餘圓の被害を見れば、覺えず戰栗せしむ。東南の出口の上には大なる額二面を掲ぐ、其一面は昆蟲を以て扇子摸様を作り、其地紙及四隅に七分類標本を裝飾的に挿入し、他の一面は二見浦日の出の景を昆蟲もて描きたるものなり。其の一段高き處には、標本を挿入したる瓢蟲の各種及び其食物一覧表あり。北の出口の上には松毛蟲、梅毛蟲、竹毛蟲、ギフテフ等の植物付經過標本幷に其他の裝飾用標本を掲げ、監督室の入口には裝飾用七分類標本、御題岩上の松に因みたる裝飾用標本あり、東の入口の上には明治三十二、三兩年中岡山縣下に於ける二化生螟蟲卵塊採集表及三化生螟蟲の

山陽鐵道により傳播するの狀況を描きたるものを掲げて其警戒を加へたり。以上の說明を以て一通りの案內を終へたれば、之れにて筆を擱することゝなしぬ。

◎第二回岐阜縣蔬菜果實品評會と害蟲　同會は本月一日より五日間、本縣農會事務所內に於て開かれたり。出品物には柑橘類、柿及梨子類を最も主なるものとなし、各種の果物、蔬菜類中にも隨分見事なるものありしが、柑橘類の一大害蟲たる貝殼蟲は、昨年開會の第一回に比し、出品者の注意により稍減せしが如きも、未だ其痕を絕ち難く、中には彼等の排泄物によりて黑色を呈せるものあるが如き、出品者の不注意、當業者の無頓着なるには、實に哀むべく又遺憾とする處なりき。當所よりは例により、參考品として果樹の害蟲三函二十七種、蔬菜の害蟲二函二十四種、貝殼蟲及蚜蟲が加害中の桃樹鉢植一鉢、蚜蟲加害中の慈姑同一鉢、蚜蟲加害中の大根二鉢、及び是等の驅除劑として松脂合劑の原料(松脂、苛性曹達)二瓶、ボルドー合劑原料(硫酸銅、生石灰)二瓶、煙草エキス一瓶、硫酸鐵一瓶、ホキストン合劑一瓶、其他昆蟲散、殺蟲散、農產物殺蟲液、硫化炭素、石油乳劑等を出品し、是等に對し一々說明書を加へたり。

◎懸賞募集稻螟蟲防除法案受賞者　豫て大日本農會に於て懸賞を以て募集したる稻螟蟲防除方法答案は、其答案受入期限まで受入したるもの總て六十四通なる由なるが、其審査委員は同會總裁小松宮殿下より理學博士佐々本忠次郎、農學士中村彥、同吉川祐輝、同小貫信太郎、同石坂橘樹の五氏に委囑せられ、委員に於て審査評定の結果左記諸氏の答案優等を以て選に當り三等賞を贈られたりと、但し一等及二等に該當するものなかりし由、答案は同農會報に連載の筈なり。

三等賞　新潟縣　長谷川秀太郎
同　新潟縣　松田紋三郎
三等等　千葉葉　柏崎平吉
同　長崎縣　小林傳四郎
三賞賞　佐賀縣　田崎竹一
同　群馬縣　青木周次郎

◎第七回岐阜縣短期害蟲驅除講習會　同會は本月五日より二週間の豫定を以て當研究所內に開かれたり。今回は時局に際し經費節減の爲、講習生の手當は勿論、凡ての費用は全く删除せられたれば、從て入會者も少なく、僅十七名に過ぎざるが、皆非常の熱心者のみにして、晝夜の別なく、實物を主として研究せられ、加ふるに、當所の移轉落成後の事とて、諸事頗る便利となり、天然的及人爲的の兩教場も完備し居れば、各講習者の獲る所は決して尠なからざるべし。何れ詳細は次號に報ずることにせん。

◉當所移轉落成式概況　當昆蟲研究所は、本年四月地を岐阜市公園内にトし移轉工事に着手せしが、今回漸く竣工を告げたるを以て、去る十一月廿七日午前十時三十分より、當所に於て之が移轉落成の式を擧行せり。當日の來賓には川路本縣知事、鈴木書記官、井手視學官、山田岐阜地方裁判所長、村上檢事正、中田判事、堀口市長、各郡長、新聞記者、堀內農事試驗場長、加藤岐阜郵便局長、岸農學校長、宗宮大垣高等女學校長、吉村大垣中學校長、稻垣愛知縣視學、其他縣高等官、各課長、技師技手縣屬、縣會議員、市會議員、市參事會員、區會議員、縣農會理事等二百余名に及び、奏樂と共に一同式場に入るや、國歌の吹奏、名和所長の式辭演說に次で、岐阜縣知事は岐阜縣昆蟲學會長川路本縣知事は岐阜縣昆蟲學會を代表して祝辭を朗讀し、次に縣會議員土川誠一氏の縣會議員代表の祝辭演說、濃飛日報主筆原眞澄氏の祝辭朗讀、縣農會理事田中榮助氏の縣農會役員代表の祝辭演說、本縣農學校長岸秀次氏の祝辭演說第四課長渡邊治右衛門氏第四課員代表の祝辭演說、西濃朝日新聞主筆田中己之助氏の祝辭演說、長期講習生鈴木彥治氏の特別研究生及長期講習生代表の祝辭朗讀、岐阜市長堀口有一氏の祝辭演說、次ぎに當市富茂登區有志者總代神谷道明氏、親族總代竹中正義氏の祝辭朗讀、其他各地より來れる左の諸氏

大垣中學校教諭　森　宇多司氏（祝辭）
岐阜縣稻葉郡則武村　高橋　種吉氏（同）
岐阜縣農學校教諭　澤山繁次郎氏（同）
新潟縣岩船郡神納村　佐藤　榮氏（同）
青森縣農事試驗場　新渡戶稻雄氏（同）
大阪硫曹株式會社　石井　重任氏（祝電）
同伯耆國東伯郡日下村　岡野庫八郞氏（同）
大垣興文小學校長　近藤　乙吉氏（同）
第一回長期講習會修了　渡邊樵四平氏（同）
靜岡縣磐田郡岩田村　神村直三郞氏（祝辭）
岐阜縣郡上郡上保村　墟田　健藏氏（同）
岐阜縣揖斐郡谷汲村　長屋四郞兵衛氏（同）
東京市本鄕區金助町　田中　芳男氏（同）
大阪新農報社主筆　由比昌太郞氏（祝電）
岐阜縣安八郡大垣町　鈴木利太郞氏（同）
岐阜縣安八郡大藪村　中島吉三郞氏（同）

の祝辭祝電の披露等あり、最後に名和所長の答辭挨拶にて正午過ぎ式を了れり。それより一同萬松舘に於て冷酒折詰の饗應ありたり。當日は晴天にて特に暖かなりしかば、人出却々多かりしが、時局に鑑み總ての餘興を廢し、只金華山腹丸山にて祝砲を放ち、境內には球燈と昆蟲旗とを交互に釣し、其下にて絕へず軍樂を奏したるに過ぎず。來賓扣席の壁には一帶に昆蟲寫生圖若くは出征軍人より送附の昆蟲に

關する書簡等を貼り付け、同机上には蟲付盆栽、仮へば松に蜾蠃の巣の附着してそれに成蟲の止まりたるもの、水石鉢に水産昆蟲を放ちたるもの等を陳列したり。且式後昆蟲陳列室、特別標本等の縦覧を許したり。今名和所長の式辭及び岐阜縣昆蟲學會長川路知事の祝文を掲ぐれば左の如し。

所長の式辭

當研究所は、去る四月移轉工事を起し、漸く落成を告げ、本日本縣知事を始め、多數の來賓諸君の御臨場を仰ぎ、茲に移轉落成の式を擧ぐるに至りしは、大に滿足する處であります。當所が今日の場合に立至りしものは、皆熱心なる諸君の擁護に依るものにして、所長初め所員一同は、何を以て之れに酬ひんかと常に心配して居る次第であります。本日の式を擧ぐるに付ても、軍國多事の今日、出征軍人の勞苦を鑑み、極めて質素に、餘興等も一切之れを廢し、只今日の紀念に當所發行の昆蟲世界二千部を傷病兵に頒ち殉國者の勞苦を慰め度き心組を以て、一昨日忠愛婦人會へ其取扱方を御願ひ致した樣な次第で、何等の設けもなく、定めて御不滿の御方も御座いませうが、只此の研究所を親しく見て頂き度き主意に外ならざれば、惡しからず御承知を願ひます。當所移轉の顛末は、之を印刷に付して御手許へ御廻しゝてある筈であるから、御一覽を願ふことに致したいと思ひます。當所が愈々此地に定まる迄には、種々の事情の爲めに、或は他縣に、或は岐阜市以外に移らねばならぬ樣な事も御座いましたが、有志諸君の熱誠なる御配慮の結果、私が多年中心として研究した岐阜市、しかも此の金華山麓に地を占ることになつたのは、甚だ喜ばしき次第であります。此の地は、人事上よりは不便の點も御座いますけれども、研究上甚だ樞要の地で、曩にコロンブス世界博覽會へ出品したものゝ中に大分學名が付て岐阜エンシス即岐阜種と云ふ蟲名が澤山出來た樣なことで、今回聖路易博覽會へ出品した二百余種の寄生蜂の如きも、皆この金華山を中心として調べたものであります。尙此の地に移轉して日の淺きにも係はらず、昨今續々新種が現はるゝ有樣で、實に此地は昆蟲の巣窟とも云ふべき有望の土地であるから、研究所の有らん限りは此の地に止まつて、御厚意の万一に酬ひたいと思ふのであります。以上は純正昆蟲學としての話であるが、元來私は之れを專門とするでなく、寧ろ應用昆蟲學に重きを置き、害蟲驅除講習の如き全國に亘り六千數百名の修了者を出し、一方には昆蟲陳列室に、昆蟲掲示場に、幾多の方法を以て昆蟲思想の普及を謀つて居るのである、且今後出來得るなれば、毎日曜日に一時間位つゝ小學校生徒を集めて話をなし、自然界を愛すると云ふ念を起させたいと思ひます。何分未た私が理想の百分一にも及びませんので、甚だ殘念であります。且當所の多少誇ることの出來るのは特別標本である、この特別標本が若し不幸にも一朝火災等の災厄に遭ふたなれば、到底再び手に入らざるものもあり、この標本が研究所の寶ともなるべきものであるから、今後は第一着手として、火災等の患のない樣に特別標本室を建築し、續て教室、寄宿舍等をも作りたいと思ひますが、何分微力の研究所が如何ともすべからざることで、是等は皆篤志諸君の協賛幇助の誠意を希はねばならぬ次第でありますから、どうか今後も御見捨なく十分御助勢下さらんことを偏へに希望致します。甚だつまらぬことを陳べて本日の式辭と致します。

祝辭

吾昆蟲學會と唇齒輔車の關係を有する、名和昆蟲研究所修築工を告げ、本日其移轉式を擧行せらる。抑、邦家の隆昌は生産の富饒に在り、生産の本源は農業に存す。而して農産の仇敵は害蟲の跋扈に存す。所長名和靖君玆に見あり、耐忍持久、多年此大敵と鬪ひ、或は雜誌を發刊し、圖書を印行し、或は講習會を開き、陳列舘を設け、其他掲示場に、談話會に、有ゆる攻撃防禦の手段を施し、其掃蕩に力めざるなく、遂に從來の設備を以て不充分を感じ、新たに戰線を擴張し、將來倍加の活動を試みんとす。今や、軍國多事、農業に從ふもの、拮据奮勵、收穫を多大にし、以て軍資の供給を豐富にせざるべからざるの秋、此擧ある、實に國家の爲慶賀せずして可ならんや。惟ふに、爾來益害敵に多大の損害を負はしむるや必せりと雖も、前途猶遼遠たり、事に當るの諸氏、熟慮精勵、終局の功果を收めんことを望む。吾學會亦當研究所と相提携し、斯道の爲努力せんことを期す。一言以て祝辭となす。明治三十七年十一月廿七日、岐阜縣昆蟲學會長川路利恭

尙當日來賓には當研究所の景(本號口繪)移轉擴張の計劃圖及其主意書等の印刷物を配付したるが、其主意書は左の如し。

名和昆蟲研究所移轉擴張の主意

害蟲の年々各種の作物に加害するより、之が收穫を減少せしむること莫大にして、其極國力を殺ぐに至れるは、去三十年に七千五百萬圓の減穀に加へて、翌年までに六千七百七拾萬圓の外國米を購入せし一事に徵するも明らけし。さればにや、近年漸く世人の注目を惹き、害蟲驅防の聲年一年と高まれるに關はらず、却て愈々蕃延加害の增多を疑はしむるものは、蓋し山野の拓開、益鳥蟲の濫殺其他の原因に依るなるべしと雖も、未だ科學應用の足らざるに本づかずんばあらず、豈遺憾の至りならずや。抑も害蟲驅防の事たる其干繫する所頗る廣く、且細微の注意を要するものあるを以て、施行上の煩苦决して尠少にあらず、就中、昆蟲學の素養を要すると至大にして、一事一物、皆この學術より來らざるは莫し。されば、昆蟲の性體形狀を知らず、又昆蟲間の自然の法則を辨へずして、驅防の完全を求むるが如きは、到底不可能の事に屬す。當所長名和靖深く玆に觀る所あり、十數年前より身を斯學の研究に委れ、獨立研究所を創設し、次て昆蟲陳列舘、昆蟲掲示場を開き、更にまた幾多の方法によりて之れが普及を圖るに汲々とし、大に世の同志を警戒せしに、一片の微衷幸に容るゝ所となりしと覺しく、應用昆蟲學講習會の如きは、逐回其歩を進め、更にまた特別研究生たらんとする者も意外に多し。而して從來の家屋、組織を以ては、是等の希望を充たし能はざるを以て、其規摸を擴張し、研究に須要なる内外の裝置を施し以て秩序を立つるに非ずんば、是等有爲の人材を收容し難きは論を俟たず、斯學發展の上に於て、將た宿志貫通の點に於て遺憾なしとせず。然れども、靖の薄福なるは心之を欲するも未だ之を决行するの餘財を剩さず、先年偶々帝國議會に於て國庫補助の建議案通過せしと雖も、未だ毫毛だも國費の恩惠に浴するに至らず、纔に篤志の義捐と厚誼とによりて、所務を維持し來

れろに過ぎざれば、當初の目的の央にも到達するに至らず、久しく之が擴張實行に艱み來りしに、昨年、本縣農會より從來の建物全部を又縣會の決議を以て移轉費壹千圓を下附せられ、岐阜市よりは敷地二千五百餘坪を永遠に貸與せられ、之に同志の擁護を受けて、以て漸く擴張の端緒を開き、茲に移轉落成の式典を擧ぐるの運に至りたるは、深く所員一同の滿足する所なり。さあれ、こは尙一部の成功にして、未だ諸士の祝詞を受くべきの秋に非らざるなり。當所長始め所員一同が十數年間專心蒐集に勉めし特別摸範標本、一萬餘種數拾萬頭の内外產蟲類は、常に當所が誇りとする所なるも、又當所の專有物に非らずして、國家の重寶なりと云ふも敢て過言にあらざるなり。然るに此の貴重なる標本も、風火震災の憂を除くべき藏庫のなきは、豈に一大缺點にあらずや。又幾多の函底に投入せる幾萬の標本を、見學者の爲に開陳すべき屋室を建設せんが如きは、實に急務中の急務たる所にして、凡て是等の設備を終へて、始めて研究上の順序を得たるものと云ふべし。今茲に移轉式を擧ぐるに際し聊か所懷を述て當所の微意を告げ尙將來益々協賛幫助の誠意を傾注せられんとを希ふ所以なり。明治三十七年十一月廿七日。

因に記す、愛知縣寶飯郡田中周平氏は、當所の移轉擴張に就ては尠なからざる助勢を與へられたるが、當所のこの移轉式にも態々臨席せられたり。

◉**岩佐千代吉氏名譽の戰傷と紀念品**　當岐阜市出身の架橋工兵上等兵岩佐千代吉氏は、彫刻家として其技頗る熟達せり。氏は去る八月召集に應じて出征の途に昇られたりしが、十月三十日旅順總攻擊の際、二龍山に於て小銃彈にて左掌貫通の名譽の戰傷を負はれ、今回金澤市八坂雲龍寺へ後送せられ、目下同所にて靜養中なりと。氏は平素昆蟲學に志し、職業のかたはら屢々當所に來り、研究せらるゝ事一方ならず、氏の出征せらるゝにあたりても、紀念として松の樹にアブラゼミの靜止せるものを刻みて當所に寄贈せられしが、其技實に巧にして、而かも單眼の如きは赤硝子を溶かして三個頭頂に入れ、さながら蟬の實物の如く見え、如何なる人も之を見て舌を捲かざるはなし。尙氏は是れのみならず斯學には頗る熱心にして、出征の途次、金澤及廣島出發の

岩佐千代吉氏彫刻の松にアブラゼミの圖

際も各其土地の昆蟲を採集し、紀念として送られたるが、此頃も亦金澤豫備病院より、左の書簡に蝶摸樣の手拭、ハンカチーフ、紐などを添へ、當所へ贈られたり。

拜啓、其後は御不沙汰仕り失禮致候、扨て小生出征以來壯健にて、作業に、戰鬪に、或は數回の決死隊にも加名仕候へども、無事勤務罷在候處、去月三十日の總攻擊にて激戰の際、二龍山に於て敵壘より放ちし小銃彈にて、左掌貫通され、是非なく後送に相成候、今や旅順の陷落も目先きに見へ居り候を、歸國仕候は、實に遺憾に堪へざる次第に御座候、就ては愈々一昨十三日午后二時金澤市に着、肩書の寺院に入院仕居候間此段御報申上候、次に此三品はてふ〳〵と申遊ぶる程の物には之なく候へ共、先生には豫て蝶のくさ〳〵御ちよう集相成居候へば獻上仕度候、今回小生が出ちやう仕候支那の國は、ことに蝶の摸樣を好み、人名にもちよふの多くを用い、櫛、簪、衣類、鞋、指輪等に至るまで、婦人は必ず蝶の摸樣を具し、長幼の別なく寵愛致居り候、拙者は二龍山の頂上なる敵壘よりちやう度三丁程距りたる所にて負傷仕り、それよりちうちようなく長嶺子と申す處の兵站病院迄來り候、これは戰線よりちやうご四里程後方に候へば、町々には店を開き、可なり賑敷く候、宿舍より散歩に出掛け、三丁程參ると、綿布商有之、姓名も張伸尹と申候、御送附の品は此店にてちようぃと目に留まり早速買求め候ひしものにて御座候、何分支那の事故ぶちようほうなる染方に候、尤も有ふれたるものに候へばちよう復仕るかと思ひ候へども、歸ちようの印迄に進上仕度、實にちようらかした樣な品にて御粗末に候が、御笑納下され候はゞ本懷の至りに御座候、草々。

◉紀念として昆蟲世界を贈る　當市の中田久子孃は、當市通過の傷病兵慰問として、雜誌の寄附を受けて之を贈らるゝを以て、曩に當所よりも本誌二千餘部を同孃の許に寄送し置きしが、今回當所が移轉式を擧ぐるに際し、極めて質素になし、其費用の幾分を恤兵部へ獻納せんと欲せしも、素より當所は餘財のあるにあらざれば、之に代ふるに再び本誌二千部を紀念として傷病兵に頒たんと、左の書面に添へ、忠愛婦人會へ送りたり。

一昆蟲世界　二千部

右は、今回當所儀、地を當市公園内にトし、移轉工事を起して今や畧其落成を告げたれば、來る廿七日を期して移轉式を擧行するに際し、軍國多事の今日、殊に出征軍人の勞苦に鑑み、一切の餘興等を廢し、其經費の幾分を以て恤兵部へ獻納せんと欲するも、素より當所は餘財の存するに非らざれば、之に代ふるに、當所に於て發行する雜誌昆蟲世界前記の通り紀念として傷病兵に頒ち、以て殉國者の勞苦の一分を慰め度心底に候得へば、甚だ御面倒ながら、何卒貴會に於て之が取扱ひを御承諾なし被下度、此段偏に御依賴申上候敬具。

明治三十七年十一月廿六日　岐阜市公園内　名和昆蟲研究所

忠愛婦人會發起人原眞澄殿

●蟄蟲の寢物語

寒威凜烈、北風怒號し、六花霏々として驟々落ち來り、千蟲萬豸は形を隱し、聲を潛めて落葉、石下、樹皮、雜草間等に安眠をむさぼるの候となつた。此時に於て、蟲は全く死滅したものと考へらるゝ人もあろうが、却々さうはゆかない、此頃も蟄蟲の寢物語を聞いたから、少しく左に記さう(なにがし)

名和昆蟲研究所では、年中絶えず昆蟲採集をさるゝが、一番興味があつて利益の多いのは冬の採集であると、こは意外の蟲が意外の場所に潛伏してゐて、其習性經過や、驅除豫防法等を意外に發見することが出來るからである●岐阜市附近の蟲類は、研究所員を始め、講習生や、研究生が大勢來て、吾々の安眠を妨害するから、殆んど全く困ると囁いて居た●名和研究所では、又夜中糖蜜採集を金華山麓で絶えずやつて居らるゝ、本年一月雪中で一夜二百四十一頭採集した例もある如く、是から追々寒くなると、糖蛾の或種が非常に來て、中には又珍種も尠なくないから、所員一同は毎夜熱心に遣つて居るが、他地方でも是非試みて欲しいと、昆蟲翁の話であつた●來年に於ける害蟲軍征討の作戰計劃は、此冬期中に定めなければたらぬが、藁内又は株中に越冬の兵數や、雜草木皮の堡壘を十分に偵察して、且軍費の調達をして置かればならぬ●本年は幸に軍費の删減をしても農民軍將卒の誠忠によつて勝を制したが、勝て驕るは敗るゝの基であるから、一層違算なからんことを期せればならぬ●岐阜縣の巡査教習所に昆蟲學の一科を加へられた事は本誌前號に見えたが、愈々二十名本月一日に卒業し、非常の意氣込を以て各任地へ行かれたとの事である●旅順第四回の總攻擊に拔刀決死隊を率ゐて突擊を試み、名譽の戰傷を受け、驍名中外に轟ける中村陸軍少將が、陣中鈴蟲の聲を聽きて「これもきた手向なりけり武夫の屍の前に鈴蟲の聲」と詠ぜられしと、蟲も亦殉國者の靈を慰むるにや。●大阪新農報記者由比昌太郎氏の話によれば、富山縣に於ては、各地の巡査駐在所の揭示場に、最も主なる害蟲標本等を揭示して、人民に注意を與へ居らるゝ由、何處も斯く注意ありたきものなり●出征軍人の害蟲軍に苦めらるゝ事は、實に意想外で、其有樣については屢々本誌にも揭載せられたが、今半風子の懸賞搜索として、此頃の西濃新聞從軍錄に次の如く揭げられた「此頃では、零下十度内外に降下する滿洲でも隨分溫い日がある、一日野外に出で、砲車のある傍を通りかゝると、下士卒五六人、龜の甲を干した樣になつて大笑しながら、一つ、二つ、………つと數へて、頻と襯衣を裏がへして虱の搜索をやつて居るから、一寸立止つて記者が「攻擊ですか」と問たら「ハア今日は大變溫暖く御座いますから搜索です、露助の夜襲よりこいつの夜襲は實に困ります、今日は懸賞搜索で、二十疋退治したものはミルク一盃の懸賞でありますから、此通り競爭して搜索を始めました所、誰も彼れも澤山居つて一等賞計りです」と云つて一同大笑をいたして居りましたが、「着のみ着儘のふしど」と雪の進軍に歌ふてありしが、ほんとにその通り、湯には這入らず、汗が出でゝもそのなりであるから、虱の出來るのも無理もありませぬ、又其懸賞がミルク一杯とはお面白いでしよう」、半風子ばかりは冬季潛伏とも云へないから、出征軍人の勞苦を休むる時がなかろう●露國では、政府が博物學上には金を吝まぬから、昆蟲の學者もあつて隨分斯學も發達してゐることは豫て聞いて居るから、松山公會堂の捕虜スチエゴリロフと云ふ快活なる少年士官が、昆蟲の採集に熱心して居ると聞いて、心潛かに同情を表して居たが、近頃は寫眞術に熱中して、昆蟲の採集は止めたと聞いて、なにがしも大に失望した●聖路易萬國博覽會本邦出品者受賞人名を見るに、第九十六部(有用なる昆蟲及其製產品有害蟲及植物の疾病)の内に、金賞牌には岐阜縣の名和靖、銀賞牌には大阪府の藤澤友吉、諏訪末吉の三氏あるのみ、藤澤、諏訪兩氏の出品は、果して昆蟲なるや否やを知ないけれども、研究所の出品が曩に名譽大牌なりしが如く書きしも、こは誤りなるが如ければ、玆に訂正し置かんのみである。

◉岐阜縣昆蟲學會第七十二回月次會記事　同會は本月三日例により午後一時より當昆蟲研究所樓上に開會せり。先づ名和副會長の開會の辭に、次で第一席馬淵治郎氏は、世人の昆蟲偶生說を打消し、害蟲驅除を全たからしめんには、冬期潛伏の昆蟲採集を以て有效なりとて、氏が此頃採集せし實物標本を示して其採集期の迫れるを陳べ、第二席渡邊樵四平氏は、目下農家の害蟲思想は却て山部に普及せりとて、此頃各郡巡回中觀察せし事項を述べ、第三席小竹浩氏は、海南島產昆蟲調查の結果を報告せられ、第四席三宅幸三氏は、螟蟲の稻莖蝕入頭數調查の結果より時期を撰むの必要を述べ、第四席永澤小兵衞氏は、東京上野櫻木町にある蟲塚の創立が從來他にありふれたるものより異なる点を說明し第五席名和副會長は、岐阜縣第二回果樹蔬菜品評會の出品物と害蟲との關係に就て悉しく說明せられ、午後五時閉會せしが、當日は最遠來會者として、大阪市新農報記者由比昌太郎氏を始め、遠方よりの出席者も多く、却々の盛會なりき。

◉水曜昆蟲談話會記事　當所內に於て每週水曜日夜間開會の同會は、相變らず盛會なるが、今前號報告後に於ける談話の要項を一括すれば左の如し。

棚橋昇氏は子負蟲產卵の狀況に就ての實見談をなし●名和正氏は幼蟲の頭部の觀察に就て單眼及吐糸口の有樣を述べ●小森省作氏は實物により甲蟲の胸部を解剖して各部の組織を說明し●山內甚太郎氏は菊花と昆蟲との關係を調查報告し又キモンツノカメムシの雌雄識別法に就き實物及繪畫により說明し●石毛丑太郎氏は病蟲害驅除豫防の實驗談をなし●鈴木彥治氏は昆蟲採集の途次害蟲思想皆無の人に遭遇して大に昆蟲思想の普及を圖るべき必要を感じたることを述べ又氏は蟲媒植物と風媒植物との差異の點を說明せり●石田和三郎氏は昆蟲十二分類順序の記憶法に就て話し、及び夜中糖蜜採集蛾の調查報告をなせり●小竹浩氏は琉球產昆蟲の調查談●馬淵治郎氏はオホサシガメ及ひサシガメの或種に就き硏究したる事項を報告し●名和愛吉氏は昆蟲の習性及菊花と昆蟲の關係につき調查せし事項を報告し●谷貞子氏は螽斯科に屬する蟲類の頭部に就ての特徵を調查し、之を比較表となして示されたり。

◉昆蟲陳列舘參觀人員　去る十一月中、當所常設の昆蟲標本陳列舘を參觀せし總計人員は、四千二百四十八人にして、一日平均百二十八人强に當り、其中最も多きは十一日に於ける二百九十五人、最も少なきは八日に於ける四十七人なりき。

◉總目錄と明年度の昆蟲世界　月日の經過は實に白駒の隙を過ぐるが如く、本誌第八卷も本號を以て終りを告ぐることとなりたれば、本號には例により一月よりの總目錄を附せり。而して本誌の躰載、記事の內容の如き、卷は一卷と改良し、號は一號と進めるは讀者の已に知らるゝ所なるが、明年度よりは一層之が注意をなし、圖版の如きも成べく多くを加へて記事を補足し、以て愛讀者諸君に酬ひんとす。

◉昆蟲學特別研究生募集

今回數十名の特別研究生を募集し特に此際何時にても隨意入所を許す、規則書入用の向は往復葉書にて至急照會あれ直に送致すべし

明治三十七年十二月十日　名和昆蟲研究所

◉購讀者諸君へ謹告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候へども往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

岐阜市公園内
名和昆蟲研究所
昆蟲世界會計部

◉近刊豫告

鱗翅類汎論　全壹冊

本書は本邦產鱗翅類につき各方面より極めて詳細に論述したるものにして、之に和名學名を有する本邦產蝶蛾類七百餘種の記載を加へ、尙鮮明なる寫眞圖版十二葉を挿入して實物大蛾類二百餘種を示し、百餘個の木版圖を以て其不備を補へり、故に鱗翅類研究者には極めて必要なる良書にして愈々出版の曉には暗黑なる邦產鱗翅類をして始めて一大光明を放たしむるものと云ふべし

岐阜市公園内　名和昆蟲研究所

名和昆蟲研究所長名和靖著

第七版　薔薇の一株　**昆蟲世界**　全
定價貳拾錢　郵稅貳錢（郵券代用一部增）

臨時刊行第一編　**日本昆蟲分科表**　增補再版　全一冊
定價（郵稅共）金貳拾八錢（同上）

臨時刊行第二編　**通俗益蟲集覽**　第一輯再版（說明書附）
定價（郵稅共）金貳拾貳錢（同上）

臨時刊行第三編　**貝殼蟲圖說**　全一冊（再版）
定價（郵稅共）金參拾七錢（同上）

昆蟲叢書　第壹回全國昆蟲展覽會**出品目錄**　第一編　全壹冊
定價金八拾五錢郵稅金六錢（同上）

昆蟲叢書　**昆蟲標本製作全書**　第貳編　全壹冊
定價金八拾五錢郵稅六錢（同上）

岐阜市公園内
名和昆蟲研究所

登録商標
硫曹
●聖路易萬國大博覧會ニ於テ
最高名誉大賞牌ヲ受領ス
日本無類
安價卓效
硫曹肥料
●明三十八年度ニ於テ金四万八千圓ヲ支出シテ全國
各府縣ニ農産品評會ヲ開キ硫曹肥料使用優
等者ニ賞金品ヲ贈呈ス
大阪硫曹株式會社

明治三十七年發行

昆蟲世界

第八卷

總目錄

昆蟲世界第八卷 自第七拾七號至第八拾八號 總目錄

◉口繪

◉論說

◉學說

◉講話

◎雜　錄

◉調　　査

◉通　　信

◉雜　報

ヒナカマキリ
イ
♀
ロ
アケビノキノハガモドキ
♀
滿洲鳳蝶
オホゴキブリ
ユリハムシ
滿洲椿象
ツチバツタ
メダカガメムシ

名和日本昆蟲圖說第一卷第一版
NAWA: ICONE. JAP. INSEC. VOL. I, PL. I.

昆蟲世界

（每月一回十五日發行）　第八卷第八十八號　（明治三十七年十二月十五日發行）

◉昆蟲文學募集廣告

▲漢詩●●　昆蟲亂題（但季は冬の事）　○○○○牧野南山君選○○○○

▲和歌●●　昆蟲亂題（但季は冬の事）　○○○○栢惟潮音君選○○○○

▲俳句●●　冬蜂十句（一月五日占切）　○○○○上原三川君選○○○○

投稿占切期日每月五日△投稿用紙は郵便端書にても宜し△屆先は岐阜市公園內名和昆蟲研究所

◉年賀廣告割引

先例により、本月末日までに廣告料を添へ、御依賴の年賀廣告に限り、左の通り特別割引可仕候。（郵券代用苦しからず）

一、昆蟲世界購讀者
一、各級農會の役員｝五號活字壹行に付金八錢

一、昆蟲世界購讀紹介者
一、當所證明の修業證所持者｝同壹行付金六錢

なほ長文の廣告又は三ケ月以上長期約束の普通廣告は此以外とす。但年首に限り特に割引の照會に應じ可申候

十二月　　名和昆蟲研究所會計部

昆蟲學御研究の目的にて御來岐の御方には特別の御便宜を計り且つ親切を旨とし丁寧に御取扱ひ可申候

岐阜市公園　旭屋旅館

◉岐阜縣昆蟲學會月次會廣告

第七十三回月次會（明治三十八年一月七日午後正一時開會）

市境界（：）　案內道（‖）　市道（｜）　イ 元位置　ロ 陳列館　ハ 縣廳　ニ 中學校　ホ 病院　ヘ 郵便局　ト 西別院　チ 研究所　リ 長良川　ヌ 金華山　ル 停車場

◉名和昆蟲研究所案內

當昆蟲研究所は從來上圖の如く（イ）の位置にありしが今回當市公園內即ち（チ）の位置に移轉せり・又常設の昆蟲標本陳列館（五間に十八間）は從前の通り岐阜縣物產館構內にあれば大方諸君の來訪を俟つ

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵税共　金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

壹年分拾貳部郵税共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非ざれば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料　五號活字二十二字詰壹行に付金拾貳錢　三十行以上壹行に付き金拾錢とす

明治三十七年十二月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二（岐阜市公園內）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市富茂登五十番戸ノ二　發行者　名和梅吉

同縣揖斐郡鷺村大字公鄉三番戸　編輯者　小森省作

同縣安八郡大垣町字郭四十五番地ノ二　印刷者　河田貞次郎

（明治三十年九月十日內務省許可　明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

（大垣　西濃印刷株式會社印刷）